10.21PRIDEラスベガス大会直前大特集!!

kamipro 紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAG

enterbrain MOOK

2006 103 880yen

全米震撼5秒前！皇帝がついに上陸!!

エメリヤーエンコ・ヒョードル

全権代理人が語る"超人復活"の秘話

ミルコ・クロコップ

丁か？半か？闘いの大博打!!

斬るか、斬られるか!?
PRIDE存亡を賭けた全米侵攻!!

"ミスター・プロレス"待望の本誌初登場！
ロング・インタビュー

天龍源一郎

虎ハンター壮絶半生

小林邦昭

新日本プロレス学校同窓生対談

天山広吉×金原弘光

10.9『HERO'S』で桜庭vs秋山実現！
タイソン、サップについても語る!!

谷川貞治

インチキ臭さとは何か？
本誌"非常勤"編集長が直撃！

馳浩

kamipro 103 PRIDE存亡を賭けた全米侵攻!!

2006年10月13日
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain

2006 No.103 CONTENTS

kamipro

PRIDE存亡を賭けたアメリカ進出!!

闘いの大博打、迫る!

ラスベガスだけ見てりゃいいんだ、オラ!!

表紙イラスト／金子ナンペイ　題字／富永泰弘

ドボンと沈むか、ドBORNするか？
10・21 PRIDEラスベガス大会はどうなる!?

イラストレーション／金子ナンペイ

ラスベガスを斬りたいか──っ!! と、元気よくタイトルどおりに絶叫してはみたが、この〝ラスベガス〟という言葉の裏に隠された、『PRIDE』がバッサリと斬り捨てたいモノとはなんだろうか？

地上波中継打ち切りをきっかけにした存続への不安感か。世界最大ショービジネス市場の扉か。興行潰しやトップファイター引き抜きの影。ジワジワと忍び寄るUFCの魔の手か。あ、もしかして、日本と縁を斬りたいんじゃ……ありがとうございましたっ!!（無差別級GPエンディングの髙田本部長風）。

最後の妄想はともかく。フジテレビという一つのうしろ楯を失なった『PRIDE』が、急速にMMAビジネスが拡がりつつあるアメリカに活路を求めたことは疑いようのない事実だ。そして、かつてないMMAバブルにより怪物化したUFC、豊富な資金力をバックに次々に参入をはたしている新興プロモーションが手ぐすね引いて『PRIDE』を待ちかまえている。

ある人は言った。「タイソンの担ぎ

忍び寄るアメリカの“魔の手”!

PRIDE存亡を賭けた闘いが いま始まる!!

ラスベガスを斬りたいかーっ

出しもやめて、アメリカへの資金投入もやめて、日本でおとなしくしてればいいって? それは無理な注文だ。なぜなら、やらないとやられるからだ。攻めないと潰されるからだ」

まさに守る前に創り出せ! 斬られる前に斬っちまえ的な〝闘いの大博打〟!! 希望と絶望が紙一重で貼りついている鉄火場で『PRIDE』は存亡を賭けた大勝負に討って出る。

希望と絶望。その絶望、もしくは『PRIDE』存続への不安は、観る側のバランス感覚が生み出している側面もある。テレビがなきゃうまくいくわけがない。アメリカでのUFC人気にかなうわけがないよ。タイソンを相手にしても、ヒドイ目に遭うだけなんだけどなあ。んあ〜!

『PRIDE』が斬りたい〝ラスベガス〟には、そんな先が見えない漠然とした不安も含まれているのだろう。

ラスベガスを斬り捨てろーっ!!

(ジャン斉藤)

ANENKO

OOR

ウソ!? ジョシュとのミニ対談が実現!!

「見たこともない“新しい闘い(PRIDE)”がUFCを飲み込むことでしょう」

皇帝、全米制圧を宣言!

全米震撼5秒前!　現在MMA界の頂点に君臨するエメリヤーエンコ・ヒョードルがついにラスベガス上陸をはたす。無差別級GPが終幕し、『PRIDE』にとって新しい章となる“アメリカ激闘編”。そのメモリアルイベントとなる10.21ラスベガス大会のプロモーションイベントにゲスト登場した皇帝を独占キャッチ!　いつもと変わらぬ微笑の中に、静かなる野望を煮えぎらせていた!(ような気がします)。

聞き手、時々撮影／堀江ガンツ　微笑本文構成／ジャン斉藤　本格撮影／黒田史夫

cement designed by hisa (TwoThree)

EMELIAN

FED

プロモーションイベント一番人気だったヒョードル。ファンがサインや撮影を求めて群がる、群がる！　あまりの混乱ぶりに「ルールを守れーーっ！　殺すゾ!!」とアントンばりに絶叫……せずに丁寧に対応。

ヒョードルと対戦するコールマンは、なぜか高田総統ばりにバルコニーから見参！　ヒョードル人気の煽りを受けてブーイングが起こったが、この親父ったら下品なポーズで挑発しかえすから最高だ!!

プロモーションイベントのバックステージでヒョードルとタイソンがガッチリ握手！　本誌・堀江ガンツが抜け目なく激写!!　タイソンインタビュー掲載の速報号は絶賛発売中です（抜け目なく宣伝）。

――10・21PRIDEラスベガス大会での復帰戦が決まりましたが、もう右手の怪我のほうは大丈夫なんですか？

ヒョードル　まだおもいきり殴ると違和感はあるんですが、日常的な痛みもないですし、試合が近づくにつれて、万全の状態へと備えられるでしょう。アメリカの『PRIDE』ファンのために、いつもどおりのエメリヤーエンコ・ヒョードルをお見せできると思いますね。

――しかし、プロモーションイベントでの人気ぶりは凄まじかったですよね。

ヒョードル（無言で微笑む）。

――ビジョンにヒョードル選手の顔が映っただけで、ファンは蜂の巣を突ついたかのような大騒ぎになって（笑）。

ヒョードル（再び無言で微笑む）。

――ダハハハ！　何か感想はないんですか（笑）。

ヒョードル　熱烈な歓迎は嬉しく思います（微笑）。

――アメリカで成功するということは、ヒョードル選手にとっても特別なことですか？

ヒョードル　はい。だから自分にとってとても重要な闘いになると思います。これまでアメリカにはなかった〝新しい闘い〟を求めている観客に、きちんと応えてあげたいと思いました。

――〝新しい闘い〟ですか。

ヒョードル　そうです。

――アメリカには、UFCというメジャープロモーションがありますけども、そのUFCでも見たことないぐらいのハイレベルな闘いを見せたいということですか？

ヒョードル（微笑みながら）普通に見比べてもらえば、『PRIDE』がUFCよりレベルが高く、そして、より激しい。その違いはアメリカ人にもわかってもらえるんじゃないでしょうか。これから『PRIDE』がUFCを飲み込んでいく序章が始まると思います。

――興行的にも、そして直接、選手が拳を交わす機会も高まっています。ヴァンダレイ・シウバがUFCのチャンピオンであるチャック・リデルと闘うことに同意しています。

ヒョードル　そうですね。二人ともいい選手なのでどちらが勝つかということは簡単には言えないと思いますが。

――ヒョードル選手もUFCヘビー級チャンピオンと闘いたいという気持ちはありますか？

ヒョードル　まったく問題ありません。

――現在のUFCヘビーチャンプはティム・シルビアです。先ほどのプロモーションイベントで「シルビアはヒョードルから逃げた！」というアナウンスがされていましたが、彼の印象を聞かせてください。

ヒョードル　印象としてはパンチが強いし、勝負強い選手ですね。ただ、私と比べると、弱い部分があると思います。

©DSE

前々号にて大好評だったヒョードルの秋葉原＆浅草観光フォト。今回は渡韓した際のプライベートショットを公開!! どーですか、ジェットコースターに乗るヒョードルの楽しげなこと!!　普段の冷静沈着な態度とのギャップが怖すぎるけども……。あら、隣にはワジムさん（レッドデビル会長）まで！

――実現すれば勝負はどうなるでしょう？　いまの発言を聞く限りでは、かなりの余裕を感じられますけども。

ヒョードル　さあ、どうでしょうね（微笑）。私は全力で闘うだけで、やってみないとわかりません。

――で、ラスベガス大会のヒョードル選手の対戦相手はマーク・コールマンに決定しましたが、どんな感想がありますか？

ヒョードル　私は全力で闘うだけです。

――やっぱりその答えですか（笑）。

ヒョードル　そうですね（微笑）。マーク・コールマンとは二年前の『PRIDE・GP』で対戦していますが、彼は以前より強くなっていると思いますね。私はロシアに戻ってから、本格的に練習をスタートさせて、彼に対する戦略を練ろうと思います。

――それで先ほどはマイク・タイソンがサプライズゲストとして姿を現わしましたが、彼の印象も聞かせてください。

ヒョードル　タイソンが『PRIDE』に対して好意を示してくれたことに関しては、大変良かったのではないでしょうか。タイソンは大きな知名度を持つボクサーなので、『PRIDE』にとっても大きなプロモーションになると思います。

――まだタイソンの今後は見えていませんが、彼は〝総合格闘家〟として『PRIDE』で通用すると思いますか？

ヒョードル　それはわかりませんが、タイソンはいまでもボクシングに関しては充分に強いと見受けられますね。

――もしヒョードル選手がタイソンとボクシングで闘ったら……。

【ここでジョシュ・バーネットが飛び入り乱入！】

ジョシュ　（いきなり）ヒョードル！　元気かよ⁉

ヒョードル　はい。元気です（微笑）。

ジョシュ　ああ、そう。ところでいま何やってるの？

ヒョードル　インタビューを受けてます。

ジョシュ　そうか。じゃあ、一緒に記念撮影だ！

――「じゃあ」の意味がまったくわかりませんよ！（笑）。

ジョシュ　（無視して）さあ、ヒョードルは俺の横に並んで、並んで‼

ヒョードル　はい（微笑）。

【仲良くツーショット】

ジョシュ　そういえばさ、ヒョードルは今度、韓国に行くんでしょ？

ヒョードル　はい。日本で『PRIDE武士道』（8・26名古屋大会）を観戦したあとに。インターネットゲームのコマーシャルの撮影をする仕事があるんですよ。

ジョシュ　ふ〜ん。で、前にヒョードルが韓国に行ったとき、コマンドサンボ大会の試合に出ただろ？

ヒョードル　はい。

ジョシュ　ダメじゃないか‼　プロなんだから、アマチュアファイターをイジメちゃ！

――ダハハハハ！　そういえば、そうですね（笑）。

ジョシュ　しかもさ、ヒョードルは『PRIDE』のチャンピオンなんだから。試合に出るんだったら、ちゃんとお金ももらわないとね（笑）。

ヒョードル　（無言で微笑む）。

ジョシュ　じゃあ、俺はチョー忙しいから、このへんで失礼するね。今度またゆっくり飲もうぜ！

ヒョードル　はい。飲みましょう。

ジョシュ　♪ユハ〜、ショック〜‼　♪アイデソラガ、オチテクル〜〜‼

【「愛をとりもどせ！」を気分良く歌いながらどこかへ消えていくジョシュ】

――いったいなんだったんだ（笑）。

ヒョードル　フフフフフ。

――しかし、ジョシュとはじつに仲がいいですね。

ヒョードル　はい。こないだ日本で一緒に飲む機会があったんですけども、そこで仲良くなりました。

――それでヒョードル選手！　10月の復帰戦が終わったら、無差別級GPのチャンピオンと闘うプランもありますよね（このインタビューは06年8月19日、ロス郊外『FOXスポーツ・グリル』にて行なわれたプロモーションイベント終了後に収録）。あのジョシュと闘うかもしれない。

ヒョードル　そうですね。

――ヒョードル選手は誰が優勝すると思いますか？

ヒョードル　う〜ん。それは難しい質問ですねえ。戦績で見るとみんないい成績を残しているので、誰が勝ってもおかしくないと思います。ただ一つだけ言えることは……。

――言えることは？

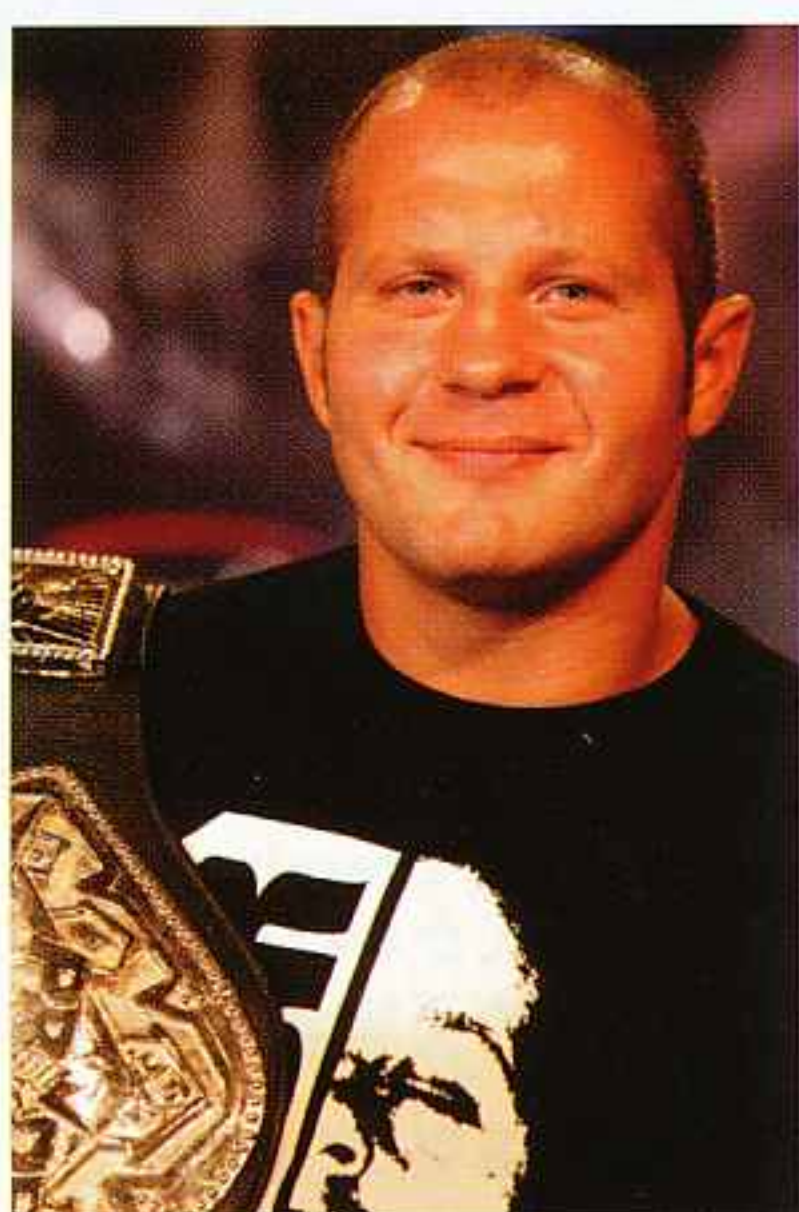
ヒョードル　私は全力で闘うだけです。

――やっぱりその答えですか（笑）。

ヒョードル　それに私の当面の目標は、10月のコールマン戦です。大事な復帰戦でもありますし、『PRIDE』アメリカ進出の第一歩になるわけです。先ほども言いましたが、UFCを飲み込む〝新しい闘い〟を全力で披露したいと思ってます。日本の『PRIDE』ファンの皆さん。よろしかったら、ラスベガスまでいらしてください（微笑）。

【06年8月19日／ロス郊外『FOXスポーツ・グリル』にて収録】

その後、ヒョードルは、中南米コスタリカを訪問。UFCを脅かすMFCから歓迎を受けた（MFCがどんなプロモーションなのかは、12ページからのUSAcool宅急便を参照）。そして、8・26『PRIDE武士道』名古屋大会観戦のために来日。すぐさま韓国へ渡り、インターネットゲームのコマーシャル撮影に参加した。ラスベガス大会での復活に備えるためか、無差別級GP決勝ラウンドには訪れなかった。

ヒョードルは現在、外界の接触を遮断して、高地合宿トレーニングに専念。〝宿敵〟ミルコ・クロコップ戴冠へのコメントを聞き出すことはできなかったが――復活始動するラスベガス大会には、ミルコがゲストとして来場予定、ジョシュ・バーネットは〝欧州の柔道王〟パウエル・ナツラと対戦。そんな己の首を狙う強者たちには、自らの拳でもって応えてくれるに違いない。そう、やっぱり全力で闘うだけです‼（微笑）。

EMELIANENKO FEDOR■1976年9月28日、ロシア出身。初代リングス世界ヘビー級王者、リングス世界無差別級王者、『PRIDE GP2004』優勝、現・第二代PRIDEヘビー級チャンピオン。182センチ、105・5キロ。

初の
アメリカ大会まで
あとわずか!!

『PRIDE』ラスベガス大会前に知っておこう!

いま、『PRIDE』を取り巻くアメリカの事情とは!?

“welcome”か はたまた“様子見”か その真相を見極めろ!!

ラスベガスを斬りたいかーっ!
PRIDE存亡を賭けた
全米進出!!

USAを知りつくす ドリームステージ関係者を『kamipro』が直撃!!

いよいよ間近に迫ってきた『PRIDE』ラスベガス大会。その開催が近づくにつれて、タイソン『PRIDE』参戦、ヴァンダレイvsチャック消滅の噂など、アメリカの格闘技事情が忙しくなっている。『kamipro』では、その真相を探るべく同大会に深くかかわるドリームステージ関係者を直撃!! さあ、すべて語っていただきましょう!

聞き手／松下ミワ　写真／黒田史夫、DSE
designed by hisa (TwoThree)

——今日は、『PRIDE』のアメリカ事情を探るべく、ドリームステージUSA関係者の方にお話をおうかがいしたいと思います！ どうぞよろしくお願いします!!

「よろしくお願いします」

——さっそくですが、今回来日されたのはもちろん『PRIDE無差別級GP決勝戦』のためですよね。

「ええ、そうですね」

——今回、無差別級GPはもう日本では歴史に残るといっても過言ではない大爆発興行となったわけですけども、PPVで放送されたアメリカでの反応というのはいかがだったんでしょうか。

「日本と同様、凄く好評だったと聞いています。思うに、たぶん日本よりも興行全体に対する評価は高いんじゃないですかね」

——日本より高い！ それはどういったところに要因があるんでしょうか？

「アメリカで放送されてるPPVって、今回じつは3時間枠だったんですよね。試合数をカットしてコンパクトにまとめたのがよかったんでしょうね」

——なるほど。

「なので、PPVで放送したぶんに関しては、実際よりもより見やすくなってるんじゃないかと思いますね」

——そのPPVの話ですが、『PRIDE』をPPVで観るアメリカのファンというのはやっぱり年々増えてるんですか？

「徐々に増えてますね」

——それってやっぱりヴァンダレイがオクタゴンに上がった効果もあるんでしょうか？

「まあ、それも一つの要因だとは思うんですけど、それよりもアメリカのMMAのマーケット自体がどんどん拡大していることが大きな要因だと思います。本当にここ二年くらいは凄い急成長を遂げているんですよね。まあ、これはUFCさんのおかげというのもあるんでしょうけど」

——その勢いだと、間近に迫る『PRIDE』ラスベガス大会への期待というのもアメリカではかなり高まっているんですか？

「まだ準備段階なのではっきりとは断言できませんが、すでに手応えを感じる部分もあるのは確かですね。たとえば、いまラスベガス大会に関しては5カード発表されていますけど、もうそのカードを発表する前から、アメリカで『PRIDE』をやります！　って言った時点で、どうやったらチケット買えるんですか？　という問い合わせが殺到したんですよ。だから、本当に『PRIDE』を支えてきてくれたファンの人たちっていうのは、『PRIDE』を生で観られるっていうことを凄く楽しみにしてくれているんだな、って」

アメリカでやります！って言った時点で チケットの問い合わせが殺到したんですよ

8月19日（現地時間）、アメリカ・ロサンゼルスにて行なわれた『PRIDE』ラスベガス大会の会見にはヒョードル、ジョシュ、ショーグンら参戦ファイターがこぞって登場。同会見はファン参加型の公開記者会見として行なわれたため、会見後は熱狂的な現地のファンが選手にサインを求めるシーンも見られた。

——もう、とにかく『PRIDE』が観られればいい、と。

「そう考えると、今回のラスベガス大会なんかは、カードとかはあんまり関係ないのかなって思いますね」

——しかし、そうはいっても初のアメリカ大会となると、日本とは勝手が違うというか、いろいろ手間取る部分もあるんじゃないかと思うんですけど、現場にいらっしゃる立場として、ラスベガス大会を開催する上で一番大変なことってどんなことですか？

「まあ、日本と一番大きく違うのは、やっぱりアメリカって縛りが多いってことですよね。なんでもかんでも規制されているというか……。たとえば、興行一つするにしても、はっきり言って日本だったら誰でも興行ってできるんですけど、アメリカだとすべてライセンス制になっているのでプロモーターライセンスを持っている人じゃないとできないんですよ」

——それでDSEさんの場合はネバダ州からそのライセンスを取得されたんですよね。

「ええ。数年前に取得しましたが、それも"やっと"という感じでしたね。でも、興行を行なうには、これからが長いんですよ」

——長いといいますと？

「興行を行なうには、今度は「×月○日にイベントを開かせてください」ということを開催予定の州に書面で提出しないといけないわけです。今回の『PRIDE』はラスベガスでの開催になりますから、当然これもネバダ州に申請します。そうすると、ネバダ州でアスレチック・コミッションミーティングっていうのが月に一、二回行なわれるんですけど、その中で議決が取られるんです。それでOKだったら、やっと興行を行なえるんですよ」

——それだけでけっこうな一苦労ですね（苦笑）。

「それから、選手に関してもライセンスが必要なんです。選手の場合は複雑なメディカルテストに始まり、戦績とか、そういう書面をたくさん提出しないといけないんですね。で、ライセンスが降りたら、今度はマッチメイク。たとえば全然MMAの経験がない選手と20戦闘ったことがある選手というのは「ミスマッチだ」というふうに指摘されて認められないんですよ」

——なるほど。そんな細かい部分まで。

「それから……」

——まだあるんですか!?

「まだありますよ（平然と）。レフェリーの人もライセンスが必要ですし、セコンドの人もセコンドのライセンスが必要なので、それを取得しないといけないんですね」

——ということは、もちろん島田裕二さんも必要なわけですか？

「もちろん島田裕二さんも必要です（笑）。だから、レフェリーはDSEに雇われるのではなく、ネバダ州からライセンスを受けて大会に派遣されるんです。それから試合数に関しても規定があります」

——試合数まで？　まったく自由の国とはいえませんね、アメリカは（笑）。

「これはたぶんボクシングからきてるんだと思うんですけど、最低9試合はしないといけないんですね。もともとボクシングだと一興行につき26ラウンド以上はしなさいという規定があるんです。それをMMAで換算すると、一試合3ラウンドなので、だいたい9試合はやりなさいということなんだと思うんですけど」

——では、現時点では、最低あと4試合は必要というわけですね。実際、そのカードを組むときのポイントというのも日本の場合と変わってくると思うんですけど、やっぱり今回はアメリカ人のウケを考えてカードを決めようという感じですか？

「基本的にはそういうふうにしたいので日本の興行よりもアメリカ人を多く出すようになるとは思ってます。でも、マッチメイク自体は日本、アメリカ問わず、どこのファンも満足させるようなものにしようと努力しています」

——個人的に、こんな選手が『PRIDE』に上がったらおもしろいだろうなという選手って、どんな選手ですか？

「それは、『PRIDE』の選手の中からですか？」

——ええ。そのつもりでうかがったんですけど……。

「『PRIDE』ファイターでいうと、やっぱりチャンピオンクラスの人には上がってほしいですよね。ヴァンダレイ、ミルコ、そのあたりは、広く世界の人に見ていただきたいな……というか、見せつけたいなとは思います！」

——ミルコやヴァンダレイはアメリカでも人気が出そうですよね。

「やっぱりアメリカでも凄くアグレッシブな選手が人気が出るのは間違いないでしょうね。それに、アメリカ人も試合の質を見てくると思うんですよ。そう考えると、ジョシュなんかも人気は出るでしょうね。まあ、ジョシュはもともとアメリカ出身なんですけどね」

——ジョシュというと、日本ではいまや映画、音楽、ゲームなど、あらゆる雑誌に出ていて思わぬところで引っ張りだこになってますけど、アメリカでの人気っていうのはどうなんですか?

「ジョシュに関してはどちらかというと日本のほうが盛り上がってますね。露出的に考えても。というのは、ジョシュってもうアメリカではずいぶん試合をしてないですからねえ」

——たしか、アメリカで試合をしたのはUFC36でランディ・クートゥアーとやったのが最後ですよね。

「でも、今度の10月でアメリカ復帰になるので、それで人気が一気に爆発する可能性はありますよ」

——アメリカでも、マンガ雑誌とか、音楽雑誌とか、そういうのに出たりもするようになると思いますか。

「いや〜、マンガはまずないでしょうね!(キッパリ)」

——やっぱりないですか(笑)。

「アメリカ自体にそんなマンガ文化が一般の人に根づいてないですからねえ。露出するとすれば、格闘技雑誌かネットが中心になるでしょう」

——まあ、普通はそうですよね。人気といえば、ラスベガス大会の会見のときにヒョードルがベルトを持って登場していましたけど、ヒョードルの人気も凄いみたいですね。

「ええ、ヒョードルは凄いです」

PRIDEが逃げてるって言われてますけどはっきり言ってUFCが逃げてるんですよね

——ヒョードルが人気というのは、具体的にどういうところが受けてるんでしょうか?

「やっぱり圧倒的な強さですよね!　キャラクターがどうのこうのというよりも、他を寄せつけない強さですね。あとはアメリカ人からすると、ロシア人って凄く未知な部分があるので、冷たくて無口でアメリカ人とは正反対な部分がなんとなくウケてるのかなってうのはありますね」

——つまり、幻想を抱ける、と。

「なので、アメリカのファンは今回ヒョードルの闘いを生で見られるのを凄く楽しみにしてると思いますよ」

——そして、そのラスベガス会見にはもう一人、マイク・タイソンというとんでもない方が登場されていましたよね?　アメリカ国内ではその反応というのはいかがだったんでしょうか?

「もちろん、すっごく有名なスーパースターなんで、おおっ!　っていうどよめきはありました」

——では、タイソンに対して期待感高まるような感じというのも?

「……逆に日本ではどうなんですか?」

——『kami-pro Hand』でのアンケートでは、どちらかというとタイソンに期待している人のほうが多かったです。ミルコと闘ってほしいというような意見もありましたし。ただ、正直「本当に出場するの?」という意見もありましたけどね……。

「へえ〜、そうなんですか。アメリカではですね、まあこれも正直な話ですけど、半信半疑なんじゃないかと思いますね!(キッパリ)」

——そ、そうなんですか?

「タイソンのいままでの言動を考えると、当然そういう反応が出てくるのは仕方がないことでしょうけどね」

——では、DSEさんとしてはタイソンにどんなことを望まれているわけなんでしょうか?

ラスベガスを斬りたいかーっ!

PRIDE存亡を賭けた

全米進出!!

ヴァンダレイがオクタゴンに登場してから早二ヵ月。当初、UFCライトヘビー級王者であるチャックとの対戦は早ければ11月に行なわれる予定だったのだが、いまだGOサインは出ず……。PRIDE側、UFC側ともに、「逃げているのはあっちのほうだ!」と強固に主張しているが、二人の対決は本当に実現するのだろうか!?

「まあ、広告塔的な意味合いは当然あるのですが、『PRIDE』の名前を一気に広めるにはそういうビッグネームと組むというのが短期間で効果的にできる方法ですよね。あとは、タイソンって本当に伝説的なヘビー級のボクサーなんで、vsPRIDEファイター十番勝負みたいな感じで、いろんな国でPRIDEファイターと闘わせたりとかですかね。クロアチアに行ってミルコ、ロシアに行ってヒョードル、ニュージーランドに行ってハント、というような感じで」

——本当ですか!?　それはまた凄い話ですね!

「凄い話でしょ?　ま、でもこれはあくまで、こうなったらいいなという構想なので、実現するかどうかは難しいでしょうけどね!」

——あ、そういう話でしたか(笑)。

「タイソンに関しては、まだ決まっていない部分が多いんですが、乞うご期待というところですね」

——わかりました。ところで、今後、アメリカ大会というのは、国内のほかの団体からも選手を呼んだりする計画があるんですか?

「というのは、どうしてですか?」

——いや、先ほど『PRIDE』に上がってほしい選手をうかがったときに、『PRIDE』ファイターの中で?」という質問があったので。

「ああ、なるほど。希望としてはいっぱいありますけどね」

——希望としては(笑)。たとえばどういう選手が上がったらおもしろいと思いますか?

「それはもう、UFCのチャンピオンクラスの人ですよね」

——UFCの選手ですか!

「出てほしいですねえ(しみじみ)。チャック・リデル、ティム・シルビア、マット・ヒューズとかにはぜひ」

——それだと、『PRIDE』のリング上でUFCとの全面対抗戦が勃発してしまいますね(笑)。

「でも、そういう話ってずっとあるはあるんですよ。当然、簡単には実現しないでしょうが」

——全面対抗戦というと、いまはヴァンダレイとチャックの対戦がすでに話題になってますよね。でも、一部では「消滅するんじゃないか」という噂もありますけど、これはどうなりそうですか?

「あのー、(妙に淡々と)これは言っておきますけど、DSEとしてはまったく飛ばす気はないんです。そんな気もないし、出さないとも言ってませんし、ヴァンダレイも快く引き受けてるので本当にいつでもOKなんですよ!!」

——な、なるほど!

「だから、正直に言って、UFCトップの人たちが慎重になってるだけだと思うんですね。プロモーターサイドが。なので、いろんな言い訳をいろんなインタビューで言ってるのも我々は知ってますし、まるで『PRIDE』が逃げてるみたいな言われ方をされてるのも知っています。でも、実際ははっきり言うとUFCが逃げてるんですよね」

——まったく正反対である、と。しかし、一部でダナは「日本人とビジネスをするのは難しい」みたいな言い方をしてるようですけども……。

「(さえぎって)ぜんぜん難しくないと思います!　こちらはどうぞって言ってますから。だから、こちらにしてみれ

ばビビってるのかなっていうのが正直なところですよね」

――ビビってますか（笑）。そういうダナはラスベガス大会は会場に見にきそうな感じはありますか？

「たぶん見にくるんじゃないですか。地元ですしね。反対に、我々もチャンスがあればなるべくUFCは見に行くようにしていますし、そのときは快くリングサイドで見せてもらってますので、もしいらっしゃるんだったらスペシャルシートを用意しようと思ってるんですけどね！（妙な迫力で）」

――なんだか恐いですけど（笑）、そういう部分もラスベガス大会の見逃せないシーンですよね。では、ズバリお聞きしたいんですが、ラスベガス大会はどんな大会になると思いますか？

「（即答で）成功させます！」

――成功させますか！

「どんな大会になるというよりも、成功させてみせますよ!!　とくに初めての日本国外のイベントなんで、もう言えることはそれしかありませんよね。それに、そのラスベガス大会は『PRIDE』の映像をインターネットで世界中に配信できる環境が整ったあとに、初めて行なわれるイベントなんですよ」

――つまり、一般的なテレビ放送以外でも、インターネットが使える環境さえあれば、『PRIDE』を観ることができるというわけですか！

「なので、本当の意味で世界中の人に見ていただける興行になると思いますので、我々としては、『PRIDE』というのは、いままで皆さんが見てきたようなイベントとは格が違いますよ、ということを示したいと思いますね。もっと完成された、もっと次元の高いイベントだということを」

ラスベガス大会以降、PRIDEの映像はインターネットで世界中に配信されるんですよ

“超ビッグ・ファイター”マイク・タイソンを取り込んだ『PRIDE』だが、PRIDEファイターと拳を交える姿は見られるのか。本インタビューに答えてくれた関係者が語る「vs PRIDEファイター十番勝負」の構想も“井上小説”ばりにダイナミックな話だが、夢物語で終わらせてしまうのは非常に惜しい！

――そうなると、ますますビッグビジネスになりますね。

「もちろん、日本だとスカパーさんでPPVをやりますので、同時に放送できないというようなある程度の縛りは出てくると思いますけど、これまでまったく放送されていない何百カ国という国の方々は、本当にライブで『PRIDE』を観戦できるんですよ」

――あと、『PRIDE』って今後は海外で開かれる機会が増えていくと思うんですけど、アメリカに関してはどういうペースで行なわれる計画なんですか？

「こちらで考えてるのは、年に4、5回できればなと思ってますけどね」

――それは日本のいまの大会と並行してですか？

「そうですね」

――年に4、5回というと、普通の『PRIDE』が年に6回、『武士道』が4、5回あるわけですよね。プラス4、5回ですか!?

「もちろんバランスもありますし、選手の数も限られているので計画どおりにはいかないかもしれませんけど。まあ、アメリカに限らず来年は世界進出を考えているんで、もしかしたら日本の大会が減るかもしれません」

――いろいろ噂はありますけど、海外というのは具体的にどのへんに目星をつけているんですか？

「まあ、中国とか、ヨーロッパとかですね」

――凄い！　夢のようなお話ですけど、本当に話が進んでるんですね。

「もちろんです。必ずやりますよ！」

――わかりました。では、まずはラスベガス大会、そして今後の世界進出に期待させていただきます！

【06年9月16日／DSEにて収録】

PRIDE.32 THE REAL DEAL

『PRIDE.32 THE REAL DEAL』

米国ネバダ州ラスベガス・トーマス&マックセンター
10.21（土）18:00（現地時間／予定）

［対戦カード］
エメリヤーエンコ・ヒョードル vs マーク・コールマン
マウリシオ・ショーグン vs ケビン・ランデルマン
ジョシュ・バーネット vs パウエル・ナツラ
マーク・ハント vs バター・ビーン
中村和裕 vs マービン・イーストマン

［出場予定選手］
藤田和之、フィル・バローニ、ジョーイ・ヴィラセニョール

［チケット料金］
700ドル／500ドル／300ドル／100ドル／50ドル

PRIDEスペシャルツアー（10/19～23：成田発着）

［旅行代金］一般158,000円／ファンクラブ会員150,000円
※チケットは代金に含まれません
［利用ホテル］サーカスサーカス（または同等クラス）2泊
※大会終了後のパーティご招待もあり

［問い合わせ］DSE　03-5464-1531

『PRIDE』アメリカ初進出まで もはやカウントダウン状態!!

時は来た！　いよいよ『PRIDE』初アメリカ大会ダー!!　首を長～くして待ち望んでいたアメリカのPRIDEファンも、もはや海の向こうのではなくなる『PRIDE』を前に、胸の鼓動を抑えきれなといった様子ではないか。しかも、やってくるのがヘビー級王者エメリヤーエンコ・ヒョードルに、2005年ミドル級GP王者のマウリシオ・ショーグンなど、超トップクラスのファイターばかり。そして、これを迎え撃つのがアメリカの誇る“筋肉三兄弟”マーク・コールマンにケビン・ランデルマン、もちろんフィル・バローニの出場も決定している。これら王者とアメリカ人ファイターの対決というのは、アメリカ人からすれば、かつてヒョードルvs小川直也の一戦を心待ちにしていた日本人の心理状態に近いものがあるだろう。さらには、アメリカで絶大な人気を誇るバター・ビーンがマーク・ハントと闘うというから、これは我ら日本勢も見逃せない。締め切りの都合上、全カードをお届けすることはできないが、とにかく、初のアメリカ大会を心して観よう！

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

USA cool宅急便 Vol.6

ついに『PRIDE』がアメリカMMA界のド真ん中・ラスベガスに乗り込む日がやってきた！　魑魅魍魎が跋扈するカジノシティとそのギャンブル業界を取り巻くビジネス環境についてド直前大放談!!

聞き手／デューク東郷　助手／上杉気分はUSA
designed by matsu (TwoThree)

PROFILE
Scott Petersen
【すこっと・ぴーたーそん】格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』（http://www.mmaweekly.com/）を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「私が言ったとは、誰にも言わないでくださいね」。

PRIDE、アメリカに殴り込み！ その存亡を賭けたギャンブルの結末は!?

スコット　いやあ、ついについに〝解禁〟されるねえ。本当に楽しみだよ！

——たしかに楽しみだけどさあ、本当に大丈夫？　喜んでいるファンも多いけど、ちょっと危険すぎるだろ!?

スコット　まあ、そうなんだけど、こればっかりはフタを開けてみないとね。ナマモノだからさ。

——というか、生命に関わる危険だよ!?　丼だけにフタを開けてみないことにはなんて、うまいこと言ってもそうは問屋が卸さないぞ！　……って問屋は卸してるか。これまたうまいね、どーも（笑）。

スコット　……何を言ってるんだ？

——スコットこそ、何を言ってるの？　米牛肉輸入解禁に伴なう『吉野家』牛丼復活の話じゃないの？

スコット　俺が言ってるのは、『PRIDE』のアメリカ輸入解禁だよ！　いろんな妨害を受けてやっと解禁になったんだからさ。

——牛丼だってやっとこさ解禁ですよ。

スコット　いい加減にしなさい！……という時事ネタ漫才で前フリを一通りやったところで本題だ。デューク、本当に大変だよ！　**ヴァンダレイ・シウバvsチャック・リデル戦が消滅**するって!!

——いまさらそんなことで慌てなくても。それは、GP速報号のこのコーナーでも話したばっかじゃん。

スコット　まあ、聞けよ。ダナ（・ホワイトUFC代表）が言うには「ネバダ州アスレチック・コミッションは**KO負けした選手にサスペンション（出場停止期間）を設ける**から、シウバは試合日（9・10『PRIDE無差別級GP決勝戦』）から90日間はUFCに出られない。**一ヵ月半後に予定されていたUFCでのリデル戦に出られるわけがない**」ってことなんだ。

——なるほどねえ。でも、それはアメリカでは当然の措置なんでしょう？

スコット　それに加えて**「アイツはボコボコにされて、KO負けした」**ってことで、**もうシウバに興味はない**といった内容の発言もしているんだよ。

——というかさ、ダナはミルコ戦の前から消滅を匂わせるような発言を繰り返していたじゃんか。

スコット　ともかく、ダナはこう言いたいんだ。「シウバは出られなくなったし、これで、『PRIDE』から逃げた」と非難されることもなく、**交流戦もなかったことにする腹づもり**なんじゃないかな。

——無差別級GPのあまりの凄さに、ビビってたじろいだんじゃないの？　ああ、こりゃ勝てるわけがねえって。だったら引き抜いて自分のものにしちゃえ！　っていう考えだろうね。

スコット　UFCのライトヘビー級は、ティト・オーティズとケン・シャムロックの再戦をまた組まないといけないぐらい選手層の薄さに苦しんでいる。リデルの次の試合は11月もしくは12月。ティトとの試合が有力視されているけど、引退説が流れたケン・シャムロックも勝てば、リデルへのタイトル挑戦権を得て試合するだろうとダナは話している。

——……ケン・シャムがねえ。**ライトヘビー級は、もう動脈硬化寸前**だねえ。

スコット　そこで、やはりというか**ダナが再び目をつけたのがクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソン**。『PRIDE』を去ったジャクソンにUFCが高額のオファーをしていたことは前にも話したけど、結局、ジャクソンは条件のいいWFAを選んで、7月22日のロサンゼルス大会に出場した。が、しかし、WFAはその大会で大コケ。次回大会は予定を大幅に延ばして12月、と半年に一回の興行になってきている。

——好条件で移ったものの、ジャクソンは試合ができる環境じゃない、と。

スコット　そこで、どうやらUFCは再びジャクソンにオファーをかけてきているらしいんだ。実際に、ダナはUFC62の大会後の取材でもランペイジの名前を出しているからね。

——さすが、抜け目がないビジネスマン。

スコット　マッチメイクのマンネリとは裏腹に、UFC60で『レッスルマニア』を凌駕する60万件ものPPV売り上げを記録したUFCは、その次の大会では**77万5000件**と、さらにそのレコード記録をはるかに塗り替えたんだ。

——……77万5000件!!

スコット　どう？　凄いでしょ？　驚いたでしょ!?

——そりゃ驚いたさ。だって亀田興毅の抗議件数6万件をはるかに超えてるんだもん！

スコット　比較するところが間違ってるよ！　そして直近の**UFC62はそれさえも上回る**かもしれない。

——『PRIDE』のファイターを根こそぎ引き抜いてもおかしくない！　だったらランペイジにWFAを上回るオファーをすることなんて、なんら難しいことではなくなっているじゃんかよ。

スコット　そういうこと。もっともランペイジはWFA所属として、対抗戦に出るかもしれないけどね。レイベン（WFA代表）も勝てば、自分のところのPRになると思うだろうし。しかし、そのへんUFCはしたたかだからね。**気づいたら、ジャクソンを巻き上げられているこ**とになるかもしれない。

——『PRIDE』も似たような道を歩くことになるかもねえ。

スコット　あとこれは前にも言っていたことだけど、UFCはファイトマネーの上昇を抑える一方で、それとは別に**PPVの利益の一部を直接選手に支払うシステム**を作り上げている。その金額は、さっきも言ったようにPPVが伸びていることから莫大なモノになるんだ。そしてそれはファイトマネーとは違って、**事務所やマネージャーもしくは出身団体を通さない**で選手個人に支払われるらしい。

——じゃあ、マネージャーは商売あがったりじゃん。

スコット　そうやって**選手とマネージメントサイドを分断しておいて選手を一本釣り**しようとしている、と見る向きもあるね。

——やってくれるよなあ、ダナは。その強引な力技も凄いけど、実際にそれを実行する資金もある。そんな状態のUFC

UFCのオファーを蹴り、『PRIDE』からWFAに移籍したジャクソン。策略家ダナの魔の手に絡み取られることになるのか？

ラスベガスを斬りたいかーっ！

PRIDE存亡を賭けた
全米進出!!

MFCがオンライン・カジノ会社と提携！ アメリカ格闘技界は巨大資本の代理戦争の場に!!

に、『PRIDE』は挑んでいくわけだ。

スコット 厳しい闘いになるだろうね。プロモーション一つの予算にしても、ケタが違うと思うよ。例えば、『PRIDE USA』のサイトもクールだけど、UFCは大会ごとにホームページができていて、ずいぶんと凝ったPR映像を流しているからね。

――ああ、「デニスはイケメン！ スロエフはヒゲメン！」とかなんとかやってたPR映像のこと？ あれのどこがクールなんだよ？

スコット それは『武士道』だろ！ 余計な口を挟むなよ。さらに！ 『PRIDE』が乗り込むアメリカでの敵は、UFCだけじゃない。このブームを見て、いま、**さまざまな業界からMMAビジネスに乗り込んでくる企業**が出てきたんだ。

――ああ、MARSのこと？

スコット まあMARSもそうなんだろうけど、こっちはアメリカの話！ 既存の団体に強力なスポンサーがついてきて、勢力図が変わろうとしているのさ。

――アメリカはUFCの独占支配っていうイメージだけど。

スコット まだ、そうだね。WFA以外にも、**不動産会社や出版社をスポンサーに**つけて、アントンを国際大使に就任させたIFLの話などはこれまでも連載でしてきたけど、これまで比較的目立たなかったMFCに大きな動きが見え始めたんだ。

――ああ、MARSと提携して、8月の両国大会にウェルター級王者エディ・アルバレスを送り込んできたって話ね。

スコット だからMARSの話はもういいって！ そんなことじゃなくて、今度MFCは**ボードッグというアメリカで最も成功したオンライン・カジノ会社**のスポンサー獲得に成功したんだ。

――ふんふん。『PRIDE』といい、UFCといい、カジノにとってMMAはスポーツギャンブルの魅力的なコンテンツになっているということだね。

スコット そのボードックを率いるカナダ人のカルビン・エアー代表は、6年前に始めたオンライン・カジノでビリオネア（10億ドル長者）になった男。その資金でレコード業界など他のビジネスも手がけて成功している、やり手のビジネスマンさ。なんでも、**「彼が触ったモノは金（きん）になる」**とさえ言われているんだ。

――しかし、カジノ業界の大物はもうお金の次元が違うね。〝アメリカのPRIDEの父〟エド・フィッシュマンといいさ。

スコット ボクの運営しているサイトも別のカジノのスポンサーがついているんだけどね。しかも、じつは以前ボードックから広告を出したいという申し出も受けていたんだ。もちろん、自分のスポンサーがいるからほかのカジノの広告は受け付けられないんだけど、そのときはボードッグの代理人は「ギャンブルの広告じゃなくて、イベント用だ」って言っていたんだよね。まさか、それがボードッグの新しいMMAビジネスだとは思わなかった。で、MMA業界とテレビ業界で成功を狙うカルビンはMFCと提携して**『ボードック・ファイト』という名前のリアリティショー**を9月から開始したんだ。

――スパイクTVが成功を収めた**『TUF』の二番煎じ**を狙っているわけだ。

スコット 16人の選手が中米のコスタリカに渡って、そこで『TUF』と同じように毎週闘って、勝った選手が決勝大会に進むってわけさ。

――ちょっと待って！ なんでコスタリカなの？ っていうか、中米のどこにあるのかも知らんけど。

スコット なぜなら、オンライン・カジノは、インターネットでどこからでも手軽にアクセスできることが人気の理由なんだけど、アメリカにはギャンブルを禁止している州もある。オンライン・カジノは当然、その州のボーダーを越えるわけだから、アメリカではイリーガル。だから、カルビンもコスタリカに会社を登記して、そこに住んでいるんだ。

――ああ、『猪木祭り』の主催者が日本にいられなくてアメリカに住んでるみたいなもんか。

スコット 全然違うよ！ でも、そのオンライン・カジノのお客はアメリカに住んでいるアメリカ人がメイン。会社を海外に移して、運営しているボードッグも限りなくイリーガルに近いグレーな存在なんだ。だから、**カルビンはアメリカに入ったら、逮捕される可能性もある。**

――それこそ〝反社会勢力〟じゃん！

スコット 実際に、ベットオン・スポーツというほかのオンライン・カジノ会社の社長は5月にトランジットで訪れたダラス空港で逮捕されているんだ。

――だからって、リアリティショーの撮影をコスタリカでやるってのも凄いね。『ボードック・ファイト』のメソッドは『TUF』と同じだということがわかったけど、成功しそうなの？

スコット それはどうかな。UFCは新人ファイターの中に、人気のあるコーチを入れて、かつ節目になる大会（UFN）では、トップクラスのファイターも混ぜて大会を運営させ、成功してきた。それがMFCになると、メジャーな選手もそうそういないしね。

――なるほど。素人に近いファイターを集めるだけではダメだと。

スコット ただ、彼らはMFCを通じて、ヒョードル率いる**レッド・デビルと強いコネクション**を持っている。実際、12月に開催予定のリアリティショーの決勝大会は、16人の中から選ばれた4人とレッド・デビル勢との対抗戦が行なわれることになっているんだ。さらに、**ヒョードル自身が番組にゲスト出演する**という情報もあるからね。

――ヒョードルがゲスト出演！ ずいぶん豪華だね。

スコット ちなみにおもしろいことに『ボードック・ファイト』のウェブサイトではヒョードルのことを〝世界ヘビー級チャンピオン〟と形容しているけど、どこにも『PRIDE王者』とは書いてないんだよね（笑）。

――**……なんだか〝ボンバイエ〟みたいなこと企んでるんじゃないの？**

スコット とにかく資金力はあるだけに、ボードッグ・MFC連合はどういう攻勢に出るかわからないよ。『PRIDE』が獲得を狙っていたアブダビ王者のホジャー・グレイシーも引っ張ってきたしね。

――最終的には、アメリカでの興業戦争はカジノ同士の資金面での総力戦になってきそうってこと？

スコット まぁ実際、**ラスベガスにあるカジノにとってオンライン・カジノは商売敵**だから、MMA業界でも徹底的にやり合うだろうね。

――そんなところに、『PRIDE』は勝負をしにいくわけだ。

スコット そう。『PRIDE』はどのみちここまで膨れ上がった米国市場に、何かしら手を出さないといけなかった。

――フジテレビの打ち切りがあろうがなかろうが、やんきゃいけなかったと。

スコット うん。で、ギャンブルに打って出たわけだけど、本当にギャンブル業界の闘いのド真ん中に入ったわけだね。

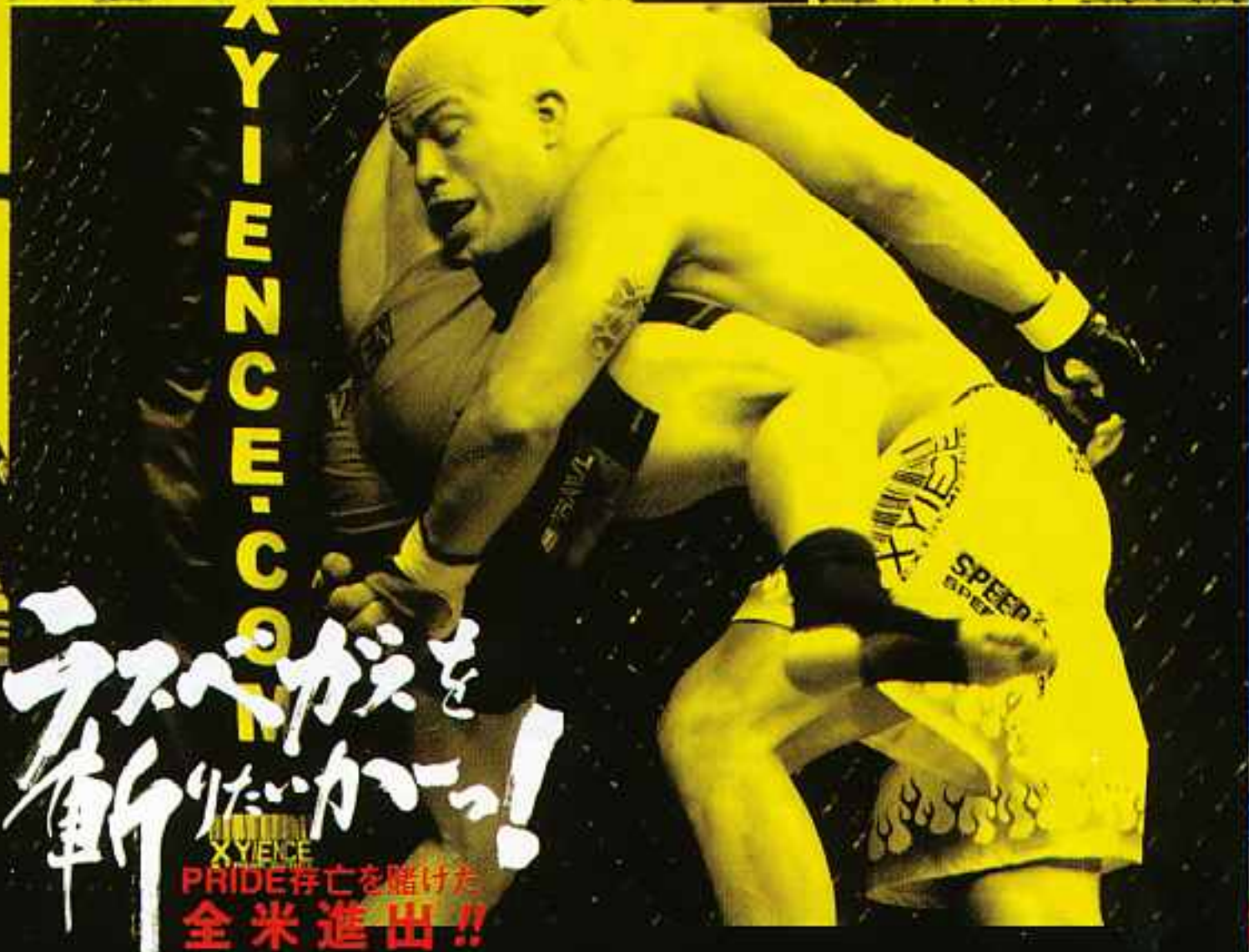
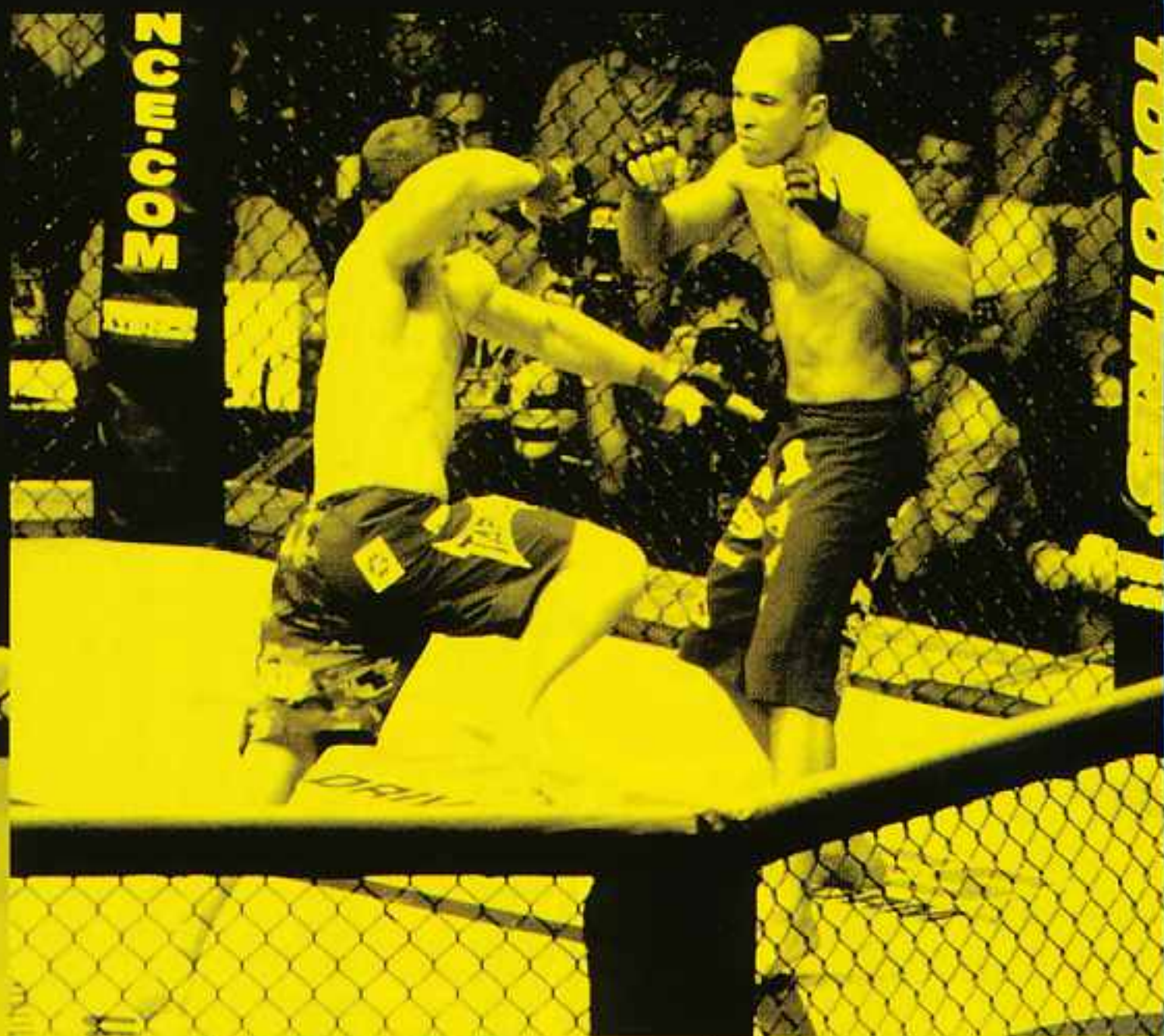
――米牛肉に手を出した『吉野家』以上に、あとが引けないわけだ。おあとがよろしいようで！

スコット まったくよろしくないよ、意味不明！ バカな聞き手のせいで真意は伝わりにくかったかもしれないけど、『kamipro』読者の皆さん、**『PRIDEラスベガス』大会は存亡を賭けたギャンブルです！**

PRIDEを迎撃!! UFC10月大会情報

★10.10 UFN [The Final Chapter]
米国フロリダ州セミノル　ハードロック・ホテル
ティト・オーティズ vs ケン・シャムロック
ティアゴ・アルベス vs ジョン・アレッシオ

★10.14 UFC64 [Unstoppable]
米国ネバダ州ラスベガス　マンダレイベイ
【UFCミドル級タイトル戦】(王者)リッチ・フランクリン vs アンデウソン・シウバ(挑戦者)
ショーン・シャーク vs ケニー・フロリアン

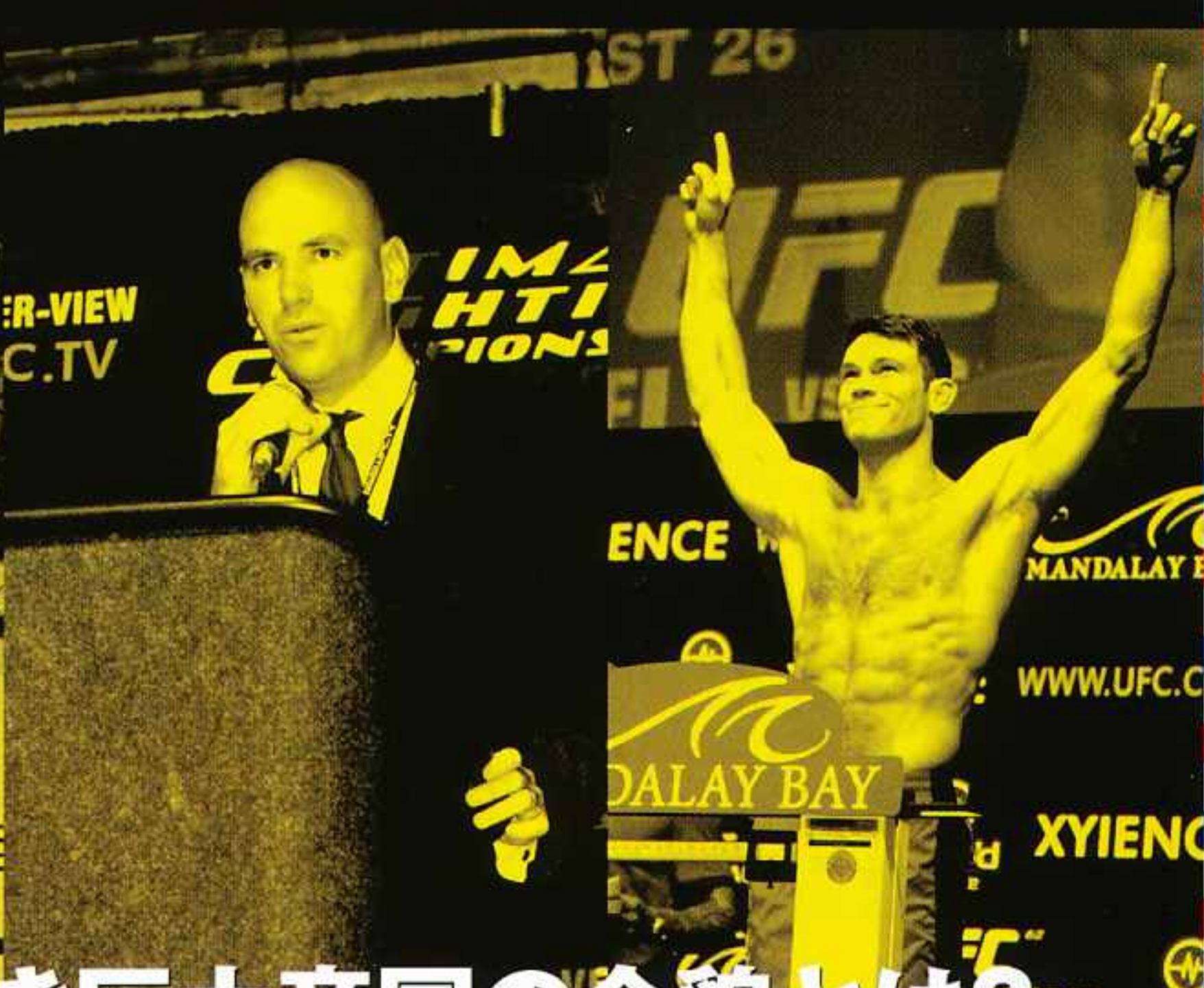
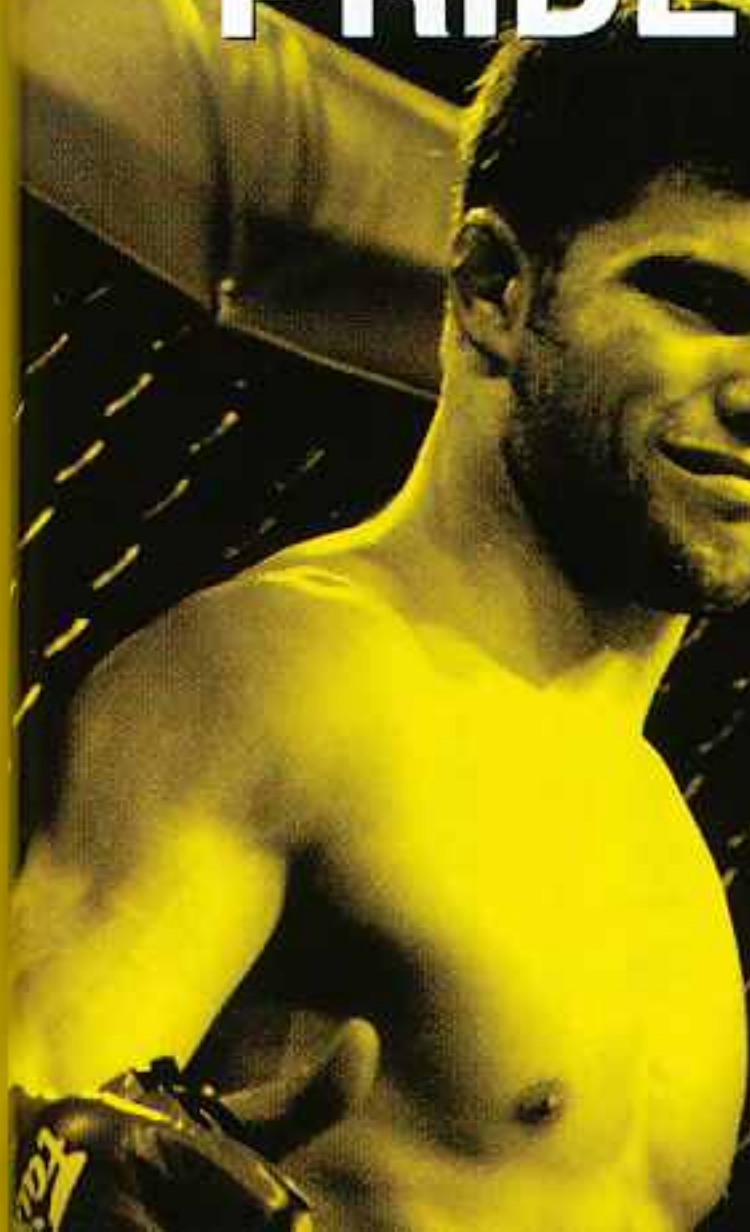
★PPVがまたもやレコード更新!!
UFC60で60万件という驚異の購入件数を叩き出し、米国のテレビ業界内で大きな注目を集めるUFCのPPV放送。直後のUFC61は、なんと77万5,000世帯が視聴。料金は39.95ドル（約4,600円）なので、総売上げは36億2,700万円!! ダナの笑い声が聞こえてきそうだ。

ついにPRIDEと“直接対決”へ

いまこそ解き明かせ! UFC

Ultimate Fighting Championship

アメリカに進出する『PRIDE』にとって最大のライバルとなるのが、“総合格闘技のメジャーリーグ”と呼ばれるUFC。では、UFCと『PRIDE』どう違うのか?　WOWOWでUFCの解説を務める稲垣收が改めて基本的なことから説明します!!

文／稲垣 收（WOWOW UFC解説者）

designed by hisa（TwoThree）

PRIDEを飲み込もうとする、恐るべき巨大帝国の全貌とは?

コアな総合格闘技ファンならご存知だろうが、簡単にUFCの歴史を振り返っておこう。『PRIDE』もUFCがなければ生まれていなかったのだ。

グレイシー神話誕生

時は1993年、リングスやパンクラスが隆盛を極め、4月には第一回K―1GPもスタートして大人気を博していたこの年の11月、アメリカはデンバーで第一回UFCが開催された。出場選手はパンクラスのエース、ケン・シャムロック、極真空手出身〝ケンカ屋〟ジェラルド・ゴルドーのほか、体重200キロの相撲取りやボクシング北米クルーザー級王者など。ルールは時間無制限で、目潰しと噛みつきと金的への攻撃以外すべてが許されるという、まさに「なんでもあり」で、グローブなしの素手で殴り合い、リングでなく金網のオクタゴンで試合が行なわれたことも、強烈な印象を与えた。

ケン・シャムとゴルドーが「ケンカ大会」に出ると聞いて筆者も取材に駆けつけたが、当然彼ら二人のいずれかが優勝するものと信じていた。ところが、その二人を含む3人を次々にサブミッションに切って落として優勝したのは、出場者中最軽量のブラジル青年、ホイス・グレイシーであった。この日を境に世界にグレイシー柔術の名が轟き渡った。そしてホイスが第二回、第四回大会でもトーナメントを制して優勝し続けると、柔術ブームが巻き起こる。アメリカではそれまで人気のあったキックボクシングのジムが次々に潰れ、代わりに柔術道場が全米、いや全世界に増殖したのである。

黒船現わる

この〝グレイシー柔術という脅威〟は日本の格闘界をも激震させる。パンクラスのシャムロックが破れ、第二回大会では、大道塾のエースで数々の異種格闘戦を制してきた市原海樹もホイスにあっさり一本負けしたのだ。さらに、ホイスが「兄・ヒクソンは僕の10倍強い」と発言したことで、グレイシー最強幻想はこの上なく高まった。

髙田延彦率いるUインターはメディアを通じてヒクソンを挑発。94年には所属選手の安生洋二がLA郊外のヒクソンの道場に道場破りを敢行するも、返り討ちにあってボコボコにされ、その無残な姿をビデオに撮られるという屈辱的事件も起こった。

その後、修斗創始者の佐山聡（初代タイガーマスク）は〝400戦無敗〟といわれるヒクソンを日本に招聘し、バーリ・トゥード・ジャパン'94を開催。この大会と翌年の同大会でヒクソンは慧舟會の西良典やリングスの山本宣久、修斗の中井祐樹らをすべて一本勝ちで破って二連覇する。そして97年10月、『PRIDE・1』で髙田と対戦し、初回一本勝ちしたわけだ。つまり、『PRIDE』はヒクソンと髙田を闘わせるために生まれた大会であり、ヒクソンの名が日本で知られるようになったのはUFCでのホイスの活躍によるものなのだ。

不遇の時代、そしてラスベガスへ

しかしUFCも、テレビ放映の便宜のため「時間制限あり」にルール変更がなされると、不満を持ったホイスが離脱し、長い冬の時代を迎える。初期はルールも危険でレフェリーも不慣れだったため、残酷ショー的試合になることが多く、大きなスポンサーも得られず、さらにボクシング・コミッションの力の強いアメリカでは、彼らの影響下にある大都市で興行が打てず、ドサまわりが数年続く。

だが00年になると、ラスベガスに拠点を持つズッファ社がSEG社からUFCを買い取ってプロモートを開始。カジノオーナーでありネバダ州アスレチック・コミッションのメンバーでもあったロレンツォ・フェルティッタ会長の豊富な資金と人脈を駆使し、マンダレイベイなどの大会場で大会が開催されるようになった。

グレイシー神話が誕生。
残酷ショーのレッテルを貼られるも
TUFブーム創出で復活。

さらに05年にスパイクTVがWWEのRAWを打ち切ってUFCの新人育成をテーマにした『ジ・アルティメット・ファイター（TUF）』を放映開始すると、これが一躍人気番組となり、コアな格闘技ファンにしか知られていなかったUFCが全米の一般層にまで注目されるようになった。

リアリティショー

『TUF』は言ってみれば、全世界で人気になったリアリティショー『サバイバー』と『ガチンコ・ファイトクラブ』を足して、さらに『風雲たけし城』のスパイスを加えたような番組だ。ケーブルテレビに契約するだけで無料視聴できるスパイクTVで放映されているこの番組（現在はシーズン4）は、そこそこ実績はあるが知名度の低い選手を集めて合宿特訓させて毎回一人ずつ脱落させ、最後まで勝ち残った者がUFC本戦出場権と、〝シックス・フィギュア・コントラクト〟（6桁の契約。10万ドルとしても1200万円！）を獲得するというもの。選手たちは2チームに分かれ、UFC王者クラスの選手がコーチとなる。シーズン1ではランディ・クートゥアーとチャック・リデルがコーチを務め、13話にわたる放送が終了した時点で、コーチ同士もUFC本戦で激突、過去にない人気大会となった。

番組では、毎回「たけし城」めいたサバイバル・ゲームが行なわれる。たとえば、コーチを棒のついたソファに乗せて神輿のように担ぎ、障害物を潜り抜けたり、川の中を走ったりして、負けたチームが24時間以内に自軍から一人の選手を追い出すというもの。しかし毎回試合が行なわれることを期待していた視聴者から不満の声が出たのか、その後、路線変更され、ゲームに勝ったチームが、自軍と相手軍から代表を選んでオクタゴンで闘わせ、負けた者が去るという形式に変わった。番組では合宿生活が『トゥルーマン・ショー』のように24時間録画され、合宿所のバカ騒ぎや対立、友情などがつぶさに観察できる。視聴者は選手に親近感を持ち、勝ち残った選手が本戦出場すると、PPVで見たり、会場まで駆けつけて応援したくなるという仕組みだ。

このTUF上がりの選手の代表が、4月のUFC59でティトと大激戦を見せたフォレスト・グリフィンである。この試合でフォレストが2―1のスプリットでティトに敗れると、ティトに対して大ブーイングが起こた。元王者よりもTUF出身の新人のほうが人気が上、という逆転現象が起こっているのだ。

UFCの大会規模と開催頻度

『無差別級GP決勝戦』のさいたまアリーナで4万人を超す入場を記録したように、一大会の観客動員数では『PRIDE』のほうが、UFCより断然多い。UFCの場合はこの夏初進出となったカリフォルニア大会で1万2000人ほど

『PRIDE』とUFC そのルールの違いは？

初期UFCは階級無差別で、ラウンドもなく時間も無制限。ルールも、レフェリーによるブレイクすらもない、まさに「なんでもあり」だった。その後、階級制が導入され、素手での殴り合いからオープンフィンガー・グローブ着用が義務づけられた。ラウンド制も採用され、1Rが5分で、通常の試合だと3R、タイトル戦は5Rで行なわれている。（『PRIDE』では1Rが10分で2R、3Rが5分ずつ。トーナメントおよび『武士道』では10分＋5分の2Rで終わり）

ルール面では、『PRIDE』では4点ポジションの状態にある相手の頭部へのヒザ蹴り、また顔面への踏みつけやサッカーボール・キックが認められているが、UFCでは禁止されている。逆に、『PRIDE』で禁止されている頭部へのヒジ打ちがUFCでは許されている。

もう一つ決定的に異なるのは、試合が行なわれるのがリングか金網の中かということ。『PRIDE』などリングで行なわれる試合では、しばしば選手の身体がロープからはみ出したり落ちそうになったりすると、ストップがかかり、同じ体勢で中央の位置に戻されてから試合が再開される。これによって試合の流れ、勝負のアヤが変わってしまうことがある。

しかしUFCでは金網のため、こういう「待った」がかかることはない。筆者も現地で体験したが、いったん金網に押し込まれると、まるでネットにくるまれたようになって脱出が難しく、圧力のある相手に殴られ放題、ヒジを入れられ放題になりやすい。このため、レスラー系でタックルがうまく、押し込む圧力とパウンドの強い選手にとっては非常に有利。もしこれからUFCを目指す日本人選手は、オクタゴンを採用しているDOGに出場するか、オクタゴンの設置してある道場などで事前にたっぷり練習を積んでおいてほしい。相手をいかに押し込んでパウンドするか、逆に押し込まれた場合、どう逃げるか。慣れてくると、押し込まれても、金網を蹴ってうまく逃れることができるようにもなる。

である。ただし、興行数はUFCのほうが多い。去年までは2ヵ月に一回ペースだった本戦が、TUF効果による人気沸騰もあって今年は、ほぼ毎月開催されている。さらにスパイクTVで生放送されるアルティメット・ファイト・ナイト（『TUF』の卒業生たちがメインの本戦への登龍門的大会）も今年は1、4、6、8月と開催され、6月には『TUFシーズン3』のフィナーレ大会も開催されたので、6月下旬から7月上旬にかけてはUFC系の大会が二週間で3大会も開催される、という異常な過熱ぶりだった。

チャック・リデルの強さ

UFCで一番人気が高いライトヘビー級（93キロ以下）の王者チャック・リデルは、この11月にPRIDEミドル級王者ヴァンダレイ・シウバとの対戦が予定されていたが、シウバがミルコ・クロコップにKO負けを喫したことで流れる公算が強い。だが両者がもし闘えば、リデルが勝つと予想する声もある。中井祐樹もその一人だ。リデルは03年の『PRIDEミドル級GP』で、クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンに敗れているが、中井は「もしジャクソンでなくシウバと当たっていたら、リデルが勝った可能性が高い」と発言している。

実際、今回のミルコ戦でもわかるように、シウバが得意なのはブンブン振り回すフック系のパンチであり、最短距離を打ち抜く正確なストレートを打てる選手には分が悪い。98年のUFCブラジルではプロボクシングの試合にも出るストライカー、ビクトー・ベウフォートにKO負けし、UFC-Jでもティトに判定負けしている。ちなみにリデルは、シウバを倒したこの二人に勝っている。『PRIDE』でアリスター・オーフレイムに苦戦し、ジャクソンに敗れた頃のリデルは、パンチに対するディフェンスのマズさがあったが、それもいまでは克服した。昨年と今年の二度にわたるランディとの闘いでは、パンチをほとんど入れさせずにKOして、鉄人を引退に追い込んだのだ。

いまのリデルは、ボクシング王国アメリカならではのシャープで正確なパンチの技術を身につけており、一発入れてぐらつかせ、相手にたたみ掛けKOしてしまう技術は2月のランディ戦、8月のレナート・ババル戦を見ても、この上ない域に達している。筆者と一緒にWOWOWで試合を解説していた高阪剛氏も宇野薫も、リデルのパンチ技術に感嘆していた。

ライバル

リデルに弱点があるとしたら、ほとんど実戦で見せたことのないグラウンドの攻防だろう。テイクダウンされて、上からパウンドされたり、サブミッションを仕掛けられると、弱さを見せるかもしれない。ただし、レスリングで4度も全米王者になり、世界選手権9位の記録も持つランディですらテイクダウンを奪えないほど、テイクダウン・ディフェンスもうまくなっているので、リデルをグラウンドに引きずり込むのは難しい。関節技に磨きをかけ、このところ5連続一本勝ちしていたババルならリデルを極められるかと思ったが、元レスリング南米王者という肩書きを持つ彼でもリデルをテイクダウンすることはできなかった。

だが、もしかするとランディの盟友ダン・ヘンダーソンあたりならば、ボクシング技術とレスリング技術を兼ね備えているので、いい勝負になるかもしれないランディの仇討ちに、ダン・ヘンが名乗りを上げてくれるとおもしろいのだが。

UFCヘビー級2トップの打撃は
ヒョードルをKOする可能性もある。

UFCヘビー級ツー・トップ

UFCのヘビー級は、残念ながら、層が薄い。ただし王者ティム・シルビアとアンドレィ・アルロフスキーのツー・トップは別格で、どちらも一撃で相手を倒せるハードパンチャーだ。パンチの正確さと威力ならばヒョードルに勝るとも言えるだろう。実際、二人ともそのパンチでKOの山を築いてきた。アルロフスキーは今年4月と7月にシルビアに二連敗したものの、それまでは02年11月から6連勝。その内訳は5KO、1サブミッションとすべて完全決着で、5試合を1Rで終わらせている。またシルビアも15の1RKO記録を持つ。ヒョードルは藤田のパンチでぐらついたことがあるように、必ずしもパンチのディフェンスが得意ではない。スタンド勝負ならば、彼ら二人がヒョードルをKOする可能性もある。

また203センチの巨体のシルビアなら、圧力でもヒョードルに負けない。ただし、ヒョードルがテイクダウンに成功した場合、アルロフスキーにアキレス腱固めで秒殺されたこともあるシルビアに勝ち目は薄い。レスリング出身選手の多いミレティッチ軍団所属のシルビアは、タックルに対する防御はうまいだろうが、ヒョードルの、柔道におそらくロシアの軍隊格闘技〝システマ〟をプラスしたと思われる「相手に触れた瞬間に倒す」テイクダウンは防げないかもしれない。

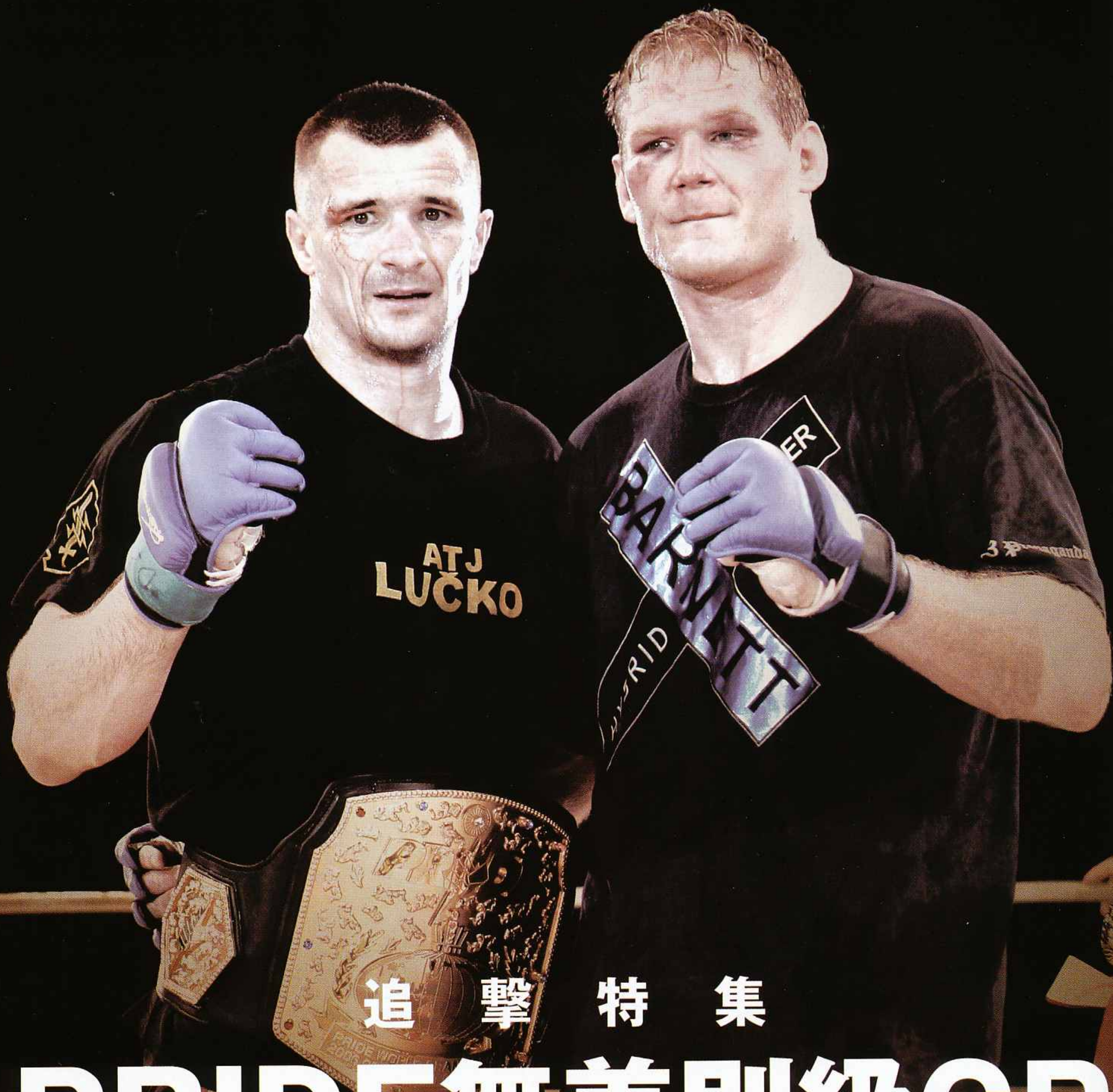
しかしアルロフスキーとなると別だ。ベラルーシの警察学校で18歳でサンボを始め、翌々年には世界王者（おそらく小さいほうのサンボ組織だと思われるが）になっているアルロフスキーがヒョードルにサブミッションを極められることは考えにくい。また、彼の身体能力ならばヒョードルのパウンドを避けて立ち上がることも可能ではないかと思える。立ち技でアルロフスキー、パウンドならヒョードルがやや有利と言ったところか。

UFC中軽量級の強豪

またUFCは最近、中軽量級で選手が充実している。ウェルター級（77・1キロ以下）の王者マット・ヒューズは（＊ヒューズはBJ・ペンと9月23日にタイトル防衛戦を行なうが、本稿執筆時にはまだ結果は出ていない）ホイスと5月のUFC60で対戦、あっさりパスガードしてアームロックを仕掛け、さらにはバックマウントを奪ってパウンドでTKOしたのが記憶に新しい。ヒューズはシルビアと同じミレティッチ軍団所属。レスリング力を活かしたタックルからの強烈なグラウンド&パウンドに加え、最近ではサブミッション技術も格段に向上し、ホイス戦前の3試合でもフランク・トリッグやジョルジュ・サンピエールら強豪相手に3連続一本勝ちを収めている。対戦し敗れた桜井〝マッハ〟速人がかつて「牛のようだ」と呼んだパワーファイターは、防衛戦を重ねるうちに、「過去最高のウェルター級王者」と呼ばれるオールラウンダーに進化を遂げたのだ。

そのヒューズに一本勝ちしたことのあるBJ・ペンは、ブラジル人以外で初めて柔術黒帯の世界王者になった男で、日本で言えば、タイ人以外で初めて本場タイのムエタイ王者になった藤原敏男に匹敵する男。総合では五味隆典にも一本勝ちしているし、宇野薫や階級が上のヘンゾやホドリゴ・グレイシーにも勝っている。いまや、PRIDEライト級王者となった五味や『HERO'S』で活躍する宇野がBJやヒューズと闘えばどうなるか、夢は膨らむ。

またミドル級王者リッチ・フランクリンは、元高校教師で、いまも非常勤講師を続ける「闘う先生」だが、20勝1敗という恐るべき戦績を持つ。しかも20勝のうち判定勝ちは一つだけなのだ。

こうしてざっと見渡しただけでも、UFCにはかなりの強豪が揃っていると言えるだろう。願わくば『PRIDE』のアメリカ進出を機に、両団体の対抗戦などが活発化してほしいところだ。

追撃特集

PRIDE無差別級GP
激闘の背景

ミルコ・クロコップ感動のバースデー優勝で幕を閉じた『PRIDE無差別級GP』。そのファイナル・ラウンドとなった9.10さいたまでは、準決勝、決勝ともに近年稀に見る名勝負となった。その背景とは何か？　ここではミルコ、ジョシュ、シウバ大爆発の裏側に迫ってみた。

全権代理人・今井賢一氏が明かす

ミルコ・クロコップ 涙の戴冠までの知られざる軌跡

シウバ、ジョシュを連続1ラウンドKOで下し、ついに悲願のPRIDE王座に輝いたミルコ・クロコップ。これまで数々の挫折を経験し、昨年、ヒョードル、ハントに敗れたあとは「もはやここまでか」と思われたこともありながら、奇跡の大復活を遂げた裏にははたして何があったのか？　3年半前、ともにK－1から離れPRIDEに闘いの場を移し、苦楽をともにしてきた“戦友”でもある全権代理人・今井賢一氏が、ミルコ王座戴冠までの知られざる軌跡を語ってくれた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也、山口比佐夫、平専英

designed by hisa（TwoThree）

――悲願のＰＲＩＤＥ王座獲得おめでとうございます！　ミルコにとってはもちろん、今井さんにとっても悲願のベルト奪取だったんじゃないですか？

今井　やはり、感無量という気分ですね。優勝したあと、控室に戻る帰りの花道でミルコに「もう俺はこれでおまえのマネージャー役を降りてもいい。なんの心残りもない」って、そんな話をしたんですよ。でも、ミルコは「冗談じゃない。こんな〝サメしか泳いでいない海〟に俺を一人残すな」って言ってましたけどね（笑）。

――今井さんとしては「ミルコにベルトを巻かせるまではやめられない」という思いがあったわけですか？

今井　ミルコが途中で投げ出すのなら仕方がないけど、僕があきらめるわけにはいかないとは思ってましたね。ミルコとともにＫ―１を離れて３年半、いろんな挫折はありましたけど、ようやくミルコのいままでの努力が報われたんだと思います。

――でも、ここでミルコが頂点に立つとは、多くの人にとって驚きだったと思います。昨年８月にヒョードルに完敗し、10月のジョシュ戦でも大苦戦、大晦日のハント戦では体調不良で本領発揮できず、ＧＰ開幕前は〝燃え尽き症候群〟だと言われたりしていたわけですからね。

今井　さすがにミルコもここまでだな、と思った人は多かったでしょうね。

――それが下馬評の低さにもつながっていたと思うんですけど。

今井　パンフレットに載っていたマスコミの予想で、「ミルコ優勝」と書いていたのは『kami-pro』と『日刊スポーツ』だけだもんね（笑）。

――まさか、あんなに心身ともに充実した完璧なミルコが現われるとは、「ミルコ

RKO

OCOP

MIR

CROC

優勝」を予想したウチも思ってませんでしたよ（笑）。

今井　僕はミルコと毎日のように電話で連絡するなかで、受話器の向こうから聞こえてくるヤツの言葉から、密かにですけど、ビシッと気合いが入ってきてるな……とは感じてましたけどね。でも昨年のタイトルマッチ以降、ヒョードルに、対ミルコという意味では丸裸にされたも同然の状態になり、左足の甲とスネのケガも治ってない状況だったんで、僕もあえて貝になるつもりで、ほとんど情報は出さないようにしてたんですよ。やはり決勝戦前はいろんな人から取材の電話がかかってきましたけど、僕も海外に出てしまい、情報をシャットアウトしてたんです。

―僕も今井さんと連絡が取れなくて、『kamipro』でのミルコの事前記事は、GPとは関係ない「WFA移籍の噂」を追ったものになったんですけどね（笑）。

今井　えらく中途半端な記事が載ってて、「どうしたんだ、『kamipro』は」と思ったよね（笑）。

―GP決勝前にWFA移籍の話は、実際あったんですか？

今井　いや、WFAうんぬんはもともと関係ないんですよ。じゃあ、その噂がどこから出てきたかというと、GP決勝に向けて、『PRIDE』と条件面の最終交渉を僕がしているさなかに、ミルコが「この最終4人のとんでもないメンバーで、一晩に二試合もタイトルマッチをするほどのGPの決勝戦の賞金が、なぜK―1グランプリの賞金より少ないんだ……？」って言い出したんです。

―へえー、無差別級GPの優勝賞金が、低すぎるんじゃないか、と。

今井　細かいことは、この場では言えないんだけど、やつの言い分は、「命を懸けなければ優勝できない、世界一過酷なトーナメントの決勝戦の優勝賞金にしては、金額が低い……」という不満があったということ。以前に魔裟斗が前に同じ主張をK―1にぶつけたことがあったけど、それと同じで、選手の気持ちを代弁したかったんじゃないかな。

―それは選手はみんな、自分たちの血と汗と涙の量に見合う優勝賞金がほしいと思いますよね。

今井　ただ、それをたまたま取材に来たクロアチアの新聞記者に愚痴っぽく話した内容に、尾ひれがつき、さらにアメリカでは本当にファイトマネーが高騰しているなんて情報を聞いて、「これならアメリカで試合の契約をとったほうがいいのか……」なんて話に発展して、ちょうどその頃旗揚げしたWFAに『PRIDE』から移籍した、ミルコも個人的によく知っているランペイジ（クイントン・ジャクソン）の話になり……、それがあんな記事になっちゃったわけです。

―噂の出どころはそこだった、と。

今井　しかも、クロアチアの新聞ってけっこうトバしに近いようなことを書くんですよ。僕もクロアチアに行っているときは、よく新聞をチェックしますけど、ほとんどが一般紙とスポーツ紙が混じったような形態の新聞なんですよね。とくにスポーツ面なんかは大きな見出しにビックリマークが入っていて、ちょっと『東スポ』の匂いもするような。

―それは危険ですね（笑）。それで「移籍も選択肢の一つに入るかもしれない」が「ミルコ移籍」になってしまった、と。

今井　だからWFA移籍なんてもともとありえない話なんですよ。そもそもWFAでCEO職に就いているジェレミー・ラペンは、僕がK―1でアメリカ制覇をもくろんでいた2000年頃かな、自分も格闘技の世界でビジネスがしたいから、いろいろ教えてくれとアプローチしてきた弁護士で、その頃からだからもう6年くらいの付き合いになる。そして、そのジェレミー本人から僕に、「ミルコを出してくれるってホントか？」って電話がかかってきたぐらいですから。

―逆に聞かれましたか（笑）。

今井　「いやいや、そういうわけじゃないんだ」って説明しましたけどね（笑）。

―でも、いまアメリカでは、巨大な資本を持った新興MMAイベントがいくつも出てきてるじゃないですか。だから、ミルコ移籍も一概にガセとは言い切れないんじゃないかと心配してたんですけどね。

今井　たしかにビッグマネーが動くマーケットにはなってきてます。そして、僕のところには、ほとんどすべての新興勢力から、ミルコの今後についてアプローチが来ているのも事実です。それは、インターネット・カジノ、ハリウッド周辺の投資家グループ、シリコンバレーのベンチャー・ファンドなど、資金力だけに限っていえば、UFCや『PRIDE』にとっても将来的には手強い相手になるだろうという匂いのするグループも中にはありますね。ただ、スタートの資金だけあっても、MMAの興行をきちんとブランド化して、ビジネスとして存続させていけるだけのインフラとノウハウを準備できているかといえば、まだまだそれは甘いという一言で片づけられてしまうグループがほとんどです。たとえば旗揚げしたWFAに関しては、今後どうなるのか、本当にシリーズ化できるのかといえば、現在はその存続にも疑問符をつけられてしまっているのが現状でしょうね。

―そうなんですか。

今井　7月にロサンゼルスでやった旗揚げの大会も興行的には150万ドルの大赤字という惨憺たる結果になった。次の大会の日程も現時点ではハッキリとは決まってない状態。ジェレミー自身もCEOとはいっても、いままでに格闘技の興行なんてやったことがなかったわけですからね。選手のマネージメントをする立場としての本音は、選手にとってもっともいい条件・待遇を勝ち取るためには、複数のプロモーターが競争をするような時代になることを願ってやまないわけで、そういう意味では、ジェレミーにもエールを送っていたんだけれど、いくらアメリカとはいえ、そんな新興の団体が、旗揚げ興行から大成功をさせられるほど、格闘技興行は甘くはないと思います（キッパリ）。

―そういう噂もあって、ミルコはGPに対して心ここにあらずじゃないかと思われていたわけですけど。

今井　まあ、話は戻りますけど、今回は、もしかしたらミルコにとっては最後のGPにもなりえたわけですから、賞金がどうのといまさら言っても仕方がないということは、ミルコはわかってましたから、やはりプーラでのキャンプが始まり、ガッツある、いいスパーリングパートナーたちが集結してからは、「グッ」とスイッチが入りましたよね。それはやはり相手がヴァンダレイ・シウバだからということもあって。〝ミスターPRIDE〟を賭けた闘いだというのはミルコ自身も認識していたし、ヴァンダレイに対しては特別なライバル意識があるので、今回は最初から「絶対に打撃で打ち勝つ」という気持

ちになってましたね。

――だからか、今回はミルコらしいというか、ミルコ・クロコップ本来の切れ味鋭い打撃が見られましたよね。

今井　今回、ミルコの構えがちょっと変わったのは、わかりましたか？　両手のガードが高くなったんですよ。ガードを高く構えるかたちが自分のものになったのは、もちろん防御面においてのメリットが第一義なんだけれど、同時にミルコの言葉で言うと、「右のロングフックを打つ流れが作りやすくなった」と言うんです。ご存知のように、ヴァンダレイは左右のフックを連発してくるし、それが彼のファイトスタイルですよね。今回は、ミルコもヴァンダレイ対策には本当に時間をかけて研究してきて、その中での右フックの使い方に相当の時間をかけてきたんです。ビデオをよく見るとわかりますけど、ゴングが鳴って、まずヴァンダレイが前に出て仕掛けてきて、ミルコが下がって距離を取って、そして最初に反撃したのが左、右っていうワンツーだったんですよ。ミルコはサウスポーですから、基本的には右のリードジャブに左のストレートという、基本に忠実なワンツーで攻撃を組み立ててきたんだけど、今回はいきなり左のフック、さらに踏み込んでの右のフックという変則のワンツーがファーストアタックで出たんですね。ここで、やられたヴァンダレイがニヤッとするんですよ。試合後、ミルコに「あのときヴァンダレイはなんでニヤッとしたんだろう」って言ったら「驚いたからニヤッとしたんだ」って。

――立ち技の試合だとよく打撃が効いてるときに、ニヤッと笑ったりしますよね。

今井　それと同じように、動揺を隠すためにニヤッとしたんだっていうところに僕とミルコの意見が一致したんですよ。

――ヴァンダレイにとったら、左だけでなく右も警戒しなくちゃならなくなったわけですね。

今井　とにかく右も左も効果的に入りましたよね。このGP開幕戦に向けて、いまの新しいボクシング・コーチのブラニミール・レヴァックになってから取り組んできたテーマというのが、ガードを上げた構えを身体に覚えさせること、そして左、右というフックのワンツーを完成させることだったんです。僕はリングサイドで見ていて、ヴァンダレイがニヤッとしたのがはっきり見えたんですが、これは、今日はインファイトの打ち合いに勝てるなという手応えがあった瞬間でしたよね。

――本当に、このGPを取るための、トレーニングの成果が本番できっちりと出せたということなんですね。

今井　そうですね。とにかく今回はヴァンダレイに打ち負けたら終わり。ホントにそう思っていたんですけど、蹴りだけじゃなくて、パンチでも圧倒的に打ち勝った。これができれば、またしばらくは快進撃が続くんじゃないかと思いますけどね。

――一時、「ミルコ攻略法」が知れ渡ったようなところがありましたけど、いまのミルコとやるのは誰でも怖いでしょうね。

決勝前にWFA移籍の噂なんかも出ましたけど ミルコ自身は早い段階から気合いが入ってましたね

今井　まあ、自信過剰にさせるのだけは避けなければいけないので、そんなことは言いません。ただ、正直言って、ヒョードルとの大晦日決戦を実現させるのは難しいんじゃないかとは思ってるんですよ。でも、以前のように「ヒョードルは逃げている」なんて言うつもりはありません。前回、追いかけ回して挑発して、やっと漕ぎ着けて、でも完封負けしたわけですから。チャンピオンに対してのリスペクトもあるし、今度こそ、お互いに完璧な状態で、真の世界一決定戦をやらせたいと思ってるんですけどね。

――じゃあ、ミルコの当面の標的というのは、誰になりそうですか？

今井　やっぱりノゲイラでしょう。ミルコがいつも言ってますけど、ノゲイラのプロモーションビデオが流されると、必ずミルコが腕十字でタップするシーンが使われる。ミルコにとっては、それが悔しくてたまらないわけですよ。いつも「あれは生涯最初で最後のタップだ」って言ってますし。それもあって、ノゲイラvsジョシュはチーム全員で控室のモニターを観ながら、ノゲイラを応援してたんです。その屈辱が晴らしたくてノゲイラに上がってきてほしかったんですよ。

――それにしても、ミルコがここにきて完全復活できた最大の要因というのは、なんだったんでしょうね？

今井　いろんな要因があるんでしょうけど、まずは気持ちが切り替わったんじゃないですかね。自分から攻めて、前に踏み込んで打つというメンタルが戻ってきた。あとはとりあえず応急処置であっても、ヴィップス・ベポラップを少し強くしたような塗り薬のおかげで、鼻呼吸ができるようになったことも大きいでしょう。

――だけどなぜ、これまで呼吸というアスリートにとっては非常に大事な問題を棚上げにしていたんですか？　本来ならもっと早く対処してもよかったと思うんですけど。

今井　もちろん、早く対処しなければいけないとは思ってたんですけど、ミルコは鼻を手術しなきゃならないと思い込んでたんですよね。僕はクロアチアに行くとミルコが練習してるあいだ、その横でトレッドミル（ランニングマシン）とかで有酸素運動をしているんですけど、その際、僕はいつも鼻腔を広げるテープ（ブリーズライト）を鼻の頭に貼ってるんですよ。

――ああ、ありますよね。プロレスラーの小島聡がつけてるやつ。

今井　それでミルコにも「試してみれば?」とは言ってたんですけど、「そんなことしたって変わらない」って見向きもしなかったんです。ところが後日、またミルコのジムで一緒にトレーニングしてるときドクターが来て、僕の鼻のテープに注目したんですよね。「それはどこで買ったんだい?」って。

――クロアチアにはないんですか?

今井　売ってないみたいなんですよ。それがきっかけでドクターがミルコに鼻呼吸の重要性を話して、いままでやってなかったことを、いろいろ試してみようってなったんです。

――へ～、どこに突破口があるか、わからないものですね。

今井　ミルコは、そこまで鼻呼吸が大切なことだとは思ってませんでしたからね。ミルコのマウスピースは上下両方の歯列の型をとって、上下で噛む特注なんですよ。普通は上の歯だけなんですけど。ガッチリ噛めるものがいいということで、普

MIRKO
CRO COP

通の選手がしているものよりも上下に肉厚なものを使っている。みんなに指摘されたミルコが口を開けて、苦しそうに息をしているというのは、鼻呼吸ができないことに加え、この上下で噛むマウスピースの影響も大きかった。だから余計、鼻呼吸が重要だったんですよね

——ヒョードル戦以降、スタミナ不足というのも、ミルコの大きな課題でしたけど、それがひょんなことから解消されて、最高の仕上がりになったわけですね。

今井　トレーニングで、鼻呼吸のおかげで、普段よりも自分を追い込むことができて、それが自然と１００キロという体重まで絞れる原因になった。まぁ、相変わらず足の甲は腫れているし、鼻の問題も根本的には解決したわけじゃありませんけど、フィジカル的にもメンタル的にも、いい仕上がりにはなりましたね。来日した日に、ホテルにチェックインして、いつもまずシャワーを浴びるんですけど、だいたい僕がやつの部屋にいて、最初に上半身裸になったときに、まず直感的に仕上がりを判断するんですね。で、今回は肩の後ろから後背筋にかけて、ムササビみたいに盛り上がっていたので、ああ、これは仕上がってきたな、ボクシングを相当やってきたなと、一発でわかりましたね。そして、体重計に乗せたら、１００・４キロと出た。いままでで一番軽いのに、身体がでかく見えた。そして、さらに試合当日、仕上がりの良さを判断できるエピソードといえば、入場ゲートを登っていく直前のミルコの様子を見ていたときだったんですよ。

——どんな感じだったんですか?

今井　選手が入場するときって、コールを受けて入場テーマ曲が鳴り始めたあと、ゲートをくぐって階段を登っていくんですよ。そのゲートをくぐるタイミングっていうのは、演出のスタッフが音楽に合わせてキューを出してくれるわけですけど、ミルコが自信を持てないとき、ナーバスになってるときって、競馬で競走馬がなかなかゲートに入らないときと同じように、なかなか中に入らないんですよ。

——へ〜。戦場に向かう呼吸にならない、というか。

今井　ゲートの前でウロウロウロウロウロして、スタッフがいくら促してもなかなか入らない。それが今回はキューが出てすぐに僕と拳タッチをして、スッとゲートに入っていったんで「あ、今回は気持ちも乗ってるな」っていうのがわかりましたね。

——去年のヒョードル戦のときはどうだったんですか?

今井　なかなか入りませんでしたね。それはヒョードル戦だけじゃなく、ジョシュのときだってそうだし、ハントのときもなかなか入らなかったんですよ。

——逆に言うと、ハマッたときのミルコはホント凄いってことですね。

今井　『ｋａｍｉｐｒｏ』のインタビューでＴＫも言ってましたけど、針の穴に糸を通すような、いろんなピースがスッと収まるべき場所に収まってくれたのが、今回の決勝戦でしたね。

——そして今回、その心と身体がピタッとハマって、ついに優勝を成し遂げたわけですけど、あのミルコの涙っていうのはじつに感動的でしたね。

今井　あれは良かったですね。僕が言うのもなんですけど、ここ何年間の格闘技のシーンでもっとも感動的なシーンだったんじゃないですか?　２００３年に、魔裟斗がＫ－１ ＷＯＲＬＤ ＭＡＸで優

勝したときの涙にも僕は感動したんですが、それ以来ですね。

——ここまで〝溜め〟があっただけに。

今井　やっぱりここまで来るのにいろんなドラマがあり、多くの挫折がありながら、その挫折からあきらめずに何度も立ち上がってくるという生き様を見せつけられて、そしてその努力は必ず報われるということを、ミルコが証明してくれましたからね。そのへんは日本人の琴線に触れますよね。

——あのクールなミルコが感情を露わにしたことで、また人気が出るんじゃないですか？　WBCで熱いところを見せて人気がさらに爆発したイチローみたいに。

今井　そうかもしれないですね。でも、あいつの頑固なマイペースぶりも、最後までいかんなく発揮してましたけどね。表彰式でも「とにかく（クロアチア共和国軍ルチコ特殊部隊の）ルチコ大佐のTシャツが届くまで表彰式を引き伸ばしてくれ」とか言いだしてね（苦笑）。

——ああ、ベルト巻く前にTシャツ着ちゃってましたけど、あれですか。

今井　そう。（クロコップ・チームの）イゴールに「控室からすぐ取ってこい！」って言って、イゴールが走って取りにいったんだけど、なかなか戻ってこなくて、高田さんが表彰状を朗読してるのに、キョロキョロキョロキョロしちゃってね。「落ち着いて待ってろよ」っていくら言っても、「イゴールはまだ戻ってこないのか」の一点張り。

——なぜ、ミルコはそこまであのTシャツにこだわったんですか？

今井　それはやはり、ミルコにとっての自分のアイデンティティの象徴はPRIDEファイターであるという部分以外では、国会議員であることでもサッカー選手であることでもなく、クロアチア共和国軍ルチコ特殊部隊の一員であったというところにあるからですよ。

——あのTシャツがその証ですか。

今井　ミルコは少年時代をクロアチア人対セルビア人というユーゴスラビアの内戦という真っ暗な時代に過ごしてきて、その内戦のさなかのケガ・疾病が原因で自分のお父さんも亡くしているわけですよね。その内戦のときクロアチア共和国軍を何度もの戦闘において勝利に導いて、内戦の英雄になったのがルチコ大佐なんですよ。そのルチコが終戦後に特殊部隊を統括するルチコ部隊を組織して、そこで、特殊部隊員に格闘技を教えるという名目で入隊を許されたのが警察官だったミルコなんです。だから、クロアチア人としてのミルコにとって、ルチコ特殊部隊の一員であったということが、自分の中でもっとも誇れるアイデンティティだから、どうしても表彰式ではルチコ部隊のTシャツを着たかったんですよ。

——そんな意味があったんですか。

今井　そのTシャツがなかなかリングに届かないものだから、ウロウロしちゃってね。僕もあとで高田さんに謝りたかったです。それでベルトを巻く前にTシャツが届いて、ようやく落ち着いたんですよ。

——リングサイドのカメラマンは「裸に

ミルコがもっとも誇れるアイデンティティは
内戦の英雄ルチコ大佐の部隊の一員だったこと
だからあのTシャツを着ることにこだわったんです

ベルトの写真が撮れると思ってたのに、なんでTシャツ着ちゃうの？」って言ってましたけど（笑）、そんな意味のあるTシャツだったらしょうがないですね。

今井　そういう部分ではホントに頑固なんですよ。しかも、あの試合はクロアチアでも生中継されていたわけじゃないですか。だから、おそらくほとんどのクロアチア国民がこの瞬間を見ているであろう、と。そこで、隣人同士が殺し合った過去を乗り越えて勝ち取った祖国の独立、その陰で払われた膨大な犠牲、そしてクロアチアの明るい未来、そういう様々なメッセージを、ルチコ特殊部隊のTシャツを着て世界最強のベルトを受け取ることによって、クロアチア国民に伝えたかったのでしょう。ミルコはクロアチア人として、祖国のプライド、クロアチア人の尊厳のために闘ってきたという強い自負があるからなんですよね。また、いまのクロアチアが繁栄の入り口に立てることができたのも、祖国のために戦った人たちのおかげでもあり、その象徴がルチコ大佐であるということを、ミルコは伝えたかったんでしょう。僕も5年前くらいにルチコさんとは会わせてもらったことがあるんですけど、凄く雰囲気のある人で、ミルコは本当に尊敬してるんですよね。

——まだご存命なんですか？

今井　もちろん。だってユーゴスラビアの内戦ってほんの15年前のことですからね。当時は、セルビア人がすべてユーゴスラビアの軍の中枢を握っていて、クロアチアには自衛の軍隊もなかったんですよ。

——そんな状況だったんですか。

今井　クロアチア人はまったく防衛とか軍部に関わる役職・ポジションは与えられてなかった。そしてクロアチア人が「ユーゴスラビア連邦を離れて独立する」と宣言した直後に、セルビア人はすぐにクロアチアを武力で鎮圧しようと、連邦内のセルビアとクロアチアの境界線を突破して、一気に攻め込んできた。その国境の町が、ミルコの生まれ故郷であるビンコブチのプリブラーカ村だったわけです。自前の軍備を持たないクロアチアは、一気呵成にセルビア人に攻め込まれて、自分たちで身近にあるあらゆる武器を取り、立ち上がり、訓練されたセルビア兵にゲリラ戦を仕掛けるしかなかったわけです。そういう普段は大工や農業をやってるような人まで、戦闘に加わるしかなかった。そういう民間人の一人がミルコのお父さんだったんです。

——そして、そこで犠牲になった、と。

今井　そうですね。傷ついてまともに薬もないような病院で、手当ても満足に受けられずに、合併症を併発して亡くなってしまった。そのときミルコは多感な思春期ですから。そこで民兵を統率してクロアチア独立軍を組織して、セルビア軍にゲリラ戦を挑んで連戦連勝したルチコさんを心底尊敬していて、その思いをクロアチアの人々に見せたかったということですね。

——だから最後にマイクを持ったとき、クロアチア語の通訳はいないのに、まずはテレビの向こうのクロアチアの人々にクロアチア語で語りかけたわけですね。

今井　そうなんです。あそこで何を言っていたか簡単に言うと「あきらめずに努

ミルコはPRIDEのアメリカ進出に自分が重要な役目をはたすことをよくわかってますよ

力をしていけば必ず手に入るものはある」っていうニュアンスのことを言って。「挫折したときでもずっと自分の周りにいてくれる人間というのが本当に大切な人なんだ。その大切な人たち、一人一人に感謝したいから、ここで全員の名前を呼ぶことにするよ」って言って、ズラーッと名前を言ってたんです。そして、最後に「ここに父親がいないことだけが残念だ、このベルトを亡くなった父に捧げたい」ということを言ってましたね。そのあと、英語になったらホントに簡単なスピーチしかしませんでしたけど（笑）。

——そういう話を聞くと、あのときの感動がさらに深まりますね。ミルコがベルトを巻いた瞬間というのは、今井さんも最高の気持ちでしたか？

今井　ただ、ひたすら肩の荷が下りたような気持ちでしたね。もう、いつ格闘技界から身を引いても悔いはないなと思いました。実際に今回、ベルトを獲れると思っていたかといったら、正直、僕も思ってませんでした。ヴァンダレイには勝つと信じてましたけど、二試合連続1ラウンドKO勝ちとは思ってませんでしたね。

——では、ミルコのポテンシャルというのは、ずっとそばで見てきた今井さんが考えていた以上だったということですね。

今井　そうですね。もちろんトーナメント・ラックというのも味方してくれたとは思いますけど、今回の調整、自分でここまでピークにもってきたということは僕の予想以上でした。

——そして、ミルコの物語はさらに続くわけですけど、次の闘いというのはもう考えていますか？

今井　試合が終わってからミルコとゆっくり話しましたけど、まず「（10月の）ラスベガスは基本的に無理だ」と。「この足を見ろ」と言ってましたね。

——左足はやっぱり腫れてましたね。やっぱりケガが治っていない中、もう後先を考えずに、痛み止めを打ちながらおもいきり蹴っていたわけですからね。

今井　腫れてましたね。ヴァンダレイは、ヒジでミドルをガードしてもいましたし。そしてその場は「とりあえずドクター・ブーチャンに診てもらってから考えよう」という話でクロアチアに帰したんです。そして日本を発つ前、「しばらく試合のことは考えなくていいか？」って言うから、「いいよ。おまえがこのまま引退してくれるって言ったらホントに楽になるから」とか言ってね（笑）。

——まぁ、ミルコはちょっと休んだほうがいいでしょうね。

今井　ところが12日の火曜日に日本を発って、今日は16日、土曜日でしょう。まだ4日しか経ってないのに今日、ミルコから電話があって「ケン、10オンスのグローブ6セットと、ミドルを蹴ってもスパーリングパートナーが痛まないように脇腹をガードするようなベストを送ってくれ」って言うんですよ。

——メチャクチャやる気じゃないですか！

今井　僕も「え、もう動くの？」って言ったら、「とにかく早く送ってくれ」とだけ言うんですよね。

——気持ちがムズムズしてきたということですか？

今井　なんとなく、休むっていうことをしたくないのか、いい闘い方で勝てたから、この状態で試合をしないのはもったいないって気持ちがくすぶっているのか、ハッキリとはわかりませんが……。こうなると土壇場で「ベガスに出る」って言いだしかねないけれど、もちろんそれは休ませてから決めることですけどね。4日しか経ってないのに、もう「10オンスのグローブを6セット」って言ってくるわけですからね。

——ミルコにとってもアメリカで成功するというのは、やっぱり夢なんですか？

今井　それはもちろんありますよね。日本だけじゃなく、アメリカも制してこそ、世界制覇と言えるというか。そして自分が『PRIDE』のアメリカ進出で重要な役目をはたすということも、よくわかってますからね。

——ミルコみたいなタイプはアメリカで受けるんじゃないですか？

今井　受けると思いますよ。僕がこのあいだハワイに行ったとき、FOXスポーツの高視聴率番組である「ベスト・ダム・スポーツ・ショウ」を観ていたら、過去のボクシングやMMAのノックアウトシーンを集めた「ベスト・ダム・50ビートダウン」っていう「ベストノックアウト番付50」みたいな企画をやってたんですよ。そこでなんと、ミルコvsボブチャンチンが堂々の1位でしたからね。

——そうなんですか！

今井　チャック（・リデル）がティト（・オーティズ）をKOしたシーンが3位で、2位はマイク・タイソンの試合だったんだけど、1位として紹介されたのは、ビックリしましたね。

——やっぱりハイキックというのがインパクトがあるんですかね？

今井　そうみたいですね。アメリカ人ってカンフーとか好きじゃないですか？　だからギルバート・アイブルがグッドリッジをハイキックでKOした試合も上位に入ってましたしね。

——なるほど。じゃあ、来年はミルコがアメリカで大ブレイクする年になるかもしれないですね。

今井　ミルコ本人もやる気になってるし、自分が『PRIDE』の顔として、主役になるつもりですから。だから10月のラスベガスに間に合わなければ、大晦日に試合をして、2007年はアメリカで試合をすることになるでしょう。ヴァンダレイの代わりにオクタゴンに登場することだって充分ありえるということです。今後のミルコにも期待してやってください。

【06年9月16日／都内某所にて収録】

念願のPRIDEチャンピオンベルトを手にし、控室で歓喜の記念撮影に収まったクロコップ・チーム。このミルコの勝利は、チーム全体の勝利と言ってもいいだろう。

MIRKO CRO COP

ジョシュも心酔するリビング・レジェンドが熱弁!

"キャッチ・アズ・キャッチ・キャン"伝承者

ビル・ロビンソンが見た ジョシュVSノゲイラ

互いのバックボーンであるキャッチレスリングと柔術の優位性をめぐり戦前から舌戦を繰り広げていたジョシュとノゲイラ。9.10 GP準決勝で激突した両者の一戦は期待どおりの名勝負に。結果はもちろん、柔術マジシャンを極めかけたジョシュのキャッチテクニックも一際注目を浴びるかたちに。そこで"キャッチ"といえばこの人、蛇の穴出身でジョシュとも親交のあるロビンソン先生の登場です!

聞き手/松澤チョロ　撮影/平工幸雄
試合撮影/乾晋也、平専英　designed by matsu (TwoThree)

最後のヒザ十字はタイムリミットがなければ極まっていた可能性が高い

——今回、『PRIDE無差別級GP』でロビンソン先生を慕っているジョシュ・バーネット選手が準決勝戦でノゲイラ選手と対戦して、戦前からアピールしていたキャッチレスリングvs柔術に勝利を収めたかたちになったわけですが、実際にその試合を観た感想を聞かせてもらえればと思っています。

ロビンソン　わかった。まず最初に言いたいのは、二人ともコンディションもいいし、強いファイターだということ。この試合のジョシュに関して言えば、1ラウンドの後半と、2ラウンドの最後にヒザ十字固めを極めたところは本来ならジョシュがそのまま勝ったかもしれない場面だった。

——最後のヒザ十字はノゲイラ選手も苦しそうな表情でしたが、惜しくもタイムアップとなってしまいました。

ロビンソン　本当のオールドスタイルのプロレスリングというのはタイムリミットというのはなかったんだよ。

——常に時間無制限だったわけですね。

ロビンソン　そう。あのヒザ十字はタイムリミットがなければ極まっていた可能性が高い。それと1ラウンドの後半にノゲイラの頭を固定して腕を持っていた場面があったが、あのままの状態をキープできていれば勝っていたであろうポジションになっていた。そういう意味では、古いプロレスリングの観点から見た場合、タイムリミットがなければと思うシーンが二度あったね。

——『PRIDE』に限らず、最近の総合格闘技の試合は必ず時間制限がありますからね。

ロビンソン　そうだね。試合の話に戻るが、ノゲイラに代表されるようにマットに背中をつけて相手を受けるというスタイルは、もともとは柔道や柔術のスタイルであると思う。ただ、ノゲイラが要所要所で見せているバックへの回り方やいくつかのテクニックはレスリングから由来しているものも多くあったと思う。

——ノゲイラ選手は決して柔術のテクニックだけではなく、レスリングのテクニックも体得していると?

ロビンソン　そういうことだね。ノゲイラは柔術、そしてジョシュはキャッチレスリングがバックボーンと言いながらも、互いにミックスされた技術を使っていると言えるだろう。

——『PRIDE』のトップファイターともなれば様々なテクニックを持っていなければ通用しないでしょうね。

ロビンソン　そういうことではなく、100年ほど前ぐらいにも柔道や柔術の選手たちがヨーロッパやアメリカでもプロレスラーに挑戦してきたものだが、そのときは彼らは負けているんだ。ここ最近のようなプロレスラーが負けがこんでいるという状況ではなかった。だから、その時代に彼ら柔術の人間たちがキャッチレスリングの技術を相当取り入れたのは間違いないんだよ。

戦前から"柔術"vs"キャッチレスリング"ということで盛り上がりを見せていたノゲイラvsジョシュ。ジョシュが攻めあぐねていると、首をかしげ顔をしかめるシーンも。

——最近の総合格闘技の試合ではプロレスラーはなかなか結果が出せていないのが現状ですからね。ロビンソン先生的には、それが歯がゆいわけですね?

ロビンソン　だいたい、ダブルリストロックやレッグロックであるとか柔術家が使っている多くのテクニックというのは、彼らが古くからあったキャッチ・アズ・キャッチ・キャン（一説には500年前とも1000年前とも言われる）から学んだものもたくさんあるんだよ。

——それぐらいキャッチ・アズ・キャッチ・キャンは歴史が古いわけですね。

ロビンソン　そういうことだ。

——ジョシュ選手が1ラウンドで極めたチョークは、それこそキャッチ・アズ・キャッチ・キャンから伝わる技なんじゃないかという声も出ているんですが?

ロビンソン　もちろん、あの技もキャッチ・アズ・キャッチ・キャンの技術ではあるけれども、昔はグローブは着けていなかったから感覚は若干違うと思う。

——キャッチ・アズ・キャッチ・キャンは基本的に素手での闘いだったわけですね。

ロビンソン　当時もいろんなルールがあったんだが、その中で、たとえば殴っていいという状況だとしても、キャッチ・アズ・キャッチ・キャンでは殴るという方法で、あまり拳は使わなかったんだ。

——それはどうしてなんですか?

ロビンソン　なぜなら、指とか拳というのは意外と弱いもので、強いパンチを打つと簡単に骨折したり痛めてしまうものなんだよ。だから、手のひらの、いわゆる掌底、そしてヒジ。この二つがキャッチ・アズ・キャッチ・キャンの打撃の武器だったんだ。

——UWFではないですけど、100年も前から掌底が有効に使われていたわけですね。

ロビンソン　そういうことになるね。だから、先ほどのジョシュの技も、当時はいまのようにグローブを着けるということはなかったので、たとえ同じ技であっても、その状況は違うということはわかってもらいたい。

——グローブを着けることによって打撃だけではなく、サブミッションでも微妙な違いが当然出てくるでしょうからね。

ロビンソン　そういうことだ。ちょっと立ってみなさい。

——エッ!? も、もしかしてジョシュ選手のチョークの再現ですか?

ロビンソン　心配するな。そんなにキツくはやらないよ（と言って、聞き手のチョロをチョークで絞め上げる）。

——ググググゥワァッ（声にならず必死にロビンソン先生の身体を叩いてタップ）。

ロビンソン　いまのがジョシュがやったチョークを素手でやった場合だ。次はグローブを着けた場合（再び、チョークで絞め上げる）。

——ウウウググッ！（またしても声にならず身体を叩きタップをアピール）。

ロビンソン　グローブがあることによって角度も絞め方も変わってくるんだ。最初のチョークはアゴを極めた。そのあとのチョークはグローブの厚みも計算して極めたんだが、本当ならあの体勢からスープレックスに移行することも可能さ。

——あのままスープレックスにいったら、フロントネックチャンスリーのような感じになりますね。

ロビンソン　ジョシュができるんであればの話だがね（笑）。まあ、ジョシュも

Bill Robinson

本物のキャッチレスリングを教えられるのは私とゴッチの二人だろうな

いいプロレスラーだが、60年、80年、100年とさかのぼると、必ずしもトップレスラーだったとは言えないかもしれないよ（笑）。それぐらい、いまのプロレスというものと100年以上前のプロレスとは違うものなんだ。多くの柔術家たちも、そういう時代にさかのぼれば、いまの時代のプロレスラーと名乗っている人たちと闘うようにはいかないということはわかっておいてほしい。

——それぐらい当時のプロレスラーは強かったわけですね？

ロビンソン　そういうことだ。たしかに、キャッチ・アズ・キャッチ・キャンの古いスタイルというのは、いまのジャッジがいたり、判定があったりというスタイルとは違う。長い歴史の中でプロレスだけでなく、アマチュアレスリング、オリンピックのレスリングでさえもショー的になっていったり、テレビ中継や観客に合わせて試合時間が短くなったり、いろんな要素があって、いまのようなルールになったと言えるだろう。

——テレビ中継や観客の影響は大きいでしょうね。

ロビンソン　決して闘う者のためではなく、見せるためにそうなってきたと言えるだろう。そういう意味では、昔とは試合のシステムも社会の状況も違うので一概には言えないが、当時多くあった様々なバリエーションの投げ技、危険な投げもたくさんあったんだが、いまはそれも見られなくなってきている。

——たしかに総合ルールの試合では投げ技はそれほど見られないですよね。

ロビンソン　ルールは関係ない。ただ、時代とともに多くのテクニックが失なわれているのは間違いないんだよ。一つ例を挙げると、最近の試合でスタンドでお互いに差し合って膠着する場面が多く見られるじゃないか。

——そういうシーンはよく見かけます。

ロビンソン　昔、イギリスにあったカンバーランド・ウエストモーランドスタイルの一流選手たちに、あの体勢にさせたら一瞬のうちに相手をひっくり返してしまうだろうね。それは間違いない！

——へぇ〜、それは凄いですね！

ロビンソン　古くのキャッチ・アズ・キャッチ・キャンの選手たちは、そういったスタイルも勉強していたから、試合でもそのテクニックを見せられたが、いまは残念ながらそういったテクニックが失なわれてしまったように感じる。ああいった体勢になると、互いに攻めあぐねてしまうだろう？

——たしかにそうですね。ジョシュ選手はロビンソン先生を尊敬していて、日本に来ると、こちらのジムで学んだりしているとのことですが、どういった評価をされてます？

ロビンソン　ジョシュは攻めも守りも非常にいいものを持っているし、サブミッションも素晴らしいと思う。ただ、これはジョシュに限ったことではないが、『PRIDE』などで活躍する、いまの時代のトップファイターと言われる選手は、プロレスがショー的になってきた1930年以降、そのあいだに失なってしまったテクニックというのがあまりにも多すぎると感じる。本来、もっともっと技術的な幅はあるものなんだ。いまはサブミッションに目を奪われがちだが、サブミッションだけでなく、そこに至るまでのプロセスなど、もっともっとキャッチ・アズ・キャッチ・キャンにはあるということを忘れないでもらいたい。

——そういう部分でも、これからのジョシュ選手に期待する部分は大きいわけですね。

ロビンソン　もちろん、彼には期待しているよ。

——ただ、残念なことに、いま現在、本当の意味での〝キャッチレスリング〟を教えられるのはロビンソン先生だけなんですよね。

ロビンソン　まあ、私と（カール・）ゴッチの二人だろうな。イギリスに当時一緒にやっていたデンプシーという人がいるんだが、彼も80歳を超えてしまった。実際に指導できるのは私だけかも知れないね。

——ジョシュ選手は「日本は柔術の道場は増えてきているけど、唯一、キャッチレスリングを学べる場所が高円寺にあるのに、なぜ、もっとたくさんの人間が習いに行かないんだ」と嘆いてました（笑）。

ロビンソン　ハッハッハッハッ。そういうジョシュも最近あまり来なくなったな。キッすぎるのかな（笑）。

——可愛い弟子みたいな感じなんですね（笑）。

ロビンソン　来日のたびに必ず連絡をくれるし、このあいだはレスリングシューズをプレゼントしてくれたよ（ニッコリ）。

——素晴らしい弟子ですね。話は戻りますが、先ほど言っていたテクニックが失なわれてきているというのは、何か具体的に原因でもあるんでしょうか？

ロビンソン　それは簡単だよ。ここ数十年はプロモーターたちが常に見せるもの、あるいはテレビのショーとしてルールを作ってるからさ。そうなると試合時間もドンドン短くなる。限られた時間の中でよりエキサイティングなものにしようと考えているからテクニックがおろそかになってくる。アマレスもいまでは1ラウンド2分とかになってしまったからな。

——アマチュアレスリングもドンドン試合時間が短くなってるみたいですね。

ロビンソン　そうなると、やはりテクニックよりもパワーを持った者が優勢になってしまう。

——はぁ〜、そういうことですか。

ロビンソン　たとえばの話だが、体重が20キロ、30キロ違ったとしよう。いまのルールのように1ラウンド5分や10分だと、厳しい闘いになるのは間違いない。しかし、それが30分、40分、1時間の試合時間になったらどう思う？

——短い試合時間よりも、体重の軽い選手にも勝機は出てくると思います。

ロビンソン　そういうことだ。ただし、テクニックが優れていればだけども。ホントに技術を持った70キロの人間であれば100キロの相手でも、それだけの時間があれば倒せるかもしれない。だが、いまのルールではそれは難しいと言わざるを得ない。それはオリンピックでも言えるだろう。

——オリンピックも、ある意味、プロのようなところがありますからね。

ロビンソン　そうだね。ちなみに1924年、レスリングのヘビー級の決勝戦、金メダルを争う試合がどれだけ時間がかかったかわかるかな？

——う〜ん、ヘビー級なら、90分ぐらいでしょうか？

ロビンソン　（大きく首を振って）12時間20分だよ（笑）。

——オリンピックの決勝戦が12時間以上！

ロビンソン　アマチュアの記録でだぞ。その試合があったために次の年からは1

ジョシュが見せたスタンドでのチョークを聞き手のチョロ相手に実演するロビンソン先生。ちなみに「素手で人を殺す場合に使う技は？」と聞くと、いきなり鼻っぱしに掌底、さらにバックからチョークで絞め上げ、なぜかニッコリ。こわッ！

現在のトップのキャッチレスラーを一人挙げろというなら桜庭だな

時間というリミットが設けられたのさ。

——さすがに12時間も闘うとなると、やる側はもちろんですけど、見る側も相当大変ですよね（笑）。

ロビンソン　私自身がアマチュアレスリングをやった時代はトータル15分のルールになっていた。

——リミット1時間から、さらに短くなってきてるわけですね。

ロビンソン　それもレスリングのためというより、見せるもの、あるいは競技をスムーズに進行するためのルール改訂なんだよ。闘いのために試合時間が設定されたという歴史ではないんだ。だから、プロもアマもいかに変わってきたかということを知っておいてもらいたい。100年前のレスリングがどういうものだったかというのは、いまはハッキリ言っていろんなものが失なわれすぎてしまって、言葉では説明しきれないというのが正直なところだ。

——どれだけ昔のレスリングが凄かったか逆に幻想が湧きますね。

ロビンソン　幻想ではなく、すべてが真実さ。

——ジョシュ選手が言っていたのは最近肌を合わせた選手でキャッチレスリングを体得していると感じたのは、桜庭和志選手、田村潔司選手、美濃輪育久選手ぐらいと言っていたんですが、それについてはどう思いますか？

ロビンソン　ジョシュはキャッチレスラーと言えるだろうし、桜庭、田村もそう言えると思う。あとは猪木の弟子の藤田（和之）もそうだな。まあ、現在のトップのキャッチレスラーを一人挙げろというなら桜庭だな。

——ロビンソン先生は以前から桜庭選手は評価が高いですよね。

ロビンソン　そうだね。残念ながら認められるのは、いま挙げた選手ぐらいかな。

——藤田選手はどういった面を評価されているのですか？

ロビンソン　藤田のテクニック面に関しては物足りない部分もあるが、いくつかのサブミッションを知っていると思うし、あのハートの強さは素晴らしいと思う。

——たしかに、シウバ戦をはじめ藤田選手のハートの強さはボクら素人でも感じますからね。

ロビンソン　ビリー・ライレーも言っていたよ。カール・ゴッチに関しては「テクニックは決して優れているとは言えないけど、彼は強い力と、そしてハートを持ってる」と。藤田とゴッチを比べるわけにはいかないが、そういう意味で藤田もいまの時代の中ではキャッチレスラーと言っていいだろう。

——著書のほうでも田村選手と桜庭選手を比較していましたが、田村選手は身体能力の高さでレスリングをやっている部分があると書かれてましたよね。

ロビンソン　二人ともプロレスラーとしては素晴らしいと思う。誤解しないで聞いてもらいたいが、もし二人が10回闘ったとしたら、6対4で桜庭が勝つかなと私は思うね。

——それは具体的に何か理由でも？

ロビンソン　田村に関して言えば、彼は非常に危険なレスラーだと思う。彼は様々な動きをする中で、一瞬のひらめきやナチュラルな動きで切り返したりするんだ。その点はたしかに予測しづらい。桜庭は基本に忠実というか、レスリングの定石にかなった理詰めな闘い方をするイメージが私には強い。

——桜庭選手はトリッキーな闘い方をするというイメージを持っている人もいるでしょうけど、本質的には理詰めな闘い方をすると。

ロビンソン　そうだね。彼の闘いぶりは一見、素人目にはトリッキーな動きに映るかも知れないが、すべて非常に理詰めというか、レスリングの基本からブレていないんだよ。先ほど6対4で桜庭と言ったが、それはあくまでも以前のイメージで、いま現在の二人のコンディションなどはわからないので、あまり気にしないでほしいし、もしかしたら、まったく私の予想と逆になるかもしれない（笑）。

——いま名前が挙がった田村選手、桜庭選手、そして藤田選手は同世代で年齢的に35歳を超えているわけですが、ロビンソン先生から見たプロレスラーのベストコンディションはいくつぐらいだと思われます？

ロビンソン　力だけに頼ったパワーレスラーは30代になるとダメになる選手も多いだろう。テクニックを持ったレスラーでも38歳ぐらいから厳しくなると思う。あとはコンディションや体力的な問題もあるだろうが、40代でも優れた技術と知識があれば充分闘っていけるはずだ。

——ロビンソン先生は、いまでもお元気ですけど、自分の全盛期はいつぐらいだと思ってますか？

ロビンソン　私は36歳ぐらいのときが一番グッドコンディションだったね。

——それぐらいのときは誰と闘っても負けないという自信もあったんじゃないですか？

ロビンソン　もちろんだよ（ニッコリ）。

——そんなロビンソン先生から本物の"キャッチレスリング"を学びたい方はぜひ、高円寺まで足を運んでください！　今日はありがとうございました!!

【9月19日／日本で唯一本物の"キャッチレスリング"が学べる都内・高円寺の『ＵＷＦスネークピット・ジャパン』にて収録】

Bill Robinson■1938年9月18日生まれ、イギリス・マンチェスター出身。ちっちゃな頃からボクシングとレスリングに打ち込み、15歳のときに蛇の穴（スネークピット）と怖れられた「ビリー・ライレー・ジム」に入門。アマチュアレスリングで数々のタイトルを獲得したのちプロデビュー。日本では国際プロレスに初来日。その後、新日本プロレスでアントニオ猪木との歴史に残る名勝負を繰り広げると、1976年からは全日本プロレスで活躍。1992年からはUWFインターナショナルの専任コーチとして選手を指導。1999年4月、U.W.F.スネークピットジャパン発足とともにヘッドコーチに就任し、来日。現在は代表の宮戸優光、打撃コーチの大江慎とともに日々指導を行なっている。キミも地球上で唯一"本物のプロレスリング"が習えるスネークピットで強くなれッ!

そこまでして闘うか⁉
超壮絶！ ミルコ戦の裏側——‼

リンゴをかじっていたヴァンダレイ

総合格闘技史上に残るスーパーバウトになった、ミルコ・クロコップvsヴァンダレイ・シウバ!! 見事に討ち取ったミルコもアッパレだが、負傷してなお退かないヴァンダレイの〝PRIDE魂〟に心を打たれたファンも多かっただろう。〝PRIDEとは何か？〟を全身で表現したヴァンダレイ。その至近距離からの真実をブッカーKこと川﨑浩市氏はこう見た!!

文／川﨑浩市（シュートボクセ・エージェント）
構成／ジャン斉藤　撮影／乾晋也、山口比佐夫、平専英
designed by matsu (TwoThree)

「……いいから、やらせてくれ!」

右目を腫らしたヴァンダレイ・シウバがカットによる二回目のドクターチェックを受けていたとき、少し時間がかかっていたので、私はその場へ立会いに向かいました。慌ただしく傷口を確認するドクター、続行か否かを審議する大会関係者やセコンド。そして――ヴァンダレイはそれらの声や動きを打ち消すように、「いいから、やらせてくれ!」と一点張り。

ヴァンダレイの師にして、シュートボクセのフジマール会長の答えもそれは同じでした。

「闘える、闘える、闘える! ヴァンダレイはまだ大丈夫だ!」

フジマール会長の檄にコクリとうなずく、ヴァンダレイ。

「少しでも身体が動いてる以上、絶対に試合を捨てない! 一発のパンチでも入れば逆転できる可能性がある限り闘う!!」という彼らの当然の選択、決断、生き様。のちの診断で、ヴァンダレイの右目の眼窩底にはヒビが入っていたことがわかった。しかるに、あのドクターチェックの際、試合を止められてもおかしくない状態だった。いや、自らの判断であのまま〝ドクターストップ〟で試合が終わらせることもありえました。

事実、試合後、フジマール会長はあのまま試合を続行させたことが正しかったのかどうか自問自答しており、イベントの責任者にあのとき興奮してしまったことを謝っていました。

しかし――「……俺は『PRIDE』のために死ねる!」

試合前に煽り映像でも流れていたとおり、まさしく『PRIDE』の殉じようとするヴァンダレイの信念が、その決着を許さなかったのでしょう。

ドクターチェックを終え、「試合を再開いたします!」というアナウンスを受け、一斉に盛り上がる観客たち。声援を一身に浴びて、ヴァンダレイは右目を腫らしたまま、ミルコ・クロコップの間合いに恐れることなく、一撃必殺の右フックを放つために猛然と前に出ました。

右目が塞がっているわけですから、ヴァンダレイほどの技術があれば、判定に持ち込む戦術スタイルで闘うことも可能だったでしょう。しかし、ヴァンダレイの信念が彼の右拳を突き動かした。

もし無難に判定で試合を終えていれば、次のドクターストップで終わっていれば、ノゲイラvsジョシュ戦もあれほど盛り上がらなかったのではないでしょうか。今回の無差別級GPのなかでヴァンダレイの果たした役割はとてつもなく大きかったと、身内贔屓と思われようと私は強く感じています。

さることながら、当人のヴァンダレイはそれほど充実感はなかったようです。試合早々に目に浴びてしまったミルコの右ストレート。その負傷によって自分の持つ実力を充分に発揮できなかった悔しさがあった。だから試合翌日の早朝7時、ヴァンダレイはさかんに「ミスター・サカキバラに会いたい」と繰り返し口にして、私を困らせました。もうブラジルへ帰国するためにホテルをチェックアウトしないといけない。コンタクトを取りたいが、時刻は早朝――。

しかし、ヴァンダレイは幸運でした。榊原代表と話すことができた。榊原代表からホテル出発直前に電話をいただき、ヴァンダレイはこう言いました。

「思うようなファイトができなくて、本当に申し訳ない。これからまた血のにじむようなトレーニングをして、次の試合にはかならず最高のファイトをする!」

感嘆と賞賛の声を送る選手、大会関係者たちを尻目に、ヴァンダレイの燃え盛る闘争心、現状に満足しない姿勢。フジマール会長は感激の声を挙げました。

「カワサキ、やはりヴァンダレイはシュートボクセの最高傑作。それは疑いようのない事実だ!」

シュートボクセの選手やセコンドたちは、ヴァンダレイの敗北に対するショックをかなり受けていました。サイボーグは西島選手に、ショーグンはザ・スネーク相手に見事な勝利を収めましたが、ヴァンダレイはシュートボクセの象徴的な存在。チームメイトにとって特別な選手なのです。しかし、一つ確かに言えることは、チームのみんなはあの試合を誇りに思っているということです――。

そういえば、試合後、ヴァンダレイは控室で残りの試合をモニターで観戦していました。チームメイトであるショーグンが勝利し、私と一緒に控室に引き上げてくると、ヴァンダレイはなぜか赤いリンゴを丸かじりしていました。先ほどまでの死闘とのギャップに、不思議なおかしさが込み上げてきた。と同時に、ああ、リンゴを丸かじる姿がおかしく思えるほど、彼はほんの数時間前に想像を絶することをやってきた、そして彼には闘い続ける運命があることを感じました。

私は「ヴァンダレイ、おまえはやっぱりチャンピオンだったよ!」と声をかけると、ヴァンダレイはリンゴをかじったまま、私の声に反応したのでした。

神々の闘いには“投げっぱなし”がよく似合う

“人知を超えた”PRIDE無差別級GP決勝大総括

ハンカチ王子を通して
マット界を考える

座談会

構成／ジャン斉藤、真下義之

designed by Tani-yan(Two Three)

ジャン斉藤（以下ジャン）　……というわけで、原さんの○○○○との合コン失敗話はともかくですね。
原タコヤキ君（以下タコ）　そうそう、あれはもうちょっとで……ってオい！　そんな中途半端な出だしやと、おもいきり誤解されるやろ‼
堀江ガンツ（以下ガンツ）　ちゃんと説明しても誤解されると思いますけどね（笑）。
ジャン　まあ、大丈夫ですよ。伏せ字にしますし、それに原さんはこれくらいでオタつく小物じゃないはずですしねえ。
タコ　まあそうなんやけど（照れ）。でも、な～んか、いいように騙されてる気がすんなあ……。
ジャン　そんな原さんには申し訳ないですけど、今回の『PRIDE無差別級GP』座談会は、むさ苦しい男ばかりで語ろうと。
タコ　いつもむさ苦しい男ばっかやん（苦笑）。
ジャン（無視して）まず元ローライズを自称する橋本さんに語っていただきましょう。決勝大会はどうでした？
橋本宗洋（以下橋本）　とにかくGP3試合のおもしろさといったらなかったよねえ。
ガンツ　それと同時に一部ワンマッチのつまらなさといったらなかったけどね（笑）。
ジャン　まあ〝愛〟vs〝KISS〟はともかく、モラエスvsイ・テヒョンのグダグダぶりはGPとは逆の意味で奇跡的でしたよ！　あんなの、やろうと思ってもできない（笑）。数年後には「あんときはいいモン観たなあ……」って振り返れると思うんですけどねえ。
橋本　勝手に振り返ってろ（笑）。GPなんてさ、普通だったら「トーナメント形式の闘いは、一回戦は怪我をしないことが重要」とか言われるけど、誰もそんなこと意識して闘ってなかったでしょ。4人ともそれぞれの持ち味を出しまくりで、なおかつそれをあのハイレベルなメンバーの中でやっている。それってどういうこと？（笑）。感動しながら不思議に思っちゃった。
スーパーストロングX（以下X）　ジョシュとノゲイラにしても、あそこまでスイングするとは思わなかったよね。
橋本　ノゲイラ相手に足関取りにいくジョシュとかさあ、本当にビックリ！
ガンツ　我らがコピィロフおじさんの姿がオーバーラップしたよ（笑）。
ジャン　つまり、〝馬鹿〟ってことですね（笑）。
橋本　でも実際、翌日のジョシュインタビューで「あの足の取り合いはアンドレイ・コピィロフvsヴォルク・ハンみたいでしたねえ」って聞いたら、ジョシュは通訳を待たずに「イエス！」って吠えてたから（笑）。
ガンツ　マニアだねぇ（笑）。ただ、あんなスーパーベストバウトをイベントの頭で連発されたら、そのあと、どんな選手がワンマッチに出ても沸かないのは無理ないね。
橋本　冷静に観たら、アレキvsハリトーノフやスネークvsショーグンって、そんなにつまらない試合じゃなかった。だけどGPを前にすると、かすんじゃうんだよね。
ガンツ　もう観る側もスイッチが入らないでしょう。前回のGPセカンドラウンドのとき〝怪物たちの宴〟ってコピーを打ったけど、今回はさしずめ〝神々の闘い〟だったから。怪物が神に昇華したよ。
タコ　そういえば、ミルコが優勝してベルトを巻いたとき、俺の隣でガンツが手ぇちぎれるかってぐらい拍手してたわ。こんな嬉しそうなガンツは見たことがないよ（笑）。
ガンツ　嬉しそうっていうか、あれは「もう参りました！」っていう、スタンディング・オベーションで拍手したんですよ。
ジャン　そのほかのワンマッチとGP3試合の決定的な違いっていうのはなんなんですかね。
ガンツ　「ハイレベル」の一言じゃ、あまりに言葉足らずだよね。
橋本　普通さ、実力が拮抗してる者同士の闘いだったら、それこそカズvs中尾戦みたいになるんだよ。格闘技ってそういう面があるから。カズは「こりゃテイクダウンは難しいな」って思ったから打撃で攻めたけど、打撃もそんなに決め手を持っているわけじゃないから、ズルズル判定まで流れたでしょ。格闘技ってもんは、そうやって〝可能性の潰し合い〟になるんだよね。
X　ところが、橋本くんが言ったんだけど、ノゲイラvsジョシュなんて、リアルファイトの〝カウント2・9プロレス〟だったわけじゃない。
橋本　「またジョシュが返したよ！」っていう。プロレス会場との違いは〝重低音ストンピング攻撃〟がなかったぐらいで（笑）。
ガンツ　なつかしいな、あの頃が（遠い目で）。
タコ　プロレスファン時代を回想するんじゃない！（笑）。
橋本　で、俺が思ったのは、〝投げっぱなし〟というか、なりゆきまかせにしたのがうまくいったんじゃないかって。今回はほら、主催者の思惑どおりに盛り上がったものって一個もないんじゃない？　ミルコ優勝に関しては多少、思惑どおりってところがあるかもしれないけど。
X　ミルコが勝ってドラマチックなエンディングになったけど、あのクオリティなら誰が優勝しても、盛り上がっただろうしね。そこも〝投げっぱなし〟か。
橋本　GP開幕戦の直前は正直言って「ヒョードルも出ないし、盛り上がんのかなあ」って感じだった。
ガンツ　もっと正直に言っちゃうと、〝企画倒れ臭〟がぷんぷん漂ってたよね（笑）。
ジャン　それは正直すぎます（笑）。
橋本　藤田vsトンプソンにしても、最初は大晦日にプランされてたカードだったんでしょ。「GP前に一回肩慣らししてみて……」みたいな。そんなカードを開幕戦でやったら、あんなに盛り上がった。ハントvsTKにしても微妙なマッチメイクだなって思っていたら、大感動を呼んだわけだし。
ジャン　美濃輪育久vsミルコも、主催者の思いどおりに〝ヘヴン〟は炸裂しなかったという（笑）。
橋本　俺の思いどおりにもいかなかったよ……（ガックリ）。
ガンツ　いちおう美濃輪は〝肉のカーテン〟は披露してたんだけど

座談会出席者

橋本宗洋
日本最重量級フリーライター。『格闘技通信』でアルバイト後、『SRS-DX』編集部で、編集長の谷川貞治氏からサダハルンバイズムの洗礼を受ける。同誌休刊後はフリーとして本誌で活躍。K－1、『PRIDE』からキックボクシングまでを分け隔てなくカバー。仕事と休暇を兼ねて訪れたタイ滞在中になんとクーデター発生！　ショックで激ヤセしたとの怪情報。

スーパーストロングX
正体不明、神出鬼没の覆面格闘業界通ライター。大学在学中から業界に出入りし、某有名出版社に勤務したあとフリーライターとして独立。格闘技の表舞台＆裏舞台を知り尽くした、その情報ネットワークの速さ、濃さ、正確さとフットワークの軽さは暴露専門誌も顔負け。幅広いコネクションで様々なメディアにリンクしつつ、絶賛暗躍中。

原タコヤキ君
引き続き、自転車に夢中な“タコ兄さん”こと、版型が小さい頃の元『紙のプロレス』編集者。現在は東京で音楽関係の仕事に従事するも『kamipro』OBとして、座談会出席者として、そして松澤チョロの後見人として「まいど！」とたびたび登場。マット界から一歩離れたいち格闘ファンとして等身大のスタンスを保ちつつ、なめらかな大阪弁が冴え渡る。

堀江ガンツ
『kamipro』編集部の編集若頭。熱狂的かつ変態的なUWF信者～リングスファンを経て業界入り。現在は『PRIDE』を中心にミルコ番、ノゲイラ番、所くん番などで絶賛活躍中。血中UWF度が濃縮＆凝縮され、『PRIDE』を通過した果ての俺イズムからくる、ブレのない格闘論には定評がある。アルコールが入ると、いろいろな意味で手がつけられない。

ジャン斉藤
『kamipro』編集部、冷酷の進行役。“雀鬼”こと桜井章一の内弟子という、異色経歴を経てダブルクロス入り。アントンの永久電機情報整理をライフワークとし、まだまだ『INOKI GENOME』の開催と猪木寛子さんのリング登場を待ちこがれる生粋のドタバタ破綻興行系マニア。最近は「熱さまシート」を欠かせず、額に貼りつけたまま代々木界隈を徘徊。

ハンカチ王子を通してマット界を考える
座談会

ね（笑）。
橋本　で、ジョシュの予想以上のブレイクがあり、ヒョードル欠場を受けて急遽手を挙げたヴァンダレイが二試合連続で死闘をやってのけた。あらゆるものが人知を超えたというか、狙ってないところで盛り上がったという。
ガンツ　終わってみたら史上最高のGPでしょう。もう一回戦のTKと藤田和之が年間ベストバウト級の試合をやって、二回戦の藤田vsヴァンダレイがまた年間ベストバウト級の試合。それで決勝一回戦の二試合がそれらを超えるベストバウト！
ジャン　『kamipro Hand』のGP決勝アンケートでも、GP3試合だけに票が固まって、ほかの試合には〝冗談票〟すら入ってませんでしたから。この座談会に出席する前に確認したら、ようやくモラエスvs韓国人に一票入ってましたけど（笑）。
橋本　〝冗談票〟すら入る余裕がないほどの出来（笑）。
X　何年前かK−1にもGPのクオリティが充実しまくっていたときがあるじゃないですか。ある程度、大舞台を経験しているメンバーだからこそのよさっていうの。マンネリではなくて、この経験値にはかなわないだろうっていう。
橋本　熟してきた感じ。
X　そう。この壁を超えるのはもう死に物狂いでやんなきゃダメか、凄い天才が現われないとダメだろう。それは感じさせたなあ。
ガンツ　だからこそジョシュに期待感が集まったわけですよね。
橋本　ジョシュがいなかったら、ここまでGPが盛り上がってなかったと思うよ。某格闘技通信は「プロレスラー魂を売りにするような男に『PRIDE』を代表する男が取れるようなことがあれば、時代の逆戻り」というトンチンカンな定義をしてるけどね。
ガンツ　あれは驚いた。だいたい「やった！　ミルコがプロレスから『PRIDE』を守った！」なんて思ってるPRIDEファンは皆無でしょう。ミルコの異名が〝プロレスラーハンター〟だったことなんて、いつの話だよ！（笑）。
橋本　時代を逆戻りしてるのはどっちなんだっていう（笑）。それにジョシュのプロレスラー魂はギミックや単なるキャッチフレーズじゃないからね。実力でそれを認知させるって、大変なことだよ。
ガンツ　ジョシュは僕がロスに取材に行ったときも、一緒に食事したら、ひたすらGPとは関係ないプロレス復興について熱弁をふるってたからね（笑）。
ジャン　それに総合格闘技のスタイルが完成された時代だからこそ、〝時代の逆戻り〟をさせることは、得体の知れないおもしろさと、深みがあると思うんですけどね。まあ、彼らは一生直らないでしょう。

（ペールワンの腕を折った直後のアントン調）。
タコ　今回、プロデュースする側のデザインとしては、やっぱりジョシュ優勝やったんかね？
ガンツ　そこに期待する動きはあったでしょうけど、「絶対にそうなってほしい！」とまでは思ってないんじゃないですか。
タコ　それこそオーちゃんが3年前のヘビー級GPを勝ち上がったときって、プロデュースサイドのデザインは凄く見えましたよね。
X　ミエミエだよね（笑）。
タコ　それは素晴らしいミエミエですよ。まだジャイ・シルもそんな〝噛ませ犬〟っていうふうには見えてへんかったから成立してたけども、でもあれはあれで観るほうとしても気持ちよく乗ったところはあったよね。
ジャン　〝ミエミエ〟にも一流から三流まであるってことですよね。あのときって、最終的に小川直也の壮絶な覚悟を持った振る舞いが問われたわけですよね。もし負けたら「おまえはどうするんだ？」っていう。
タコ　そこにちゃんとオーちゃんが応えてくれたから、ますます気持ちよかったっていうのはあったよなあ。ああいうトーナメントの意図とか作為は、俺は嫌いじゃない。今回のトーナメントの〝投げっぱなし〟の凄さとは対極やけど。
ガンツ　いや、じつは今回だっていろいろ考えてるはずなんですよ。二回戦の吉田vsミルコ、藤田vsシウバだって、藤田や吉田が勝つんじゃないかって思った人はじつは多かったでしょ。
X　だから決勝まで残ってくれればいいっていう意図だよね。で、あのメンツを見れば、誰が決勝に残ってもいいという考えもあったと思うんだよ。
橋本　それだったら、〝投げっぱなし〟にもなりますよね。決勝は主催者の〝投げっぱなし〟という作為すらも超えてっちゃってますけど。
X　投げられた4人は驚くほど遠くへ飛んでしまったわけだ。
橋本　しかし、なんであの4人はあそこまでテンションが上がったのかねえ。なんであそこまでレベルが上がったのかっていうところもあるけどさ。
ジャン　もの凄くわかりやすく言うと、〝切磋琢磨〟ということになるんでしょうけど。
橋本　それぞれ。俺も『kamipro Hand』のコラムで書いたんだけど、裏MVPはヒョードルだっていうね。ヒョードルという存在があったから、周りのレベルがどんどん上がっていったと思うんだよ。同世代、同階級に強い選手がいるとジャンル全体が盛り上がるっていうか。
タコ　うん。全体のレベルアップになるねえ。で、普通、総合ってある程度レベルアップすると、勝ちパターンは固まってくるわけじゃないですか。スタイルも平均化しちゃうもんですけど……。平均化するほどのヤツは、まだまだやり込んでなかったかもしれないね。
橋本　そうか。徹底的にやり込んだからこそ、特徴が出てくるんだ。
X　『PRIDE』は総合格闘技だからいろんなことをやらなきゃいけないじゃない。簡単に挙げてみても、打撃、テイクダウン、グラウンド。しかもそれらをうまく回転していかないといけない。気の遠くなるぐらいのトレーニングをやってると思うんだけど、そこは十種競技みたいなもんで。ちょっと前に『デカスロン』っていう十種競技のマンガがあったじゃない。
橋本　山田芳裕。いま『へうげもの』を描いてるマンガ家ですね。
X　欧米じゃあ十種競技がメチャクチャ人気あるでしょ。日本じゃ信じられないぐらい。だいたい砲

丸投げやって、100メートルも走って、おまけに棒高跳びもやる（笑）。どんな練習スジュールを組んでるんだ？　と不思議になる。やっぱりリスペクトされるよね。

橋本　ヒョードルたちも十種競技的な取り組み方ですよね。そのすべてをやるための努力を欠かしてなくて、ミルコはクロアチア人なのにブラジルの柔術世界王者を練習パートナーに呼び寄せてしまったりとかさ。

ガンツ　柔術家なのになぜがキューバのボクシング代表チームと寝食をともにして練習しているノゲイラもいるし。

X　それは金があるからそういった環境作りが可能だと思うんだけど。たとえば修斗のレベルは高いというけどさ、そこまではできないわけで。

橋本　バイトしながら闘ってるんでは無理ですよ。

ガンツ　だから本当に選ばれし者だし、〝神々の闘い〟はそこまでやらないと脱落しちゃうわけですよ。チャック・リデルですら言ってましたもんね。「このチームは俺を強くさせるためだけに存在する」って。チーム全体がその選手に投資しているんですよね。

X　じゃあF―1と同じだ。団体競技。

橋本　ジョシュのトレーナーのエリック・パーソンが言ってたんだけど、ジョシュは地元のシアトルでは人気者だから、みんな遠慮しちゃってジョシュとスパーリングしないんだって。へんに敬われすぎてるっていうか。でもロスだと「一発食ってやろう」ぐらいの選手がどんどんジョシュに向かっていく。ジョシュもそれを求めにロスに来たんだって。

ガンツ　ミルコもそう。まったく同じ。クロアチアでミルコ・クロコップなんていったら、みんなメチャクチャ遠慮しちゃう感じじゃないですか。

橋本　ご機嫌でも損ねたら危ねえっていう。そうならない環境を自分で作れるかどうか、違う場所に飛び込んでいけるかどうか。

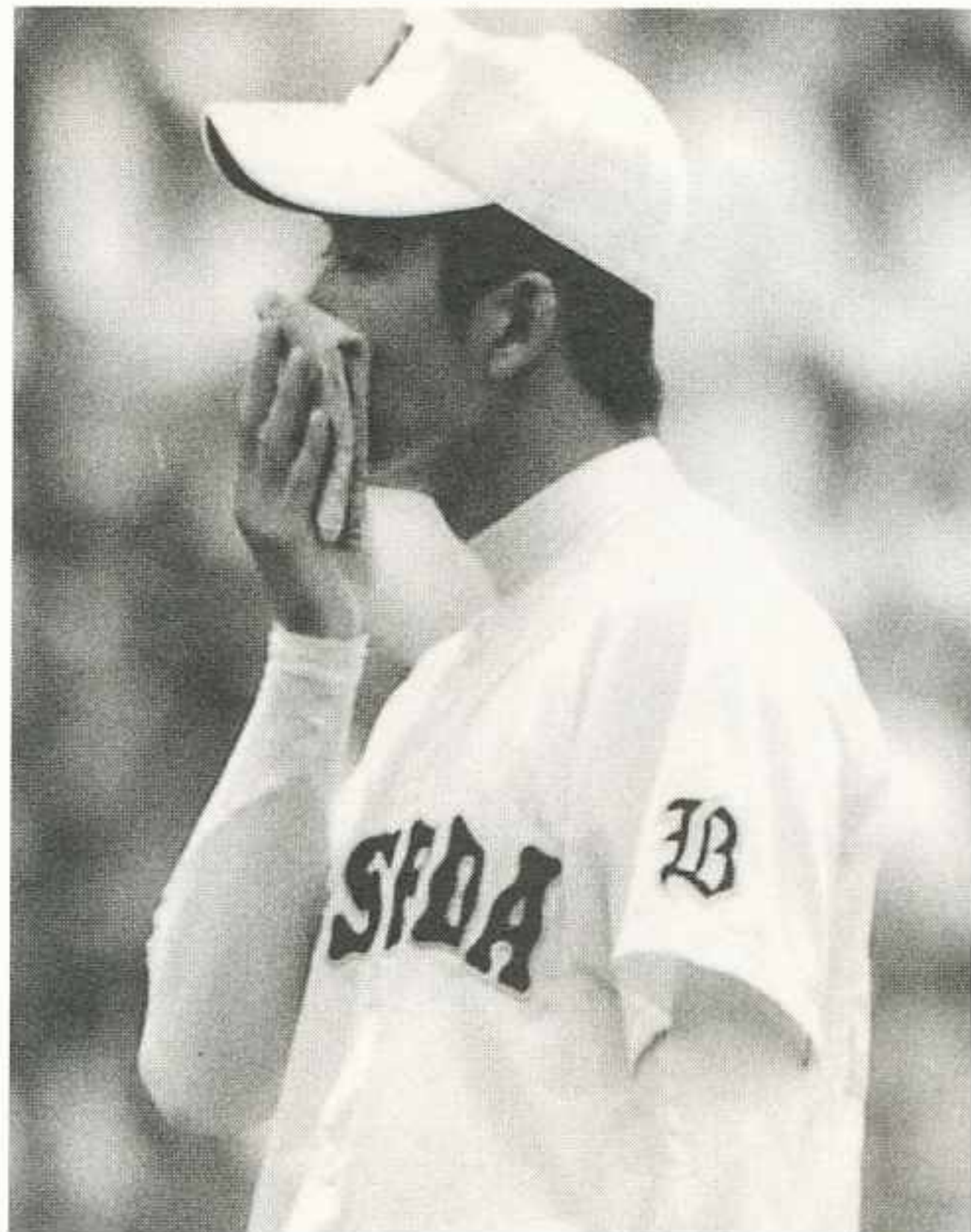
X　そういうのって選手からすれば、刺激になるし、挑戦するおもしろさを味わえると思うんだよ。新たな技術を学べることって自信になるから。逆に「練習で弱いところ見せられない」とか殻に閉じこもってるヤツは上にはいけない。そこの意識にも違いあるんじゃないかな。

橋本　ねじ曲がったエリート意識が壁になることってありますからね。

X　柔道のトップって言えば日本ではもの凄くスポーツエリートじゃん。昔聞いた話だけど、一部のオリンピック選手たちは、「べつにボクシングの練習をしなくたって、プロボクサーに勝てますよ！」って本気で言ってたらしいから（笑）。

ジャン　へぇ～。そういうプライドの持ち方は大好きですけどね（笑）。

橋本　幻想はあるよね。

ジャン　だから、朝ロードワークして、昼はボクシングやって、夕方は明大で柔道をやっていただけの小川直也が『PRIDE・GP』で優勝していたら、一番ロマンがあるんですよ。どんだけ才能の化け物なんだ！　って感じで（笑）。

今夏を席巻した“投げっぱなし”現象、ハンカチ王子こと早実の佑ちゃん（斎藤佑樹）。ナチュラルな“家族愛”を大衆が支持、亀田一家とは真逆ベクトルのニュースターが誕生した。

X　そう。本当はそれが一番おもしろいけど（笑）。

橋本　プロレスラーだって、プロレス道場でやっている〝極めっこ〟の練習だけで『PRIDE』で勝てたら、こんなに素晴らしいことはないんだけどねえ。

タコ　というか、その幻想で何年かは商売して大きくなったわけやん、この業界も。

ガンツ　グレイシー一族だってそうですもんね。でも、そこからのレベルアップぶりが尋常じゃないんですよ。数年前には通用した幻想がまったく通用しないんだから。

タコ　しかし、数年前のプロレスラーやマスコミって、総合格闘技に対して相当ナメていたということやな（笑）。

橋本　「プロレスラーだから勝てるかも」という。

ガンツ　あの永田さんもやる前までは「ミルコには絶対勝てる」と思い込んでたぐらいだから（笑）。

タコ　ああ、一時期の永田さんなんかえらいバッシングされたけど、それでも急に言われて出ていくのは偉いなって最近になって感じるけどね。「サラリーマンにたとえたら凄えよな～」みたいな（笑）。

ジャン　〝サラリーマンの凄味〟ということですか？

タコ　そうそう。急に「キミ、明日転勤や！」って言われて、世界の地の果てまでもホイホイ出ていく凄さ。

X　ヒョードル戦なんて、「サウジアラビア支店に行ってくれ」と言われたようなもんだよ。しかも報酬ゼロでしょ？（笑）。

ジャン　永田さんがどんな心境で新幹線に乗って神戸入りしてヒョードルと闘ったのか、密着してドキュメント作品にすべきでしたね。

タコ　ホンマにドラマやからねえ。

ガンツ　顔が中邑真輔みたいなのだったらもっとシリアスなドラマになるんだけど、永田さんの場合は……（笑）。

タコ　ま、そのぶん味わい深いよねえ。

ジャン　中邑真輔と違うのは、まあ、顔だけじゃなくて（笑）、お膳立てのなさが味わい深さにつながっているのかもしれないですね。あそこまでお膳立てのなかった『猪木祭り』はどうかと思うんですけど（笑）。

橋本　今回のGPに話を戻すと、ほんのりとした〝お膳立て〟に〝投げっぱなし〟にしたのが肝でしょ。ある程度までは考えていたけど、出たとこ勝負の連続で凄くうまく転がった。

X　たぶん個々のポテンシャルが高くなるほど〝投げっぱなし〟にしとくほうがいいんじゃないかな。

橋本　投げっぱなされたときに応えられた4人だったっていうことですよね。

タコ　まあ、〝投げっぱなし〟っていうか、4人への信頼感ですよね。ポテンシャルや意識の高さに対して、大丈夫だろうと安心できるという。

ジャン　その意図する、しないの世界でいうと、最近の意図する世界は亀田親子じゃないですか。で、意図しない世界ではハンカチ王子の斎藤祐樹？

タコ　ハンカチ王子は完全に意図してへんとこから出てきたよね。

ハンカチ王子を通してマット界を考える座談会

橋本　だって、意図しようとしたらハンカチは絶対に出てこない（笑）。

X　それは意図できない。まず「ハンカチ」と「王子」が結びつくとは思えないじゃない。

橋本　「親子愛をアピールするために、お母さんから渡されたハンカチを持たしといて」っていうシナリオは……書けないよなあ（笑）。

X　ならないよ～。勝つたびに、最後に泣いてハンカチで拭くんだったらまだありえるよ。でも、ハンカチ王子は試合中に汗を拭いてるだけじゃん（笑）。

橋本　そこに食いつく世間って……。

X　恐ろしいよ。"投げっぱなし"天国だ。

橋本　亀田親子の人気には「いまの世の中ってカンタンすぎないか？」と思ってたんだけど、祐ちゃんを見て、「世の中ってまだまだわからねえな～」って思った。人気の出方がまったく読めないんだもん。だってハンカチだよ⁉　売れちゃったりしてんだよ（笑）。

X　祐ちゃんは決勝戦で15回を投げて、それで翌日も9回投げきって、最後に140キロ後半の球を投げるわけでしょ。これもシナリオを超えてるよ。

橋本　甲子園で目立ってドラフト一位指名されて1億5000万円もらおうというモチベーションでは、真夏の炎天下に百何十キロ投げれないですよ。

ジャン　将来を意識したら「監督、変えてください」って直訴するか、家族がプレッシャーをかけるでしょうね。

橋本　でも、そういうヤツは結果、プロに指名されなかったりするでしょ。

タコ　甲子園に出てるあの子らのなかでもやっぱ意識の違いはあるんやろねえ。

ガンツ　それは間違いなくあるでしょうね。中村カズが盛んに"PRIDE愛"をアピールしてたじゃない。でも、それって甲子園球児が「甲子園が好きです！」って言ってるようなもんで、そりゃみんな好きだよっていう。そうじゃなくて、観てる観客に愛されるかどうか、凄いと思われるかどうかだと思うんだよね。

橋本　あと今回の甲子園は、愛工大明電の堂上や大阪桐蔭の中田とか、凄いライバルがいっぱいいるなかで、みんなが切磋琢磨してったんだよね。"アイツに勝つためには"ってどんどんレベルアップしてっちゃった。『PRIDE　GP』と同じような"怪物たちの宴"でしょ、あれは。

ガンツ　ドカベンみたいだよね。

ジャン　そうか。『PRIDE』で考えると、ヒョードルは山田太郎だったんだ（笑）。

橋本　"山田ヒョードル"を倒すべく各県の強豪がレベルアップして……みたいな感じだもんね（笑）。

ガンツ　ドカベンでは"松坂世代"みたいな感じで、山田太郎とそのライバルたちを"山田世代"って呼んでるんだけどさ、今回のGPベスト4メンバーはみんな"ヒョードル世代"なんだよね。

ジャン　そういえば、水島新司も描いてるうちに筆が乗っちゃって、打ち取られるはずが思わずホームランにしちゃったことがあったそうですけど。あのドカベンの世界観からして、"投げっぱなし"のところはありますよね。

タコ　どうなるか作者でもわからないっていうね。

X　さっきのハンカチ王子にしてもさ、世間が暴走しすぎて混乱してる。高校野球の日本選抜チームがアメリカ遠征に行くときの成田空港に「頑張れ！　18人のハンカチ侍」という垂れ幕を持ってるファンがいたんだよ。「ハンカチ侍」だよ⁉（笑）。

ジャン　ハンカチ侍！　それは名コピーですね（笑）。

X　「ハンカチ」と「侍」は普通くっつかないよ（笑）。しかも、「ハンカチ」は斎藤祐樹だけに与えられた言葉なのに、代表全員がはめ込まれてしまっている。

タコ　想像を絶する飛距離やわ～。

ジャン　あれって、ハンカチの色が青じゃなかったらどうなってたんですかね。

タコ　ああ、それも心理的な作用があるかもしれんしなあ。

X　清潔感もあり、汚れも見えづらいという。花柄だったらヤバかったよねえ（笑）。

ジャン　そもそもいままでユニホームのポケットにハンカチを入れている選手はいたんですかね。二の足踏みそうじゃないですか、そういうことって。「果たしてハンカチを入れてていいもんだろうか？」とか。

タコ　甲子園で厳粛な場所だから、一瞬でもそんな迷いがあったらできないですよね。

X　ちょっと……彼はオカマっぽいんじゃないかな（笑）。

一同　ああ～。

X　八重山商工の選手がしていた時計を記者が「あれ、これは祐ちゃんと同じ時計じゃないですか？」って尋ねたら、「はい。一日交換しないかって言われたんです」って。

一同　ガハハハハ！

X　怪しすぎるよね、これ（笑）。

ジャン　プロじゃなくて大学進学を選んだのも、ゴリゴリの同世代が集う寮生活に憧れたんじゃないかという（笑）。

橋本　やっぱ、祐ちゃんは意図しないところで出る本物感というか、我々の妄想というか（笑）。

ガンツ　そのゴリゴリ、フォー！な路線で考えると、中尾KISSは意図しているわけじゃない。

タコ　ああ、本人が意図してないときが一番味わい深かったよなあ。お笑い芸人でも、「天然」って言われる人は、どんなにボケた人でも、メディアに出ているあいだに、自分がどこがおもしろがられているかを自覚してしまうやんか。

橋本　思うのは、選手の自己申告に乗っかってあげるとダメなんじゃないかなって。「日本人は本当は強いんです」とか、中尾のゲイキャラだったりとか、やっぱハンカチ王子じゃないですけど、意図しないほうがおもしろいんですよ。

タコ　だからセルフプロデュースには限界があるってことやな。一時のサク（桜庭和志）がそれこそマスクを被って入場なんていうのは、本当に気持ちよく乗れたけど。

橋本　それはグレイシーに連勝していたサクだからおもしろかったんであって、例えばニーノ（・"エルビス"・シェンブリ）との再戦にパジャマ着て枕を持って出てきたら、それは寒かったんですよね。

X　やっぱり15回投げた次の日に9回投げて、なおかつ9回に140キロ台を投げられるヤツだから、ハンカチに目がいくんだよね。

ジャン　いまでいえば148キロ投げられるジョシュだからこそ、そのオタク性にも惹かれるという。

タコ　自己申告する場合は、それ以上に周囲を圧倒しなきゃダメってことでしょ。例えばさ、郷野なんかもそうや。「あれはPRIDEファンはアリなんや⁉」って凄く思うけどなあ。

ガンツ　郷野が最初にあのパフォーマンスをやったときは、郷野らしい絶妙なスケールの小ささと、セコンドがジャージ姿で踊ってるその貧乏臭さも含めて、それがおかし悲しだったんだけど、主催者側から「これがおもしろいものですよ！」ってやられちゃうと困っちゃうよね。こっちはおかし悲しで見てるんだから。

タコ　郷野が発信したいものと、観る側のおもしろがるものが違っ

てたらよかったわけやけど、同じ目線では笑えないよっていうわけやな。

ガンツ　キミは爆笑じゃないよ。〝NOAHのクリスマス興行〟だよっていう（笑）。

X　そもそもDJ OZMA自体がそういうキャラクターなんだからね。でも、こういう現象って『PRIDE』でどんどん増えてくような気はするけどね。

ガンツ　いや、ホント増えてくるよ。

橋本　こないだの石田くんの煽り映像とかにしても、「そこまでさわやかさを押し出さなくても」っていう。

ガンツ　あれはね、『kamipro』がいけないんだよ！（笑）。

ジャン　ああ、ボクがやった石田くんの「いまこそPRIDEに芝生を！@高田延彦」インタビュー。あれはフジテレビの打ち切りが決定した30分後のインタビュー収録だったから、本気も本気だったんですよ、こっちは！（笑）。

タコ　ともかく、外野でバカなことを勝手にやってるのはいいけどさ。そりゃあ『kamipro』が本道になったらアカンわ。『週刊ファイト』も休刊しちゃうんですもんね。ダブルクロスも『kamipro』以外にもう一冊出して、無理矢理にでも何かと対立せんことには『kamipro』にとってもよくないんちゃう？

X　でも、それはでも意図したものになっちゃうからねえ。

ジャン　WWEでECWをムリヤリ復活させてどうのこうのみたいなもんで。

ガンツ　わかった！　吉田（豪）さんが雑誌をやりゃあいいんだ。

タコ　それはシュートやんか！（笑）。

橋本　会長（山口日昇）なんか、喜んでホイホイそっちに出そうだよね（笑）。

ジャン　（いたって冷静に）間違いなく出るでしょうね。

ガンツ　会長と吉田さんはいいけど、そこに○○○○が紛れ込んで『kamipro』に対してアーダコーダ言ってきたら、ホント腹立つだろうなあ。

橋本　ククク。それはわからないでもない（笑）。

ジャン　同感ですね。ところで、さっきの作為的な話でいうと、『HERO'S』はどうなんですかね？

橋本　『HERO'S』は作為がうまくいってる例だね。

ガンツ　「世界最強トーナメント」って言いながら、観客がそういうふうに見てないっていうのもいいよね。

橋本　本気で「ミドル級世界最強決定トーナメント」だと思って観に行ったらアレだけど、人気者祭りにうまく仕上がってるからOKなんだよね。しかもメンバーのレベルが低いかっていったら、間違いなく世界屈指のメンバーではある。そのさじ加減のうまさじゃないかな。

タコ　間違うたらいかんのは、投げっぱなしが偉いわけじゃないってことやね。何かを企てたり、青写真を描いたりすることは凄く大事。谷川さんが絡むものは、ほとんど谷川さんのほうが上回ってるっていうか、計算が上回ってるんじゃなくて、結果的に運がいいんよね（笑）。

X　この前のサクの試合にしてもさ、サクがあっさり勝っていたらこんなに話題になってないと思うんだよ。これって意図しない〝サダハルンバマジック〟だよね（笑）。

橋本　『PRIDE』だと作為から弾けると、まさしく作為から弾けたように見えるんですけど、『HERO'S』で何か起こると「谷川さんならここまで考えてたかもしんない」って、なんか良いも悪いも谷川さんのせいにしたくなっちゃうっていう。レフェリーストップが遅いのは谷川さんのせいじゃないんだけど、でもなんか谷川さんに話を聞きに行っちゃう。

ガンツ　このあいだ谷川さんのインタビューしてきたんだけど、素晴らしかったよ。「サクちゃんはなんで正面から殴りにいっちゃったのかなあ。やっぱり相手のテーマ曲が悪かったかな〜」だって（笑）。

タコ　谷川さんの存在自体が〝投げっぱなし〟やしね。だから『HERO'S』を突き詰めると谷川さんの話になってしまう。だって影響を受けてる人たちが多いから。みんなチルドレンやからなあ。洗脳は絶対にあると思うわ！

橋本　まだ「んあ〜！」が解けてない（笑）。

ジャン　自分はまるでないんですけどね。まだ「んあ〜〜！」はおもしろがれる世代なんですけど。

タコ　『kamipro』は山口さんからは直接編集の直伝みたいなのはあるの？

ジャン　直接現場で仕事していたのは、自分が最後ですね。

橋本　じゃあ、〝山口日昇最後の遺伝子〟なんだ（笑）。

ジャン　いやいや、あの遺伝子は一代限りですよ。だいたい〝ノボルゲノム〟が受け継がれて広まったら、『kamipro』が出ないどころか、世界は破滅するんじゃないかっていう。

タコ　おまえな、怒られるで！（笑）。

ジャン　いや、きっとこの座談会も途中で飽きて、この付近までは読んでないと思うんですよね。だからそれはいいとして、『PRIDE』には谷川さん的なハンカチはいないんですかね。

橋本　統括本部長かな？

ジャン　あ、そうか。本部長だ。

橋本　本部長はおもしろいよねえ。GP一夜明け会見のワンマッチへのコメントとか。

ガンツ　「低レベルの試合を見るはめになってしまった」ってやつですね（笑）。

X　この〝はめ〟がポイントだよね（笑）。

ジャン　本当に最近は髙田延彦と髙田総統の人格が徐々に融合してますよね。フジテレビがないなら、大晦日の髙田総統登場もありでしょう。フレッシュサポーターとして髙田総統が控室レポートをする

『PRIDE無差別級GP決勝』をDo The Judge!

Q1 今大会をどんなかたちでご覧になりましたか？

会場で32%　PPVで68%

会場で観た人の感想
不満足 4%
満足 96%

PPVで観た人の感想
不満足 5%
満足 97%

Q2 今大会のMVPは誰ですか？

順位	選手	票数
1位	ミルコ・クロコップ	357票
2位	ジョシュ・バーネット	173票
3位	ヴァンダレイ・シウバ	75票
4位	決勝に出た4人全員	32票
5位	ヒカルド・アローナ	3票

MVPはやはり優勝を果たし、自身の大河ドラマを再生させたミルコがブッチギリのトップ当選！　優勝は逃したもののGP盛り上がりの“ヘソ”になっていたジョシュは2位にランクイン。4位には「神々の闘い」を見せた4人全員を押す声も。

Q3 今大会のベスト・ワーストバウトは？

Best

順位	試合	票数
1位	ミルコ・クロコップ vs ヴァンダレイ・シウバ	379票
2位	ジョシュ・バーネット vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ	295票
3位	ミルコ・クロコップ vs ジョシュ・バーネット	37票
4位	エヴァンゲリスタ・サイボーグ vs 西島洋介	4票
5位	ヒカルド・モラエス vs イ・テヒョン	1票

年間ベストバウト級が連発！　ハイクオリティなGPの準決勝2試合がワンツーフィニッシュ！　さらになんとGP決勝戦を含めた3試合だけで、試合アンケート回答全体の99パーセント以上を占める異常自体が発生！　『PRIDE』内格差が浮き彫りに。

Worst

順位	試合	票数
1位	中村和裕 vs 中尾"KISS"芳広	510票
2位	ヒカルド・モラエス vs イ・テヒョン	157票
3位	エヴァンゲリスタ・サイボーグ vs 西島洋介	47票
4位	ミルコ・クロコップ vs ヴァンダレイ・シウバ	1票
4位	ジョシュ・バーネット vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ	1票

栄えあるワーストはカズと中尾さんの二人っきりの膠着ワールドが他を寄せつけずにトップにランク。コーナーで化石と化し、ブーイングを浴びたイ・テヒョンの試合は2位。こちらも3位までの試合が99パーセント以上を占めるという極端な結果に。

という（笑）。

タコ　あとあれやね、4強が『PRIDE』という場所に磨かれてレベルアップしていったわけじゃないですか。こないだ髙田本部長が認定宣言書を読んでるときに思うてたんやけど、「そういやあ、この人、いまはこんなにうまくしゃべるけど、最初はトチッてはったんやな」って。

ジャン　本部長がしゃべるときって昔は「あー」「えー」から始まったんですけど、友人の髙田総統が登場してからスムーズになりましたよね。刺激を受けたんですよ、きっと（笑）。

タコ　その風景を見ながら、やっぱり髙田本部長もこの場で開花してはるんやわな。髙田総統という『PRIDE』には意図しないところがきっかけで。

ジャン　あと最近のマット界でハンカチ的なものってありました？　まるで発信者が意図しないもの。

橋本　メカブームじゃない（笑）。

タコ　でも、メカこそ発信する側に気持ちよく乗ったんじゃないかな。

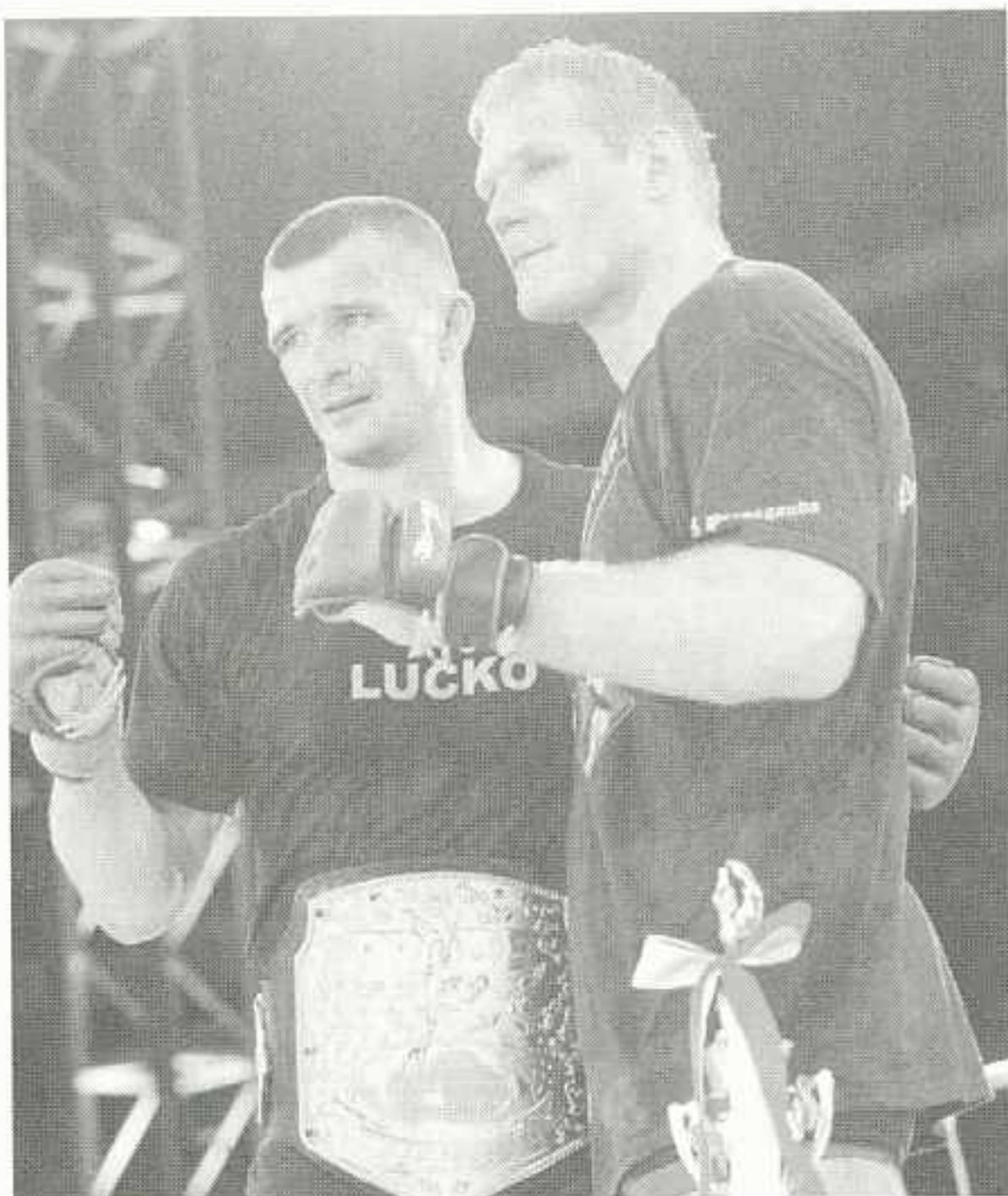
橋本　いや、プロデューサーの高木三四郎によれば「ボクは単なる息抜き、個人的な楽しみで始めたんですけどねえ。こんなに盛り上がるはずじゃなかった」ってことですから。

ジャン　それがいつの間にかマスコミが意図するものになっちゃいましたよね。

橋本　そうなったら引くよね。あざとくなっちゃうから。

ガンツ　要は『週プロ』とかが手を出し始めたら「もう終焉だな」という（笑）。

X　さっき話に出たお笑い芸人にしても、テレビではやれないネタをやってるヤツが、テレビに出て崩れていくというのはあるんだよな。

タコ　賞味期限が短いというところはあるんですかね。テレビはどんどんどんどん使い捨てやっていうことが関係してんのかもしれませんけども。

ガンツ　そこはみんなそこまでの実力だったってことじゃないですか。

タコ　ああ、そうやな。昔の芸人さんだって、最初はゲテモノとして出て、そっから本流になっていくわけやからなあ。

X　まあ、刺激や情報が多い世の中だから、すぐ慣れるっていうのはあるよね。美濃輪なんかは天然だからまだいいんだけどね。

タコ　う～ん。俺はすでにしんどいけどねえ。

橋本　美濃輪は最高ですけど、美濃輪育久の見せ方がキツイんですよ。

ガンツ　だっていまは完全にはめ込まれちゃってるんだからさ。勝手に一人でヘヴンしていたからおもしろかったのに、「ヘヴンしてください」って要求されたらねえ。

タコ　そうなると本人もコメントで「ヘヴン」って言わざるを得ないわけやしねえ。

橋本　「今日の試合はどうでしたか？」って聞かれて、美濃輪が「ヘヴンでした！」って言うのはいいんですよ。記者のほうから「今日はヘヴンでしたか？」って聞いちゃうから困るんであって。

ジャン　そんなマニュアルどおりにやられてもっていう。マニュアルどおりにやるおもしろさに上限がありますよ、やっぱり。

X　GPの決勝に絡めて言うと、「総合格闘技はこうなる」っていう固定概念を超えてるわけでしょ。メチャクチャやり込んだ結果、マニュアルがいらなくなった。もちろん、ガードポジションを取るとか、マニュアルはそこかしこにあるんだけど。

橋本　もっと言うと、苦手を克服しながらも得意分野はずっと突出し続けてるというか。「吉田の内股」「古賀の背負い投げ」じゃないですけど、どんだけ警戒されても極める力がありながら弱点を克服してるから凄いんであって。やっぱミルコも左ハイで決めるし。

ガンツ　左ハイがくることは誰でもわかってるのに食らっちゃう、これが必殺技でしょう。全員凄いのは、みんなやることやることが「こいつ相手にこれができちゃうの!?」っていうやつばっかりなんですよね。ノゲイラも、なんでジョシュ相手に簡単にパスしてマウント取ってできちゃうのって。シウバだって、「ミルコ相手に前に出てフック入れてんの!?」っていう。

橋本　ほかの選手、それ以下の選手っていうのは、マニュアルに頼ってるっていうか、投げで勝てないんだったら打撃で勝とうとか、打撃で勝てないんだったら寝技でいこうとか、「総合の打撃とムエタイの打撃は違う」とか、巷で言われてることを自分で信じ込んじゃってて、それが身体に染み込んじゃってるんですよね、きっと。「だけど、それでも俺は打撃で勝つ」とか、「それでも俺は足関節を取りにいく」とか、やっぱそういうヤツらのほうがおもしろいですよね。全部を理解したうえで「それでも俺は……」っていうのがあるっていう。

ジャン　なるほど。わかりました。今日はありがとうございました。

橋本　はあ？　なんて淡泊な締めだよ！

ジャン　いや、ボクもこのテーマに習って、〝投げっぱなし〟でマニュアルを捨てて、締めてみました。

【06年9月13日／新宿某所にて〝投げっぱなし〟収録】

ハンカチ王子を通して マット界を考える座談会

Q4 今後の『PRIDE』に望むことは？

▼今回あんなに素晴らしいGPだったのに、お茶を濁すような試合を挟むのは止めてほしい。▼シウバを酷使しすぎないようにしてほしい。▼アメリカもいいが、日本の地方大会も軽視しないで。▼カード発表の迅速化。グランプリの取りやめとランキング化。▼PPV値上げは何とかしてほしい！▼マンネリ対策▼アメリカ大会を成功させれば必ず一息つけるはず。なんとかこのまま突っ走ってほしいし、世間を見返して欲しい。▼真面目路線に切り替えた煽りVは正解。オープニングVも前回と雲泥の差で、ひさびさに震えました。会場装置もよく、このクオリティを維持して欲しいです。▼通訳をどうにかしてほしい。▼とりあえずミルコにはラスベガスは回避させてあげてください。休ませてほしいです。

激シブ・サバイバルGP ついに最終局面！
秋のライト級戦線活発化、五味が王者戦！

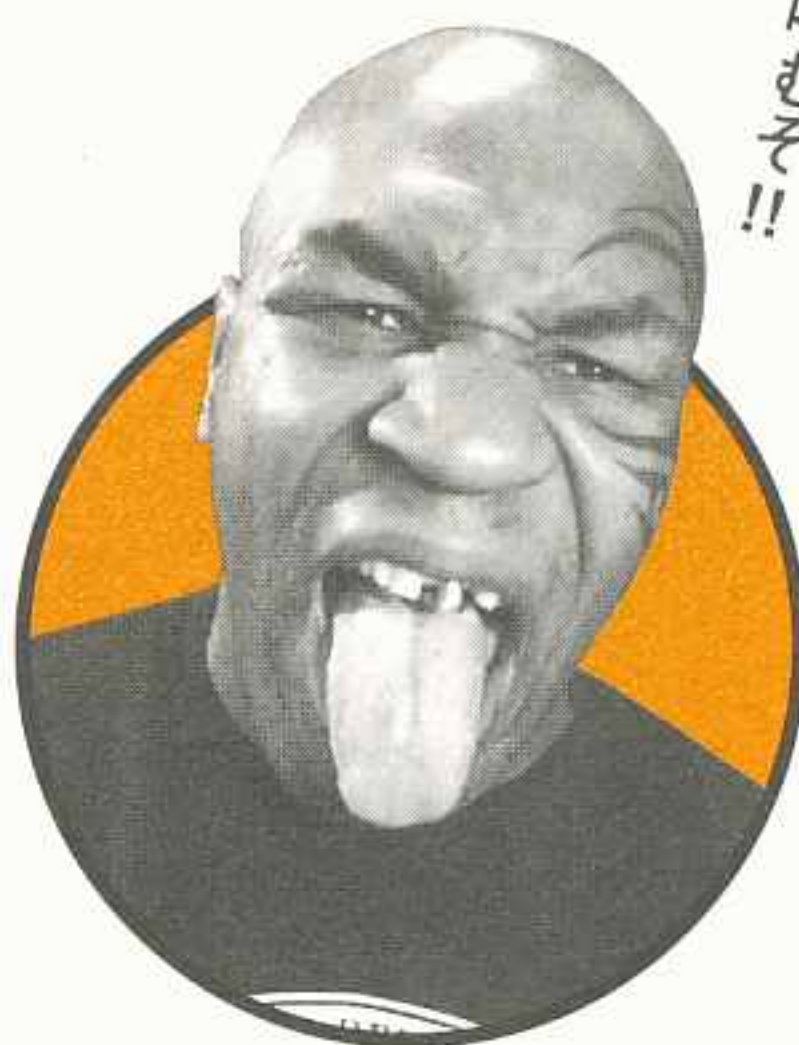
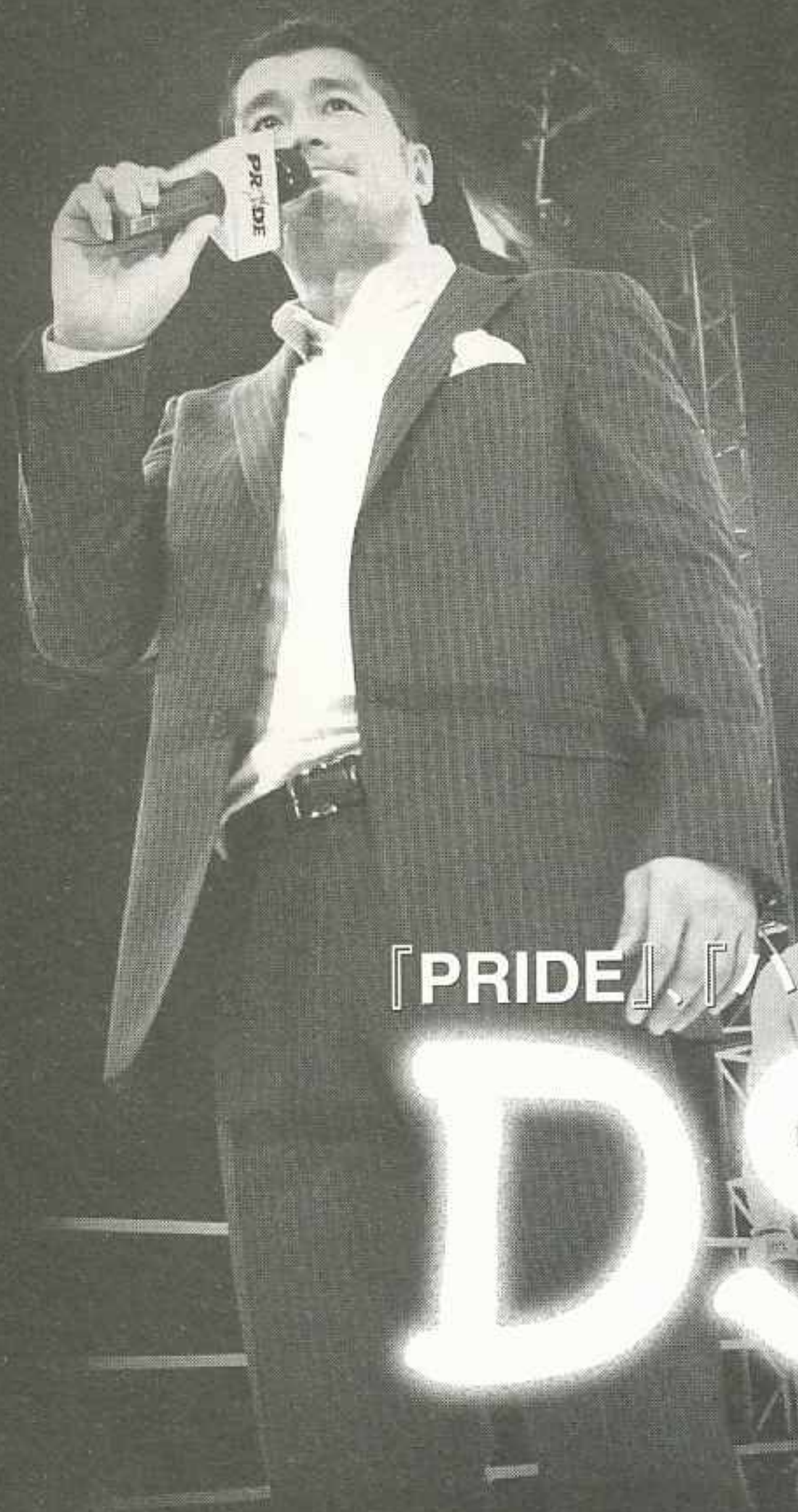
時は来た！　11月5日『武士道 −其の十三−』激シブ・サバイバル GPついに決勝！　激シブ・サバイバルGPついに決着！　当初の〝主役不在〟な混沌から抜けた4人の決勝は三崎vsフィリオと郷野vsカーン！　ダン・ヘンを倒し勢いに乗る三崎とまだ危なげない〝優勝候補〟フィリオ。冷酷&的確なアグレッシブファイト信条のカーンと秋風が似合うマイク&グラウンドが強みの金髪アフロ、郷野。日本人前線雨模様のパーセンテージは高いがいったいどうなる!?

一方、〝絶対王者〟の王政復活をかけた五味隆典は、待望のライト級防衛戦実現。リベンジをかけたアウレリオ、五味を強烈意識する石田に続き、メレンデス、青木など秋のニューカマー軍団も充実の大豊作。五味包囲網、突破するのか？　されるのか？

PRIDE 武士道 -其の十三-
PRIDEウェルター級GP 2006決勝戦

横浜アリーナ
11月5日（日）　16：00（開始予定）
三崎和雄 vs パウロ・フィリオ
郷野聡寛 vs デニス・カーン

［チケット料金］
VIP【特典：専用入場ゲート・グッズつき】
50,000円／RRS 25,000円／
スタンドS 14,000円／
スタンドA 7,000円

［問い合わせ］
ドリームステージエンターテインメント
TEL.03-5464-1531

『PRIDE』、『ハッスル』、『U-STYLE Axis』まで

DSE帝国による文化的征服

そのクライシス後の風景を考える

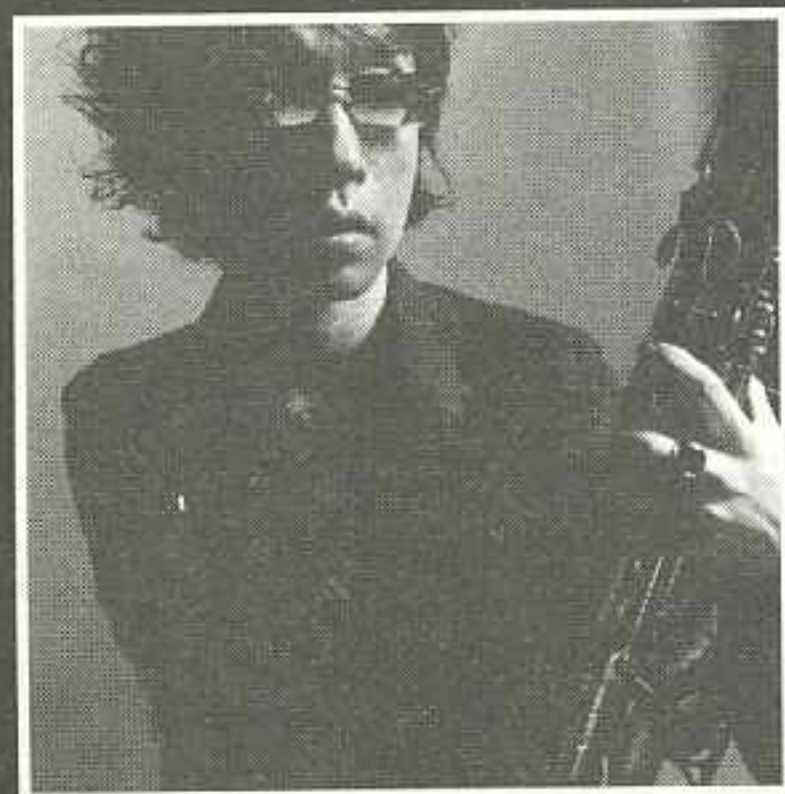
音楽家にして文筆家

菊地成孔

きくち・なるよし■1963年生まれ。音楽家/文筆家。先鋭的なジャズ・ミュージシャンとして活動する一方、膨大な知識を駆使した異形の批評家として音楽、映画、料理、ファッション等の著作多数。昨年、格闘技批評「サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍～僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった～」(白夜書房) 出版。東京大学、国立音楽大学非常勤講師 (音楽理論史)。

フジテレビ撤退による巨大なクライシスから4ヵ月、『PRIDE無差別級GP決勝』を無事に乗り切った『PRIDE』。ラスベガス大会を控えて、いま一度、企業であるDSEという視点からクライシス前、そしてクライシス後の風景とは? 『PRIDE無差別級GP決勝』を会場観戦した菊地成孔が考える。

聞き手/ジャン斉藤　構成/真下義之

designed by bun-chan (Two Three)

――菊地さんが『PRIDE』を生観戦されたのは、一昨年の大晦日『PRIDE男祭り』以来ですか？

菊地　そうです。あとはPPVかDVDで観るぐらいで。

――そうなると、今回の大会ではフジテレビ仕様の会場セットとのギャップを人一倍、感じられたんじゃないですか？

菊地　驚きましたね。驚いたというか、こういうことだろうな、と。

――自分は打ち切り直後の『PRIDE』を会場観戦してたので、もう〝慣れ〟はあったんです。

菊地　たまに会う子どもと同じで、ずっと一緒にいると大きくなったのがわからない感覚ですよね。久しぶりに会ったら、「わー、見違えたねえ！」っていう。

――速報号の原稿に書かれていたように、菊地さんが驚かれたのはブランド力の欠落だったわけですよね。

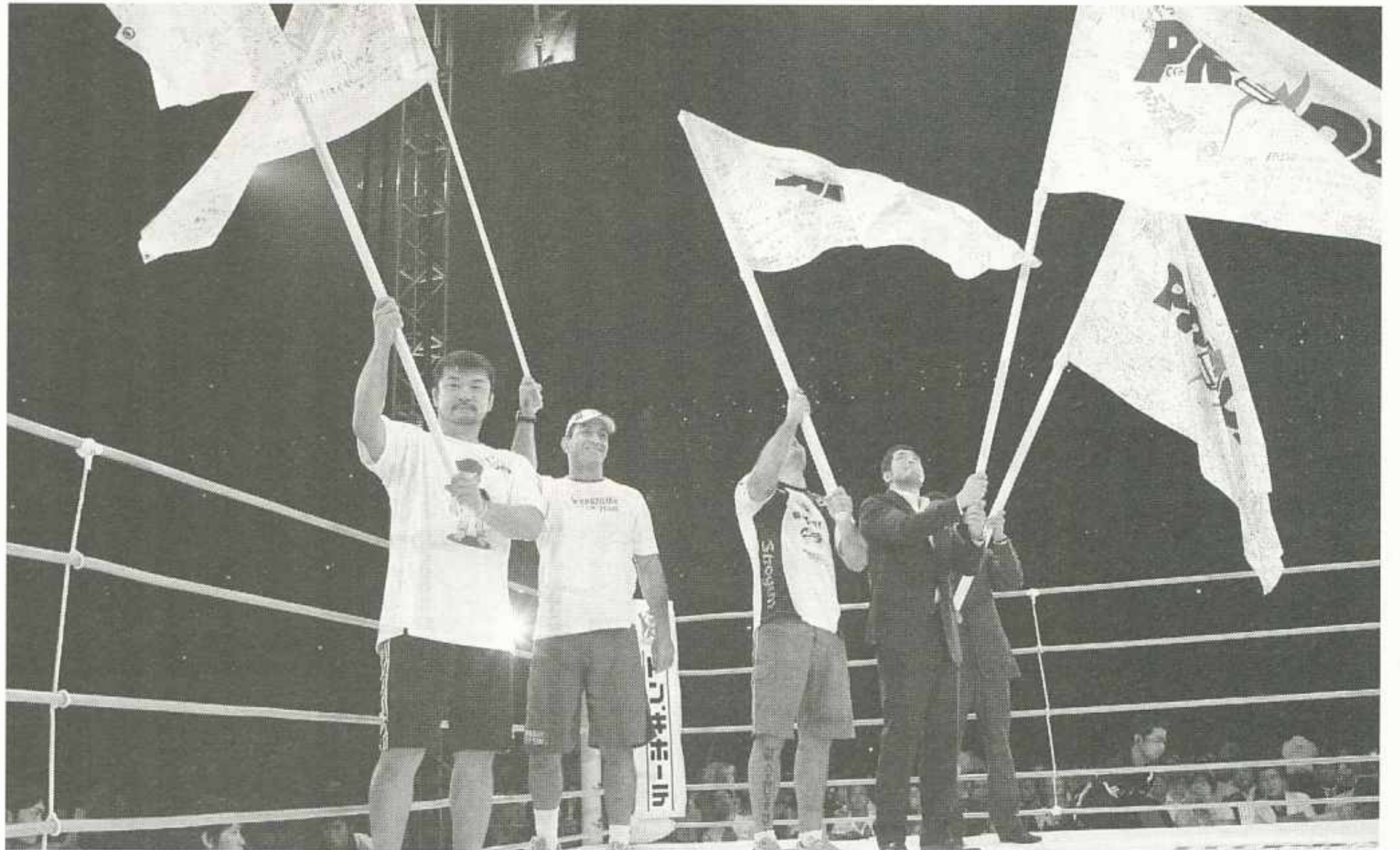
菊地　そうですね。やはり、フジが離れたらどうなるんだろう？　とは想像していたんですけど、実際同じ会場のたまアリだからこそ、差が見えやすかったです。

――たまアリでいえば、菊地さんの日記で書かれてた〝さいアリ真空〟という表現が自分のツボにハマってしまって（笑）。

菊地　横浜大学のPRIDEフラッグ授与式で訪れた〝さいアリ真空〟（笑）。さいたまアリーナってハロプロがライブをやってることで有名だけど、建築構造上の空間特性としてもの凄く息苦しい。要するに、スベッたら本当に真空になるという（笑）。

――常に熱気が求められるわけですね。

菊地　東京ドームというのは気圧が上でふんわり押さえられてるから、常に空調のホワイトノイズが小さく鳴り響いていて、真空がこないんですよね。拡散的というか。

――それにドームのプロレス・格闘技興行は外野スタンド席を解放してないですし、仕方のない空きスペースとして観客は承知済みですね。

ファンの声を集めて自転車で日本縦断！　しかも真夏！　猿岩石なみの超過酷な企画は横浜国立大学プロレス研究会がDSEに直訴して実現した。ブログでは苦難の旅の様子が日々更新。途中、応援旗の書き込みがいっぱいで新しい旗を追加する一幕もあったが無事ゴールイン。

PRIDEフラッグ授与式で感じたのは観客のクールで現代的な姿勢

菊地　さいアリはスクエアボックスですからね。歓声が反響して何倍にもなるけど、全員が黙ったらホントに静かになるから。

――その会場を使いこなしてきたのが、『PRIDE』と、そしてハロプロだったと（笑）。

菊地　そうそう（笑）。始まってから終わるまで一度も熱狂が冷めないっていう。ドーム文化からたまアリ文化、という移行ですね。もし観客の「セーブ・ザ・DSE」がコンセンサスとして取れていれば、ことと次第によっては一番盛り上がるような企画じゃないですか。でも、会場はそういう感じじゃなかった。

――ああいう企画って、全国行脚している映像をテレビで流すなりしてドラマをつくっていくものでもありますから。掟（ポルシェ）さんの『「男は橋を使わない」東海道五十三次の旅』だって、ブログだけでテレビの電波に乗らなかったらそのおもしろさは伝わらないでしょうし（笑）。

菊地　でも、あれ（PRIDEフラッグ）がどんな企画かは、観客には一瞬にしてわかったと思うんですよ。要は学生有志が立ち上がって全国行脚して、「『PRIDE』を救おう！」という署名を集めた。僕の観た感じでは観客の雰囲気として、「気持ちはわかるし、誰かがこういうことをやるだろうな。だけど距離を取ってみよう。俺は単なる格闘技ソフトのユーザーでおもしろい試合が観られればいいんだから、『PRIDE』が仮称コンドルになろうがべつにかまわん」というようなものを感じましたね。だから、逆にあの大学生たちにブーイングが出るような雰囲気でもなかったし。

――観客も企画の意図や熱意はわかったんでしょうけど、それで『PRIDE』クライシスの不安感は拭ぐえないというクールな視点はあったのかもしれませんね。

菊地　ボクはそこを読み違えてた。例の公開記者会見のファンの反応や、髙田延彦のブログの神にすがるような書き込みが印象的だったんで。

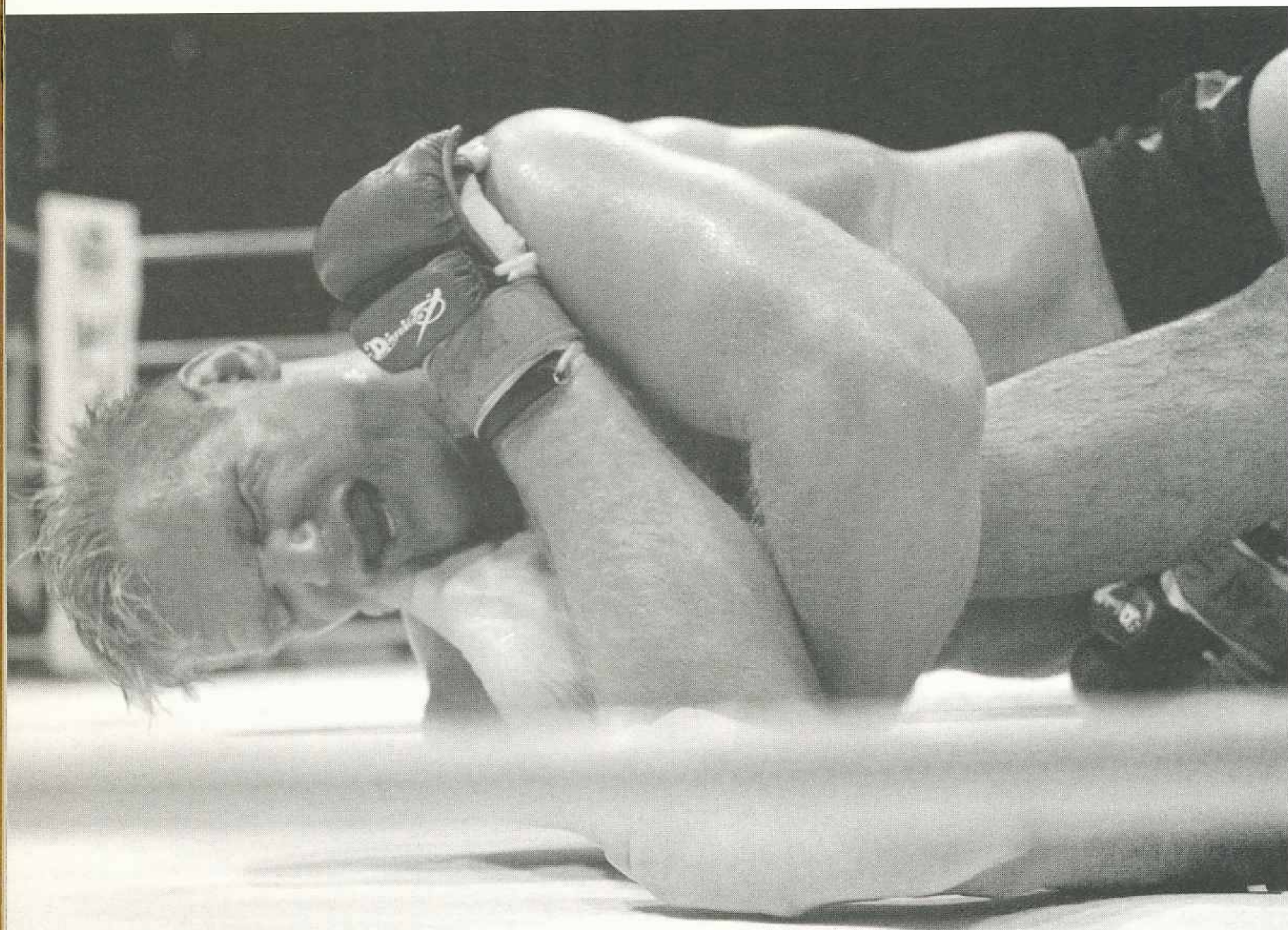
――菊地さんは、もっと狂信的な雰囲気を想像していたところがあったんですね。

菊地　いろいろな喪失感とかの果てに乖離してクールになっちゃってるのかもしれないですけどね（笑）。極めて現代的（笑）。

――今回のGPシリーズは〝フジショック〟のせいで、ホント不安だらけでしたからね。内容的にはGP屈指のものでしたけど、ファンも関係者も最終的には何かしら不安を語りたがるという。地球滅亡5秒前になっても、『PRIDE』への心配を口にするんじゃないかってぐらいの症状で（笑）。

菊地　桜庭和志は言うまでもなく、ヒョードルのほぼ恒常的な不在とか、直近ですら、不安感や喪失感が溜まってる中ですからね。ボクらの世代だと、全日本女子プロレスの終焉も観ているし、リングスの終わりも、バトラーツの終わりも観てきた。新日本プロレスだって一時は帝国だったわけで、それも傾斜するわけじゃないですか。そこには〝破滅の感傷〟というか、要するにセンチメンタリズムの甘さすら存在したりするもんなんですけど、まあそれは「プロレス」というジャンルの属性ですかね。いまの総合のファンは、そういう感覚とは無縁な人が多いのかなっていう感じもします。K―1帝国も傾斜から持ち直してるし。総合の巨大帝国が完全に崩壊した。という光景を

見たことがない。という。
—ありきたりな言い方ですが、リング上の内容が不安を吹き飛ばしたところはあったと思います。
菊地　凄い。試合は凄かった。
—だから、何が起こってるのかわからない不気味さはあったと思うんですね。リング上だけ観ていると、「『PRIDE』は危ないって言われてるけどさ、なんだよおもしれえじゃん！」という。
菊地　そうそう。試合がショボくなって、選手がショボくなれば、傾斜は一番見えやすいと思うんですよ。要するにソフトが劣化したらブーイングも飛ぶだろうし。ブランド感があっても寒くなるわけで、そこは凄く奇妙な感じだったと思うんですよね。試合のクオリティは凄く高かった。MMA史上に残るクオリティだったんじゃないかって思います。ジョシュ・バーネットがUWFスキルでノゲイラと渡り合ったりしてたり。最後のヒザ十字って、もうちょっと時間があれば……。
—極まっていたという関係者や選手は多いですね。
菊地　ああ、やっぱりそうなんですか。会場観戦だけなので、完全に納得してなかったんですが。ボクはあのシーンを観て、『PRIDE』がガチガチに固めてきた強者のコンセンサスが、帝国が傾斜すると同時に揺らぐのかという感じもしましたけどね。ゴッチスキルが通用する、という。ミルコ優勝の意味だって、『PRIDE』にだけ集中してたら麻痺しますけど、K—1上がりの元ストライカーから、って考えると偉業ですよ。
—『PRIDE』が支配する価値観からすれば、UWFスキルやキャッチ・レスリングは駆逐されてしかるべきなんですけども。

UWFスキルでノゲイラと渡り合った
ジョシュは壊れたタイムマシンですよ（笑）

だから、ジョシュがああいうかたちで生き残ったのはビックリしました。
菊地　ゴッチ／UWFスキルなんて、田村潔司が自分の世界の中に囲わないと見せられない演舞、というクールな認識があったじゃないですか。それがノゲイラがタップするかも、っつうところまでいっちゃって（笑）。
—ノゲイラだって、まさかゴッチ式のフロントネックロックって食らったことないでしょうからね（笑）。
菊地　ジョシュは〝壊れたタイムマシン〟ですよ（笑）。オタクというのは、レトロに撞着して時代感覚が麻痺しやすいけど（笑）。要するに帝国が固まっていくというのは、帝国的なコンセンサスが固まるってことだから、強さの基準もそこに属すわけじゃないですか。これはプロレスか格闘技かってのは関係ないですもんね。かつての新日本プロレスにもあったと思うんです。そして全日本における全日本の強さというものもあって。

まさにPRIDE版バック・トゥ・ザ・フューチャー？　デロリアンに乗ってかつてのUWF全盛時から未来にやってきたようなウルトラ大活躍で、いままでの総合の概念を壊してしまったジョシュ。これはUWFルネサンスの始まりなのか？　みんなも心に「Uを取り戻せ〜！」。

—新日本なら〝ストロングスタイル〟、全日本なら〝身体能力の怪物性〟というか。
菊地　だから本質的にはすべて〝お国柄〟みたいなもんなんだけど、DSE帝国の強大さが、それをワールドスタンダードな、統一的な物にまで接近したと思うんですよ。科学主義と言っても良い。初期のアルティメッドだとマウントを取ってタップさせるというグレイシー戦法が最強だと『格闘技通信』が決定したわけじゃないですか。でも、その方程式も徐々に変わっていく。それは流動的なんだけど、誰が決めてるかというと、帝国と帝国住人が決めてるわけで。で、もう『PRIDE』はだいたいの勝ちパターンが決まりかけていたと思うんですね。で、そこにジョシュが出てきた。傾斜期じゃないと起こりえない現象です。
—いままでの傾斜の気配と違うところはあったりしますか？
菊地　帝国というものは、どこかで〝やりすぎ〟て火傷するわけです。あまりにたとえがベタですけど、ライブドアだってフジテレビの買収を仕掛なかったら、あんなことにならなかった。村上ファンドも阪神タイガーズの買収に動かなかったら、こうはならなかった。ライブドアにおけるフジテレビがDSEにとってなんだったのかと考えたときに、ボクは『ハッスル』だと思うんですよね。
—『ハッスル』がきっかけですか！

菊地　それは企業体としての〝やりすぎ〟ではないです。そもそも『ハッスル』は税金対策から始まったわけですよね。

——そ、そうなんですか（笑）。

菊地　ネット世論的に言うと（笑）。で、いま言ったライブドアのフジ買収話と、DSEが『ハッスル』をスタートさせたのは、まるで正反対じゃないですか。むしろDSEはお金をきれいにやりくりしようと思って始めた。

——『PRIDE』で儲けたお金でプロレスを救おう！　ぐらいの。

菊地　けど、『ハッスル』を最初に観たときにボクが思ったのは、やりすぎ感、一種の万能感。で、要するに観てて怖かったんです。多幸感と恐怖感。シャブと同じですよ。DSEの自己拡大衝動は、アマチュアとして定着させ、オリンピック競技へ、というかたちには見えなかったんですよね。

——『PRIDE』はアマチュア競技に協力や接点は持っていましたけど、そこをゴールには設定してなかったですね。

菊地　03年に森下体制を受けて榊原体制が始まったときに、すでに自己拡大衝動としてラスベガス行きの話は出てたんですよね。それがしばらく音沙汰なくなって、気がついたら『ハッスル』が始まったと。一番ハードコアな総合格闘技をやって、そして一番凄いサーカスもやる。人が闘うことで見せる興行の世界の、両端を持ったことだと思うんです。しかも『ハッスル』は非常に優秀なブレーンによって大成功した。

——ここまで新種のプロレスのかたちになったことにも驚きましたね。

菊地　脅威の多幸感なわけですよ（笑）。その両極端に同じプロモーションの選手が出ていたりね。ランデルマンは、昨日は『PRIDE』でミルコをKOして、今日は『ハッスル』でドロップキックを出している。安生洋二は『ハッスル』に出たかと思えば、『PRIDE男祭り』で男泣きして、次は腕を吊って『ハッスル』に出る（笑）。

「みんなオイッスー！」。『PRIDE男祭り』のメインで吉田と死闘をくり広げた小川直也が、『ハッスル・エイド』ではドリフ大爆笑の曲に乗ってオープニングダンスを披露する。DSEはこの両極端なソフトを抱えて、マット界を文化的に席巻していった。

両極の『PRIDE』と『ハッスル』を持った DSEの文化的万能感は、とても平成的です

——どちらにもレギュラー参戦している髙田延彦という人間もいますね（笑）。

菊地　だからリングスやUWFが持とうとした自己拡大衝動、要するにオリンピック競技になる、社会的な認知を得る、他団体を潰して統一するというあり方ではない。もう『PRIDE』は社会的認知を充分に受けたし、アマチュアの方面にしても無理に広げる必要はない。

——そこは良い意味で底辺からすくいあげていけばいいわけですもんね。

菊地　それも修斗との関係性で構築できているし、そこでハッスルなわけで。要するに文化的な万能感ですね。

——そこまで成立させたプロモーションってこれまでないですし。

菊地　だから後発の『ハッスル』を観て怖かったのは、『ハッスル』単体じゃ怖くない。『PRIDE』やってる人がコレやってんだ。という、文化的万能感に対するもので、しかも二元論だからさ。人格分離の臭いもして。ミクシィ株に対するヒヤヒヤ感とか、アメリカ合衆国に対するヒヤヒヤ感とか、マイクロソフト社に対するヒヤヒヤ感と、また一味違った感じだったんですよ。

——そういえば、DSEは『PRIDE』と『ハッスル』のあいだにあるUWFスタイル、『U-STYLE・AXIS』も手がけていましたね。

菊地　中道も持っちゃった（笑）。やりすぎだ（笑）。

——極端なこと言えば、この業界って、この3つだけで成り立つんですよね。総合格闘技、エンタメプロレス、ストロングスタイルもしくはUWF。

菊地　「真ん中を突っ走る」というのも逆説的な名言になっちゃいましたし（笑）。

——DSEはいままで誰もできなかったことをやり遂げた。それは石井館長のように、K-1の3局同時にテレビ局を征服するのとはちょっと違うと思うんですが。

菊地　石井館長の場合は本当の、というかシンプルにビジネスとしての征服。たしかにK-1も万能感があったと思うんですが、そこは「力道山的万能感」とでもいう感じでしょうか。昭和な感じです。DSEのは本当に平成的です。『ハッスル』がもしネット世論が言うように税金対策だったとしたら、別会社を据えることでも金は使えただろうし、あそこで突如としてサーカスをやるというのは、まあ、遊び感覚という余裕をベースに、絶対の自信があったんでしょう。要するに山口（日昇、本誌〝非常勤編集長〟）さんに自信と使命感と遊び感覚がスリーカード揃ってたと思うんだけど。

——周囲も自信があったから、髙田総統というキャラクターを生み出されたんでしょうね。

菊地　『ハッスル』は、自己啓発性も凄く高かったんだよねえ。あんなに自己啓発が連続的に群発する集団ないですよ。ただ「やりすぎちゃう→崩壊」というのは歴史の必然ですからね。人間の根源的な恐怖に組み込まれてる。

——その『PRIDE』がラスベガス進出することは、どのようにご覧になってるですか？

菊地　さっき言ったように、榊原体制という、ある種、現状よりも不安だったのではないか？　と思われるほどの不安体制が最初に口にしたのがラスベガスですよね。それ一回収まるわけよね。少なくとも表面的

ラスベガス大会やタイソン招聘には過去のトラウマへのルーツバックを感じる

には。それが次の不安状況で反復した印象があります。そんでタイソンでしょう。DSEってつぶさに見るとUWFインターナショナルが発展してできた会社だという事実の痕跡でいっぱいですよね。

――『PRIDE』の成り立ちは、Uインター時代から引きずった髙田延彦とヒクソン・グレイシーの因縁ですし。

菊地　タイソンにしても、幻の髙田vsタイソンに『PRIDE』がルーツバックしてくるという。ただ榊原氏の個人史、パーソナリティは、UWFに憧れてというんじゃないですよね？　詳しく知らないのですが。

――いや、東海テレビ事業時代からUインターの名古屋大会に関わってたんですよね。

菊地　なるほど。じゃあ〝Uインター返り〟は必然ですね。Uインターという団体は外敵に果敢にアタックしては大火傷するっていう繰り返しで潰れたわけじゃないですか。そうすると、今回の『PRIDE』北米進出は図式的に言うと、UWFインターに退行したイメージがあります。

――菊地さんの視点からすると、ラスベガス進出＝イスラエル遠征と変わらないんですか（笑）。

菊地　文字通りの『BUSHIDO』（笑）。

――UWFインターが海外放映されたときの番組名ですね（笑）。

菊地　『PRIDE武士道』というタグがあったり、さっき言ったように、いろんなところに単語レベルでUWFの痕跡が張ってあるわけです。本人たちが意識する、しないはともかくね。だから、この図式的に当てはめると、『PRIDE』の北米進出は火傷するんじゃないかと。

――イスラエル遠征があまりお金にならかったように。しかし、Uインターの履歴がここにきて浮かび上がるとは思いませんでした（笑）。

菊地　過去のトラウマというのは、抑圧されなかったことにされることが多いですよね。歴史が分断され、捏造されているかのように見えるのはそのせいです。でも、その抑圧は必ず過去との悪夢的再会を準備するわけですよ。亡霊みたいな。前田日明が『HERO'S』で復活したのが、まさにそれだと思うんですよ。

――髙田延彦の引退試合となった田村潔司戦は、過去のトラウマを手づかみで触ったから美しかったんでしょうね。

フジテレビショックを経た『PRIDE』のベクトルは、かねてから計画していた北米進出へ。UFCとの全面戦争、ラスベガス大会開催、マイク・タイソンと合体と加速する展開が、クライシス後の巨大な突破口になる可能性を秘めている。

菊地　そのとおりです。本当に美しかった。とはいえ、自分でつかめる範囲というのは、どんな大英断だとしても限界がありますから。あの試合が02年の年末でしょ。『泣き虫』の出版が03年の年末でしょ。ハッスルの立ち上げが04年の1月でしょ。『HERO'S』の立ち上げが05年の4月でしょ。本当に、んでいまが06年の9月でしょ。本当に、絵に描いたようにきれいな履歴ね。と、話はだいぶ外れちゃったけど（笑）、とにかくDSEは日本の格闘技文化の中庸と、極右と、極左とをつかんで征服して、それで傾斜しかけたと思うんですよね。こういうときには常に暴露本的な現実解釈というものもあるんだけど（笑）

――渥美清調で言えば、「それを言っちゃあ、おしまいよ！」という（笑）。

菊地　いわゆる2ちゃんねるや、ダーティジャーナリズム的な現実把握というのは、誰がロマンチックなことを囁いたところで、裏は結局全部こうなってるんだという。それは一面の正論ですから、一時的には凄くおもしろいんだけど、あとはどんよりしてしまう夢も希望もない話になる。こないだ高須（基仁）さんの息子が書いた本をコンビニで買ったんですが。

――ああ、愉快な暴露本ですね（笑）。

菊地　んで開いてみるといきなり〈森下体制は3年目で自殺して、榊原体制が今年3年目だから、査察の周期というのは3年で〉って書いてあって（笑）。まあその（笑）、それはたしかに本当なのかもしれないけど、現実のすべてではなくて、あくまで一側面ですからね。違う現実。というのが別の角度からは常にあると思うんですよ。

――確実にありますね。菊地さんが語られていた帝国傾斜論もそうですし。

菊地　ダーティジャーナリズムは古典的だから昔からあるけど、対立項が弱いんですよね。ああいうものは、強い説得力を持つ反面、じつは一般ユーザーにとっては一番遠い世界だから、リアル風味の、結局ファンタジーなんですよね（笑）。

――こういう時代だからこそ、菊地さんが〝別の角度〟からの見方を心がけているところはあるんですか。

菊地　帝国の傾斜。って立論して、金の話は一切しない。というのを今回心がけました。ローマ帝国の衰亡をギボン（歴史家）の本読んで調べたとしても、税金の話もブラックマネーの話もマフィアの話も出てこないですからね（笑）。ま、税金は出てくるか（笑）。

――なるほど（笑）。その視点の持ち方は、『kamipro』も頑張らないといけないところですね。I編集長の〝Iワールド妄想パワー〟ばかりに頼ってる場合じゃない（笑）。

菊地　現実はまだあるんですよ。『週刊ファイト』がなくなったいま。だからこそですよ（笑）。

【06年9月13日／グランドハイアット東京にて収録】

ミルコ・クロコップに殺しの美学を見た！

PRIDE無差別級GPは
“総合格闘技”ではない！
“何でもあり”だ!!

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

PRIDE無差別級GP大総括スペシャル

聞き手／堀江ガンツ　designed by bun-chan (Two Three)

『PRIDE』史上最高のトーナメントとの声も上がるほど、ハイレベルなベストマッチが続いた9・10『PRIDE無差別級GP決勝戦』。そのベスト4ファイターであるミルコ・クロコップ、ジョシュ・バーネット、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、ヴァンダレイ・シウバの闘いぶりは、"世界最高峰"と呼ばれるこのPRIDEマットの中においても飛び抜けたものだった。
はたして、なぜこの4人の闘いは、ハイレベルかつスリリングな至高の闘いとなるのか？　おなじみ、骨法の堀辺師範が、この4人の「凄さ」の根源に迫ります！

――先生！　先日の『PRIDE無差別級GP決勝戦』は、とにかく凄かったですね！

堀辺　凄かった！　ホントに今回のGPは「凄かった」ということに尽きますね。ということで今日はもう結論が出ちゃったんだけど（笑）。

――結論は「凄かった」で終わりですか！　そういうわけにもいかないんで、今日はですね、決勝ラウンドに残ったあの4人は、なぜPRIDEファイターの中でも飛び抜けて「凄かった」のか、ということをうかがいたいと思います！

堀辺　わかりました。今回の準決勝、決勝戦というのは、たしかに『PRIDE』の過去の歴史を振り返ってみても、トップクラスにハイレベルでしたよね。これはローマは一日にしてならずということで、今回たまたま凄かったわけじゃないということをまず大前提として踏まえておかなきゃならないんですよ。つまり、これまで40回近く『PRIDE』が行なわれてきた中で、毎回、そこに出場する男たちが最大の努力をしてきて、厳しい試合を勝ち上がるということを繰り返してきましたよね。そういったことの蓄積が、勝ち残った4人に情報として伝達され、過去最高レベルの闘いになったということを忘れちゃいけませんね。

――『PRIDE』の歴史の上に、あの4人の進化がある、と。

堀辺　それが大前提にあるんですよ。だから、もう『PRIDE』に参加しなくなった人たち、引退してしまった人たち、兵どもが夢の跡というものが、脳裏によみがえってくるんですよね。そういう人たちを含めての集大成というものが、この4人の中に起こったというふうに考えることが、今回の無差別級GPを観るときの重要なポイントだと思います。これがまず一つ。

――あ、まず一つ目。ということは、今回もポイントがいくつもあるわけですね（笑）。

無差別で世界一になるというモチベーションが高度な闘いというイノベーションを生んだ！

今回のGPでの闘いぶりによって、『PRIDE』の試合をまた一つレベルアップさせたミルコ。今度はミルコが皇帝ヒョードルと闘ったら、どんなものが生まれるのか。

堀辺　今回はポイントだらけですよぉ！　そして次のポイントとしては"無差別級"というところにカギがあるんです。

――無差別級がカギですか。

堀辺　これまで『PRIDE・GP』は階級別に行なわれてきて、それぞれがチャンピオンを認定してきたわけですけど、こうして歴史を積み重ねて、ファイターのレベルがこれだけ上がったタイミングで「無差別」という闘いの場が生まれたことが、まさに選手のモチベーションを高めたと思うんです。

――階級の壁をなくして、本当のナンバーワンを決めよう、というコンセプトですからね。

堀辺　無差別級のGPで優勝するということとは、階級を越えてあなたが世界最強です、ということでしょ？　しかも、『PRIDE』はボクシングのように技が限定されたスポーツではなく、"なんでもあり"なわけだから、それこそ人類最強を決めるといっても過言じゃない。そこにまた、選手のモチベーションを高める要因があったと見なきゃいけない。

――ちょうど競技自体、選手自体が成熟したときに、無差別という価値観を投入したことが、これまで以上の爆発につながったわけですか。

堀辺　絶好の条件が揃ったと言えると思うんですよね。名勝負やハイレベルな闘いという裏には、歴史やさまざまな条件といったバックグラウンドがあるわけですね。

――これで試合のレベルが高まった要因というものはわかりましたけど、格闘技においてレベルが上がるというのは、えてして試合が地味になりがちだったじゃないですか。

堀辺　普通はそういうふうに考えますよね。

――それがあれだけハイレベルでありながら、かつスペクタクルな試合内容になったというのは、どこからくるんでしょうか？

堀辺　それは、あの4人というのが、すべてができるオールラウンド・プレイヤーでありながら、その中でも飛び抜けた部分を持ったスペシャリストであることが大きな要因だと思います。それともう一つ、今回でいうと準決勝の組み合わせがよかった。

――絶妙なカードですよね。

堀辺　でも、先ほどの質問にも出てましたけども、同じようなタイプがぶつかったとき、お互いに警戒して膠着状態になる可能性もあったんですよね。

――中尾"KISS"vsカズみたいになる可能性もあった、と（笑）。

堀辺　いや、ああはならないと思いますけ

ど（笑）。

——さすがにああはならない（笑）。

堀辺　でも、膠着の危険性を吹き飛ばすものがありましたよね。それは先ほど私が言った条件というものの中にあったんです。つまりPRIDE無差別級GPという世界一の男を決める場を提供されたことで高まるモチベーション。簡単に言えば、「負けたくない」という気持ちより、「これに勝って世界一の男になる」というアグレッシブな気持ちが、両者ともはるかに上回ったということでしょう。

——なるほど。膠着は「負けたくない」気持ちによって発生するわけだから、「勝ちたい」という気持ちが上回ったときに、アグレッシブになる、と。

堀辺　だからミルコもシウバも持てる力をすべて発揮して、相手をぶっ潰そうとしてましたよね。それによって〝なんでもあり〟の打撃の典型というものを、二人がそのモチベーションの中から発揮できたと。モチベーションがイノベーションを作ったということだと思います。そして、この試合で特筆すべき点は、先ほどチラッと言いましたけど、〝なんでもありの打撃〟の理想型を展開したということですよ。

——〝なんでもありの打撃〟ですか。

堀辺　そう。〝総合格闘技〟と〝なんでもあり〟は同じだと思っている人がいるかもしれませんけど、これは私に言わせれば似て非なるものなんですよ。総合というのは、立ち技をやって寝技をやってというふうに、全部を使おうとするから、どうしてもそれぞれの局面でマニュアルができるんですよ。でも、あの二人は立ち技も寝技もできるんだけど、それを全部使おうとは思ってませんよね？

——とくに寝技は〝懐刀〟のようにしてますね。

堀辺　でも、あの二人はノールールの中で、何をやれば相手に勝てるかということで考えている。つまり逆に言えば、勝つためにはなんだってやる、と。闘いの原点に戻って、あの試合は行なわれたことがわかるんですよ。その一番の例が、ミルコがシウバの左目を大きく腫れ上がらせて、ハイキックでKO勝ちしましたよね。でも、ルールの上では目だけを狙うのは本当は反則だと思うんですよ。

——眼球への攻撃は反則ですね。

堀辺　では、あのミルコのパンチはたまたま目に当たってしまったのかというと、私はあれは意図的にやったと思う。

——パンチで目を狙ったと。

堀辺　ミルコは公式コメントでは否定するかもしれないけど、あれは明らかに目を狙っていた。それはある意味、冷酷無情な攻撃ですけど、あの世界最強を決める無差別級GPの中では、私は許されていいと思う。

——眼球攻撃OKですか！

堀辺　目に指を入れることは許されませんけど、パンチで目を狙うことは私は否定しない。それどころか、世界最強の男を決める舞台で「目を狙うな」なんて言うヤツがいたら、その場に出てくるなよと言いたい！

——ダハハハ！　そんな甘いこと言ってるヤツは出てくるなと。

堀辺　だから、やられたシウバも「目を狙われたから負けた」なんて弁解は一言もしてないはずですよ。「勝つためだったらなんでもやる」「向こうがその気なら、俺もいくよ」という男のプライドを懸けた闘い。それが、いままでの試合とは違うものを生み出したんですよ。格闘の原点でありながら、最先端の技術を伴なうという、芸術性のあるケンカを彼らはやってくれた。そこに大きな意味があるんです！

——原点であり、最先端ですか。

堀辺　そして目を狙ったミルコのほうが、より闘いの原点に立ち返り、なおかつ最先端の闘いぶりであったために、勝利を収めたと言えると思います。では、なぜミルコがあの闘い方で最先端だったかというと、じつはシウバのスタイルを改良したのがミルコのスタイルなんですよ。

——ミルコのスタイルはシウバの改良型ですか！

堀辺　そうです。なんでもありの闘い方には二大潮流があって、一つは「打・倒・極」。これはグレイシーなどに代表とされるスタンドで打撃を入れたあと、テイクダウンして、寝技で極めるというスタイルで、総合の初期はこれが必勝パターンだったんですよ。

——だからこそ、柔術全盛でしたよね。

堀辺　それに対して、『PRIDE』で「打・倒・打」つまり、殴って、倒して、また殴るという必勝パターンを作り上げたのが、シウバらシュートボクセ勢ですよね。

——『PRIDE』の技術体系を変えましたよね。

堀辺　そしてミルコがK-1から総合格闘家に転向してから、誰の闘い方を参考にしてきたかと言えば、シウバやシュートボクセの闘い方を見て「これだ！」と思ったはずなんですよね。

——打撃系ファイターの勝ち方を示したわけですからね。

堀辺　だから、ミルコは「俺の闘い方はオリジナルだ」と言うかもしれないけど、正直に言えば、シウバをお手本にしてきた部分があるんですよ。その〝お手本〟である

あのシウバとノゲイラが敗れたということはPRIDEがまた一つ進化したということ

シウバにミルコが勝ったところに、またこの闘いの大きな意味があるわけです。「打・倒・打」という闘いの中で、もっとも進んでいると思われていたシュートボクセの代表選手であるシウバを同じ「打・倒・打」で打ち負かしたということが、『PRIDE』の歴史と進化を端的に表わしているんですよ。

――4年前のミルコvsシウバは判定ナシの引き分けでしたけど、事実上、シウバの勝ちだったわけですからね。

堀辺　それを逆転させたということは、ミルコが『PRIDE』の闘いをまた一つレベルアップさせたということなんです。だから、この闘いは「凄かった」と言えるんです。

――なるほど。それが原点であり最先端であるということですね。

堀辺　いま、ちょっと勝ったミルコに重点を置いて話しすぎちゃいましたけど、やっぱりシウバもたいしたもんですよね。

――いや、シウバは負けてまた評価を上げましたよね。

堀辺　たとえばミルコの左ミドルを何発か食らってましたけど、あれなんか普通は倒れるか、後ろに下がって一呼吸置きますよ。それなのに、そういう弱みを一切隠蔽して、逆に前に出ていった。あれは「打撃でも俺はミルコより上なんだ」という心意気で勝負する、闘う男の意地を見ましたよ。

――だから闘いが"ゲーム"じゃないんですよね。

堀辺　ゲームじゃない！　シウバはミルコと闘うと同時に、自分が「打・倒・打」の第一人者であるという、男のプライドを見せてくれた。あれこそ高田延彦の言葉じゃないけど、「おまえ、男の中の男だよ！」と言いたい！　親指突き上げたいよ！

――ダハハハハ！　テレビで試合観ながら、親指突き上げちゃいましたか？（笑）。

堀辺　もう身体反らして、親指突き上げましたよぉ！（実演しながら）。

――先生をのけ反らせたらシウバも本物ですね（笑）。

堀辺　そういう意地やプライドがビンビンに伝わってきた。そしてそれと同じことが、ノゲイラvsバーネットにも言えるんですよ。

――こちらは「打・倒・極」の頂上対決ですよね。

堀辺　そう。そしてノゲイラというのは、誰もが認める寝技のスペシャリストですよね。まさか「彼のグラウンドレベルが低かった」って言える人は誰もいない（笑）。そのノゲイラと「打・倒・極」で真っ向勝負して勝ったんだから、ジョシュはシウバに勝ったミルコと同じですよ。

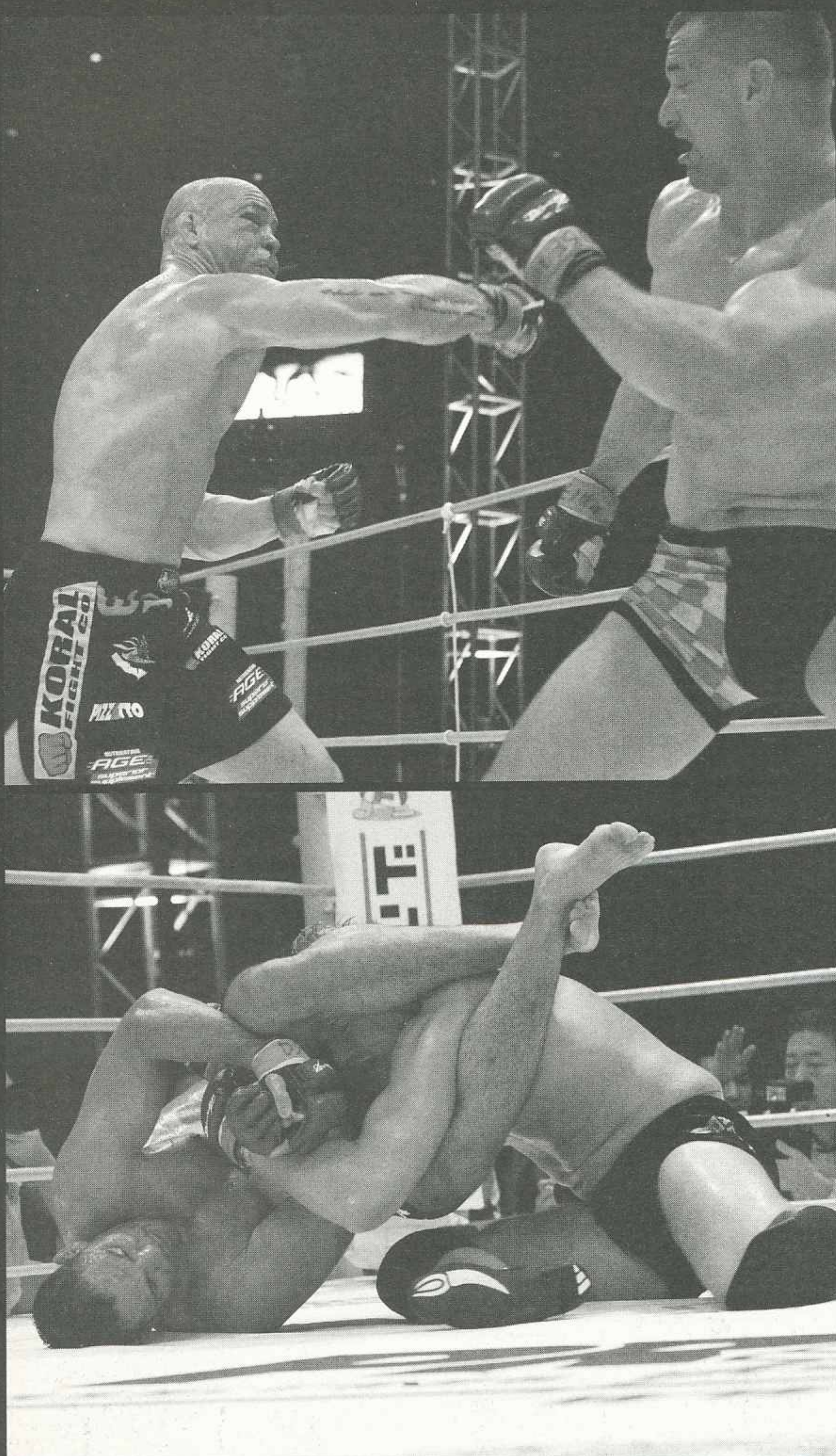
――「打・倒・極」の闘いを身をもって進化させた、と。

堀辺　そうです。なぜ、そう言えるかというと、判定勝ちしたというだけでなく、寝技が膠着しなかった要因というのは、ジョシュの闘い方の中にあったからなんですよ。

――あれはジョシュが膠着させなかったわけですか。

堀辺　そうです。ノゲイラの流れるような寝技に対して、バーネットは打撃戦におけるカウンター技術のように、相手が攻めてくるところを切り返して技を仕掛けてたんですよ。あれによって、グラウンドのおもしろさをド素人にも理解させたと思う。

――あれだけ寝技でスイングする試合って、なかなかお目にかかれないですよね。

堀辺　やっぱりこれも一番最初の条件で言

残念ながら敗れてしまったものの、シウバとノゲイラの堂々たる闘いぶりは賞賛に値するもの。ミルコ、ジョシュも含め、今回「これぞPRIDE！」という闘いを体現したこの4人は、全員評価を上げたと言っていい。

ミルコは冷酷で無情ななんでもありの打撃をその技術の高さによって芸術にまで高めた！

った、これまで無数の人たちがグラウンドで苦戦したりしてやってきたという歴史の積み重ねが、あの二人に、無差別級GPという場で最高に発揮させたんじゃないかと思いますね。だからこの組み合わせも良かったわけですよ。また、ここでも盛り上がっちゃったわけけね（笑）。

――ホントに準決勝の二試合は、「打・倒・打」と「打・倒・極」の最高の闘いを見せてくれましたよね。

堀辺　そして最後の決勝は、ミルコの「打・倒・打」とバーネットの「打・倒・極」の闘いとなって、ミルコが打撃で勝ちましたけど、最後の寝技のパンチで、また目をやりましたよね。

――おもいっきり目にパンチが入ってました（笑）。あれも……。

堀辺　もちろん偶然で入ったもんじゃないですよ（笑）。あれはもう間違いなく狙って入れてますね。

――まぁ、二試合連続で偶然、目にパンチが入って勝ちませんよね（笑）。

堀辺　でも、無差別級GP決勝という場でなら、許される。それは「大目に見ましょう」ということではなく、ミルコの目に対する打撃というのは、たしかに冷酷であり、無情であり、残酷であるんだけど、そこに技術が見えるから許せるんです。たとえば侍が首を刎ねるとき、斬れない日本刀で引っかかりながら、相手を苦しませて殺したら、これは残忍で許せないことです。でも、ミルコの場合は、闘いの中で、一太刀で相手の首を切り落したような感じでしょ？　そこに〝殺しの美学〟があり、極論を言えば、芸術まで高めている。批判させない美しさっていうのがそこに存在してるんですよ。

――シウバに放った最後のハイキックも残酷には見えなかったですよね。

堀辺　残酷には見えないんですよ。

――あんな血だらけで失神してるのに（笑）。

堀辺　だから、ミルコの攻撃というのは、ハイキックにしても、バーネットを一発で仕留めた寝技のパンチにしても、アートに昇華している。美になっているんですよ。だから、後味の悪さが一切ない。それはなぜかと言えば、残酷、無情なんだけれども、それを打ち消すだけの技術の深さと高さがあるからなんです。

――技術の高さがケンカを芸術にまで高めた、と。

堀辺　そうです。だから、やられたほうも一切の言い訳はしない。そういう点でも男と男の対決だったということですよ。今回は4人が4人、男の中の男の闘いをやってくれた。それに尽きますね。

――まさにのけ反りながら、「男の中の男、出てこいや――ッ！」と言うべき闘いだったわけですね（笑）。

堀辺　そう。だから今回は親指一本ではなく、4本突き上げる必要があった！　でも、残念ながら手の親指は二本しかないから、これはもう、男だ！　男だ！　男だ！　男だ！　っていう感じで、4連続で突き上げる必要があったんですよォォォ！（実演しながら）。

――ダハハハ！　では、今回は4人の男の中の男が、男の闘いを見せてくれたことで、最高のGPになったということですね。

堀辺　そうです。これが男の闘いですよぉ！

――わかりました。では、今日は素晴らしいお話と、素晴らしいポーズありがとうございました（笑）。また次回もよろしくお願いします！

【06年9月18日／東中野・骨法武術館にて収録】

ほりべ・せいし■1941年茨城県水戸市出身。50年にわたる命懸けの求道の末、全局面打撃制koppoを創始。格闘技・武道評論の第一人者として本誌や『わしズム』などでも活躍している。

Back Number

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 '01.10 880yen

ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会／野武士が語るんだよな 中野巽耀

サク連敗とPRIDEの未来
no.44 '01.11 880yen

その修羅場の数々! シーザー武志／怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴／ハンス・ナイマン&ディック・フライ／闘龍門大特集

一寸先はハプニング!!
no.45 '01.12 880yen

悪魔の書、現る! ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談／プロレススパースター列伝 グレート小鹿／語録で振り返るマット界2001

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 '02.02 880yen

"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!／噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!／プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

桜庭、満開の日は近い!
no.48 '02.03 880yen

奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光／伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 '02.04 880yen

和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田／アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?／破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐり!

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 '02.05 880yen

「地方発世界」開始! 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!／ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 '02.06 880yen

両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子／天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談／新・超獣ザ・プレデター

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 '02.07 880yen

全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム／戦慄の『LEGEND』前夜!

『Dynamite』ド直前号!
no.53 '02.08 880yen

ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ! マット・ガファリ／爆裂! 川村社長ガチンコ語録!／偽造王の知られざる半生!

『Dynamite!』を大総括!
no.54 '02.08 880yen

"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー／"青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット／純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

驚ガクの6周年記念号
no.57 '02.11 840yen

サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる"U"が始動!! 田村／悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ／北尾戦・セメントマッチの真実ジョン・テンタ

夢の対談、大連発号!
no.58 '03.01 880yen

夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健／カルガリー師弟対談 ヒト×ハシフ・カーン

最後の皇帝、PRIDE上陸
no.59 '03.02 880yen

いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス／爆発!! WJマグマ語録／吉田道場の秘密兵器 中村和裕／UWFの再興と再考 田村

PRIDEは変貌&再生する!
no.60 '03.03 880yen

ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気／あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし／全日本中継の真実!! 倉持隆夫

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 '03.04 880yen

裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン／プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光

マット界、超絶リボーン!!
no.63 '03.06 880yen

「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!／憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー／芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 '03.07 900yen

"異次元格闘技戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー／ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 '03.10 880yen

ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー／アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 '03.11 880yen

大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦／曙とは何者か!?／一年ぶりの勝利でニコニコインタビュー 桜庭和志／"野良犬"『紙プロ』初登場! 小林 聡

ハッスル1開催、ド直前!!
no.69 '03.12 900yen

出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也／『泣き虫』著者登場! 金子達仁／大晦日直前インタビュー! 田村潔司／アイ アム リアルプロレスラー 美濃輪育久

ハッスル2で大フィーバー!
no.71 '04.02 880yen

『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ／待望の『紙プロ』初登場! 川田利明／理想のプロレスを追い求める! AKIRA／幻の猪木vsアミン戦の真実!!

PRIDEに格闘ロマンを見よ!
no.72 '04.03 840yen

GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁／全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

最も過酷な道を行く男!!
no.73 '04.04 880yen

GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド／キックの名伯楽登場! 伊原信一／魔界のニューリーダー 村上和成

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 '04.05 880yen

PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／"ハードコアのカリスマ"ミック・フォーリー／聖圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 '04.06 880yen

シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也／奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統／インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン／年金未納からUFOまで

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 '04.07 880yen

小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志／新連載『月刊PG談（仮）』吉田豪×掟ポルシェ

小川vsヒョードル決定!!
no.77 '04.08 880yen

「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ／サンボの神様降臨!! ビクトル古賀

PRIDE GP徹底総括号
no.78 '04.09 840yen

衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／K-1のトップが小川を語る 谷川貞治／壮絶インディー人生! 田中将斗

髙田総統がビターンと降臨!
no.79 '04.09 840yen

キャプテンに休息なし! 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』／ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

究極のSADAME、迫る!!
no.81 '04.10 880yen

ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功! 小川直也／スーパーひとし君登場! 草野仁／佐山サトル×船木誠勝

男たちの祭りは激化する!!
no.82 '04.12 890yen

"道場破り"の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪／伝説の悪徳レフェリー降臨! 阿部四郎

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 '05.02 880yen

"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／"頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司／"起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

PRIDEvsHERO'S開戦!!
no.85 '05.03 860yen

PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、髙田延彦／パンクラス2大王者が揃い踏み! 髙阪剛×近藤有己／HBKが大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 '05.04 860yen

大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!／PRIDE GP&K-1 MAX 出場全選手パーフェクトガイド

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 '05.05 860yen

敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝のマッドネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫／蘇れ! 新日本プロレス学校対談 金原弘光×池田大輔

通　販　申　し　込　み　方　法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。
下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文

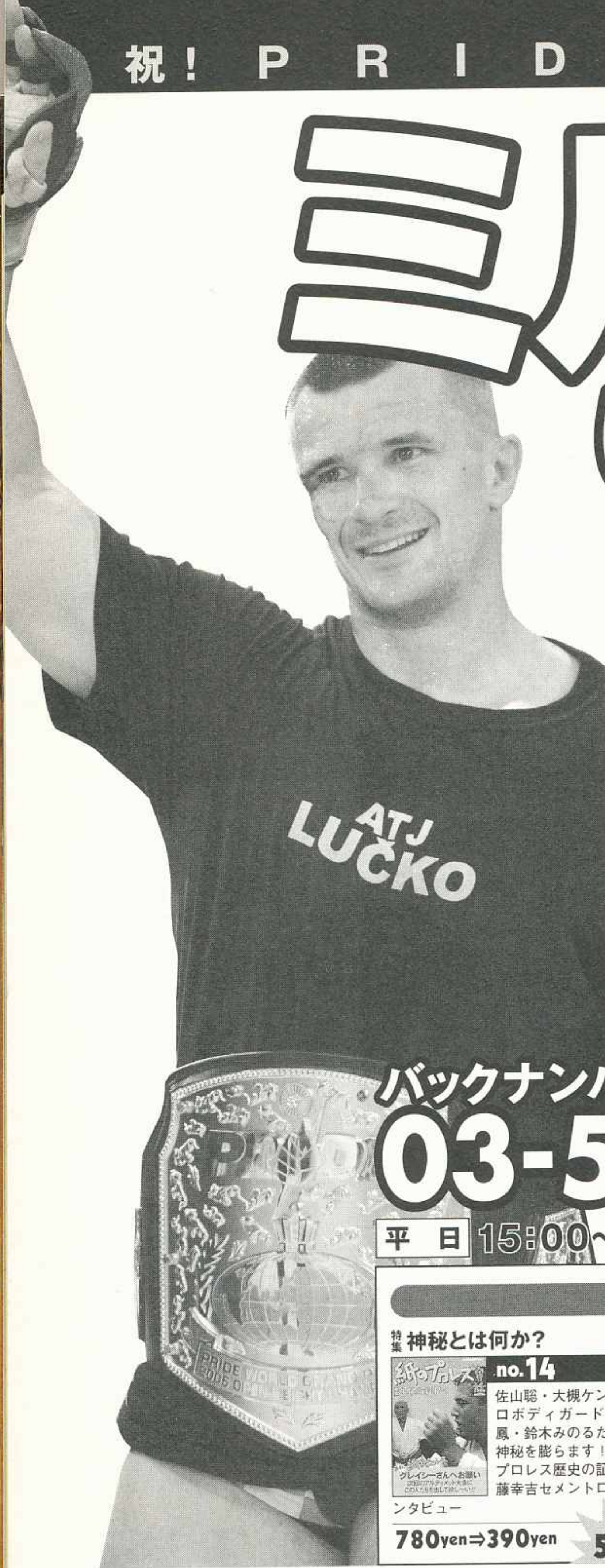
②電話注文
03-5368-1797

③メール注文
kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。
手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。
※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。

ご注意　郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

祝！PRIDE無差別級GP優勝

ミルコが表紙の紙のプロレスRADICALを いまこそゲット!!

生まれ変わる『PRIDE』
no.62 '03.05 880yen
ミルコが本格参戦するきっかけとなった『PRIDE.26』直前情報を大特集!! 対戦を間近に控える二人、ヒョードルと藤田和之のインタビューも収録。

頂上対決実現か？
no.65 '03.08 880yen
本誌初となるミルコ巻頭ロングインタビューを敢行！ 絶対の自信を持つハイキック技術論、王者・ヒョードルについて興味深いコメントも。

『武士道』夜明け前
no.66 '03.09 880yen
休む間もなく、『武士道』参戦表明！ なぜそこまでハイペースで試合をこなすのか？ コンディション調整についてミルコが語ってくれた。

04年、格闘新時代幕開け！
no.70 '04.01 880yen
ファイター、そして国会議員でもあるミルコ。多忙を極める彼を国際電話でキャッチすることに成功。 猪木祭り不出場の真相が明らかに！

『PRIDE』は俺が守る！
no.80 '04.10 880yen
「あいつの幻想を砕く」PRIDEファイターの誇りを胸に、ミルコがジョシュ迎撃を宣言！ その活躍ぶりを振り返るプロレスラーハンティングリストも収録。

2年越しの完全決着へ
no.83 '05.01 880yen
『男祭り』でランデルマンに借りを返し、あとは頂点に立つのみ！ 念願である『PRIDE』ヘビー級王座奪取への思いをミルコが激白。

バックナンバーは電話で注文できます！
03-5368-1797
平日 15:00～22:00　販売元 （株）ダブルクロス

注 新装刊となった「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。 http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

本誌 Back Number

特集 神秘とは何か？
no.14
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

特集 インディペンデントの逆襲
no.15
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－1とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！ 「藤原組の逆襲」
780yen⇒390yen 50%OFF

パンクラス公式読本
矛・盾
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよォォ!!
各1260yen⇒630yen 50%OFF

格闘ノストラダムス！
no.16 '99.03 780yen
アントニオ猪木、環境問題を「紙プロ」で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／相撲多重アリバイ 石川孝司／語ろうジャンボ鶴田

"新"プロレスとは何か？
no.32 '00.10 840yen
田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村／"和製カレリン" 本田多聞

純プロレスを徹底検証！
no.35 '01.02 840yen
ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／"ノアの怪物" 杉浦貴／UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 '01.02 840yen
ノアから独立！ 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言／W★ING 史上最凶の歴史を紐解く／吉田豪に "ドラゴンの呪い" が襲う!!

純プロレス戦国絵巻！
no.37 '01.04 840yen
安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る!／アブダビコンバット01一大探検記!／シュート活字×ファンタジー活字／比類なきプロレスがWWFにはある!

小川直也は是か非か？
no.38 '01.05 840yen
忘れ物の正体は――。高田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル／プロレススーパースター列伝 阿修羅原／死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

前田日明は是か非か？
no.39 '01.06 840yen
前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男／プロレススーパースター列伝・田上明

地上最強のプロレスとは？
no.40 '01.07 880yen
蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎／プロレススーパースター列伝 グラン浜田

"最後の黒船"WWF来襲!!
no.41 '01.08 880yen
リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!／W☆INGの真実・茨城清志／毒舌知能犯 秋山準語録

アントンパワー大爆発!!
no.42 '01.09 880yen
ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／"ヒャッホーの真実" 辻よしなり／蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光

話題の
ナチョ・リブレ 覆面の神様
を観る前に
予習必至!

秋の夜長に

珠玉の名作から、驚異の迷作まで。

プロレス映画はどんなもんじゃい?

映画好き&プロレス好き。この秋、両者のツボを突きまくるジャック・ブラック主演『ナチョ・リブレ 覆面の神様』がついに公開される!? そこで"プロレスと映画"という不思議な距離感の両ジャンルを横断する、過去の傑作〜迷作群をピックアップ! 秋の夜長にプロレス映画はどんなもんじゃい?

文/橋本宗洋 構成/真下義之 designed by nogu (Two three)

ジャック・ブラック
ナチョ・リブレ
覆面の神様

ハリウッド大作からトンデモルチャ映画まで
"プロレスラー出演"モノ

おそらく、現役選手の映画出演が最も多いスポーツのジャンルはプロレスだろう。力道山の昔から、日本でもアメリカでも"レスラー出演映画"は数え切れないほど存在する(エド・ウッド映画の常連トー・ジョンソンもプロレスラーだった)。ただ、その多くがアクション場面の"筋肉要員"、あるいは単なる話題作りの域を出ないものだった。

その壁を完全にブチ破ったのが、ご存知ロック様である。『ハムナプトラ2』で脚光を浴び、そのスピンオフ(番外編)である**『スコーピオン・キング』**では堂々の主演。ロック様の何が凄いといって、プロレスファンの目にもまったく違和感のない(思わぬ場所で知り合いに会ってしまったようなムズがゆさが皆無の)ハリウッドスターっぷり。次々と出演作が撮られ、最近もクリント・イーストウッドの『ダーティファイター』リメイクに主演するという噂も聞こえてくるロック様。その妙技はスクリーンでも冴えまくっている。

もちろん、何事にも先達はいるものである。80年代のウルトラ人気がハリウッドにも飛び火したのがハルク・ホーガン。ブレイク前の『ロッキー3』出演は有名だが、主演作**『マイホーム・コマンドー』**も、芸達者クリストファー・ロイドがワキを固めたこともあって意外に評価が高い。個性が強すぎて俳優という"素材"になりきれず、作品の多くがB級アクションゆえ"プロレスラー出演作"というワクを超えることはできなかったが、その功績はやはり大きい。

同じくWWF(現WWE)からの映画出演といえばロディ・パイパー。日本未公開作も多く俳優としての活躍が伝わりきっていない感はあるが、**『ゼイリブ』**だけは忘れちゃいけない。ホラーの巨匠ジョン・カーペンター作品で主役を張ったという事実。これは恐ろしく大きい。作品自体も、現代社会への風刺に満ちたSFアクションとして水準以上の出来栄えとなっている。

そして、プロレスラーと映画の関係で欠かせないのが**メキシコ**である。かの地では**映画スターとルチャのヒーローが地続き**なのである。サントがサントのまま、マスカラスがマスカラスのままで映画の中で活躍するわけだ。といってジャンルもプロレス映画かというとそれだけではない。トップルチャドールがあからさまに低予算な画面の中で女吸血鬼やエイリアンと闘ったりする様は、あらゆる意味でショッキング。

『スコーピオン・キング』
(ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン)

『マイホーム・コマンドー』
(※写真は海外版ジャケット)

『ゼイ・リブ』
(ジュネオン エンタテインメント)

『愛と宿命のルチャ』
(※写真は海外版ポスター)

レジェンド伝記からブロンド女子プロまで
"プロレス業界"モノ

『ナチョ・リブレ』のパートでも書いたが、プロレスを題材にした映画はちょっと厳しいというのが相場であった。

例えばプロレス映画で『ロッキー』や『レイジング・ブル』、『ナチュラル』や『さよならゲーム』に匹敵するような作品があるかというと、首をひねらざるを得ないのである。唯一、思い当たるのは女子プロレスを描いた**『カリフォルニア・ドールズ』**(骨太アクションの大家ロバート・アルドリッチ監督! ミミ萩原も出演!!)。

ただ、最近では"プロレス情報解禁"で作る側も観る側もとらえ方が自由になったのか、作品として観応えのあるプロレスモノ映画も多くなってきた。その代表例が、**『力道山』**だろう。戦後最大の英雄の一人を、裏も表もあますところなく描いた韓国映画。立身出世にかけた力道山の執念(というより妄執)、不安と紙一重の暴君ぶり、さらには裏社会との関係。

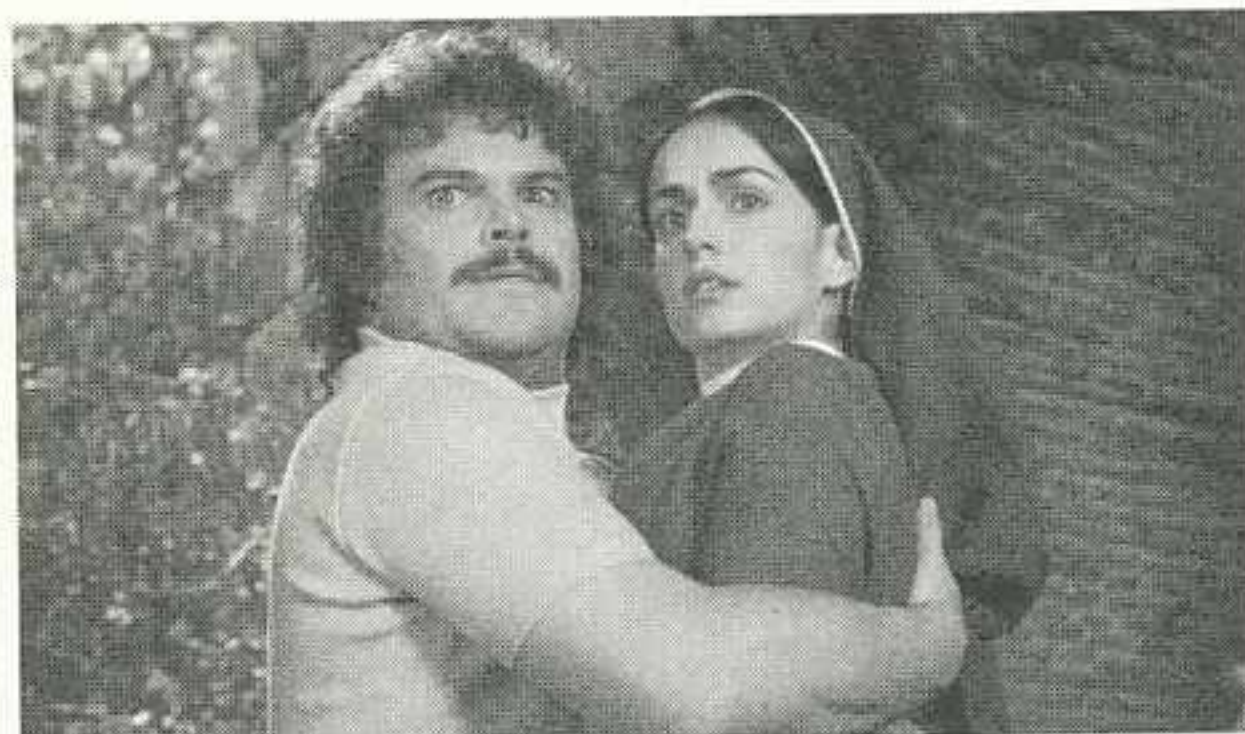
いわゆる的な英雄物語ならタブーとして避ける部分こそが、人間・力道山に迫るこの作品に深いコクを与えている。主演ソル・ギョングのカメレオン俳優ぶり(ほかの出演作と見比べるべし)、船木誠勝、橋本真也からドス・カラス・ジュニアまで多数登場するプロレスラーたちがどんな役で出ているかも見逃せないところだ。

『ナチョ・リブレ』が気になるアナタには、ぜひチェックしておいてもらいたいのが**『グラン・マスクの男』**。ジャン・レノ全盛期の作品で、やはりフライ・トルメンタがモチーフ。こちらは『ナチョ・リブレ』とは正反対にシリアスかつハートフル、事実に忠実に映

これまで、プロレス映画というと他のスポーツものに比べて〝日陰感〟が少なからずあった。どうしても話題がマニアックなほうにいってしまいがちというか。が、この『**ナチョ・リブレ 覆面の神様**』はそうではないと断言できる。なにしろ主演が『スクール・オブ・ロック』のジャック・ブラックである。監督はルーザー青春コメディの大傑作『バス男』のジャレッド・ヘスである。プロレスファン以上に映画好きにアピールするメンツではないか。

貧しい修道院に暮らす孤児たちの生活を支えようと、さえない主人公が一念発起、ルチャドールとして活躍……というストーリーは、つまり〝暴風神父〟フライ・トルメンタがモチーフ。しかしこの映画、けっして〝いい話〟には走らない。ヒロイン以外はへんな顔しか出てこないキャスト。首尾一貫したストーリーテリングをいさぎよく放り出した見せ場重視の展開。そして顔で、動きで、声で、とあらゆる手段で笑わせまくるJ・ブラックの個人技。それらをただただ楽しめばいいのである。

「笑撃的感動作」がキャッチフレーズだけにプロレス（ルチャ）的リアル度は〝？〟。だが試合開始の合図がホイッスルだったり、ラウンド制だったりと妙なところでツボを押さえている。シルバーキング（ラスボス役）やパンディータなど、随所に登場するルチャドールも要チェック。ハリウッド映画にパンディータ！　この脱力感&ニンマリ感が、『ナチョ・リブレ』のテイストと魅力を象徴しているのである。

教会の修道院育ちのナチョ（ジャック・ブラック）はボンクラ人生から一念発起し覆面レスラーに。修道院の孤児たち、愛するシスターのため、ズッコケルチャ道を邁進するが……。

『ナチョ・リブレ 覆面の神様』（UIP映画配給）
主演／ジャック・ブラック　監督／ジャレッド・ヘス　11月3日（金・祝）よりテアトルタイムズスクエアほかで全国ロードショー公開。（2006年／アメリカ／92分）

画化されている。それだけに〝地味〟という意見もあるが……。

日本では、数年前に『いかレスラー』、『ワイルド・フラワーズ』など突如としてプロレス映画のプチブームが勃発。その中で際立った存在なのは『**お父さんのバックドロップ**』だろう。

故・中島らも氏によるプロレスファン号泣必至の名作短編が原作。〝父と子の物語〟というベーシックなワク組みの中に散りばめられた悪役レスラーの純情、偏見との闘い、あるいは昭和テイストな〝異種格闘技戦〟への視線にはグッとくること確実である。

個人的に思い出深いのは『**あゝ！一軒家プロレス**』。映画のワクを完全にはみ出した、映画版お笑いウルトラクイズともいうべき強引かつメチャクチャ、それでいて愛すべきこの作品の取材で、筆者はただ一度だけ橋本真也にインタビューしたのだった。

『カリフォルニア・ドールス』
（※写真は公開時ポスター）

『力道山 デラックス・コレクターズ・エディション』
（ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント）

『グラン・マスクの男』
（バンダイビジュアル）

『お父さんのバックドロップ』
（アミューズソフト エンタテインメント）

そのとき、カメラが映しだした真実とは……
“プロレス・ドキュメント”モノ

プロレス映画で傑作、名作の宝庫といえるのが、ドキュメンタリーの分野である。〝裏側が見られる〟という興味ももちろんあるのだが、ここで紹介する作品にはそれ以上のおもしろさが詰まっていると保証できる。

なんといっても有名なのは『**レスリング・ウィズ・シャドウズ**』と『**ビヨンド・ザ・マット**』のアメプロ二大名作。WWFで起こった〝ブレット・ハート追放事件〟を克明に追った『レスリング〜』は、まさにプロレスの〝影〟。わかってはいながらも、ファンがいままで見ないようにしてきた部分が白日の下にさらされたわけで、当時の衝撃といったらタダゴトではなかった。

『ビヨンド〜』にも、プロレスの裏側がこれでもかとばかりに映しだされている。なにしろロックとマンカインドが、カメラの前で試合の〝打ち合わせ〟を繰り広げるのだ。ただ、子どもの頃からずっとプロレスに夢中だったというバリー・W・ブラウスティン監督の主眼は〝プロレスラーとしてしか生きられない男たちの業〟にこそある。引退と復帰を繰り返すテリー・ファンク。酒とドラッグに溺れ、家族に見捨てられながらドサ回りを続けるジェイク・ロバーツ。妻子の見守る前で壮絶なデスマッチを展開するミック・フォーリー。プロレスへの深い洞察と愛情という点で、この作品に優る映画はないだろう。

日本を舞台にしたものでは『**ガイア・ガールズ**』が名高い。タイトル通り女子プロレス団体ガイアで練習生が過酷な試練を乗り越えてデビューするまでを描いているのだが、独特なのはこれがイギリス人女性スタッフの手によるものだということ。宝塚のドキュメンタリーを撮ったこともある彼女たちの視線の先にあるのは、単純な努力と根性の物語ではなく、日本にしかない〝女子プロレス団体という特異な世界〟と、そこで生きることを決めた少女の生き様なのだ。

……と、ここまでは正攻法のドキュメンタリーである。しかし、同時にこれも紹介しておかなければいけないだろう。そう、『**四角いジャングル**』シリーズである。

基本的にはアントニオ猪木やベニー・ユキーデ、藤原敏男の試合を集めたものなのだが、試合映像以外では〝これ、ホントにドキュメントか!?〟な場面も盛り沢山。現実とフィクションを限りなくリンクさせた梶原ワールドならではの酩酊感は〝リアル〟ばかりがもてはやされるいまだからこそ観ておきたい。

『レスリング・ウィズ・シャドウズ』
（ハピネット・ピクチャーズ）

『ビヨンド・ザ・マット』
（ビデオメーカー）

『ガイア・ガールズ』
（ジュネオン エンタテインメント）

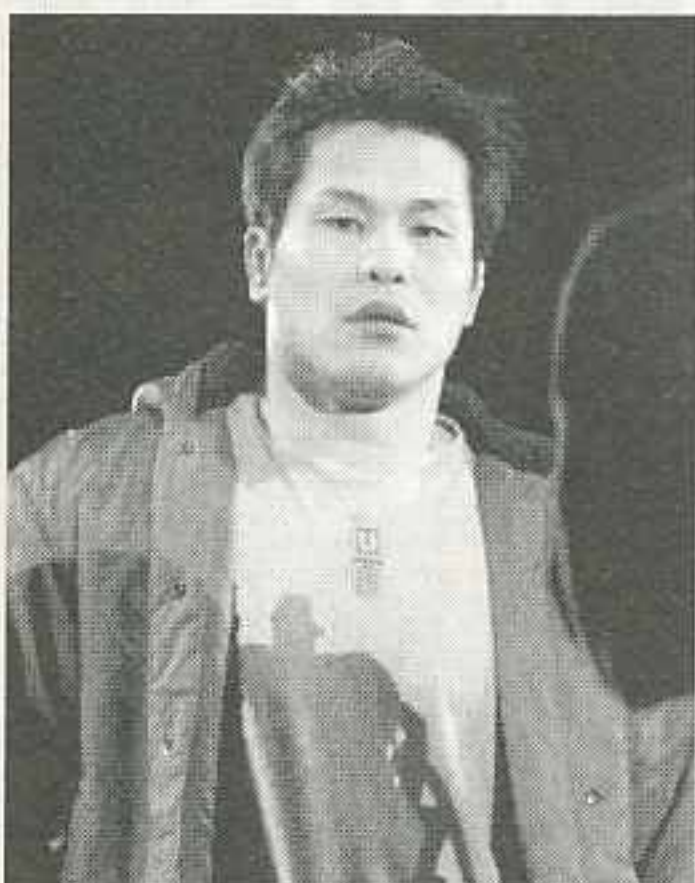
『四角いジャングル 格闘技世界一』
（ポニーキャニオン）

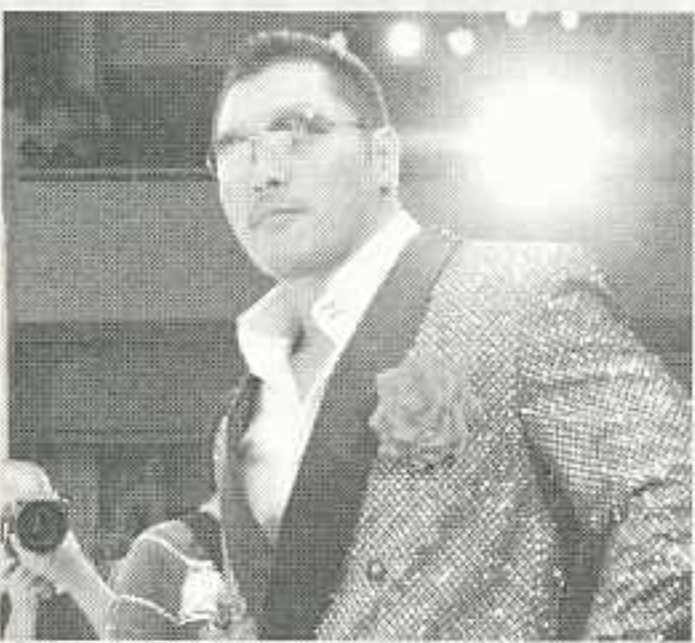
携帯サイト『kamipro Hand』を宣伝したいダブルクロス電気部のページ

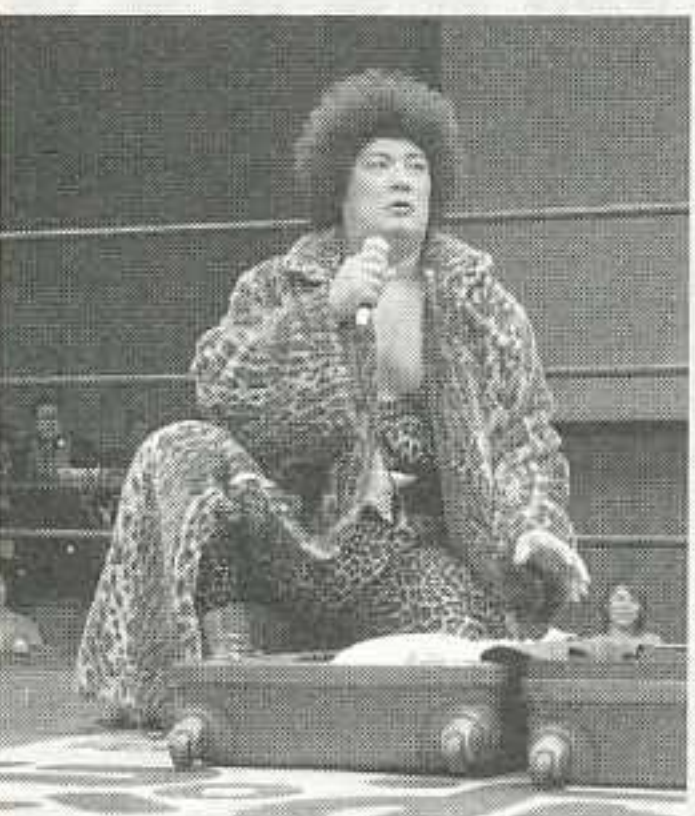
エレクトリック Hand Power

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand（以下『Hand』）』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくなる、過剰な更新頻度とおもしろさの『Hand』をこのページではちょっとだけ紹介させていただきます！

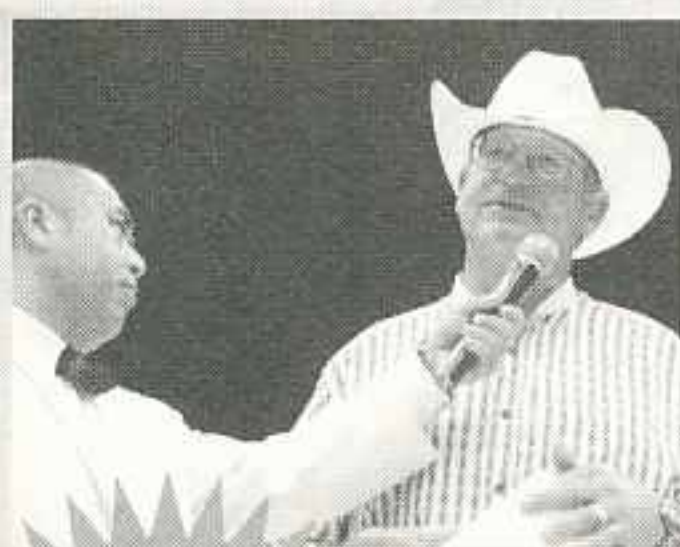
プロレス&格闘技情報No,1サイト『kamipro Hand』はコラムもおもしろい！ 9月スタートの新コラム3本、その中身をちょっとだけ公開!!

9月1日より毎週土曜日に隔週交代で連載スタートした新コラム『坂田亘の裕次郎を超える日まで』、『田村潔司のあいのり人生相談』、そして日曜コラム『マッスル坂井のザッツ・エンターテインメント』。ほんの一部ですがご覧ください。

日曜コラム 田村潔司のあいのり人生相談（9月9日更新分より抜粋）

――まず一発目は「とある事情で会社を辞めて、いまは失業保険で生活してます。しばらく時間がたっぷりあるので、映画でもたくさん見ようと思っているのですが、何かオススメの映画やドラマがあったら教えてください（名古屋・俊平・26歳）」という相談なんですが?
田村「すごい前向きというかプラス志向だよね（笑）。その前に『仕事探せよ!』って話でしょ？（笑）」
――そうですね（笑）。オススメのテレビ番組は何かありますか?
田村「オススメのテレビ番組は……（熟考）そうだなぁ、好きな番組は『あいのり』だね」
――あれ、『あいのり』ってまだやってるんでしたっけ?
田村「いやいや、現役よ！ バリバリよ!!」
――し、失礼しました！（笑）。
田村「あれは、いい番組だね。あれを観ながら、チャチャを入れるのが好きなの。『そこは違うだろッ！』とか『もうちょっとためないと』とかね（笑）」
――「そこで引いちゃダメだろ！」とかですか？（笑）。
田村「そうそう！『そこでいかなきゃ！』みたいなね」
――セコンドみたいなもんなんですね（笑）。
田村「そうそうそう! 客観的に観ればよくわかるのよ、何が正解かって」
――……。
田村「なに、そんなアホの子を見るような目で見てんの!?（笑）」
――いやいやいや、そんなことはないです！
※田村潔司さんへのお悩み、絶賛募集中です！

土曜コラム 坂田亘の裕次郎を超える日まで（9月16日更新分より抜粋）

おう、俺や！ ハッスルの新ＧＭになった坂田亘や!!　まあ、ＧＭになるのは選挙をやる前からわかりきってたことだけどな（ニヤリ）。これからは俺様のことは“ゼネラル・マネージャー・ワタル”、略してGMWと呼べ！　カッコイイだろ。
今日はな“実業家”坂田亘の一面をオマエらに話してやろう。巷では“坂田亘被害者の会”とか言って俺様のことを暴力男と思い込んでるヤツも多いだろうが、俺は好青年だから（キッパリ）。
いまこれを読んでる『kamipro Hand』のユーザーとかより税金だって全然納めてるからな。携帯サイトとか『kamipro』とか買って楽しんでるような貧乏人とは違って、国のために働いてんだよ。どうだ、好青年だろ!? オマエら貧乏人は、俺が代官山に出した和食ダイニング『わたる』の料理でも食べて本物の味を知ってほしいよ。
店を出した理由？ まあ、いろいろあるけど、俺様の天下獲りへのひとつの手段や！ これからは、いろんなことがこの店を中心に回っていくから。（店のある）代官山は3年以内に牛耳ろうと思ってるしな。これはハッタリでもなんでもない。やると言ったらやるのが俺様や!

日曜コラム マッスル坂井のザッツ・エンターテインメント（9月17日更新分より抜粋）

全国1万人のプロレスファンの皆さんビー・トゥギャザー！（こんにちはの意)、マッスル坂井です。明日(というか今日)は大阪で試合なんで早くこのコラムを書かないと選手バスに乗り遅れてしまいます。だからといって手抜きはしません。気合で2000字書きたいと思います。まあそんなに書く必要ないんですけどね。
そういえば先週は「結婚情報サイト」についていろいろ書いたんですけど、藤岡メガネ（DDTテック社員）がこないだの火曜日にその結婚情報サイトで知り合った女性とついにご対面を果たしましたことを報告します。その女性が働いている新宿区にあるメイド喫茶風喫茶店に行った藤岡ですが、その生気のないメガネルックが彼女のお気に召さなかったらしく、その場では普通にウェイトレスと客として接しられ、その後メールをしても二度と返事が帰ってくることはなかったそうです。
でもこういった「結婚情報サイト」とか「出会い系サイト」とかで実際に会えたりすることってあるんだなーって密かに感動しました。だから読者のみなさんも、もし皆さんが愛読するkamiproをはじめとするプロレス専門誌にそういったサイトの広告が掲載されていたら一度お試しになってはいかがですか? なんなら今度は僕がこのkamipro Handで得た原稿料でkamiproに載ってる「結婚情報サイト」で運命の花嫁と出会えるか公開出会い実験をしてみようかと思います。もうね、プロレスラーの皆さんもミクシィとかでコソコソとファンをナンパしてる時代じゃないと思いますよ（苦言）。

続きは携帯サイト『kamipro Hand』へアクセス！

他では手に入らないスペシャルボイスも更新! 10月はスタン・ハンセン登場!!

これまでも、ケロちゃん（田中秀和）や井上義啓編集長、谷津嘉章ボイスを配信してきた『Hand』。10月は“王道”スタン・ハンセンが登場ッ!　あの声が着信や着メールを教えてくれるぞ！

9月はリニューアル記念・7大プレゼント実施! 10月も第2弾として豪華プレゼント用意します!!

新コラムだけじゃない！ 月～金も充実のコラムメニュー!!

★Ｉ編集長こと井上義啓氏の激筆が毎週読める！
月曜コラム「喫茶店トーク」
★誌面では語られなかったあの裏側!?
kamipro編集部による火曜コラム「kamipro一週間」
★マット界有数のスーパーヘビー級ライター・
橋本宗洋の満腹水曜コラム「格闘まいう～通信」
★ターザン山本！が毎週愛のテロ爆弾を無差別投下！
木曜コラム「ラブレター・フロム・葛飾」
★ＧＫこと金沢克彦がマット界の裏も表も語りつくす！
金曜コラム「やがて鐘は鳴る」
……以上メニューを揃えてお待ちしてます！

⬆写真は中川画伯による『PRIDE 無差別級ＧＰ』4選手・イラストカレンダー！　時事ネタも取り入れた中川画伯の新作イラストの他に『kamipro』誌面未公開ショットも多数配信！

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!
2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス
3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

キャリア				
DoCoMo	iMenu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技
WILLCOM	趣味&スポーツ	スポーツ	総合	
WILLCOM	エンターティメント	TV・メディア・本	本	

kamipro Hand

［QRコード］

電気部員が毎日更新！　裏話から大会総評までガンガンアップ！「denkiブログ」もスタート！

老舗プロレス週刊紙『週刊ファイト』休刊問題をブッタ斬る!!

言うちゃ悪いけど今月の直言!!

『週刊ファイト』死すとも“井上”死せず!!

プロレス・マスコミの“生きる伝説”

I編集長の喫茶店トークラウンド

マット界に衝撃！　1967年から40年近く続いた老舗プロレス週刊紙『週刊ファイト』が、9月いっぱいで突然の休刊を迎えてしまった。この事態を初代編集長にして、人生のほとんどを『ファイト』に捧げた我らがI編集長はどう思っているのか？

聞き手／堀江ガンツ　designed by bun-chan (Two Three)

I編集長とは?

井上義啓。元『週刊ファイト』編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者の数は計り知れない。70歳を越えたいまも、毎日、プロレス&格闘技のことを考える哲人だ。

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand（以下『Hand』）』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！ 一度加入したら絶対やめられなくなる、過剰な更新頻度とおもし

——さて、井上さん。今月は『PRIDE無差別級GP決勝戦』がありましたけど、今回はその前に、かつて井上さんが編集長を務められていた『週刊ファイト』の休刊について、率直な思いを聞かせていただけたらと思います。

井上 まぁ、『週刊ファイト』とはなんだったのかと言えば、それすなわち井上義啓のことだったんだよな！

——『ファイト』イコール、I編集長！

井上 これは何も自慢するわけでもなんでもなくね、そもそも『週刊ファイト』というのは昭和42年に創刊されたんだけれども、ハッキリ言って最初から俺が編集長みたいなもんだったんですよ。

——創刊当時から"I編集長"でしたか。

井上 もちろん当時は上に人はおったんだけれども、事実上、俺が編集長。だから全部俺が自分で作ってたのね。

——そうなんですか？

井上 創刊当初の『週刊ファイト』はプロレス専門紙というわけじゃなく、プロレス以外にも、野球やボクシング、それから社会部ネタ、ポルノなんかもあって、そういった普通の週刊紙としてやっとったわけだ。ただ、やはりプロレスというのは当時の新聞のドル箱だったから、プロレスが中心だったというだけでね。そういった関係で一面はプロレスの記事が多かったんですよ。

——プロレスを中心とした総合週刊紙だったわけですね。

井上 ところが新大阪新聞本紙の上の連中はみんなプロレスが嫌いでね。嫌いだから書かない。それで俺はプロレスが好きだったし、「井上がプロレスをうまく書くから、井上に任せよう」ということで、本紙のほうもいつも俺が一面を書いとったんですよ。

——一面なのに下の人間がやってましたか（笑）。

井上 だから「明日お休みいただきます」なんて言うと、「なんだおまえ、明日休むのか。だったら明日の一面書いてから帰れ」なんて言われてね。プロレスを書くヤツがおらんから、俺が翌日の一面まで書いとったからね。

——ダハハハ！ なぜかもう次の日の一面ができている（笑）。

井上 まぁ、そんな連中に書かせても遅いしね、俺は原稿が早かったから、「僕がやりますよ」なんて言うてね。で、全部やってましたよ。まぁ、みんなやる気がなかったんだよな。『週刊ファイト』はプロレスネタ中心で、勝負もプロレスだったからね。それなのに、社長も社員もプロレスが嫌いだったんだよ。

——新大阪新聞社はプロレス嫌いだらけ！ それは意外ですね。

井上 だから当時の『週刊ファイト』はプロレスとポルノの二本柱で、野球とかボクシング、ゴルフのページもあったけれども、社長が目を通さんのをいいことに少しずつ減らしていって、だんだんプロレス記事を多くして、5年か6年経ったときにいまのようなプロレスが中心というかたちに俺が持っていったんですよ。

——井上さんが『ファイト』をプロレス新聞に変えてしまったんですね（笑）。

井上 でも、やっぱりプロレスを中心に持っていき始めてから、売れ始めたんだよな。当時、新大阪新聞の本紙は赤字でどうにもならんかったけど、『ファイト』が黒字を出して、それで穴埋めしとったからね。『ファイト』が会社を支えとったようなもんですよ。

——それってすなわち井上さんが支えていたってことですよね。

井上 俺は若僧だったけど、そういったことで文句を言う人間はおらんかったからね。だから『週刊ファイト』というのは、最初から俺が作って、俺のカラーで作り上げてきたんですよ。

——まさに「井上プロレス」だったと。

井上 だから、「『週刊ファイト』とはなんぞや？」と問われたら「井上ぞや！」と答えることができる。それぐらい井上色に染まっとった。

——「井上色」っていいですね（笑）。

井上 編集部全体が、みんな俺のカラーで動いとったし、いまの井上譲二という編集長はそういった色合いの記者でしたよ。そういう男じゃなかったら、俺の下につくことはできなかったしね。だからそういった色合いでずっときて、『『週刊ファイト』は異端児だ』ということで、業界から嫌われていたことは確かだしね。

——やっぱり業界で嫌われてましたか。そういう点でも『kamipro』の大先輩ですね（笑）。

井上 言うちゃ悪いけど、そこいらの新聞や週刊誌みたいな提灯記事を書いて、「ああ、いい子ちゃん」とは違うからねぇ！ だからとくに全日本プロレスあたりからはもの凄く嫌われた。「猪木新聞だ！」言うてね。

——本誌もよく「DSEの機関誌だ！」なんて言われたりしております（笑）。

これが創刊当時の『週刊ファイト』紙面。野球や社会面、官能ポルノ記事などがあり、いまとはだいぶ雰囲気が違う。逆に言えば、この当時はこういったニュースと同じだけのバリューがプロレスにあったということだ。

『ファイト』創刊当時から俺が事実上の編集長
自腹を切ってまで必死になってやってましたよ

井上　でも、「猪木新聞」じゃないんだよな！　猪木のやり方というものに俺は共鳴しておったただけで、ハッキリ言って馬場のやり方には共鳴できなかった。その猪木のやり方とは何かと言えば、真剣勝負に近いことをやっとったということですよ！　言うちゃ悪いけど、馬場はやってないから。

――馬場はやってない（笑）。

井上　猪木が新日本プロレスを旗揚げする前、東京プロレスでジョニー・バレンタインとやったわな。俺はあれを見て「プロレスの記事を書かなアカン」と思ったんだから。それまでいつ辞表を提出しようか考えとったのが、もう辞表提出どころじゃない。「これこそ俺が望んでいた試合だ」と思って、とにかく猪木の記事を書いたわけですよ。そこからずーっときたわけ。

――じゃあ、I編集長の原点は猪木vsバレンタインにあるわけですか。

井上　そうですよ！　それまでは力道山時代の記事なんてね、いまから考えるとええ加減な記事を書いとった。ところがそれを変えたのが猪木vsバレンタインですよ！

――そこまで影響を受けましたか……。

井上　だからそういったこともあって、俺は新日本プロレスに傾倒していった。そのへんが馬場はわかってくれなかった。馬場は日本プロレスの系統をそのまま受け継ぎましたからね。ああいったプロレスっていうのは、俺は好きじゃない。ハッキリ言って嫌いなんだ。

――ホントにハッキリ言いますね（笑）。

井上　そうこうしているうちに、猪木vsアリに代表される異種格闘技戦というものが出てきて、「さすが猪木はやることが違う」と。余計猪木にのめり込んでいった。猪木のことばかり書いとったからって、べつに俺は猪木から金をもらったわけでもないし、おべっか使われたわけでもない。自分の信念にのっとって、『週刊ファイト』を作っとったんだから。

――いやぁ、素晴らしい姿勢ですね。勉強になります！

井上　幸いなことに『週刊ファイト』は売れましてね、新大阪新聞本紙の赤字を、なんとか『ファイト』の頑張りで食い止めていたんで、とにかく俺は他の連中が家に帰っても一人会社に残って、会社に泊まり込んででも必死になってやってたからね。

――なんでそこまでしてやってたんですか？

井上　それは俺の性格ですよ！　金がどうのこうのなんて関係ない。自分の好きな仕事には全力を尽くす。だから、会社から取材費が出ないときは、自分の金をどんどん使ってやりましたよ。たとえば井上譲二が「アメリカ行きの取材費をください」と言えば「よし行け」と。それで、上と掛け合って「社長、アメリカに行きますんで50万円出してください」と言っても「アホ！」の一言でしまい。それでもねばって「じゃあ30万円まで出そう」と言わせたら、残りの20万円は俺が自腹を切るということをやっとったからね。

――凄いですねぇ！

井上　だから車を買うどころか、女を買うどころか、そんなことしとられへん。また暇もなかったわけよ。朝から晩まで仕事をしとったからね。休めたのは大晦日と元旦の二日だけですよ。

――年間363日出勤ですか！

井上　そのほかはもう休んだ記憶はない！　よく身体がもったなと思うんだ

第634号　ファイト

週刊ファイト　150円

FIGHT　2月17日号

ハンセン起つな…殺したくない！

猪木怒号

新日プロ4大決闘

藤波vsD・キッド

坂口、長州vsジョンソン、アレン

藤波vsS・カーン

猪木vsS・ハンセン

発行所　新大阪新聞社

やはり『週刊ファイト』と切っても切り離せないのがアントニオ猪木。I編集長が掘り下げに掘り下げた猪木論は、文学の域まで達していた。

6月2日、東京、猪木、救急車、病院、記者発表！

猪木神話の終焉

ファイト ドキュメンタリー劇場

昨日今日明日 ファイト直言

ウサン臭い存在…それが記者だ

『週刊ファイト』と言えば、新聞の社説にあたるI編集長の「ファイト直言」と、I編集長流のプロレス・ルポルタージュ「ドキュメンタリー劇場」。昭和のプロレス者にとって、これらの記事はまさにバイブルであった。

けど、好きな道だったから、俺はそこまで仕事に打ち込んでいたわけ。だから自分の人生というものを振り返ってみて、後悔は一切ない！ 我が青春に悔いなし！

——そう断言できるというのは、本当に素晴らしいですね。

井上 よくやったなと思って。自分で自分をほめてますよ。ほかの人間で「俺でもやれる」というヤツがおったら、やってみいと。とてもじゃないけどやれないよ。そういう自負心だけは強かったね。だから俺の仕事っていうのは、おざなりのその日暮らしを成り立たせるための仕事じゃなかったのよ。だからよかったのは、上からああだこうだあんまり言われなかったことね。

——自分の思ったように、仕事に打ち込めたわけですか。

井上 そう。会社の大きな方針というのはあったけど、それ以外に紙面の内容については、自分のやりたいようにやってきた。だからそういった意味では、俺は幸せな仕事をやったんだなと。おもいきり自分の仕事、人生をまっとうしたなと。そういう思いでいっぱいですよ。それが俺の自慢話になるけど、『週刊ファイト』の歴史だな。

——そんな井上さんが、何十年にもわたって心血を注いだ『週刊ファイト』が休刊になることは、寂しくないですか？

井上 これはもうね、時代の流れでね。寂しいもへったくれもない！

——寂しいもへったくれもない（笑）。

井上 俺が『週刊ファイト』を辞めるとき、編集部のみんなに言うた。「活字プロレスというのは、もう轢殺される」と。「だからおまえらもいまから次の仕事先を見つけておけ。そのときになって真っ青になってバタバタするようなことはするな」と。もう平成二年の時点で何回も言っておいたのに、連中はいまだに俺の言うこと守ってないんだよな！

——せっかくの忠告を守ってませんでしたか（笑）。

井上 だから今回「おまえら、次の仕事先はあるのか？」と聞いたら「なんにもありません」と答えよった。だから言ったんだよな「『週刊ファイト』を一生懸命やるのもいいけど、いずれ廃刊になるのだから。いまからコネを見つけたりしておけ」と。

——井上さんが辞められた頃は、まだ『ファイト』の売れ行きも良かったんですよね？

井上 売れてた。俺が辞めたのは売れ行きが落ちたからじゃなく、身体がもたなくなったから辞めたんだよ。とにかく会う連中がみんな「編集長、死相が漂ってますよ」と言っとったからな。

——逆に言えば、限界まで頑張ってたわけですよね。

井上 そう。俺の代わりがいなかったから、辞めるに辞められなかったしね。それが当時、俺の下にSという人間がおってね。俺に口答えするような男じゃなかったんだけど、ある日、「もっと原稿を早く出せ！」と言ったら、「編集長だってコラムを遅く出してるじゃないですか」と言ってきた。「俺はギリギリまで情報を待ってコラムを書いているだけで、書ける原稿を遅く出しているのと違う」と言ったんだが、「編集長がやってることは、僕にだってやれますよ」と言うので「あっ、そう。おまえ、やれるんだな？ それだったら俺の代わり引き継いでやってくれ」ということで、辞めることにした。

——そんな売り言葉に買い言葉が引き金だったんですか⁉

井上 俺にしてみたら千載一遇のチャンスですからね。すぐに社長室に上がって、「こうこうこういうわけで、Sという記者が明日から編集長やると言ってますので、辞めさせてください」と言ったんだ。そしたら社長が真っ青になって、重役連中にも「いま井上さんが辞めたら会社はどうなるんですか？」って言われたんだけども、俺ももう身体がもたなくてね。「悪いけど辞めさせてくれ」って辞表出して、「退職金もいら

好きな道でとことん仕事に打ち込んだのだから
自分の人生を振り返ってみて後悔は一切ない！

『週刊ファイト』がなくなっても、俺が書いたもの
俺が作った井上プロレスというのは残るからね！

ない。何もしてくれんでいいから」ってその日のうちに辞めたんだから。

――その日のうちに退社ですか！

井上 だから俺のやることっていうのは、ホントに急な人生であってね。計算ずくで動くわけではないんですよ。そういうことで辞めて今日に至ると。

――それにしても、それだけ身を粉にして働いて、退職金ももらわずに辞めるとは、潔いにもほどがありますよ！

井上 俺は給料のことも一切何も言わなかったからね。ハッキリ言うたら、編集長時代に他の新聞社から誘われとったし、行けば給料が二倍になっとったんだよ。でも、ナンボ言われても、俺は動かなかった。俺にとって仕事は金じゃないんだよな。だから辞めたとき、一銭も貯金はなかった。逆に自腹を切って取材費を捻出していたんで、会社に70万円の借金があった。

――ちょっと、それご自分を犠牲にしすぎですよ……。

井上 でも、新大阪新聞社を辞めて5年もしたら、あっという間に金が貯まったな。そりゃそうですよ。入ってくるだけなんだから。それまでは自腹切って出ていくばかりだったけれど、辞めてフリーになって10年経ったら、貯金が1000万超えてましたよ。

――1000万！　凄いですねぇ！

井上 これがあるからいま悠々とやっていける。言うちゃ悪いけど。

――『週プロ』編集長時代は大金を稼ぎながら、辞めてから0円生活のターザン山本！さんとは真逆ですね（笑）。

井上 だから辞めた当時はいろんな本も書いたし、原稿の依頼もあったしね。『プレジデント』とかいう真面目なところからも依頼があったし。『朝日新聞』や『神戸新聞』の原稿も書いた。それで俺は家におって旅行にも行かない、べつに高価な買いものもしない。だから貯まる一方でしたよ。それがなかったら、いまごろピーピー言うてやね。街の金融屋の厄介になって、死んでるわ。

――やはり、それは『週刊ファイト』編集長時代に築き上げたものがあってこそなんでしょうね。

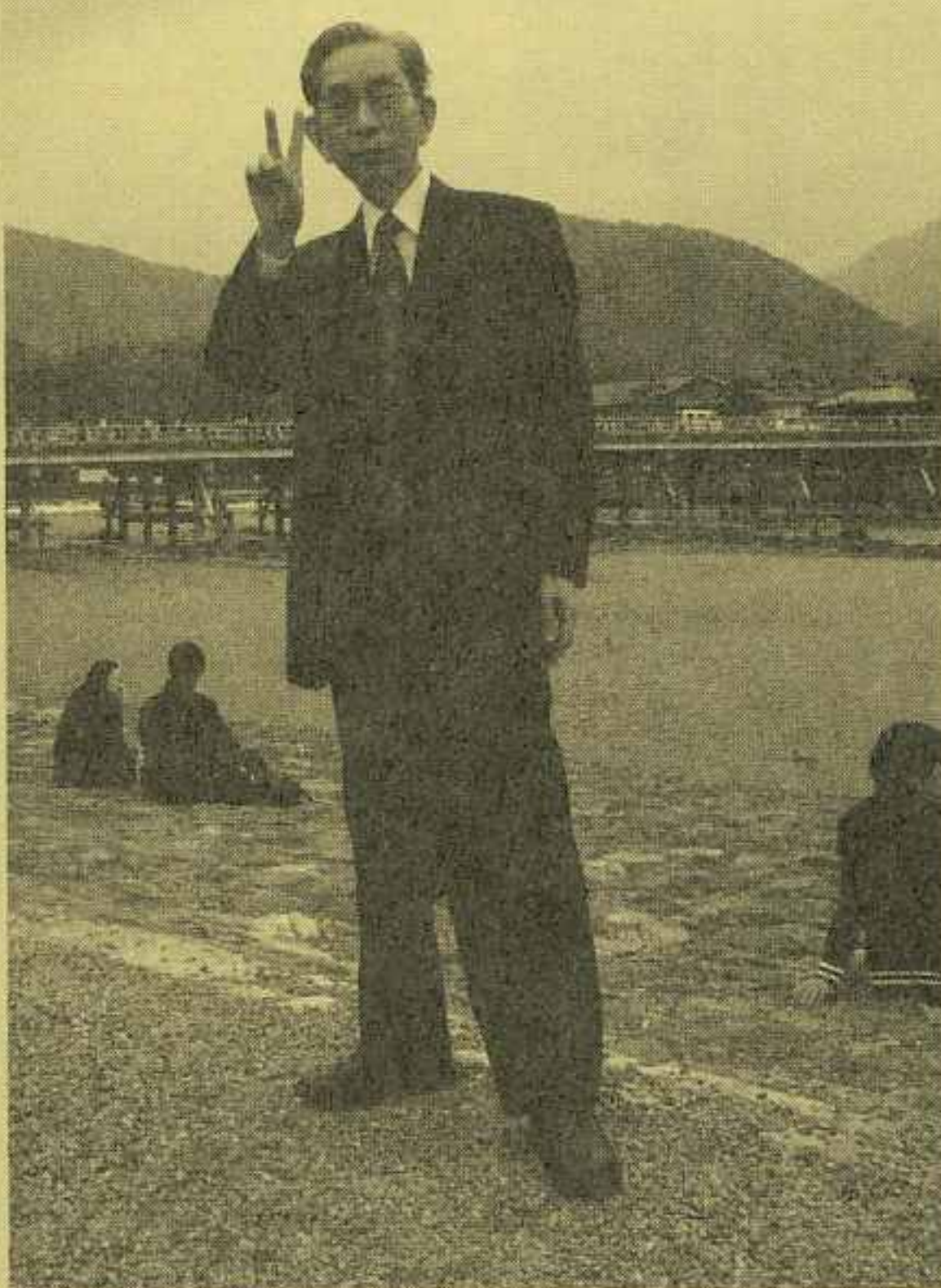
井上 だから、いまだにこうやってキミんとこからも仕事が来るしね。非常にありがたい話で、感謝してますよ。

――井上さんの場合、その年齢になられて、新しいファンがどんどん増えてますからね（笑）。

井上 いま、キミんとこの原稿をはじめ、週4本ぐらい仕事を抱えてるわけ。そんなに収入アップにはなってないけども、とにかく退屈はしない、ありがたいご身分ですわ。これが全然仕事がなかったらね、やっぱり退屈してボケると思うんだよな。

――なんでもそうですけど、現役を退くと老けると言いますもんね。

井上 だからこうやってキミらと話をすることによって、センサーが研ぎ澄まされるし、俺らしい感覚も生まれる。だから俺自身は、この仕事をやれるところまでやっていきたい、と。そういう現状でありますな。

――『週刊ファイト』はなくなっても、「井上プロレス」は不滅ということですね。

井上 まあ、そういうことでしょうな。『週刊ファイト』がなくなっても、俺が作ったプロレスとか、俺のあとを受けた人が書くものとか、しゃべるものとかは残るからね。

――では、これからのマット界というのは、どうなっていくと思いますか？

井上 やっぱり、このあいだの両国で武藤が他業種の連中と手を組んでやったわな。これは新しいやり方で、こういった方法をとれば生き残っていけるだろう。というか、あれしか方法はないのであって、いまノアだとかがGPWAがどうのこうの騒いどるけれども、ハッキリ言ってあんなもんはいかん！

――いかんですか（笑）。

井上 プロレスそのものがもうダメなんだからね。あと残るものはプロ格闘技だけであって。だから俺は新日本プロレスのレスラーたちにも、「アンタたちは他の団体の選手と違って格闘技ができるんだから、イチから格闘技の勉強をしてやりなさい」という活字は何本も書いたわけ。だから記者もレスラーも団体関係者も、いつまでもプロレス、プロレスではダメなんだよ‼

――もうプロレスなんて言ってる場合じゃない、と（笑）。

井上 もうプロレスというのは過去のものであって、時代はプロ格闘技に完全に移ってるんだから、そっちのほうへ行かないと生き残れませんよ。プロレスがどうのこうのじゃないんだ！　プロレスが廃れようが、盛んになろうが、プロ格闘技というものはもうどんどん勢いを増していく。この前の9・10『PRIDE無差別級GP』にしても凄いじゃないか。あれだけのことをやるんだったら、それはもう絶対PPVだけでやっていけますよ。

――凄く評判はいいですよね。

井上 これからベガスもある、タイソンも来る、クリチコ兄弟も来るかもしれない。楽しみは尽きませんわな。

――いやぁ、『週刊ファイト』は終わっても、井上さんはいまも全盛期だということが、よ～くわかりました（笑）。今後ともよろしくお願いします！

井上 あいあい。

【06年9月16日／電話取材にて収録】

金沢克彦

GKの『週刊ファイト』物語
I編集長と青春の旅立ち

元『週刊ゴング』編集長"GK"こと金沢克彦をプロレス小僧から"プロレス記者"にしたのは、『週刊ファイト』の3年半だった。古巣休刊の報を聞いたGKがいま振り返る、ファイト時代の貧乏＆希望に満ちた青春狂想曲！

文／金沢克彦　designed by Tani-yan（Two Three）

写真は『週刊ファイト』時代のGKのプロレス記者クラブ記者証。当時のファイトの記者はカメラマンも兼ねていた。

プロレス界の不況、出版不況でマスコミが揺れ始めたのは、ここ3、4年の話。実際に二年前の10月半ばまで『週刊ゴング』の編集長を務めていたわけだから、私自身もその渦中にいたし、各媒体の数字（実売）もほぼ把握していた。『週刊ゴング』の場合は迅速に動いたことが、ある意味、延命につながった。会社が身売りすると同時に、私も"長"を退いたが、これはすべて個人の意思によるもの。一言でいうなら、疲れ切ってしまったのだ。

売れない本を作り続けるという作業は、ストレス以外の何ものでもないし、自分の命を縮めていることまで実感してしまう。結果、在位期間5年9カ月で編集長降板を自ら申し出た。その一年後には、会社勤め自体がストレスであることにも気がついて退社。私はフリーターに戻った。

フリーライターなんて格好をつけずにフリーターである。しかも「戻った」というところに意味がある。なぜなら20年とちょっと前、私は二年間、無職のフリーター生活を送っていたからだ。

84年3月に青山学院大学経営学部を卒業したものの、まともに就職活動をしていなかったものだから、気がつくと無職のまま社会にほっぽり出されていた。そこで大学時代の先輩のツテを頼ったりしながら出版社などでアルバイトをして生活していた。当時、まだ"フリーター"という造語は世に出ていなかったので、私のような者は就職浪人と呼ばれた。かろうじて、フリーのアルバイターという言葉が生まれかけた時代だ。だから私こそ、いまをときめく（!?）フリーターの元祖、本家本元なのである。

もちろん、漫然とフリーター暮らしをしていたわけではない。『週刊ファイト』（以下、ファイト）に入ろう。そう決めていたのだ。「入りたい」ではなく、「入ろう」である。そう心に決めたので、『ファイト』編集部に電話を入れてみた。電話に出た人物は驚くほど丁寧に応対してくれた。あとになって知ったのだが、その人は"フランク井上"こと現編集長の井上譲二氏だった。

「定期的な採用はないんだよ。欠員があったり必要なときに紙面で公募するかたちになるだろうね。だからいつとは言えないなあ。君は記者志望なの？　まあ、英語がしゃべれるとか、文章がうまいとか、選手や関係者とすでに交流があるとか、そういう材料があれば有利だろうね。ファイトの場合、一から育てる余裕がないんで、即戦力として人を採るからね」

そんな回答だった。そこで早速、日本エディタースクールの実践文章講座に通い、ECC（英会話スクール）にも入学。私の行動はじつに単純でストレートなのだ。ちなみに、ECCのほうは授業料が払えなくなり、すぐに除籍扱いとなった。そして、86年2月、突然にときは来た。『ファイト』紙面の囲み記事に"記者募集"の告知を発見。しかも、東京支社勤務可能な方と、条件がついていた。「あっ、俺のための募集だな」と勝手に思い込んでいた。まず履歴書に作文を同封して郵送。作文には自信があった。23歳にしてスーパースターの座を捨て自己を貫こうとしているタイガーマスクこと佐山聡の生き様に、自分の人生を対比させて書いたのだ。

書類選考を通って、筆記試験は東京で受けた。受験者は１００名ほど。あとで聞くと、大阪では約２００名が二次試験を受けており、最初の書類選考には５００人もの応募があったという。

筆記試験にも自信があった。オールプロレス問題なのである。試験では、作文も2種類書かされた。一つは4つの表題からの選択式になっており、もう一つは指定タイトル。それは「週プロ、ゴング、ファイトの3誌（紙）の相違点について述べよ」というもの。いまでもハッキリ覚えているのは、冒頭の書き出し部分である。「『週刊ファイト』は新日本プロレス寄り、一言で言えば『週刊猪木』である」。結局、二次試験も合格して、大阪本社での三次試験（面接）に臨んだ。最終的に候補は20名ほどに絞られていた。控室で出番を待っていると、突然あの"I編集長"が音もなく入ってきて、私にこ

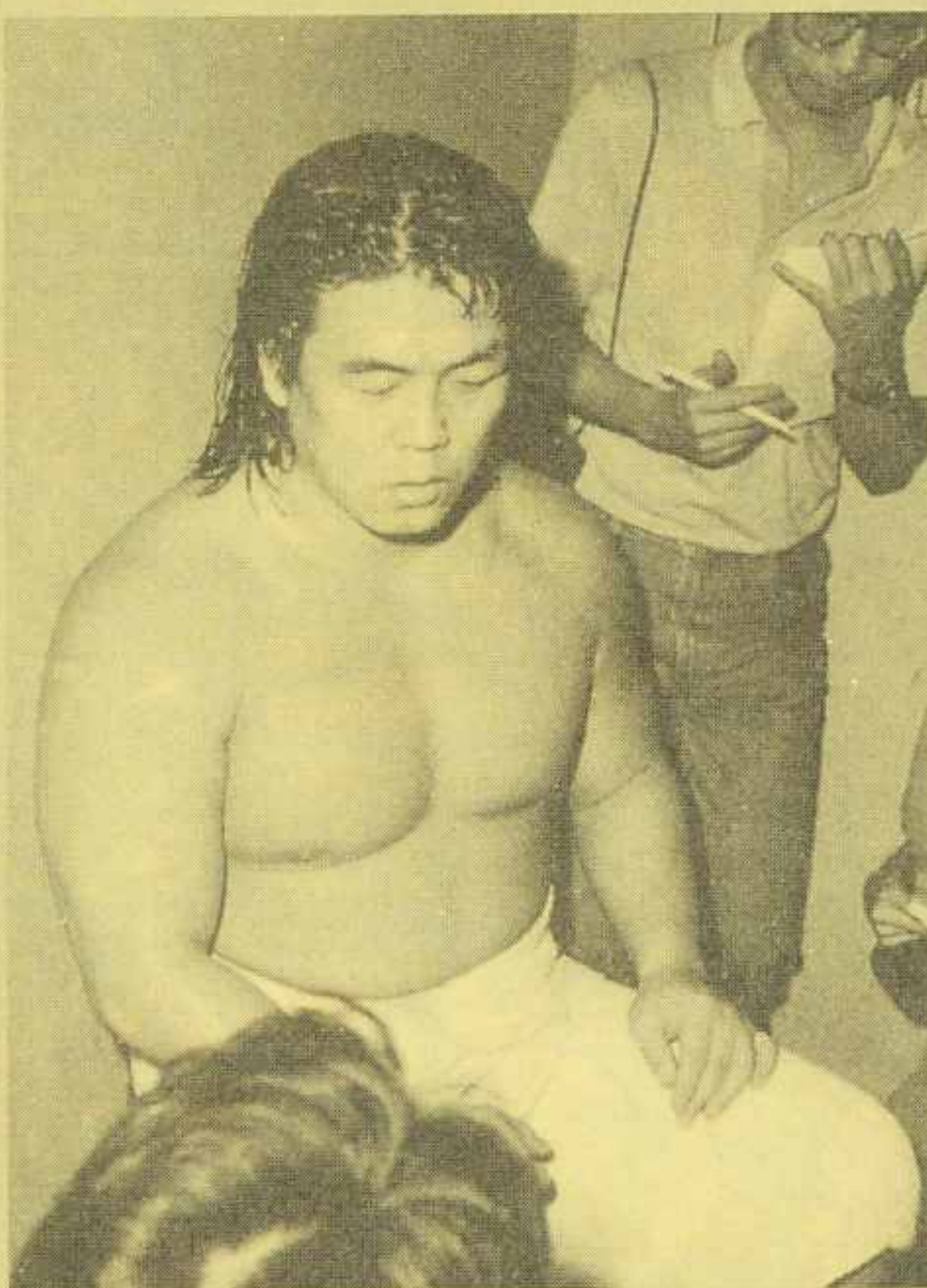
「プロレス記者はやめておいたほうがいい」I編集長は私にそう言った

う話しかけてきた。「キミはプロレス記者になりたいのかね? やめておいたほうがいいぞ。こんな仕事、何一ついいことはないんやからねえ」。そう言っただけで、またスッと部屋を出ていった。私にとっての初遭遇である。この痩せぎすのオジサンが私の憧れの人物だった。「やめておいたほうがいい? でも、アンタはやってるじゃないか!」と心の中では叫んでいたし、やる気はさらに高まっていった。

いよいよ最終面接へ。受験者5、6人の正面に、新大阪新聞の社長以下、役員がズラリ。中でも一際小柄な〝I編集長〟が途中、私に向かってこう言った。「キミの作文がすべてだよ。みんなは、ファイトは鋭いだの、素晴らしいだのと、ただ持ち上げているだけ。キミはいきなり核心を突いている。『ファイトは新日本寄りで〝週刊猪木〟である』と。それがすべてを表現しているわけですよ」。

最終的に、私を含めて3名が合格。この3人を競わせて、一人を『ファイト』記者として東京支社に派遣するというのが、狙いであったようだ。東京の世田谷区上野毛のアパートに家財道具を残したまま、5月1日から私は大阪に移り住んだ。

当時の『ファイト』編集部は新大阪新聞(夕刊紙)編集部とともに、福島区のサンケイ総合印刷という印刷所に部屋を間借りしていた。常に輪転機の回る音が響き、しょっちゅう罵声も飛び交う異様な空間だった。

罵声だけではなく、ときにはハサミが飛んでいくシーンも目撃した。カルチャーショックもあったが、それはそれで新鮮な光景でもあった。毎日のように、どこかで口論が起こっている。「大阪人って、みんなこうなのかなあ?」と、それをぼんやり眺めていた。なんといってもお金がないので、印刷所まで自転車なら10分で行ける場所にアパートを借りた。家賃は1万5000円。6畳一間プラス狭い台所。風呂なし、共同トイレ。家財道具は、テレビと扇風機の二つ。あとは電話線をひいただけ。当時の給与(契約社員)は10万円プラス交通費ぐらい。厳しいなんてもんじゃない。朝は菓子パン一個と紅茶を飲んで印刷工場に向かい、昼は社員食堂で350円のランチを腹一杯に詰め込む。夜はアパート近くのホカ弁屋の一番安いシャケ弁当(280円)をほぼ毎日食べていた。でも、少しもつらいとは思わなかった。これも修行のうち、と完全に割り切っていたからだ。

写真右上が『週刊ファイト』記者だったGK、25歳時の取材風景。ちなみに長州力が新日本カムバック後、藤波との初のシングル戦(87年10月5日、後楽園ホール)に挑んだ日。二人とも若い!

おもに私たち新弟子の面倒を見てくれたのは、井上譲二副編集長と波々伯部(ほおかべ)哲也先輩。〝I編集長〟は無口な人で、ごくたまに声をかけてくれる程度。しかし、話しだしたら止まらないタイプでもあるようだ。一つ印象に残っている言葉がある。「キミも一人前の記者になりたいなら、24時間プロレスのことを考えていなさい」。なんの脈略もなく、突然そう言われた。そうなのだ。あの一言を鵜呑みにしたからこそ、いまも私はこの業界でそれなりにやれているのだと思う。

そんなアホな言葉、現代の若者に通用するわけがないし、言う人間自体もいないだろう。それから数年後、私は『ゴング』に移籍して、以降、何人もの後輩を厳しく指導してきた。ある日、編集部で彼らの会話が聞こえてきた。「毎日仕事漬けだから、俺、家には一切プロレスに関するものは持ち込まないようにしてるんだ」「俺もそうだよ。『ゴング』も家には持って帰らない」。

ああ、そういう時代なのか!? と感じると同時に、彼らの先を見てしまった。人生がどう転ぶかはわからないが、少なくともこの業界で私を抜くことは永久に無理だろうと思ったのだ。そこで「バカ野郎! 24時間プロレスを考えてみろ‼」なんて言える時代ではない。

大阪本社での研修は、3ヵ月半で終了。その年の8月半ばから東京支社での勤務が決定した。給与のほうは相変わらずだし、まして東京のほうが物価は高いときている。まさに私の貧困生活の絶頂期(?)だった。タバコを買うか、一食抜くか? 当時70円の『東スポ』を買うかどうかで迷っていた時代。そんなとき、無言で援助してくれたのが〝I編集長〟だった。取材にかかる経費は、大阪本社の〝I編集長〟に申請するシステムになっていた。経費は直接個人の口座に振り込まれる。毎月、必ず多めの金額が振り込まれてきた。最初は間違いだと思ったから「お金が多いので、どうやって戻せばいいんですか?」と聞いてみた。すると、「まあ、取材も多いしキミもいろいろと金がかかって大変やろ。いいから、黙って取っておきなさい」と言うのだ。それでその話はおしまい。そういう人だった。

だから、『ファイト』での3年半、仕事面で〝I編集長〟から指導を受けた記憶はない。指導してくれたのは、現・編集長の井上さんであり、波々伯部先輩であり、故・松下正雄さん。しかし、あの無言の援助と〝24時間プロレス〟発言が、間違いなくいまの私を形作る要因の一つとなった。

『週刊ファイト』からスタートしていなければ、今の自分はなかったし、GKも存在しなかったと思う。マスコミ界の〝虎の穴〟を経験したら、怖いものなど何もない。『週刊ファイト』は休刊しても、〝ファイト魂〟は私の中で消えることはないのだ。

携帯サイト『kamipro Hand』を宣伝したいダブルクロス電気部のページ

エレクトリック
Hand Power

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand（以下『Hand』）』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくなる、過剰な更新頻度とおもし

×金原弘光

我が青春の
新日本プロレス学校
同窓生対談

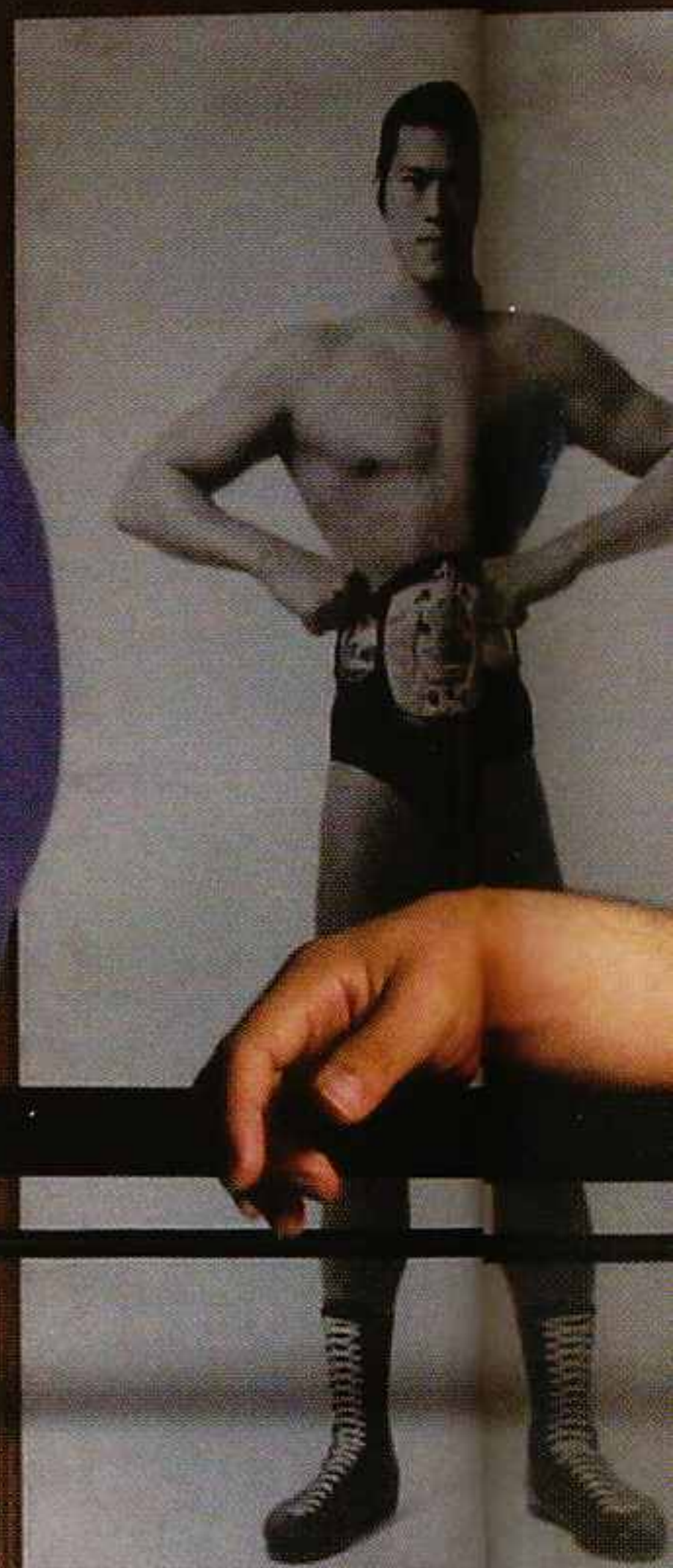
天山にとって俺は“恩人”なのに、そのことをこの男はすっかり忘れてたんだよ（笑）

天山広吉×

80年代末、新日本プロレスが道場を開放し、そこへプロレスラーを目指す若者が夢を抱いて通い詰めていた“闘いの学び舎”新日本プロレス学校。プロレスラーとしてデビューする前、ともにこの学校に通っていた“同窓生”が、何を隠そうこの二人、天山と金原だ。わずか活動期間２年ながら、多くのプロレスラーを輩出したこの“リアル・新日本凸凹大学校”の思い出をいまこそ語り合おう！

聞き手／堀江ガンツ
撮影／平工幸雄
design by さおとめの事務所

すまんすまん（笑）ホンマに金ちゃんのおかげでここまでやってこれたんで（笑）

金原　いや～、懐かしいなぁ。

──金原さんが新日本プロレス道場に来たのは何年ぶりですか？

金原　16年ぶり。18歳で来てさ、一年半ぐらい通ってたんだよね。

天山　自分もデビューして16年ですから。

──道場の中って変わりました？

金原　変わったね。トレーニング器具がもう全然違うよね。前のあれ全部捨てちゃったの？

天山　捨てたヤツもあるね、昔とは全然違うと思う。

金原　いまは凄くいい器具が揃ってるよね。

──プロレス学校では、こういった器具の使い方とかも当然教わったんですか？

金原　いや、なにも教えてもらってないよ。これまで『ｋａｍｉｐｒｏ』で何回か話したとおり、プロレス学校は〝毎日が自習〟だったからさ（笑）。

天山　勝手に遊んでるように使ってましたからね。

──では、今日はその「金原弘光の新日本プロレス学校同窓生対談シリーズ」。待望のゲスト、天山広吉選手をお迎えしてお送りしたいと思います！

金原　今日は「ＧＩ王者・天山広吉の素顔を暴く」というテーマだよね（笑）。

天山　えっ!? ホンマにそうなの？

金原　そうだよ～。この対談の前にさ、『ｋａｍｉｐｒｏ』に載ってた修ちゃん（西村修）と天山のインタビューをそれぞれ読んできたんだけど、同じ話をしてても微妙に内容が違うんだよね。天山は昔の話すぐ忘れちゃうから、きっと修ちゃんが正しいと思うんだけど（笑）。

天山　ワハハハハ！

金原　だから、今日は俺が天山の正しい過去を語るから（笑）。

──よろしくお願いします（笑）。お二人の出会いはいつだったんですか？

金原　出会いはプロレス学校だよね。俺のほうが2～3カ月早く入ったんだけど、当時から骨格がゴツくてね。デカいのが入ってきたなと思ったね。

天山　あの頃もう100キロぐらいあったんだよ。やっぱり大きくないとあかんと思って。でも入門したら凄い落ちたけどね。心労で（笑）。

金原　思いっきり痩せたよね（笑）。だから当時プロレスラーになりたい人はプロレス学校にいっぱいいたんだけど、やっぱりみんな身長は180センチなくて、体重もそんなにないわけで。そういった中で彼だけ特別デカかったよね。

──ホントにプロレスラーらしい身体というか。

金原　だからこいつならプロレスラーになれるだろうなと思ったよね。それで天山はいつも男と二人で来てたのよ。しかも一緒に住んでるって聞いたから、「あいつら絶対にホモだ」って、みんなで噂してたんだよ（笑）。

天山　ワハハハハハハ！

金原　ゴツい男二人が同棲してるわけだからね。

──「同棲」じゃなくて「同居」って言ってくださいよ！（笑）。

天山　彼はすぐ田舎帰っちゃったんですけどね。一緒に京都から出てきたんですけど、自分もそんなに知ってる人間でもなかったんで。

天山はプロレス学校に男二人で来てたから、みんなで「あいつら絶対にホモだ」って噂してたんだよ（笑）

金原弘光

──親しいわけでもなかったんですか？

天山　上京する一～二ヵ月前に出会って、プロレスが好きっていう話で盛り上がったときに、「じゃあ一緒に行こうか」ってなって連れてきたんですよ。でも結局ついてこられなかったっていうか。

金原　こっちはホモが恋人と別れたのかな、と思ったんだけど（笑）。

──フラれたんじゃないかって（笑）。

天山　いやいや、邪魔者が帰ったぐらいに思ってたんだよ。もう全然連絡取ってないけど。

金原　でもさ、俺たちのあいだでは、天山のこと「あいつ何者なんだ？」って話題になってたんだよ。いつも男と二人で来てるし、早く帰っちゃうしさ。なんなんだろうって思ってて。みんなに「あいつとしゃべった？」とか聞くと、誰もしゃべったことないっていうしね。

天山　最初はしゃべらなかったもんね。

金原　なんかとっつきにくかったの。あんまり会う機会もなかったんだよね。天山って早い時間に来て、夕方5時ぐらいには帰っちゃってたし。それで、俺らは天山が帰る頃に来てたからさ。

天山　夜は混んでるから、なるべく避けてたんだよね。

金原　やっぱりプロレス学校生はみんな貧乏だから、昼間バイトして夜練習してるわけじゃん。でも、彼だけはバイトもしない

新日本プロレス学校とは？

80年代末に新日本プロレスが、巡業中に空いた道場を有効利用するために始めた、闘龍門やK-DOJOの先駆けとも言えるプロレス学校。この画期的な試みに全国からプロレスラー志願者、プロレスファンが入学したが、その授業内容は“自習”中心だったことが、卒業生から証言されている。されど、天山、金原、サスケ、西村、池田大輔らを輩出した功績は大きい。

優雅な生活だったからね。

——一人だけ裕福だったんですか？

天山　そうでもないですけどね。

金原　いやいや、俺らからしたら、「あいつはなんて優雅な暮らしなんだ」って感じだったよ。だって当時は風呂なしアパートに住んでるのが当たり前。でも、銭湯代280円が惜しくて、みんな道場のシャワーで済ませてたのよ。それなのに天山は、5時に練習上がって銭湯行って、そのあと外食してたからね。「あいつはなんて優雅なんだろう」っていつも言ってたんだよ。

天山　ああ、環8の焼肉食べ放題とか一人でよく行ってましたね。でも、1500円ですよ。それで5時間ぐらいねばって（笑）。

——迷惑な客ですね（笑）。

金原　いやぁ、俺ら金ない連中にしてみたら、焼肉食べ放題なんて2〜3カ月に一回のご馳走じゃん。それなのに天山は週2〜3回行ってたからね。それで「こいつは何者なのかな」っていう好奇心で俺から話しかけて、それで話すようになったんだよね。

天山　そうそう。たしか金ちゃんのほうから話しかけてきたと思う。

金原　最初は山本広吉っていう読み方も知らないから、みんな「コウキチ、コウキチ」って呼んでたよね。それで話してみたら、道場のすぐそばに住んでるっていうから天山の家に遊びに行ったのよ。そのとき一番驚いたのがさ、家のテレビの下に白い紙が貼ってあって、月曜から日曜まで一週間の献立が書いてあるんだよ。しかも、書いてあるのが「寿司、焼肉、バイキング、中華」って凄え豪華なんだよ（笑）。「うわ〜っ、羨ましいなあ」って思ってさ。俺なんか自炊して魚焼いたりして、金かからないようにしてたのに。

天山　一応自炊もしてたよ。

金原　ほとんどしてないでしょ。それで一回、寿司を少し分けてくれてさ。カッパ巻きなんだけど、酢飯なんて久しぶりだから感動しちゃったよ（笑）。

——カッパ巻で感動しちゃいましたか（笑）。

金原　当時の俺らからしたらVIPな生活だからね。それでさ、部屋に遊びに行ったら、天山がおもむろにラジカセで音楽かけだしたの。

——当時はラジカセの時代ですよね。

金原　それでなんの曲がかかるかと思ったら、チャッチャッチャラーラッって、小林邦昭さんのテーマ曲が流れてきたんだよ（笑）。

俺はあんまりプロレス学校では心開いてなかったけど金ちゃんのほうから話しかけてくれたんだよね

天山広吉

天山　ワハハハ！　好きだったんだよ（笑）。

金原　いきなり小林さんのテーマ曲かけて、「いやあ……ホントいい曲だよね。俺、デビューしたら絶対この曲使う」って言ってたからね（笑）。

——ダハハハハ！　小林さんのファンだったんですか？

天山　長州さんの維新軍が好きだったんで、小林さんも凄く好きでしたね。金ちゃんは、もともと誰のファンやったの？

金原　タイガーマスクとダイナマイト・キッド。

天山　やろ？

金原　でもテーマ曲まで聴こうとかは思わなかったよ。

天山　え〜っ、マジで？　俺はテーマ曲ほしかったけどなぁ。あの頃、そんなにテーマ曲が売ってなかったんで、貴重やったんですけどね。たぶんあれ、テレビのヤツを録音したんやと思う。

——ガハハハハ！　テレビの録音を聴いてましたか（笑）。

天山　だからワーッて歓声も入ってて（笑）。

金原　プロレス学校ってそういうプロレスオタクがたくさんいたのよ。だから当時、後ろ髪長いヤツ凄く多かったよね。

天山　多かったねえ。

金原　天山がそもそもそうだったんだけどさ（笑）。あの頃、健介さんが長かったじゃん。みんなあれ真似してたんだよ。

——プチ佐々木健介だらけでしたか（笑）。

金原　俺、もうあれが気持ち悪くて。ちょっと横を刈り上げてさ。みんな後ろ髪長かったよな〜。

——当時仲良かったのはあと誰がいますか？

金原　いないでしょ。彼に心開いてる人、あんまりいなかったんじゃない？

天山　ハハハハハ！　いなかったねえ。

金原　でも修ちゃんにさ、車の運転教えてなかったっけ？

天山　ああ、西やんが教習所通ってるとき、俺はもう免許持ってたから、運転教えてたんですよ。でも、入門したあと「あのとき教えてもらったけど全然役に立たなかった」とか言われましたけどね（笑）。西やんは入門してからコロッと変わりましたから。

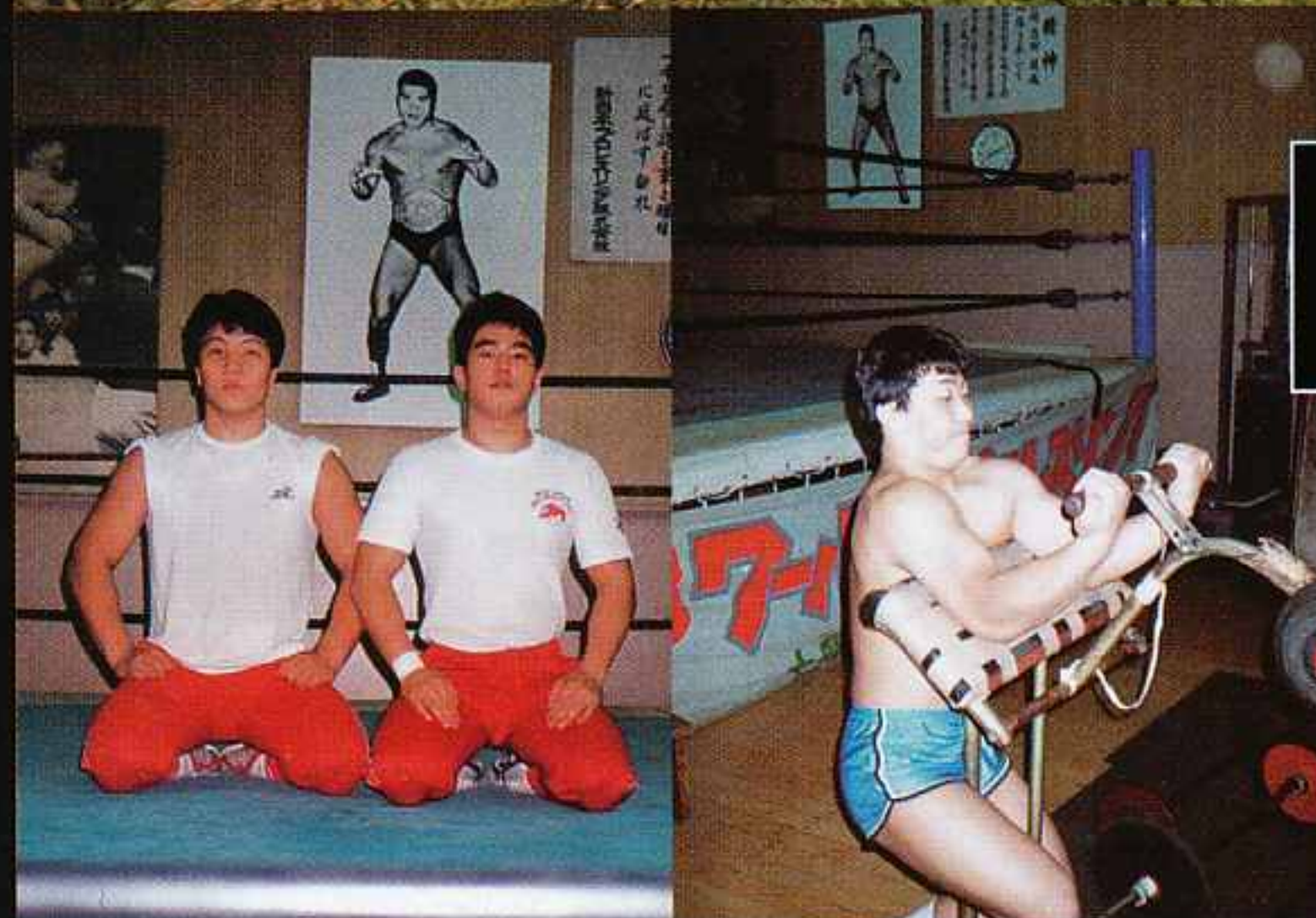
——態度が（笑）。

金原　新日本に入門したら、態度が急に変わるヤツが多かったよね。たとえば、それまでは「金原さん」って呼んでたのが、「誰だよ、おまえ」みたいになってさ。俺は天山が入門したとき、こいつもそうなるんじゃないかと思ったんだけど、天山は俺らに対しての態度が全然変わらなかったんだよね。だからいまでも付き合いがあるん

だと思うけど。
天山 みんな凄かったもんね。
金原 まぁ、でも天山は入門してもすぐ辞めちゃったんだけど（笑）。
天山 もうアカンと思ってね。でも、出戻りはもっと大変やった。最初3月に入門してすぐ辞めて、4月に西村さんと小原さんが入って。で、5月に自分が再入門やったから、普通やったら小原さんや西やんの先輩なんやけど、立場が逆になってね。
——もの凄い格差ができるわけですね（笑）。
天山 たった一ヵ月違うだけでね。だから、あんとき辞めなきゃよかったなと思いましたけど、辞めた俺を呼び戻してくれたのは金ちゃんなんですよ。
——あ、そうなんですか!?
金原 このあいだ、その話を天山にしたら忘れてたからショックだったんだけどさ（笑）、じつはそうだったんだよ。天山が辞めて京都帰ったあと、俺は京都の電話番号知ってたから話したの。
天山 そう、電話くれたんですよね。
金原 「俺たちは身体が小さいから（新日本に）入りたくても入れないけど、おまえは入れただけで凄いんだから、もう一回やれよ。いまから小鉄さんに電話してお願いすれば、もう一回入れてくれるよ。お詫びの電話入れてみろよ」って言ったんだよね。そしたら「わかった」って。
天山 あ～、そうやったよね。
金原 思い出した？ 俺が電話しなかったらプロレスやってなかったかもしれないんだよ!?
天山 ホンマそうですよねえ。

一度、新日本を逃げ出した俺に電話をかけて呼び戻してくれたのが金ちゃんだったんですよ（天山）

——じゃあ、金原さんは恩人じゃないですか！
金原 そうそうそう！ 俺は恩人なんだよ！ それを前に話したら、この男は「え、そんなことあった？」とか言うから、俺ショックでさ～。
天山 すまんすまん（笑）。電話で話したよね。
金原 当時、俺らはみんな凄くプロレスラーになりたかったし、彼ぐらいの身体が俺にもあったら……っていっつも思ってたからさ。だから、簡単にあきらめてほしくなかったんだよ。
天山 ホンマ、金ちゃんがそう言ってくれて、「もう一回やるしかない」って思いましたね。
金原 それで「じゃあ、明日さっそく小鉄さんの家に行ってこい！」って言ったら、

金ちゃん提供、プロレス学校時代の貴重な写真。残念ながら大半の写真は実家にあるとのことで、天山と写っているものはなかったが、長州との多摩川野球大会などじつに微笑ましい。

俺は天山が橋本さんに空気銃で撃たれてるのを目撃して新日本に入るのやめようと思ったの（笑）（金原）

「ちょっと待って……明日は日が悪いから明後日ぐらいにするわ」って（笑）。山本家はそういうこと凄く気にするんだよね。
天山 方角とかね。いまでも親はそういうの気にするよ。
金原 でも、再入門したはいいけど、出戻りは大変だなぁと思ったよね。凄いイジメられてるのが、プロレス学校に通ってた俺らにもわかるくらいだったからね。
——そんなあからさまだったんですか？
金原 だってさ、合宿所のほうから「ヤマモトーッ！」っていう橋本（真也）さんの声がいっつも聞こえてきてたからさ（笑）。
——破壊王の声で判明しましたか（笑）。
金原 でも、橋本さんはともかく、小原さんと修ちゃんにも凄いイジメられてたのが、かわいそうでしょうがなかったね。だって修ちゃんって年下で凄く低姿勢な好青年だったのになぁ、と思って。
天山 あのときは人間ホンマ変わるもんやなと思ったね。ただ、西やんの場合、小原さんがちょっとあれやったから、一緒になってやってた部分もあったと思うんやけど。
——イジメの首謀者と目されるのは小原さんだ、と（笑）。

金原弘光

金原 傍から見てると、10年ぐらい先輩みたいだったもんね。
——しかもその上に橋本さんがいるわけですからね。
天山 あとライガーさんとかもいたから。
——新日道場最悪コンビ（笑）。
天山 あの二人が揃ったらもう……思い出したくない（笑）。
金原 橋本さんがよく空気銃持って「山本、走れ！」とか言ってさ、撃ってるんだよ。それで「ギャーッ、ギャーッ！」とか言っててさ。そういうの何度も目撃して、「やっぱり新日入るの嫌だな」って思ったの（笑）。
——ダハハハ！ それでUインターに方向転換。
金原 だってさ、ある日、天山が拳にギプス巻いてたの。「どうしたの？」って聞いたら、「橋本さんにブロック割れって言われて、ブロックに正拳突きやったら骨が折れた」って（笑）。
——ダハハハハ！
天山 長州さんに怒られましたからね、「あいつの言うこと聞くな！」って（笑）。
金原 凄くない？ ブロックだよ、硬いよ、あれ。一流の空手家でも割れないよ、あれ。
天山 でも頭でガーンッてやったら割れたのよ。頭で割れたから、「今度は拳でいけ！」って。そしたらブワーッて腫れちゃって。あれは大変だったね。
金原 あと多摩川で魚獲って焼いて食ったとかさ、スズメ焼いて食ったとか、そんな話ばっか聞くからさ、いったいどうなってんだ、ここはって思ってさ。
——破壊王伝説をリアルタイムで聞いてた

んですね（笑）。

金原　練習のイジメじゃなくて私生活のイジメだからキツいよね。そこはUインターのほうがよかったなって思うけど。でも修ちゃんとかを見てるとけっこう幸せそうなんだよね。なんにもそういうことされずにさ。

――そういう"生贄"は一人でいいって感じだったんですね。

金原　そこが出戻りのつらさだよね。

天山　だから「とりあえず、いまは試練や」って思って。一回逃げてるんで、もう逃げられないですからね。

金原　いっつも額に爪楊枝を何本か刺してそのへん歩いてたしね。

――額に爪楊枝刺したまま生活してたんですか（笑）。

金原　もうやらないの？　あとグラスも食べるって言ってたじゃん。

天山　誰がや！

金原　言ってなかったっけ？

天山　食べないよ！　力道山じゃないんだから（笑）。

――まぁ、そういったことを乗り越えて、3度のG1優勝にたどりつくわけですね（笑）。

天山　いろいろあったけど……金ちゃんのおかげですよ、ここまでこれたのは。

金原　俺の一言がなかったらね、いま頃、京都に帰ってただろうからね。

天山　取り立て屋やってたよ（笑）。

――天山選手のあとは、後輩はなかなか入らなかったんですか？

天山　一カ月後に金本（浩二）さんが入ったんですよ。大阪で入門テスト受けてすぐ入ってきたんですけど。

金原　それも俺らプロレス学校生にしてみたらおかしな話でさ、当時の新日本プロレスに入るには、プロレス学校に通って一年に一度ある入門テストに受からないとダメだって言ってたんだよ!?　しかも、俺らはプロレス学校通ってたのに身長足りなくて落とされてたのに、金本さんなんか俺らと背格好変わらないわけじゃん！

天山　あれ、なんやったんやろうな？　よう考えたらおかしいよね。

金原　絶対に栗栖（正伸）さんのコネだよ！　小原さんが入ったのは浜口さんのコネだと思うし。当時のプロレス学校生はみんな「結局はコネかよ！」って怒ってたんだから！

――ガハハハハ！　ふざけんな、と（笑）。

金原　でも、金本さんは年上だし、いい人だったから「まぁ、いいか」と思ったんだけどね。それで金本さんが後輩で入っても、なぜか先輩からのイジメの餌食は天山のままで（笑）。

天山　そうそう。これで矛先が金本さんに向くかと思いきや、変わらない（笑）。だ

8月13日　新日本プロレス　両国国技館
G1 CLIMAX2006　優勝戦
○天山広吉vs小島聡×
（27分36秒、TTD→方エビ固め）

今年のG1決勝はテンコジ対決。いわずと知れたライバル、親友同士の二人だが、昨年は"脱水症状事件"などで、違った意味で話題になってしまったので、改めての真っ向勝負。期待通りの熱戦となったが、最後はムーンサルト2連発からオリジナルTTD（テンザン・ツームストン・ドライバー）で天山の勝利。2年ぶり3度目のG1制覇を成し遂げた。

天山広吉

8月15日　エンセン井上プロデュース興行「心」　後楽園ホール
○金原弘光vsアブドルザコフ・ルスラン×
（1R2分2秒、ヒールホールド）

3年前のヒザ手術もあり、気がついたら5年間勝利から見放された金ちゃんだが、この日はボクシング、ムエタイ、総合で実績のあるルスラン相手に落ち着いて足関節で完勝！　本来なら5年ぶり感動の復活となるところだったが、試合中、パンツのお尻の部分が破れるというハプニングに見舞われ、観客の笑いの中での楽勝というのが金ちゃんらしかった。

から1年後にコジ（小島聡）が入ってくるまではホンマに地獄ですよ。あ、そういや、コジもアニマル浜口さんとこのジムの出身やったね。

金原　そうだ！　彼もプロレス学校生と一緒に入門テスト受けてないもんね。そうやって正規のテスト以外で入る人ばっかりだったから、プロレス学校の意味ないじゃんってなったんだよな。

天山　ほんまや。

——それで、のちの新日本vsUインター対抗戦のときは、そのときの怨念を試合でぶつけたわけですね（笑）。

金原　そうそう。対抗戦のときは、天山と試合するかもしれないって期待感はあったんだけど、最後まで当たらなかったね。あの頃は天山とも会ってなかったし、敵同士だったからさ、会場で会うときも構えてたんだけど、実際に会ってみたら「ああ、どうも金ちゃん」みたいな感じでさ（笑）。業界でいったら彼のほうが入門早いから先輩になるんだけど、全然偉ぶるところもなくて、嬉しかったよね。

天山　ま、金ちゃんのおかげでプロレスラーやってるわけですからね（笑）。

金原　思い出した？　でもホントにイジメられてたよ。あれ一冊の本にできるんじゃない？

天山　いま日記書いてんねんけど、あの頃日記書いてたら売れたかも。

金原　へ〜、日記書いてんだ。

天山　海外修行に行ってからずっと日記書いてんの。新弟子の頃は全然それどころじゃなかったけど（苦笑）。

——そうですよね（笑）。

金原　あ！　いま思い出したんだけど、俺、プロレス学校時代にさ、天山とプロレスの試合やったことあるんだよ。

天山　あ〜、あったね、そんなこと。

金原　なんかのきっかけで「やろうよ」って話になって、道場でちゃんとプロレスの試合やったんだけど、俺が負けたんだよね。天山にサマーソルトドロップやられたら息が詰まっちゃってさ、「ああ、これならホントに3カウント取られるな」と思ったもん（笑）。あの技、使ったほうがいいよ！

——そんな幻の試合がありましたか（笑）。

金原　苦しかったな〜、あれ。あのときは完全に俺の負けだよ。

——今後、プロのリングで天山広吉vs金原弘光が実現することはありませんかね？

金原　タイミングが合えば、ないこともないんじゃない？　昔一回実現しかけたことあるんだよ。上井さんが新日本にいる頃、新日本から「天山とやりませんか？」っていうオファーもらってさ、「いいですよ」って言ったんだけど、結局流れちゃったんだよね。

天山　やりたかったね。

金原　俺もやりたかったよ。いまやG1王者だからね、胸を借してもらいたいなって。でも、そのときはドロップキックは禁止にしてほしい。

——なんでですか？

金原　プロレス学校のとき、天山に何回かドロップキックやられたんだけどさ、ジャンプ力ないから胸じゃなくて土手っ腹蹴られて、メチャクチャ苦しかったんだよ（笑）。

天山　ワハハハハ！

金原　もう、あれがキツくてさ。「ドロップキックの練習やらせて」とか言うからさ、受けるんだけど、みんな腹に突き刺さってさ、冗談じゃないよ。

天山　あの頃、よくそうやってリング上でやってたよね。あれは凄く楽しかったな。

金原　楽しかったね。

——では、いつかそのときの続きが実現することを願って、今日はお開きにさせていただきます！　ありがとうございました！

天山　はい。いつか金ちゃんとやる日に備えて、ドロップキックの練習しっかりやってきます！（笑）。

【06年8月30日／世田谷区野毛・新日本プロレス道場にて収録】

てんざん・ひろよし
■本名・山本広吉。1971年3月23日、京都市出身。プロレス学校を経て、90年に新日本入門。93年にヤングライオン杯優勝し、海外遠征に出発。帰国後は蝶野正洋率いるnWoジャパンに加入しブレイク。これまで今年を含めて3度G1を制覇し、昨年はIWGPヘビー級王座にも輝いたが、試合中の脱水症状で王座転落という前代未聞の悲劇も経験している。183cm、115kg。

かねはら・ひろみつ
■1970年10月5日、愛知県尾張旭市出身。プロレス学校を経て、91年にUWFインターに入門。その後、キングダム、リングスと団体の崩壊を次々と経験。02年からは『PRIDE』参戦。シウバ、ミルコ、ショーグンらとんでもない相手とばかり闘い勝ち星から遠ざかるが、今年8月に久々の一本勝ちで復活。しかし、その試合中にパンツが破れるという前代未聞の悲劇も経験している。178cm、87kg。

HUSTLE

ついに『kam・ipro』見参!!

〝男の中の男〟

TEAM TAKADA

秋本番!!

もぎたて一番!!

ハッスル劇場!!

構成／真下義之　写真協力／DSE　designed by Tani-yan（Two Three）

プロレスのハッスル論

プロレスはなんでもありだ！
ガタガタ言うな!!

待望の本誌初登場！
天龍源一郎

レスラー生活30周年目にして、まだまだ進化&深化し続ける世界最強の56歳、天龍源一郎。この、男の中の男、プロレスラーの中のプロレスラーが待望の本誌初見参！現在“モンスター大将”として参戦中のハッスルをMr.プロレスが本音で語った！

聞き手／堀江ガンツ　構成／真下義之　撮影／菊池茂夫
designed by Tani-yan（Two Three）

Mr.
ハ

——初めて天龍さんにインタビューさせていただくということで、正直言って緊張しております！

天龍　僕も『kamipro』は初めてだから緊張してますよ（ニコリ）。

——いやいや（笑）。天龍さんは『kamipro』に対して何かしらのイメージってありましたか？

天龍　イメージ？　……まぁ、いいじゃないですか。

——わかりました（笑）。天龍さんが『kamipro』に登場というのは、読者にとってサプライズだと思うんですけど、それ以前にハッスルに登場するということ事態、かなりの驚きだったんですが。

天龍　そうですか？　でも、出場する選手とすれば、そういうふうに思われることがもう、至極の極みですからね。

——なるほど。最初にお話がきたときはどう思われました？

天龍　いや、その前にハッスルの大阪の大会をビデオで見たんですよ。

——川田選手とインリン様が闘った、あの大阪大会を（笑）。いかがでした？

天龍　凄くおもしろかったというのが正直なところでね。これだったら、俺も出てみたいなって思ったんですよ。

——天龍さんのほうから、出てみたいと。

天龍　ハッスルもその頃は世間の注目度も上がってきてたしね、最初の頃の冷やかしとかはね、徐々に消えてきてたから。

——でも、プロレス業界的には『ハッスル』は認めないとか、芸能人のショーだ、みたいなムードがまだ残ってたと思うんですけども。

天龍　でも言わせてもらえば、（ほかの団体やマスコミは）そこしか突くとこがなかったからですよ。攻めるところがそこしかないっていうね。だって厳然たる川田（利明）がいるし、大谷（晋二郎）もいるし、小川（直也）も出てる。こいつらが頑張ってるんだから、それ以外の部分を突くしかなかったんだよ。

——でも、やっぱり天龍さんとしてもプロレスはここまでやっていい、これはダメだろうという線引きってもちろんあるんじゃないですか？

天龍　たとえばなんですか？　やっちゃいけないことって。

——たとえば男女ミックスはダメだとか、プロレスラーじゃない素人をリングに上げちゃダメだとか。

天龍　まぁ、たぶん俺も相撲からプロレスに入って、日本でずっとやってたら、そういう考えを持ったかもしれないけど、アメリカに行ったら、やっちゃいけないことなんて、そんなのなんもないんだよ。

——ダハハハ！　本場アメリカマットこそなんでもありだ、と（笑）。

天龍　そして俺が一番最初に体験したのがアメリカンプロレスだったからね。各テリトリーがあって、選手は全部フリー。試合場に選手が集まるだけで、どこどこの所属選手なんてないんだよ。そして、そこのプロモーションに出たくなきゃ断れるんだから。逆に試合に出るからには、どんなスタイルであれ自分を発揮して、観客に印象を残さなきゃいけないわけだから。ハッスルに出るのだって一緒だよ。だから、出ないヤツがガタガタ言うなってことですよ。

——郷に入っては郷に従え。従いたくなかったら、そこのプロモーションに出なければいい。それがプロレスラーだと。

天龍　そう。俺が一番ビックリしたのはね、試合が終ったあと、当時のチャンピオンがドリー・ファンク・ジュニアだったんですよ。それでテリー・ファンクもいて、若いテッド・デビアスがドレッシングルームでシャワー浴びてたね、あの頃まだ26～27歳かな？　そんな若僧が、ドリーに向かって「ドリー、ちょっと背中流してくれ」って言ったんだよ（笑）。それでドリーも「OK」なんてね。

——ワハハハハ！

天龍　これには凄く驚いたねえ。だって相撲の世界だったらあり得ないことだよ！　下っ端が横綱に「ちょっと背中流してくれ」なんて。

——冗談でもそんなこと言えませんよね（笑）。

天龍　でも向こうはお互いに背中を流し合いするわけでしょ。それを番最初に見たときはすっごい不思議でね。ビックリしましたよ。アメリカではお互い流し合いするなんてのは当たり前だっていうことは、あとあとわかるんだけど、そういった社会だっていうことを理解するのは時間かかりました。だからそれに比べたら、日本のプロレスの中で何をやろうがどうってことないよ！（笑）。

——ガハハハハ！　あのときの衝撃に比べたら（笑）。

天龍　だから身体のちっちゃいヤツが来たり、芸能人上がりが来たって、それでキツい思いするのは本人だし。その身体で稼げるかどうかは自分次第だから。あとアメリカでよく問題になってるステロイドの問題にしたって、10年かかって身体大きくなるまで待つよりか、ステロイドで3年で大きくなれば、あとの7年トップでいたほうが金稼げるじゃないですか？　そういう考えの人たちのところに行って、日本人がガタガタ言ったって始まらないんだから。

——その国々やテリトリーによって、価値観は違いますもんね。

天龍　だから、違う価値観の人たちにガタガタ言ったってしょうがないんだから。

——もともとプロレスラーっていうのはその土地、土地のニーズに合わせて最高の仕事をしなくちゃいけないってのがあるわけですよね。

天龍　そうそう。テリトリーによってプロレスの価値観が違うし、そのときどきでどんどん状況が変わっていくんだから。

——天龍さんはここ数年、日本でいろんなテリトリーというか、団体でその場所場所での「天龍源一郎」を見せてるわけですよね。

天龍　フリーだからね。そして、フリーのいいところは、好きなとこだけ出て、嫌なとこは出なきゃいいの。それに尽きますから（笑）。

——そして天龍さんにとって、ハッスルは〝好きなとこ〟だった、と。

天龍　だってあれだけ話題になっていて、ワイドショーとかニュースで流れてたら、誰だって興味あるじゃないですか。そこに出るということはね。

――最初に『ハッスル・マニア』に上がるときっていうのは、悩んだりとかも一切なかったわけですか？

天龍　いや、それはありましたよ、出ていいのか悪いのか。だから何回か「出るべきじゃないよ」って言われたこともあるし「俺は出ないよ」って言ったこともありましたし。

――でもそれ以上にやってみたい、という魅力を感じたわけですか。

天龍　うん。それ以上に浸透してきちゃったからね。昔は（新日本の）ドーム大会が話題になってたから出ようと思ったのと一緒ですよ。もうあとは自分で判断するだけでね。それで、実際に横浜アリーナの『ハッスル・マニア2005』に行ったときにね、バックステージでスタッフが思いのほか一生懸命やってるんですよ。僕はSWSとWWF（当時）が交流してるとき、アメリカに行って、WWFのバックステージを見たことあったの。そこでも同じように多くのスタッフが、試合始まる前にライトのテストやったりとか、音響や入退場の準備をしてたりとかさ、その仕事ぶりに感心したんですよ。

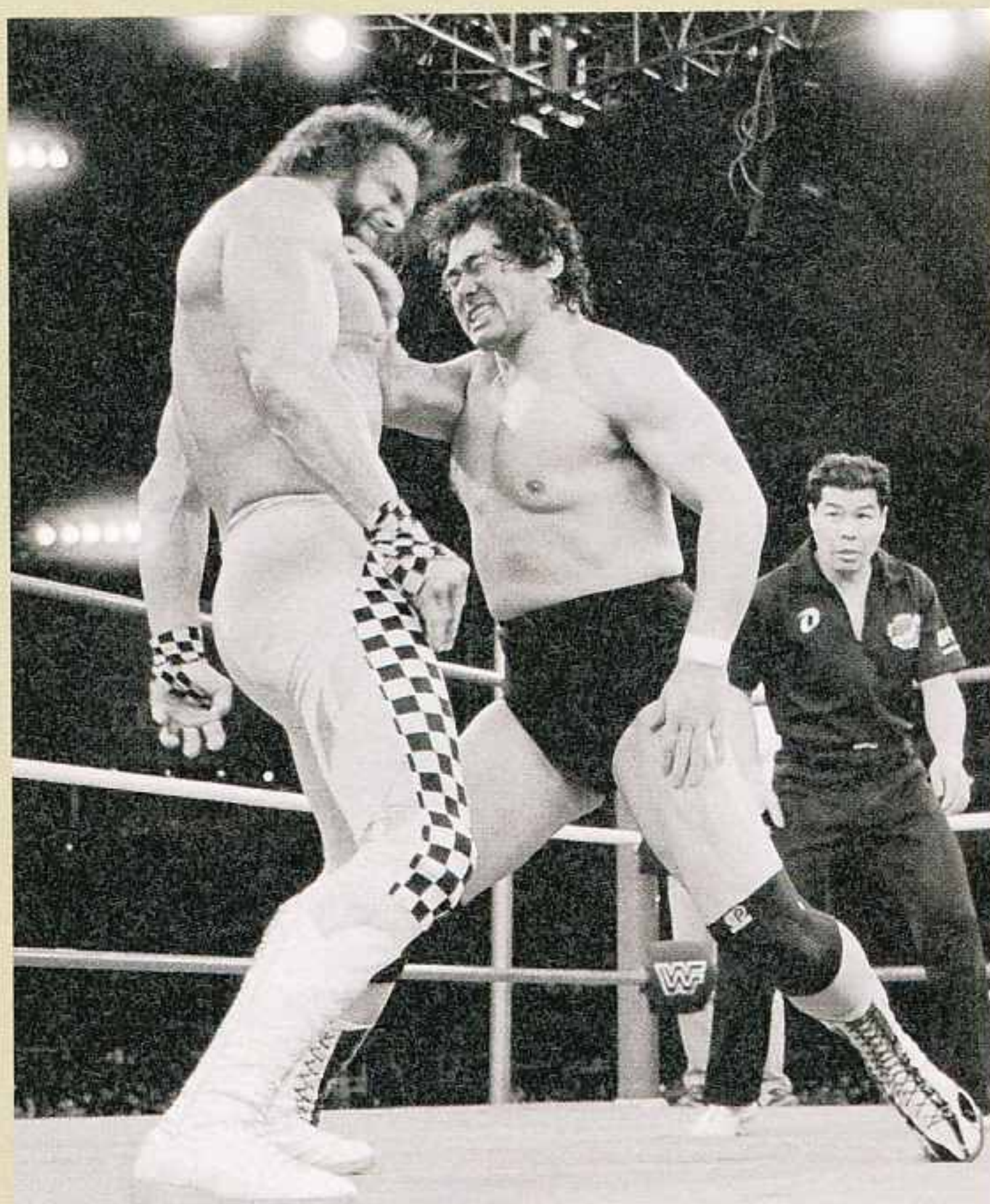
――向こうのバックステージは素晴らしいですよね。

天龍　それと同じことをハッスルでも見たから「これは頑張ってるじゃないか」と思ったし、これだけ一生懸命頑張れば、いいものができるのも当たり前だなって。それはいつの時代も一緒ですよ。

――そういえば、天龍さんはSWS時代、WWFと合同興行もやってるわけですからね。

天龍　WWFのサーキットにも行ったんだけど、バックステージに本当にたくさんの人がいてね。これだけのたくさんの人が頑張ってるんだったら、レスラーも頑張って成功させなきゃいけないって、実際思うじゃないですか？　それでイベントが成功して初めて、みんなでよかったねってなるわけですから。

――そういう意味ではハッスルにはカルチャーショックみたいなものってありましたか？

天龍　それはありましたよ。リング屋さんはリング屋さん、グッズ屋さんはグッズ屋さんとか分けて考えるのがいままでの既存の団体だったけども、もうそういう垣根はハッスルでは全然関係ない。ああ、これは素晴らしいなと思いましたよ。ただ僕はその前にSWSを経験してますし。業界と全然関係ない人が一生懸命やってるっていうことを経験してた。そこに今度はハッスルというものが出てきた。だから自分の中ではうま〜くつながってるんですよ。

90年4月13日、全日本、新日本、WWF（当時）3団体合同で行なわれた『日米レスリング・サミット』のランディ・サベージ戦。ショーマンとゴツゴツファイトと相反する両者だが、試合は予想をはるかに上回る歴史的名勝負に。女性マネージャーのシェリー・マーテル乱入に激高する解説席の徳光アナも最高！

SWS、WWF、ハッスル 俺の中でその3つが全部 つながったんですよ

――異業種の人たちが参加して、みんなで一つのイベントを作り上げるという経験を天龍さん自身は、ハッスルが現われる何年も前から経験してるんですね。

天龍　（企業が親会社となるSWSと）同じことをいま新日本プロレスの人たちがようやく経験してるわけでしょ。ということは、15年遅いってことですよ！（ニヤリ）。

――ダハハハ！　なるほど。新日本はSWSに15年も遅れてたわけですね。『ハッスル・マニア』の試合やイベント自体はどう思いましたか？

天龍　試合というよりさ、和泉元彌とか出てきて、それで若いお客が狂気乱舞してるっていうのはカルチャーショックですよね。「え⁉　プロレス観に来たんじゃないの？」って。でもそれもこれも全部ありかなって思って納得すれば、これもまた新しい集客方法かなって。

――同じリングに上がるからには、負けたくないっていう気持ちはありますか？

天龍　それは思ってますよ。それは鈴木健想だって思ってただろうし。それがあるからおもしろいんじゃないですか？　「試合中にもしかしたら、レスラーがキレるんじゃないか」と思わせなきゃ、チャンバラの斬られ役になっちゃうからね。

――健想選手も「俺の力で盛り上げた」って自負もあったでしょうし。

天龍　うん、それは思ってやってると思いますよ。それは凄く大事なことだと思います。

――天龍さん自身も、そういうカードが組まれることに対しては、やぶさかでないという感じですか？

天龍　組まれたら考えますよ。お客が望んでるんだったら、そうするのもありだと思うんですよ。

――天龍さんって、そういう「絶対に噛み合わないだろうな」って思われてた選手と絡んだときって、絶対に予想以上のものを見せますよね。

91年3月30日『WRESTLE FEST IN TOKYO DOME』では、天龍が率いるSWSとWWFの業務提携による豪華メンバーが集結した合同興行が実現。『週刊プロレス』のバッシングも受けたが、企業との合体やエンターテインメント系の演出など、いまになると時代を先取りしていたとも言える。

天龍　そういうのをね、世の中では"あまのじゃく"って言うんですよ（笑）。

――いやいや（笑）。神取さんとやったときも、大仁田さんと電流爆破やったときも、ファンの予想を遥かに超えることをやってのけましたし。あとなんといってもランディ・サベージ戦ですよね。

天龍　でもね、俺にとっちゃべつにどうってことないんだよ。アメリカでも同じようなことやってたし。たまたま違う毛色だから、そういうふうに見えただけでね。

——あのサベージ戦を考えると、もしＨＧとやったら凄い試合になりそうな気がするんですよね。ハードゲイが天龍さんという、ゴリゴリの中のゴリゴリと相対するところも見てみたいですし（笑）。

天龍　ま、組まれれば、べつにかまわないですよ。

——天龍さんから見たＨＧというのは、いかがですか？

天龍　ＨＧはねぇ、頑張ってますよ。皆さんご存知のように、プロレスっていうのは、リングに上がったら誰であろうと、同じ硬さのマットで、必ず受け身を取らなきゃいけない。受け身を取って発生するビジネスだから。そういう意味で彼は受け身も頑張ってると思うし。技を食らえば痛いんだから、無傷ってわけじゃないんだから、それをあれだけの売れっ子がカバーしてやってるんだからね。まぁ、たいしたもんだと思いますよ。

——先日の後楽園ホールでは川田選手とタッグを組まれましたけど。ハッスルでの川田選手はいかがですか？

天龍　川田も吹っ切れて頑張ってると思いますよ。本来だったら過去にこだわるタイプだろうけど、前向きでアグレッシブでしょ？　やっぱりああでなくちゃいけないよ！　そうでなきゃファンは応援しないよ。過去にすがったってさ、誰も過去の傷は舐めたくないんだから。新しい魅力を出してくれないと。そういう意味ではね、ある意味、川田はカッコいい男ですよ。

——だからこそ天龍さんもおもいきり絡むこともできるというか。

天龍　そうですね。そして、その先には髙田総統もいるわけだから。あの人たちの様を見たらね、ハッスルで照れてるなんておこがましいですよ。いや、ホント。だったらおまえも頑張れよ！　って言いたいですね。

——川田さんっていうのは、もともとああいう感じの人だったんですか？

天龍　ううん。よく知らない。

——でも、ずっと巡業で一緒に回っていたわけじゃないですか

天龍　いや、一緒だったってそんなに詳しくは知らないですよ。俺が言うことは、飯食うぞ〜！　飲むぞ〜！　飲め〜！　だからさ。

——ガハハハハ！　それだけ（笑）。

天龍　だから、あいつの中ではいろいろ考えることがあったんだろうけど、こっちはアイツの気持ちなんか考えたことなかったからさ。

——よく聞く話ですがハッスルのマイクでしゃべってる川田さんとか髙田総統っていうのは、飲み会の席でのあの二人の本性だって言われてるんですけど、そんなことないですか？

天龍　いや、よく知らないんですよ。アン・ジョー司令長官に似ている安生洋二が酔っぱらって、六本木で自転車投げたのは覚えてるけど（笑）。

——ガハハハハ！　自転車を投げましたか（笑）。髙田総統の古くからの友人である髙田延彦さんとは、飲んだことないんですか？

天龍　2〜3回しかないね。そんときは佐竹（雅昭）もいたなぁ。

——伝説のユニット、フォーリーファイブの飲み会ですか（笑）。

天龍　でもそれ以前にね。六本木では、〝酒癖の悪い髙田延彦〟って有名だったんだよ。俺がいた当時の全日本プロレスも六本木にあったから、噂は嫌でも入ってくるから。なるべく触りたくなかった。

——ガハハハハ！　髙田延彦さんと髙田総統っていうのはイメージ違いますか？

天龍　違いますよ。だって皆さんだってビックリしたでしょ？

——Ｕインター、『ＰＲＩＤＥ』の髙田延彦とはえらい違いですからね（笑）。

天龍　だから、あれ見せられちゃあ、みんな照れてるヒマなんてないでしょ。ある意味、感服しますよ。まぁ、最初の頃はやっぱり葛藤もあったと思いますし、非難もあったかもしれないけどそれを抜けちゃうとね。今日に至ったら、「すいませんでした」ってヤツでさ。

——ガハハハハ！　白旗上げますか（笑）。

天龍　いや、あれ見せられたら、誰だってそうなると思うよ。

——最初はホントに失笑とバッシングだったんですけどね。

天龍　だからプロレス界にとって突つきやすかったんだろうね。でも、もう突けないでしょう。あそこまでハードルが上がっちゃうと触りようがないじゃないですか。「だったらおまえらもっと頑張れよ」って言われたらさ、みんなキャイン、キャインって尻尾を巻くと思うよ。

——あの新日本プロレスが、『レッスルランド』みたいなイベントを定期的にやり始めたわけですからね。その新日本を中心に、プロレス界のここ数年のさらなる縮小ぶりというのは、どこから来てると思いますか？

天龍　どこから来てるかなんて、そんなの簡単なことでね。おもしろくないからお客が入らないんですよ。どうしておもしろくならないのかはわからないよ。でも、そしたらおもしろくするように悩むしかない。だって、おもしろかったらお客は入ってますよ。簡単ですよ。

——ハッスルもドラゴンゲートも、あとノアなんかも、こんな時代なのに、お客ちゃんと入れてますよね。

天龍　だからおもしろくないから、お客入らないんだから、人のせいにするなって。

——天龍さん自身はご自分が上がったらおもしろいところを選んでる状態ですか？

天龍　いまはそうですね、まぁ、楽しいところを中心に。

——キャリア30年の天龍さんが、去年、今年と新しいことにどんどんチャレンジしてるっていうのがまた凄いなと思うんですけど。

天龍　そういう状況にプロレス界がなってきたんでしょうね。いままでと同じことだけじゃ厳しいし、最近はファンも〝オマケ〟を求めるのかなって思っちゃいますよ。

——〝オマケ〟ですか？

お客が望むなら、どんな闘いだって踏み込む気持ちはある HG戦？ 俺はべつに構わない！

94年当時、"邪道の象徴"として君臨していた電流爆破マッチ。このタブーに初めて挑んだメジャートップレスラー、天龍。じつに3度も被爆し、大仁田を凌駕する邪道ぶりと、その懐の深さをまざまざと見せつけた。

毎度おなじみ、総統と川田の「バッドラック」取り合いコントのスキに天龍が締めを奪取！　このマイクこそ天龍がハッスルに踏み込んだ証拠だ。

かつて輪島や高木、田上にえげつない攻撃を加え、意地を引き出してレスラー開眼させた天龍。ハッスルで眠れる大器、小川を目覚めさせることはあるのか？

高田総統が天龍をモンスター軍ナンバー2に指名し、ギクシャクしていた二人が握手！　一見、ハッスルのストーリー上の出来事だが二人の師弟関係と歴史を知るものには重みと深みを感じるシーンだ。

天龍　ハッスルってメインイベントが終わっても、お客が最後まで残ってるじゃない。それは「メインのあと、さらに何かが起こるんじゃないか」って期待して待ってるんだと思うんだよね。そういうのを観たあと、そのお客が他の団体観に行ってさ、メインイベントが終わって、それで終わりってなったら「あれ、これで終わりなの？　なんか出てこないの？」ってなるよ。

——ガハハハハ！　もうメインだけじゃ満足しなくなる、と。

天龍　どんどんそういうふうになっていくと思うよ。そういうお客が5人でも10人でも100人でもいたらさ、その団体はもうハッスルのことをとやかく言えないし、威張ってるヒマはないよ。

——どこの団体も「興行」や「エンターテインメント」という同じ土俵に立って、比較される立場にあるわけですからね。

天龍　そう、同じですよ。見てるほうにとったら、どっちが満足するかなんだから。メイン観たあと、さらに楽しませてくれるほうを選んじゃうよね。

——ハッスルってお笑いの要素が強いプロレスですけど、「プロレスのリングで笑いが出る」っていうことについてはどう思いますか？　長州さんなんかは昔から「笑いが出るのは絶対嫌だ」っていうようなことを言ってましたけど。

ハッスルの川田は吹っ切れてるね　やっぱりああでなくちゃあ、いけないよ！　ある意味、カッコいい男ですよ！

天龍　俺はべつにどうってことないんだけどね。まあ、それは個人個人の主張の仕方だから。俺なんかね、そういう場面を見ると「この野郎、自己主張してるな」って思うよ。

——逆に燃えてきちゃいますか（笑）。

天龍　だってレスラーがお客のこと考えたら、怒らせたり、泣かせたり、笑わせたりするしかないんだから。

——喜ばすのも怒らすのも泣かせるのも笑わせるのも、そこの感情に差はないというか。

天龍　俺がペットボトルを投げるのと同じだよ（笑）。だって笑いが嫌だとかなんとか言う前にさ、お客に「そんな人出てたっけ？」って思われるのが一番悲しいじゃないですか。

——印象に残らないのが一番ダメなわけですよね。

天龍　レスラーはそれが一番怖いし、悲しいことだから。とくにハッスルなんて出ているのはレスラーだけじゃないんだから。全然印象が残らないレスラーだって出てくるんだよ。ここは生存競争の社会だからね。

——ハッスルはなにげに厳しいですからね。

天龍　うん。ハッスルはどうのこうのって言われるけど、ここはホントに存在価値がないと斬られるよ。ここという場所ありきなんだよ。「自分なりに頑張ってるから使ってくれ」なんて思ってるやつは、ドロップアウトさせられていくんじゃないですか。お客にとって、おもしろくない人とか、インパクトがない人とかはね。

——レスラーはその部分で勝負すればいいわけですよね。そういう意味では、違う価値観のものを「邪道だ」と切り捨てるのは、逃げなわけですよね。天龍さんの場合、昔、大仁田さんがデスマッチでのし上がってきたとき、みんな「あんなものは認めない」って言ってたのに、率先して電流爆破のリングに上がって、大仁田さん以上に被爆してたわけですからね（笑）。

天龍　あれもいろいろ非難を浴びたけどさ。でもみんな、あとから結局やってるじゃない。

——のちには、長州さんまでやりましたもんね。

天龍　そうそう。一回も被爆しないでね。あれは凄かったね（笑）。

——ダハハハハ！　電流爆破で爆破しないっていうのも凄いですよね（笑）。

天龍　あれこそホントにね、お客さんにしたら「なんなんだよ」って思うかもしれない。

——お客は長州さんの被爆するところが観たいわけですもんね。やっぱり天龍さんは、あくまでお客あり

きなんですか？
天龍　だってお客さんは命の次に大事なお金を払うんだよ。だから、よく「プロレスはいい加減だ」って言うけど、「いい加減」ってのが一番、無限大の可能性があって大変なんだから。「いい加減なプロレスやりやがって」とか言うけど、「いい加減」ってのはどんどんエスカレートして、お客の要求が高くなるわけだからさ、それに応えてくっていうのは無限大のエネルギーだよ。

――「これでいい」という答えはないわけですからね。

天龍　自分たちで線を引いて、「これでいいだろう」ってやっちゃうとダメだと思うよ。

――天龍さんはデビューしてから、ずっとそういったファンとの勝負をしてきたわけですよね。

天龍　そんな偉そうなこと言うつもりもないですけど、どっかにはあったと思いますよ。

――プロの人気商売というのは、そういうものですもんね。ハッスルでは、いま小川直也選手がハッスル軍〝キャプテン〟ながら、ちょっと伸び悩んでる部分があると思うんですけど。

天龍　そうすか？

――髙田総統や川田さん、HGやニューリン様に食われてるというか。天龍さんは、このあいだの後楽園で小川選手と当たりましたけど、どう感じましたか？

天龍　やっぱりハッスルにおいて、あいつは主役の一人だと思うよ。ただ、もっと身体の大きい凄いヤツと、一回おもいっきりプロレスをやってみたらいいと思う。そうすると吹っ切れるっていうのかな。たぶんね、アイツは柔道の日本一だから、ちょっと加減してるのかもしれないね。

――ああ、加減というのはあるかもしれないですね。

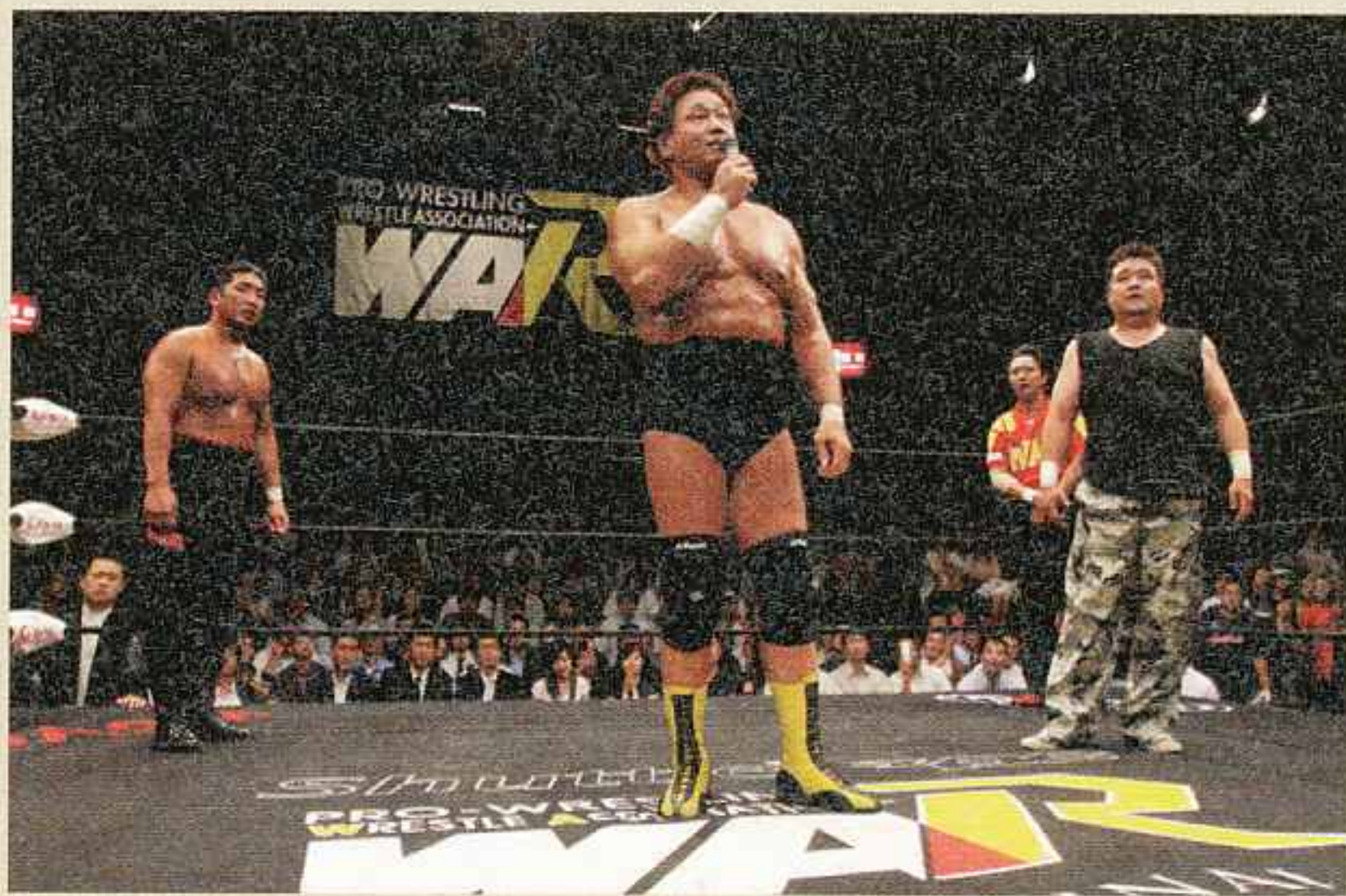
天龍　本当のとこはわからないけど、一回吹っ切れたほうがいいよ。デカいヤツとおもいっきり、「いやあ、汗びっしょりかいて、やるだけやってせいせいしたよ」っていう試合をやったら吹っ切れますよ。

――なるほど。天龍さんもやっぱり大相撲からプロレスに転向して、ハンセン、ブロディとかと真正面から試合して吹っ切れたわけですか？

天龍　いや、その二人もそうだけど、俺が一番最初に吹っ切れたのは、テリー・ファンクとやったときだね。

――テリー・ファンクですか。

天龍　テリーと初めてやったとき、ガッチガチでくるからさ、こっちもガチガチで返して、「プロレスってこれでいいんだ」と思って、それで吹っ切れたんですよ。それまではプロレスを「うまくやる」っていうことを考えてたね、周りからもあれやれとか抽象的なアドバイスを受けたんだけど、理解できなかったんです。でも、テリー・ファンクとは真っ正面から、うまく見せようなんて考えずにやり合えたんで、凄い気が楽でしたよ。そのあと、ハンセンともやって自信がついてね。それからですよ。

小川は「うまく見せよう」なんて思ってるんじゃないか？ ガチガチでやりゃあいいんだよ！

SWSを解散したあと、天龍が心血を注いだ団体WARが7月20日に最終興行と銘打って、最後の復活を遂げた。過去にひとくぎり、ケジメをつけた天龍。常に前を向いて生きてきたこの男の次なるチャレンジは何か？

――「プロレスはおもいっきり闘えばいいんだ」って目覚めた、と。

天龍　「なんでもやっていいんだ」ってね。「なんだ簡単じゃないか。俺もできるんだ」って。だから小川も「うまく見せよう」と思ってる部分があるのかもしれない。

――たしかに、それは凄くありそうですよね（笑）。

天龍　えてして、レスラーはそっちのほうの考えにいきやすいですから。とくにいまＴＡＪＩＲＩなんていううまいのがいて、みんなに「うまい」って言われてるわけでしょ。そうすると「俺もうまいって言われたい」ってなるんだよ。

――天龍さんも昔、「うまい」って言われたいという気持ちはあったんですか？

天龍　ありましたね。「うまい」っていうのはほめ言葉で、その反対は「ヘタ」だからさ。やっぱり「ヘタ」とは言われたくないじゃない。だからジャンボ（鶴田）なんかが「うまい」って言われてるの聞くと「この野郎」って思ったりね（笑）。

――天龍さんも昔は同じ悩みを抱えてたってわけですよね。いや〜、小川直也のプロレス開眼のために、ぜひ小川vs天龍戦を組んでほしいなぁ。

天龍　まぁ、それはドリームステージに言ってよ。

――ハッスルの未来のためにも、ぜひキャプテンを目覚めさせてほしいですよ。天龍さん自身は、いまの新しいファンに「天龍源一郎」を見せつけてやるっていう気持ちはありますか？

天龍　それはあるね。いまのファンというか、プロレスファンに限らず、いろんな人に「どうだ！」って言いたい気持ちは、やっぱりありますよ。それは、この商売長くやってる性みたいなもんだよ。

――そうでしょうね。

天龍　さっきも言ったけどさ、「あれ、出たの？」で終わっちゃうんだったら、リングに上がる意味もないんだよ。だからペットボトル投げたりするわけでさ。ただジャーマンやるよりかは、ペットボトル投げたほうが印象あるじゃない。

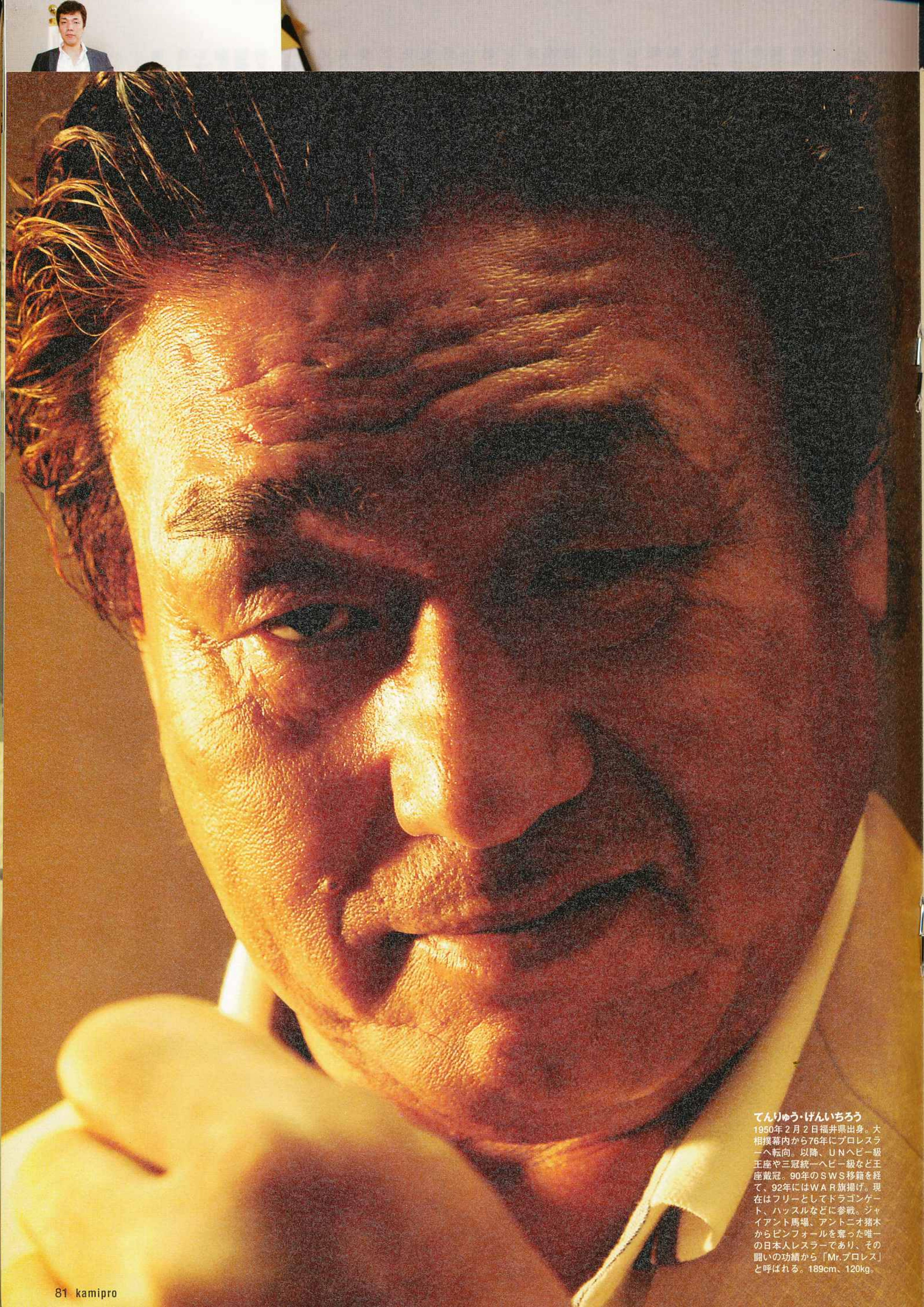
――たしかにそうですよね。天龍さんは今年の11月でプロレスラー生活30周年を迎えますけど、何かこれからやってみたいことってありますか？

天龍　いや、なにも考えてないですよ。だって、フリーになって、日々一生懸命頑張らないと、あっという間に負けですよ。だからその日その日を頑張るだけだね。「今日頑張ったから、また明日もやるぞ」っていうほうが気が楽だし。べつに負担もかからないし。

――それは天龍同盟で巡業してたときから同じですか。今日の試合に全力投球して、明日は明日でまた何かあるだろうという姿勢は。

天龍　それは天龍同盟からじゃなくてね、一番最初にやった相撲からずっと一緒ですよ。一番、一番、白星だ、黒星だって刻まれていくわけだから。俺はそうやって、やってきたし。これからもそうするだけでしょう。

――わかりました。今後ともよろしくお願いします！

【06年9月13日／DSE事務所にて収録】

てんりゅう・げんいちろう
1950年２月２日福井県出身。大相撲幕内から76年にプロレスラーへ転向。以降、ＵＮヘビー級王座や三冠統一ヘビー級など王座戴冠。90年のＳＷＳ移籍を経て、92年にはＷＡＲ旗揚げ。現在はフリーとしてドラゴンゲート、ハッスルなどに参戦。ジャイアント馬場、アントニオ猪木からピンフォールを奪った唯一の日本人レスラーであり、その闘いの功績から「Mr.プロレス」と呼ばれる。189cm、120kg。

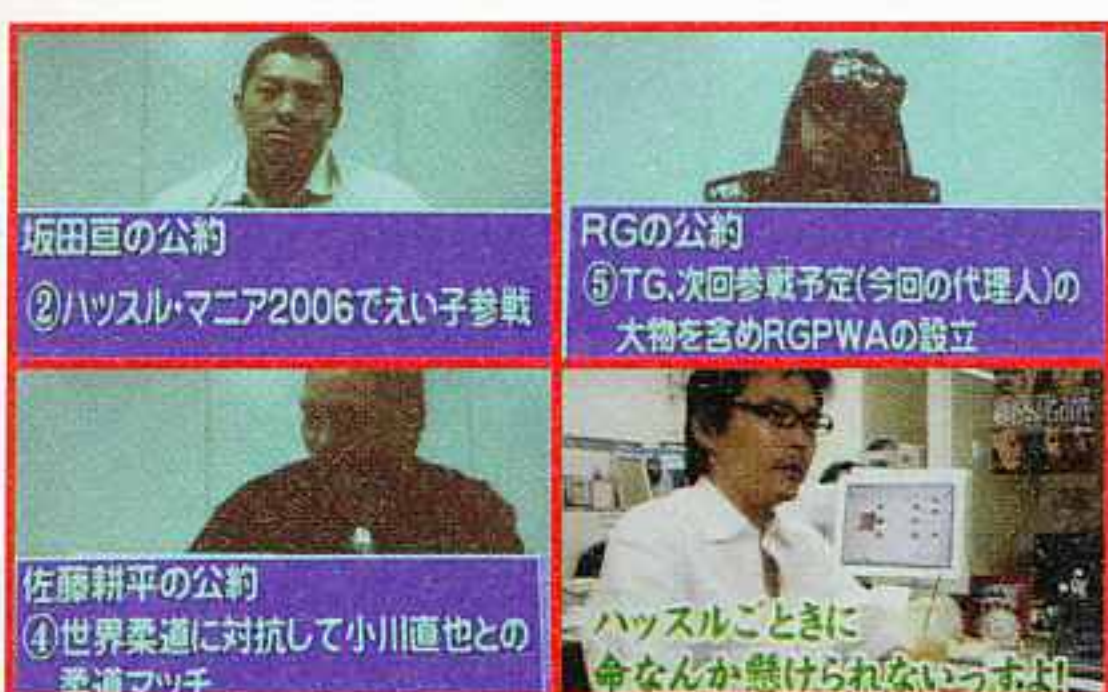
スル・ザ・ワールド!!

ハッスルの未来を決めるGM総選挙が開催されたこの日のハッスル・ハウス。選挙以外にも川田と天龍の危険な遭遇、後楽園での試合は1年9カ月ぶりとなる小川の一挙手一投足などなど見どころ満載。各選手の活躍ぶりを総選挙の結果と併わせて開票します!

文/チョロ　構成/真下義之　撮影/平工幸雄　写真協力/DSE

designed by nogu (Two Three)

「えい子を出す!!」「マイクアピール禁止!!」「RGPW設立!!」GM総選挙トンデモ所信表明

GM総選挙に立候補したのはRG、坂田亘、佐藤耕平の３名。スクリーンには過去４人のGMが紹介されるがRG以外はすでにハッスルでは見かけない……。大丈夫か、RG？

各候補者の所信表明が終わるとスクリーンには初代GMで現PRIDE広報局長の笹原氏が登場しRGを罵倒。再出馬については「ハッスルごときに命は懸けられない」とキッパリ。

オープニングでは矢野アナの司会で「どうする、どうなるハッスルの未来」と題した公開討論会を開催。暴走しまくるRGに対し坂田＆耕平はレスラーらしく腕力でRGを沈静化。

事前のネット投票、代理人による3WAYマッチ、会場のファン投票の3本勝負で2本先取した者が新GMに就任するという今回の総選挙。「RGPW設立」や「虎舞竜のロードを熱唱」など微妙な公約を掲げるRGと、「マイクアピール禁止」とアピールした佐藤耕平に対し、「ハッスル・マニアにえい子参戦」を掲げた坂田がネット投票で二人に大差を付け圧勝!

ボヤキ大連発、川田を尻目に天龍が〝デンジャラスT〟化？

「入場テーマは絶対俺の曲だからな。じゃねえと俺は出ねえぞ！」と駄々をこねた川田は自身のテーマで入場するも天龍の姿はなし。そのあと、天龍は大歓声を浴び一人で入場！

試合前の映像で川田はアン・ジョー相手に「しょせん腰掛けのアルバイト。俺にはわかるんだよ。なんで総統もあんなの引き入れたんだよぉ」と天龍に対してぼやきまくり。

試合前「モンスター軍に入るってことはコスチュームもチェンジしなきゃいけねえんだよ。あの頑固ジジイが黒パンツ以外穿くわけねえけどな」と高をくくっていた川田だったが……。

かつての師匠で現在は“モンスター大将”として高田モンスター軍入りした天龍源一郎と、ついにリング上でタッグを結成した“モンスターK”川田利明。モンスター軍ナンバー２をめぐる熾烈な争いは意外な結末を迎えた。“大将”はどうなるのかな?

ハッスルでは確固たる地位を築いている川田としてはモンスター軍ナンバー２の座を脅かす天龍は「うざい」の一言。大会前のぼやきっぷりを見る限り仲間割れは時間の問題かと思われた二人だったが……最後の最後でチョップの競演からサンドイッチ式延髄で金村をフォールしガッチリ握手！

総統がオープニングでロックアップ宣言だ、タココラッ!!

ハッスルフリーク大注目の第一試合前の髙田総統ものまね劇場（？）。今回はGM総選挙の立候補者が「今回のメンツは顔が地味すぎマ～ス」というアン・ジョーに毒づくと「そんなことは、ど～でもいいですよ」と、だいたひかるネタを披露。次のターゲットは誰？

右が前回の長州“か”で左が今回の“長州ガ”。リキラリアットならぬ“ガ”ラリアットからサソリ固めも最後はイエローに圧殺負けだ、コラッ！　次は“長州刀”が登場か？

ノリノリの髙田総統は“長州ガ”に対し「何コラ、タココラ～、ビタ～ン！」と総統パワーを注入すると「ロックアップ！」とカメラを相手にロックアップを披露する大サービス。

８月の後楽園大会には“長州か”を参戦させた髙田総統だったが、今回はさらにパワーアップした“長州ガ”を呼び寄せ「それがおまえのやり方か？」と某現場監督口調で凄んでみせた。

ハッスル・ハウス vol.20 9月7日 後楽園ホール

プチネタ満載!!

読めばわかるさ、ハッ

『レッスルランド』が“野人”中西なら、『ハッスル』は大森さんだ!

大森さんの勝利で新GMの座はRGと坂田の決選投票に。しかし、RGは喜びのあまり大森さんに向かって「やっぱり高山さんは強い!」と失言。アンタがノーフィアーだよッ!

ここで崔が勝てば坂田が2本先取で新GMとなるが、そうは問屋が卸さない。せっかく大森さんを担ぎ出したからには最後は斧爆弾の乱れ打ちでワイルドに勝利をゲットですよ!

結局、代理人3WAYマッチは坂田の代理人・崔領二、耕平の代理人・バボ、そしてRGの代理人・大森隆男の3人で行なわれることに。3、2、1、ゼロ……ハッスル! ハッスル!!

RGの代理人 X

お気に入りの三木道山を口ずさみながら登場したRGが代理人3WAYマッチに“プロレス界に大ナタを振るう人物”として呼び込んだのは、なんと大森隆男! アックスボンバー!!

1本目のネット投票は坂田が2位のRGの893票(not反社会勢力)の2倍以上の票を獲得し勝利。2本目の代理人3WAYマッチでは、かねてから大物投入を示唆していたRGが大森の招聘に成功し見事勝利。ここで坂田はリング上から人生初の土下座で観客にアピール。ゲスト解説のアイドル二人組は「ヤバッ、超カッコイイ〜!」だと。

「バカヤロ〜〜!!」選挙といえば、(アントキの)猪木が大暴走!!

殺すぞ!

「2016年は東京」とオリンピックの開催地が書き込まれた投票用紙を見て必要以上にブチキレたアントキのは「ルールを守れ、殺すぞッ!」と数年前の猪木祭りを再現ダーッ!

安部晋三

メイン前に開票現場にいるアントキの猪木がスクリーンに再登場。投票用紙には坂田、RG以外にも「阿部晋三」と総裁選と勘違いし書き込む人も(ちなみに正解は“阿倍”です)。

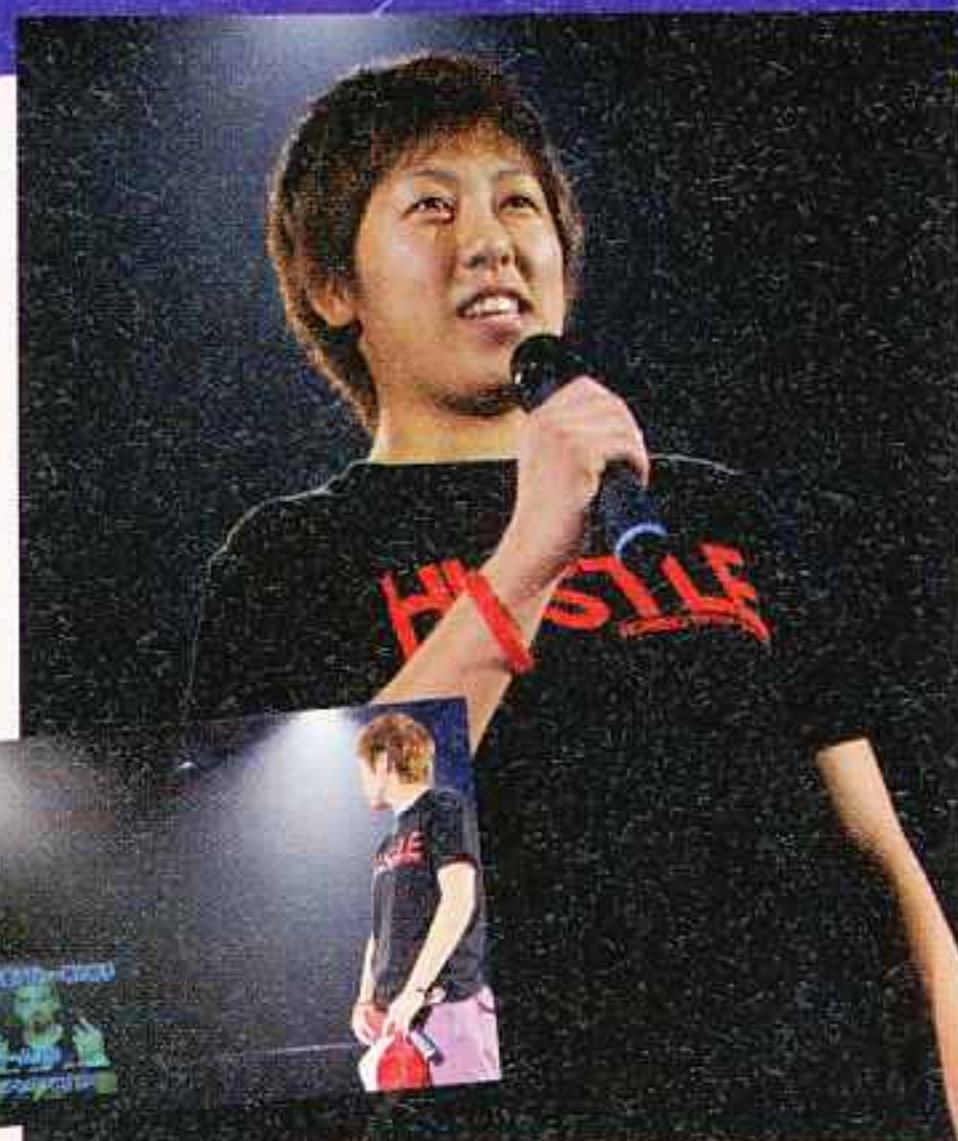
投票箱

休憩中、3人のビキニギャルが投票箱を持ち会場を回る。ゲスト解説の浜田翔子と海川ひとみは矢野アナから「誰に投票する?」と聞かれると二人揃って「坂田さん!」と断言。

HUSTLE

昨年のGM総選挙では、まちゃまちゃが投票方法の説明を行なったが、今回その大役を任せられたのは数多くいるアントンものまね芸人の中でも若手のアントキの猪木。たしかに若かりし日のアントンに似てはいるが……いっぱいいっぱいダーッ!!

新GMの発表は選挙といえばこの人、アントニオ猪木ならぬアントキの猪木が務めた。「元気ですか〜!?」とお約束の挨拶は無難にこなしたものの、そのあとセリフを忘れ固まってしまうアントキの。最後は新GMが坂田に決まったことを報告し、新GMへのプレゼントとして猪木詩集を読み始めるも、あまりのグダグダぶりに映像は途中でカット。

『ハッスル』のじゃりん子、千恵ちゃんデビュー

先日の『WRESTLE EXPO』での総合マッチで勝利を収めた練習生・石井千恵がリングに上がると『ハッスル20』愛知大会でのデビュー戦の相手がチーム3Dのスパイクに決定したことが告げられた。頑張りましょう!

キャプテン、天龍に禁断の逆水平 なぜかアントン化も進行中!

それに比べりゃ後楽園なんて どうってことないですよ

試合前の映像では初めてのブリブラダンスを前に練習を積む小川の姿が。そこへ登場したのはこの日デビューのKUSHIDAと、その師匠TAJIRI。二人を前に小川はなぜか猪木化!

ガウン姿で金村、大谷とともに花道に現われたキャプテンは初となるブリブラダンスを披露。リングに上がるとド真ん中で再度、ダンシング。最後は3人でハッスルポーズを決めた。

力道山メモリアル以来の対戦となる“キャプテン・ハッスル”小川直也と“モンスター大将”天龍源一郎。先に禁断の逆水平チョップを繰り出した小川だったが、当然のように天龍は倍返しチョップで反撃。さすが大将ッ!

小川はデビューを前にし緊張気味のKUSHIDAに対し「俺なんか、デビュー戦は東京ドームのメインだぞ。それに比べりゃ後楽園なんて、どうってことねぇですよ!」と師匠ばりにアゴを突き出し闘魂注入しようとするもTAJIRIに止められ、しょんぼり。そのせいか、1年9カ月ぶりの後楽園での試合だったが大ハッスルとはならず。

実況席が危ない!! グラビアアイドル二人が大騒ぎ!!

実況の矢野武アナと解説の『東スポ』平塚雅人氏とともにゲスト解説として登場したのはグラビアアイドルの浜田翔子と海川ひとみ。最後まで大はしゃぎで飛ばしまくりの二人の解説に矢野アナと平塚氏は戸惑いを隠しきれず。

これでいいのだ!! パパ登場に反対の賛成なのだ!!

ねじりハチマキに腹巻き姿で登場したドクロンZ・パパ。娘のピンチには「心配なのだ〜」と叫び救出するも、最後は娘が敗戦。試合後はスペイン語で何やら言い合うも「これでいいのだ〜!」と満足げに引き上げていった。

HUSTLE

試合後、イケメンとの試合はあきらめたEricaはマイクを持つと10月大会でチーム3Dとの対戦を表明。マーガレットも「3D、ナンボのもんじゃ〜!」と日本語でアピール!

高田 スター軍

久々に登場のドクロンZが「パートナーは私の偉大なパパよ。パパ〜」と呼び込むと「私がドクロンZのパパなのだ〜」との声が鳴り響きバカボンのテーマで“パパ”が登場!

高田総統、やっぱ凄いわっ!! 今回、久しぶりの再録となるハッスル劇場だが、我らが高田総統の進化っぷりときたらどうだ！ ちょっと目を離すとこれだから、油断できない。RPGでたとえるならば、通常はレベルが上がりすぎると新しい呪文や特技なんか覚えないもんだが、高田総統の場合はLV100を突破したいまなお、次々とニューキメゼリフ、新しいモノマネ、川田や天龍との掛け合いを破壊力抜群に披露してくれる。さあ、問答無用で〝アイアム・プロレスラー〟高田総統にひざまずけ!!

●

この日のメインで、全日マット以来6年ぶりにタッグを組む天龍と川田。別々にお互いのテーマ曲で入場、試合でもラリアットの同士討ちなどギクシャクぶりを露呈したが、最後は天龍が延髄&川田が顔面への蹴りを金村に決め、見事勝利を収める。この合体技は〝モンスターの絆〟と名づけられた！

●

坂田 （メイン終了後、GMに就任した坂田がラメ衣装を着込んで登場）俺はやっとここまで上り詰めたぞ。おい、高田総統。聞いてるか？ **俺様**がGMになったからには、もうてめえにおいしいところばっかり持っていかせねえぞ！

総統 なんだよ？ 今日は聞き慣れない声がやけにうるさいな。

［『威風堂々』が流れ、高田総統をはじめとする高田モンスター軍がバルコニーに現われる。観客は大『ソートー!!』コール］

総統 （徐々に消えゆく「ソートー!!」コールに不満気の表情で）……**もう終わりぃ？** モンスター信奉者の諸君！ もうすっかり秋だな。秋の夜長という

やはり総統にはハッスル軍を見下ろし、悠々と語る姿がよく似合う！ じつは、低視聴率ドラマ『レガッタ』の視聴者だったということが発覚した！

アホの坂田クン！
次は彼女を連れてきたまえ!!

vol.20

ハッスル・ハウス 高田総統劇場

帰ってきたぞ！
こ～のヤロ～ォ!!

構成／辻 将人　撮影／平工幸雄
designed by nogu (Two Three)

や、今日は私もこれに合わせてちょっと長く話してみようかな。

［観客大歓声］

総統 我こそは高田モンスター軍総統、高田だ!!

［観客大歓声&大『ソートー！』コール］

総統 オッケー、もういい。ところでだ！ さすが私がモンスター軍ナンバー2と認めた男がここにいる（天龍のほうを向いて）。

［観客拍手］

総統 **大将！** 今日はプロレスの神髄をたっぷりと堪能させてもらったよ。

［観客拍手］

総統 まあ、そうだな。我がモンスター軍のプロレスをドラマにたとえるなら、**私の友人も出演している大河ドラマ『功名が辻』**のごとく見事な完成度だったよ！

［観客大歓声&拍手］

総統 それに引き替えだ！ ハッスル軍のプロレスの完成度ときたら、お粗末極まりなかったな。たとえて言うなら！ そうだな……**速水もこみちの『レガッタ』**（※今夏、テレビ朝日で金曜よる9時に放送していたドラマ。低視聴率のため、予定より一話少ないかたちで打ち切り）ってとこだな！

［観客大爆笑］

総統 どうだ？ ビビッたか!? たじろいだかよ！

坂田 おい！ 総統とやら。新GMのお言葉が聞こえなかったのか？ いまここで一番偉いのはGMであるこの**俺様だ！**

［観客『**エイコ**』コール］

総統 ……**ど～でもいいですよ～**（なぜかいまごろ、だいたひかるのモノマネ）。

［観客大爆笑］

坂田 おい！ 言ったそばからおいしいとこ持っていくな！

総統 さっきから野良犬が「キャイン！ キャイン！」と吠えていると思ったら、なんだよ、あんまりちっちゃすぎて視界に入んなかったよ、アホの坂田クン！

坂田 GMとしておまえに伝えたいことがある。11月23日の『ハッスル・マニア』のメインでは、**俺様**vsエスペランサーで決定だ！

総統 **（即座にかわいらしく）やだよお！**

［観客大爆笑］

総統 だってさ、エスペランサーといえば映画でいうとハリウッドクラスだよ。キミはどう頑張ってもせいぜい……。

観客A Vシネマ！

総統 **先、言うなぁ!!**

［観客大爆笑］

総統 **こ～のヤロ～ォ!!**

［高田総統十八番のキメゼリフに観客大爆笑］

総統 （気を取り直して）もう一回言うぞ！ ……ハリウッドクラスだ！

［中途半端なところから再開した総統に観客大爆笑］

総統 しかしな、キミはどこまで頑張っても……。

観客B Vシネ！

総統 **（慌てて）や、やめてくれよぉ、おい！**

［観客大爆笑］

総統 **そりゃないだろ～**（哀しみ溢れた声で）。……ということだよ！ そんなバリューのない男とあのエスペランサーが闘うわけないじゃん!! 百歩譲ろう！ 百歩だけだぞ！ 百歩譲ってだ！ キミが**彼女**をパートナーとして連れてくれば……考えてやるよ！

[観客拍手&大『エイコ』コール]

小川 おい! ちょっと待て! おい! ちょっと待て! エスペランサーの次の相手は俺だろ!

[観客一斉に「エ~~~!?」]

小川 栄子が闘えるわけねえだろ! 今年のマニアはな、エスペランサーと俺のタイマン勝負だ!

[観客の反応イマイチ]

坂田 おいおいおいおい。いま**俺様**が話してんだよ! 邪魔すんじゃねえよ!

小川 邪魔じゃねえよ! 割り込んでんのは、おめえだろ! なんだおまえそれは? だいたい誰だ!? おまえ。

坂田 何言っちゃってるんだよ! 新GMだよ!

[ここでニューリン様とHGの声が響き渡る]

ニューリン様 おい! アホは引っ込んでろよ!

HG セ~イ、坂田新GM。今夜はベッドの上で私の股間のシャンパン開けちゃっていいですか~!?

[『ゴールフィンガー'99』でHG&ニューリン様が入場&観客大歓声]

HG オッケ~~~イ! **性欲の秋フォ~~~!!** どうもHGで~~~す! そして~~~。

ニューリン様 アタシの名前はニューリンだ! おめえら、アタシをニューリン様と呼べ!

TAJIRI はい、皆さん一緒に呼びましょ~。一緒に叫びましょう! せ~~の!

観客 ニューリン様~!!

TAJIRI はい、もう一回いきましょう! せ~~の!

観客 ニューリン様~!!

総統 おい。おい! **新婚さん! (HGに向かって)。**

誰も見たいとは言ってないのに、次回からみんながビビってたじろぐオリジナルポーズで締めるという坂田新GM。今後もその"俺様"ぶりをいかんなく発揮しそうだ。

横浜でエスペランサーとの一騎打ちを打ち出すも、観客からの支持が得られないと見るやいなや、「大阪は俺とHGとニューリンの揃い踏みだ!」とシフトチェンジしたキャプテン。この強引さも魅力の一つだ。

いままで数々のタイトルを手にし、日本人で唯一猪木、馬場をフォール。まさに"生ける伝説"である天龍源一郎と髙田総統が絶妙な絡みを見せてくれるハッスルというリングは、なんて贅沢なんだ!

TAJIRIと金村のエロエロブラザーズ(勝手に命名)は、ニューリン様に「キモいから組みたくねえんだよ!」と一蹴される。まあ、当然と言えば当然だわな(―編集長ふうに)。

[観客爆笑]

総統 新婚さん! **結婚おめでとう! (じつにさわやかに)。**

[場内拍手]

総統 しかしだ! 考えてもみろよ。キミは**ハードゲイ**だろ? ん? なんだ? **ずいぶん普通の幸せがほしかったんだなあ。**どうりでだ。近頃その卑猥な腰のキレが悪くなったなと思ったら……なんだよ、私生活でお疲れ気味かい? **こ~~のヤロ~ォ!!**

HG そうそうそうそう、大塚家具で買った新しいベッドの上で……セ~~イ!!

[強引なノリツッコミに観客失笑]

HG セイでしょ、ちょっと。それはあくまで**住谷クンのお話**でございます。私はハードゲイですからね! 私の夢はイギリスで……セ~~イ! (ニューリン様のお尻をいやらしく覗き、にじり寄るTAJIRI&金村に向かって)。

[観客爆笑]

HG 目が散るセイ、ホントに。下がっていてください。とりあえず私、話してますからね。私の夢はイギリスでゴリゴリの男子と結婚することですよ。わかってますか?

川田 おい! **最近つまんなくなった芸人!**

[観客爆笑]

HG セ~イ! ストレートすぎるでしょ、あなた。

川田 おまえな、今度大阪でな、おまえの両親の前で、おまえが二度と子どもができないようにしてやるよ。まあ、**もうできちゃってる**っていうんだったら、話は別だがな(ニヤリ)。

HG セイセイセイ! それは住谷クンに変わって否定しときます。セイでございます。

ニューリン (天龍に向かって) おい! **天パーのじじい!**

[観客爆笑! **バルコニーから身を乗り出して怒る天龍**]

ニューリン おめえは出てこねえのかよ?

天龍 おい! そこの**ねえちゃん**! それと新婚ボケの腰振り野郎! 俺はな、おまえらが大阪で**川田クン**に勝ったら、そのあと名古屋でやったっていいんだぞ。

[観客「オ~~~~!」]

天龍 坂田クン。おまえ、エスペランサーとやりたいんだったらな、ナンバー2の俺とやるのが筋じゃねえのか!?

[観客拍手]

坂田 **じじい**、墓穴を掘ったな! いいだろう。じゃあ、次の大阪で**俺様**とおまえのシングルマッチ決定だよ! せいぜいいまのうちに遺言でも書いとけ!

[観客拍手]

総統 アホの坂田クン。GMの権限など所詮そんなもんなんだよ。いくら威張ったところで、キミが思ったとおりに事は運ばないんだよ。まあ、せいぜい頑張ってGMの権威を上げてくれたまえ! そして下々の諸君よ! 次の大阪、名古屋ではさらに結束を高め、我がモンスター軍がキミたちの度肝を抜くような……。

[やりとりを気にせずに、ニューリン様のお尻をいやらしく覗き、にじり寄るTAJIRI&金村に観客爆笑]

総統 **一番いいところだよ!** 度肝を抜くような贈り物を送ってやる。そうだな、モンスターK?

川田 そういうことだよ! バッドラ……。

総統 **(締めようとする川田を制して) ちょっと待て! おいっ!**

[観客大爆笑]

総統 何回も何回もこれを恒例にすんなよ! 我々は**コンビ**じゃないんだからよ。貴様に締めてくれとは言ってないんだよ。十年早いよ!

[無言で不満げの川田]

総統 ……悔しいか?

[うつむき、すねる川田に観客爆笑!

総統が川田に気を取られている隙に、大将が絶妙なタイミングでマイクに近づき……!]

天龍 **そういうことだよ! バッドラック!!**

総統 **言っちゃったよお!!**

[『威風堂々』が流れ、髙田モンスター軍が退場!]

●

"最強のトリオ漫才"、ハッスル制圧か!? ここ最近のハッスル劇場恒例の展開といえば、髙田総統がツッコミ、ボケてすねる川田という役割分担だったが、天龍源一郎のまさかの参加でネクストステージに突入! 10年前の3人の関係性からは想像もつかない光景が、奥深さを増しているとも言える。やってくれるよな。ハッスル、こ~のヤロ~ォ!

最後は「3、2、1、ハッスル! ハッスル! フォー!!」でフィナーレ。ここでもちゃっかりニューリン様のバックに位置しているエロエロブラザーズ(TAJIRIと金村)はさすがだ。

髙田道場～『ZST』～リキプロ～メキシコを経て誕生した新種のプロレスラー！

9.7『ハッスル・ハウスvol.19』後楽園ホール大会で大型新人がデビューした。KUSHIDAは中学生の頃から注目を浴びていた有望株で、いままでにない新人プロレスラーとしてコーチのTAJIRIも絶賛する類い稀なる才能の持ち主だ。10年前から愛用している(?)という青いハンカチで汗を拭う姿に早くも女性ファンの熱視線が集中している。総合格闘技全盛時代に自らプロレスの世界へ飛び込んできたこの男が、未来のハッスルを背負っていくことは間違いない。

聞き手／坂井ノブ　撮影／平工幸雄　designed by nogu（Two Three）

KUSHIDA

ハッスルに飛来した超新星！ この輝きは本物だ！

――まずはデビュー戦の見事な勝利、おめでとうございます。

KUSHIDA　ありがとうございます。

――正確にはずっと前に格闘技やルチャのリングには上がってましたけど、『ハッスル』デビューということで、また違った感覚があったんじゃないですか？

KUSHIDA　そうですね、格闘技のデビュー戦より緊張しました。一ヵ月前に記者会見を開いた日から体調崩しまして。

――プレッシャーで？

KUSHIDA　ええ。風邪ひいて大変でした。

――デビュー戦は「頭の中が真っ白で全然覚えてないです」って選手が多いんですけど、覚えてますか？

KUSHIDA　覚えてますね、ハッキリと。客席を見る余裕はなかったですけど。

――自分の評価として、ここがよかったなという部分はありますか？

KUSHIDA　そうですね……大技を出さないで試合ができたと思うんです。最後もウラカン・ラナだったじゃないですか。

――あれがいちばん派手な技でしたね。

KUSHIDA　いちばん派手な技がウラカン・ラナって最近では珍しいですよね。TAJIRIさんがそういうレスリングを教えてきてくれたんです、この何ヵ月間で。それが会場のリアクションに現われたのが、凄く嬉しかったですね。練習してきた成果が出せました。

――TAJIRIさんは「大事なのはサイコロジー（心理）」って、よく言ってますよね。

KUSHIDA　僕もまだ当然全部は理解してないですけど。物事っていうのは、理論をどんどん並べていって、理詰めにしていって、それで結論が導かれてるところがありますよね。いまのプロレスっていうのは、この理詰めをまったく無視して、結論、結論、結論ばっかりでまったく会話が成立してない無法地帯なんじゃないかな、ということなんです。TAJIRIさんが言ってるのは、その結論にいくまでの過程が大事なんだということじゃないかなって。過程があることによって結論も光ってきますよね。

――コーチとしてのTAJIRIさんっていかがですか？

KUSHIDA　そうですねぇ……。TAJIRIさんは日常生活からフェイントをかけたりしてくるんですよ。そういう部分は桜庭（和志）さんと似てるなって思いました。いまのプロレスと比較してわかりやすいように「いまのプロレスはこう。でも、ホントはこうあるべきなんだよ」っていうことを教えてもらえて、「たしかにそうだな」って。ホントに納得できる教え方をされてるんですよ。

――ハッスルの生え抜き第一号選手としてデビューするまでにいろいろあったと思うんですが、いちばん最初は髙田道場に入門したっていうことが格闘技の世界に入るきっかけですよね。

KUSHIDA　そうですね、幼稚園の頃からプロレスは好きだったんです。ちょうど武藤（敬司）さんが凱旋帰国したときぐらいで。武藤さんを観てカッコいいなと思って。ずっとプロレスラーになりたくて、中学生のときに家の近所に髙田道場ができたんです。「これは運命だな」と思ってプレオープンのときに行ったら、受付に髙田（延彦）さんが座ってて、「うわっ、いきなり髙田さんだ！」って凄く緊張しました（笑）。そこで桜庭さんが出てる大会ってことで『PRIDE』を観始めるんですけど。

――あ、そうなんですか。じゃあ髙田道場に入ったときは『PRIDE』というより、プロレスをやりたくて入ったんですか？

KUSHIDA　そうですね。

――たぶん入門した直後だと思うんですけど、KUSHIDAさんは『タモリ倶楽部』（テレビ朝日）で杉作J太郎さんとスパーリングをやってましたよね。あそこで僕はKUSHIDAさんの存在を初めて知りましたよ。

KUSHIDA　あのときはビビる大木さんともやりました（笑）。あの頃、桜庭さんが『PRIDE』で活躍し始めたばかりの時期だったんで、いろいろ教えていただきましたね。桜庭さんがどんどん勝ってって、こんなに凄い人なのかってビックリしました。

2003年11月23日と2004年1月11日にZepp Tokyoで開催された『ZST GP ジェネシス・ライト級トーナメント(16選手参加)』で櫛田雄二郎（＝KUSHIDA）は、抜群のスタミナとレスリング＆関節技を武器に見事優勝。ZST本戦にも二度出場した。

世間とプロレスって相当離れてると思う。世界中の人にプロレスを見てもらいたい！

——そのあと2003年11月の『ZST GP』のジェネシス・ライト級トーナメントに出てましたよね。

KUSHIDA はい。じつは、あの当時は嫌々だったけど、出てよかったなといまになって思います。ただ、総合を続けたいという気持ちはまったくなかったですね。

——あそこで優勝したっていうことは、のちのち大きな意味を持ちそうな気がしますね。やっぱりプロレスの華やかな部分がよかったですか？

KUSHIDA そうですね、あと自由な部分とか。桜庭さんが出るときは観ましたけど、あまり熱心には『PRIDE』を観てもなかったです。ずっと、どうやってプロレスラーになろうかなって考えてました。

——一時期、リキプロの道場にも通ってたんですよね？

KUSHIDA はい。リキプロ代表の立石（史）さんの旦那さんが高田道場に通ってて、そこで知り合って仲良くさせてもらってたんですけど、立石さんが代表になっちゃって。そこで、（長州）力さんを紹介してもらって、何度か「練習させてください」って言って、石井（智宏）さん、宇和野（貴史）さん、和田（城功）さんたちと一緒にリキプロの道場で練習させてもらいました。ただ、大学に通いながらプロレスできる環境って日本にはないじゃないですか。ルチャ・リブレも好きだったんで。メキシコ人は適当だから飛び入りで参加すれば「いいよ、いいよ」って感じで練習できるってイメージがあったんで。

——ハハハハハ！　そのイメージだけでメキシコに飛び込んだんですか。

KUSHIDA そうですね。最初は二週間、次は一ヵ月、最終的には半年間行きました。最初の二週間はサンフェルナンドに行って、オリエンタルを紹介してもらって練習させてもらったんですけど。

——超一流選手じゃないですか！

KUSHIDA 次の一ヵ月間は語学留学で行ったんですね、学校のプログラムで。それは普通に勉強だけで、一回だけオリエンタルのところに行きましたけど、勉強が忙しくて……。で、そのあとに『ZST』の本戦に出て、大学を休学して半年間行って、そこでルチャのライセンスを取得しました。

——メキシコには日本人選手もいますよね。誰かに会いましたか？

KUSHIDA 奥村（茂雄）さん、新日本の田口（隆祐）さん、あと棚橋（弘至）さん、中邑（真輔）さん、あと邪道さんと外道さんもちょうど来てて、あと闘龍門の選手もいました。今回デビューしたときもRGさんを通して棚橋さんから「おめでとう」ってコメントをいただきました。

——いい人ですねぇ。RGを通すとありがたみがなくなるけど（笑）。

KUSHIDA メキシコで中邑さんから「新日本に入れ。俺が言っといてやるから」って言われたんですけどね……。今年2月に『ハッスル』のオーディション受けたとき、中邑さんから抗議のメールが来ました。「なんで『ハッスル』なんだ」みたいな（笑）。こうやってデビューするまで、いろんな方々にお世話になったんでリングで闘って恩返しができたらいいなと思ってますけど。

——では、KUSHIDAさんが『ハッスル』に決めた理由は？

KUSHIDA どうせ日本ではプロレスはできないだろうと思ってたんですけど、メキシコでルチャをやってみて、せっかくだから日本でもプロレスやりたいなと思っていたんです。日本に帰る直前にオーディション開催の発表があって。その前にも『ハッスル・マニア』が凄い盛り上がってたじゃないですか。おもしろいなと思ってました。だから運命的なものを感じて、「このタイミングだ！」と思ってオーディションを受けました。

——将来、どんなプロレスラーになりたいですか？

KUSHIDA WWEには行ってみたいですね。やっぱりあそこが最高峰じゃないですか。TAJIRIさんの本を読むと、行きたいなって思いますね。世界中を旅しながらプロレスをやるのて相当しんどいんでしょうけど、やってみたいです。いまは修行と思って、どこにでも行ってみたいし、誰とでも対戦してみたいです。当面の目標は『ハッスル・マニア』に出ることですね。去年の『ハッスル・マニア』はビデオで観たんですけど、嬉しかったです。ワイドショーで凄いやってたじゃないですか。どんどんやってほしいなと思いました。

——あれほどプロレスが世間で話題になることってめったにないですからね。

KUSHIDA ないですよね。大学行ってると友だちとか、まったくプロレスのこと知らないんですよ。世間とプロレスって相当離れてるなと思って、世間の人がプロレスの話をしてると嬉しいですね。芸能人ともやってみたいです。昨年の『ハッスル・マニア』の鈴木健想さんみたいなポジションには憧れますよね。和泉元彌さんと対戦して負けちゃうっていう。

——あれはプロレスラーにしかできないですからね（笑）。

KUSHIDA ああいう仕事したいです。あと、TAJIRIさんとボリビアへ行きたいですね。ボリビアにプロレスがあるらしいんですよ！　プログで見ましたよ。ほとんどルチャみたいな感じでしたけど。民族衣装を着たおばちゃんがコーナーからプランチャしてて、これは凄いなと思って（笑）。

——じゃあ、これからはプロレスを通じて世界を見ていきたい？

KUSHIDA そうですね、世界中の人にプロレスを見てもらいたいです。

【06年9月12日／PRIDE道場にて収録】

師匠TAJIRIが鬼蜘蛛の蜘蛛の糸でからめ取られた直後、KUSHIDAは逆エビ固めで苦悶！　ここで大「KUSHIDA」コールが発生した。フィニッシュ以外でも随所でサイコロジーは発揮されていた。恐るべき新人がデビューした！

くしだ■昭和58年5月12日、東京都出身。スポーツ歴はレスリング7年、バスケットボール3年、ルチャ１年。TAJIRIの指導により、映画（好きな映画は『ライフ・イズ・ビューティフル』）と新聞（愛読紙は日経新聞と東スポ）には目を通す。趣味は読書。専修大学経営学部に通う現役大学4年生。昨年メキシコでルチャのプロライセンスを取得。175cm、80kg。「体重はあと10kg増やしたい」（本人談）。

デビュー戦プレイバック

○KUSHIDA&TAJIRI
［9分13秒　超新星ラナ］
赤鬼蜘蛛&青鬼蜘蛛×

世界中を渡り歩き多くのプロレスラーを見てきたTAJIRIが「デビューに必要な条件はすべて揃えている」と評して、パートナーを買って出た。TAJIRIもかなり期待しているのだ。

蜘蛛をタランチュラでからめ取る！　師匠とのWタランチュラを決めて非凡なる才能を早くも発揮。メキシコにルチャ留学をしていただけあってジャベ（関節技）系の技も器用に使いこなす。

この試合最大のピンチは鬼蜘蛛の蜘蛛の糸でTAJIRIがからめ取られたところだ。鬼蜘蛛が逆エビ固めでKUSHIDAを捕獲！　ここが最大のピンチだったがKUSHIDAはロープエスケープで逃れた。

そして最後の超新星ラナ（ウラカン・ラナ）。切れ味は抜群でフィニッシュの説得力もバッチリ。ご覧のとおり、表情もいい！　この技とノーザンライト・スープレックスがKUSHIDAの得意技。

ハッスル10月&11月
シリーズ最大の見どころCHECK!!

ザ・エスペランサーは再びハッスルのリングに降臨するのだろうか!?

ハッスルの年間最大イベント『ハッスル・マニア2006』の開催日が近づいてきた。ご覧のように大会ポスターもハッスル史上最もぶっ飛んだデザインだ。映画『トータル・リコール』よろしく髙田総統の顔が割れた下から総統の〝闘う化身〞ザ・エスペランサーの顔が出現するという、何か大変な事態を示唆するような内容となっている。

9月7日の『ハッスル・ハウスvol.20』で行なわれたGM総選挙で新たにGMに選ばれた〝GMW〞こと坂田亘は、すでにエスペランサーとのシングルマッチをブチあげて10月6日の『ハッスル19』（大阪府立体育会館）で〝モンスター大将〞天龍源一郎とのシングルマッチに挑む。モンスター軍ナンバー2として立ちはだかる天龍に勝たなければ坂田vsエスペランサーは実現しない。この一戦が今後のハッスルを左右する大きな意味を持つ一戦となる。

この一戦で坂田が負けてしまえば、当然エスペランサーが『ハッスル・マニア』に登場しない、という展開も考えられるはずだ。エスペランサーが登場した『ハッスル・エイド』ではモンスター軍のナンバー2（当時）だったニューリン様がフォール負けを喫したことに端を発している。そもそもエスペランサーは、リング上ではモンスター軍が追い込まれ、さらにはハッスルというかDSE自体がフジテレビの契約解除によって追い込まれたというダブルのピンチに登場したのだ。よほどのことがない限り登場する存在ではない。

HGが言うようにエスペランサーとはゲームで言うところのボスキャラであり、すべてを超越した存在だ。髙田総統の友人である髙田延彦統括本部長は『kamipro special 2006 SUMMER』において、エスペランサーが誕生した理由を「人々の熱い思いと危機感」であると語っている。

いまハッスルの熱、そして危機感はどれほどなのか？　今年6月に襲ってきた大ピンチを完全に脱したのか、否か？　エスペランサーは本当に降臨するのか、しないのか？　大きな謎を抱えたままハッスルは秋のビッグマッチ・ラッシュに突入する。

ハッスル　怒濤の10月&11月シリーズ大会スケジュール

KYORAKU presents
ハッスル19
大阪・大阪府立体育会館
10月6日（金）
開場18:00　開演19:00

[チケット料金]
※全席指定・消費税込
ハッスルVIP／12,000円　※特典：ハッスルグッズつき
RRS／8,000円　タンドS／6,000円　スタンドA／4,000円
（スタンドAのみ小学生以下は2,000円。
ドリームステージにて受付）

[対戦カード]
HG&ニューリン様&
“キャプテン・ハッスル”小川直也
vs
“モンスターK”川田利明&ソドム&ゴモラ

坂田亘
vs
天龍源一郎

“チーム3D”
ババ・レイ&ディーボン&スパイク
vs
“ハッスルハードコアブラザーズ”
金村キンタロー&田中将斗&黒田哲広

KYORAKU presents
ハッスル20
愛知・愛知県体育館
10月9日（祝・月）
開場16:00　開演17:00

【チケット料金】
※全席指定・消費税込
ハッスルVIP／12,000円
※特典：ハッスルグッズつき、

RRS／8,000円
スタンドS／6,000円
スタンドA／4,000円
（スタンドAのみ小学生以下は2,000円。
ドリームステージにて受付）

[対戦カード]
石井千恵
vs
スパイク

坂田亘新GM
名古屋凱旋記念試合
（カード未定）

KYORAKU presents
ハッスル・ハウス vol.21
東京・後楽園ホール
11月15日（水）
開場18:00　開演19:00

【チケット料金】
※全席指定・消費税込
ハッスルVIP／10,000円※特典：ハッスルグッズつき
スタンドS／7,000円 スタンドA／5,000円 スタンドB／3,000円

【チケット発売日】10月1日（日）10:00?

KYORAKU presents
ハッスル・マニア2006
神奈川・横浜アリーナ
11月23日（木・祝）
開場15:30　開演17:00

【チケット料金】
※全席指定・消費税込
ハッスルVIP／20,000円 ※特典：ハッスルグッズつき
RRS／12,000円　S／8,000円　A／6,000円　B／4,000円
（Bのみ小学生以下は2,000円。ドリームステージにて受付）

[お問合わせ] DSEハッスル事業局 03-5464-1731

本誌"非常勤"編集長
久々に登場の山口日昇が
副大臣室に突撃!!

馳浩

現役プロレスラー　ラストインタビュー

「今度来るときは"大臣室"かもしれないぞ(ニヤッ)」

"プロレスの賢者"もついに引退!!　衆議院議員であり文部科学副大臣をも務めるあの馳浩が、先だっての全日本8・27『プロレスLOVE in 両国』で引退試合を行なった。これがまた、やまだかつてない(馳といえば邦ちゃん)ほど強烈に明るい幕引きっぷり!　じつは本誌はその引退を目前に控えていた馳先生に、20年間のプロレス人生を振り返ってもらっていた。聞き手は、馳先生とは幾多の名(迷)勝負を繰り広げてきた本誌"非常勤"編集長の山口日昇だ!

聞き手／山口日昇
本文構成／井上崇宏(THE PEHLWANS)
構成／松澤チョロ　撮影／丸山剛史
designed by matsu(TwoThree)

部科学副大臣

田vsエスペランサーは実現しない。

ビッグマッチ・ラッシュに突入する。

馳　お待たせ！（『kam·ipro』〝非常勤〟編集長・山口日昇の姿を見るや）おい、山口！　おまえのような不埒な男が文部科学省になんの用だよ⁉

——先に言われてしまった（笑）。

馳　いやぁ、久し振りだな！

——お久し振りです。お忙しいところすいませんね、副大臣！

馳　しっかし、こんなインチキ野郎が文部科学省に来るとはなぁ……文部科学省始まって以来のインチキゲストだな（笑）。

——文部科学省始まって以来のインチキ議員に言われたくないですね！（笑）。インチキといえば副大臣、あのインチキ臭いヒゲはどうしたんですか？

馳　やっぱり選挙ということになるとヒゲを嫌がる人が多くてなあ……。それと、「馳さんは好きだけどヒゲ面は嫌いだ」って人、意外と多いんだよ。

——「ヒゲは好きだけど、馳は嫌いだ」っていう人のほうが多いはずだけどなぁ。

馳　（無視して）そんなことで注目を浴びるのも嫌だなと思って剃っちゃった。

——ヒゲ問題をわざわざ引っ張るのも面倒だと。

馳　そう、くだらないじゃん。

——というわけで副大臣、「馳さんは好きだけどプロレスは嫌いだ」っていう有権者の声が多いから引退するらしいじゃないですか？（笑）。

馳　わかった？……って、そんなことはないけどな（笑）。まぁヒザの怪我が一番大きいよな。

——またぁ、そんな表向きの理由は置いといて本当の理由を教えてくださいよ。

馳　いや、残念ながら引退せざるを得ない！　〝せざるを得ない〟っていうのが事実だな。したくはねえんだけどなぁ……。

——べつにボクは、残念でもなんでもないですけどね（笑）。

馳　俺が残念なんだよ！

——あ、副大臣が残念！　念のためお聞きしますが、今回の馳さんの引退っていうのは「もう二度と出てこない」っていう意味の引退なんですか？

馳　……基本的には。

——ガハハハハ！　なんだ、それ！

馳　違うな。原則として、だな。

——じゃあもう〝プロレス参拝〟は原則的にはしない？

馳　「できない」というのが事実だな、ホント言えば。さすがにヒザがね、もう歩いてても外れそうなんだよ、ガクンガクンいって。普通にしててもさ、ほら、こんなに動くの（と右ヒザの関節を動かす）。

——うわっ、ホントだ！

馳　手術のときに医者に聞いたら、もう骨に癒着してて、それを剥がしてまたくっつけると、今度は曲がらなくなったりするから、筋が切れたまんまなの。まぁ、しゃあないよな。

——ちなみに頭のほうの筋は大丈夫？

馳　頭の筋も……じつは常に断裂して、融合したり破裂したりしてるよ（笑）。

勇気を出して副大臣室に潜入した『kamipro』取材班だったが、そこで見たのはクラウチング・スタイルでパソコンを操る馳先生だった!

——ダハハハハ。馳さんは今年いくつになるんでしたっけ？

馳　もう45歳になりましたよ。

——もう45歳！　あのさわやかな、かつインチキ臭い若者も45歳になる、っていう現実が凄まじいですよね。

馳　見よ、この純粋な瞳の奥に隠されたいかがわしさ！

——「純粋な」って自分で言うところが、すでにいかがわしい（笑）。馳浩っていう人は、根っからのヒールとしての素質があると思うんだけど、それが45年間ずっとベビーフェイスを演じ続けてることが凄いですよね。

馳　二重人格を惜しげもなくなぁ。

ホント、必ず『kam·ipro』は読んでますよ。文部科学省の資料の次に『kam·ipro』を読んでるから

——たしかに、惜しげもなくベビーフェイスを演じてますよね。

馳　やっぱり政治家になるべくして生まれてきたから‼

——たしかに、ホントにそうだと思います。

馳　建前と本音を行ったり来たりしながら、でもその両方を一生懸命できるところが、俺なんだよ。

——たしかに、本音と建前の両輪をうまく転がしていますよね。

馳　その両方を一生懸命やってるのが俺のいいところだ。

——自画自賛！　またそれをじつに器用にこなせてるところが見てて腹立たしいですよ（笑）。

馳　違うよ、そこが俺らしいとこなんだよ（笑）。

——その器用さが腹立たしいんだけど、なぜかいつも引き込まれてしまうという。つまり、最高の二重構造をもってして、副大臣へと上り詰めたと。……もしかしたらプロレスに携わった人の中で一番出世してるでしょ？

馳　いやいや、一番出世したのは猪木さんですよ。猪木さんのあの……（しばらく溜めて）いかがわしさには勝てないな、いくら俺でも（笑）。

——猪木さんと馳さんの差ってなんなんですか？

馳　やっぱり人格でしょ。猪木さんの素晴らしさには足元にも及ばないですよ（ニヤリ）。しかし『kam·ipro』も出世したよなぁ、こんなにブ厚くなっちゃって（テーブルの上に置いてあった前号を見ながら）。

——厚さの問題じゃなんですか？

馳　いやいや、読み応えがありますよ。

——ありがとうございます。もはやボクは、ほとんどタッチしてないですけど。

馳　ホント、必ず『kam·ipro』は読んでますよ。文部科学省の資料の次に、『kam·ipro』を読んでるな。

——素晴らしい！　ありがとうございます！　感動します！（無表情で）。

馳　そういえばさ、引退試合に呼んでもいないのにミスター・ヒト（安達勝治）が来るらしいんだよなあ。「俺にも花束贈呈させてくれ」だって。

——ガハハハハ！「呼んでもいないのに」ってヒドイなぁ。自分の師匠じゃないですか。

馳　だから来るみたい。花束贈呈に来ていただけるのは、森喜朗前総理だろ、小坂憲次文部科学大臣、そして私の政治

〝酒池肉林〟のプロレス人生　馳浩年表

1985
8月22日　専修大学の先輩・長州力の勧めでジャパン・プロレスへ入団。提携していた全日本プロレスのリング上で入団を挨拶を行なう。

1986
2月24日　プエルトリコに遠征。このあとカルガリーで武者修行。
2月28日　プエルトリコ・カグアス・シティアリーナでのミグエル・ペレス・ジュニア戦でプロデビュー。
10月3日　カナダ・アルバータ州カルガリーでベトコン・エキスプレス1号のリングネームでベトコン・エキスプレス2号（新倉史祐）と組んで、カルガリー地区インターナショナル・タッグ王座を奪取。これがベルト初戴冠。

1987
12月27日　新日本プロレスの東京・両国国技館大会で凱旋帰国試合を行ない、小林邦昭からIWGPジュニア・ヘビー級王座を奪取。第5代王者となる。これがシングル・ベルト初戴冠になると同時にデビュー戦でタイトル奪取の快挙。

1988
5月27日　宮城・宮城県スポーツセンター大会でオーエン・ハートに敗れ、IWGP王座から転落。（3度防衛）

1989
3月16日　神奈川・横浜文化体育館大会で越中詩郎の持つIWGPジュニア王座に挑戦し、これに勝利。第8代王者に返り咲いた。
5月25日　大阪・大阪城ホール大会で獣神ライガーに敗れ、IWGP王座から転落。以後、ヘビー級へと転身する。
6月　飯塚孝之（現・高史）とともにソ連にサンボ留学、ここで裏投げをマスターする。

1990
6月12日　福岡・福岡国際センターで試合中、後藤達俊のバックドロップで昏倒。試合後、心肺機能一時停止に。
11月1日　東京・日本武道館大会で佐々木健介と組み、武藤敬司＆蝶野正洋組の持つIWGPタッグ王座に挑戦し、勝って第13代王者になる。
12月26日　静岡・浜松アリーナ大会でスー

の後援会長。錚々たるメンバーのその後に……ミスター・ヒトですから（笑）。

——安達さん、体調はどうなんですか？

馳　（即座に）知らない！

——あ、知らない（笑）。

馳　そういうのは俺の関知するところじゃないから（キッパリ）。

——「俺の関知するところじゃない」って、そこは多少なりとも関知したほうがいいんじゃないですか？

馳　いいんだよ、べつに。でも、なんか娘さんにも人生見放されたらしいし……。

——さすが馳浩の師匠！（笑）。

馳　さすが俺の人生の師匠だよな（笑）。

——でも安達さんって、たしかいま松葉杖生活ですよね？

馳　全然知らない！

——それも「俺の関知するところじゃない」と（笑）。じつに名言ですね、これは！

馳　でも生きててよかったなと思って。行方不明だって聞いてたからさ。でも、早いもんだねぇ、プロレス20年だよ。デビューが1986年だから、今年で20年なんだよな。

——俺も馳浩・国内デビュー戦は生で見ましたよ。

馳　両国（国技館）だよな。その両国で引退するんだから、それはまたご縁でね。

——ベトコン・エキスプレス（プエルトリコで活躍した馳浩＆新倉史裕による覆面タッグチーム）って何年ぐらいやってたんでしたっけ？

馳　それは国内デビュー前の二年間。86～87年。まあ、実質一年半だな。

——しかし、ベトコン・エキスプレスから副大臣って、凄い道のりですよね（笑）。

馳　俺、いま専修大学レスリング部の監督やってるんだけどさ、専修大学の道場にベトコン・エキスプレスの写真が飾ってあるんだよな。

——ガハハ！　学生もいい迷惑だな。

馳　俺、真面目にアマチュアレスリングしに行ってるのに、ベトコンの写真が飾ってあってさ。あと渋谷の新倉（史裕）さんの店（『巨門星』）にも飾ってある。

——ところで念のために聞きますけど、馳浩は、心底プロレスが好きなんですか？

馳　大好き!!

——それは心の底から？

馳　心の底から！　もしかしたらケンドー・カシンよりも好きかもしれない。

——それは頭のいい人が「ちょっと頭の悪い子たちと遊ぶのも、たまにはいいよな」っていうレベルで好きってこと？

馳　そんなこと言ったら問題発言だろ！（笑）。俺は基本的にプロレスは大好き。

——いや、「たまにはバカな連中と飲んだり騒いだりするのも楽しいな」って感覚での好きということなのかなぁと思ったんだけど。

馳　いや、中西学と飲んだり騒いだりするのは大好きだよ。

——ダハハハ。というのは、馳さんって、当然プロレスは好きなんだろうけど、あんまりプロレスという概念にどっぷり浸かった人生という印象がないんですよね。

馳　だから言ったじゃん。俺、建前と本音、一生懸命両方使い分けながら、それでどっぷりと浸かってるほうだから。プロレスは建前でも本音でも好きなんだよ。

——ああ、なるほど！

安達さんの体調？　知らない！　そういうのは俺の関知するところじゃないから

いまから21年前となる馳浩プロ転向会見時の一枚。両隣の長州力、谷津嘉章、写真には写っていないがマサ斎藤と、当時のジャパンプロレスはオリンピック経験者がズラリ。この3人が再び一枚の写真に収まる日は来るのか?

馳　俺の性に合ってるんだな。だから俺は政治の世界でも常にプロレス的な動きをしてるんだよ……わかったような、わかんないような話だけど。

——いや、全然わかりません！（笑）。

馳　わかりやすく言うとだな、常に対立概念を生み出してわかりやすく伝える。政治なんてさ、どっちから見てもお互いの理屈っていうのは通るところがあるんだけども、ときにはヒールを演じたり、ときにはベビーフェイスを演じながら対立点を示し、そして批判を受ける立場だから。それは与党であろうと野党のほうであろうと、議員となった以上は選挙で選ばれているから、「文句を言われる資格」はあるわけよ。そこをうまく使い分けるということがプロレス的なやりほう、というのが俺の主張なわけ。

——なるほど。そのプロレス的なやり方の中には、あえて対立概念を置いて、相手を光らせたりする部分も出てくる、と。

馳　最近、やっぱりムチャクチャ腹立つのは社会保険庁だよな！　あいつら……社会保険庁のトップですら、厚生労働大臣に肝心な情報を上げないで、自分たちで保険料集めてもいないのにもかかわらず「集めた」、あるいは「集めなくてもいい」っていうような未納の報告を上げたりとかさ。それとか、岐阜県庁の裏金作りも、あれこそ知事、副知事、組合がつるんでやってる話ですよ！　あれもあまりにも納税者をナメてるよな！

——でも、プロレス的という概念の一端には、「反則は5カウントまで許される」っていう部分があるじゃないですか？　そのへんはどうなんですか？

馳　いや、あれはもう完全に5カウント超えてるよな。「5カウントまで～～」っていうのは法律の解釈論じゃん。あれはまさしく違法だよ。違法の根拠は何かっ

12月26日　静岡・浜松アリーナ大会でスーパー・ストロング・マシン＆ヒロ斉藤組に敗れIWGPタッグ王座から転落（二度防衛）。

1991

3月6日　長崎・長崎国際体育館で佐々木健介と組みスーパー・ストロングマシン＆ヒロ斉藤組の持つIWGPタッグ王座に挑戦し奪取。第15代王者に返り咲く。

3月21日　東京・東京ドーム大会にてリック・スタイナー＆スコット・スタイナー組にIWGPタッグ王座を奪われる。

11月5日　東京・日本武道館大会でIWGPタッグ王者だったスコット・スタイナーが負傷欠場により王座返上。武藤敬司と組んでスコット・ノートン＆リック・スタイナー組と王座決定戦を行ない、勝って第17代王者になる。

12月8日　巌流島にて翌年の東京ドーム大会でのアントニオ猪木戦挑戦権を賭けてタイガー・ジェット・シンと対戦。試合に敗れるも挑戦権をシンから譲り受ける。

1992

1月4日　東京・東京ドームでアントニオ猪木とシングル初対決。卍固めで敗れる。

3月1日　神奈川・横浜アリーナでビッグバン・ベイダー＆クラッシャー・バンバン・ビガロ組にIWGPタッグ王座を奪われる（二度防衛）。

1993

8月7日　東京・両国国技館でのG1クライマックス・トーナメント決勝で藤波辰爾に敗れ、準優勝に終わる。

9月23日　神奈川・横浜アリーナで天龍源一郎と初シングルで激突するも敗れる。

11月4日　東京・両国国技館で『SGタッグリーグ戦』決勝が行なわれ、武藤敬司と組んで初優勝を遂げる。

1994

3月16日　東京・東京体育館でリック・ルードの持つWCWインターナショナル・ヘビー級王座に挑戦し、奪取。第二代王者に。

3月24日　京都・京都府立体育館でリック・ルードにWCWインターナショナル・ヘビー級王座を奪われる。

10月30日　東京・両国国技館で武藤敬司と組んで『SGタッグリーグ戦』決勝が行なわれ、勝って二連覇を達成する。

11月25日　岩手・岩手県営体育館で武藤敬司と組んでホーク・ウォリアー＆パワー・ウォリアー組を破って第24代IWGPタッグ王者に。

ていえば、「それ税金だよ。何やってんの？」ってとこだよ。そのわかりやすい感覚っていうのはプロレスとそんなに変わらないんだよ。プロレスの試合見ててもさ、「そこでそんな動きはしねえだろ。いままでさんざん足を痛めつけられてたのに、なんで急に元気になってドロップキックできるんだよ？」とか。そこの部分は指導するときでも、お客さんの目で見てるときでも伝えられるじゃん。政治の世界でも、「税金使ってよくそんなことできるよな」って。

——ここは正直にうなずいたほうがい い？

馳　うん、ここはまっとうな話だから。

——今日のポイントは、「税金とドロップキックは一緒」だということで（笑）。

馳　「どう考えたっておかしい！」っていうところにスポットライトを当ててるんだけどさ、「そのライトの当て方にも仕掛けがいるよ」と思うわけ。どう、いいこと言うだろ？

——すいません、途中からまったく聞いてませんでした。

馳　この野郎！（笑）。そしてこの俺が12年間国会議員をやっていたら……。

——なぜか文部科学省副大臣になっていた、と。もう12年間もやってますか。

馳　12年目ですよ。

——しかし、政治家になるべくして生まれてきたということを自分で完全に自覚してるところが凄いですよね。

馳　なかなかこんな人はいないと思うよ（キッパリ）。

——まず、いません！　馳さんがプロレスでバリバリの現役の頃から、「この人は政治家向きだな」と思ってましたけど。

馳　俺自身はその資質はわかんなかったけどね。でもなってみて……やればやるほどこの仕事はおもしろいよ。

猪木さんは「なんだこの野郎！」っていうプロレスだからな！

——さっきもクラウチング・スタイルのような構えでPCに向かってたし（笑）。

馳　一応ちゃんと仕事はしてるわけよ。

——そこはべつに疑ってませんよ。

馳　それは文部科学省という政府の立場じゃなくて、仕事として多いのは、いわゆるサンドバッグになることだね。受け身取ってるようなもんだよ、毎日。

——ああ。国会議員とか政治家になるっていうことは、ある意味〝国民に対して受け身を取る資格〟を持ったっていうことですよね。

馳　そうそう！　だって各地に視察に行ったってさ、小学校の先生なりにみんな大変なんだよ。わけのわかんない保護者がいろんなイチャモンつけてくるじゃん。たとえば「今度旅行に行くので学校で子どもを預かっててください」とか。

——ガハハハハ！　なんだ、それ!?

馳　「ウチじゃなかなか朝ご飯食べさせられないので、学校で朝ご飯として給食出してください」とか。これホントの話だよ？

——政治家は、そこで「おいおい！」って突っ込めないもんなんですか？

馳　ダメなんだよ。一応話を聞かないと。

——そこは受け身を取らないとダメと。

馳　受け身を取った上で、「そうはおっしゃいますが……」って切り返さないと。

——「そうはおっしゃいますが……」（笑）。

馳　「学校には学校の役割、家庭は家庭の役割、地域の町内会やボランティア団体などの役割がある中で子どもたちを育てています。ですから、それは家庭の役割ですよ」って諭すように言わないと、いきなり「何言ってんだよ～」って言うと「生意気言うな！」ってなるから。

——そうか、じゃあどんなことに対しても、まずは受け身は取らないといけない。

馳　そう、常に受け身を取る。その気持ちを受け止めた上で、共感を覚えた上で、「そうはおっしゃいますが……」と切り返す。

——「共感を覚えた上で」って、本当は共感まではしてないでしょ？（笑）。

馳　まあ、それはわかりやすく言っただけで（笑）、とにかく気持ちを受け止めた上で、「そうはおっしゃいますが……」とやらないとな。頭ごなしに言っちゃいけないの。たぶん間違った意味で、それだけ行政とか国ってものに対してみんなが信頼してるんだと思うな。だから「そうはおっしゃいますが……」って言葉もちゃんと選んで話さないと。

As a pro wrestler,
the last interview

馳浩

——いま馳浩のメカニズムが改めてわかったけど、リング上でも、一度受け身を取って、「そうはおっしゃいますが……」と切り返していくスタイルのプロレスが好きでしょ？

馳　大好き!!（笑）。まず受け身を取るところから始まる！　見事に受け身を取らないと誰も同情してくれないよ。「そんなの痛くねぇじゃんかよ」ってなる。

——そこだ！　猪木さんは「そうはおっしゃいますが……」っていうプロレスができないですもんね、どちらかというと。

馳　まあ、イメージなのかもしれないけど。猪木さんは「なんだこの野郎！」っていうプロレスですからね。

——受け身も取らずに頭ごなしに言っちゃう、みたいな。

馳　いやいや、でも猪木さんも受け身は取りますよ、うまくはないけど（笑）。でもそれはまさしく、受け身を取りながらも「なんだこの野郎！」の世界で。私の

1995

7月　第17回参議院議員通常選挙・石川県選挙区より自民党の推薦を受け出馬し、見事当選。アントニオ猪木に続き国会議員レスラー第2号となる。

1996

1月4日　東京・東京ドームの佐々木健介戦を最後に新日本プロレスを退団。

11月16日　東京・後楽園ホールで全日本プロレスへの入団を発表。

1997

1月2日　東京・後楽園ホールで志賀賢太郎を相手に全日本プロレス初出場を果たす。

1月3日　東京・後楽園ホールでマウナケア・モスマン（現・太陽ケア）と初対決。ノーザンライト・スープレックスホールドで勝利。

1998

7月24日　東京・日本武道館で川田利明とタッグマッチで初激突。25分の激闘の末、敗戦。

1999

5月2日　東京・東京ドームで川田利明と初シングルマッチ。最後は垂直落下式ブレーンバスターに沈む。

2000

6月25日　第42回衆議院議員選挙・石川県一区より自民党公認として出馬して、当選。初の衆議院議員レスラーとなる。

10月23日　全日本プロレスに引き続き参戦することを表明。

2001

1月28日　東京・東京ドーム『ジャイアント馬場三回忌追悼興行』で天龍源一郎と組んで川田利明&佐々木健介組とメインイベントで激突。23分の激闘の末、敗れる。

3月17日　新日本プロレスの愛知・愛知県体育館でＢＡＴＴへの参加を表明。

8月19日　東京・後楽園ホール大会にて宮本和志のデビュー戦の相手を務める。

10月8日　東京・東京ドームで武藤敬司と組んで、永田裕志&秋山準組と激突するも、永田のバックドロップホールドで敗れる。

2002

1月14日　神奈川・横浜文化体育館で川田利明と二度目のシングルマッチを行なうも、惜しくも敗退。

8月30日　日本武道館にて天龍源一郎とシ

場合は常にきれいに受け身を取って、「そうはおっしゃいますがノ」って切り返す。要は俺は理屈っぽいんだよね。

——その「そうはおっしゃいますが……」っていうスタイルが嫌いじゃない、っていうところが馳浩ですよね。

馳　それを自分から進んで喜んでできるところがズル賢い。

——自分で言いますか！　それ、いわゆる〝偽善者〟っていうんですけどね。

馳　〝偉大なる偽善者〟と呼んでね（笑）。

——ガハハ！　素晴らしい！　馳浩は素晴らしいです！　その素晴らしい馳さんがプロレスだけに限っていうと、一番影響を受けたのは安達さんなんですか？

馳　安達さんのさ、一番何に感動したかっていうとね、「俺だったら絶対できねえな」ってことをサラッとやってるとこだよね。明日の仕事もあるかわからないような状況の中で、家族を連れてカナダまで行って。だけど人に教える技術があったから、それをスチュ・ハートに認められて、若い人たちを教えたり。自分自身は二流か三流のプロレスラーだけれども、安心して二流どころを任せられるプロレスラーじゃないですか。つまり、〝一流の二流〟なんですよね。そういう自分の役割をしっかりと踏まえてるところは凄いよな。

——尊敬に値しますか。

馳　猪木さんと違って偉いのは、自分を殺してでも人のために尽くそうとするところ。それって日本社会の中だったらできるけど海外ではなかなかできないんだよね。そこの部分は凄い尊敬してる。

——安達さん以外だと、あと師匠っていえるのは馬場さんと猪木さん？

馳　馬場さん、猪木さん、長州さん……。

——「馬場さんと猪木さんからは、期待に応えるという意味では馬場さん的発想。裏切るという意味では猪木さん的発想を学んだ」ということらしいですね。

馳　あ、そうなるねえ！　山口……オマエいいこと言うなぁ。

——ガハハハハ！　これ副大臣が言ってたんですよ、『ゴング』のインタビューで。

馳　それ俺が言ったの？　山口もたまにはいいこと言うなと思ったら、俺か！

——あの、ホントに馬場さんと猪木さんから学んだんですか？（笑）。

馳　いやいや、そういうもんだと思ったよ。だから馬場さんには「受け身をしっかり取りなさい。お客さんがレスラーに期待してるのは、普通の人にはとてもできないような技をかけること、受け手が怪我をしないこと」と。あのさ、攻めるのは簡単なのよ。見よう見マネでできるけど、受け身は見よう見マネじゃできないから。で、逆に猪木さんのような裏切りというのはまさしく、悪い言葉で言えば「性格が悪い」のかもしれないけど、よく言えば、お客さんを惹きつけてるわけ。〝惹きつけて惹きつけてサプライズさせる〟っていうのかな。つまり惹きつけるためには凄い技術が必要なんですね。惹きつけるのは集中力、緊張感だから。

——人を惹きつけるのは〝集中力〟と〝緊張感〟。

馳　そして最後の最後のところで予定調和を崩して裏切る。そうすると対戦相手のレスラーはビックリするわけ。レフェリーもビックリするわけ。お客さんもビックリする。でもそれを計算してするんじゃなくて、そうしてしまう本能的な、人の心をくすぐるものが猪木さんにはあるんだよね。「そこでそんなことするか⁉」っていうような。

——なるほどね。小川直也が言ってましたよ。「猪木さんから教わったことっていえば、〝やっちゃえ〟ってことと、〝プロレスとは興行である〟ってこと。その二つしか学んでない」って。

馳　あとで分析するとさ、それをみんながやっちゃいけないんだよ。いまの新日本のダメなところは、みんなが「自分がやっちゃおう」って思ってるところなんだよ。以前だったら「猪木さんだけは許される。坂口さん以下、みんなはやっちゃいけない」「興行というのは一人が光り輝けば、あとの有象無象はそれなりの役割を演じてればいい」のであってね。「でも本物以上のものは、猪木さんだけしかやっちゃいけないんだよ」っていうことをみんなが理解しなきゃいけないよね。いまのプロレスを見てるとそう感じたりするね。

——「感じたりするね」って、ずいぶん他人事ですね。

馳　俺は馬場さんのそばにいてプロレスの理屈がわかって、猪木さんのそばにいて「とんでもない人だな」と思った。でも「やっぱり猪木さんだから許されるんだな」と思った。

——馬場さんと猪木さんだったら、どっちが好きだったんですか？

馳　……両方とも好きだったなぁ。猪木さんって意外と人を突き放すとこあるじゃない？　でも馬場さんって素っ気ないけど意外と人に関わりたい部分があるから、両方居心地よかったですよ。俺自身、あんまり人とベッタリするの好きなタイプじゃないからさ。

——馳さん自身は馬場さんとも猪木さんとも、まったく違う性格ですよね？

馳　やっぱり俺はマイペースで天の邪鬼

「そうはおっしゃいますが……」っていうプロレスは猪木さんはできないですもんね。

ングルマッチで対戦するも、14分32秒、雪崩式垂直落下式ブレーンバスターで敗れる。

8月31日　日本武道館大会にて行なわれた武藤軍vsWARの5対5イリミネーションマッチに出場。

10月27日　日本武道館にて小島聡とシングルマッチを行なうも、20分41秒、ラリアットで敗れる。

11月17日　横浜アリーナにて『WRESTLE―1』が行なわれ、小島とのタッグでマーク・コールマン&ケビン・ランデルマン組と対戦。

2003

1月19日　東京ドームにて二回目となる『WRESTLE―1』が開催され、再び小島聡とタッグを結成。〝ニューテキサスブロンコス〟テリー・ファンク&ヒース・ヒーリング組と対戦し10分58秒、ノーザンライト・スープレックスホールドでヒーリングに勝利。

3月1日　横浜アリーナにて開催されたWJ旗揚げ戦で佐々木健介との〝馳健タッグ〟が復活。ドン・フライ&ダン・ボビッシュ組と対戦し12分59秒、ラリアットで健介がボビッシュを下し見事勝利を収める。

4月12日　日本武道館にて約半年ぶりに全日本プロレス登場。

2004

10月31日　両国国技館で行なわれた『武藤敬司20th ANNIVERSARY LOVE&BUMP』にて馳健タッグで武藤敬司&三沢光晴組と対戦。

2005

2月5日　日本武道館で行なわれた『ジャイアント馬場7回忌追善興行』に出場。

9月11日　第44回衆議院議員総選挙に立候補し、当選（3期目）。当選と同時にプロレスラーとして引退を表明。

11月2日　文部科学副大臣に就任。

2006

7月23日　地元・金沢で引退記念興行を開催。当初、出場予定はなかったが、参戦予定の健介がケガをしたため急遽出場。武藤敬司&小島聡と組み、TARU&近藤修司&YASSHIと対戦し、ノーザンライト・スープレックスホールドでYASSHIに勝利。

8月27日　東京・両国国技館での馳浩&小島聡&中嶋勝彦vsTARU&諏訪魔&〝brother〟YASSHIの試合をもって引退。

でさ。どんなにおもしろいことでも、どっぷり浸かるところがないんだよな。意外と冷めたところがあって。

――その、どっか引いた視点で見てるっていう中でプロレスをやってて、馳さん自身が〝燃え尽きた〟とか〝真っ白〟になったっていう瞬間ってあります？

馳　一瞬だけあったのはね、G1で準優勝（1993年）して、その後の『G1クライマックス・スペシャル』の最後、大阪で橋本真也とやって負けたときかな……一瞬燃え尽きたね。あのときはG1というシリーズを任されて、7日間連続闘って準優勝して、最後のメインを橋本vs馳で締めて。試合は負けたけども、やり終えたときに「やったな……」って感じで一瞬白くなったね。よく覚えてるだろ？　それは離婚した年だから（笑）。

――ガハハハハ！　しかし意外といろんなことやってますよね。アマレスでオリンピックに出るわ、国語教師はやってるわ、ベトコン・エキスプレスやってるわ、離婚はしてるわ、副大臣やってるわ……その他、幾多のインチキ臭いことをやってるわ。よく見ると凄い振り幅ですよ。それが猪木さんみたいにキ●●イとして映らないところが、馳浩の凄さですね。

馳　自分を塗り固める天才だからね（笑）。

――コンプリート・ファイター。

馳　ホントにそうだよな、左官屋みたいなもんだよ（笑）。

――馬場さんと猪木さんといえばね、こないだ天龍選手と大谷選手が、『ハッスル』の橋本真也追悼大会のメインで6人タッグで当たったんですよね（7月11日・後楽園）。で、大谷選手がキャメルクラッチに捕らえられてるときに、天龍さんが大谷選手の顔面に強烈な蹴りを一発入れたんですよ、靴の紐跡がつくぐらいの。そうしたら大谷選手がすぐ張り手でやり返して、その一発で天龍さんの記憶が飛んじゃったんですね。それはあえてマッチメイクする時点からそういう展開を意図した部分があったにしても、『ハッスル』っていう空間の中にそういう瞬間が落とし込まれたから、お客さんもサプライズ的に沸いた。でも、天龍さんはそこですぐにやり返してきた、大谷選手の姿勢は評価しないんですよ。

馳　天龍さんは良しとしないわな。

――そこで俺も「やっぱり全日本の教えと新日本の教えは違うんだな」ってことを痛感したわけですよ。

馳　なるほどね。全日本的教えだと大谷はそこで吹っ飛んで伸びるわな。息を整える意味でも、3分間ぐらい。で、伸びたあとにカムバックするわな。

『ハッスル』？　まあ、ニューリン様とはやってみたいなとは思ってる。カタカナで「ヤッてみたい」だけど

――そのカムバックの仕方にしても、すぐには行かず、やられて溜めて、やられて溜めて、最後に逆襲するのが全日本のプロレス。

馳　そうだね、おっしゃるとおり！

――だけど新日本の教えとしては「やられたらやり返せ」だから、すぐその場でやり返すんですよ。

馳　そうすると、そこで終わっちゃうんだよ。だから天龍さんの言わんとするところは「せっかく闘いを〝積み上げよう〟としてるのに、その場で消えちゃうよ、お客さんに余韻が残らないよ」ってことだよな。それはあるよね。せっかくいい仕掛けをしてるのに、それを受けてくれないと盛り上がらない。俺も新日本から全日本に行ったときに……俺、もともと新日本にいても全日本的な試合をやってたから、そういう意味では全日本で三沢とか川田とか秋山、田上、小橋たちとやってたときのほうが、プロレスのやり甲斐はあったよね。

――じゃあ新日本にいる頃からそういう全日本的なプロレスをやってたんだ。

馳　馬場さんの哲学的なプロレスをね。やっぱり試合は〝積み重ね〟が大事だから。受ける……やられることの大切さ。でもそれで死んじゃいけないんだよ。生きてるんだよ！　それで一試合の中で自分のやられてる気持ちとかね、ダメージのあとにカムバックするっていうことをいかに表現していけるか。そのストーリーってその場じゃないと作っていけない。そこが大事なとこで、センスだよね。

――かといって、新日本的なプロレスも馳さんはできるわけじゃないですか。

馳　やろうと思えばできるけど、なんかカッコ悪いんだよ。あれは猪木さんしかできない。他の人がやってもカッコ悪い。

――ああ、なるほどね。〝新日本のプロレス〟って勘違いするからダメなんだ。「やられたらやり返す」というのは、〝猪木さんのプロレス〟なんですね。

馳　だから長州さんにしろ藤波さんにしろ……まあ木村（健悟）さんはヘタクソだったけどさ（笑）、キッチリ受けるし。試合の流れもちゃんとわかってる。で、自分がカムバックする場所もわかってるし。そういう意味ではプロレスはわかってる。「猪木さんだからあれが許されるんであって、俺たちがやっちゃダメだ」っていうのは長州さんたちもわかってる。

〝師匠〟ミスター・ヒトが語る〝プロレスラー〟馳浩

今日は4年ぶりに大阪から東京に出てきたけど、本当に国技館に来れてよかった。……冥土のみやげになりましたよ（笑）。それに、引退式のリングの上で、アイツ、俺だけには涙をこぼしてくれたろ？　アレは嬉しかったな……（しみじみと）。

しかし、俺なんか世界中でいろ～んなプロレスラーの引退試合観たけどさ、こんなにさわやかで気持ちいい引退試合、観たことないよ！　それにず～っと試合やってない馳が、選手の中で一番コンディションよかったろ？　あんなに完成度の高いブリッジできるレスラーいませんよ。ま、本当にもったいないけど、ここらで政治を一生懸命やったほうがいいよ。もう、いつまでもプロレスなんかやってらんないだろ？（笑）。

それから、馳は今度、政務でカルガリーに行くって言うてたな。オーエン（・ハート）の墓参りに行くって。アイツは優しいから俺に「一緒に行きませんか？」って誘ってくれたけどさ。足が悪くなけりゃ、一緒に行きたいとこだけど……（さびしそうに）。

馳の一番のプロレスの思い出はカルガリーの一年半だって？　そりゃそうだろ（笑）。だって、日本にいたときなんか長州（力）選手に毎日毎日、ガミガミ言われるからさ。いい思いなんか一つもしてないじゃない？

でも海外じゃあ、上下関係なんてな～んもないからさ。俺は若いもんが一生懸命仕事やってたら文句はな～んも言わない！　馳はカルガリーに転戦して、二週間後はトップ獲ってたし、本当にいいギャラ稼いでたから。あの当時で、そうだなあ、月収100万円（？）は稼いでたろう。そして、もちろんモテてたわな（笑）。そうそう、アイツと高野俊二（当時）は英語が堪能だったから、勝手に俺の車使ってしょっちゅう女をひっかけに行ってたよ（笑）。

でも最初の修業先のプエルトリコでは苦労したんだよ。馬場さんの紹介で行ったんだけど、仕事が一週間に一回しかないって、新倉（史祐）と一緒に困ってたの。そのときオーエンの相手するヤツが必要だったから、日本の永源遥（当時ジャパンプロレス）に俺から電話したら「ぜひ呼んであげてください」って言うんだよ。そのくらい、日本のプロモーションの海外遠征の手続きなんて、お粗末だからな。

ともかく、カルガリーで馳を観たとき、あんまり素晴らしいから「あれ、何年目だ？」って聞いたら「まだ20試合目くらい」って言うから、驚いたなあ。馳は「安達さんにプロレスのイロハを教わった」と言ってるらしいけど、俺なんか本当に要所要所教えただけよ。

とくにオーエンとの抗争は、ヒールもベビーも関係ないくらいファンをヒートさせてたな。45分の試合で3分おきにハイスパートやってたもん（笑）。それこそ、カルガリーの観客レコードをアイツらが全部塗り替えた。そんなグリーンボーイいないだろ？

馳は以前、「子どもの頃からほしいものや、地位を必ず手に入れてきた」って言ってたな。オリンピックのメダルは獲れなかったけども、かわいい嫁さんと子どももいるし。プロレスでも政治でも

As a pro wrestler, the last interview

馳浩

そこが素晴らしいところじゃない?
——いま名前の出た長州力っていうのは馳さんにとってどういう存在なんですか?
馳 先輩ですよ。
——そういう塗り固められた返答じゃなくて(笑)。
馳 いや、ホントに大事な先輩ですよ。
——あ、ホントに大事(笑)。
馳 こないだ長州さんと中西と俺と3人で六本木に飲みに行ってね。
——嫌なメンツだなぁ。
馳 俺が100回ぐらい中西に「バカ」って言ったもんだから、さすがの長州さんも「おまえ、それちょっと言いすぎだよ。中西だって人間なんだから!」って(笑)。
——ダハハハハ!
馳 そうやってかばうからさ、「いや、バカはバカなんですよ!」って言ったらさ、「それ以上言うな!」って(笑)。
——馳さんから見て、長州さんは丸くなったって感じはします?
馳 変わらないですよ、全然。怖いです!
——いまでも怖い存在?
馳 怖いです!
——でもいまあの長州力が新木場の1stRINGで試合してるんですよ。300人入るか入らないかぐらいのキャパのところで。そういったプロレス界の現状についてはどう思います?
馳 そうだねえ……お客さんが見に行ってくれなきゃそれで終わりなんだからさ。
——だから、終わりになりつつあるんですよ、プロレス界は。
馳 それは……ほっとけばよくない?
——ガハハハハハハハハ!「俺の関知するところではない」と(笑)。
馳 俺の関知することじゃない! だってさ、みんながみんな、なんかしてやろうって作為的にやるからお客さんが逃げていくんであってね。「みんなまず自分のことを考えてみろよ! まず自分が素晴らしい身体作りをして、素晴らしい試合ができるようにもっと頭使えよ!」って。
——「自分のことだけ関知しろ!」と。なるほど。そうだ、副大臣は『ハッスル』についてはどう思いますか?
馳 『ハッスル』? まあ、ニューリン様とはやってみたいなとは思ってるんだけど。ここの「やってみたい」の〝や〟っていうのはカタカナで「ヤッてみたい」だから。わかった?
——誰が文字校正までしろって言いました? (笑)。でも『ハッスル』は芸能人もリングに上がってるわけですが、これは馳さんのプロレス哲学的にはありですか?
馳 あり! なんでもありだから。そこから伝わるものがなければ、「あれ?」って思うだろうけど、伝わるものがあるなら、それはあり!
——ボクはけっこう身近にいるからわかるんですけど、HGもインリンも、とてつもなく練習しますよ。芸能界であれだけ忙しいのに、夜中に道場に来てね。
馳 プロレスが好きなんだろうね。やっぱり好きな人間じゃなきゃできねえよな。
——あの姿勢は素晴らしいと思います。だから馳さんや長州さんを始めとして、「レスラーはあれだけ頑張って、練習して、努力してるヤツらなんだ!」ってよく言うじゃないですか? 建前上なのか、選手も関係者も。でもボク、プロレスラーで努力してる人って数えるくらいしか見たことないです、本音を言うと。
馳 ……なるほどね。
——「これじゃプロレスもダメになるに決まってるよな」って思いますよ。スポーツマンだろうが芸人だろうが、筋トレだろうがマイクだろうが、努力はしなきゃダメですよね。
馳 それは一理あるかもしれないな。
——プロレスを守りたい気持ちはあるけど、「もっと努力しろよ、おまえら」っていう気持ちを正直に言わないとダメだなって思いますよ。
馳 一つ筋が違うのはね、〝身体を鍛える〟というのを努力って言うのは当たり前なの。な? 俺が筋が違うっていうのは、〝プロレスを見せる〟という努力はまだまだ足りないっていうことだから。いまのプロレスラー諸君には、「自分が与えられたその日そのときの試合で、どこまで意味のある動きをしてお客さんを引っ張って、お客さんの心に何かを残して帰すか」っていうね。そのプロ意識は足りないかもしれない。人から習った動きをそのままやってるっていうかね、「決められた動きをやってるだけじゃ、残念ながらプロレスラーじゃないよ」っていう。
——頭の中には一番いいときのプロレス界の残像があるから、選手はみんな「俺はプロレスラーでござい」って意識がまだあるじゃないですか。
馳 (秘書に向かって)お～い、東條! あんまりやりたくないんだけど、こいつらに紅茶いれてやってよ。
——全然聞いてねぇや(笑)。でね、「そういうプロとして当たり前の努力をするようにしようよ」って始まったのが『ハッスル』だったんですよ。
馳 なるほどな。でも残念ながら『ハッスル』の映像は見たことないんだよ。雑誌とか新聞では見てるんだけどな。インリン様とヤりたいな、俺は。
——わかりましたよ!
(ここで美人秘書の東條さんが紅茶を運んできてくれる)
馳 こいつ、ウチの秘書の東條です。写真撮っていってよ。数多い秘書候補者の中から俺が指名した秘書だから。
——あ、秘書って指名できるんですか?
馳 できる。おい、残念だけど、そろそろタイムアップだな。練習しに行かなきゃいけねえからさ。
——ああ、そうですか。じゃあ副大臣、二度と会うことはないでしょうけど、これからも頑張ってくださいね(笑)。
馳 いや、もしかしたら今度、文部科学〝大臣室〟に遊びに来ることになるかもしれないよ? (ニヤリ)。
——じゃあ馳さん、大臣になる前に一緒に記念写真を撮りましょうよ。
馳 そうだな(と、二人並んで写真を撮り始める)。
——いい笑顔するなぁ。オレも馳浩流の笑顔ができるようにもっと頑張ろう(笑)。
馳 人生、もっといかがわしくな(笑)。
——あ、秘書の東條さんも誌面に掲載したいなぁ。写真撮って大丈夫ですか?
馳 全然大丈夫。おい、東条こっちに来い! 写真撮るぞ、写真!
秘書の東條さん えっ? あ、ハイ!
馳 これ『kamipro』っていう、まともな神経の人は買わない雑誌なんだけどな、撮らせてやってくれ。
——じゃあ、先生さよ～なら、皆さんさよ～なら!

【〝マジで引退する5日前〟の06年8月22日/都内・文部科学省副大臣室にて収録】

この取材の5日後の両国大会にて引退試合を行なった馳先生。試合後にマイクを持った馳先生は「いつの日か総理大臣になったときにSPを連れてリングに上がりたいという夢を持ちながら国会で頑張ります」と挨拶。夢は現実となるか? 隣の素敵な女性は本文中に出てくる秘書の東條さんです。副大臣室も酒池肉林!? 「はせ日記」もあり! 今後の馳先生の情報はコチラ→http://hasenet.org/
ブログはコチラ→http://blogs.yahoo.co.jp/hase_hiroshi0505/

トップ獲ってる。政治家としてもプロ中のプロだし、いまや副大臣だろ。それに、いっくら同じ政党の先輩って言っても、日本政治界の裏のドンがわざわざプロレス会場に来ますか? 普通、絶対に来ないだろ!? だから政治でも相当にうまいことやってるんだろうし、この調子なら、アイツは本当に総理大臣になるかもしれん。……まぁ、せいぜいそのときまで長生きしますよ(笑)。
【06年8月27日/大会後のパーティにて収録】

全日本プロレス
『プロレスLOVE in両国』

8月27日／東京・両国国技館
撮影／平工幸雄

健介の欠場で〝最後の馳健タッグ〟は幻となってしまったが、終盤で健介は試合に介入！ 合体ラリアットやハイジャック・バックドロップを敢行してみせた。これが友情パワーだ！

馳といえばやっぱりジャイアントスイング！ YASSHIを45回ブン回し、最後は森・前総理に向かっての腰振りポーズでキメ!! ちなみに45回転は歴代二位の記録だよ！

YASSHIに「TARUの叔父貴も人相は悪いけど、おまえには負けるぞ、このカス野郎！」と罵られた森喜朗・前総理（〝イット（IT）革命〟などの迷言で一世を風靡）も馳の引退試合に駆けつけた!! リングサイドで何度となくVM勢に襲われかけたが、イスで応戦する一幕も。後日、全日本関係者が謝罪をしに行ったらしいです〜。

馳先生の合コン仲間である“チーム・ゼロ”による“ダンドリ”！ “チーム・ゼロ”は全米の大会でも上位に入賞する実力派！ 武藤社長が「ノーギャラならいいよ」と出演を即決したらしい!

総理大臣になる日まで……!?

馳浩、引退

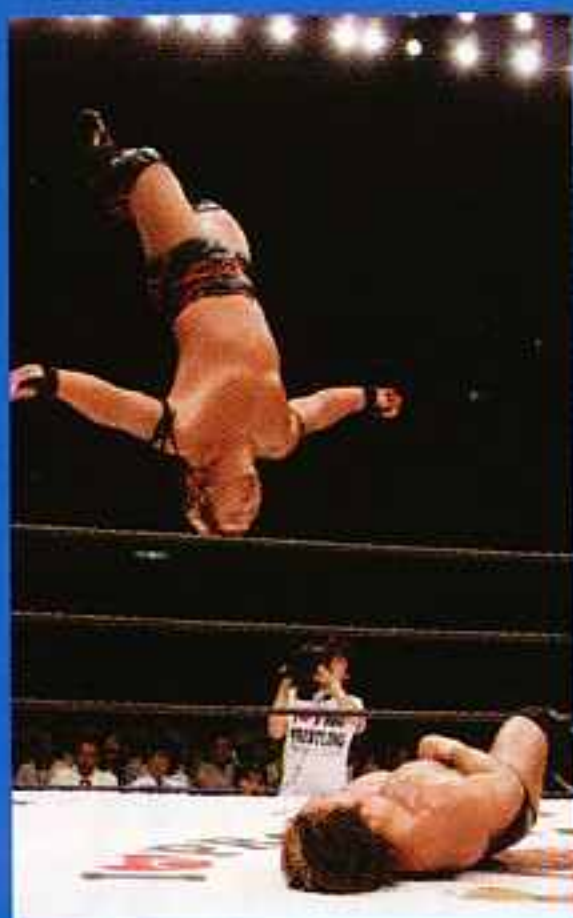
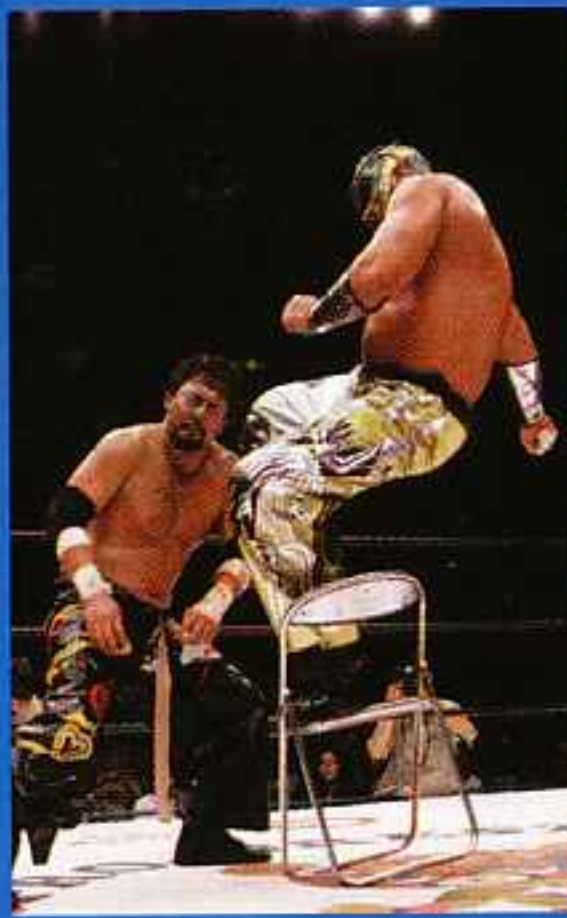
（プロレスラー）

最後はYASSHIをノーザンライトで3カウント!!（レフェリーとともに健介もマットを叩いた。いいシーンだ!)。「あんなブリッジできるヤツ、現役でもいない」と師匠のヒトさんも絶賛!

インタビュー中、「呼んでもないのに来るらしい……」とボヤいていたカルガリー時代の師匠であるミスター・ヒトさんが松葉杖をつきながらも元気な姿でリングイン! 馳はただただ号泣……!!

引退セレモニーには夫人の高見恭子さんも愛娘とともに花束を持って駆けつけた。最後に馳は「いつか内閣総理大臣になったら、SPをつれてリングに上がりたい」と力強いラストメッセージ！

馳引退試合以外にもいろいろありました。8.27両国ダイジェスト

全日とサンリオのコラボで生まれた新キャラ、AHII（アヒー）がこの日デビュー！ 赤髪の美人ダンサーを引き連れてのド派手な入場＆ダンスを披露し、試合も初登場のブードゥー・マスク相手に高速ウラカンラナで秒殺勝利。AHIIとともに美人ダンサーの再登場も激しく希望!! かわいすぎるっ!

全日本はジュニアも熱いんだっての！ 7月の『ジュニアヘビー級リーグ戦』で優勝したカズ・ハヤシが近藤修司の世界ジュニアに挑戦！ 20分の熱戦を制したのはジュニアの枠を超えた強さを見せる近藤！ 試合後、近藤は「オレにとって全日ジュニアは今日でおしまいだ！」とコメント

グレート・ムタとTAJIRIという米メジャーのスーパースター同士のドリーム対決が実現！ そりゃあもう両者毒霧噴射しまくりで、最後はムタがムーンサルトで勝利。試合後に、ムタがTAJIRIの顔面をナメ回すという変態行為に及ぶシーンも。もうメジャーすぎてよくわからん…!!

太陽ケアに川田利明が挑んだ三冠戦は、24分51秒、パワーボムでケアが勝利! 敗れた川田は「王道を語れるのは馬場さんだけだ。俺と一緒で、おまえなりの王道をこのリングで刻んでいけ」とケアにエール。ケアも「川田さん、ありがとうございました! オレが、王道だ!!」と呼応した。

蘇れ！
昭和新日本プロレス
黄金伝説

初代タイガーマスクのライバルが
激動のプロレス人生と
“最大の敵”ガンとの闘いを語る!!

虎ハンター壮絶半生

小林邦昭

かつて初代タイガーマスクのライバルとして、“虎ハンター”の異名とともに絶大なるアンチ・ヒーロー人気を誇った小林邦昭。30代以上のプロレスファンにとっては、忘れられないスーパースターの一人だ。現在は引退し、新日本プロレス合宿所の管理人を務めている小林に、そのプロレスラー人生を振り返ってもらうとともに、現役末期を襲った“人生最大の敵”との闘いについて語ってもらった。

聞き手&撮影／堀江ガンツ　designed by shiraki（TwoThree）

全日本プロレス
『プロレスLOVE in両国』

8月27日／東京・両国国技館
撮影／平工幸雄

健介の欠場で"最後…
終盤で健介は試合に…
バックドロップを敢…

馳といえばやっぱり…
45回ブン回し、最後…
でキメ!!　ちなみに…

――今日は小林さんのプロレスラー人生をたっぷりと振り返っていただきたいと思います！

小林　じゃあ、5分や10分というわけにはいかないね。

――はい（笑）。ちょっと長くなると思いますけど、よろしくお願いします！　まずはプロレスラーになるきっかけから、うかがいたいのですが。

小林　やっぱり普通のサラリーマンになりたくなかったんですよ。定年まで同じ時間に起きて仕事しての繰り返しじゃなくて、変化がある仕事がしたかったんですよね。あと、身体が大きかったから、近所のおじさんに「相撲取りになれ」なんて薦められてね。

――プロレスファンではなかったんですか？

小林　いや、好きでしたよ。それで、たまたま田舎の本屋で『ゴング』を立ち読みしてたら、猪木さんが新日本プロレスを旗上げしたっていうのが載っててね。新弟子も募集してて。それでやってみたいとは思ったんだけど、いろんなことで躊躇した部分があって。果たしてできるだろうか、と。

――特殊な世界ですからね。

小林　まだ16～17歳でしょ、死んだらどうしようとかね。でも、思い切って一人で長野から東京に出てきて、渋谷にあった新日本の事務所に行ったんですよ。でも、行くのが怖くてね。駅からタクシー使えばいいのに、歩いていって。エレベーターも使わずに階段で上がってね。

――なるべく早く着かないように（笑）。

小林　それでなんとか事務所のドアを開けて、最初に会ったのが山本小鉄さん。「おめえ、いくつだ?」って言われて、あとはなんも言わないんですよ。「荷物持ってこい」とだけ言われて、「はい、わかりました」って言って即入門。

――そんなにアッサリ入門ですか（笑）。旗揚げしたばかりで、新弟子がほしかったんですかね。

小林　それもあったんだろうけど、やっぱりあの時代に遠い長野から裸一貫で入門を嘆願に来たわけでしょ。そういう心意気を汲んでくれたんじゃないですかね。

――なるほど。そのまま合宿所入りって感じなんですか？

小林　うん。ちっちゃいボストンバッグ一つ持ってね。小鉄さんに道場までの地図と5000円札を渡されて、タクシーで道場に行って。着いたら、猪木さんが大事にしてたセントバーナードが吠え出して、その声で「おい、新弟子来たぞ！」って当時の若手、栗栖（正伸）さんとか（ドン）荒川さんが出てきて。寮長の木戸（修）さんに「新弟子こい！」って連れられて飯食わされて。モジモジしてたら「おまえ、オカマみたいだな」とか言われて。

――モジモジしてただけで（笑）。

小林　知らない人間に囲まれて、食ったことないちゃんこをいきなり「食え」って言われてもね。しかも、ちゃんこってね、みんなで鍋に箸入れるんですよ。汚ねえなと思ってね。

――「ちゃんこは汚い」が第一印象（笑）。

小林　やっぱり、それまでウチでは鍋はちゃんと小鉢によそって食べるもので、鍋に直接箸なんか入れたら母親に怒られるわけじゃないですか。だから、汚ねえなと思って。でも、すぐ慣れましたけどね。

――同期っていうのは誰になるんですか？

小林　僕から一週間遅れて藤原（喜明）。僕よりも一～二ヵ月早いのが栗栖さん。その前が荒川さん。あと佐山（サトル）が3年後ぐらいですね。

――もの凄く"濃い"メンツですね（笑）。

小林　でも、そのぶんおもしろかったですよ。彼らがどうというより、自分にとっては巡業なんて初めて行くところばかりだし、新幹線乗るのも初めてだし、初めての経験ばかりでしたからね。それで、練習はキツかったけど、それ以上にキツいのが食うことなんですよ。

――食べる量のノルマがあるってよく聞きますけど、練習よりキツいんですか？

小林　いまはノルマなんかないけど、当時は一日でご飯30杯とか食わされてね。

――30杯！

小林　しまいには「お代わりするの面倒くさいから、おはち抱えて食え！」って言われて。その他にもおかずがいっぱいあるわけですよ。だから、食べた前後で3キロ違ったから。

――一食3キロですか（笑）。

小林　苦しくて眠れなかったもん。胃が圧迫されて。

――でも小林さんといえば、新幹線の食堂車で全メニューを食べ尽くしたっていう伝説があるほどの大食漢じゃないですか。

小林　あれだって好きで食ったわけじゃないよ！

――あ、そうでしたか（笑）。

小林　あれは入門して半年ぐらいの頃、東京から博多まで移動する新幹線でね。当時は7時間かかったんですよ。それで食堂車に行ったら山本（小鉄）さんがいて、「座れ」と。これは山本さんがおごってくれるなと思って「お姉さん、カレーとスパゲッティ」って注文したら、山本さんが「バカ野郎！　カレーとスパゲッティじゃねえ、ここに載ってるの全部食え！」って。全部注文しちゃったんですよ。

――ダハハハ！　豪快ですねぇ。

小林　飲みもの除いて全部ですよ。30品目ぐらいあって、食ってたら周りに人だかりができちゃってね。キッチンからシェフとかも出てきちゃって。結局、6時間かけて小倉駅ぐらいで全部食べ終わって、周りから拍手が起きてね。

――いまだったら、それでテレビ番組作れますね（笑）。

小林　だから新人の頃、たまにマスコミがくると、プロレスの話聞かないで「何をたいらげた」とかそんなのばっかりでね。大食い選手権じゃねえんだから。

――セールスポイントが大食いだった、と（笑）。

小林　おかげで、確かに身体は大きくなりましたけどね。でも、あの頃はなにしろ練習量がもの凄かったから、いくら食べても消費されちゃうような感じでしたけど。

――ご飯30杯ぶんのカロリーが消費できちゃうぐらいの練習でしたか。

小林　ブリッジなんかもね、90キロの人間3人乗っけてたからね。それで新宿の伊勢丹で公開練習とかして、1000人ぐらいのお客さんの前で見せたりね。いまの選手に言っても信じないけど。一人は乗せても3人は乗せねえだろうって。

――首がイカレちゃうだろうって心配しますよね。

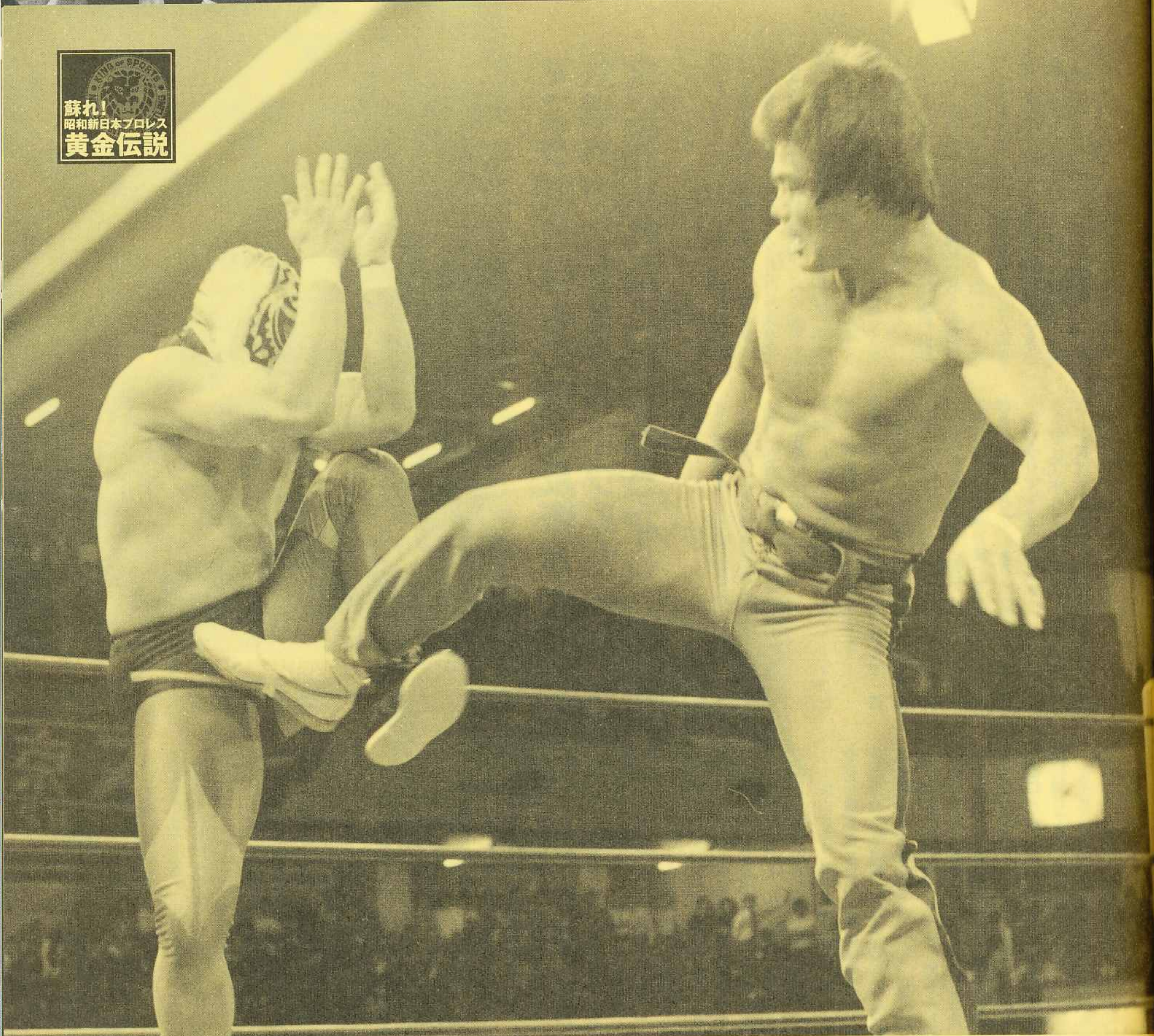
小林　だから首は凄かったですよ。首回り50センチぐらいあったもん。

――それ、頭の大きさに近いじゃないですか（笑）。

小林　顔の幅と首の幅だと首のほうがちょっと出てたぐらいの。マンガの世界だよね。自分の昔の写真をケータイに入れてあるんだけど、（若い頃のポーズ写真を見せて）これでジュニアの身体だからね。

――うわぁ、合成みたいですね、これ（笑）。

小林　これでジュニアヘビー級だから。こういう身体をしてたらみんなビックリするじゃない。花道を通るときにお客さんから「いい身体してんな」って言われたりとかね、

僕とタイガーマスクの試合で初めて視聴率22パーセント取ったんですよ

それは気持ちいいですよ。プロレスラーはそういうことも必要なわけで。それがまるっきりの素人みたいな身体でね……まあ、いまインディーではいっぱいいるけど。ヘタしたら高校生の柔道部のほうがゴツいのいっぱいいるわけじゃないですか。それじゃあ、プロレスは誰でもできるのかって思われちゃうよね。

──この身体見て「弱い」とは誰も思わないでしょうしね。この写真はタイガーマスクとやってた頃のものですか？

小林　そうですね。パンタロンを穿き始めた頃で。このパンタロンというのも、それまで長年、力道山以来ずっと続いていた「試合コスチュームはショートタイツかロングタイツ」というのを僕が崩したんですよ。

──あ、そうだったんですか。そういえば、子どもの頃テレビでプロレス観てたら、ウチの父親が小林さん観て「こいつはなんで長ズボン穿いてやってるんだ？」ってよく言ってましたよ（笑）。

小林　そうでしょ？　日本で最初にマーシャルアーツスタイルでやったのは僕なんですよ。

──なんでパンタロンにしようと思ったんですか？

小林　（海外修行先の）メキシコでやったら受けたんですよ。

──それはやっぱりベニー・ユキーデとかの影響ですか？

小林　そうそう。僕は、佐山がマーク・コステロとやったときセコンドについたんですけど、そのときベニー・ユキーデの試合観て、カッコいいなと思ってね。メキシコ行ったとき、これを実践してやろうと思って。

──それで回し蹴りとかを使うようになったんですか。

小林　そう。もともと空手なんかやってないんだけど。通信教育で（笑）。

──ガハハハハ！　マーシャルアーツの通信教育（笑）。

小林　やっぱりプロで使う技なんで、きれ

全日本プロレス
『プロレスLOVE in両国』
8月27日／東京・両国国技館
撮影／平工幸雄

健介の欠場で"最後
終盤で健介は試合に
バックドロップを敢

馳といえばやっぱり
45回ブン回し、最後
でキメ!!　ちなみに

マスク剥ぎはもの凄く反響があった 会場外でスケ番グループみたいな 女に囲まれたこともあるから（笑）

いに見えなきゃいけないから、回し蹴りなんかも練習しましたね。佐山と一緒に鏡の前でフォーム見ながらね。そういうスタイルって、あの頃は僕しかいなかったから、すべて新鮮だったんじゃないですかね。フィッシャーマンズ・スープレックスを日本で初めて出したのも僕だし。

——やっぱり、あの技も元祖でしたか。

小林　あとで前田（日明）に言われましたけどね。「小林さん、あれ僕がやろうと思ってたんです」って。

——"7色のスープレックス"にフィッシャーマンが入っていたかもしれないわけですか。

小林　だから前田のキャプチュードっていうのは、フィッシャーマンの改良なんですよ。フィッシャーマンの持ち方を逆にすると、キャプチュードになるわけ。

——ああ、そういえばそうですね！

小林　だから前田は、先にやられて悔しかったと思いますよ（笑）。

——小林さん自身は、フィッシャーマンはどうして使うようになったんですか？

小林　あれはメキシコの前座の試合で、若手が使ってたんですよ。それでいいなと思って、パクッた。

——パクりましたか（笑）。

小林　だって日本で使ってるようなトペとかケブラーダとか、ああいうの全部メキシコのパクりですよ。

——では、小林さんの試合スタイルは、メキシコ遠征中に作られた部分が大きかったわけですね。

人気絶頂のスーパーアイドル、タイガーマスクの覆面を剥ぐという"暴挙"により、"虎ハンター"の異名を得た小林邦昭のアンチヒーロー人気が爆発！　80年代前半、新日本プロレス黄金期において、タイガーvs小林の抗争は藤波vs長州の「名勝負数え歌」と並んで、ドル箱カードとなった。なお、タイガーの素顔を隠そうとしているのは、若き日の髙田本部長だ。

小林　でも、日本に帰ってきて、後楽園ホールで最初の試合のときにパンタロン穿くのは躊躇しましたけどね。こんな格好で試合してもいいのか、と相当悩んで。前の試合ぐらいまでどうしようかと思ってて、「もういいからやっちゃえ」って半ばヤケクソで出たら、インパクトあったみたいですけどね。やっぱりインパクトって大事なんですよ。だから、僕が初めてタイガーマスクの覆面を破ったとき、それまで平均視聴率が11パーセントだったのが、僕の試合で初めて22パーセント取ったんですよ。

——あの覆面剥ぎは、それぐらいインパクトがあった。

小林　いまのどこの番組もそうだけど、毎週同じ番組やってて、一気に10パーセント上がることってまずないんですよ。そこから火がついて、平均視聴率20何パーセント取った時代が何年かあったんじゃないですか。

——そこから黄金時代って感じですよね。

小林　だから自分では、自慢じゃないけど火つけ役を果たしたと思ってますね。

——小林さんがタイガーマスクのライバルというか、ヒールで帰国するっていうのは、どういったいきさつがあったんですか？

小林　もともと僕は前座で7年ぐらいやったあとメキシコ遠征に行ったんですけど、ちょうど佐山もメキシコに来てたから、二人で楽しく修行生活を送ってたんですよ。

——佐山さんとは仲良かったらしいですね？

小林　仲良かったの。佐山はほとんどの選手と揉めたり喧嘩したりしてるけど、僕とは全然なかったから。

——あのキレる佐山さんが、唯一キレなかった相手が小林さんだった、と（笑）。

小林　そう、あのキレる佐山がね（笑）。ほとんどの選手とケンカしてたし、猪木さんや坂口さんに対してまでキレてた佐山が、僕に対しては一度もないの。

——それは凄いですねぇ。なぜ小林さんだけにはキレなかったんですか？

小林　佐山は相手がちょっと横柄な態度を見せたときに、プチッとキレちゃうんですよ。でも、僕は周りの選手より温和なほうだし、横柄な態度もとらないし。先輩だからといって無理を言ったりもしないし。自分でできることはすべて自分でやるから、怒りようがないっていうのもあるんでしょうね。

——ああ、なるほど。

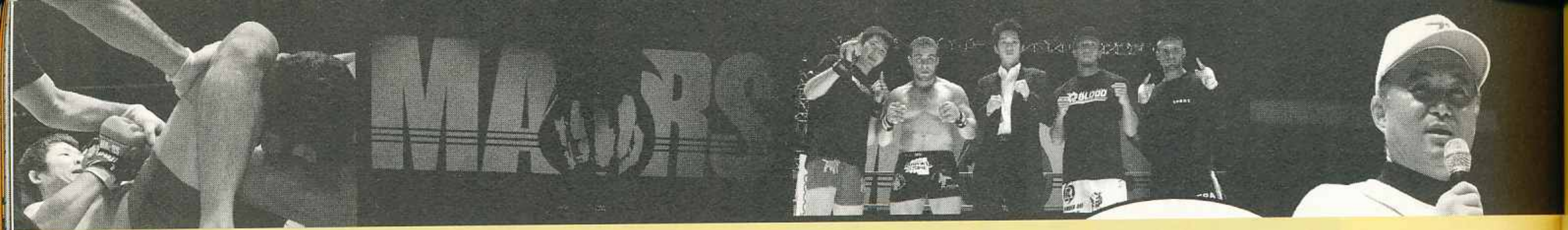
小林　それでメキシコでも一緒に楽しくやってたんですよ。そのあと、彼はメキシコからイギリスに転戦して、新間さんの仕掛けでタイガーマスクに変身して人気が爆発してね。それ聞いたとき、もの凄く嬉しかったんですよ。でも、嬉しかったのと同時にジェラシーがあった。

——それはあるでしょうね。

小林　この世界はどんなに仲が良くてもみんなジェラシー持ってますから。そのあと、自分も帰国したんですけど、帰国第一戦で組まれたのが、誰が勝っても負けてもいい、なんの変哲もないタッグマッチでね。このままじゃだめだと、自分の中でいろいろ考えたんですよ。一方、佐山を見たら、当時は飛ぶ鳥を落とすような勢いで。人気も猪木さん以上、プロ野球の選手とか、スポーツ界全体でも誰もタイガーマスクに勝てないぐらいの人気で。もうこれしかないな、と思ったんですよね。

——人気絶頂のタイガーマスクを標的にするしかない、と。

小林　それも普通に試合をしただけじゃ「あの二人はいい試合するな」ぐらいにしか思われない。外人ではダイナマイト・キッドとかヒール的な選手もいたけど、ホントにタイガーファンから憎まれる相手はいなかったんですよ。そしてちょうど長州が藤波に「おまえの噛ませ犬じゃない」って噛みついたあと、僕がタイガーに噛みついて。マスクを剥いだんですよ。

——じゃあヒール転向もマスク剥ぎも全部小林さんの志願だったわけですか。

よ。フィッシャーマンの持ち方を逆にする

わけですね。

けにはキレなかったんですか？

小林さんの志願だったわけですか。

バレンタインチョコが届きすぎて施設に寄付したこともあるからね

小林　自分の中ではそれしかないなと思ったんですね。それでマスク剥ぎっていうのは、メキシコでもファンが一番興奮することだったんですよ。それを人気絶頂のタイガーマスクにやったら凄い反響でね。ある日、ファンレターが届いて封を開けたらカミソリが入っててね、手がバーッと切れて血が噴き出したの。いまでもその傷は残ってるよ。

——うわ〜、ホントにそういう手紙って届くんですね。

小林　あるんだよね。「おまえなんか死ね」っていう手紙もいっぱい届いたし。でも、応援するファンレターも半分半分だったの。やっぱりメチャクチャ強すぎるから、アンチタイガーマスクっていっぱいいるんですよ。それで、抗争してた後半は「タイガー」コールより、「小林」コールのほうが大きかったことがありますからね。

——当時、長州力と小林邦昭のアンチヒーロー人気は凄まじかったですよね。

小林　だから僕とか長州、あのへんの世代はいい時代だったんですよ。逆にいまの選手はちょっと可哀想ですね。テレビも深夜の2時、3時じゃ誰も観ないですからね。僕らの頃は、金曜の8時でしょ？　だから金曜に蔵前（国技館）でタイガーと試合をして、翌土曜日に渋谷に買いものに行ったら、人に囲まれて身動きとれなくなりましたからね。やっぱり視聴率22パーセントですから。そんだけの人が観てる中で、タイガーマスクの覆面剥いだのって、相当インパクトあったんだなって。

——ボクは当時小学生でしたけど、クラスの男子は全員、小林邦昭知ってましたからね。

小林　こんなこと言ったら笑われるかもしれないけど、バレンタインのチョコレートなんかも凄かったんですよ（笑）。

——凄かったでしょうね（笑）。

小林　あまりにも大量に届くもんだから、手紙とプレゼントの貴金属みたいなのだけはもらって、チョコレートはとてもじゃないけど処理しきれないから、施設に送らせてもらったんですよ。

——ジャニーズのアイドルみたいですね（笑）。

小林　それぐらい凄かった。でも、手紙は全部目を通してましたけどね。

——中にはカミソリもあったけど（笑）。

小林　そうそう。後楽園ホールの出口でスケ番グループみたいな女に囲まれたこともあるから。

——ガハハハハ！　スケ番グループ！

小林　スケ番がぐるっととり囲んで「あんた、何様だと思ってんの？　あんたただの目立ちたがり屋じゃないの？」って言ってくるから、「すいません、次からやりませんから」とか言ってね（笑）。

——スケ番に詫びを入れましたか（笑）。

小林　そうやってちょっと話するとね……タイガーマスクは人気がありすぎてファンと話したりなんかできないじゃないですか。でも、僕は話しかけられたらちゃんと対応してたら、タイガーファンが次からは小林ファンになっちゃったからね。ファンって不思議だよね、ちょっと話したら俺のファンになっちゃうんだもん。

——その延長で、小林さんの「異常にモテた伝説」っていうのもいろんな選手から聞くんですけど。

小林　そのモテたっていうのはね、時代も関係あるんですよ。要するにゴールデンタイムで放送してたから、土日になると道場の前に50人ぐらい女の人が来てたの。

——そういうファンをちょっとつまみ食いとかは……。

小林　いやいやいや、それはタブーですから（笑）。

——藤原さんとか荒川さんは「とにかくサンペーちゃんは凄かったから」って言ってますけど（笑）。

小林　その言葉、そっくり返してあげますよ（笑）。でもね、たとえばいまタッキー&翼とか人気あるでしょ。あれはゴールデンタイムで歌ったりバラエティ出たりしてるから人気があるわけで。あの二人が夜中の2時、3時にしか出てなかったら、そんなにならないですよ。

——そりゃ、そうですよね。

小林　とくにいまの新日本みたいに、土曜の深夜2時なんて、女の子は彼氏とどっか遊びに行ってるか、高校生だったら寝てるかでしょ。僕たちの頃は金曜8時で、子どもからお年寄りまでみんな見てるわけですから。その差は大きいですよね。

——そのおかげでモテちゃった、と。

小林　うん、モテたね（笑）。

——これ新倉（史裕）さんに聞いたんですけど、巡業中、小林さんのホテルの部屋の前には女の人が並んでたらしいですね（笑）。

小林　新倉がそんなこと言ってたの？（笑）。追っかけはいましたよ。東京からもね、5人ぐらいグループになって追っかけてくる子とか。信じられないかもしれないけど、JALのスチュワーデスが道場まで追っかけてきたりね。

——そうなんですか！　ホントにいい時代でしたね（笑）。

小林　いまスチュワーデスなんて夢のまた夢だよ（笑）。だから凄かったですね、昔は会場にカメラ小僧もいっぱいいてね。そういう子が大きくなって観に来てくれたから、90年代はお客が入ってたけど、これから先どうなるのかと思っちゃうね。いまは子どものファンがいないんで。

——子どもや女性ファンを増やすっていうのは大きな課題ですよね。

小林　棚橋なんかも、いま金曜の夜8時に放送してたら人気出てたはずだからね。だから、ゴールデンで放送しないと、選手の努力が浮かばれない。それかあとはバラエティに出るかだね。中西じゃないけど、どんな番組でもね。

——いまK－1の魔裟斗や山本KIDが人気あるのも、結局はテレビのおかげですからね。

小林　あと僕がちょっと責任を感じてるのは、当時の僕とかタイガー、それからキッド。あと長州さんとか、あの時代の選手がハイスパートレスリングっていうものをスタートさせて、プロレスを変えちゃったんですよね。それまでのプロレスは〝ワルツ〟だったのが、〝ロック〟に変えちゃったというかね。

——ああ、プロレスを根本的に変えてしま

84年9月、長州力率いる維新軍が丸ごと新日本プロレスを離脱しジャパンプロレスに移籍するという大事件が起こった。これはいまで言えば、シュートボクセが丸ごと『PRIDE』を離脱する以上のインパクトだったのだ。

全日本プロレス
『プロレスLOVE in両国』
8月27日／東京・両国国技館
撮影／平工幸雄

健介の欠場で〝最後
終盤で健介は試合に
バックドロップを敢

馳といえばやっぱり
45回ブン回し、最後
でキメ!!　ちなみに

蘇れ！
昭和新日本プロレス
黄金伝説

俺たちが全日本に持ち込んだスタイルを受け継いだのが、いまのノアでしょ?

った、と。

小林　それまではね、投げてちょっとやったら、足4の字やったり、キーロックやったりっていうね、テイクタイムっていうんだけど、そういう試合が多かったの。でも、僕ら維新軍や佐山、キッドがその殻を破っちゃったの。要するに休まない試合。アクションが次々と変わって、お客さんとしたらおもしろい試合に変えちゃったんだよね。

――そういえば、10分ぐらいの試合でも、凄く密度が濃い試合でしたよね。

小林　俺たちがそれをやってしまったがゆえに、ハイスパートレスリングが当たり前になって、それがいまの低迷のつながってるのだとしたら、その責任をもの凄く感じますね。

――刺激を与えたら、それ以上の刺激が必要になるから、大技もたくさんになって。あの頃は凄く斬新でしたけど、それが当たり前になったいま、どうしたらいいんだろうっていうのはあるかもしれないですね。

小林　だから、無我みたいにオーソドックスなスタイルに戻そうとしてる団体もあるけど、ロックに慣れた人が演歌を聴くかっていったら、聴かないからね。

――あのハイスパートレスリングというスタイルは、どのようにして誕生したんですか?

小林　あれは俺とか佐山がメキシコでやってたスタイルなんですよ。メキシコのスタイルっていうのは、昔から休まないんですよね。常にアクション、アクションで。それを日本流にアレンジしたんですよ。

――なるほど。そういえば、長州さんや藤波さんもメキシコ帰りですよね。じゃあ、維新軍とかハイスパートレスリングの原点はメキシコにあったわけですか。

小林　うん、そうだと思うね。だから一時期、俺たちが全日本に上がってた頃、馬場さんが嫌がったんだよね。それまで全日本は古き良きスタイルでやってたのが、俺たちが入ってきたら、どうしても休まない試合になるから。20分ダラダラ休みながらやるぐらいなら、たとえ1分でもいいからバーッと動いて終わらせちゃうからね。

――それまでの全日本は〝間〟のプロレスというか、それこそ休み休み60分フルタイムを美徳としてた団体ですからね（笑）。

小林　だから僕らも馬場さんから「おまえら、ハーリー・レイスの試合観て勉強しろ」とか言われたからね。でも、実際観てみたら、ハーリー・レイスなんて、ダイビング・ヘッドバットのためにコーナーに上がるまで何分もかかってるんだから。こんな試合やってたら、明日になっちまうって!

――ダハハハハ!

小林　だから、俺たちは「そういう試合はできません」って、勝手に俺たちのスタイルでやってたからね。そこからの流れを受け継いでるのがノアでしょ?

――たしかに、ノアはジャパンプロレスが全日本にハイスパートレスリングを持ち込んだからこそ、いまのスタイルがあるのは確かですよね。佐山タイガーのライバルだった小林さんにとって、二代目タイガーマスクっていうのは、闘ってみていかがでした?

「全日本プロレス中継」
ゴールデンタイム移行記念パーティー
日本テレビ放送網株式会社・全日本プロ・レスリング株式会社

長州、小林らが登場したことによって、当時、土曜の夕方5時半から放送していた『全日本プロレス中継』が念願のゴールデンタイム（土曜夜7時）に移行。これだけでも、当時の長州、小林らがいかに人気があったかがわかるだろう。

小林　うん、頑張ってましたよね。三沢は三沢で頑張ってたけど、どうしても佐山と比べられちゃうから。本人は苦しかったと思いますよ。批判も受けてたしね。そういう意味では可哀想だったね。

――小林邦昭vs二代目タイガーは、いま観てもいい試合なんですけどね。

小林　でもね、初代とはスピードとキレが違うんですよ。いまも50近くになって、バック宙してキックとか平気でやってるわけでしょ。持ってるものが違うんだよね。

――あの体格でやるわけですからね（笑）。

小林　そう、あの体格で（笑）。だから持って生まれたものなんだよね。50近くになって、あの体格であの動きはできないよ。

――でも、小林さんも50歳すぎて、引退してるとは思えないくらい、いい身体してますよね。いまだに練習はガンガンやってるんですか？

小林　してますよ。やっぱり引退してピタッとやらなくなっちゃう選手もいるけど、俺たちは20年、30年ってずっと練習してきたわけじゃない。それが引退したときにスパッとやめちゃうと、病気になったりするんですよ。食事量はそんなに変わらないのに運動しなくなって糖尿病になっちゃったりする人多いからね。

――小林さんはいまでも大食漢なんですか？

小林　いまはそんなに食わないですけど、練習はしてるよね。

――引退前には大きな病気もされてるんですよね？

小林　うん。ガンになったんですよ。

――やっぱりガンだったんですか。

小林　91年に大腸ガンになって切ってね、一年後にカムバックしたんだけど、それが7年後に肝臓に転移して、肝臓、胆のう、脾臓を切ったから。肝臓は3分の2切っても3～4ヵ月で再生しちゃうけど、胆のうとか脾臓はもうないんですよ。

――転移したっていうことは、かなり進行してたんじゃ……。

小林　転移したとき、医者に「5年以上生きる可能性は0パーセントだ」って言われたんですよ。僕みたいな症状で5年以上生きた例はないって。

――……。

小林　肝臓自体は血管の塊なんですよ。血の塊だから転移しやすい。だからそこを切ってもね、1センチに何十億って細胞があるわけだから。99億9999万9999個のガン細胞を取っても、たった一つでも残ってたらダメだから。それが血管に乗ってどっか行っちゃうと、そこでまた分裂して塊を作るわけだからね。だから全部取りきったか取りきれてないかっていうのは、時間が経ってみないとわからない。だからよく「手術は成功」っていうけど、ホントに成功したかどうかは、時間が経たないとわからないんだよ。

――そうなんですか。

小林　ほんの少し残ったガン細胞を見つける方法ってないんだよね。CTでもわからないし、電子顕微鏡じゃなきゃわからないようなミクロの世界を一つ残らず見つけようって、それは到底無理だから。逸見政孝さんだってそうでしょ？「手術は成功」っていってたけど、術後しばらくして亡くなったでしょ。

――たしかにそうでしたね。

小林　だから、ガンで手術して「早期」っていうことはありえない。芸能人がガンになって「早期」っていって手術して、しばらくして亡くなるのは、手術してもガン細胞がほんの少し残ってたってことだから。こればっかりは、医者でもわからないんだよ。僕の場合だって、大腸に2センチぐらいの腫瘍があって、それを切って手術成功したけど、7年経って転移したわけだから。切ったら治るかといったらそうじゃない。

――そうなると、本当の意味で〝完治〟かどうかは、それこそ死ぬまでわからないようなところがあるんですか？

小林　うん、不治の病っていうのはそうでしょ。これが切って治るんだったら不治じゃないから。だからこればっかりはね、あとは神様にしかわからない。

――小林さんは全然、ガン患者に見えませんけど、転移してから何年経ったんですか？

小林　8年。

――じゃあ、余命5年から大幅記録更新じゃないですか！

小林　医者にも驚かれてるよ（笑）。だから僕を支えてるのは練習ですよね。練習をすることによって自分が病気であることを忘れられる。一時でも病気の恐怖から逃げられるっていうかね。そして練習すると体力がつく。体力がつくということは、ガン細胞が残っていても免疫細胞で抑えられる。これが練習しなかったら、体力が落ちると同時に免疫も落ちるしね。

ガンが肝臓に転移したとき医者から5年生存率0パーセントを告げられた

本人が「ベンツマーク」と呼ぶ凄まじいガンの手術跡。腹を縦横に大きく開いた大手術であったことが、容易に想像できる。しかし、そんな大病を経験しながら、いまでも毎日新日道場でガンガン練習しているというだけあって、現役と変わらない肉体をキープ。まさに小林邦昭はいまでも“プロレスラー”だ。

――じゃあ、ガンと闘うために、いまもトレーニングしてるという感じですか？

小林　そうだね。じゃないと嫌じゃないですか。長年身体を作ってきたのに、「小林さん、昔の面影ないな、あんな身体になっちゃって」って言われるのがね。だから引退試合のときも、会社からは「もう試合しなくていいから、リングに上がって挨拶だけでいい」って言われたんだけど、僕はそれは嫌だったんで、ちゃんと身体作って試合したんですよ。

――あのときは、もうガンが転移した手術後なわけですよね？

小林　そう。だから裸になると傷跡でわかっちゃうから、ランニング着てね。さすがにこんな傷はお客さんに見せられないから（と言って、お腹の手術跡を見せる）。

――うわ～、もの凄い手術跡ですね……。

小林　自分では〝ベンツマーク〟って呼んでるんだけどね（笑）。

――たしかにベンツマークと同じ傷跡ですけど……（笑）。

小林　ここ（胸）が抗がん剤を入れるホー

全日本プロレス
『プロレスLOVE in両国』
8月27日／東京・両国国技館
撮影／平工幸雄

健介の欠場で〝最後
終盤で健介は試合に
バックドロップを敢

馳といえばやっぱり
45回ブン回し、最後
でキメ!! ちなみに

蘇れ！ 昭和新日本プロレス 黄金伝説

あんな小さな虫でも俺と同じ一つの命だと思ったら殺せなくなったね

ルなんですよ。身体の中に管が入っていて、このホールから抗がん剤を打って、管を通って肝臓にいくようになってるんです。

——いやぁ……シャツを着てると、とてもガン患者には見えないんですけど、凄いですねぇ。

小林 だから、日本全国の同じような病気の人に、僕は伝えたいよね。ガンに勝つには、一つは精神力、そして体力。抗がん剤なんか打ってると体力が落ちるから、ほとんど寝っぱなしになりがちなんだけど、それは逆効果だからね。病気だからこそ、自分の好きなことやって、運動して体力つけてね、目一杯生きてほしい。

——やっぱり、ガンになって人生観変わりました？

小林 変わったね。虫を殺さなくなった。

——虫を？

小林 うん。前は夏場とかパチーンって蚊でもハエでも叩いて殺してたけどさ、あんな小さな虫でも、俺と同じように一つの命だと思ったら、殺せなくなったね。

——ああ、やっぱりそういう気持ちになるんですね……。これからガンについての公演の話とかくるんじゃないですか？

小林 実際、ちょっとそういう話があって、今後はやってみたいと思ってるんですよ。本を書いたりとかね。僕も病気になってからいろんな本を読んだんですけど、僕らは亡くなった人のガン闘病記なんか読みたくないわけですよ。ガン患者が読みたいのは、どんな生活をすれば助かるのか、どんな精神状態でいれば、病気と闘い続けることができるかなんです。僕はその助かった一例ですから。「5年生存率0パーセント」と宣告されてから8年も経って、なおかつ毎日これだけの練習を続けてるわけですからね。この僕の体験談を何十万人といるガン患者が読んだら、そういう人たちに勇気づけられるんじゃないかというのはありますよ。

——それは絶対に勇気づけられますよ！

小林 俺みたいなガン患者もいるんだよ、全部が全部死ぬわけじゃない。転移ガンで肝臓も大腸も脾臓も胆のうも切っててもトレーニングできるんだよっていうことをね。論より証拠ですよ。僕は最初に大腸ガンになって手術して、一年後に復活して、そのあと7年間現役続けたんですよ。

——それも凄い話ですよね（笑）。

小林 そのあと再発して、二回目がわかったときはもう復活できないなと思って、引退したの。だけど引退試合はやったからね。傷口あるからランニング着て試合やったけど。お客はわかんないよ。現役と変わらない身体してるんだから。

——筋肉がまったく落ちてませんもんね。

小林 どこがガン患者だって。ホントわかんないよ。服着てたらみんな信じないもん。だからガン患者を集めて俺の姿を見せてあげたい。「俺は元気に生きてるぞ！ あなたたちも頑張れ！」って言いたいね。たしかに、ガンっていうのは人生最大の敵だし、だいたいみんな負けちゃうんだけど、俺はそうじゃないから。人間、どうせいつかは死ぬんだから、人生目一杯楽しんで、目一杯闘ってやれって。開き直ってるからね。

——いや～、小林さんの話聞いてると、こっちも元気出てきますよ。いまの楽しみはなんですか？

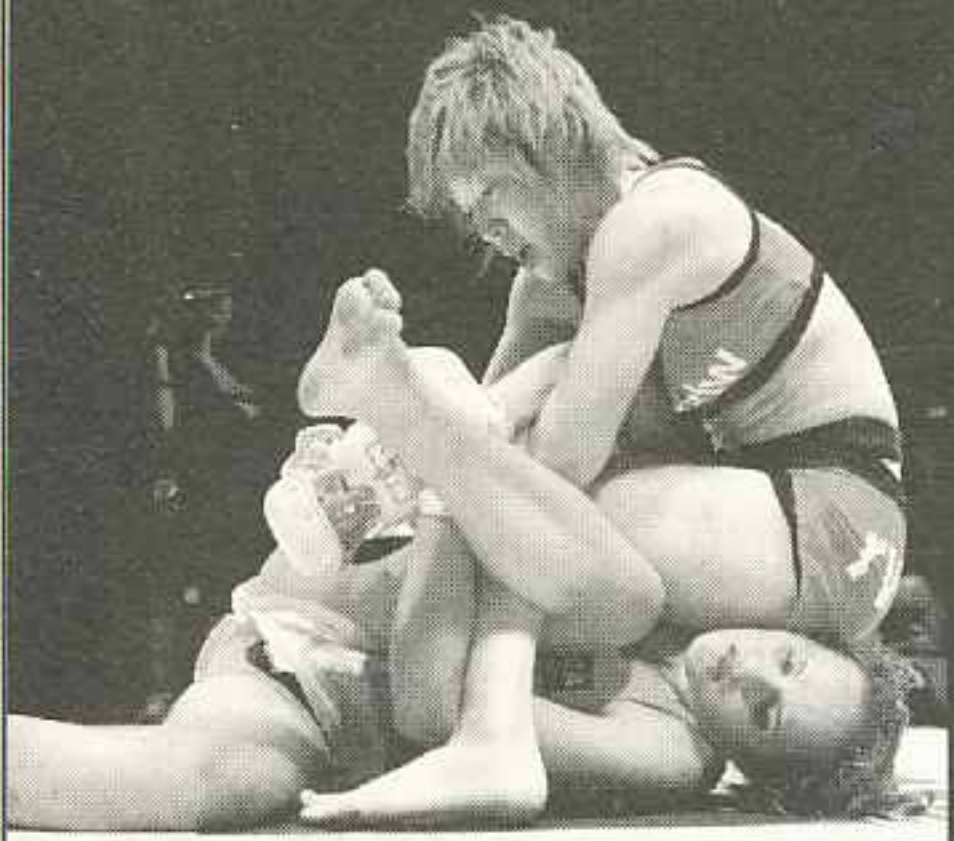
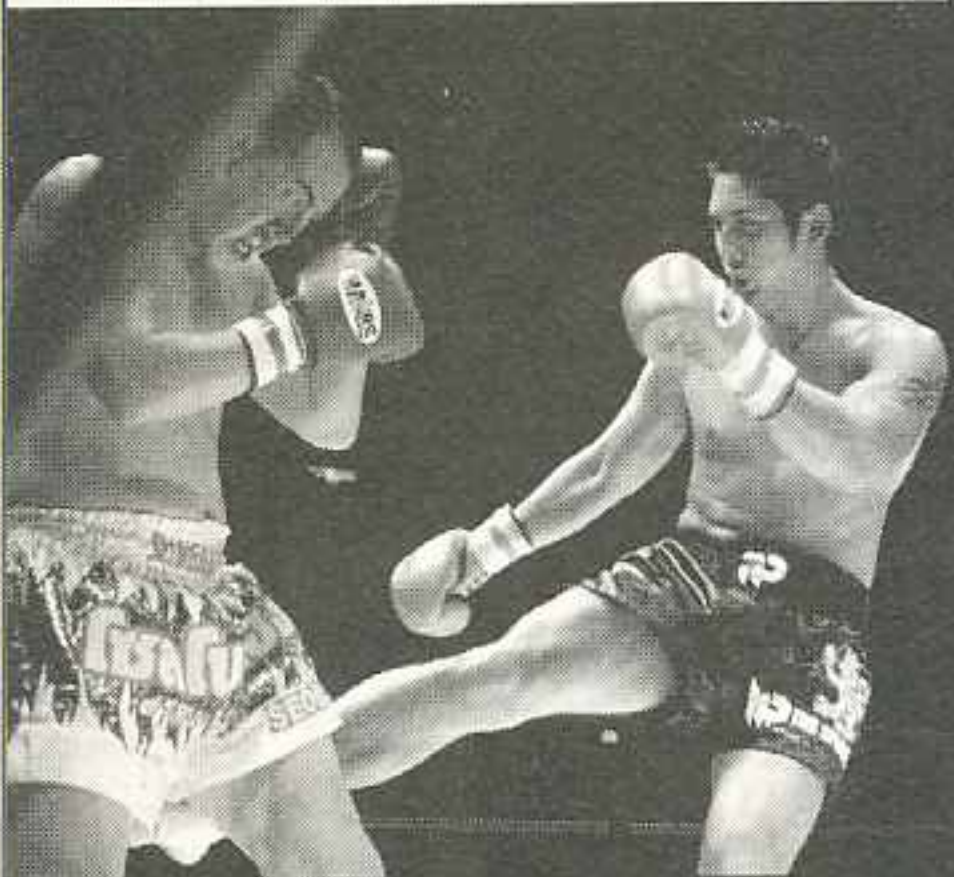
小林 いま俺は新日本の合宿所の管理人やってるでしょ？ だから、この合宿所にいるいまの若い選手が、新日本を支えるような選手になるのを見届けることだね。その成長が俺の楽しみ。だから井上（亘）とかにも「早くチャンピオンになれよ」って言うんだけどね。棚橋なんかもそうだけど、早く若い彼らに柱となってもらって、新日本プロレスの屋台骨を支えるレスラーになってほしいなって思いますね。

——小林さんがこんだけ頑張ってるんだから、みんな頑張ってほしいですよね。

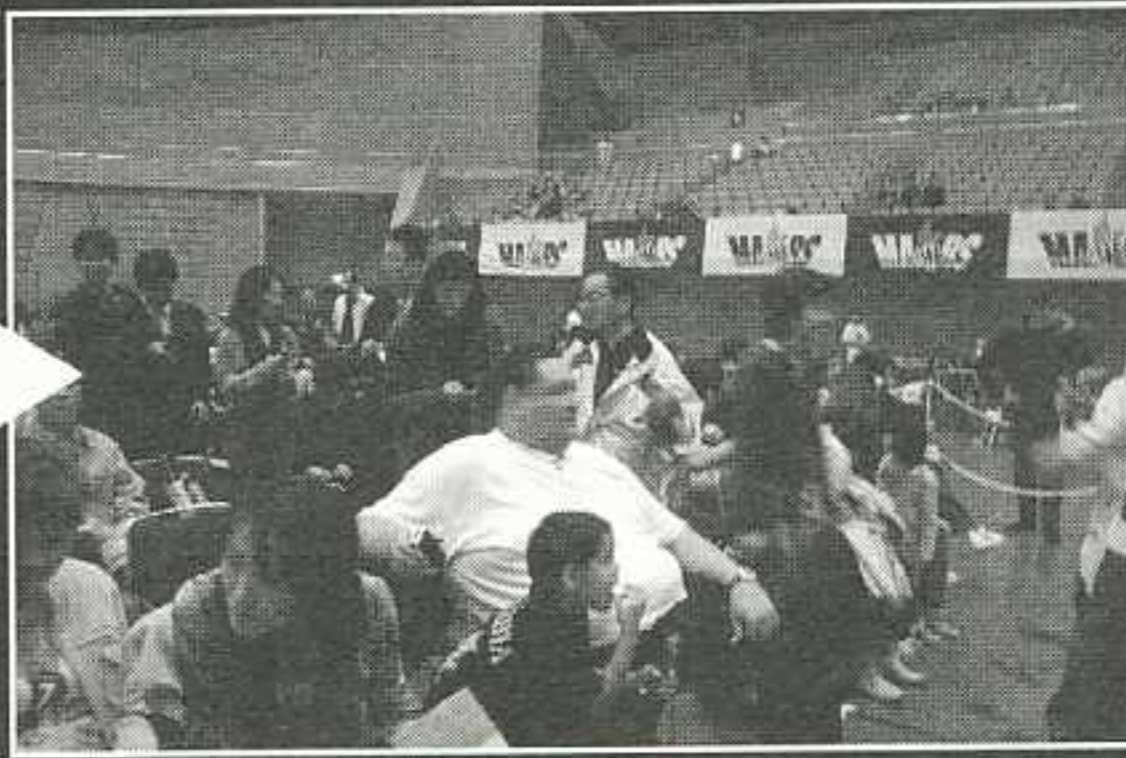
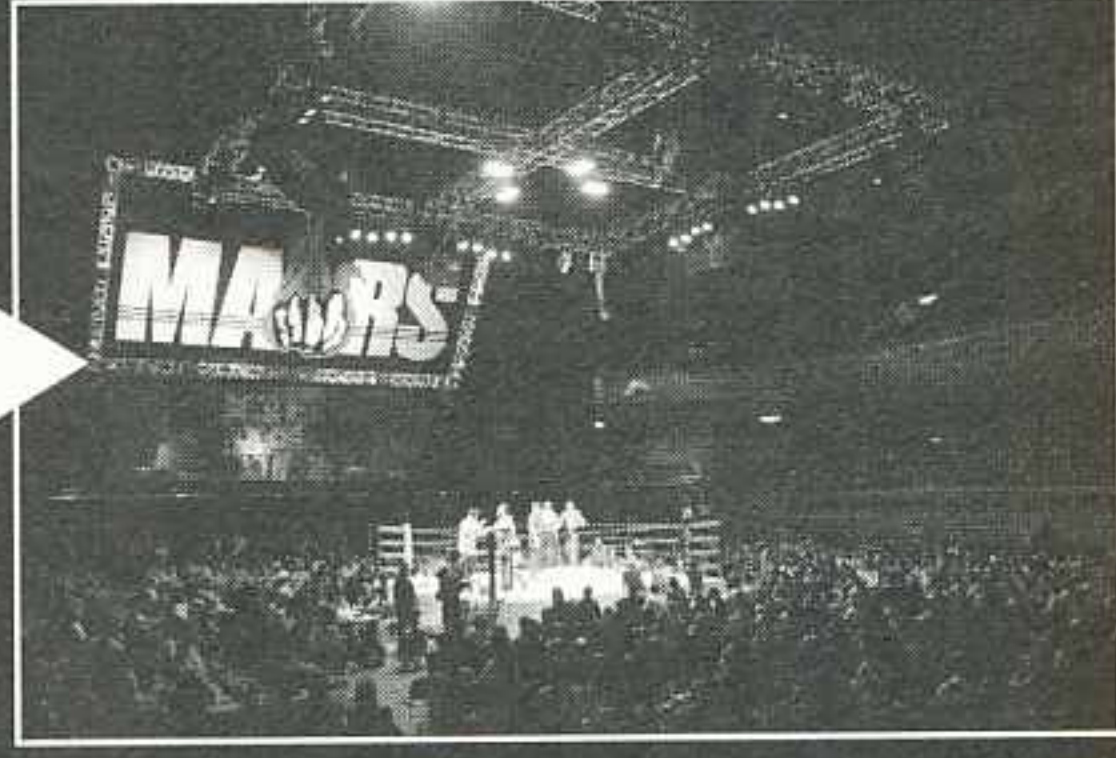
小林 俺も頑張るから、おまえらも頑張れ！ 若いやつらにはそう言いたいね。

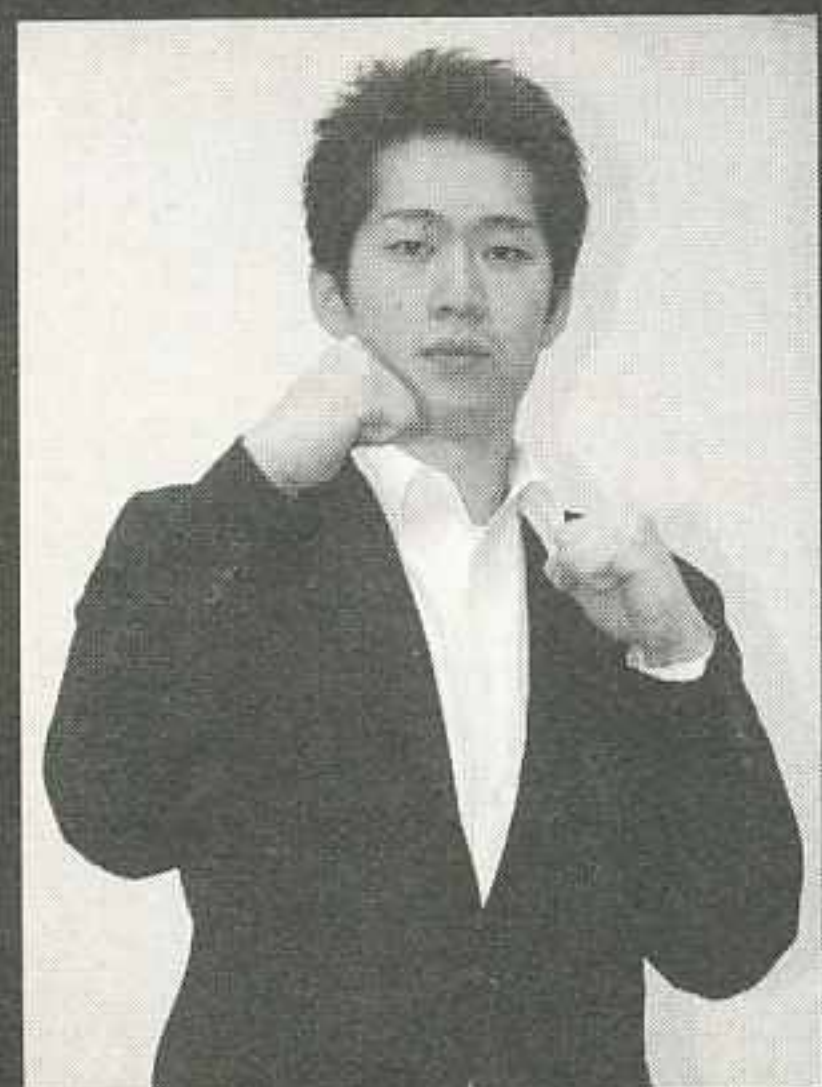
【06年8月28日／新日本プロレス合宿所にて収録】

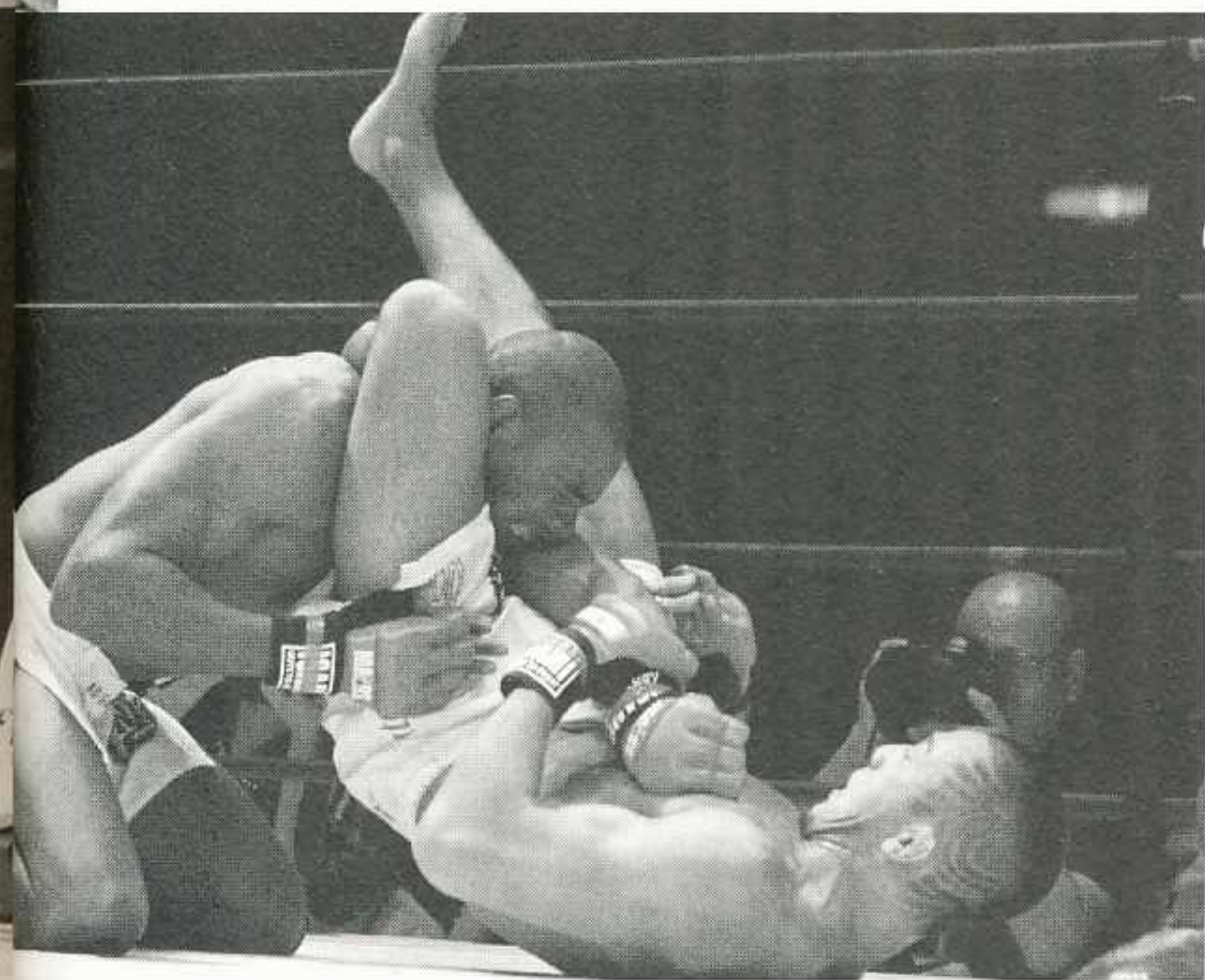
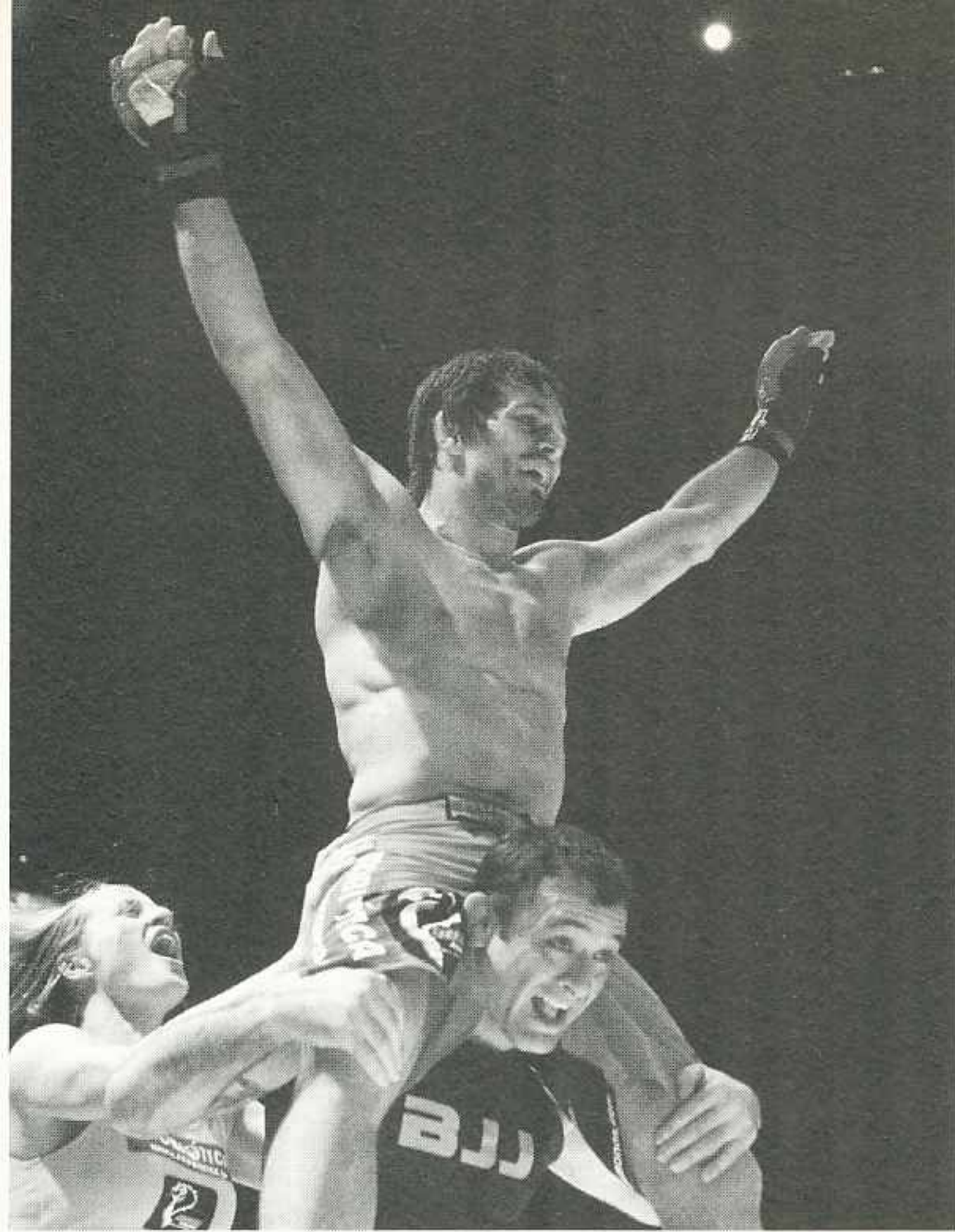
00年4月21日、後楽園ホールでライガー相手に引退試合を行なった小林。引退の理由はもちろん、ガンの再発（転移）によるものだったが、その事実についてファンには公表せず。身体をしっかり作り、手術跡を隠すためタンクトップを着ての引退試合。最後までプロレスラー・小林邦昭の生き様を貫いた。

こばやし・くにあき■56年1月11日、長野県小諸市出身。72年に新日本プロレス入門。80年にメキシコ遠征、82年に凱旋帰国しタイガーマスクと抗争。「虎ハンター」と呼ばれ、アンチヒーロー人気が爆発した。84年にジャパンプロレスに移籍し、全日本マットでNWAインタジュニア王座を獲得。87年に新日本に復帰しIWGPジュニア王座を獲得。ヘビー級転向後、92年に越中とともに反選手会同盟（のちの平成維新軍）を結成。00年4月にライガー相手に引退。現在は新日本プロレス道場の管理人として、陰から支えている。183センチ、103キロ（いまでもこの体重）。

MARS両国大会 当社比（MARS）で 100倍大成功!!

なんと！ 客入りは初日のG1両国大会以上だった!!

「まあ、なんだかんだで徐々によくなってきてると思うんですよねえ」

2月4日 有明コロシアム大会 → 5月13日 幕張メッセ大会 → 8月26日 両国国技館大会

調子に乗って、早くも10月両国大会、そして年末大会を目論む MARSエグゼクティブプロデューサー

天野勇気

さあて、今回は何をやってくれるんだろう――。誰もがそう期待……、セイセイ、心配していたMARS両国大会だったが、なんと、前号の『kamipro』の煽りページの甲斐あって、これが非常に大成功となった!!（MARS的に）。これを一番喜んでいる人はやっぱりあの人だろう！ ということで、MARSの主要人物にインタビューを敢行。心して読め!!

聞き手／須羽ミツ夫　構成／松下ミワ　撮影／平工幸雄　designed by shiraki (TwoThree)

いままでの大会とは多少周りの見る目も違ってきたかなって

―先日の8・26両国大会は大反響でしたが、天野さんご自身の感想はどうでしたでしょうか?

天野　どうなんですかねえ。よくわかりませんけど（笑）。

―わかりませんか（笑）。

天野　大会が終わってみて、いろいろ言われたんですけれども、いままでやってきた中では多少、見る目も違ってきたかなというのは感じてますね。だけど、ここで満足しちゃうとまたアレですから。ホント次回大会、より一層、抜かりなくやらなきゃいけないというのはあるんですけど。でも逆に、振り返ってみても、初めて行なったトーナメントにしても大方の予想を覆して日本人選手が二人残ったというのは今後にとってもいいことだったというのは思ってますけどね。

―直前まで、トーナメントの契約体重が外国人に違うかたちで伝わっていたトラブルがあったみたいですね。ほかの大会では見られないようなことが起きるのがMARSの醍醐味ですが、なぜそんなことが起きるんでしょう。

天野　そうみたいですねぇ（苦笑）。なぜって、ボクが聞きたいんですけど。

―天野さんが聞きたいくらい！

天野　今回はMFCさんと提携してやった流れの中で、いくつかそういう問題が……。もちろん、落ち度はこちらにあるんですけど。ホント、そのへんも今後気をつけてやっていかないと。前日はホント大変でした。

―それは外国人の対応で?

天野　そうですね、あと対戦する日本人選手サイドも……。ホント、そういうミスはなくしていかないと。なくなるとおもしろくない方もいるんでしょうけど（笑）、ボクらとしてはなくしていかなきゃですね。

―当日、ゴングもなかったとか。

天野　ああ、それはありましたね。……リングの下に。

―リング下にありましたか（笑）。

天野　当日、たしかに「ゴングないぞ」っていう連絡が入ったんですよね。でもちゃんとありました。なかったら、どう対処しようかと思いましたけどね。

―どうしてました?

天野　いやぁ〜、口でやるか、どうかしかないかなと。

―口で!?「カーン!」って?

天野　ええ。でもあってよかったですよ（苦笑）。

―本当によかったです（笑）。ところで、話題を呼んでしまっているのが、某ネットマスコミ関係者のブログで、相当叩かれていることなんですが。内幕まで書かれてますが、書かれた側としてどうなんですか?

天野　いやぁ〜、そりゃ、困りますよね（淡々と）。

―そうですよね。

天野　……いや、困りました（笑）。

―そうですよね!（笑）。こんなに内情を書かれちゃってる格闘技イベントって初めて見たんですが。

天野　あることないこと書かれちゃってるし、実名に近い書き方じゃないですか。ボクのことだったらまだいいですけど、従業員のことまでなんで、問題ですよね。

―これに対して、何かアクションを起こす考えは?

天野　考えてることはありますけど、まあ、公に言うことでもないんで。でもいくら言論の自由があるといっても、許されることじゃないですからね。書いていいことと悪いことがあるなあっていうのは、ボク自身、思ってますけど。だって、イベントとは関係のないところまで、書いてるわけじゃないですか。

―「ここについてだけはとくに言っておきたい!」という個所はありますか?

天野　いや、それはないですよ。基本的に、全部違うよって言えば全部違うわけですから。まあ、皆さんもわかってることだと思うんですけど、本人は自作自演でやってることなんで。だから、そんなにムキになってもしょうがないなっていうふうに僕は捉えてるんですけどね。

―もう、この筆者とは……?

天野　いまはもう、関わってはいません。きっかけに関してはそこに書かれてるとおりで、ウチの人間から紹介されたんですが、ボクも周りからいろいろと評判は聞いてはいましたから。どこに行ってもね（苦笑）。

―結局、それがDEEP・佐伯代表とのトラブルの引き金にもなったわけですが。佐伯さんとは解決したんですか?

天野　いや、そこはまだいまも微妙ですけど、ボクらも話し合いはし始めているところなんですけど。

それでもやっぱりMARS TOPIC ①　大会前日の計量でとんでもない出来事が!!

大会前日の計量にて、不思議なことに83キロトーナメント出場選手で外国人選手ばかりにリミットオーバーが続出した。よくよく話を聞くと、なんと！　外国人選手とは185ポンド（83.9キロ）で契約していたという驚愕の事実が発覚!! 最終的にはリミットオーバーの選手は対戦相手の了解を得て再計量なしで本番を迎えることができたのだが、ホント、それで済んでよかったよ！

天野　いや、それはないですよ。基
めているところなんですけど。

ブログの件はいくら言論の自由があるとはいえ許されないですよね

――話し合いというのは?

天野　まあ、お互い悪い方向に行かないようにということで。

――佐伯さんと一番揉めたのは、やっぱりMIKU選手とカリーナ・ダム選手の試合の件ですよね。

天野　はい。再戦をというかたちで要望が入って、こちらもすぐ再戦するのがいいのかどうか、迷いはしたんですけど、新宿の試合でMIKU選手も納得いってないことがあったでしょうし、カリーナもいろいろ言われるのはイヤだろうと思ったんで、それなら彼女が日本にいるうちにやろう、というのはありましたね。選手のことを考えて組んだという。

――でも、今度は負けたカリーナのほうが再戦を要求してるみたいですね。

天野　キリがないですよね(笑)。まあこれで一勝一敗だから……という考えが正しいのか正しくないのか、わからないんですが。7月も8月も本当にいい試合をしてくれたし、なんだかんだで一番、盛り上がってましたから、いつになるかわからないけど、ボク自身もまた見てみたいという気持ちはありますね。

――それから前回、「MARS ATTACK01」に出た花澤大介13選手も、出場を巡るトラブルについてブログに書いてましたね。

天野　そうなんですか(資料を読む)。まあ彼とは新宿大会のときも、セコンドで来てた両国でも話はしてますから。勘違いしていた部分はあると思うので、そのへんは理解してくれてるとは思いますけど。

――MARSがコブラ会の選手を締め出したということはない、と。

天野　はい、まったくありません。ウチは基本的に、いい選手をどんどん上げていきたいという姿勢は変わらないですから。

――観客動員も大変そうでしたが、8月の両国大会の中では、某団体より入ったみたいですよ。

天野　そうですか、ありがとうございます(苦笑)。いやぁ、皆さんいろいろと、違う期待をしてた人が多いみたいなんですけど(笑)。まあなんだかんだで徐々に、よくなってはきてると思うんですよね。これからもどれだけいいものを見せられるかだと思いますから、海外勢も日本勢もそうですけど、なかなか見られない選手をどんどん上げていきたいというのはありますよね。ウチもやっぱり、スターを作っていかないといけない。そのための道しるべを作っていかなきゃというのがボクらの仕事ですよね。

――みんな気にしてるのは、次の両国、それからその先もやるのか、ということだと思うんですが。

天野　もちろん、続けていきますよ!

――やりますか!

天野　10月4日にも、また新宿FACEでやりますし。

――えっ! それはまた急ですね。「MARS ATTACK02」?

天野　そうなるかもしれないし、違う名前になる可能性もあります。

――可能性も!(笑)　もう時間ないですよ。ズバリ聞きますが、大会の予定って、いつも急に決まるんですか?

天野　だいたい、急に決まります(キッパリ)。前回の8月はそうでもなかったんですけど、今回は本当に急ですね。

――どういう経緯で?

天野　ウチとMFCサイドと連携してやろうという企画があって、それが打診されたのが急だったから急に決まった、と。

――では、MFCの選手も来るんですか?

天野　基本的には日本とアジア中心になるんですが、MFCからも一人、出したい選手がいるので。

――では、大会のコンセプトというのは?

天野　来年2月に、アメリカでMFCの大会があるんですが、勝ったらそれの日本人枠、韓国人枠の出場権を獲得できるような大会、ということですね。ワンマッチもやりますし、トーナメントもいくつか。

――またトーナメントも!　出場選手は決まってるんですか?

天野　いや……。時間もないんで、交渉してるところなんですけどね(笑)。

――ああ、そちらも急発進で(笑)。大会も急に決まりますけど、選手たちもオファーを受けて、「時間ねえよ!」っていうのがあると思うんですけど。

天野　正直、あるでしょうね、それは。この前の両国でも、選手が試合後のインタビューで「急なオファーだったんですけど」っていうのがお約束のようになってたんですけど(苦笑)。……我々もわざとそうしてるわけじゃないんですけどね。

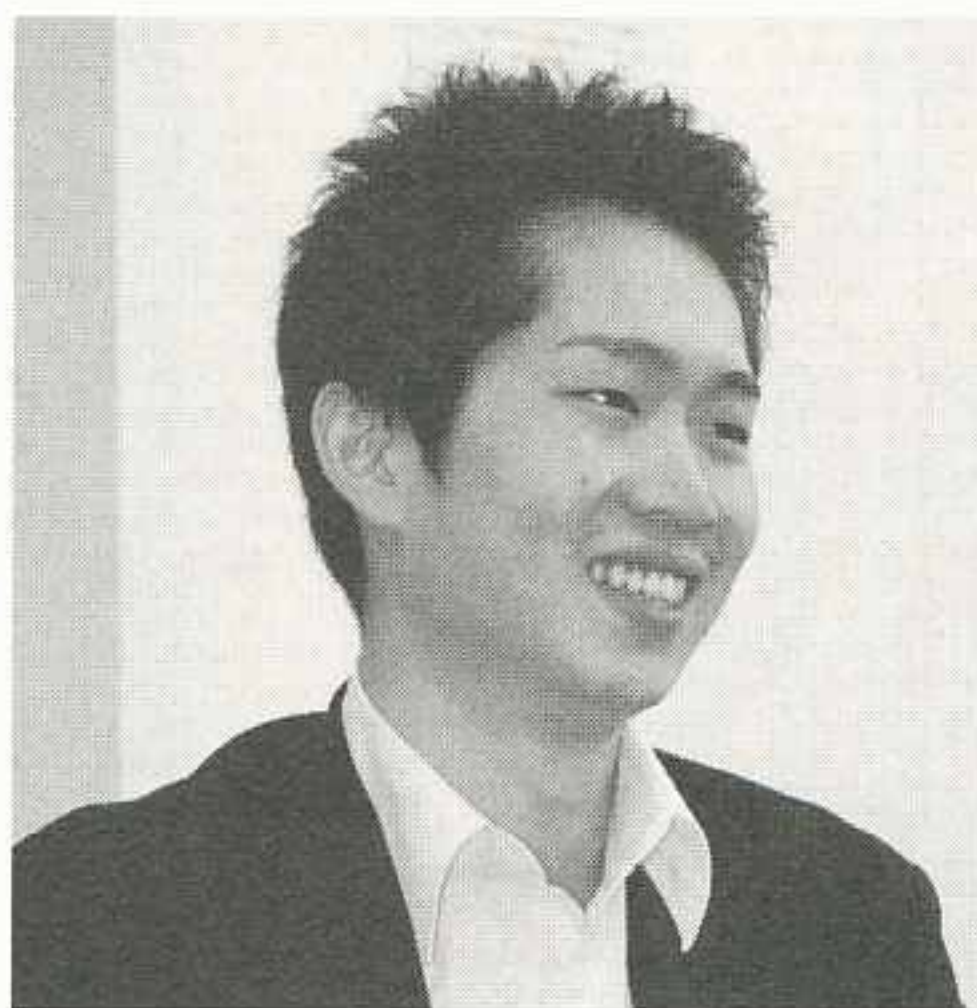
この勢いのある試合写真を見よ!　まさにMARSのいまの勢いを象徴するかのような輝かしい写真である。7月に行なわれた『MARS ATTACK01』で日本デビューを果たしたホドリゴ・ダム(右上)は、07年アブダビ出場決定選手というのを強調するかのように華麗な腕十字で第一試合から会場を盛り上げる。それにつられて、つづく試合も絶好調。MARSが散々押していたMFCウェルター級チャンピオン、エディ・アルバレス(左上)も圧倒的な強さを見せつけ、あっという間にKO勝利。さらに、最も観客を驚かせたのは、一部で「こいつはヤバイ!」と囁かれていたレオナルド・チョコレート・ナシメントに三角絞めで勝利した佐藤隆平(右下)。予想を覆す大健闘で、見事83キロ以下級トーナメント準決勝進出を決めた。こうなると、10月の両国大会にもおおいに期待してしまうのだが、いいですよね、天野さん!

それでもやっぱり MARS TOPIC ② 両国大会のリングにプリティ長嶋が登場!!

大会当日、休憩時間にプリティ長嶋が現われた!!　何も予期せぬこの事態に、観客は騒然。プリティさんは長嶋茂雄さんのモノマネで巨人を引退するときのコメントをなぞり、最後に「我がMARSは永久に不滅です!!」とリピート。試合後、天野氏にプリティさんとの関係をうかがったのだが、「僕も、来たら(プリティがリングに)いたんで、ビックリしました(笑)」と仰天発言。素敵すぎます!

来年もまだまだやりますよ！
やらなくなったら寂しいでしょ？

――もちろん、そうでしょうね。
天野　やっぱり、何かと障害が出てきたりすることもあるし。我々に不慣れな部分があるっていうのも一つの理由でしょうし、新しい団体だっていうこともあるんでしょうけど。
――障害というのは、横槍とか？
天野　そういうわけではないんですが……。
――深くは聞かないでおきましょう（笑）。とにかく、次の新宿大会で勝つと来年2月のMFCに出られるわけですね。
天野　そうです。
――10月の両国に連動することは？
天野　それはないですね。
――7月の新宿大会の前に、大会場と小会場で月イチペースでやると言われてて、驚いた記憶があるんですが……。
天野　有言実行ですよ（キッパリ）。
――確かにそうなんですけどね（笑）。
天野　ウチもこれからもやっていきますし、MFCさんからもいい話をもらってますから、それがいいかたちで選手に波及していけばいいなと思うんですけどね。
――では、ウチに上がるとMFCに上がる道もあるよ、というのが今後のウリになってくるわけですね。
天野　はい、それは約束できます。向こうとは今後もやっていく中で、より強固な提携になっていけばいいなと思うんですけどね。
――MFCはかなり資金力のあるスポンサーがバックについてるみたいですね。
天野　そうですね。話してるとホントに将来性を感じますし、逆にボクらもこれから将来性があるのか……、どうかわからないですけど（笑）、盛り立てていければなと思いますね。
――MFCにはホジャー・グレイシーも上がりますね。
天野　ああ、そうみたいですね。
――急に他人事になりましたね（笑）。MARSに呼べないんですか？
天野　呼びたいですけどね。まあ、いろいろ問題もあるかもしれないんで。ボクも日本で見たいですけどね。
――とりあえず年内は、10・28両国でトーナメントの決勝戦をやると。そのあとは？
天野　年末あたりにやりたいですけどね。
――それも大会場で？
天野　……ちっちゃくはないでしょうね。
――ちっちゃくはない（笑）。これもみんなの疑問だと思うんですが、なぜ大会場でやるんですか？
天野　まあ、派手なことが好きな人たちなんじゃないですか。
――また他人事みたいに（笑）。
天野　選手たちも大きな会場でやりたいという人も多いでしょうし、それを手助けしたいというのもあったんですよね。あとはお客さんがたくさんいる中でやらせてあげたいなと（笑）。そうしないと選手のモチベーションも上がらないでしょうし。そこがこれからの課題ですね。
――大会場でこの前みたいな入りでも、同じ数の人が後楽園ホールに入ったら満員ですよね。代表としては、どちらがいいんでしょう？
天野　そうですねえ……なんとも言えないですね。ここまで行ったら、行くとこまで行くしかないという気もしますから。夢を追うか現実を見るか。まあ、会場規模については内部でも議論になるところですけどね。今年は少なくとももう一回、大会場がありますけど、そこでどういう結果が出せるのか。それによって、来年の方向性も決まってくると思います。ムチャばっかりはやってられないですから（笑）。
――そうですよね（笑）。
天野　最後、みんなで首吊ってもしゃあないですからね（笑）。そうならないように頑張らないと。
――いやいや、頑張ってくださいよ！　じゃあ当面、後楽園クラスの会場ではやらない？
天野　いまのところは。だから今年の状況を見て、来年以降を考えていきたいなという感じですね。
――国内外にいろんな大会がありますが、MARSとしてはどんなふうになりたいというのはありますか？
天野　どこも、それぞれに色があるじゃないですか。ウチも色を出していきたいなというのはありますよね。そうしていかないと、ほかと一緒のことをやっててもダメですし、それが今後の課題ですね。
――具体的な対策は？
天野　いやぁ～…まだちょっと。これまではボクらも単発的な要素が大きかったんで、それを線につなげていけるようにしたいですね。
――以前には、日韓でそれぞれ大会をやって、年末にグランドチャンピオン戦という話もありましたが。
天野　それもなくなったわけじゃないんですけど、韓国での興行がちょっと難しいことになってまして、再検討の段階ですね。
――一年後は、どうなっていたいですか。
天野　たくさんのお客さんに来てもらいたいですよね。そのためには、やっぱりファンの心をつかむことだと思います。
――ファンの心をつかむためには？
天野　ちゃんとやることでしょうね（キッパリ）。いい選手を呼んで、いい闘いを見せていくことです。
――とにかく、来年もやるよ、と。
天野　やります。……やらないと言ったほうがいいんですかね？（笑）　やらなくなったら寂しいでしょ？
――確かに寂しいです（笑）。この調子で頑張ってください！

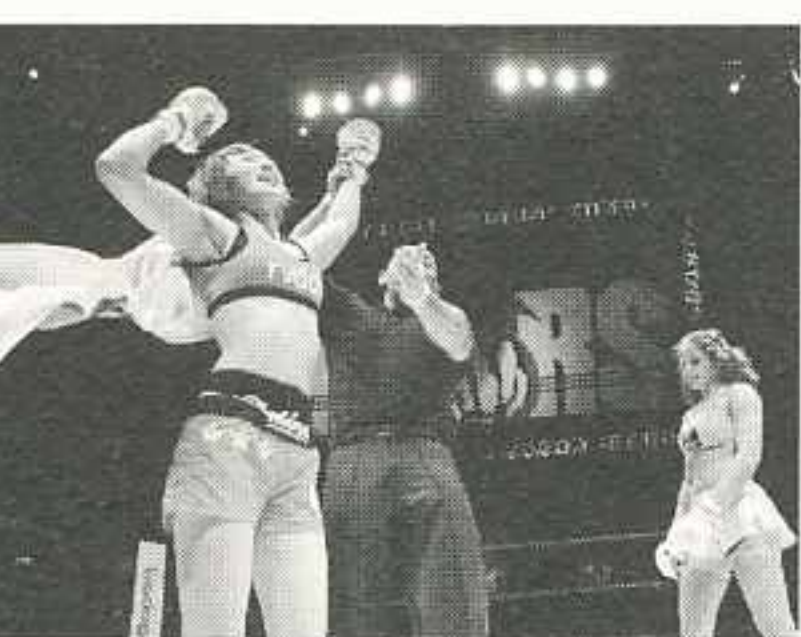
【06年9月5日／MARS事務所にて収録】

あまの・ゆうき■MARSエグゼクティブプロデューサー。2006年2月、格闘技イベントMARSを旗揚げ。その後、日本国内では有明、幕張、新宿FACE、そして8・26にはマット界の聖地、両国国技館でもイベントを開催。なお、弟のユウゴウ氏は現在、MARSのリングアナウンスを務めている。

MARS bodog fight 01
東京・新宿FACE
10月4日（水）19:00（開始予定）

【MFC challenge -70kgライト級トーナメント一回戦】
準決勝、決勝は12月に行なわれる。
優勝者は2月MFCへの出場を獲得。
その他、総合、キックのワンマッチあり

［チケット料金］
SRS 10.000円／RS 7.000円／自由席 4.000円
※当日、ドリンク代として500円かかります。
※自由席は席数に限りあり。立ち見になる可能性あり。

［問い合わせ］MARS事務局　TEL／03-3368-3355

それでもやっぱり MARS TOPIC ③　MIKUvsカリーナの因縁対決が実現するかも……

「MARS ATTACK01」で疑惑のジャッジが生まれてしまった両者の対決。同大会でカリーナに負けたMIKUは強く再戦を望み、両国大会で早くも実現！　しかも今回はMIKUの判定勝ちとなった。これで一件落着かと思いきや、今度はカリーナが「納得いかない」と再戦を要求。会場裏ではカリーナが直接MIKUに詰め寄るシーンも。いったい、この因縁はいつ消えるんだ!!

MARSで日本デビュー! MFC参戦ファイター

ジョン・コロシが“殺しTシャツ”を着て開眼!!

「これを着ていれば、俺が“殺し”を忘れることは二度とないだろう」

聞き手／松下ミワ

I編集長が日々口をすっぱくして言っておられる「殺し」の二文字——。その真の殺しを持つとおおいに期待させる男がついに現われた! しかも、MARSに、である。その名もまさしくジョン・コロシ。これはもう、前世が中国の皇子であることよりもワクワクものである! というわけで、MARS両国大会直後にホテルまで押しかけてコロシを直撃!!

——コロシ選手、今日はよろしくお願いいたします!

コロシ おお、よろしく。

——さっそくですけど、コロシ選手は日本に来たのは初めてなんですか?

コロシ そうなんだよ。日本はいいところだねえ。みんな本当にビッグハートで驚いたよ。電車の乗り換えなんかでも日本人はよく親切に教えてくれるな。感心するぜ!

——それは嬉しいコメントです。そもそもコロシ選手はそのお名前やタトゥー（腕に「コロシ」、首元に「実愛」と彫っている）からしても、非常に日本がお好きなんだろうなという印象を受けるんですけど。

コロシ 日本は大好きさ!

——やっぱり! 日本通だから、名前も“コロシ”なんですよね!!

コロシ ……は? 俺の名前がどうしたって?

——え? “コロシ”という名前は“殺し”からきてるんじゃないですか?

コロシ ……いったいキミはなんのことを言ってるんだ?

——いやいや、“コロシ”というのは英語で言うと“murder（マーダー）”、まさに“殺し”という意味じゃないですか!

コロシ マ、マーダーだって!? 俺の名前って日本語ではそんな意味だったのか!?

——そうなんですよ。じつはご存知なかったんですか?

コロシ 全然、知らないよ、そんなこと!! だって、これ普通に本名だし。

——ほ、本名!! アハハハハハ!

コロシ 何がおかしんだよ! ハンガリー系の名前では“コロシ”という名前があるんだよ。

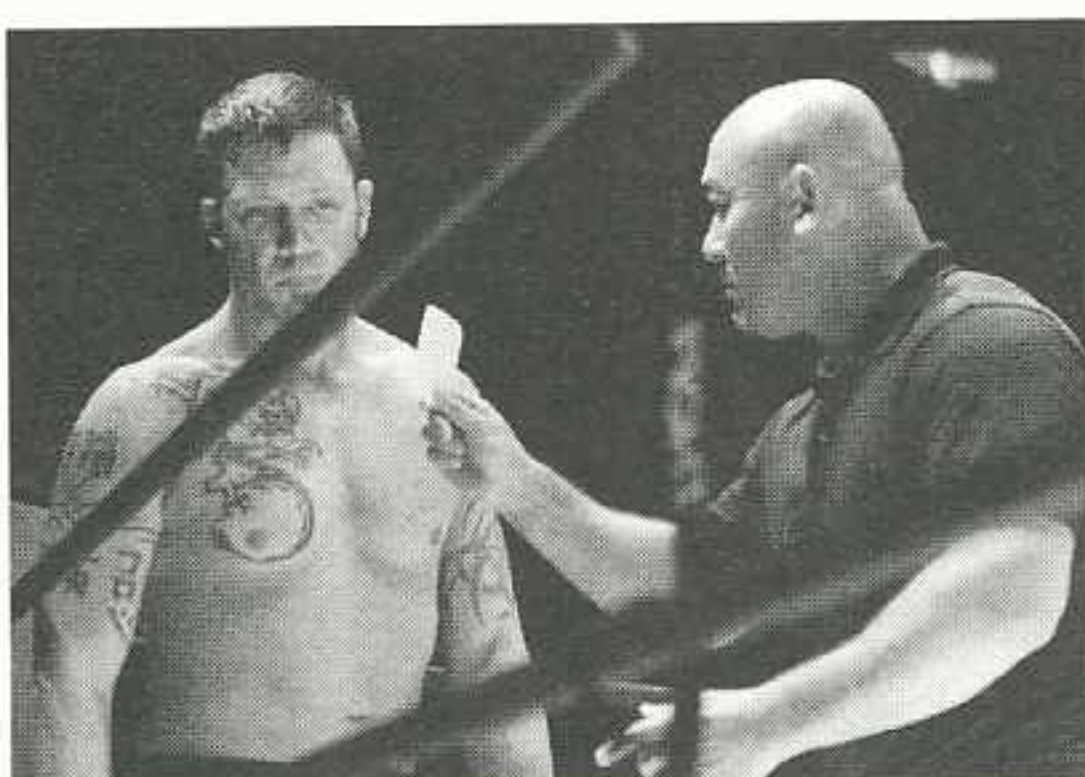
——むむっ。私はてっきり、日本の格闘技ファンを喜ばせるためにわざとそういうリングネームで登場したとばっかり思ってましたけど、全然違いましたね!

コロシ ああ、全然違う!

——そうですか……。ちなみに、いま“コロシ”の意味を聞いて、率直にどう思いました?

コロシ ……正直どう思ったらいいかわからない。（ガッカリした表情で）知らないあいだに日本人に悪い印象を与えてたんだろうな、俺は。

——それは考えすぎです（笑）。

コロシ （聞かずに）試合ではパンツを穿き忘れて入場するし、花の日本デビューだったのにさんざんだな（写真参照）。はあ〜（ため息まじりに）。

この日、スエットを履いて入場してきたコロシは、リングインする直前にショーツを穿いていないことに気づき、すぐさま控室へとダッシュ。急いで戻ってきたものの、これが遅延行為と見なされ結局イエローカードをもらうことになってしまった!!

——いや、違うんですよ! “コロシ”というのはですね、プロレス&格闘技好きな日本人にとってはむしろ好印象なお名前なんですよ。今回インタビューをお願いしたのも、その魅力的な名前がきっかけだったといっていいくらいです。

コロシ そうなのか? じゃあ、光栄だと思ったほうがいい?

——もちろん。なぜなら、“殺し”という言葉は日本の超大御所プロ格編集者であるI編集長が常々言っておられる重要ワードでもあるんですよ。

コロシ ……Iヘンシュウチョウ? コロシ?（困惑）。

——日本を代表するマッド・エディターです! その方はよく「アイツには“殺し”が足りん!」というような使い方をするんですけども。

コロシ コロシガタリン? それは日本ではポピュラーな言葉なのか?

——かなり! そして、そのI編集長は、歴代のファイターの中で本当に“殺し”を持ってたのは3人だとも言ってるんです。

コロシ たった3人? そうすると、それ以外のヤツは……。

——格闘家として失格!!

コロシ たしかに失格だよな、格闘家としては……（目から鱗の表情で）。で、“殺し”を持っているその3人は誰なんだ!? 教えてくれ!

——力道山、長州力、前田日明、この3人です!

コロシ （きょとんとした表情で）残念ながら俺には全員どんなファイターなのかわからない……。

——そうですか……。でも、そんなにガッカリしないでください。今日は素晴しいプレゼントがあるんですよ。これです、はいっ!（Tシャツを広げて）。これは、我々『kamipro』編集部がI編集長に敬意を表して作成したTシャツです!!

コロシ （Tシャツをまじまじと見つめて）……何か漢字のようなものが書いてあるみたいだけど、もしや……。

——もちろん「殺し」です。

コロシ アッハッハッハ! これが“殺し”という字なのか〜。

——そして、コーヒーカップにたたずんでいるのが“殺しの提唱者”であるI編集長です。

コロシ アッハッハッハッ! これがIヘンシュウチョウか!? なぜコーヒーカップ!!（腹を抱えて大爆笑）。

——（無視して）せっかくですので、ちょっといま着てみてもらえませんか?

コロシ もちろんだよ!

【※コロシがTシャツを着る】

コロシ どうだい?

——ベリー・ナイスです!

コロシ そりゃよかったぜ（笑）。今後、日本で試合をやるときはこれを着て入場するよ!

——おお、ぜひ着てください!

コロシ （思い返しながら）今日の俺が負けたのは、きっと“殺し”がなかったからかもしれない。これを着ていれば“殺し”を忘れることはないだろうからな。今度はこれを着てうんとトレーニングを積んで、必ず俺の得意のパウンドを見せてやるぜ!!

——コロシ選手の得意技はパウンドなんですか!

コロシ そうさ。今日はまったく見せられなかったけどな。だが、甘く見るなよ。本領を発揮すれば俺のパウンドもヒョードルくらいは軽くイケるんだぜ!

——ほ、本当ですか! それこそ、まさに“殺し”!!

コロシ ああ、“殺し”がある!

——次回を期待しています! 今日はありがとうございました!!

コロシ こちらこそ。マッド・エディターのIヘンシュウチョウによろしく伝えてくれ!

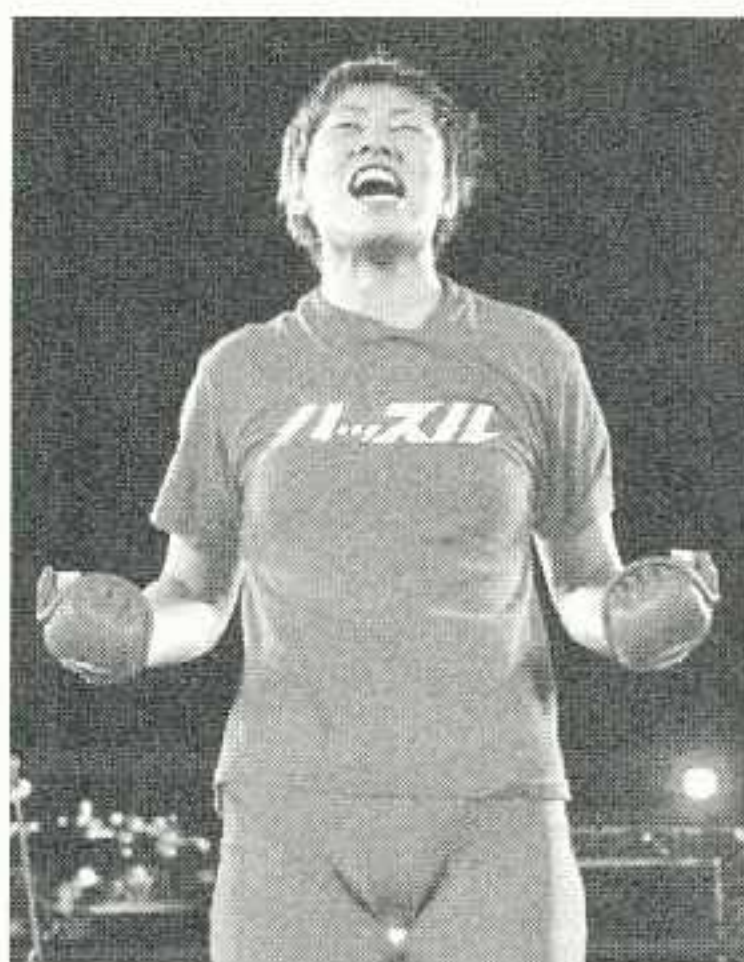
【06年8月26日／都内某ホテルにて収録】

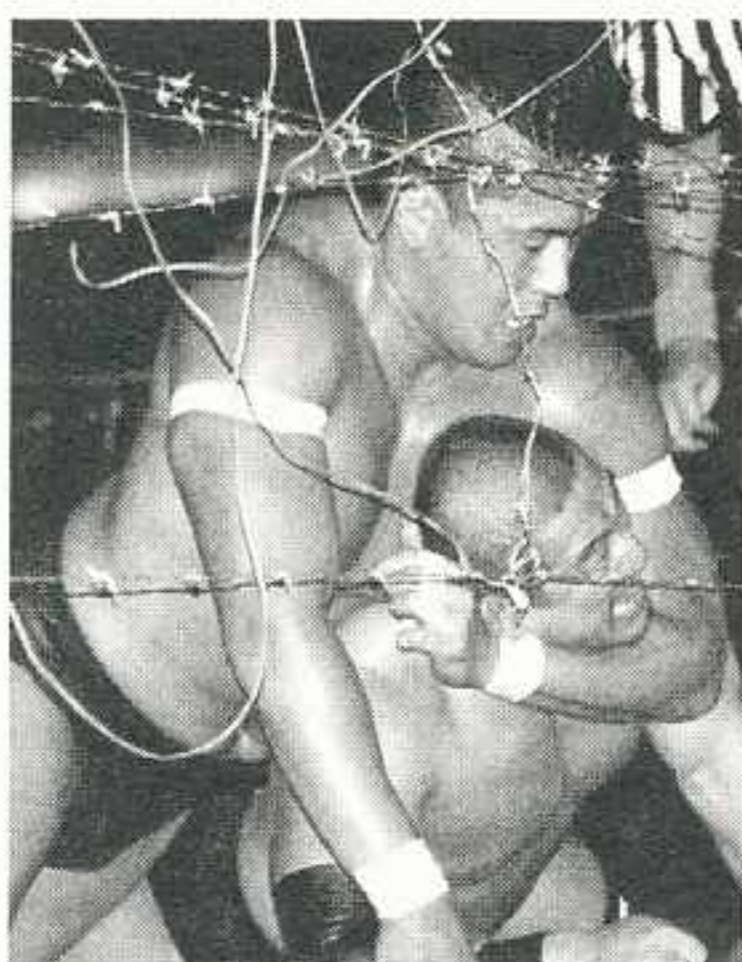
8・19＆20『WRESLE EXPO』お台場大会
不完全密着48時間ドキュメント

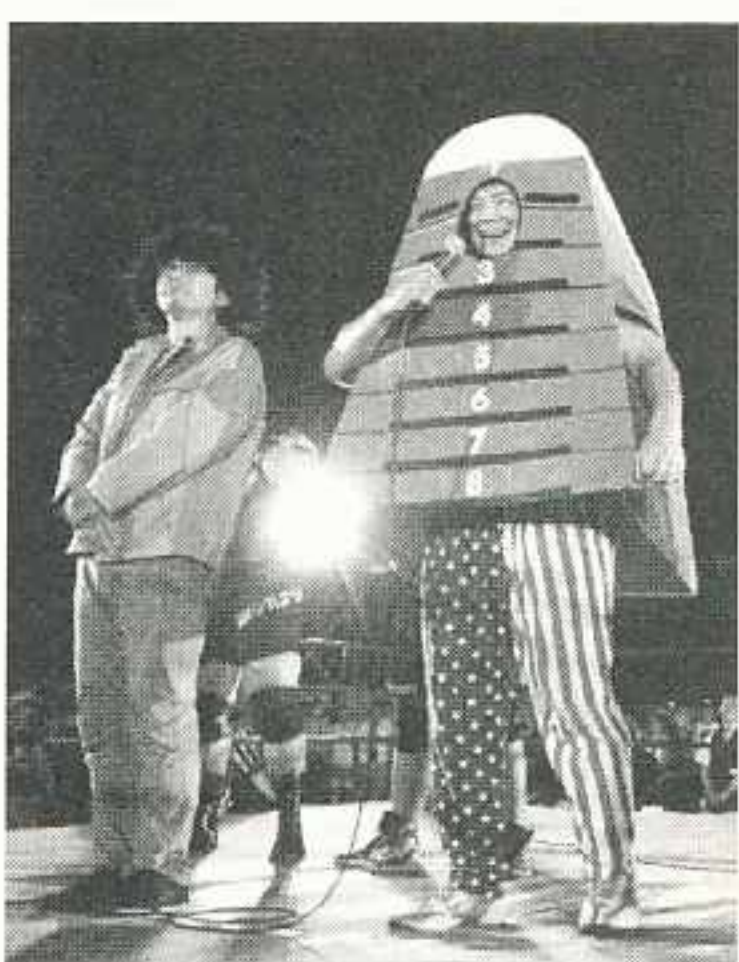
撮影／菊池茂夫、平工幸雄　ピンボケ撮影／バギーパンツGT

キミは二日間で約50試合観られるか!?

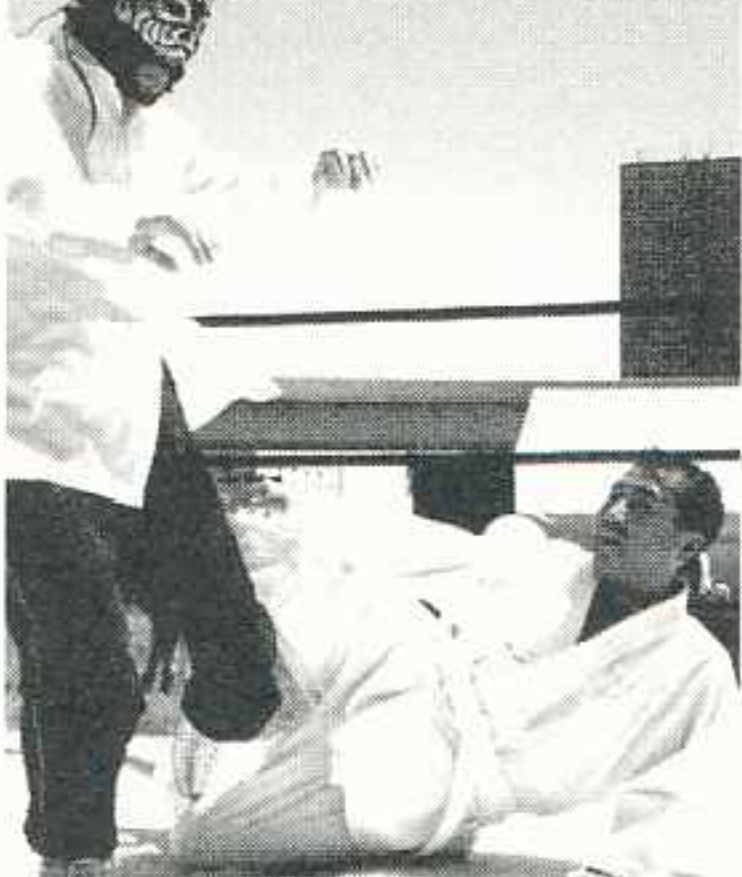
タ、タダ見!?

俺は観たぞ〜！

ハッスル練習生の石井千恵が総合戦で圧勝。最後はもちろんハッスルポーズ！

マットゾーンに登場したサバイバル飛田の周囲はどインディーマニアで大盛況！

途中で電気が落ちるアクシデントがあったが最後は大円団で終わった電流爆破！

我闘姑娘の希月あおいはヤバイ！　表情も凄いが、その絶叫は天まで届くって！

飛び箱と一体化しボックス坂井となった坂井はエンディングでも目立ちまくり！

なぜか小笠原先生の押忍闘夢ブースでくつろぐハッスル関係者（？）を発見ッ!!

女子プロW杯に出場したベネッサ・ザ・マウンテンはホントにデカかったです！

オープニングはゴング原記者vsロッシー。これ以上ないほどグダグダフォー！

先月の萌え萌え女々苑に登場したラム会長も大活躍！　やっぱ小学生は元気ッ！

アバレピンクこと西島未智が総合デビュー。敗れはしたが入場はド派手でした！

キミは二日間で約50試合観られるか？……まあ、まったくもって観なくても問題はないんですけど、ボクは観ました！　女子プロから、どインディー、女子格から学プロ、尻相撲、トドメは電流爆破マッチと、いったい正式に何試合行なわれたのかは主催者も把握してないと思うが、とにかく50試合ぐらいは観た記憶が頭の片隅にぼんやりと残っている。

なんのことを言っているかというと、8月19＆20日と二日間にわたり、都内・青海で開催された『WRSTLE　EXPO』の話である。大会が終わってから一カ月近く経っているため、だいぶ記憶が薄れてきているが、とにかく鮮明に残っているのは「熱い」ならぬ「暑い！」の一言。

個人的な話で恐縮だが、今年の夏は海にも山にも日焼けサロンにも行く機会がなかったので、夏気分を満喫したのは『エキスポ』だけ。9月も半ばを過ぎた現在もTシャツをまくし上げると日焼け跡がくっきり。我ながらせつない話だ。

大会直後には、あれも書きたい、これも書きたいと、ある意味、ネタの宝庫だった『エキスポ』だが、いまとなっては、初日の11時から開会式が行なわれるはずが、その時間には数えるほどしか人が集まらず、実行委員長の挨拶ぐらいでぼんやりとイベントが始まったことや、いざ始まったと思ったらオープニングマッチがロッシー小川と『ゴング』の名物記者・原正英のタッグマッチという望んでいる者がどれほどいるのかまったく不明な〝世紀の再戦〟（←主催者命名）が予想どおりグダグダに終わってしまったり、フェンス越しに楽々とタダ見ができてしまったり（推定タダ見客80名）、空港が近くにあるため10分に一度は頭上に飛行機が飛びまくっていたため、会場のヘブンな何人かは美濃輪になりきって、そのたびに走り出してみたり、学プロの「西村ムラ修まらない」というリングネームに「うまい！」と唸ってみたり、『レディゴン』編集長の泉井さんがバックナンバーやグッズの販売だけでは飽きたらず（？）焼そばやかき氷作りで全盛期の松永会長ばりにハッスルしていたかと思えば次の瞬間にはノリノリ実況を披露し、「この人の本業は!?」と、ある意味感心させられたり、今大会の一番の目玉である電流爆破マッチの電流が開始から数分で落ちてしまいリング上が真っ暗に！「どうなっちゃうんだ〜ッ？」と場内が緊張感で包まれる中、数分後、奇跡的に復活！……したかに思えたが数分後にはまた消灯。「もはや、これまでか！」と誰もが思った瞬間、再度点灯したときには、これまでの電流爆破マッチでは味わったことのない感動を覚えちょっとジュンとなったり、そうかと思えば電流が落ちたことが原因で試合中にも関わらずスタッフ同士が電流の源と思われる闘魂パワー（のようなモノ）の前で揉めだしたりといったことも……もう何もかもがすべてが素敵な夏の思い出と思えるようになってきた。

その中からお気に入りのエピソードを一つ紹介すると、インディー団体のブッキングも担当した高木三四郎が、ブッキングした選手のギャラが予定より大幅に上回ってしまったため、自分のギャラからそのお金を捻出。手元に残ったのは、なんと1250円！　しかも、三四郎は試合では被爆しまくりでファイヤー！（当たり前か）。お疲れさまでした！

来年もそんな〝エキスポ〟な出来事を期待して足を運ぼうと思ってます（もちろん、大会が開催されればの話ですが！）。というわけで、皆さんもどうですか？　行きますか？　やめときますか？　まあ、どっちでもいいや。3、2、1、レッスル、エキスポ！　う〜〜、語呂悪し!!

（文・チョロ）

快守氏落選！ それでも『GENOME』延期!!

ゲノムは続くよどこまでも！

『MARS』、『レッスルエキスポ』と続く"ズッコケ興行"記事の締めは、やはりこの男たち。そう、アントン兄弟！

前号本誌で好評を博した『INOKI GENOME』特集。そしてアントン実兄・猪木快守氏の熱海市長選出馬表明記者会見。残念ながら『GENOME』は案の定、延期という運びになって、猪木快守氏も771票というクリティカルな投票数で最下位落選してしまった（詳細は囲みを参照）。

そんなゲノム（正式には"遺伝子"の意味だが、『kamipro』的には"ドタバタ"の意）な展開に、「やっぱりな。俺の思っていたとおりだよ」なんて馬鹿丸出しの三者三様的なボヤきが聞こえてきそうだが、ズバリ、そんなつまらない正論をこちとら聞く耳なんか持っちゃいない。

なぜならアントン・ブラーザーズの口から次から次へと飛び出すバケラッタなゲノム・ワードや、ポジティブな特攻精神溢れるアクションは、非常にいい加減極まりないが、彼らより771倍おもしろいからだ。

快守氏ときたら、どうだ。立候補の届け出に遅れて駆けつけてきたかと思ったら、なぜか水戸黄門や『男はつらいよ』の寅さんに扮した支持者を伴なっていたそうだ。水戸黄門の持ち出しはまだなんとなくわかるが、政治とは無縁の寅さんとはじつに奥深い。フーテンの寅は、放浪のなかに本当の自由がないことを肌で感じつつ、安住に憧れるも、されど夢破れて再び放浪の旅に出る。快守氏は、落選することを承知ながら、あえて安住を求める人間のペーソスを表現したかったのでは？　……なんてことはねえな。毛頭思ってないだろうが、そこまで深読みがしたくなるゲノム・パワーがこの兄弟にある。いや、おそらく。

なかでも一番ゲノかったのは8月14日、熱海市内の観光会館ホールで開催されたアントン総帥の講演会。テーマは「熱海」ときたから、なんだか凄いゾ！……と、喜び勇んで庭駆け回って熱海入りしたものの、アントンは「熱海に元気を！」と意味もなく吠えまくるだけの、ボンヤリとした講演ぶり。それに「俺は俺、兄貴は兄貴！」などと、快守氏を応援してるんだが、なんだかよくわからない。アントンは投票前日9月9日の応援演説でも「なぜか兄貴が立ち上がってしまった。金も地盤も何もないのに、非常に迷惑！」とラウドして、成田会見では「兄貴は占い師を信じていて、もう市長になった気でいる」ことを衝撃告白。選挙ブレーンは占い師でしたか!!　神のお告げで五大宗教の統一に目覚めた快守氏らしいエピソードだが、いやいや、アントンだって血は争えないもんだ。

なぜアントンがこんなに発明大好きかといえば、自動炊飯器や格安テレビなどを"インスピレーション"で発明したと主張し、そのうえアトランティス語をしゃべり、なんと口の中から真珠を生み出したという、政木和三なる偉人に心酔していた過去があるから。

その"インスピレーション"はこの講演会でも元気よく飛び出した。質問コーナーで20代前半の朴訥とした青年がマイクをつかむやいなり「猪木さんの発電機は、家庭用には開発しないんですか？」という質問をぶつけやがった。……これ、もしかして仕込み？　だいたい、インフラ設備が充実している日本の家庭に発電機なんて必要ないだろ！

しかし、猫にまたたび、アントンに事業である。アントンはその質問にすぐさま飛びつき、ホッペをつねりたくなるようなドリームプロジェクトをブチあげた。

なんとアントンは現在、CO2が発生しないという夢のバイオ・ディーゼルの開発を手がけており、そして水からエネルギーを生みだすという世紀の大発明の公開実験を、8月下旬に行なうと言明。9月21日現時点でいまだなんの発表もされてないが、気にせずに話を続けると、いずれの発明もアントン自身が直接関わっていないとのこと。

「バイオ・ディーゼルにしても、みんな俺に協力してくれる。本当だったら大変ですよ、権利をもらうだけでも」

……なぜそんな国家事業的規模の計画をアントンに任せるのかよくわからないが、世の中はかくも不思議なことばかりだから、これまた気にせず話を進める。

とにかくアントンのエネルギー発明路線は絶好調で、近々、石油産地国で知られるベネズエラ入りして、なんと大統領と面会する予定。9月21日現時点でこの件に関する報道は何もされてないが、「これは大統領の側近と直で進めている話なので、ベネズエラ大使館に問い合わせてもわからねえです」ということだったので、問い合わせても無駄。きっと公にはできない会見だったに違いない！

おまけにアントンったら「じつはベネズエラ大統領がモーターに興味を示している」と豪語。いずれの発明も、石油国家としては非常に邪魔な代物のはずだが……まあ、世の中はかくも不思議なことばかりだから、気にせず話を強引に締めると、どうやらアントンは、韓国の総合格闘技団体WXFの11月24日ソウル大会でアリ戦30周年イベントを行なう計画があるらしい。この大会が『GENOME』に相当するのかどうかは知らないが、ここ数ヶ月、我々を楽しませてくれている"延期アングル"はまだ続きそう。

「さあ、今月の『GENOME』は、はたしてやるのでしょうか？」

どうせなら、来年のいま頃までこの調子でやってくれ!! ダー！（ヨダレ）。

（ジャン斉藤）

ゲノム炸裂！ マンスリーアントン

『GENOME』延期はモハメド・アリが来ないから！

パーキンソン病のモハメド・アリの容態が不安定なため10月の来日は不可能と代理人から連絡。したがって、大会延期！　つーことで、"破綻系興行マニア"には朗報！　なぜなら破綻興行の肝の一つには"遠足は出かける前が最大のクライマックス"というべき醍醐味がある。まだまだ一寸先はハプニングが続くかと思うと、よくやった！　という結論に落ち着くのだ。ちなみにアリの愛娘レイラはおおむね決定している。"おおむね"ね……。ダー！

アントン愛娘・猪木寛子さん、『東京スポーツ』に登場！

アントンの娘にしてサイモン社長夫人の寛子さん（37歳）が、9月16日付の『東京スポーツ』に登場！　『GENOME』でアリの愛娘レイラ・アリとの対戦が"予定"されている寛子さんは、LA道場で毎日キックボクシングの練習を欠かさず、「男を相手に総合格闘技の練習って難しい」とすでに臨戦態勢であることを匂わせた。ただし、出場条件として、なかなかふくよかな顔立ちの寛子さんは、「人前で水着姿で闘うのはイヤ」ということらしいです。

"熱海ファッション"実現!? アントンと山本寛斎と合体ダー！

快守氏の選挙公約の一つ（？）だった熱海原宿化計画、その名も"熱海ファッション"！　デザイナーの山本寛斎氏に協力を仰ぐ旨の発言をしていたが、一足先にアントンが合体！　山本氏が監督する舞台「太陽の船」（日時は各自調査）で、"裸の王様"……もとい、全然違う。「祭りの国の王」を演じることになった。「え～、こう言うように言われたんですが、忘れてしまいました!!」。台本の覚えなさに定評があるだけに、非常に楽しみだ！

こんな時期に行きますかーッ!? アントン、北朝鮮を訪問！

テポドンにはアントン!?　ただいま日朝間は北朝鮮のテポドン発射で緊張感が高まっているが、アントンはズバリ気にしねえで北朝鮮入り！　8月21日～26日まで滞在し、武道競技大会を視察した。帰国後の会見では「スポーツ交流を閉ざしたら、交流の手だては残らない」とコメント。現WBC女子世界王者を北朝鮮から招聘して、レイラ・アリと対戦させるプランをブチあげた。階級差はあるようだが、アントンのことだからどうでもいいんだよ！

ブッチギリの最下位！　されど、選挙の命運をわけた猪木快守！

9月10日に行なわれた熱海市長選は、奇しくも同日の『PRIDE無差別級GP』と同じ4名で争われた。即日開票の結果、7216票を獲得した斉藤栄氏が当選。次点は7154票で現職の川口市雄氏、三位の鶴沢精一氏は6111票と続き、我らが快守氏は711票！　……ブッチギリの最下位になってしまったあげく、当選次点がわずか64票差だったので、何か余計ことをしてしまった感もある。転んでもタダでは起きない。熱海を本当に変えてしまった!?

衝撃！　レッスルエキスポに電機待望論が勃発していた！

メインの電流爆破デスマッチで被爆した際に、なぜかブレーカーがダウン！　会場の照明が落ちた。こんなときに永久電機があったらなあと誰もが思わずにいられないハプニングだった。写真はモーターの復旧に勤しむ関係者たち。

新日本プロレス"系"凸凹大学校

講師
3年G組
金沢先生

かなざわ・かつひこ■『週刊ゴング』の名物編集長として活躍後、フリーライターとして絶賛活動中。新日系レスラーからの信頼度は絶大！ な凸凹大学校特別講師。

生徒
プロレス超初心者
松下ミワ

まつした・みわ■『PRIDE』やダン・ヘンダーソンなどの豊富な知識を誇るも、プロレスにはまだまだからっきしのプロレス超初心者。凸凹大学校に強制入学！

「"人"と言う字は互いに支え合ってます！」（黒板を叩きながら）と、今回は金沢先生がフリートーク形式で新日本"系"の疑問難問を"プロレス初心者"松下ミワにレクチャー三昧!!

用務員／ジャン斉藤　構成／真下義之

今回はフリートーク形式でお届け!!

教えて!! ビッグマウス・ラウド!!

ミワ　GK先生！ 今回の授業はフリーテーマということで、初めはビッグマウス・ラウド（以下BML）についてお願いします！

GK　（冷静に）BMLは新日本プロレスじゃないでしょ。連載の看板に偽りありだよ。

——まあ、"新日本系"ということで（笑）。最近の詳しい流れは別枠で解説するとして、いつの間にか大変なことになってますね。

GK　大変なことになってるよ！ 今日も朝の5時半に上井さんから電話があったばかりだし（笑）。「新日本時代、いろんなことをやってきましたね」っていう話をしてねえ……。

ミワ　……なんか意味深な電話ですね。

GK　そんなことより、ミワちゃんはBMLを観たことある？

ミワ　……ないです。

GK　本当にプロレスを知らないね、この子は。

ミワ　う～ん。ないかもしれない。

——観たことあるかどうかもわかんないくらい印象がない、と（笑）。

GK　かつてスーパーバイザーとして前田日明がいたことは知ってるでしょ？

ミワ　はい。知ってます！ ……なんか怖い人ですよね？

GK　そう、なんか怖い人（笑）。さらにそこに船木誠勝までいたことも知ってる？

ミワ　はい。船木さんは、○っ○人。

GK　なんてこと言うんだよ！（笑）。

ミワ　（無視して）「復活する」とか言って、復活しなかったんですよね。

GK　本当は復活する予定だったの。でも内部の衝突やいろんなことがあって、お預けになって、前田がBMLを離れると同時に立ち消えになっちゃった。

ミワ　前田さんはどうしてBMLから離れていったんですか？

GK　それは上井さんとのプロレス観をめぐる衝突があったから。じつは村上（和成）社長のBMLと前田日明の付き合いはまだ続いてるんだよ。最近、BMLからフリーになった柴田勝頼も船木と練習してるしね。

ミワ　へえ～。複雑な関係なんですね。

GK　で、今回、上井さんと村上がこうなっちゃったのは単なる内輪揉めですよ。人間関係が壊れてきたことプラス、お金だよね。それは何かが壊れるときのごく一般的な話。もちろん双方に言い分があるわけで、村上サイドが「上井さんに重大な裏切り行為があった」と言ってるけども上井さんにしてみれば「自分にはやましいことは一点もない」ということになる。上井さんは「まず外部に対する支払いをきちんとしなければならない」というのが言い分だったんでしょ。でもBMLからすれば「内部をまずちゃんとしてくれ」「専属の選手がちゃんとギャラをもらえないのはよくない」と。村上は、BMLの社長という立場として、選手のために愛車まで処分したという話があるぐらいだから。車が趣味の人間がね。

ミワ　そ、そこまでしたんですか……。

GK　それに村上はまだ現役バリバリなのに、社長という地位に就いたら、どうしても一歩引かなきゃいけないわけだから。村上はレスラーとしてまだやりたいことはあったと思うんだよね。

ミワ　これからいったいどうなるんでし

BML空中分解までの流れ

2006年

2月26日　BML徳島大会にて、前田日明と船木誠勝がリング上でBMLと決別宣言。

3月13日　上井氏は3月19日新日本プロレス両国大会で予定されていた柴田勝頼vs棚橋弘至戦を一方的にキャンセル。

4月19日　BML後楽園大会のカードを全試合当日発表にして開催。

6月30日　BML最高顧問でもある和田友良氏が児童買春容疑で逮捕。

8月20日　BML後楽園大会に絶縁中の新日本から永田裕志が緊急参戦。上井氏はブードゥー・マーダーズに急襲、救出に訪れた柴田と試合後ガッチリ握手。

8月21日　柴田勝頼がBML退団を正式発表し、フリー転向を表明。

8月22日　『内外タイムズ』紙上にて、村上和成BML社長が「BML内部で重大な裏切り行為があった」と上井氏を告発。実質上の分裂が明らかに。

9月13日　上井氏が会見を開き、10月8日に自身がプロデュースする『UWAI STATION』後楽園大会開催を発表。

BMLの上井語録

2005年

- （前田日明を会見に引っ張り出したことに関して）「僕は勝手に僕のスーパーバイザーだと思ってます」（1月22日上井文彦新団体設立記者会見）
- 「前田日明の思うプロレスと僕の思うプロレスが違っていたら、前田日明がそこからいなくなるかも（笑）」（『週刊ファイト』2月2日号）
- （『WRESTLE-1』に関して）「ワールドワイドに展開したいというのがありましたので、FEGの谷川社長に『WRESTLE-1』という私の大好きな名前を貸してくださいとお願いした」
- 「私がやる『WRESTLE-1』は殺伐としたリングで、そこに精神のガチンコがある」（以上、3月1日『HERO'S』発表記者会見）
- 「トーナメントをやると言った時点で、私の感覚ではWWEを超えたと思ってます」（6月27日『WRESTLE-1』会見）
- 「マスカラスさんが出た時点で涙が出そうでした」（8月24日『WRESTLE-1』開幕戦）
- 「（入場式でUWFのテーマで入場し、大上井コールを送られて）胸が詰まって何も言えません……」（9月11日『BML』旗揚げ戦）
- 「ウチには前田日明という怖い存在がいます。前田日明がいるなら行きたくないという選手もいました」（12月29日『BML』後楽園大会）

前田日明がBMLにいたことは知ってるよね？（GK）

知ってます！……なんか怖い人ですよね？（ミワ）

ょうか？

GK 10月8日の後楽園ホールはもう押さえてあって、上井さんはもう使用料も払ってるから。BMLとは別のかたちで上井さんが興行をやることになる。

ミワ う〜ん。できるんですか？

GK BML勢は「出ない」と言ってる。柴田と上井さんはある程度の信頼関係で続いているから、「たとえ柴田対誰かの一試合だけしか組めなくて、お客さんが俺一人でもやる！」と言ってるよ。

——こうなったら、ボクは上井さんのプロレスデビューがぜひ観たいんですね！ そんじょそこらのプロレスラーよりもおもしろいですよ、きっと。

GK なんせ新日本で中西学vs村上和成の乱闘が大阪府立体育会館の売店までなだれ込んだとき、若手が誰も抑えられないから、上井さんがアメフトタックルで治めたという伝説があるからね（笑）。

ミワ 上井さんって、激しい人ですよね（笑）。

GK 情熱に駆られて、後先考えないで動いちゃう人。ただ、波風立てながらもちゃんと何かをしてきた人。

——第一回『HERO'S』のプロデューサーやW-1をやっていたときは、なぜかそのブルドーザーぶりがなりを潜めていましたけど、ここにきて凄いパワーを放出してますよね（笑）。

GK なにしろ新日本プロレスのリングで総合格闘技の試合をやっちゃった人だから。

ミワ え？ ホントですか!?

GK 本当ですよ（笑）。03年の5月2日東京ドームで「アルティメットクラッシュ」という大会をやったわけ。総合格闘技とプロレスの試合を半分ぐらいずつやってね。最初はみんな「うまくいかないだろうな」と思ってたけど、総合はちゃんとルールを作って、レフェリングもしっかりできて成功に終わったんだよ。ジョシュ（・バーネット）が日本で初めて総合をやったのも、この大会。

ミワ へえ〜。上井さんって凄い人なんですね！

GK その当時のジョシュはいくらUFCの元チャンピオンという肩書きがあっても、しょせん〝ボブ・サップの調教師〟という立場や、プロレスが大好きなぐらいの売りしかなかったわけだから。

——最近どこかで「新日本はジョシュの使い方を誤った」というテキストを読みましたけど、いまのジョシュは新日本時代があったからこそ〝溜め〟が効いて幻想なり価値が膨らんだと思うんですよね。

GK それはもちろんあるだろうね。

——上井さん以外はどこもジョシュに興味を示してなかったし、それに新日本を経由しなかったら、『PRIDE』でいきなりミルコ戦は実現してなかったと思うんですよ。新日本所属時代は〝無駄な時間だった〟とか書かれたりしたけど、ブレイクへの助走距離だったんですよ。

GK ジョシュには新日本プロレスというブランドが多少なりともあったからね。ハッキリ言えば、ジョシュは新日本の〝幽霊部員〟みたいなものだったんだけど、パンクラスで近藤有己に勝ったときも「新日本を背負って」という部分があったし。あのときセコンドに付いた中西は、まるで自分が勝ったかのように、ライオンマークのフラッグをパンクラスのリング上で広げてさ（笑）。

ミワ じゃあ〝中西ランド〟だったんですね（笑）。

GK そうですよ（笑）。だいたいあの橋本真也の合同葬のときも、用意されたリングに上がってIWGPのベルトを自分がチャンピオンのごとくかざしてたんだから。

ミワ そ、そんなときまで〝中西ランド〟だったんですか（笑）。

GK あの偉大な橋本真也の合同葬でさえ〝中西ランド〟にしてしまったという、その常人には計り知れない感覚を『レッスルランドはうまく使っているわけ』（笑）。話を上井さんに戻すと、次の後楽園ホールは不安であり、いったい何をやるのかも楽しみでもあるね。

努力、友情、勝利？　上井氏は8月20日BML後楽園大会の柴田vsTARU戦でブードゥー・マーダーズに3人がかりで急襲され暴行三昧、そこを柴田が救出、ガッチリ握手した……ものの、翌日に柴田はBML離脱！　そりゃないよ！

BMLの前田語録

2006年

● （前田日明にリング上から決別宣言されて）「1・4（新日本ドーム）が終わって前田さんの留守電を聞いた時点から、こうなることは覚悟してました」

● 「スーパーUWFはできなかったけど、僕はプロレス界の調和を考えて、盛り上げていきたいと思ってる」（以上、2月26日『BML』徳島大会）

● 「これからは〝必死のプロレス〟をやっていく」（3月23日『BML』後楽園大会）

● 「チケットを売ろうとしたんですけど、自分一人でやっているんで、間に合いませんでした（苦笑）」

● 「旗揚げから一年経っても、自前の道場もレフェリーもない。増えたのは臼田君と原だけ。それはすべて僕の責任です」（以上、8月20日『BML』後楽園大会）

● 「最悪、僕が試合します」（以上、9月14日『UWAI STATION』記者会見にて）

2005年

● 「歳を取るたびに恨みが増してくる」

● 「永田なんかよせばいいのになんの準備もなくヒョードルとやって、怖いんだったらやめとけって」

● 「自分は選手を育てる気はありません」（以上、1月22日上井文彦新団体設立記者会見）

● 「WWEは否定しないけど、日本人がやると老人ホームの学芸会」

● 「猪木さんが夢見たりハッタリで言ったりしたことは全部俺が実現したよ」

● 「なんかあのオッサン（ターザン山本！）、60近いくせにインターネットで若い女の子と付き合ってるとか、ラブレターをアップしたりしてるんでしょ？　みっともない」

● 「もうなんちゃってプロレスはいいよ。俺もそんなに長く関わるつもりもないし」（以上、『週刊ゴング』1061号）

● 「ヒーローズやなかったっけ？」（3月1日『HERO'S』発表記者会見）

● （試合を観覧して）「ここには意地も誇りもない」

● 「俺がここのブッカーやったら、第一試合であんなんやったらホントにリング上でちょっとやっちゃいますね」（4月16日『リキプロ』後楽園大会）

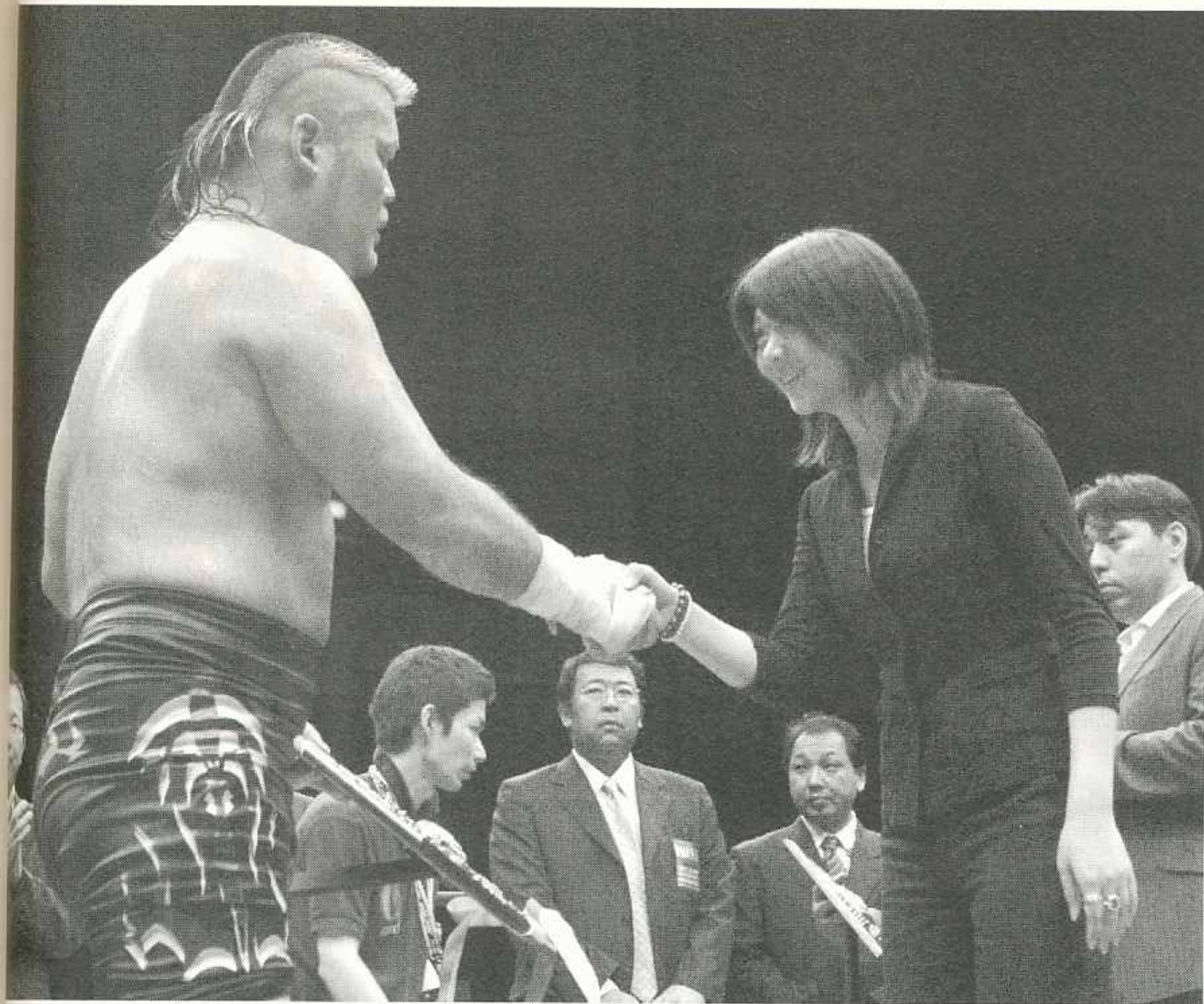
● 「来年から自分たちの同志となってやる、中心人物を紹介します。船木誠勝選手です！」（以上、9月11日、『BML』旗揚げ戦）

● 「プロレス界だけでなくそこから一歩も出れなかったビッグマウスにも相当ガッカリしました」

● 「（新日本1・4東京ドーム大会の柴田と村上の試合を観て）相手の腕を折るとかそういうことをさせるつもりはない。ノーコンテストで帰ってこいと。そしたら二人ともプロレスやってたんで」

● 「僕は元々いた場所に帰るだけですよ」（以上、2月26日、BML徳島大会）

まだまだ続くGK劇場

教えて!! 今後の新日本プロレスと『INOKI GENOME』

G1優勝者の授与式という伝統的舞台になぜか『kamipro』代表でちゃっかり登板した生徒・松下ミワ。場違い感を放ちつつも堂々と記念品授与！ でもやっぱりハッスルポーズは不発！

ミワ そういえば、先生！ わたし、G1の優勝表彰式に『kamipro』代表としてリングに上がったんですよ。

GK 上がってたね。ステキに見えたよ。

ミワ ホントですか？（笑）。ありがとうございます！

GK あのむさ苦しいオッサンたちのなかに一輪の花とはこのことをいうのか、みたいなさ（笑）。

ミワ でも、優勝した天山選手にトロフィーを渡したとき、「kamipro」じゃなくて「ダブルクロス」というアナウンスだったんです。

GK それじゃ『kamipro』だってわからないよな。「"あの"『kamipro』」とか言ってほしかったね（笑）。で、初めてリングに上がった感想は？

ミワ スポットが凄くて全然周りが見えなかったので、「選手はお客さんのこと見えてるのかな？」って疑問に思いました。

GK 見えてるはずだよ。周りが見えなかったのなら、きっと緊張してたんだよ。

ミワ う～ん。そうでもなかったんですけど。

——「ハッスルポーズをやれ！」って、さんざん言い聞かせてたんですけどね（笑）。

ミワ できません（冷たく）。

GK まあ、恥ずかしいもんだよ、リングの上は。だって四方八方から見られてる恥ずかしさだからね。舞台であれば前しか見られないけど。天山になんか言われた？

ミワ いや、「おめでとうございます！」って言ったんですけど、何も言われませんでした（笑）。

GK たぶん涙をこらえてたんだよ。泣いたら奥さんに怒られるから。「アンタ、優勝しても泣かないでね、みっともないから」って言われたらしい（笑）。

ミワ 見かけからは想像もつかないですね（笑）。

GK それで今年のG1をマジメに総括すると、出場選手が頑張ったことがすべてだよね。始まる前は、「ヘタしたら今年でG1は終わるかな」という危惧があったなか、予想を覆して内容がよかった。だから選手に救われた大会だったんだけど、それはあくまでも新日本プロレス内の話であって、外に広がるほどのものではなかったというね。ミワちゃんは、印象に残った選手とか、印象に残った試合はある？

ミワ 全日本プロレスの小島聡選手が印象に残りました。凄く盛り上げて、パフォーマンスが抜き出てたっていう感じがします。

GK だからこれがファンよりも"プロレス素人"の記者に伝わったということは、小島がやっぱり間違いなく、一つ抜けてたということなんだよね。じゃあ具体的に小島の何が素晴らしいかというと、いつもお客さんを肌で感じてるよね。そして、まず間の取り方が素晴らしい。

ミワ 間の取り方？ う～ん。

GK 間を取ってるとき、小島がやってることは何かというと、まず休んでる。息を整えて、次の展開を考えてる。そして表情を作ってる。でも、ここのどこかで相手の表情を必ず見てる。相手に背中を見せてるときにも、必ず相手の動きを見てる。で、技を決めるときにはリングの真ん中で決める。相手の技を全部引き出す、そして受ける。で、最後の一発として、ラリアットがあるよね。

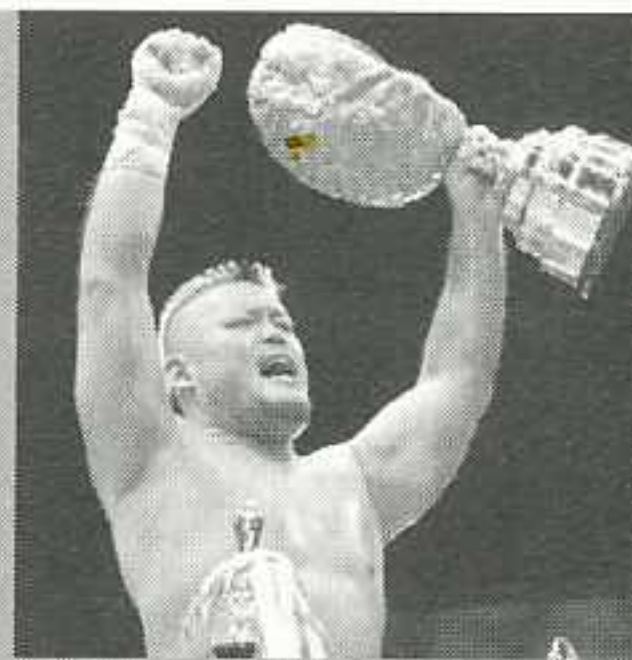
ミワ ラリアット？ う～ん。

——腕で相手の首をバーンと打つ技。

ミワ あ～、バ～ンと打つ技（笑）。

GK ついでに聞くけど、ラリアットというのは、日本語にするとどういう意味ですか？

ミワ あ、英語なんですか？（汗）。

GK 日本語じゃないよね、あきらかに（笑）。ラリアットっていうのは"投げ縄"のことなの。カウボーイが牛の首に引っかけて捕まえる、あの投げ縄のこと。

すっかり秋ですが……

2006年 G1の思い出

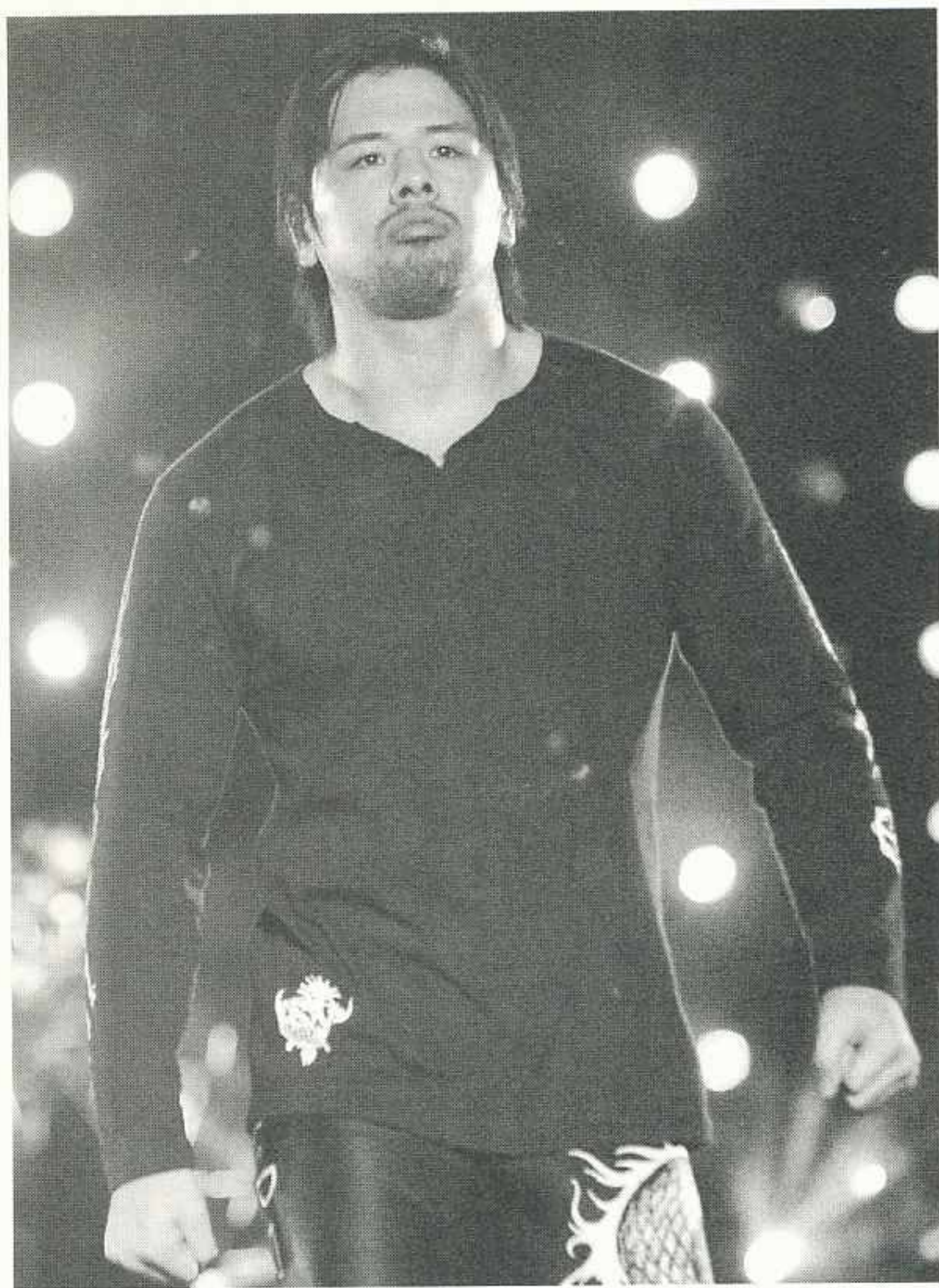
金沢先生の感想

大会前には、「G1伝説も今年で終焉か!?」と関係者のあいだでヒソヒソ話も。ところがどっこい、選手が頑張った。中でも最も責任感とプレッシャーを背負っていたのが、じつは小島聡だったというのは皮肉な話。ただ、たった一人の"外敵"として新日マットに凱旋する以上、それは小島に課せられた宿命。

その期待に応え、ワンランク上の実力と試合を披露したのだから、立派だった。優勝した天山は、とくにプレッシャーもなし。無欲のタナボタ優勝という感じか。タナボタといえば、棚橋の試合内容は良かった。落ち込む必要なし。また、バーナードはレスナーより50倍仕事のできる男だった。しかしながら、本当の意味で新日本vs全日本を象徴するカード、永田vs小島戦が実現しなかったのが唯一の心残りといえるかもしれない。

松下ミワの感想

初めて観戦しました、G1クライマックス！ 私の知らない世界で毎年こんなことが行なわれていたんですねえ。両国大会は二日間とも観戦したんですけど、授業でも述べたとおりやっぱり両日とも小島聡選手の勢いが凄いなあと思いました。あっ、でも小島選手は全日本の人なんですよね！ う～ん、ま、いっか!! あと、授賞式では恐縮にも天山選手に勝利者賞を渡させていただいたんですけど……、あとで考えたら、やっぱり何か永田さんボーズのようなものをやったほうがよかったのかなあと思いました。もし来年もあるならば、今度は永田さんとか、バーナー道とかにも渡したいですね！ あっ、"あるならば"っていうのは"授与するチャンスが"ってことですよ!!

中邑に関して、新日内部の歯車が噛み合ってないよね（GK）
ハア……あってませんか（生返事）（ミワ）

ミワ　勉強になります！
GK　だけど、このラリアットっていう言葉は、一般ではもうクローズラインになってきてるの。
ミワ　クローズライン？　……勉強になりますっ！（とりあえず生返事）。
GK　ところで、両国国技館には初めて行ったんだよね。どうだった？
ミワ　え～っと、「いい会場だな」とは思いましたけど、マス席が座りにくいですよねぇ。なんか嫌だったから、3階席から観てました。
GK　マス席は嫌？
ミワ　なんか馴染まないんですよね。あと相席というのも嫌でしたね。
GK　ああ、そういう個人的な問題ね。
ミワ　個人的でした？　現代人の問題かと思ってましたけど（笑）。
――隣の住民に挨拶もしないような現代人の現象。そういう問題提起がなされるとは、G1も捨てたもんじゃないね（笑）。
GK　だからマス席に知らない人と座ることによって、そこに何か連帯感が生まれる可能性だってあるわけじゃない。はからずも同じ選手を応援してるときに連帯感が生まれちゃったりとかね。もしかしたらそこで恋が芽生えることもあるかもしれないし。
ミワ　はあ（笑）。
GK　まあ、10月も両国大会だから、次はマス席観戦の感想を聞こう！　どんなファンと相席になったとか（笑）。
ミワ　その前に日本武道館で『INOKI GENOME』はないんですか？（このインタビューは"延期"発表前の収録）。
GK　いや、『GENOME』はないから。どうやら延期になるみたいだから。
ミワ　え？　またやらないんですか！　アハハハハ！
GK　笑いごとじゃないんだよ！（笑）。
ミワ　すいません（笑）。延期ということは、仕切り直してやるんですよね？
GK　まあ、延期と中止は一緒だからね（笑）。チケットも一般発売はしてないんでしょ。
――すでに完売したという38万円チケットの行方は気になりますけど（笑）。
ミワ　あの～、これって、新日本がやってるわけじゃないですよね。
GK　うん。まあ、新日本プロレスからすると、「もともと新日本プロレスで会見したのに」ってなっちゃうんだろうけど、新日本プロレスは両国があるから、協力しようにもそれどころじゃない。これが昔の新日本だったら、『GENOME』と両国大会を連動させたはずだし。でもいまはそういう余裕はないからね。たとえばそこに上井さんがいたら、あとさき考えずに「会長、やっちゃいましょう！」って言うだろうね。
――上井さんって、壁が巨大であればあるほど、突破したくなる性分ですよね。
GK　それによって迷惑しちゃう人もいっぱいいるんだろうけど、そうなっちゃうのが上井さんだから。
――で、『GENOME』はともかく、新日本の両国はうまくいきそうなんですか？
GK　まあ、ピンチはピンチでしょう。新日本プロレスはいつも一大事ですけど、この一大事に一番必要とされる中邑真輔がずっと海外にいるということ自体も、こりゃあ一大事ですよ（笑）。ジミー鈴木のインタビューを受けてる場合じゃないだろっていうね。
ミワ　中邑選手は向こうで練習はしてるんですか？
GK　練習はしてるでしょ。ただ、身体作りは必要なのかもしれないけども、試合をしてないから、なんのために海外に行ってるのか、いまいちわからないよね。中邑にとって本当に必要なのは試合の経験だから。もちろんG1出場という話もあっただろうけど、それも先送りにされて。それで今回の両国って言われても……ちょっと歯車があってないよね（そのあと、中邑の10・9両国凱旋が決定）。
ミワ　ハア……あってませんか（生返事）。
GK　日本に帰す時期をめぐって、内部で意見が割れてるんじゃないかな。もともとはブロック・レスナーからベルトを取り返すために海外に行かせたわけだから。それがレスナーはどっかへ行っちゃったし。たとえいますぐに中邑を棚橋に挑戦させて勝ったところで、昔の繰り返しに少しのプラスアルファぐらいの効果しかないわけじゃん。
ミワ　プラスアルファ（飽きてきたのか無駄なオウム返し）。
――海外武者修行が活かされる展開を用意してほしいですよね。
GK　うん、やっぱりそれはちゃんとしてあげないと。ユークスは中邑真輔でいきたいと思ってるわけだから。いま強く言いたいのは、プロレスラーやプロレス界も鈴木みのるを見ろ！　と言いたいね。鈴木みのるから勉強しなさいと。あと（和田）京平さんの涙にもね（笑）。
ミワ　京平さんの涙？
GK　京平さんは知ってる？
ミワ　わかんないです（キッパリ）。
GK　レフェリーだよ、名物レフェリー。リングアナの「レフェリー、和田京平」のコールのあとに「キョーヘイ！」の大コールが起きる人。
ミワ　……その人は人気者なんですか？
GK　人気者だよ（笑）。京平さんの涙というのは、鈴木みのるが三冠を獲ったときに……その試合はまさか知ってるよね？
ミワ　……あの～、そろそろ終了の時間ですから、このへんで！（汗）。
GK　う～ん。学力低下が甚だしい！
――シュプレヒコールの波～、通りすぎてゆぅく～♪　……このままだと"腐ったミワの方程式"になりかねないですね（笑）。
GK　罰の居残り学習として、次回は某所での実地見学で猛勉強!!

［金沢先生　今月の通信簿］

'（ダッシュ）（よくできました）

松下ミワのコメント

「学力低下が甚だしい！」と叱られて脱走しようと思ったけど、ん？　フタを開けてみたら、「'よくできました」じゃないですか――！　はっはっは!!　しかし、BMLのところなんか、自分でお題を投げておいてまったく話についていけなかったけど、あれで大丈夫だったのかな（悩）。それにしても最近の先生、いっそう厳しくなった気がする。先生の気を散らすためにそろそろ新入生とか入ってきてくれないかな。すっごい出来の悪い人がいいな！　私くらい!!　キャハハハ！

金沢先生のコメント

う～む、ラリアットを知らない、前田日明もよく知らない、京平さんなんて聞いたこともないってか？　そのくせ「小島選手のパフォーマンスが印象に残った」という。さらに、9・3『レッスルランド』の実地見学が功を奏したか、野人ガスパーの魅力に目覚めた模様。「中西ランド」をおおいに気に入ったのはよろしい。まあ、あんまりスパルタ（※死語だねぇ！）で登校拒否になっても困るから、今回は「'よくできました（ダッシュ）」にしておこう。次は「ホォー!!」と決めるように。

新 卓球少女(似) 松下ミワの ハガキ愛ランド

セレブになりたい人、手ぇ挙げて！　せーの、は〜い!!　………あっそ。ところで、この季節はちょっぴり風邪をひきやすい時期ですね。でもそんなに毛嫌いしないで。風邪だって役に立つこともあるんです。「おまえ、今日も部活さぼる気か!?」「風邪なんです」。ねっ！　それでは今回もはりきっていきましょう。3、2、1、仮病だ、仮病だ、うー、連れ戻せ!!（代わりに私が帰ります）。

kami-pro102号へのお便り紹介

ジョシュの記事は最高！　彼のファンとしては今回のPRIDEに期待を持っている為、大会直前に日本人より日本人的な彼の良さが余す事無く誌面に掲載されてて大変良かった。

【kami-pro　Hand投稿】

⬇優勝はならなかったものの、んもう大健闘！　ありがとう、ジョシュ!!　あなたがいなかったら、ここまでGPはおもしろくならなかったぞ！　ふんがー!!　っというわけで、これは優勝したその日に原稿書いているので大興奮状態でございます。

僕は102号のダン・ヘンダーソンを見て、初めて彼がカッコいいと思いました。写真もビックリするくらいよかったです！　ぜひ『kami-pro』に狩猟の旅一週間密着取材していただきたい。獲物ぶつ切りって凄いなあ……。

【東京都・藤瀬真さん・自営業・35歳】

⬇狩猟の旅密着取材には、ぜひわたくしが立候補させていただきます。コロラドの山奥で野生動物に食い殺されても、「あんたの頭の中はでっかい石しか入ってない」と言われても、幸せだと絶叫できる自信あり。

今回は桜庭争論の特集を読んで「格闘技とTV」について考えさせられました。同じ理由で、堀辺氏の亀田問題に関する記事も興味深く読みました。

【栃木県・稲葉修さん・会社員・34歳】

⬇『HERO'S』といい、亀田試合といい、さらに『PRIDE』といい、今年は格闘技とテレビのあいだが忙しい年ですね。NOAHと新日本は果たして大丈夫なんでしょうか!?

亀田興毅の企画がよかった。マスコミの中で地上波という媒体が大きな力を持つ仕組みがよくわかりました。目覚めたという感覚です！　小泉首相や援助交際と比較されて初めて実感が湧いてきました。亀田選手にはテレビという風がなくなったとしても羽ばたいてほしいと思います。

【茨城県・熊谷新さん・会社員・32歳】

世間を騒がす亀田家に関しては、今号で谷川さんが非常に興味深いことを語ってくださいましたよ。ちなみに男兄弟と言えば、最近、北海道に「前川4兄弟」というのも出現しましたね。次はいったい何人兄弟になるのかな？

前編に続き、平田淳嗣のインタビューはおもしろかった。ドラゴンの「おまえ、平田だろ!?」発言はガチだったんですね！

【青森県・菅原豪浩さん・フリーター・20歳】

⬇101号掲載の前編に引き続き、前号でもロマン溢れる新日話が満載でしたね。ちなみに、わたくし、9月3日のレッスルランドは、ちゃんと「あっ！　あの人はきっと平田さんだ!!」と思いながら観ました。勉強って大切ですねっ！

アントン兄の会見記事。ゲノムっぷりに痺れました。記者さんのシュートな質問に対する受け答えのずれっぷりに、つくづく熱海市民ではない自分の幸運を神に祈らずにはいられません。

【kami-pro　Hand　投稿】

⬇無念！　猪木よしもり、熱海市長選、まさかの落選……。しかも、当選のさいとう栄氏に、なんと約10倍の差がついてしまいました！　やはり、みのもんたに頼りきった選挙活動ではダメでしたか——っ!!

GKの新日本凸凹大学校。プロレスファン歴25年になるが、初心に帰った気持ちにさせてもらえる。新日本以外のネタを含めて、レギュラー化希望。

【kami-pro　Hand投稿】

初心に帰れる人がうらやましい……。

MARSのページは、「オメェはそれでいいや」（アントン調）と言いたくなるほど最高だよ。ただ、ゲノムの道一直線なのに天野氏本人に自覚がまったくないのが残念！

【東京都・寺田純さん・豆腐売り・25歳】

⬇残念ながら（?）、期待の両国大会ではゲノムっぷりはそれほど発揮されず。しかし、ゲノムな自覚がある人は初めからゲノムなことはしないと思うので、天野さんには無自覚のままゲノム道を進んでほしい！

私は会社員時代に新年会で、〝グレートニタに敗れ、控室で「ポーゴ大王様を呼んでやるう！」と叫ぶポーゴ〟のモノマネをやってまったくウケなかった悲しい思い出があるので、RGMにもの凄く仲間意識を感じます。

【北海道・安倍正典さん・フリーター・34歳】

⬇はっきり言って、私にはなんのモノマネだかまったくわかりませんが、RGMに仲間意識を感じるというのは、非常に冷気を感じますね。そのままだと、安倍さんもGM選挙に落選確実ですよ！

UFC特集はなんとなくおもしろかった。これといって目新しい記事はないものの、保守派キャスターとダナの論争を掲載しているところはちょっと興味深かった。

【東京都・後藤昌彦さん・自営業・32歳】

⬇双方の論争は非常にアメリカチックでおもしろかったですね。ちなみに、まったく関係ないのですが、ダナはこぶ平に似ていませんか？

発売日に本屋やで今号の表紙を見て、ジョシュ信者の僕は迷うことなく同じ本を5冊手にし、購入させてもらいました。一冊は読む用として、残りは保存用として大切にしています。ジョシュがメチャクチャ好きで、今回のプレゼントが凄く魅力的なので、まだあと何冊か購入しようと思っています。僕はいま受験勉強の毎日でストレスがたまるのですが、そんなときは『kami-pro』を読んでストレス発散をして気分を高めています。『kami-pro』は僕にとって救世主みたいな存在です。

【兵庫県・田丸克也さん・学生・17歳】

⬇大量購入ありがとうございます。田丸さんはいつもいつもたくさん『kami-pro』を買ってくださいますね。知ってますよ、編集部は。

102号・おもしろかった記事ランキング

順位	記事
1位	ジョシュ・バーネット インタビュー
2位	ダン・ヘンダーソン特集
	平田淳嗣 インタビュー
4位	テレビと世論と亀田興毅
5位	桜庭争論

102号はジョシュがダントツ1位獲得〜！　ジョシュはインタビューするたびに人気が上がっているから凄い!!　そしてそして、第2位に輝いたのは我らがダンヘン!!　同率の平田淳嗣は前編と同じく2位にランクイン。やっぱり「おまえ、平田だろ?」発言が効いたんでしょうか？　4位、5位はエース論、テレビ論を考えさせられる企画が入選。両者とも今度はどんな闘いを繰り広げるのか、要注目ダーッ！

神奈川県・ようちゃんさん

➡素敵なビジュアルで表紙（右隅）まで飾ってくれた永田さん。（株）ナガタロックが繁盛することを祈ります！　読者の皆さまも、新・癒しスポット「enishing（エニシング）」へGO！

埼玉県・稲葉聡さん

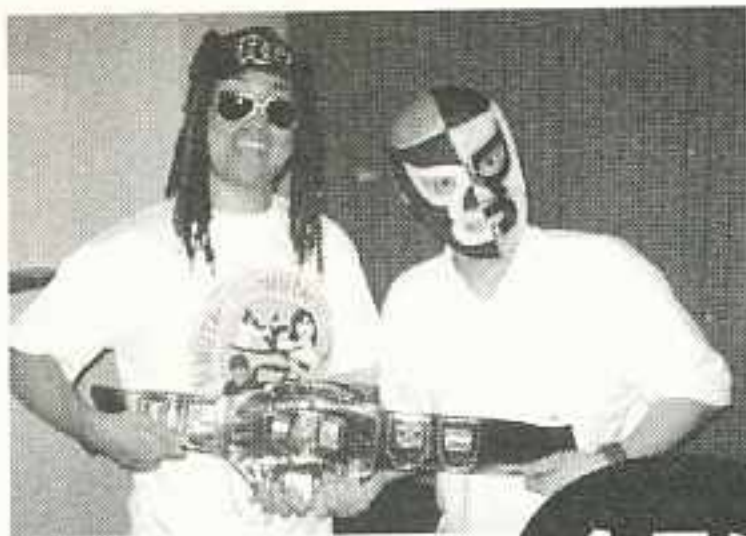
➡バカヤロー!!　っと叫ばずにはいられないくらい素敵イラストをありがとうございます。多く描いても描きすぎることはまったくありませんので、今後もダンのイラストをドシドシ送ってください！

長野県・市川学さん・作家志望・27歳

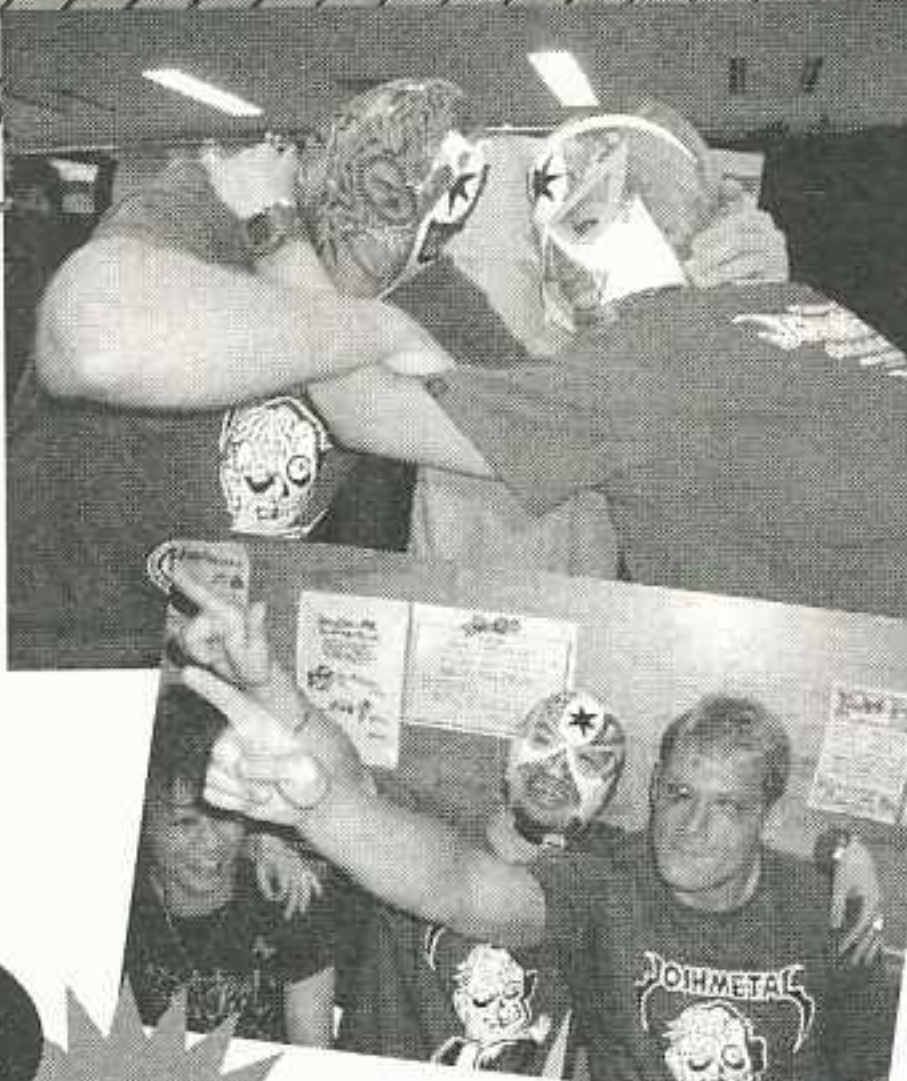
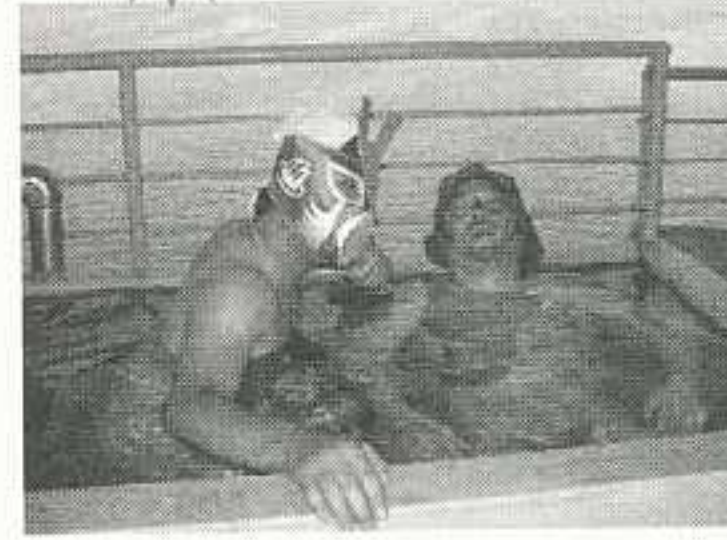
➡「よく考えたら、自分の父親って永田さんに似てるわ」——。そんな素敵なコメントつきでイラストを送ってくれた市川さん、ありがとう！　お父さんを大事にしてください!!

今月は 衝撃ショット!! 3連発!!

GM解任なるも、RG、ピエローJr.（ペイントマン?）と豪遊!?

ハッスルGMを坂田に奪われたにもかかわらず、RGはこんな余裕ぶっこいてていいのかー!! と、叫ばずにはいられない一枚だが、投稿者からはこんなメッセージが……。
「GM解任になったRGが超レア物のサイン入りMUTA・Tシャツを手に入れ、ルチャドールに転身宣言! マスクマンに戻ったピエローJr.（中身はペイントマンとの噂）とタイトルマッチを行なうことになり、某夜、記者会見が行なわれた。勝者には、新日プロ田山レフェリーからメヒコ直輸入のベルト（二人が手にしている高級モノ）が贈呈されるという」
ちなみに、この試合は「カベジェラ・コントラ・マスカラ戦」として行なわれるそうです。設定がムダに細かすぎる!!

蒼い目のケンシロウがなんと! 覆面レスラーに転向!?

なななっ! あのジョシュ・バーネットが覆面被ってロックアップ!! こんな素敵な写真を送ってくれたのは、いつも読プレにグッズを提供してくれているART JUNKIEのカトウさん（写真中のもう一人のマスクマン）です。ジョシュにマスクをプレゼントしたところ、『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』では入らなかったギアが入りまくって大暴れ。ジョシュに足りなかったのは覆面だったのかー!! ちなみに、この写真は9月10日の大会直後に撮影されたもの。ジョシュ、元気すぎです!

～裏切りと肉欲の日々～ 島田二等兵の夏休み

大会当日、オープニングでアッチーらと入場した二等兵だったが、対戦相手のマッドブレイカーズがビキニギャルをリングに上げ夜の接待をほのめかすと即座に裏切り。さすがだ!

バックには海も見える別府の露天風呂で気持ちよさそうに汗を流すと、その後は湯布院の高級旅館でピチピチのコンパニオンに囲まれ、これ以上ない笑顔を浮かべご満悦の二等兵。

ハッスルとレッスルランドが禁断の遭遇!（といっても島田二等兵とつぼ原人が同じリングに上がっただけだが）。きっかけは"大分の英雄"ジ・アッチーが二等兵宛に送った暑中見舞い。ハッスルでの二等兵の活躍ぶりに敬意を表しつつ、自身のハッスル参戦ももくろみ温泉（ギャル付き。しかもレベル高し!）での接待を提案したアッチー。この申し入れに乗り大分までやってきた二等兵は温泉&ギャル相手にハッスル三昧。しかし、翌8月25日に行なわれた大会では相手側の夜の接待の誘いにあっさり寝返った二等兵。観客からの大ブーイングも気にせずセコンドとして試合に介入しまくり最後はズル勝ち。怒りのアッチーは二等兵に接待費請求マッチを要求したが……どうなる?

スクープ! ザ・目撃!!

●先日、八王子のサウナから出てくるドラゴン藤波さんを発見しました。腰をかがめながらゆっくりとサウナから出てきた藤波さんは、「いいサウナだったよ」とご満悦。NHKの「生活ほっとモーニング」に出ているニコニコドラゴンの藤波さんのイメージそのままで、とっても癒されました。
【東京都・小口父さん】

●雨の降る日、格闘技ジム「CORE」を見学しに蒲田に行きました。すると、安田忠夫さんを駅前のローソンで発見! 安田さんはお店から出てくると、異常なまでの早足で電車に乗り去っていってしまいました。ずっと小さなメモを見ながら……。あれはいったいなんだったのでしょうか?
【kamipro Hand投稿】

●こないだ、テレビ番組「ガキの使い」にて、有名な某プロレス雑誌の元・編集長を見ましたが、あれはなんだったのでしょうか? ……おもしろかったですけどね（苦笑）。 【kamipro Hand投稿】

●先日、新宿の東急ハンズに買い物に行ったところ、ヨーコ・ゼッターランドさんと遭遇しました。背が高かったし、日本人離れしたお顔立ちだったので一目でピンッときたものです。興奮のあまり、ゼッターランドさんが何を買おうとしていたのかをチェックせずに取り過ごしてしまいました。『kamipro』には関係ないかとも思い口をつぐもうとも思いましたが、そういえば、ゼッターランドさんは60代最強・草野仁さんの息子さんとご結婚されたということを思い出し、ご報告しました。ゼッターランドさんに子どもが生まれたら、ヒトシ・ゼッターランドとかになるのかなあ～。
【東京都・ボッシュウトさん・27歳】

●昨日、新宿の映画館で『マイアミ・バイス』を観ていたところ、カイヤさんと娘&息子を発見してしまいました。めちゃめちゃモデル体型の女性と、ハリー・ポッターにそっくりな男の子だったので、間違いないと思います! ちなみに、映画の中にドン・フライに激似の人が登場していましたが、あれってドン・フライ本人なのでしょうか? 【東京都・Vシネさん】

中尾"kiss"芳広さんの人生相談

はいは～い。中尾さんの人生相談のコーナーがやってまいりました。今回を含めて4回も相談にのっていただきましたが、じつは! なんと今回が最後ということになってしまいました!!（号泣）。中尾さん、4カ月にわたり、本当にありがとうございました! というわけで、読者のみんな!「そんな相談、自分には関係ないぜ」と決め込まずに、心して中尾さんの名解決法を読もう!!

お悩みごと

福岡県のケンボーさん・24歳から、最後の相談にまったくふさわしくない素朴なご相談。

■昨日、職場の後輩女性社員が長い髪をバッサリ切っていました。みんな気づいてはいるのですが、なんせ、若手の男性ばかりの職場なのでだれも彼女に「髪、切ったね」という言葉をかけません。僕は、「短いのも似合うよ」なんてことを言ってあげたかったのですが、僕だけそんなことを言って、"気がある"なんて思われたらイヤだなって思って何も言いませんでした。でも、女の人ってそういうの気づいてほしいんですよね? やっぱり何かひと言、言ってあげるべきだったんでしょうか? 中尾さんならどうしますか?

中尾

▼……（うつむき加減に）今日はですね、なんというか……、相談にのるのは、さ、さ、最後なんですよお!! 皆さん、知ってましたか!? ボクだって、ボクだって相談したいことがあったのに――!（急に元気になって）キャハハハハ!! そんなこと、無理ですけどね! まあ、『kamipro』では最後ということになりましたが、ボクの心は男性でも、女性でも、常にオープンなので、いつでも相談してください! ……で、最後の相談は、と。なになに? 女性が髪を切ったのに、何も言ってあげられない? 何を言ってるんですかね、この男は。まったく（あきれ顔で）。僕、思うんです。思うんですよ。20代の前半の人たちって、ダメですよねえ。だって、悪いことでもないんだし、ガンガンと迷わずいけよって、そういう感じですよ、ほんっとに。そんなの迷ってること自体がおかしいですよ、って。もう、言っちゃえよ。どんどん言っちゃえよ!! 自分なんか、関係なしに言っちゃいますよ、女性には。男性にも言えるかって? ……それは正直、恥ずかしいかもしれないですねっ!（なぜか自慢げに）。アッハッハッハ～!!

ケンボーさん、中尾さんの渾身の回答を受け止めていただけましたでしょうか? 言っちゃえよ。どんどん言っちゃえよ!! ということだそうです。
※次回からは、人間か、もしくは人間でない人にバトンタッチされる可能性あり! 乞うご期待!!

中尾さんの近況＝『PRIDE無差別級GP2006』でブーイングを浴びちゃいました。新Tシャツよろしく!

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください! ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう! お便り、お待ちしています!

こんな情報お待ちしています!

- ●ザ・目撃!!
- ●おもしろ写真投稿
- ●選手に対するご意見、試合の感想
- ●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
「radical@kamipro.com」
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス kamipro編集部
「あえて名前を出します」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

マット界の日程と情報が、友情パワーでマッスルドッキング!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

もう秋ですね。マット界では馳浩、山笠Z"信介が現役を引退。『週刊ファイト』も休刊してしまい、このページを担当する"プロレスマニア顔を持つ男"GTの元々わずかしかないモチベーションも急降下といったところ。そんなとき、「もしもし、井上です。さっきFAXで原稿送ったんだけども、届いてますか?」という、ファイトの歴史を創ったI編集長からの電話が! これは偶然ではなく、必然だと勝手に思い込むことにしよう! 落ち込んでる場合じゃないぜ!!

Fight & Event September 9

29 FRI.

◆ZERO1-MAX/群馬・館林市民体育館(18:30)
◆マッスル/東京・北沢タウンホール(19:00)
◆下町プロレス/東京・浅草インディーズアリーナ(19:30)
◆仙台ガールズ/宮城・Zepp Sendai(19:00)
◆THE WOMAN&M's Style合同興行/東京・新宿FACE(19:00)

30 SAT.

◆K-1/大阪・大阪城ホール(16:00)
◆全日本/東京・後楽園ホール(18:30)
◆ZERO1-MAX/千葉・幕張新都心特設イベント会場(14:00)
◆みちのく/東京・新宿FACE(18:30)
◆DRAGON GATE/大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:30)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆WMF/東京・新木場1st RING(18:50)
◆マッスル/東京・新木場1st RING(13:00)
◆STYLE-E/東京・西調布格闘技アリーナ(19:00)
◆橋本友彦プロデュース興行/東京・新木場1st RING(25:00)

Fight & Event October 10

1 SUN.

◆パンクラス/大阪・梅田ステラホール(16:30)
◆大日本/東京・晴海埠頭特設リング(15:00)
◆DRAGON GATE/福井・サンドーム福井(18:00)
◆El Dorado/東京・新木場1st RING(18:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆K-DOJO/千葉・Blue Field(13:30)
◆ターザン後藤一派/東京・浅草インディーズアリーナ(17:00)
◆SUN/東京・後楽園ホール(12:00)
◆加藤園子ワンマッチ興行/東京・新宿FACE(19:00)
◆JWP/東京・赤塚公会堂(17:00)
◆修斗/東京・北沢タウンホール(16:00)
◆J-NETWORK/東京・後楽園ホール(17:00)

2 MON.

◆大日本/富山・高岡テクノドーム(18:30)

ーツセンター(18:00)
◆みちのく/岩手・岩手県営体育館(15:00)
◆DRAGON GATE/石川・石川県産業展示館2号館(18:00)
◆DDT/静岡・清水マリンビル(14:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
◆K-DOJO/大阪・デルフィンアリーナ(17:00)
◆EAGLE/栃木・小山市文化センター小ホール(13:00)
◆M's Style/東京・新宿FACE(12:00)
◆NEO/東京・東京キネマ倶楽部(13:00)
◆JWP/東京・東京キネマ倶楽部(17:00)
◆全日本キック/東京・新宿FACE(18:00)

9 MON.

◆ハッスル/愛知・愛知県体育館(17:00)
◆HERO'S/神奈川・横浜アリーナ(17:00)
◆新日本/東京・両国国技館(15:00)
◆ノア/静岡・キラメッセぬまづ(17:00)
◆K-DOJO/東京・後楽園ホール(12:00)
◆大阪プロ/大阪・松下IMPホール(15:00)
◆DRAGON GATE/愛知・津島市文化会館(18:00)
◆DDT/富山・イベントプラザ富山(13:00)
◆RINGⅡ/東京・六本木ヴェルファーレ(19:00)
◆全日本キック/東京・新宿FACE(18:00)

10 TUE.

タイトル懸け、足関十段とグラバカ山崎が激突!
中尾受太郎、松井大二郎も参戦

『DEEP 26th IMPACT』
東京・後楽園ホール(18:30)

主要対戦カード
【DEEPフェザー級タイトルマッチ】
今成正和(王者) vs 山崎剛(挑戦者)
横田一則 vs 小見川道大
中尾受太郎 vs ファブリシオ・"ピットブル"・モンテイロ
松井大二郎 vs フラービオ・モウラ
アンソニー辰治ネツラー vs 水口清吾 他、数試合を予定。
◎問=DEEP事務局 052-339-0303

11 WED.

◆ノア/栃木・宇都宮市体育館(18:30)
◆DDT/東京・新木場1st RING(19:30)

◆ZERO1-MAX/栃木県・那須郡珂川町
【ZERO1-MAX選手と行く日帰り温泉ツアー】
集合場所=JR田町駅芝浦口
内容=ボウリング、バーベキュー、温泉
参加選手=神風、藤田ミノル、崔領二、佐々木義人、高西翔太
参加費=20,000円
定員=20名
◎問=柳寿司 0287-96-3151

4 WED.

◆DDT/東京・新木場1st RING(19:30)
◆MARS/東京・新宿FACE(19:00)

6 FRI.

◆ハッスル/大阪・大阪府立体育会館(19:00)
◆ノア/東京・後楽園ホール(19:00)
◆北都/北海道・佐呂間町旧富武士小学校体育館(19:00)

7 SAT.

◆DRAGON GATE/埼玉・本川越ペペホールアトラス(18:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆K-DOJO/愛知・名古屋市西区ワンダーシティ(18:30)
◆押忍闘夢/埼玉・越谷市バトルスフィア(14:00)
◆静岡/静岡・牧之原市飯室之神社境内(18:30)
◆JDスター/東京・新木場1st RING(18:30)
◆全日本キック/東京・新宿FACE(18:00)

8 SUN.

「僕はプロレスしかできない男です!!」
上井文彦プロデュース興行開催

上井オフィス
『UWAI STATION』
東京・後楽園ホール(12:00)

出場予定選手
柴田勝頼、ドン荒川、木戸修ほか
チケット情報
特別リングサイド=7,000円、
リングサイド=5,000円、指定席=4,000円
プレイガイド
ぴあ 0570-02-9999、後楽園ホール 03-5800-9999
◎問=上井オフィス 03-5766-0079

◆ノア/東京・ディファ有明(18:00)
◆WRESTLE LAND/東京・後楽園ホール(18:30)
◆ZERO-SUN NEXUS/愛知・名古屋市中スポ

22 SUN.

◆新日本／福岡・博多スターレーン（16:00）
◆全日本／滋賀・滋賀県立産業文化交流会館（17:30）
◆ZERO1-MAX／福島・サンピア会津（17:00）
◆DDT／東京・後楽園ホール（12:00）
◆DRAGON GATE／京都・京都KBSホール（17:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（13:00&16:30）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（12:30）
◆新日本キック／東京・後楽園ホール（17:00）
◆MA日本キック／東京・ディファ有明（18:00）
◆みちのく／山形・霞城セントラル西口広場
【プロレスLIVE INぞうさんフリーマーケット】
10:00～16:00 フリーマーケット（出店希望者はzoufuri@yahoo.co.jpまで）
13:30～みちのくプロレス提供3試合、その他プロレス講座や大抽選会、スクワット生き残り大会あり
17:00～市内にてみちプロ選手との交流パーティー 参加費＝3,500円（試合のイス席指定券付）
※小雨決行、大雨の場合はイベント内容変更
◎問＝DEWAロックサービス 023-642-334

23 MON.

◆ノア／宮崎・宮崎県武道館（18:30）

24 TUE.

◆新日本／大分・大分イベントホール（18:30）
◆ノア／長崎・長崎県立総合体育館（18:30）
◆ZERO1-MAX／新潟・長岡市新産体育館（18:30）

25 WED.

◆パンクラス／東京・後楽園ホール（19:00）

26 THU.

◆新日本／宮崎・宮崎県体育館（18:30）
◆全日本／岡山・笠岡市民体育センター（18:30）
◆ノア／愛知・Zepp Nagoya（18:30）

27 FRI.

◆ZERO1-MAX／東京・後楽園ホール（19:00）
◆全日本／山口・新南陽体育館（18:30）
◆ノア／茨城・石岡市運動公園体育館（18:30）
◆ニュー全日本女子／群馬・桐生市民体育館（18:30）
◆極悪同盟自主興行／東京・新宿FACE（18:30）

28 SAT.

◆MARS／東京・両国国技館（17:00）
◆新日本／高知・ウェルサンピア高知（18:00）
◆全日本／福岡・豊前市民体育館（18:30）
◆大日本／北海道・札幌テイセンホール（17:00）
◆DRAGON GATE／島根・松江市くにびきメッセ（17:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（18:30）
◆NKB／東京・後楽園ホール（17:30）

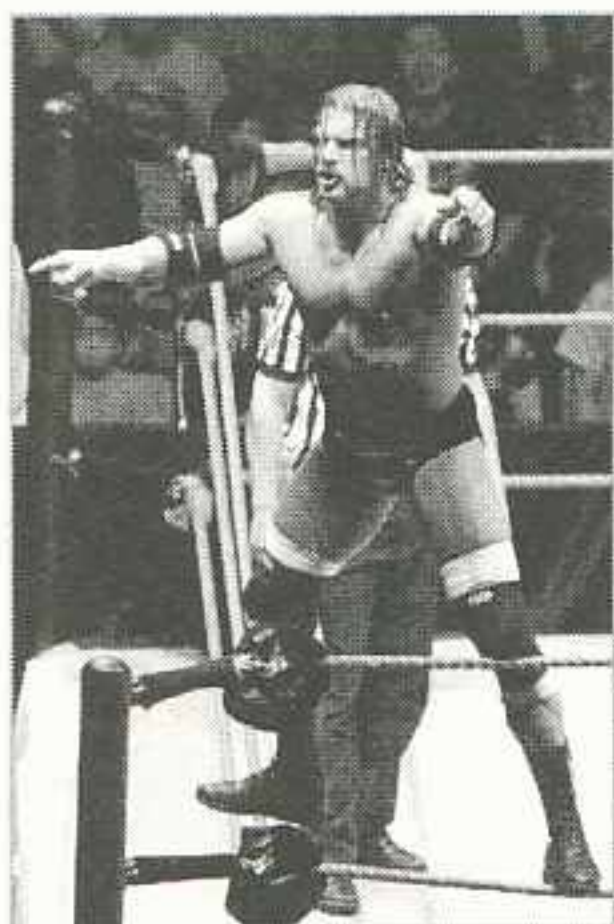
29 SUN.

◆ノア／東京・日本武道館（17:00）
◆新日本／兵庫・神戸ワールド記念ホール（16:00）
◆全日本／福岡・福岡国際センター（17:00）
◆大日本／北海道・札幌テイセンホール（17:00）
◆みちのく／山形・酒田市営体育館（15:00）
◆DRAGON GATE／岡山・卸センターオレンジホール（17:00）
◆DDT／北海道・札幌テイセンホール（13:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆息吹／東京・新木場1st RING（12:30）
◆NEO／神奈川・横浜NEO道場（14:00）
◆R.I.S.E.／東京・ゴールドジム大森（17:30）
◆女祭り（女子キック&ボクシング合同興行）／東京・新宿FACE（17:30）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

◆ZERO1-MAX／宮城・気仙沼市総合体育館サブアリーナ（18:30）
◆DRAGON GATE／栃木・小山市栃木県立県南体育館（18:30）

18 WED.

待たせたな、ジャパニーズ……RAWとECWがやってくる!

『WWE』
東京・日本武道館（18:30）
※18・19日二日間開催

予定対戦カード（※変更の場合あり）
［18日］
トリプルH&ショーン・マイケルズvs エッジwithリタ&ランディ・オートン
ロブ・ヴァン・ダムvsビッグ・ショー
サブゥーvsカート・アングル 他、数試合を予定
［19日］
トリプルH&ショーン・マイケルズvs ビッグ・ショー&カート・アングル
ロブ・ヴァン・ダム vs エッジwithリタ
トミー・ドリーマー&ボールズ・マホーニー vsスピリットスクワッド 他、数試合を予定
その他、ジェフ・ハーディー、ウマガ、カリート、CMパンク、サンドマン、マイク・ノックスらも出場予定
チケット情報（両日ともに）
SS席＝20,000円、S席＝15,000円、A席＝10,000円、B席＝5,000円、C席＝3,000円
◎問＝キョードー東京 03-3498-9999

◆新日本／福岡・北九州市小倉北体育館（19:00）
◆ノア／愛媛・アイテムえひめ（18:30）
◆ZERO1-MAX／青森・むつ市民体育館（18:30）
◆DRAGON GATE／栃木・宇都宮市栃木県総合文化センター（18:30）

19 THU.

◆新日本／長崎・長崎県立総合体育館（18:30）
◆全日本／長野・飯田市勤労体育センター（18:30）
◆ZERO1-MAX／岩手・岩手県営体育館（18:30）
◆NEO／東京・板橋グリーンホール（19:00）

20 FRI.

◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール（18:30）
◆全日本／静岡・グランシップ静岡（18:30）
◆ノア／広島・広島グリーンアリーナ（18:30）
◆ZERO1-MAX／山形・東根市民体育館（18:30）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（18:30）

21 SAT.

◆PRIDE／米国・ラスベガス／トーマス&マックセンター
◆WRESTLE LAND／福岡・アクロス福岡（18:00）
◆全日本／大阪・大阪府立体育館第2競技場（18:00）
◆アパッチプロレス軍／東京・新木場1st RING（19:00）
◆ノア／福岡・久留米リサーチパーク（18:00）
◆ZERO1-MAX／青森・弘前市河西体育センター（18:00）
◆DRAGON GATE／愛知・豊橋市総合体育館第2競技場（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆華☆激／福岡・さざんぴあ博多多目的ホール（18:30）

12 THU.

◆ZERO1-MAX／宮城・仙台サンプラザホール（19:00）
◆北都／北海道・猿払村農村環境改善センター（18:30）

13 FRI.

◆ノア／大阪・大阪府立体育会館（18:00）
◆大日本／東京・後楽園ホール（19:00）
◆DRAGON GATE／広島・広島グリーンアリーナ（18:30）

14 SAT.

修斗がパシフィコ横浜に初進出! マモルとBJが再戦、川尻も里帰り

クリムゾン『修斗』
神奈川・パシフィコ横浜国立大ホール（16:00）

主要対戦カード
【修斗世界バンタム級選手権 5分3ラウンド】
マモルvsBJ
【ウェルター級 5分3R】
中蔵隆志vs天突頑丈
【2006年新人王決定トーナメント決勝 ライト級 5分2R】
ウィッキー聡生 vs 石澤大介
【2006年新人王決定トーナメント準決勝ミドル級 5分2R】
新美吉太郎 vs 小西"獅子"優樹
他、数試合を予定
その他、川尻達也、リオン武、松根良太の出場を予定
◎問＝サステイン 03-5725-7338

◆DRAGON GATE／香川・善通寺市民体育館（18:30）
◆東海／愛知・名古屋市中区大須商店街特設リング（12:00&14:00&16:00）
◆北都／北海道・札幌市すみかわ地区センター（13:00）
◆NEO／東京・小松川さくらホール（15:00）
◆JDスター／宮城・石巻市総合体育館（19:00）
◆U-Zeal／東京・西調布格闘技アリーナ（19:00）
◆UFC64／米国・ラスベガス／マンダレイベイ・イベントセンター

15 SUN.

◆全日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆新日本／愛知・西尾市錦城体育館（16:00）
◆ノア／三重・四日市オーストラリア記念館（17:00）
◆ZERO-SUN NEXUS／新潟・新潟フェイズ（17:00）
◆WMF／大阪・デルフィンアリーナ（17:30）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（13:00&16:30）
◆東海／愛知・名古屋市中区大須商店街特設リング（12:00&14:00&16:00）
◆北都／北海道・三笠市スポーツセンター（12:00）
◆NJKF／東京・後楽園ホール（11:00）

16 MON.

◆新日本／鳥取・鳥取県立倉吉体育文化会館（18:30）

17TUE.

◆新日本／島根・松江市くにびきメッセ（18:30）
◆全日本／福井・福井市体育館（18:30）
◆ノア／岡山・卸センターオレンジホール（18:30）

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘
03-3524-1071
〒104-0061 東京都中央区銀座4-14-17渡辺ビル4F JNT事務局内
http://www.gtkn.com

■キングスロード
03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区六本木7-5-11-605
http://www.kings-road.jp

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom

■新日本プロレス
03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏会館 075-352-3109
〒600-8216 京都市下京区東塩小路町600-38-101
http://www.seikenshinkageryu.com

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■ドリームステージエンターテインメント
03-5464-1531（PRIDE）
03-5464-1731（ハッスル）
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com
http://www.hustlehustle.com

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリングSUN
ZERO1-MAXと同じ
nanaracka.or.tv/blog

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■ユニオンプロレス
042-724-9242
〒194-0022 東京都町田市森野6-319マルイシコーポ202
http://union.ne07.jp

■DDT
03-5360-6653
〒106-0022 東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/ feg/

■GIRLS DOOR
0462-63-2323
〒242-0029 神奈川県大和市上草柳94-3コンフォート緑野104 株式会社EWF

■G-SHOOTO
03-5380-3295
〒165-0026
東京都中野区新井1-3-6 セントラルパレス中野202

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-7-5メゾン文京関口204

■NEO
044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■UFO
0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F 株式会社エフ企画内

■U.K.R 044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193ー11
http://www.hiromitsu-kanehara.com

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WWS
0270-24-8991
〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町1669-2 グリーン・シティ・マンション103号

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

Broadcast

ブロードバンド史上初の試み
プロレス・格闘技情報番組の放送を開始

ブロードバンド放送TFM＋においてプロレス・格闘技情報番組『バトルマットフォーカス』が10月よりスタートする。同番組はブロードバンド史上初となるプロレス・格闘技専門番組であり、メインキャスターには元JWP代表、現在フリーリングアナウンサーとして活躍する“ヤマモ”こと山本雅俊が就任。業界の報道だけではなく、選手をゲストとしてのトークコーナー、ファンの生の声を反映することも予定している。ON AIRは毎週火曜日20時～。

★HP http://www.tfmplus.com/ ★問 03-3359-8207

Naming

名付け親には豪華グッズを贈呈！
パンクラスのツアー名を一般公募

パンクラスが2007年のツアータイトルを募集する。希望者は「2007年ツアータイトル係」と明記の上、ツアータイトル名及び簡単な説明、氏名、住所、電話番号を添えて、以下のいずれかの方法にて応募すること。①FAX＝03-5792-7080 ②ハガキ（宛先は左の団体INDEX参照）③Eメール＝info@pancrase.co.jp なお、一人で複数案、言語は問わず。採用者には同ツアー名が入ったTシャツと1万円分のパンクラスオリジナルグッズをプレゼント。締め切りは11月11日（土）消印有効。

Event

GM降りてもメゲないヨォ！ RGも出るぞ！
プロレス、音楽、お笑いのコラボレーション

ファッションブランド・SKULL SHITの設立10周年を記念して、『SKULL SHIT 10th ANNIVERSARY～骸骨祭り～』が開催される。日時は11月5日（日）、15時開始。会場は東京・新木場STUDIO COAST。アーティストは氣志團、BALZAC、マキシマムザホルモン、芸人はまちゃまちゃ、春一番、ハローバイバイ、レイザーラモンRG、プロレスラーはアジャ・コング、アメージングコング、金村キンタローらの出演を予定している。チケット料金は5,000円（当日500円増）。一般発売は9月30日より開始。

★問 チケットぴあ 0570-02-9999／ローソンチケット 0570-084-003
DARKPLOT 03-5489-2727／DISK GARAGE 03-5436-9600

Show

東京ドームでダーッ!!
アントンが山本寛斎総指揮のショーに出演

8月30日、都内ホテルで山本寛斎が総指揮を務めるスーパーショー『日本元気プロジェクト KANSAI SUPER SHOW “太陽の船”』（07年1月13～14日、東京ドーム）に関する記者会見が行なわれ、アントニオ猪木の出演が発表された。同作品で祭りの国の王として登場する猪木は、挨拶でいきなり「バカヤロー！」と叫び、皆を驚かせた。その他、出演はTOKIOの松岡昌宏、上戸彩、工藤夕貴。主題歌は長渕剛という豪華なラインナップとなっている。チケットは10月7日（土）より発売。

★問 【チケット】ディスクガレージ 03-5436-9600
【公演】太陽の船事務局 03-5772-3006

Election

女子プロレスラー史上初の快挙！
神取忍が参議院議員に繰り上げ当選

小泉首相が退陣する9月26日に、竹中平蔵総務相が参院議員を辞職することを名言（9月15日現在）。これを受けて、LLPW代表・神取忍の繰り上げ当選が確定した。プロレス出身の議員はアントニオ猪木、馳浩、大仁田厚に次いで史上4人目、もちろん女子プロレスラー初の快挙である。神取は04年の参院選に自民・比例代表で出馬。落選したが、次点だったため、今回の当選に結びついた。神取は「身の引き締まる思い。国民のために精いっぱい努力していく」とコメント。任期は2010年までとなる。

Fight

イケメンたちが殴り合う！
『ホストバーリトゥード』開催決定

ホストたちが店の看板を懸けて総合格闘技で対決する『ホストバーリトゥード』が10月29日、東京・新宿歌舞伎町クラブハイツで開催される。開始は19時。料金はVIP席2万円、S席1万円。出場店舗は歌舞伎町からEl-listen、COOL、IMPACT、Style、Neon、LINE、遊園、八王子から神威E・G、川越からCLUB MARIA、clubBREAK、quatrro、大宮からE・S、越谷からExcellent club Lion、福生からDIVERSION、小岩からJUNOとなっている。

★問 ホストバーリトゥード委員会 03-5766-5717

Vote

AWA王者・大森隆男も出馬
でかまる党党首の座を掴み取れ！

東洋水産のカップ麺・でかまるが全国からおおもり姓の人を募集し、でかまる党党首を選出する企画『おおもり君を探せ！』にプロレスラーの大森隆男が出馬する。大森は8月26日、東京・新宿で行なわれたでかまる党決起集会に参加。AWAシングルとNWAインタータッグのベルトを肩に掛けたまま、カップラーメンを食べ、記念撮影に応じた。投票は下記ホームページより9月25日から開始される。大森は党首となり、公約である具の大盛り化を果たすことができるか!?

★HP http://www.dekamaru.jp/top.html

Fight

LLPW主催女子最強は誰だ？
後楽園、両国でトーナメント開催

LLPWが11・12後楽園ホール（1回戦）と11・21両国国技館（2回戦、準決勝、決勝）の二大会に渡り、『女子プロレス最強決定シングルトーナメント』の開催を発表した。トーナメント出場者はLLPWホームページ（http://www.llpw.co.jp/）において、投票で決定される（9月30日締め切り、一人一回限り）。投票の結果、上位10名にLLPWが出場を要請。また、応募者のなかから抽選で10組20名に両国大会のチケットがプレゼントされる。

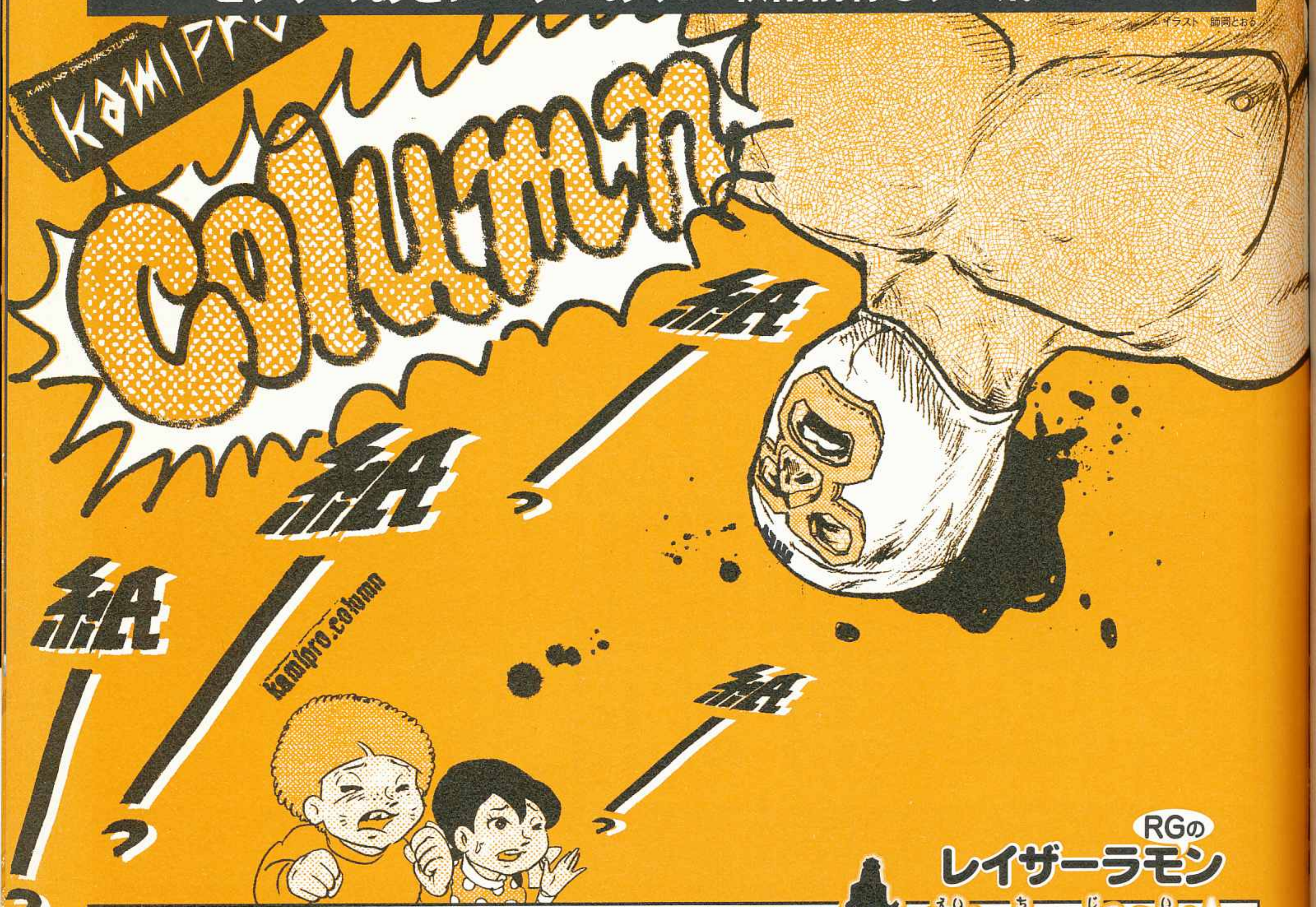
★問 LLPW 03-5228-4331

イラスト　師岡とおる

kamipro column

紙一っ　紙一っ　紙一っ　紙一っ

kamipro.column

RGのレイザーラモン 英知自慰（えいちじい）

第12回 ついにGM失脚!!　RGの次なる野望は……

イラスト◎出渕誠

おっけ〜い！『24時間テレビ　愛は地球を救う』（日本テレビ系）でおジャーマンスープレックスをやってドン滑りした映像がネットで〝衝撃映像〟として出回ってるRGでーす！　いやー、登り詰めましたね……こんな有名番組に出るなんて。ビデオ録ってる方いましたら、最後の『サライ』歌ってるとこのリレー中継を観てください。『サライ』に合わせてRGダンス、ずっと踊ってますから。

そんなビッグイベントに出演しつつ、先日はなんとIWGPチャンピオン棚橋（弘至）祝勝会に行ってきました。ま、祝勝会といってもRWF立命館プロレス研究会OBが5、6人集まってあーだこーだ言い合うだけですが。偉大なる先輩、ユリオカ超特Qさんも『無我ワールド』旗揚げシリーズで多忙な中（なんら関わってないが）駆けつけてくれました。

G1では主役をテンコジに持っていかれた棚橋だが10月9日に天山とのIWGP防衛戦が決定！　思えば学生時代「天山広吉トークショー」をRWFが開催したときの送迎係を棚橋が、司会をRGが務め、客席にはHGがいた。感慨深い……そんな懐かしい話で盛り上がった。

棚橋がリング設営、会場警備のバイトで全日本の京都大会に行ったとき、スタン・ハンセンのコールと一緒に「ウィー!!」やってたら元子さんにこっぴどく怒られた話。全日本の滋賀大会にバイトに行ったとき、馬場さんのガウンにマジックで落書きした神をも恐れない子どもがいて、仲田龍さんがその子どもをこっぴどく叱りつけてた（多少のビンタあり）のを見てビビってたじろいだ話など話は尽きないヨーヨーヨー！

興味深かったのは棚橋と同期で元ZERO－ONE練習生の小森（学プロ時代は〝うんこ天小森〟）の話。身体を壊し、デビューできなかったが『真撃』やガイジン天国の頃のZERO－ONE時代を経験、破壊王の洗礼を受けた貴重な人間だ。

彼は入門3日目で「顔が気に食わない」という漠然とした理由で往復ビンタされたり、懸命に受け身の練習をしてると「こんなヤツいるからプロレスがなめられるんじゃ！」と原因不明のまま怒られたりしていた。

また、いまやムービースターのネイサン・ジョーンズから「ハシモトが食べてた白い軟らかそうな食べものはなんだ？　気になって仕方ない！」と詰め寄られ「あれは、餅、です」と教えると「OH！　モチィ！」と感激、帰国直前に餅をプレゼントすると泣いて喜んだらしく、ガイジンが気になって仕方ないほどおいしそうな餅の食べ方をする破壊王にも感心。

ほかにもいいエピソードてんこもりでしたので、『kami-pro』で小森君インタビューどう？　そんな権限ない？　なんとでも言えヨー!!　くそー、ハッスルGM降ろされたから、次は『kami-pro』編集長の座を狙ってやる！

そしたらレスラーとも仲良くなるヨー、竹内宏介さんがマスカラスとジョギングしたならRGだって棚橋とジョギングしますよ。サイパンでインタビューして「おい！金沢」ならぬ「おい！　RG」ですよ！竹内宏介、小佐野、GK、ドクトルルチャ清水……よ〜く見ろ！　これがRGだ！RGは絶対負けない！（またケロちゃん調）。妄想しすぎました……すいま……すいま……すいまセントーン！

Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）
HGを〝アレンジ〟した「ヨウヨウヨウー」をキメ言葉に活躍中だったが『ハッスル・ハウスvol・20』にてGM職から失脚！　坂田新GMの部下へ転身か？

第11回

それでもヒョードルのが強いんだろうなあ

花くまゆうさく リングの汁 ミニ

『格通』に載ってた、渡辺vsしなし戦のトップ写真が凄い！ 衝撃!!「格闘史に残るこの一撃」とコピーが添えられてたが、まさに格闘誌に残るこの一枚です。しかし、毎回関係者に配るという、しなし自家製ポストカードも凄い。試合には負けたが、自分大好き女王はやっぱりしなしさんが絶対王者か。

『PRIDE武士道』は、青木&メレンデス参戦で混沌。菊地や弘中を圧倒してしまう、青木。73キロ級でも雪崩れのような誰も止められない強さを見せたメレンデス。もう、この二人がトップじゃないのかな。五味vs青木、五味vsメレンデスを早めに実現してほしい。

『PRIDE無差別級GP』はPPV。ノゲイラ残念だけど、ヒザ十字愛好家の私の感想としては、最後のヒザ十字は完ペキに極まっていたと思う。ジョシュが上から極める形になったので、あのでかい腰回りの体重もかかって、よりキツいヒザ十字になっていたんじゃないかな。腰を突き出せば、コピィロフがブランコのヒザを破壊した再現になっていたと思う。

熱い準決勝（ミルコvsシウバ、ジョシュvsノゲイラ）観たあと、中座して有明に行き、ZSTへ。もうひとりの足関十段・花井選手がきっちりアキレス極めてめでたし。

メインは矢野さんが、ひさびさにその寝技の強さを見せつけてくれた。試合後のマイク、『格通』では一部表現が忠実に報道されるのだろうか？

ZST終了後は、急いで帰りPPV録画の続きを観るが、巨漢グダグダの試合と中村vs中尾戦のおかげで完全にスヤスヤ寝てしまった。

10月の楽しみは、徹肌イ郎、植松直哉、ジェフ・グローバー参戦のGIグラップリングリーグ戦でしょ。徹肌vs植松戦実現してほしい。エディ・ブラボーやハビエル・バスケスも呼んでほしい。バレット、イリホリ、塩沢正人らが加われば完ペキ。上の階級も、いま絶好調の中村K太郎呼んで充実したグラップリング大会にしてほしいなぁ。

Hanakuma Yusaku
◎ナポレオンダイナマイトTVシリーズ制作中ってホントなの!? 凄い楽しみ。

私の立ち技への旅はまだ終わらない

ささきぃの STAND BY ME second season

第5回 おとうとおもいのちょうなん？ ボビー&アンディ兄弟の巻

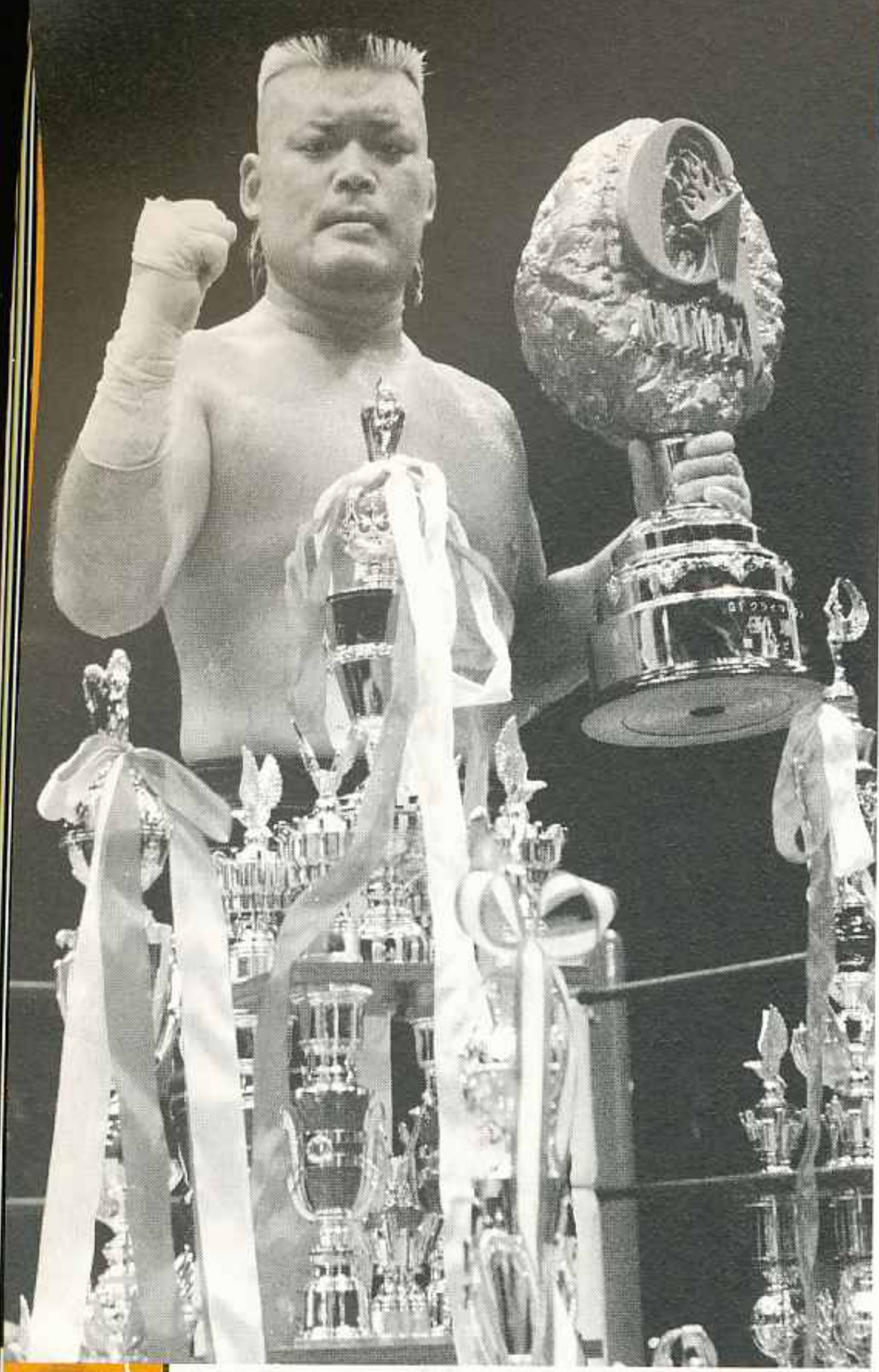
前回、このコーナーで触れた全日本キック後楽園大会『S・W・S』は、ニュージャパンキックボクシング連盟・石黒竜也の反則により大混乱となった。やはり大会名により混乱を呼んでしまったのかとしみじみ。他団体の選手なのでいろいろ難しいこともあるだろうけれど、個人的にはやはり、リングで起きたことはリングで解決してほしい。全日本キック側の公式見解および今後の展開を待ちつつ、今回は9月4日『K－1 MAX』に参戦したアンディ・オロゴンと、ボビー・オロゴン兄弟のことを取り上げてみたい。

ボビーの弟としてK－1に登場したアンディ。前回の日本トーナメントで飯伏幸太との対戦が決定していたが、拳のケガにより欠場となった。「ホントに弟だったのかよ」という疑問もささやかれてからはや半年。9月大会に参戦が決定した。

参戦決定会見では当初「練習してきたことを見せたい」と、常識的なコメントだけを残したアンディだったが、囲み取材では「お兄さんとは違う。僕はちゃんと練習してる」と、〝小生意気な弟〟ぶりをいきなりアピール。「お兄さんは格闘家じゃないから、あんまり格闘技のことわかってない」と、兄とは違うということを強調。前日会見でも、心配する兄に対して「お兄さんがいたほうが、皆さんもいい映像を撮れると思う」と、シレっと一言。意地になって「言っとくけどな、安廣（一哉）はすっごい強いんだぞ。しかも、すごい性格もいいし。俺だって明日になったらあっちを応援するかもな」と、わかりやすくふてくされる兄に対し、弟は「そしたらまた皆さん的に、いい映像が撮れますよ」と反撃。うっかりした人情家の兄としっかりした冷静キャラの弟という、日本の家族ドラマ典型パターンの一つを見せつけていた。ナイジェリア人なのに。

試合はK－1初参戦ながら大健闘。安廣一哉相手に倒されずフルラウンド闘い抜くという実力をいきなり見せつけてしまった。判定で敗れはしたものの、デビュー戦であれだけ闘えれば満点以上だろう。試合中、ずっと心配して声を張り上げていたボビーは「僕の闘争本能に火がつきました。すばやく消したいと思っています」とコメント。アンディ・オロゴンの持つ実力の高さと、指導にあたったPHOENI-Xジム・加藤督朗の努力には素直に拍手を送りたい。

ところで、アンディの〝幻のK－1デビュー戦〟の相手だったDDT・飯伏幸太は、肉体改造中ということもあって70キロ契約のK－1 MAX参戦は厳しそう。ただ、対戦相手だったアンディ・オロゴンの大健闘っぷりを観て密かに闘志を燃やしているという噂もあるので、体重の合う相手がいればスペシャルマッチでの飯伏幸太・K－1もしくは『HERO'S』参戦はぜひ期待したいところだ。

予想以上の大健闘を見せたアンディ・オロゴン。武藏&TOMO兄弟と、ボビー&アンディ兄弟のK－1対決も観たい。これなら大晦日もいけると思うが、どーですか、お客さん!?

せき詩郎の

サムライ二味

シロー

第7回

夏の思い出

雨が降る。その度に気温は下がる。空気が秋のそれになる。

そんなことに気づかずに、半袖で外へと出る。肌寒い。素足とサンダルのため足元から冷え込んでくる。もう夏ではないことを実感する。

秋になった途端に夏のことを思い出せなくなる。今年はいつもより暑かったのか。それとも例年通りだったのだろうか。思い出せない。

思い出せるのはクーラーつけっぱなしで寝て、腹を何回も壊したこと。また、クーラーつけっぱなしで寝て、起きる度に風邪気味になっていたこと。あとはクーラーつけっぱなしだったために電気代がいつもの数倍になっていたことだろうか。

とりわけどこかに出かけた記憶は無い。いつもなら何かしらに赴くフェスにも行ってない。キャンプもしていなければバーベキューもしていない。花火もしていない。でもこれらは毎年やっていないので特に残念でもない。思い出といえば椎名さんとかと行ったイベントくらいだろうか。そういえばいつになく盛り上がった甲子園も見ていなければ、新倉イワオの番組も見ていない。午前10時頃から始まるアニメの再放送も見てない。

何一つ夏らしいことをしていない、何も夏の思い出が無いことに気づき愕然とする。こうやってどんどん歳をとっていくのだろうか。いや、何かあったはずだ。何もないわけが無い。必死で記憶を辿る。夏、恒例、風物詩……あった。ひとつだけあった。

天山のG1優勝だ。

今回で天山は3回目の優勝となる。立派なものだ。天山本人はどう思っているかわからないが、師匠とも言える蝶野に近づいた、いや、蝶野に肩を並べたと言っても過言ではないだろう。そう、天山こそいまや『夏男』の称号にふさわしい選手となったといえるのだ。

これからは夏と言えば天山、という認識は当たり前のことになるはずだ。俳句の夏の季語に『天山』を加えてもいいくらいだ。

そういうわけで、天山を季語とした俳句をいくつか作ってみたので紹介したい。ちなみに、この俳句は近所のマクドナルドで作ったのだが、隣の席に座っていたおばあさんが通帳ばかり見てるので、横目でこっそりみたら残高がかなりの大金であったのだが、それはまた別の話だ。

朱鷺が一羽　天山の角の先に　とまったよ

［解説］天山の角にとまった蜻蛉が真っ二つになった逸話も。

秘境の島　案内役は　天山だ

［解説］ペンションのオーナーも務めている天山と行くキノコ狩りツアーも。

天山の肌　SKが　守ってくれる

［解説］「秋にはきっと結果が出ている」と天山が。

祈る女子　最後の打者は　天山だ

［解説］1塁にヘッドスライディングする天山であったが……。

仲間死に　天山が馬車から　飛び出してきた！

［解説］ずっと馬車に置いといた、特に何も装備してない天山が!?

天山が　ツチノコ捕まえた　偶然空き地で

［解説］のび太が未来から買ってきたツチノコが逃げ出して……!?

県内の族が　天山のために　集結したぞ

［解説］「俺らの血も使ってくれ」と天山が入院する病院に。

ツンツンして　そのあと天山　ツンテンだ

［解説］新たなジャンルがここに誕生。

天山と　奇妙な同居生活　ライトノベル

［解説］ある日、突然空から降ってきた天山と一緒に。

天山よ　日本へ帰ろう　ビルマにて

［解説］なんかオレンジ色の服を着た天山に蝶野が呼びかけた！

天山が　キノコから落ちた　たけし城

［解説］竜神池はなんとかクリアした天山であったが。

天山の　爪楊枝芸が　村を救う民話

［解説］ばかでかい爪楊枝を祭った神社もある。

天山が　そっとかけてくれた　MA―1

［解説］ぶっきらぼうな天山がみせた優しさを詠んだ句。

はぐちゃんの　リハビリ付き添う　天山が

［解説］はぐちゃんが再び絵が描けるようになるその日まで……

天山さん？　引っ越しましたよと　隣の住人

［解説］ここで捜査は再び行き詰まることに。

いや天山は　あなたの大切な物を　盗んでいきました

［解説］銭形警部がクラリスに向かって。

これなあに？　天山が興味を示した　蝶ネクタイに

［解説］好奇心旺盛な天山は何に対しても興味津々！

トモダチ……　オマエトモダチ　天山が理解した！

［解説］徐々に感情を覚え、人間に近くなってきた天山。

これいいじゃん　天山がはまった　スウェーデンポップ

［解説］天山のカバンの中はクラウドベリージャム等のCDでいっぱいに！

平成維震軍のリング。凱旋帰国した天山が現れる。たしかシャツとズボン姿だった記憶がある。維震軍のメンバーが天山を勧誘し、握手を求めるも天山はそれに対してモンゴリアンチョップで返事をした。たしかシャツとズボン姿のままだ。

あの日の衝撃を胸に、これからも天山を見続けていたい。みなさんも何か良い俳句を作った時には編集部宛に送ってほしい。多分、とくに盛り上がりを見せないだろう、この企画が尻つぼみになっていくのをみんなで共有しようではないか。

世界に羽ばたく夫婦コラム

チーム鈴木の明るい未来

KENZO HIROKO

Suzuki Kenzo&Hiroko
◎世界をまたにかけて活躍する元WWEスーパースターの鈴木健想と妻・浩子のコンビ。8月20日、お台場で高木三四郎と対戦した健想。現在はメキシコで武者修行。

黒タイツの電流爆破の巻

浩子 この夏は〝電流爆破〟というキーワードからいろんな対戦に……。

健想 対戦どころか、あなたはメカになったし(笑)。メカヒロコ!

浩子 (笑)。DDTではメカのあとはゲイ相手。大日本では大流血のマジ・超ハードコア……。

健想 あの大日本のリングで、俺が「電流爆破のCMに来ました!」なんて100パーセント受け入れられるわけがない。どれだけCMを打つよりも、自分の今回の試合にかける思いを伝えることが一番だと思ったわけよ。

浩子 確かに賭けてたもんねぇ。

健想 「〝アマチャンの健想〟なら電流爆破っていっても、こんなもんでしょ」と言われる試合はしたくない。派手な衣装で身体をかばう気も最初からなく、思いきり被爆する気だった。わざわざこの年齢になって、一からプロレスやるためにメキシコに行くことを決めた俺が、どれだけ覚悟を決めて、プロレスを信じてるか、愛してるか、それを伝えたかった。

浩子 確かにこれまで後楽園ホールや、さらに大きい会場で見せてきたパフォーマンスを2~300人の会場でも同じように見せてきた。

健想 べつにあえてやったわけじゃないけど、楽しかったから。やりたくてやった。それだけ〝やりごたえ〟のある最高のファンだった。

浩子 そういう気持ちは通じたよ。大日本ファンも、最初の凄いブーイングが、顔面にホッチキス打たれまくったり、のこぎりで額から大流血だったり、有刺鉄線に顔から突っ込んで目の上に引っかかってたりで、途中はア然(笑)。最後は確かに「本気だよ、こいつ」って(笑)。男性ファンまで「けんぞぉ~っ!!」って悲鳴あげてたよ。

健想 心意気が伝わればおのずと「電流爆破も見てやろう!」と思ってくれる。ハートなんだよ、ハート。

浩子 確かにこの夏は一貫してそういうファンの気持ちに救われた。

健想 電流爆破のために帰ってきてたけど、それでも原点回帰は忘れてない。黒パン一丁で勝負できるレスラーになるために、いまはかっこ悪くてもかまわないって思ってる。俺はもうインディーだから、ファンの「どうせ被爆しないよ」という予想は裏切りたい。かといって、いままでを捨てるわけじゃない。橋本(真也)さんに恩返しをできないままだってことはいまも俺の課題だから。その両方からファンに「いまはカッコ悪いし、橋本さんにもお世話になった皆さんにも何もできないけど、待っててください。絶対がっかりさせるような結末にはしないから」って。黒パン一丁だったのも、垂直落下も全部つながってる。

浩子 と、マジメに言うかと思えば、締めは鈴木ゲイ想(笑)。ファンにはずいぶんサプライズだよ。けど、だからこそ「健想はいつだっておもしろいことをする気なんだ」って伝わったかな? 会場で「待ってるぞ~! 期待してるぞ!」って言ってくれてたもの。

健想 高木(三四郎)選手がずいぶん助けてくれたよ。同じ選手として俺の気持ちを汲んでくれたから更にいいものができた。俺は本当にラッキー。ファンの皆様にも、支えてくれている関係者の皆にも恩返しができるように、精進します!!

日本在住メキシコ人ホセPresents

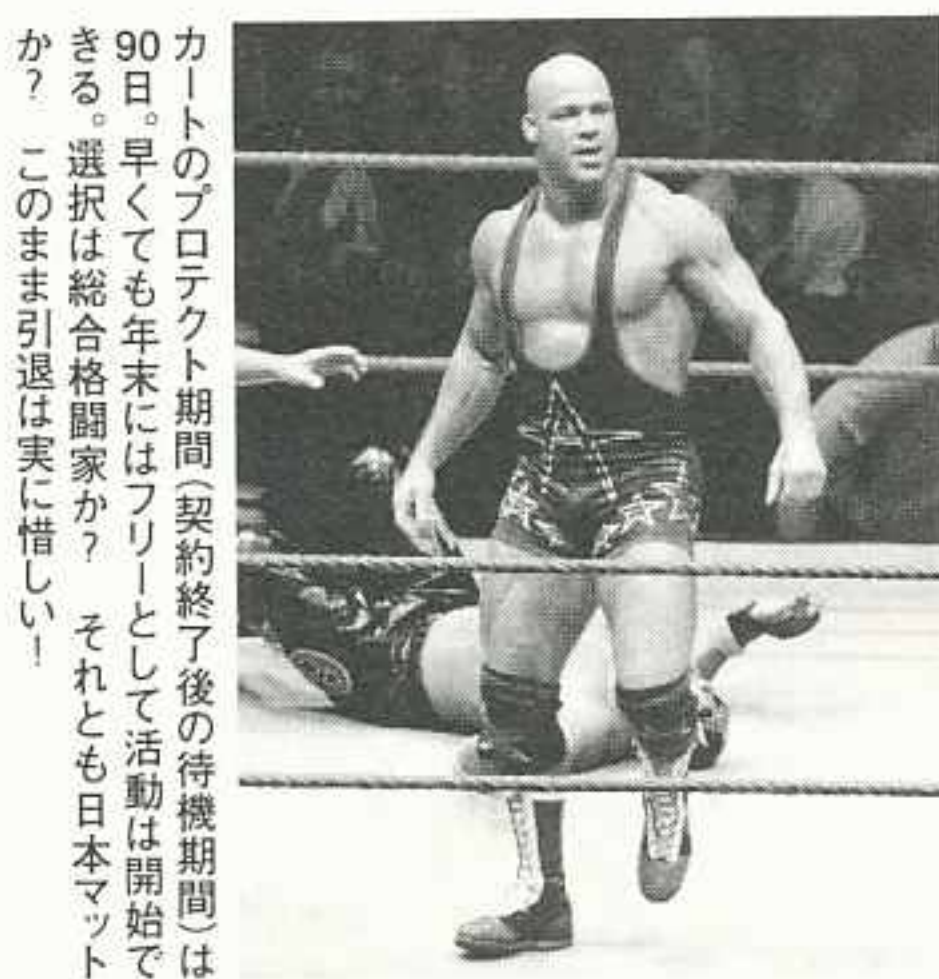
アメプロウワサルーン

イラスト◎エロコエロオ/Photo◎平工幸雄

No.5 カート・アングルがWWEを退団! 五輪ヒーローの総合転進はホントにホント?

カート・アングルといえばボーイズからの信頼も厚く、バックステージのムードメーカーとしてブランドを統率する〝兄貴的存在〟。だが、ここ数年は首、背中、ヒザに爆弾を抱え全身ボロボロ状態となり、タイトなスケジュールで負傷を癒すことができず薬を服用し、長期サーキットが当然のWWEスーパースターズにとって必ずぶち当たる家庭問題にも直面していたという。WWEはこういった事象で自滅したスーパースターを多く見てきたこともあり、カートに対し最大限のケアをすべく退団前は自宅待機や施設でのリハビリを勧めていた。しかしカートが選択したのは契約破棄、自主退団だった。

そのカート自身がWWEでコメントを発表。最後のくだりを抜粋するが、それがなんとも泣けてくる内容だ。

「WWEで働いている期間に〝地獄〟を経験した妻のカレン。彼女こそ僕の力だった。カレンはいつどんなときも僕を見捨てたりはしなかった。本当に感謝している。ボクはいまここでちょっとばかり涙目で書いている。ファンのみんな、たくさんの思い出をありがとう。キミたちのノリは最高だった。ボクは〝完治〟して帰ってくる。それは精神的にも肉体的にもだ。いまより強くなって最高のカート・アングルを見せてやるさ。本当に本当さ。ビンス、もしこれを読んでいたらもう一度、心の底からありがとうと言いたい。いつか再会したらコーヒーをおごってあげるさ。僕はようやく家族と一緒に本当に有意義な時間を過ごすことができる。God Bless カート・アングル」。

自らが選択しないと終わることがない過酷なレスラー生活を断ったカートだが、その一方でカートの総合格闘技転進の報が。先日『RAW』の実況でおなじみのジム・ロス(JR)が、自身のブログでカート総合転進について言及した。

「いまのカートにできることは肉体的、精神的に健康になり、そして最高の父親になって、家族を支えることだ」と激励。しかし、そのあとの記述には「ブロック・レスナーに追随する形でオクタゴンなどのトータルファイト(総合格闘技)の参戦はカート・アングルの夢なのかもしれません」とカートの総合参戦を示唆。しかしJRは「ボロボロな身体の状態では闘うことはできないはず。治療に専念すべきだ!」と、まるで〝You S●ck!〟と言わんばかり。カートの身体状態と精神状態を至近距離で見てきたから書けるコメントだ。

アメリカでは現在空前の総合ブーム。WWEと人気を二分するほどの盛り上がりを見せているだけに、カートがオクタゴンに入る可能性はまったくないとは言えない。カートの総合でのポテンシャルは未知数だけに、気になるっちゃ気になるが、正直なところカートがカートらしさを出せるのは、総合よりWWEなんじゃないかと思うんだけどなぁ……。とにかく、いまはゆっくり休んで、本人にとって最良の選択をしてほしいですな。あの笑顔で再び世界中のファンを幸せにしてくれよ! ということで、また来月! アディオス!

カートのプロテクト期間(契約終了後の待機期間)は90日。早くても年末にはフリーとして活動は開始できる。選択は総合格闘家か? それとも日本マットか? このまま引退は実に惜しい!

イナズマKの
ハードコアドーター Special

先日の『WRESTLE EXPO』のアイアンマンバトルロイヤルで、自らの上半身を爆発させながらの"爆竹ボア"でメカマミーからピンフォールを奪い、見事に初ベルト奪取。あの日の"裏MVP"といわれる彼こそ、爆竹やビッグファイヤーが飛び出す過激な暗黒プロレス団体『666』率いる、ザ・クレイジーSKBだ。この通称"バカ社長"ことSKBは、もともと『殺害塩化ビニール』というレーベルを主宰、QP−CRAZYというバンドで超過激なパフォーマンスとインダストリアルパンクをブチかますパンクロッカーである。そんな彼にプロレスラーとしてのルーツ、自身の生き様を聞いた！

――初ベルト奪取おめでとうございます。いや、あのフィニッシュは衝撃でした。

SKB オレの持ち味は爆竹とかそっち系なんで、正々堂々と自分のスタイルでやってやったよ！ とくにメカマミーはロボなんで吹っ飛ばしてやろうってな。でも、あの日は上半身全部がもの凄い量の爆竹だったんで、普段はしない耳栓をしたんだ。耳を壊すと音楽のほうに支障も出るし。でも片方の耳栓が飛んで、鼓膜が破れた。

――えー！ そんな状態でしたか。

SKB 耳の中から血がダラーと出たよ（ニヤリ）。

――相当に気合いが入ってたんですね。

SKB 中途半端が嫌いなんだ！ 行き着くとこ行くのがスタイルだからな。

――なるほど。"一人電流爆破"とも言われる社長ですがメインの電流爆破の感想は？

SKB デスマッチっていろんな考え方あるから、あれはあれでよかったと思う。でも、オレならこうするのに、ってアイデアはあるよ。

――そのアイデアを聞かせてください！

SKB ダメだ。そのときを楽しみにしてろ。スゲーの見せてやるから!!

――わ、わかりました。では社長がバンドマンでもあることを知らない人に自己紹介をお願いします。

SKB オレの『殺害塩化ビニール』ってレーベルは今年で25年。いまのバンドはQP−CRAZY。罰当たりなこと、ずっとやってるよ。ポーゴさんやレザーフェイス呼んで、客席でメチャクチャ暴れてもらったこともあった。でも派手にやりすぎて、すぐに警察が来ちゃうから、都内ではあんまライヴができないんだ……。長年やらせてくれてたライブハウスからもついに追い出されたし。

――社長が火とか爆発に惹きつけられたきっかけは？

SKB 小学2年ぐらいにブッチャーやザ・シークに憧れたのがきっかけだな。もともとレスラーになるつもりだったけどひょんなことでバンドに走り、バンド内で一人プロレスをやってた感じだよ。

――影響受けたバンドは？

SKB スターリンだな。でも基本はザ・シークだし、その前にドリフ！ オレにとってドリフはかなりデカい。ドリフはパンクだよ！ メチャクチャでも最後は笑いにつなげたいってのはそこから来てる。ドリフ、ザ・シーク、スターリンがオレのルーツだ。

――なるほど。ではライブで一番危険だったことは？

SKB 床にガソリンまいて火を放ったら、ライブハウスの天井まで燃えて、お客さんも燃えちゃったことがあった。あとは、電気ドリルで自分の腹をえぐったら、Tシャツごと食い込んでいったこともあったよ。

"一人電流爆破"なパンクロッカー ザ・クレイジーSKBの危ない話

ざ・くれいじー・えすけーびー■1968年8月神奈川県生まれ。最凶インディーズレーベル『殺害塩化ビニール』オーナー、ハードコアパンクバンド『QP-CRAZY』も率いる。03年に怨霊と暗黒プロレス組織『666』設立。ニックネームは"バカ社長"。

もはや伝説？　バカ社長は8/20『WRESTLE　EXPO』第一試合にて全身に爆竹を仕込んで入場口を大暴走！"爆竹ボア"でメカマミーを粉砕、裏MVP級の大立ち回りで初のベルト奪取に成功！

――うげげ、おっかなすぎますよ！

SKB それと、首つりパフォーマンスしたら、本当に足が宙に浮いて吊られたこともあったな……。まあ、ヤケドなんかホントに日常茶飯事だね。

――では、試合で一番危険だったのは？

SKB 自分のTシャツの中に花火が潜り込んで、お客さんにわからないとこで花火が噴射してたとき。Tシャツも腹が黒こげだったけど、それでも試合を続けなきゃいけなかったんだ。

――それでもめげたりしないんですか。

SKB しないね。逆に次は（火薬を）倍使ってやろうってなる。自分で勝手にハードル上げてるし、スイッチが入るとどうでもいいやってなっちまう。

――そんな過激な社長ですが、好きな食べものはなんでしょう。

SKB オレは強烈に甘いものが好きなんだ。チューブの練乳もゴクゴク一気飲みだよ。それと、アイスは一日2、3個食わないと死んじまうよ。

――そんな一面があったとは！ では今後、やってみたいデスマッチは？

SKB W★INGでガラスでリングを囲んで、触れると爆発するって案があっただろ？ アレには非常に興味がある。

――ポーゴさんが「首がちょん切れるデスマッチ」って言ってたヤツですね（笑）。

SKB 見てみたいし、自分でやってもかまわない。ただグロを見せちゃけないってのはあるから、オレ的にはどんなに首チョンパになっても笑いに持ってくつもり。

――そこはドリフイズムですね。今後の666で目指すところは？

SKB 見世物小屋みたいなもんだから、普通のプロレスとは違う世界は作れたとは思うよ。まあ、秘密クラブみたいなもんだ。やりすぎだ、とか言われるけど、パンク精神でやってるんで、非難轟々の声を浴びたほうが燃えるんだよ。仮面ライダーやバロムワンの秘密結社みたいにまともな人間を洗脳して狂い人にすれば、こっちの勝ちだろ。

――666のスタイルはいまのプロレスへのフラストレーションもありますか？

SKB 自分たちのやりたいことをやってるだけ。お化け屋敷もあればジェットコースターもあり、各々が遊園地が遊園地のアトラクションの一部。全部が全部、花火じゃない。あくまでも主役は怨霊だ。

――でも、かなり目立ってますよ（笑）。

SKB じゃあ、怨霊にもっと頑張ってもらわないとな！

――その相乗効果が666を支えているんですね。では、最後に読者へのメッセージを。

SKB ブッ殺してやる！

［06年9月3日／電話にて取材］

666
vol.15 ハロウィン大会

東京・新木場1stRING
10月29日(日)
開始18:30(開場18:00)

［チケット料金］
社長と心中シート5,000円
怨霊憑依シート4,000円
佐野しょっぱいよシート3,000円

※チケットぴあで全席種発売中。
※ハロウィンらしい格好で来場のお客様はプレゼントを進呈。

인사이드 코리아（インサイドコリア）

韓龍格闘技ノンフィクション劇場

第7回

トンデモ系韓流リアリティショーがリボーン！

番組プロデューサーが語る沸騰する『PRIDE』韓国市場!!

文／大川"隊長"義之

デニス・カーンは「スーパーコリアン」を名乗って、スターになったんです

これまでにもこのコーナーで紹介してきたが、韓国では**『GO！スーパーコリアン』**という**格闘技リアリティショー**が存在する。**この夏にはシーズン2が始まったのだが、前回以上の好評を博しているという。**そこで放送元であるXTMTVのプロデューサー、イ・ドクチェにインタビューを試みた。……が、**アポを取っていた日にドタキャン**を食らって、次の日に予定を変更してインタビューを行なった。

イ・ドクチェ（以下李） すみませんっ！昨日は**イ・テヒョン【注1】**が『PRIDE』に参戦することが急に決まったんで、テレビの取材で釜山に行ってたんです。どうもご迷惑をおかけしました！

――あ、**いや韓国ではよくあること**ですから、大丈夫です。それより『GO！スーパーコリアン』シーズン2が大人気だそうですね！

李 おかげさまで、シーズン1の**3倍の視聴率**を記録しているんですよ（ニンマリ）。今週と来週は**ヒョードル**が出演して選手に技術指導する内容が放送されたんですよ。

――どうしてシーズン2がそんなに人気が出ているんでしょうか？

李 それは『PRIDE』生中継や、シーズン1などを通してこの格闘技に対する認知度が高くなっていることが挙げられます。そしてシーズン2では、**有名なコメディアン**を進行役に起用したこと、ウェルター級（70kg以下）の選手**16人によるサバイバル形式**を取り入れたことなどが人気の原因でしょうね。

――僕も観ましたが、毎回タレントも出演しますし、シーズン1と違って番組自体がグレードアップされた感じがしましたよ。今回は予算も豊富なんじゃないですか？

李 フフフ、それはもう……企画の規模も大きくなりましたし、予算もずいぶん違いますよ！

――順調なわけですね。そもそも、どうしてXTMではこのような格闘技を主題としたリアリティショーを製作しようと思ったんですか？

李 私どものXTMは『**EXTREME**』をコンセプトとして番組を制作・放送しています。ですからスポーツもサッカーや野球よりも、もっと刺激的で究極のもの、つまり総合格闘技は我が社の方向性にぴったり合うコンテンツなのです。開局当初は『PRIDE』の放映権はありませんでしたが、2004年末に**国会で『PRIDE』放送が「暴力的だ」と糾弾されて、他局はみな格闘技の放送を中止する事件がありました。**これが我が社にとって大きなチャンスでした。この事件をきっかけにして、XTMは『PRIDE』の生中継をするようになり、多くの視聴者を得ることができたわけですからね。そして中継している『PRIDE』の舞台に**デニス・カーン【注2】**のような韓国人選手をもっと出場させることができれば、さらに爆発的な魅力を持つコンテンツにできる。そう考えて、すでに放送していた国内団体であるSPIRIT MCと協力して『GO！スーパーコリアン』を作ることになったのです。

――アメリカで成功しているTUFを参考にしたりしましたか？

李 もちろんTUFという番組があることは知っていますが、私は一度も見たことがありません。見てしまえば、どうしても内容を真似てしまいますからね。『GO！～』を見てもらえれば、まったくTUFと違う番組になっていることがおわかりになるでしょう。シーズン2のコーチ役はチームタックルの**チェ・ムベ【注3】**選手とコリアントップチームの**ハ・ドンジン【注4】**監督なんですよ。今回は、指導者の自尊心対決も見逃せないポイントです。

――……でも、TUFを見たことがないと言うわりに、因縁の相手をコーチ役に

ウチの選手に査定が必要ならDEEPに上がってもいい!!

抜擢するという手法は、まるっきりTUFのパクリのような気が。

李　何か言いましたか？（ギロリ）

——あ、いや、なんでもないです（笑）。えーと話題を変えましょう。シーズン1では番組の中で**ドッキリカメラ**や、**選手に催眠術をかけて隠れた能力を引き出そうとする**など、奇抜な企画が多かったんですが、シーズン2ではどのようにして選手の魅力を引き出していくつもりですか？

李　もちろん対戦相手同士の挑発などは**基本的な演出として欠かせません**し、前回のような奇抜な企画も検討しています。また**シーズン1のように選手の恋人が出演**することもあるかもしれませんね。今回の選手は個性派揃いですから、企画もおもしろいものになるでしょう。

——シーズン1の最終目標は、優勝した選手を**『PRIDE』に上げる**というものでしたが、シーズン2の目標はなんでしょうか？

李　シーズン1は反省点が多かったんですよ。ミドル級（80kg以下）GPで優勝した**イム・ジェソク【注5】**の右拳骨折によって、『PRIDE』進出も実現しませんでしたし、選手4人での撮影が続いたので**緊張感にも欠けてダラダラした展開**になってしまいました。でも、シーズン2は目標がはっきりしています。最後に残った優勝者が**「スーパーコリアン」**になるんです！

——は……？　そ、それは具体的にどういう**メリット**があるんでしょうか？

李　それは格闘スターとしての活動が始まるということですよ！　最初に「スーパーコリアン」を名乗ったデニス・カーン、そしてシーズン1で優勝したイム・ジェソクは、**スポーツ関連商品の会社とモデル契約**を結ぶようになりました。このように番組を通して知名度を上げた選手には、スター選手として様々な可能性が生まれるということです。ですから『GO！～』で最後の一人になり、「スーパーコリアン」を襲名することは、とても価値のあることなんですよ。

——そうですか。今回は、ウェルター級の選手がメインになっていますが、70kg以下なら国内にもっと有名な選手もいたと思うんですが。たとえば、**マイケル・クァク・サジン【注6】**選手とか……。

李　**ソン・オンシク【注7】**選手（**あのMARSに参戦中**）とかもですね（ニヤリ）？

——はい。団体が違うので、難しいかもしれませんが、そういう選手はどうして選考から漏れたのでしょうか。

李　番組の中盤ではサプライズを用意しています。4人まで選手を絞ったあと、そこにすでに知名度のある選手をワイルドカードとして投入し、再び8人で競争させるという企画です。そのワイルドカードの中にマイケル選手や、ほかの有名選手の名前もあるかもしれませんね。いま話せることはそこまでですが……。

——それはおもしろい演出ですね。では『PRIDE』に選手を送るために、どのような努力をされていますか？

李　DSEも『GO！～』の存在は知っています。韓国に直接視察に来て、SPIRIT MCの試合を観たこともありますから、シーズン1にどんな選手が出ていたかも知っています。シーズン1の優勝者、イム・ジェソクの怪我が完治すれば今年の下半期……あるいは近い将来、『PRIDE』に出場できると見ています。我々としては、映像資料を送るなどして彼の後押しをしますし、査定試合が必要ならDEEPなどの関連組織でしてもかまわないと考えています。こういう話はDSEとずっと話し合っていますよ。

——日本の格闘技ビジネスにおいては、ブッカーという存在が重要な役割を果たしています。SPIRIT MCで実績を残している選手は、**国内で最高レベル**といえるのに、まだ『PRIDE』に出られない状況を見ると、XTM／SPIRIT MCはブッカーとうまくいっていないのではないかと勘ぐってしまったりするのですが……。

李　いい質問ですね。ブッカーの仲介が必要な日本のビジネススタイルは、伝統的なものでありよい点がたくさんあると思いますし、我々もこのシステムを尊重しています。ただ、DSEもよい選手を確保するためには、このようなブッカーとの関係を続けながらも、それとは別のルートで、レベルの高い大会で実績を残した選手に直接声をかけることもあるでしょう。ですから、大会のレベルを上げていけば、**格闘技の大会自体が『PRIDE』に選手を供給できるブッキングルート**の一つとして機能する可能性もあるのではないかと考えています。

——日本では最近、フジテレビが『PRIDE』と契約を破棄するという事件がありました。XTMとSPIRIT MCはビジネスパートナーですが、どのような関係が望ましい関係だと考えていますか？

李　SPIRIT MCは、選手もおらず、格闘技ビジネスも確立していない非常に難しい状況の中から、総合格闘技ビジネスを始め、大会を開催し、アマチュア選手を育て、道場を開いてインフラを整備し、この業界にあっていい前例になろうとして努力を続けています。我々とSPIRIT MCは、フジのように、単なる放送利益が得られるものとして利用し、**利用価値がなくなれば捨てる**ような、そんな関係とは違います。我々はパートナーとしてまったく揺るぎのない関係です。また、フジが『PRIDE』の契約を破棄したとき、我々は『PRIDE』に対してもこう言いました。**「フジが放送をしない状況であっても、我々はみなさんを信じます。これからもずっと韓国で『PRIDE』の放送を続けていきます」と**。格闘技団体と放送局は互いに利益ばかりを考えてはいけません。ともに協力してこの業界を盛り上げていかなければならない協力者なんです。

——なんだか、とてもキレイにまとまっちゃいましたけど（笑）、今後『GO！～』はさらに続けていくんでしょうか？

李　我々は、このコンテンツを単発的なものとしては考えていません。シーズン3、シーズン4と、続けていくつもりです。この番組を通して選手が知名度を上げて『PRIDE』のような大会に出ていってくれれば、さらにXTMの視聴率は上がりますし、広告利益などのかたちで我々の利益にもつながっていきますからね。格闘技市場を盛り上げるためにも、ずっと続けていきますよ。

——ぜひ、いまの破天荒なスタイルを失わずに続けていってください！　応援しています。

髙田本部長もブログで「彼はコンプリート」と絶賛のデニス・カーンこそ、初代「スーパーコリアン」だった！　韓国ではスポーツ用品CMにも登場。そのスターっぷりにはグエムルもたじろぐ!?

期待されたPRIDEデビュー戦が無念のガス欠ファイトになってしまった"シルムの横綱"イ・テヒョン。本土・韓国でも非難集中。横綱繋がりからか「曙並みにダメ!」と曙さんと比較する声も。

【注1】イ・テヒョン
韓国民族相撲の天下壮士（横綱）。『PRIDE』での敗退でメディアやファンからは批判殺到。内容も「何もできずに惨敗」「面汚し」「あれでは曙と同じ」など、厳しいものが多く、それだけ多くの人が彼の活躍を期待をもって見守っていた。

【注2】デニス・カーン
フランス人母と韓国人父のあいだに生まれる。国籍はじつはカナダ。顔は西洋系なので「スーパーコリアン」と名乗って韓国ギミックを成功させる。韓国では頻繁にCMにも出るなどかなりの有名人。

【注3】チェ・ムベ
韓国総合格闘技界の先駆者。『PRIDE』に出る前は、プロとしての実績はまったくなく、すでにアマレスラーとしても引退していた。じつは『PRIDE』が総合のデビュー戦だった。ジムでの選手指導に関しては自由にやらせるのが特徴。

【注4】ハ・ドンジン
チームタックルから離脱してコリアントップチームを創設。チームの監督を担当。猛烈なトレーニング方式はイム・チビン、キム・ミンスなどトップ選手が試合前の追い込みに道場に訪れるほど。育成法も定評があり多くのプロ選手を輩出。どの選手もタフでアグレッシブとの評判。

【注5】イム・ジェソク
SPIRIT MCのミドル級王者。二代目スーパーコリアン。元キック国内王者にして、ブラジルで柔術修行を積んだ国内最強のテクニカルファイター。浄心館所属。早く『PRIDE』で見たい選手の一人。

【注6】マイケル・クァク・サジン
アメリカ人と韓国人の間に生まれ、デニス・カーンと同じくパンクラス参戦歴あり。70キロ以下では国内で無敗。この階級では最強との呼び声も高い。チームタックル所属。

【注7】ソン・オンシク
『HERO'S』、『MARS』を主戦場にする19歳の天才ファイター。ヤノタクに圧勝するなど、現在国際戦破竹の四連勝中。キックも極めも強い試合スタイルには華がある。

捉ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

第11回 堀田祐美子の巻

女子プロレス界のホットなニュースを、萌えの観点からのみお届けする偏った企画。『萌え萌え女々苑』。今回はホットというかホッタ！　あの堀田祐美子選手が足ツボマッサージのお店『HOTTY』を開店したというので、さっそく揉まれに行ってきました！　堀田さんに足ツボ押されて、今日から俺も元気印の金太郎！

捉　自分は男ですから、痛いとか絶対言いません！　足ツボを押されて悲鳴をあげるのは、オンナコドモのやること！

堀田　無理しなくていいですよ。痛かったら軽く押しますから。

捉　男に手加減など不要！　おもいっきりいっちゃってください！

堀田　じゃあ遠慮なく（ツボを押す）。

捉　ギャーッ！　イダダダダ！　痛い痛い痛い！

堀田　え〜。全然軽く押してるよ。痛がらないのが男って言ったじゃないですか。

捉　いや、あの……足の裏が男の弱点だということに、いましがた気づいた次第です。調子に乗ってすんませんでした！

堀田　痛い、っていうのは効いてる証拠だからね（さらにツボを押す）。

捉　グァーッ！　効きすぎです！　死ぬ死ぬ！　あの、ツボじゃなくて秘孔突いてませんか!?

堀田　これは腎臓のツボ。メチャクチャ張ってる。

捉　腎臓が悪いですか……。羅漢果ラーメン（かつて全女が経営。甘い羅漢果の実をラーメンにぶち込んだ酔狂食）とか、『SUN族』（以前、全女道場の上にあったレストラン）のカルビ丼とか、そんなのばかり食べていたツケですかね。七年殺しのようにあのカルビのような物体がじわじわ身体を蝕んできたというか……。ここには女子プロの選手も来るんですか？

堀田　昨日は下田美馬、その前は井上貴子が来てくれたり。

捉　評判はどうですか？

堀田　「あ、楽になった〜」って。我慢強いんですよ、みんな。全然痛いとか言わないし。

捉　男は正直が取り柄！　痛いなら痛いとハッキリ言う！　ガマンはオンナコドモのやることです！

堀田　（あきれて無視して）下田なんか「もうちょっとキツくお願いします」って言うから「あんたツラの皮も厚いけど、足の皮も厚いね〜」とか言って（笑）。（足をやさしく揉みながら）しかしこちらは柔らかいな〜。女の足みたいだね。

捉　あ、ありがとうございます（なぜか照れる）。しかし、まさか堀田選手が足ツボマッサージ店を始めるとは思いませんでしたけど、きっかけは？

堀田　女子プロってどこも似たり寄ったりだと思うけど、アフターケアを全然しないの。試合後や練習後には、筋肉を緩めたりしなくちゃいけないけど、そういう習慣がなかった。

捉　身体がガチガチのまま試合を続けてると、ケガもしますよね。

堀田　うん。いまになっていろいろと後遺症が出てきて、病院に行って検査したら「原因は首だ」って言われて。それで足ツボを含めた整体に行ったの。最初はいまみたいに「痛い！　痛い！」とか言うじゃん。でも終わったあとに凄くすっきりして。続けてるうちに身体が良くなってきたんですよ。そこから足ツボを勉強したの。二年ほど前から試合もしながらマッサージの学校に行きました。

捉　本当に堀田さん本人が、足ツボ揉んでくれるとは思いませんでしたよ！

堀田　「あんた何？　免許なしでできんの？」って知り合いに聞かれたりさ。ちゃんと取ったっつーの、って（笑）。

捉　試合で怪我したとき、昔はどうしてたんですか？

堀田　●●●●が来て「ボキッ！」って違う方向に引っ張っちゃったりさ。

捉　うわ！　超原始的！

堀田　それで首とかおかしくなっちゃう子もいるし、首を痛めたのに腰が痛くて立てないとか。「痛い！」って言うと逆に怒られるから、「大丈夫です」って言わなきゃいけないし。

捉　確かに全女の選手、首のケガが多かった気が……。でも●さんってリングドクターもいましたよね？

堀田　あの人は内科だもん（キッパリ）。風邪薬とかくれるだけ。

捉　リングドクターの意味ないじゃないですか！

堀田　だからあの人、基本的に趣味でやってんの。

捉　趣味医！（笑）。

堀田　私がヒザの手術をする前に、病院に「一日外出します」ってウソついて出てきて、横浜アリーナで無理矢理試合したの。試合前にテーピングガチガチに巻いてね。で、試合後にすぐ冷やさきゃいけないから、●さんにテーピングのところをハサミで切ってもらったの。そしたら肉ごと切れちゃって。そこ、病院で縫ったもん（笑）。

捉　試合後、リングドクターの凶器で出血！

堀田　それで試合に出たことがバレちゃって。病院に帰ったら「手術前に何やってんだ！」ってめちゃくちゃ怒られた。

捉　リアル・ドクター・デスですね！（笑）。

堀田　●さんは「べつにバレてもいいじゃん」みたいな感じだったから。おもしろいよ、あの先生。「ごめんね〜」とか言って。

捉　そこをおもしろいと言い切れるのは、さすが女子プロレスラーです！　試合にも足ツボマッサージは活かせそうですよね。指先を使った技を多用したり。

堀田　アイアンクローとかね。

捉　くるぶしを握り潰すアイアンフットクローとか。毎日が不摂生と隣り合わせのプロレスラーには、普通に肝臓のツボ押しただけでタップさせられますよ！

堀田　でも、みんなクツ履いてるからさ（笑）。裸足の人だったら有効だけど。

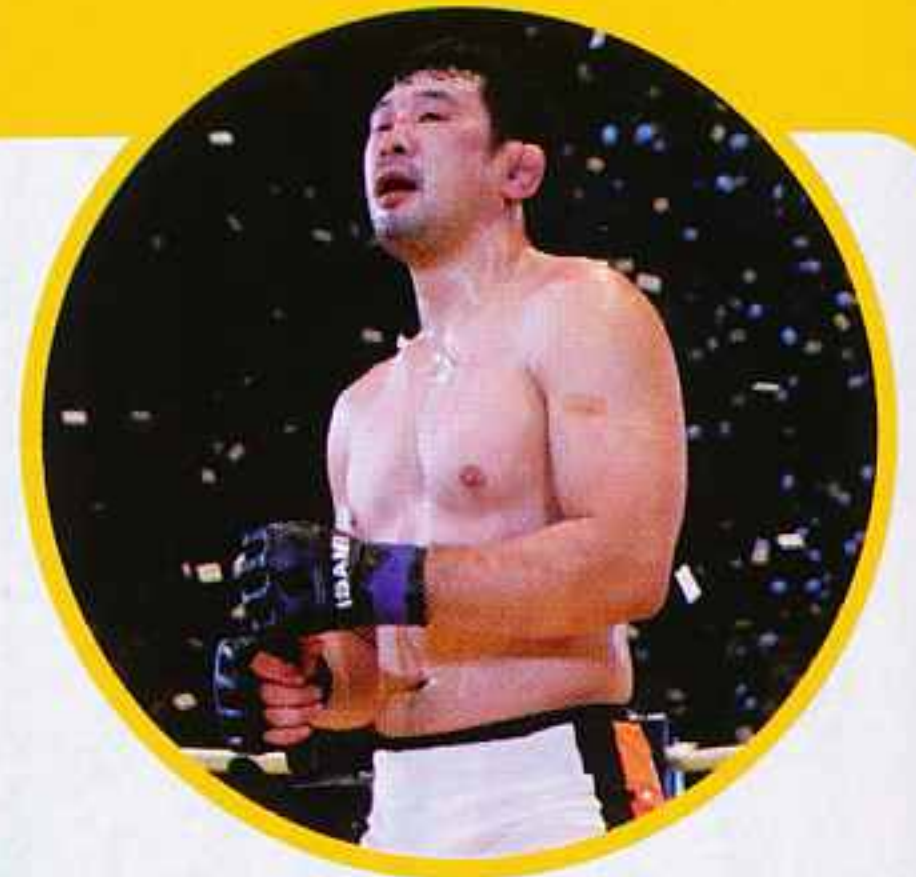
捉　「靴を脱がしてからの足ツボ攻めにより堀田祐美子選手の勝ち！」って。試合に勝つとそれが店の宣伝にもなりますよ！

堀田　いいね！　今度バトルロイヤルとかあればやってみよう（笑）。じゃあとりあえず、いまからここで新技の練習！

捉　アダダダダ！　もうギブアップです！（泣）。

ほった・ゆみこ■1967年1月10日生まれ。兵庫県神戸市出身。168cm、78kg。全日本女子プロレス入団、1985年6月プロレスデビュー。全女退団後は『AtoZ』旗揚げするも、今年、解散宣言して、フリーに。。最近は『T-1』の二見社長との抗争で知られる。店の名前の由来は堀田選手の愛称「ホッティー」。共同経営の友人と「ホッティー、どんな名前がいい？」「ホッティーでいいじゃん！」と決定。お店に"H"のつく人が多かったのも理由のひとつ。

足つぼ・整体マッサージ『HOTTY』は、東急目黒線「武蔵小山駅」徒歩5分。[住所]東京都品川区小山4-7-7［TEL］03-3785-8864［営業時間］PM1:00〜PM10:00（最終受付PM9:30）［定休］月曜　詳細はhttp://www.h-hotty.com/

Okite Porsche◎捉ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）■『ロマンポルシェ。TOUR・ハートフル体罰'06』@大阪ファンダンゴ（06-6308-1621）、10月14日（土）@福岡VIVRE HALL（092-714-2121）、10月22日（日）@新宿LOFT（03-5272-0382）。その他の出演情報は捉ブログを各自参照！【http://blog.excite.co.jp/porsche】

『HERO'S』桜庭ジャッジ問題、KID五輪挑戦、タイソンの『PRIDE』参戦に、亀田論まで!!

格闘界の話題をすべて直撃!!

「僕は格闘技よりもハンカチの話がしたかったんだけどなぁ」

やっぱりこの男、海よりも広く、深すぎる!

K-1イベントプロデューサー

谷川貞治

桜庭ジャッジ、タイソン問題、KID五輪出場……。K-1に降りかかる数々の話題、そのすべてに答えていただくべく、FEG代表・谷川"サダハルンバ"貞治氏を直撃!! じつに『kamipro』8カ月ぶりの登場なので、もう、あれもこれも全部いっぺんに答えていただきました〜。どうぞっ!!

聞き手/堀江ガンツ　構成/松下ミワ
撮影/平工幸雄　写真/乾晋也、黒田史夫
designed by matsu(TwoThree)

――谷川さん、大変ご無沙汰しております！

谷川　あれ～、今日はガンツくんが聞き手なの？

――僕だけじゃなくて今日は大物の取材ですから、大勢で来ちゃいました。

谷川　あっ！　松林パパまでいる。

松林　ハハハ！　冷やかしにきました（笑）。

谷川　なんだか怖いな～。ところでガンツくん、『PRIDE』の内情教えてよ（笑）。

――んあ～。いきなり何を言ってるんですか！　知りませんよ内情なんて（笑）。ホントは谷川さんには『kami·pro』100号に出ていただきたくて、6月にもインタビュー申請させていただいてたんですけどね。

谷川　へ～、『kami·pro』って100号になったんだぁ。ごめんなさいね。あの頃は海外ばっかり行ってたりしたから。「おめでとう」のコメントだったら寄せたのに。

――次で103号。ようやく『SRS・DX』と肩を並べるところまで来ましたよ。

谷川　『SRS・DX』って103号くらいまで出てたんだっけ？　全然覚えてなかったなあ。

――編集長だったのに（笑）。

谷川　この業界の人ってさ、よく「あの試合は自分が解説やったんだ」だとか、そういうことを覚えてる人が凄く多いじゃない。でも、僕はまったくないんですよ！（鼻の穴を膨らませて、なぜか自慢げに）。

――まったく（笑）。でも『格通』時代は表紙のビジュアルを見ただけで号数がわかるとか言ってませんでしたっけ？

谷川　まあ、最初の頃はわかりますけど……、でももう忘れましたねえ。

――いまでは、谷川さんが『格通』や『SRS・DX』の編集長をやってたって知ってる人も少なくなってますからね。

谷川　だって、『格通』やってたのはもう10年くらい前でしょ？

――これまでのいきさつを考えると、谷川さんと前田さんが一緒に興行をやってるなんて思ってもみませんでしたけどね（笑）。最近、前田さんとは仲良くやられてるんですか？

谷川　仲良くやってますよぉ。昨日も会いましたしね。たしか日本刀の話をしてたような気がするなあ。

――相変わらずそういう話をしてるんですか（笑）。

谷川　それからね、えーっと、なんとかさんの話。

――「なんとかさん」じゃ、ちょっとわかりませんね（笑）。

谷川　ほら、「オーラの泉」に出てる……。

――江原啓之さんですか？

谷川　そうそう、江原さん！　江原さんと美輪明宏さんの話もずっとしてましたね。

――前田さんは「オーラの泉」に出演してましたからね。

谷川　でも申し訳ないんだけどさ、僕、そっち方面の話、全然わからないんですよ。金縛りにも遭ったことない人間ですからね。

――スピリチュアルな話はわかりませんか（笑）。

谷川　スピリチュアルはわからないなあ。本当は昨日、前田さんとは『HERO'S』のルール問題について話すために集まったんですけどね。

――ルール問題といえば、桜庭vsスミルノヴァスのレフェリングの件で、前田さんは「止めろ！」という声が受け入れられなくて、「スーパーバイザーってなんなんだろう」というようなことを口にされていましたよね。実際のところ、スーパーバイザーって

貞治

結論的に、止めるのも正しいんでしょうけど止めないことも決して正しくないわけじゃない

桜庭和志、『HERO'S』第一戦となった8月5日の有明大会。桜庭は1ラウンド早々、スミルノヴァスの強烈なフックをくらい、前のめりに倒れたのだが……、ジャッジの判断は、桜庭の頭がロープから出てしまったのを見て「ストップ・ドント・ムーブ」。桜庭はその後も意識が朦朧とする中、闘い勝利をつかんだのだが、「あれは試合を止めるべきだったのではないか」という見方が強く、大きな波紋を呼ぶ一戦となった。

谷川

言っときますけどスミルノヴァスの入場曲は僕がやらせたわけじゃありませんから！

いうのはどのようなことをされてるんですか？

谷川　基本的には選手の発掘とか、あとは記者会見とかのプロモーション活動ですよね。だから、会見で前田さんがああいう発言をされていましたけど、試合を止める止めないを判断する権限に関してはもちろん僕にもないですし、前田さんにもないんですよね。

――たしかに、レフェリングに関しては普通はスーパーバイザーには権限はないでしょうね。

谷川　だから昨日、前田さんや審判団も含めて話し合ったんですけど、結論としてはK－1でいう角田さんみたいな審判長的役割を作ること。それから、審議委員会のようなチェックできる機関を増やすということですよね。

――そのあたりを厚くしよう、と。

谷川　実際、桜庭選手の試合のときって、秋山vs金のジャッジ問題で審判団が何人か抜けてて手薄だったこともあったんですよ。だから『HERO'S』は審判団の数が足りてないというのはあるんですよね。ただ、桜庭選手の試合に関して言うと、止め方が悪かった、と言ってしまうのはちょっと違うと思うんですよ。

――違うというのはどういうことですか？

谷川　結論的には止めるのは正しいんでしょうけど、止めなかったことも決して正しくないわけではないということです。というのは、レフェリーが「ストップ！」って言った時点で、レフェリーは桜庭選手と会話してるんですよ。「なんで止めるの？」ということをね。

――桜庭選手に意識はあった、と。

谷川　あったんです。レフェリーはそこで「いや、ストップじゃなくて、ドント・ムーブだ」という会話をしてるんですよ。それにね、当日はたまたま桜庭選手のセコンドにドクターがついていたんですよ。で、逆側のコーナーまで行ってタオル投げる状況なのかどうかも確認しているんです。だから結果的には、あそこで止めるのも正しいんでしょうけど、止めなかったのも決して正しくないわけじゃないということですよね。

――では、基本的に問題はなかった、というわけですか。

谷川　まあ、事故を防ぐという意味で早く止めるべきだったかというのは問題視すべきですけど。でも難しいなあ～。早いと早すぎると言われるし、遅いと遅すぎると言われるんですよねぇ（苦笑）。

――『PRIDE』の頃からそうでしたけど、桜庭選手の試合って、ファンや関係者から「ストップが遅い」というようなことを言われることが多かったですけど、桜庭選手だからなかなか止められないという部分もあるんですか？

谷川　それはありますね。

――ありますか（笑）。

谷川　だから、それは人気選手だからってことじゃなくて、桜庭選手のファイトスタイルがそうなんですよ。『PRIDE』でビクトー・ベウフォートと対戦したとき（PRIDE・5）もそうだったじゃないですか。カメになってボコボコにされるシーンが何回もあって、それが中には効いてるのもあるけど、ガードしてるのもあるしね。桜庭選手自体が後半に逆転するタイプなんでねえ。

――では、この前の『HERO'S』は結果的に桜庭さんが大逆転勝利を収めて終わったわけですけれども、谷川さん的にはこんなに物議を醸すような試合になったということに対して、ちょっと予定が狂ったというようなことはありますか？

桜庭vsスミルノヴァスをリングサイドで観戦していた前田日明は、リングに崩れ落ちる桜庭を見て「止めろ！　止めろ！」と絶叫。翌日の会見では、訴えむなしく試合が続行されたことを受けて「スーパーバイザーってなんなんだろうって思いました」と本音を漏らした。

谷川　いや、一番狂ったのはケガの部分が心配というだけですね。だから、もの凄くわかりやすい言い方をすれば、ああいう試合をやったことで、いままでの『HERO'S』の空間じゃない空間を桜庭選手が作った。もっと言うと『PRIDE』が好きな人が喜ぶ空間を作ってたんで、それはもう桜庭選手はたいしたもんだなと思いましたね。そういう意味では、ああいう試合展開になったこともあるんですけど、KIDも（須藤）元気もいない状況の中で、僕の想像以上の成果を得られたなという感じなんですね。それに対して、マスコミはジャッジとか、レフェリングにしか行ってないでしょ。それも狂った一つですよね。だって、あれ凄い感動的な試合でもあるでしょ。レフェリングより、桜庭選手のプロ魂に視点がいかないのは、僕はいかがなものかと思いますね、いまのマスコミが。まあ、ただケガは心配です。

――ケガというのはいまどんな状態なんですか？

谷川　まあ、いまのところCTもMRIも異常はないんですけど、大事をとってもう一回くらい大会前に病院に行って、結果を見てから決めましょうということにしました。

――谷川さんは、桜庭さんとはすでにお話はされているんですか？

谷川　会って話しましたよ。昨日やっとですね。桜庭選手が田舎帰ってたんでしばらく会えなかったんですけども。でも、嬉しそうでしたよ、サクちゃん。

――嬉しそう、ですか？

谷川　勝てたことがやっぱり嬉しかったみたい。

――ああ、そうですよね。ジャッジ問題ばかり取り沙汰されてますけど、桜庭選手にとっては大事な『HERO'S』デビュー戦をなんとか白星で飾れたわけですからね。

谷川　でね、本人は「あんまりレフェリーやジャッジのことを言われないようにしてくださいよお」みたいなことを言ってましたよ（笑）。

――桜庭さんの『HERO'S』第一戦の相手をスミルノヴァスにしようとしたのは、プロデューサーとしては、どんな狙いがあったんですか？

谷川　狙いというか、桜庭選手に楽してもらおうと思ったんですけどねぇ。

―ダハハハハ！　楽してもらうマッチメイク（笑）。

谷川　もう、あんなに苦労するとは思わなかったですよ。桜庭選手には、デビュー戦ですから、まず一回戦で楽してもらって、次にマヌーフとかとやってもらって、最後に秋山選手っていうふうに思ったんですけど、最初から大変な試合になっちゃって（苦笑）。

―いきなり死闘になっちゃいましたよね（笑）。

谷川　いきなりねえ。あの日、桜庭選手をメインにしましたけど、桜庭選手って自分の中でメインで二回コケてるって思ってるらしいんですよ。だからとにかく盛り上げなきゃということで闘ってたと思うんですけど、桜庭選手だったらタックルにいって転がして炎のコマとか懐かしいことやるかなと思ってたら、ケリも出さずに正面からノーガードで殴り合いでしたからね。桜庭選手の打撃ってじつはケリが凄くうまくてセンスがいいんですよ。

―Uインター時代からのムエタイ仕込みのケリですよね。

谷川　でも、それも使わずに「オラァ、来い！」みたいな感じの殴り合いにいったのは、……まあ、スミルノヴァスの入場曲がよくなかったのかなあ～。

―ダハハハハハ！　思わず殴りいきたくなるようなテーマ曲だった、と（笑）。

谷川　本当にね、ああいうことはやらないほうがいいと思いますよ。余計なことをすると余計なことになっちゃうからね。

―あのテーマ曲のおかげで、ゴットアングルが降臨してしまった、と（笑）。

谷川　だから「どうしてあの曲使ったの？」って聞いたら、前から使ってるらしいんですね、あれ。

―ZSTに上がったときに使ってましたよね。

谷川　リトアニアでも使ってるらしいですよ。でも言っときますけど、僕がやらせたみたいに思われるようなことだけはやめろって言ったんですよ！

―俺の仕業じゃない、と（笑）。

谷川　本当、これだけは載せてほしいなあ。

―では、誌面上でちゃんと「谷川さんの

8月2日に行なわれたファン・ランダエタ戦でTBSに6万件にも近い問い合わせが寄せられた亀田興毅。谷川氏はそんな亀田家について「ビジネスとしてもったいない」と語ったが、10月18日のランダエタとの再戦、そして弟たちの行方はいったいどうなるのか!?

亀田論？　亀田論はねえ……あまり儲かってないだろうなって

仕業ではない」と断言しておきます（笑）。しかし、結果的に考えると、あの『HERO.S』はかなりドラマチックな興行にはなりましたよね。

谷川　桜庭選手は『HERO.S』のお客さん相手によくメインを務めてくれましたよ。凄いプレッシャーがあっただろうにね。メインだけはヤダってずっと言ってましたから。

―あのー、へんな話、興行的に考えて、谷川さんとしては桜庭選手が『HERO.S』のスター選手だから負けさせられないとか、そういう考えがあったりはしたんですか？

谷川　それは全然ないですよ。まあ、K―1もそうだし『HERO.S』もそうだし、『PRIDE』さんもそうだと思いますけど、勝った負けたが重要視される……、もちろん重要な要素なんだけど、亀田選手みたいな感じじゃないですからね。

―亀田興毅とは違いますか！（笑）。

谷川　だって、一つも負けられないとか、そういうことではないじゃないですか。負ければ負けたで僕らは楽しめるし。

―なるほど。話はそれますけど、これはちょっといい機会なので、ぜひ谷川さんに亀田論というものを語っていただきたいんですけども。

谷川　亀田論ですか。亀田論はねえ……あまり儲かってないだろうなって。

―ダハハハ！　あまり儲かってないですか（笑）。

谷川　亀田選手自体は儲かってないんじゃないんですか。凄く羽振りがよさそうには見えるけど、ビジネスのやり方はあんまりうまくないと思いますね。それは会場に行ってもわかるし、売り出し方とかプロモーションを見てもそうですけど。ただ、テレビの人気はもの凄いものがあるんで、僕にとっては脅威でもあるし、おもしろい存在だなとは思います。

―たとえば谷川さんとしてはどういった部分がもったいないと思いますか？

谷川　あの人気をビジネスに代えられてないところと、あとはちょっと急ぎすぎですよね、なんでも。もっとゆっくりやればいいのになって思います。まだ20歳なんだし。あんまり急ぎすぎると早く終わっちゃいますよ。

―まあ、すでにもの凄い逆風に煽られてますけどねえ。

谷川　逆風は逆風でビジネスになるんですけどね。だから要は、根本的な人気の秘密はグレイシーと一緒ですよ。

―グレイシーと一緒！　それは興味深い話ですね。

谷川　やっぱり道場論をうまく見せてる。親子関係とかとくにね。『巨人の星』っぽいトレーニングを見せたりしてるじゃないですか。それから、グレイシーにたとえるとホイスが「兄ヒクソンのほうが10倍強い」って言ったのと同じように、亀田家は「一番年下の三男が一番才能がある」って言ってるでしょ？　もうその時点で10年保ちますよね。

―なるほど。三男はプロデビュー前から幻想があると。

谷川　その10年で三男がプロになる頃に、今度は亀田興毅選手に子どもができたりしてね。見てると早くも結婚しそうだし。

―ダハハハ！　三男の次は亀田ジュニア（笑）。

谷川　その子どもと辰吉の子どもと闘ったりとか、いろいろできるでしょ？　そういうのを含めて道場論というか、新種のグレイシーだなって感じますよね。親子とか、家族とか、兄弟とか一番おもしろいソフト

ですからね。でもグレイシーと違うのは、亀田家はテレビ型の存在ですよね。脚光の浴び方とか見てると。

——対するグレイシーは完全に活字型でしたけどね。

谷川 そうそう。だってさ、あれだけ視聴率取ってるのに『ボクシングマガジン』の売れ行きはまったく伸びてないって言ってましたもん。

——雑誌は亀田の恩恵を受けてない、と（笑）。

谷川 だから活字とは違うんでしょうね。でも、僕は活字にならないとも思わないんだけどなあ。

——実際、いまこういう話ができるわけですからね。しかし、一部ではその亀田家が今年の大晦日、K-1のライバルになるんじゃないかみたいに言われてますけど、そのへんはどうですか？

谷川 いや、ライバルにはならないですよ、絶対。だって、もし亀田選手の試合が大晦日に放送されるんなら、K-1の視聴率がよくなるはずですからね。

——それは、相乗効果で上がっていくということですか。

谷川 そうです。いままでレコード大賞が『Dynamite!!』にバトンを渡してたでしょ？　去年初めて『PRIDE』に……というかフジテレビに負けたんだけど、9時から『Dynamite!!』が始まったときに武蔵vsボブ・サップを放送したんですよ。その試合で最終的には19、20パーセントくらいの視聴率を取ったんですけど、バトンを渡されたときは5パーセントでしたからねえ（苦笑）。

——周回遅れからのスタートだった、と（笑）。

谷川 だから30分くらいかけてやっと20パーセントになったんですよ。『PRIDE』さんでやってた桜庭vs美濃輪という日本人対決でその時間帯すでに20パーセント近い数字があったんでね、亀田選手だったら30パーセントとかで渡してくれるでしょうから、『Dynamite!!』としては、まあ、ありがたい話だと思うんですよね。まだTBSさんから大晦日の話は聞いてないですから、なんとも言えないですけど。

——『Dynamite!!』が大晦日の21時から放送というのは内定しているんですか？

谷川 時間帯はわからないですね。ただ『Dynamite!!』は、去年『PRIDE』さんに負けた一つの敗因として時間帯っていうのがあったんじゃないかという話が出てたんです。で、今年は『男祭り』と同じ時間帯に始めようという話もしてるんで、そこに亀田選手が入ってきたらおもしろいことになるし、なければないでいいし。

——要は、前半戦は亀田一家にお任せして。

谷川 というほうが僕らもラクです。まあ、べつにどっちでもいいし、正式にはまだ聞いてないですからなんとも言えないですけど。

——谷川さん自身は、大晦日に向けてすでにいろいろ考えてたりとかは？

谷川 まったく何も考えてないですね（キッパリ）。

——何も考えてませんか（笑）。

谷川 いま、考えなきゃいけないのは10月の『HERO'S』のことですし、大晦日のことはまだ。

——なるほど。あと、これは大晦日にも関係してくると思うんですけど、いまってK-1、『HERO'S』のトップ選手である、魔裟斗選手、KID選手、元気選手、このへんのメインどころがちょっとフェードアウト気味に見えるんですけど、そういったことはないですか？

谷川 まあKID選手に関していえば、オリンピックを目指すということで進んでますからね。選択肢としてはめちゃくちゃワガママですけど。『HERO'S』にとっては痛いし、K-1全体からしても痛いんですけど、でもこれがまたカッコいいワガママなんで、もうしょうがないなというのが正直なところです。

——たしかにオリンピックを目指すと言われては、何も言えないですからね。

谷川 それから、元気くんは単純に体調ですね。所くんに関してもつまずきがちになっちゃってますし。そういう意味ではちょっと歯車がうまく噛み合ってないなというのは正直あるんですけど。

——これまでのK-1、『HERO'S』でいうと、テレビを通じて魔裟斗選手やKID選手がチャンピオンになる過程を見せていく流れが、非常に成功していたと思うんですけど、一度二人がチャンピオンになったいま、今後FEGとしてはどういった展開というのを見せていこうと考えているんですか？

谷川 KIDに関しては本当に頑張ってオリンピックを目指してもらうしかないです

8・5『HERO'S』ミドル級トーナメント二回戦で宇野薫をおおいに追いつめたブラックマンバ。5月の所英男戦でも、みのもんたが見守る前で無惨にも所をヒザで一蹴KO!　今後のミドル級戦線に食い込んでくる可能性大!?

ブラックマンバもスミルノヴァスもあんなつもりではなかったんだけどなあ

谷川

よね。それは純粋に応援していきたいなという感じです。そういう意味では『HERO.S』は現時点では秋山選手とか桜庭選手とかが中心になってますよね。

——ミドル級よりライトヘビー級が中心になりそうだということですか。

谷川　いや、ミドル級もKIDがいないぶん高谷くんとか宮田くんとかがチャンスをつかんでくれればと思うんですけど。彼らもバリバリに優勝する感じでもないし、そういう意味ではちょっと何か足りない感じはしますけどね。KIDがいないぶん、何か突出した選手が出てくればおもしろいことになると思いますし、まあKIDでも2、3年であそこまでにしてますから、そういう選手を育てていきたいなとは思ってるんですけどね。この前の『HERO.S』もKIDくんはいなかったけど、基本的にミドル級はいい試合だったと思っていますし。……ちなみに『HERO.S』でいうミドル級っていうのは70キロ以下級なんですけどね。

——『PRIDE』で言う93キロ級のことではない、と（笑）。まあ、どちらの階級にしても、今回の『HERO.S』のトーナメントに関しては、やたら強い外国人選手を集めた印象が強いんですけど。

谷川　そうそう。僕ってあんまりインターネットって見ないんですけど、会社でネットで流れてるおもしろい記事をピックアップしてる人がいるんですよね。その中で一番笑えたのが、トーナメント開幕前に「JZ・カルバンとかブラックマンバとかスミルノヴァスとかハニ・ヤヒーラとか、谷川の揃える金魚にはほどがある！」って書いてあるんですよ～。

——ブラックマンバもスミルノヴァスも強いじゃないか！　って（笑）。とくに、ブラックマンバは凄くいいですよねえ。

谷川　いやー、僕もあんなつもりでは思っ

先日行なわれた『PRIDE』ラスベガス大会の会見で、ビッグサプライズをもたらしたマイク・タイソン。DSE代表・榊原氏は「タイソンとはファイト契約を結んだ」と話すが、タイソンは2004年にK-1とも契約を結んでいる。果たしてタイソンが『PRIDE』のリングに登場することはあるのか!?

K-1 MAXは目線を下げないといけない 〝MAX版・所英男〟を作りだしたいですね

てなかったんですけどねえ（苦笑）。

——ダハハハハ！　予定が狂いました？

谷川　ブラックマンバは、所くんあたりにちょうどいいだろうなって思って組んでみたんですけど、なんだか宇野くんまでやられそうになるし（苦笑）。

——宇野選手が敗れてたら、ミドル級は大変でしたよね。

谷川　大変でしたよ！　まあ、そういう意味では相変わらず見事な勘の冴え渡りという感じなんですかねえ。いずれにしても、ミドル級はちょっと選手に育ってもらわないといけないなとは思ってますね。

——K-1 MAXの魔裟斗選手についてはどうですか？

谷川　魔裟斗選手に関しては、6月のサワー戦とかは正直僕は出来が良くなかったと思ってるんですよ。でも、まだまだチャンスはありますし、本人はちゃんとモチベーション上げてきてるんで大丈夫だと思いますよ。

——モチベーションは上がってますか。

谷川　決めたらガッとやるタイプなんで。まあ、MAXに関してはむしろレベルが上がりすぎちゃってるというのが問題なんですよね。9月大会の世界王者対抗戦なんかも、宍戸選手や石井選手が出るということでキックマニアの人からは「いいカードだ」って言ってもらえたんですけど、ボクシングのチャンピオンが参戦してくれても、すぐには勝てなくなってますからね。

——パッと出てスターになれるような場所じゃなくなってますよね、確実に。

谷川　だから目線を下げなくちゃいけないなということも考えて入るんですよ。もうちょっとお客さんが等身大で楽しめるような企画を立てなきゃいけないなって。

——要は、K-1 MAXにおける〝所英男〟みたいな存在が現われるように。

谷川　そう。だから、そういう選手を生み出すような場所とかを作るということも考えてるんです。

——では、FEGから新しいイベントができるという可能性もあるんですか？

谷川　イベントっていうより……、簡単にいうと一番早いのはやっぱりUFCがやってたトライアウトですよね。要するにTBSと格闘王で第二の魔裟斗を作っていこうというような。

——なるほど。K-1版リアリティショーのようなものをやると。

谷川　それが一番目線が下がるんですよ。その中から本当に強い選手も出てくると思うし。ブアカーオとかアルバート・クラウスとかとは闘えないけど、感情移入ができるというような。そういうことはやっていきたいなって思ってます。キラー・ビーとかシルバー・ウルフとかで練習させるのもいいと思うし。前に『PRIDE』で一回やってましたけどね。なんだっけ？

——『PRE・PRIDE』ですか？

谷川　そうそう。それをテレビでやっていくのが一番早いかなあ。

——UFCだってリアリティショー『ジ・アルティメット・ファイター』によってブレイクしたわけですからね。『HERO.S』の話に戻ると、ブロック・レスナーの参戦というのは、いつ頃になりそうですか？

サップ選手？　彼は生活が安定してるって話を聞いてますけどねえ～

谷川　はっきり言って、レスナーはまだ考えてないですね。

——まだ考えてませんか（笑）。

谷川　とりあえず契約はしたんで、アメリカ大会での大きなタマにしようとは思ってるんですけどね。でも、アメリカ大会に関してはちょっとですね、あまりにも時間がなくて保留になってるんですけど。まあ、慌ててやるよりも『PRIDE』さんの状況とか、そういうのを見ながらやっていきたいなと。10月とかだったらもろにバッティングしちゃうでしょ。UFCも必死ですからね。そういう意味ではちょっと様子を見ながらやっていこうかなって。

——向こうで開催するとしたら、やっぱりラスベガスになりそうですか？

谷川　一番ラクなのはラスベガスですけど、ブロック・レスナーのことを考えたら東部でやるのもいいかなって思ってますね。それこそニューヨークを本拠地とするWWEに上がってましたし。ミネソタも東ですからね。

——レスナーはミネソタ大学出身ですからね。

谷川　だから、そのへんはまだ時間があるんで、いろいろ考えてからおもしろいことをしようと思ってますよ。

——でも、アメリカって格闘技ファンとプロレスファンが完全に分かれてるじゃないですか。このあいだK—1ラスベガス大会でレスナーが挨拶したときも、あまり歓声が上がらなかったみたいですけど、ニーズってあるんですかね？

谷川　興味は凄くあると思いますよ。ファン層が違うと言っても知名度はありますからね。UFCのダナ・ホワイト社長は「（レスナーは）ウチでやれば、PPVでホイスvsマット・ヒューズ以上の売り上げが出る」って言ってましたからね。

——アメリカといえば、先日『PRIDE』の記者会見にマイク・タイソンが会見に登場しましたけども。

谷川　ああ、そうだよねえ。

——以前、タイソンと契約したと言っていたK—1さんとの関係というのは、いったいどんな状況なんですか？

谷川　仲いいですよ～。

——仲良しですか（笑）。

谷川　ファイト契約もまだ持ってるはずですからね。

——えっ!?　じゃ、二重契約になってるってことですか？

谷川　（平然と）そんなのしょっちゅうでしょ。

——しょっちゅうなんですか！（笑）。

谷川　だから、『PRIDE』さんもだいぶ苦労されると思いますよ～。

——谷川さんの言葉には非常に実感がこもってますけど、やっぱりだいぶ苦労されたんですか？

谷川　苦労しましたねえ（しみじみ）。っていうか、契約するまでは大丈夫だったんですけど、契約してからが大変でしたね。契約どおりにやってくれればいいんですけどねえ～。

——ダハハハ！　じゃあ、『PRIDE』がタイソンをどう使うかというのは非常に見ものというわけですね。

谷川　僕らも「じゃあ、試合組みましょうね」って言ったら、いきなり「ボクシングの試合やらせてくれ」って言われましたもん。

——あ、いきなり（笑）。

谷川　「ケビン・マクブライドとボクシングルールだったらK—1のリングでやってもいい」って。それじゃ、こちらとしてはK—1でやる意味はないですからね。僕らもちょっと望みが高かったというのもあるんですけど、K—1ルールでやってほしいとか。

——タイソンvsサップ戦という話もありましたよね。

谷川　あ～、サップ戦、あったねえ。

たにかわ・さだはる■1961年9月27日、愛知県出身。格闘技専門誌『格闘技通信』『SRS-DX』などの編集長を務めたのち、K-1イベントプロデューサーに。最近は多忙をきわめる中、仕事の合間を縫ってジム通いに精を出しており、なんと、7キロの減量に成功!!

——ちなみに、サップについても一騒動ありましたけど、いまはどういう状態なんでしょうか？

谷川　あれはもう弁護士同士の話ですね。それに、本人にやる気がなかったらどうにも修復しないんじゃないですか。うちは単純に試合をオファーするだけですからね。契約解除とか、そういうことをするんだったら訴えますよって話ですよね。本人がどういうふうに考えてるのかはわからないですけど。

——でも、サップ選手も一応失業中ということですから、大変なんじゃないんですかね？

谷川　いや、生活は安定してるって聞いてますよ。

——安定してますか（笑）。

谷川　どこでもらってるのか知らないけど。でも、そうじゃないと裁判とかやらないでしょう、彼は。

——どっからか給料が出てるってことですかね？

谷川　給料っていうか、稼いでるんじゃないですか？　僕はよくわからないですけど。

——では、お時間もないみたいなので、今日はこんなところで……。

谷川　もう終わりでいいの!?

——だって谷川さん、10分後にK—1の記者会見始まりますよ（笑）。そろそろ終わらないとヤバいんじゃないですか？

谷川　そうだよねぇ。でも、もっと意地悪なこと聞かれるかと思ったな～（笑）。

——いやいや。それはまた今度（笑）。

谷川　でもね、ガンツくん。いま世間の人は格闘技じゃないよ。

——ダハハハ！　そうなんですか。いま世間の興味はどこにあるんですかね？

谷川　いまは「ハンカチ王子」一色でしょう。だってこのあいだ、後楽園ホールへ行く途中、WINSで競馬やってるおじさんたち見たら、みんなハンカチで汗拭いてたからね。

——それ、単に夏だからじゃないんですか？（笑）。谷川さんのハンカチ論は聞いてみたかったですけどね。

谷川　僕いま、ハンカチのことだったら、一時間でも二時間でも話せるよ～。

——ダハハハ！　じゃあ、次回はハンカチをお題にして取材申請しますので、よろしくお願いします！

【06年8月30日／都内ホテルにて収録】

子賢？ どうなる桜庭!?

O'S』は いろんな意味で 濃い!!

いよいよ本番である。何がって“桜庭和志in『HERO'S』”が、である。10月9日、横浜アリーナで開催される『ミドル＆ライトヘビー級世界最強王者決定トーナメント決勝戦』こそが、『HERO'S』にとって桜庭はどんな存在なのか、桜庭にとって『HERO'S』がどんな舞台なのかが初めて本格的に問われる大会なのだ。

『HERO'S』初登場を果たした前回のケスタティス・スミルノヴァス戦での桜庭は、まだ“スペシャルゲスト”だったんじゃないか。試合内容やレフェリーストップの判断で物議を醸したことはともかく、あの日の桜庭はまだ“ついに『HERO'S』参戦を果たした大物ファイター”だった。だからファンの視線にも温かさやリスペクトが感じられたし、そもそもスミルノヴァスは“桜庭用の相手”だったはずだ（実力的な問題ということではなく）。

だが、今回は違う。桜庭が準決勝で対戦するのは、秋山成勲なのである。秋山は、山本KID徳郁や須藤元気と並んで『HERO'S』の最も中核にいる選手。いや、プロとしてほかの舞台（たとえば修斗やUFC）を経験しておらず、K−1系イベントだけで闘ってきたことを考えれば、『HERO'S』を最も象徴する選手だといえるかもしれない。サラ・ブライトマンの曲でセコンドと手をつなぎながらの入場から、試合後の「柔道最高！」、みのもんたとの抱擁まで、嫌いな人は徹底的にダメなようだが、しかしあれこそが『HERO'S』なのだという気もする。

秋山と闘うということは、桜庭はもうゲストではないということである

そういう選手と闘うということは、つまり桜庭はもうゲストではないということだ。参戦すること自体にニュース性があった前回とは大きく違い、今回の桜庭は『HERO'S』の世界に両足で踏み込む、いや、全身どっぷりと漬かるのである。そういう試合で、桜庭が我々に何を見せるのか。あるいは我々に桜庭がどう見えるのか。試合内容はもちろん会場のムード、テレビ中継の煽り方、谷川さんが解説で何をしゃべるかまで含め、『HERO'S』の象徴的存在である秋山との試合からは、桜庭と彼が選んだ新たな舞台との関係性が濃厚に漂ってくるはずだ。これは“受け入れられるかどうか”といった単純な問題ではない。実際、受け入れられればいいというものでもないだろう。

忘れてはいけないのは、秋山という選手が相当な実力の持ち主だということだ。柔道出身組でいえば、秋山は総合ファイターとして吉田秀彦と並ぶ、もしかするとそれ以上のポテンシャルを持っているように思える。永田克彦を一撃でノックアウトしたバックキック、あれは決して偶然の産物ではない。昨年11月の『HERO'S』ソウル大会で奥田正勝を倒したバスター（腕十字をかけられたまま相手を抱え上げ、マットに叩きつけた）からのパウンドにも、秋山が持つ才能の片鱗がうかがえた。デビュー5戦目の組み技格闘技出身者が、あそこまで容赦なく相手を叩きのめせるのは本当に稀有なことだ。

秋山自身は、桜庭を「キャリア、実力、経験、すべてが（自分より）上」と語っている。だが最近の闘いぶりを比較すれば、秋山は桜庭にとって相当に厳しい相手だと言わざるを得ない。そして準決勝で秋山に勝ったとしても、決勝では（おそらく）メルヴィン・マヌーフが待ちかまえている。

桜庭は『PRIDE』でヴァンダレイ・シウバと3度闘い、いずれも敗れ、その後にシュートボクセに出稽古を行なうようになった。その桜庭が、シウバにも似た獰猛なストライカー、マヌーフと闘うというのは興味深い。まだ過渡期ともいえる“シュートボクセ仕込みの打撃”で勝負するのか、それとも桜庭の“根っこ”であるレスリングと関節技で対抗するのか。そして何より、勝てるのか……。つまり今大会では実力はもちろん、ありとあらゆる意味で“桜庭和志”が問われることになるのだ。

もう一つのトーナメント、ミドル級も見逃せない。「KIDも元気も出てないんじゃあ……」という意見はもっともだが、そのぶん、今年のミドル級トーナメントでは新風が吹きまくっている。4強に残った外国人、アイヴァン・メンジバー、J・Z・カルバン、ハニ・ヤヒーラは、いずれもこのトーナメントから『HERO'S』に参戦した選手である。いわば新参者が勝ち上がり、期待を背負った所英男は二度のチャンスを逃してしまった。こういう現象が『HERO'S』で起こるというのはおもしろい。基本的に“人気者祭り”といったテイストが濃い『HERO'S』だが、彼らの活躍によって、そこに微妙な陰影や深みのようなものが生まれているのだ。

そんな強豪外国人に囲まれるかたちで優勝を狙うのが、宇野薫。最近の宇野には、いわゆる“人気選手”にとどまらない味が出てきたように思える。高い技術を持つ実力者でありながら、かつての宇野には強烈な個性のようなものが薄かった。もの凄くコアに試合ぶりを評価するか、もの凄くミーハー的に応援するかの両極端。だが最近の試合では必死の形相で一本を取りにいき、タップを奪えば思いっきり咆哮、とギラギラしたものが感じられる。“いい選手”から“凄い選手”へ。いまの宇野には“ファッション誌にも登場する”云々の煽りなど必要ないくらい、ファイターとして万人の目を惹きつける迫力があるのだ。

桜庭和志の正念場。意外性溢れる強豪たちが争うミドル級トーナメント。今大会をきっかけに“テレビ中継を主としたライト層向けのイベント”という『HERO'S』のイメージは覆されるかもしれない。濃いぞ、この大会は。

（橋本宗洋）

Sammy Presents HERO'S ミドル級&ライトヘビー級2006 世界最強王者決定トーナメント 決勝戦

どうする金

10.9『HER

TBSオールスター感謝祭格闘技戦争勃発か!?

衝撃!! あの"PRIDE"ファイター 金子賢が『HERO'S』に電撃参戦!!

あの"俳優"が『HERO'S』に電撃参戦!……といっても、ハリウッド超大作『オーシャンズ13』に力士役としてスクリーンデビューする曙さんのことではない（一応出場予定だけど）。

あの"俳優"とは、昨年末の『PRIDE男祭り』に参戦し、おおいなる賛否両論の渦を巻き起こした金子賢!! あの『男祭り』以来、俳優としても格闘家としても、ほぼ表舞台に姿を現わさなかった金子だが、10・9『HERO'S』にて総合第二戦目を闘うことが決定した。

昨年の『男祭り』では、約10ヵ月間、髙田道場で厳しいトレーニングを積み、さらにはブラジルに渡りシュートボクセでの地獄の特訓をも克服。フジテレビの猛プッシュも受けてか、『PRIDE』参戦が認められることとなった金子。『男祭り』参戦後も俳優活動は休止したまま、ともにシュートボクセでトレーニングを積んだ桜庭和志や、個人的に交友のある魔裟斗の所属ジム・シルバーウルフを拠点にして総合の練習を続けていたという。

9月19日、都内ホテルで行なわれた会見では、FEG谷川代表がその経緯について「『男祭り』に出場したときは、正直、"話題作り"のためなのかなって思ってましたけど、金子くんと親交の深い『HERO'S』の選手から金子くんがもの凄く真剣に取り組んでるという話を聞きまして。いろいろ……まあ、フジテレビのプロデューサーの方からも話があって、今回金子くんに声をかけさせていただきました」と説明。

金子自身も「（『PRIDE』側は）険悪でもなく、気持ちよく送り出してくれました」とコメント。しかし、一方のDSE榊原代表は同じ日に行なわれた『PRIDE』ラスベガス大会の会見の場で、「話し合いなんかあったっけ?」と笑みを浮かべるシーンがあったという。

……とまあ、いろんな意味で、10・9『HERO'S』のリングに立つ金子の姿は見逃せないのだが、この日の会見では対戦相手は難航中とのことで発表されず（本誌発売日には発表されているかもしれないが）。金子自身は「所くんなり須藤元気くんなり、『HERO'S』には素晴しい人がいるんで、胸を借りられたらと思います」と前向きな姿勢を見せており、谷川代表は「『HERO'S』らしい相手を当てたい」と自信満々。さらには、金子の『Dynamite!!』出場もほのめかし、「もちろん、視聴率にも期待してますよ〜」と早くも年末の視聴率戦争を見据えるコメントを残した。

『PRIDE』参戦会見とは打って変わって、『HERO'S』参戦会見に金子は自信に満ちた表情で姿を現わした。果たして『HERO'S』で金子はどんな闘いを見せるのか。本誌的には曙さんとの"俳優"対決（谷川代表は否定）、もしくは、先輩芸能人ファイターとしてボビーorアンディとの二番勝負、はたまた坂口兄、押尾学との"イケメン系"対決という手もあるし、さらに簡易土俵で藤原組長と壮絶な大一番を繰り広げたチャック・ウィルソンとのリアルファイト、というTBSオールスター格闘感謝祭的対決を期待したいんですけども……。とにかく! 賛否両論金子賢の格闘ストーリー、まだ始まっちゃいねえよ!（キッズリターン調）。

この写真は、8・5『HERO'S』の会場にて、五輪挑戦のため本大会はリングサイドでの観戦となった山本KIDを撮ったはずの一枚だったのだが……、なんと! そこにはサングラスをかけた金子賢の姿が!!

HERO'S 2006
ミドル級&ライトヘビー級
世界最強王者決定トーナメント決勝戦

10.9（月・祝）16:00（開始予定）／神奈川・横浜アリーナ

[対戦カード]
【ライトヘビー級世界最強王者決定トーナメント】
桜庭和志 vs 秋山成勲
メルヴィン・マヌーフ vs 大山峻護
【ミドル級世界最強王者決定トーナメント】
宇野薫 vs アイヴァン・メンジバー
J.Z.カルバン vs ハニ・ヤヒーラ

[出場予定選手] 金子賢、曙、宮田和幸
[チケット料金] SRS 25,000円／S 15,000円／A 6,000円
[問い合わせ] HERO'S実行委員会　TEL／03-5775-5065

ミドル級世界最強王者決定トーナメント

宇野薫
アイヴァン・メンジバー
J.Z.カルバン
ハニ・ヤヒーラ

ライトヘビー級世界最強王者決定トーナメント

桜庭和志
秋山成勲
メルヴィン・マヌーフ
大山峻護

U魂を受け継ぐ田村潔司の秘蔵っ子

中村大介を知っているか

～師匠から弟子へ Uの精神、ここに顕在!!～

**8・26『武士道・其の十二』池本誠知戦で、中村大介が大変な好試合を展開したのは、まだ記憶に新しい。
中村が観客を魅了させることができるのは、まさにこの男にUの魂があるからに違いない!!
そして、そのU魂を伝承したのはもちろんUの象徴ともいえる田村潔司。二人が強くこだわるUとは？**

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　構成／松下ミワ
designed by hisa（TwoThree）

――今日はU－Ｚｅａｌのエース中村大介選手と、その師匠である田村潔司さんの対談……というか、中村選手はあまりしゃべるタイプじゃないということで、田村さんには〝通訳〟をお願いしたいと思います（笑）。

田村　ああ、そういうことね（笑）。あと、賑やかしでもう一名、U－ＦＩＬＥの白井（裕一郎）も同席させたんで。

白井　よろしくお願いします。

――ま、３人いれば、なんとかインタビューも成立するでしょう（笑）。では、本題に入らせていただきますが、ちょっと遅くなりましたけど、中村さん、先日は『ＰＲＩＤＥ武士道』初勝利おめでとうございました！

中村　ありがとうございます！

――今回の『武士道』はいかがでしたか？

中村　そうですね、やっぱり大きい舞台なんで楽しかったです。

田村　緊張はした？　なんか試合前に寝不足だったりしたんだよね。

中村　なんかちょっと疲れというか、あんまりテンションが上がらなかったんですよ。でも直前はちゃんと上げていきましたけどね。

田村　そういうときって、どうやってテンション上げていくの？

中村　この前は、レガース履いたら勝手にテンション上がりました（真顔で）。

――なんだかジョシュ・バーネットと同じようなこと言ってますね（笑）。

中村　やっぱり好きだったんで、Uが（照）。

田村　中村はUインターというか、U系が好きなんだよね。

――その当時は誰のファンだったんですか？

中村　（チラチラ横を見ながら）田村さ……。

――田村さんは除いてでお願いします（笑）。

中村　だと……、高田さんと垣原さんですね。初めて会場に見に行ったのは中学一年の頃で、あれは神宮球場の大会だったんですけど。

――もしかして、冬の神宮ですか？

田村　ああ。たしか高田さんがベイダーとやったときだ。

中村　田村さんは、メダリストと試合してたんですけど。

田村　ええっと……、カズラスキーだっけ？

中村　そうです！　デニス・カズラスキー。

――よく覚えてますねえ。僕もその大会はお客として観に行ってましたけど、正直、田村さんの試合はまったく記憶にございません！（笑）。

田村　正直に言うな！（笑）。

――いや、あの日はひたすら寒かったという記憶しか残ってないですね。12月に屋外でやるもんじゃないですよ！

田村　アハハハ！　でも、そういうのあるよね。わかる、わかる。中村は、そのときはチケット買って行ったの？

中村　新聞の読者プレゼントで当てました。

田村　タダ券かい！（笑）。

中村　『読売新聞』のプレゼントに当たって、そこから観に行くようになったんですよ。

田村　でもね、ぶっちゃけ言うけど、新聞で募集かけてるチケットプレゼント系は応募した人にはみんなに配るようにしてたらしいよ。

――そうなんですか!?

中村　たしかに僕、毎回当たってましたもん!!（興奮気味に）。

――毎回かよ！（笑）。

田村　いや～、なかなか盲点を突くねえ、中村くんは。

中村　そのあともけっこう応募して、１００パーセント当たってましたね。だから、最初に当たった中一のときから中三まで、ずっとそれで観てました。都内の大会はほぼ全部。

――それは知らなかったですねえ（残念そうに）。でも、Uインターの崩壊はそういうところに要因があったのかもしれませんね（笑）。

田村　いやいや、そういうことじゃないと思うけど（笑）。まあ、でも難しいよね。興行を主催する側の意向ってのがどの方向に向いているかって問題だから。招待券を配っても満員に見せたいのか、それとも実券で買っても

U魂伝承対談

Uの象徴 田村潔司 × Uを体現しまくる男 中村大介

「中村くんって試合の組み立て方がうまい。だから、勝っても負けてもだいたいおもしろい試合になるんだよね」

「僕、修斗系の〝倒してパウンド〟とか、そういうのって好きじゃないんで」

らうのかっていうね。でも一万人クラスの興行だったら招待券は仕方ないような気もするけどね。だって、○○○とかでも後楽園だと実券は400枚くらいしか売れないらしいよ。

――へえ～。じゃあ、調布アリーナとあまり変わらないじゃないですか。

田村　いやいやいや、調布は何十人っていうことがあるから（笑）。

――そうでしたか。……それで、レガースの話に話題を戻しますけど、レガースを着けるというのは、気持ちが高ぶる以外に何か利点があるんですか？

中村　正直、それだけですね（笑）。

――レガースって、履いてると蹴りの威力も落ちるんじゃないですか？

中村　正直落ちます（キッパリ）。でも基本的に僕はケリは出さないんで。

田村　正直すぎるよ（笑）。

所くんはU-FILEでも練習してるよね　どう？　一緒に練習してて（田村）

――その『武士道』は田村さんもセコンドについてましたけど、弟子はいかがでしたか？

田村　セコンドっていっても、中村くんの試合はあんまり言わなくても、自分の思ってるとおりに動けるから、こっちは冷静に見てるって感じ。危ない試合も少ないと思うし、危なくても本能で動いている部分があるからね。昨日、パンクラス（9・16／ディファ有明大会）の白井の試合のときは喉が嗄れるくらい叫んだだけどね。

白井　（恐縮して）すみません（笑）。

田村　でも、白井も中村も、前に出ようという意識があるから、勝っても負けてもだいたいおもしろい試合になるんだよね。それにしても、昨日の白井の試合はけっこうヒヤヒヤしたなあ。

――そうだったんですか？　大久保ちゃんとどっちがヒヤヒヤしますか？（笑）。

田村　う～ん、大久保のほうがヒヤヒヤするねえ（苦笑）。そういえばさ（急に話を変えて）、昨日のセコンドおもしろくなかった？

白井　あ、そうですか？　僕は試合に集中してたんで、よくわからなかったですけど。

田村　あのね、水野（竜也）の試合で川本ちゃん（ジム生）がセコンドで、そのアドバイスが的確なんだけど的確じゃないの。

――どういうことなんですか？（笑）。

田村　セコンドの言葉って、基本的に短い言葉のほうが選手には伝わりやすいのよ。「ロー」とか「パンチ」とか。でも川本ちゃん「そう！　昨日やったヤツだ！　昨日やったヤツだ！」「おまえから見て左！　おまえから見て左」とかね。もう、一所懸命でそれがツボにはまって。川本ちゃんは練習でも熱血なのよ！　彼は熱い男だよ！　それでさ……、なんの話だったっけ？

――（冷静に）『武士道』の話です。

田村　あ、そっか。だから中村くんの場合はねえ、一言も声を発しないこともあったんで、非常にラクというか、気疲れがないよね。

――しかし、あの試合は久々に〝U〟を彷彿とさせる寝技の攻防が観られたし、いまの『武士道』の中では異質でおもしろかったですね。もの凄く良く言うと、ノゲイラvsジョシュのちっちゃいバージョンみたいな感じで。

中村　ありがとうございます。僕も修斗系というか、〝倒してパウンド〟っていうのは、はっきり言うとあんまり好きじゃないんですよね。自分は普段の練習からグラウンドで動くスタイルというのを、心がけてるのでなおさら。

――中村さんはU－Zealでも活躍されてますけど、『武士道』はU－Zealの延長というか、そういう感じなんですか？

中村　っていうより、自分の中では同じものだと思ってます。

――じゃあ、どこのリングであっても、やりたいのは常にああいうスタイルだと。

中村　決して負けてもいいと思ってるわけじゃないんですけど、内容を重視しているというか、つまらない試合をするよりはおもしろい試合をして負けたほうが上だと思ってます。

――『武士道』では、もっと上のほうでやりたいという気持ちもあるんですか？

中村　もちろんあります。自分のこのスタイルがどこまで通用するのかを試してみたいという思いがあるので。

8・26『武士道』の挑戦試合として行なわれた中村vs池本戦では、中村が腕を取れば、池本が回転しながら逃げるという、なんとも目まぐるしい展開に。この一戦をチャレンジマッチと呼ぶのは贅沢というもの。また『武士道・其の六』では五味を破ったアウレリオ相手に判定まで持ち込んでいる。

U魂 伝承対談

楽しいです！　僕と同じようなスタイルだっていうのもあるんですけど（中村）

田村　中村くんは出稽古をしないもんねえ。
―あ、そうなんですか。
中村　そこはこだわりというか、U－FILEだけで、Uの技術で上のレベルの人に勝てるようになりたいというのはあります。だから、出稽古は一回もないです。
―一回も!?
中村　それに、あんまりほかのジムの人と仲良くなるのは好きじゃないんですよ。……まあ、人見知りというのもあるんですけど（照）。
田村　アハハハ！　それが一番じゃないの？
中村　はい（笑）。
―でも、観客としてみると、そういうこだわりはおもしろかったりしますよね。
田村　テーマが出てきたりするからね。それで、中村くんは闘いたい選手とかはいるの？
中村　所英男選手とはやらせてもらいたいなって前から思ってます。まあ、ちょっと階級が違うってところがあるんですけど。
田村　そういえば、所くんはU－FILEでも練習してるよね。どう？　一緒に練習してて。
中村　楽しいです！　僕と同じようなスタイルだっていうのもあるんですけど、スパーリングとかやるとくに。
―僕も所選手と中村選手が闘ったとき、新たな"U"が立ち上るんじゃないかと思うんですよ。
田村　なるほど。じゃあ、所くん以外だと？
中村　えっと……、長南さんですね。
―おおっ！　長南選手ですか！　それはおもしろいですね。長南選手は最近『武士道』の83キロ級からDEEPの76キロ級に階級を下げるという話ですから、中村選手とは体格的にも差がなくなってきていいですね。
中村　あ、……でも、べつに挑戦とか、そんな長南さんに敵意とかはないんですけど（遠慮がちに）。
―誰もそんなこと言ってませんよ（笑）。
田村　何をそんなに気を使ってるのよ（笑）。
中村　い、いや（あわてて）、やっぱり昔凄い稽古つけてもらったんで、純粋に自分の成長を見てもらいたいなって。
田村　勝ちにいく試合っていうのを、先輩相手に挑戦したいってことだよね。
中村　あ、それです！
田村　まあ、それが教えてもらった人への一番の恩返しになるからね。でもなあ、長南はともかく、所くんは難しいんだろうね。
―とりあえず、『HERO'S』か『武士道』というわけにはいかないでしょうからね。
田村　中村くんから見たら、そういう格闘技界の図式というのはどういうふうに思う？
中村　正直なところ、全部一つになればいいなあとは思います。やっぱり、闘いたくても闘えない相手とかがどうしても出てくるんで。
田村　そうだよねえ（しみじみ）。でも、難しいよね。俺も選手として、中村くんが言ったような気持ちもわかるのよ。正直、べつにやっていいんじゃないかって気持ちになることもあるんだけど、立場によって考え方や見解もあるから、そう簡単にはいかないもんだなというのは実感するけどね。まあ大人の事情ってやつですよ！
―僕が思うに、中村さんなんかはZSTに出たらおもしろいんじゃないかなって凄く思うんですよね。U－FILEからZSTに出すのも難しいんですかね。
中村　スタイル的には僕に合ってると思うんで、出たい気持ちはありますね。スタンド打撃も有効に使えるだろうし。
―で、ZSTは難しいですか？
田村　う～ん、いまは『武士道』でいけるところまでいったほうがいい気がする。
―あ、難しいですか。じゃあ、田村さんが『HERO'S』出るのは？
田村　いち選手として考えると凄い簡単（アッサリ）。
―そっちは簡単なんですか（笑）。
田村　簡単なんですけど、やっぱり難しい問題は出てくるよね。逆に俺が『HERO'S』に出ることによって、U－FILEにも迷惑をかける場合があるから。まあ大人の事情はありますよ！
―なるほど。そんな複雑な格闘技界ですが、中村選手は今後どんな目標を持ってますか？
中村　いま『武士道』に出させてもらってるんで、そのまま上を目指したいと思ってます。
―『武士道』のライト級はかなりのメンバーが揃ってますけど、そこに食い込みたいという気持ちもあるわけですか？
中村　あります。去年トーナメントがありましたけど、自分もその中に入りたいなというか嫉妬みたいなのがあったんですよね。追い込んで練習すれば勝てると思ってますし。
―中村さんはこう言われてますけど、田村さんは中村さんのどんな部分が強いと思いますか？
田村　う～んとね、たとえば100人受講生がいるとしたら、決して100人全員が上を目指しているわけじゃないじゃない。その中から、せいぜい5人くらいがプロ思考になるんだと思うんだけど、中村くんは確実にその5人の中には入ってるし、そういう意味では向上心はあるんだろうなとは思ってる。練習も、昼間と夜とってやらされてるとかそういう意識はないだろうし。
―いまはジムもいっぱいありますし、選手も増えてますから、自主的に動いていかない

毎月第2土曜日に西調布格闘技アリーナでは、試合を観た観客の査定によって選手の報酬が決まるという斬新なアイデアを持ち込んだU-Zealが開催されている。中村の言う「お客さんを喜ばせる試合」というのはここで徹底的に磨かれているのだ！

伝承対談

U魂伝承対談

といけない部分もありますからね。

田村　そうそう。昔はひっぱたかれてやらされてたんだよね。でも、自分で自分を追い込まないといけないいまの環境で、中村くんは凄い自分に厳しくできてると思う。

――田村さんは中村さんと一緒にスパーリングやったりとかはするんですか？

田村　たまにあるよ。週イチとか月数回。

――へえ。ちょっといい機会なのでお聞きしたいんですけど、田村さんって、普段はいったい誰と練習してるんですか？

田村　誰とって、中村くんとかだよ！　あとはジム生だよね。

――あ、そうなんですね（笑）。

田村　あのね、言っとくけど、U―FILEもけっこう選手が育ってきてるからね。ある部分で捉えると俺を抜いてる選手もいたりするのよ。

――田村さんを抜いていますか！

田村　西内太志朗、大久保、白井は全体的なバランスがいいし、中村くんは踏み込みが凄い早いし、松田（英久）は寝技のスペシャリストだし、佐々木（恭介）の守りは堅いし、小武（悠希）のミドルは早いし、みんなそれぞれ俺より部分的に上回るものは持ってるからね。まあ老体にムチ打って頑張りますよ！

――なるほど。では、師匠から見て、中村さんにはどんな選手になってほしいですか？

田村　そうだなあ。どうだろうねえ。……逆に、どうなりたいの？

中村　やっぱりベルトとか、そういうところももちろん目指すんですけど、僕としては観にきたお客さんに影響を与えられるような選手になりたいなって思ってます。自分もファンとして凄い試合とか見てしまったら「頑張ろう」って思うんで、そういう試合を毎回できるような選手になりたいなって。あとはやっぱりU―Zealを盛り上げたいですね。

――U―Zealは中村さんと同化しているところもありますからね。ところで、田村さん。U―STYLEはいまどうなってるんですか？

田村　困ったもんだよね。

――困りましたか（笑）。

田村　でも、U―STYLEは俺の中でもこだわりがあるから、誰にでも上がってもらいたくないってのがあるからさ。でも、前回のシリーズでリーグ戦やって中村くんにも出てもらったんだけど、イチ客として客観的に観たときに、やっぱりおもしろいなって感じたんだよね。だから、今後は中村くんとか、佐々木恭介とか、大久保ちゃんとか、ある程度できる選手が育ってきてるっていう思いはあるんで、やりたいなというのはあるよ。

――もうちょっとU―STYLEが話題になって、調布アリーナが毎回満員になってきたら、後楽園ホールでも見たいですけどね。メインを田村さんにして、とか。

田村　でも、そうなるとね、相手がいなくなっちゃうんだよ。

――いや、一人いるじゃないですか（無言で中村に視線を送る）。

田村　そうだね（笑）。（中村に）よろしくお願いします。

中村　い、いや、こちらのほうがよろしくお願いします（謙遜して）。

――では、いつか田村さんと中村さんの素晴しい試合が見られる日を期待しております。今日はありがとうございました！

【06年9月17日／調布のカラオケボックスにて収録】

なかむら・だいすけ■1980年6月10日、東京都出身。U-Zealのエースとして活躍するU魂の体現者。06年4月3日のマーカス・アウレリオ戦で『武士道』デビュー。8月の池本誠知戦では武士道挑戦試合ながら、ベストバウト級の好試合で勝利。176cm、71.3kg。

たむら・きよし■1969年12月17日、岡山県出身。第二次UWF、Uインター、リングスを渡り歩いた生粋のU戦士。『PRIDE.31』に体重差20キロもあるノゲイラと闘って以来、試合から遠ざかっているが果たして、次に選ぶ舞台とは!? 180cm、85.0kg。

格闘技界の話題をお届けする 紙のMMA通信

格闘技界のホットな話題をお届けするMMA通信では、今回、3つのトピックスを独断と偏見でピックアップ。この中にはYAHOO!のトップニュースにもなった注目の話題もあるので、見逃すべからず！

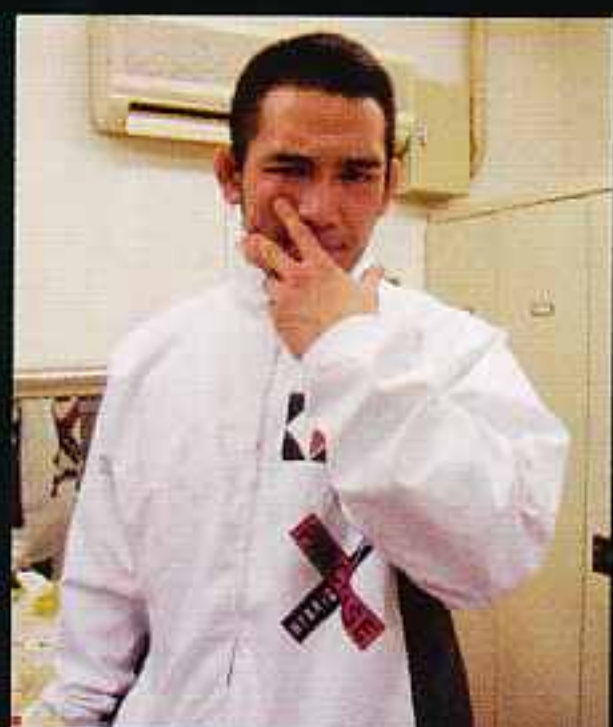
“怪物くん”こと横井宏考がラスベガスの金網で大暴れ!!

［9･15 World Professional Fighting Championship in ラスベガス］

アメリカ・ラスベガスで行なわれた円形金網マッチ『World Professional Fighting 』で、“怪物くん”こと横井宏考が快勝！　じつに総合ルールでは3年半ぶりの勝利となった。おめでとう!!　そんな横井の相手は、かつてリングスなどで闘っていたリカルド・フィエートの弟、アンドレ・フィエート（オランダ）。1ラウンドからチョークスリーパーを極め、見事一本勝ちでの勝利を飾った。次回も一丁、お願いします！

話題騒然!!　ビッグサカの息子がMMAデビュー戦でKO勝利!!

［9･16 パンクラス･ディファ有明］

“ビッグサカ”坂口征二の長男で、俳優・坂口憲二の兄である坂口征夫が、パンクラス本戦前に行なわれるアマチュアの一戦「パンクラスゲート」に出場し、なんとKO勝利!!　坂口兄は対戦相手の小野明洋からパンチを浴びて顔面から出血するシーンもあったが、2ラウンド、ボディへのヒザを効かせ、最後は小野の顔面にヒザを突き上げKO！　やっぱり坂口の血は強い!!　こうなったら憲二のデビューも期待せずにはいられない！

パンクラスの“ハードゲイ”川村亮が大金星！シュートボクセの強豪を粉砕!!

［9･16 パンクラス･ディファ有明］

“ハードゲイ”を自称するパンクラスismの川村亮が、無謀とも思える強豪ダニエル・アカーシオとの一戦で、見事勝利した。ダニエル・アカーシオといえば、強者が集うシュートボクセに所属し、三崎和雄ら日本人ファイターを次々と粉砕してきた男。しかし、試合は2ラウンド、川村の飛び込みながらの右フックがアカーシオの側頭部にジャストミート!!　大方の予想を覆し、パンクラスに嬉しい白星をもたらした！

シリーズ
舞台裏探検（バックステージ）

照明

こんなのアリ!?

世界の所さんもビックリ!!

選手の輝きを引き立たせるために……

演出とは闘いである

9.10（sun）ディファ有明

ZST.10

一度でも『ZST』を会場で生観戦したことがある人なら、そのハイレベルな試合内容と同時に、練り込まれた光と音のハーモニーに度肝を抜かれたことがあるはずだ。所英男、小谷直之、レミギウス・モリカビュチスといった『HERO'S』やK-1や『PRIDE』のリングで輝きを放ち、世間にまで届いてしまう彼らの類い稀なる才能を育んできた“ホームリング”では何が行なわれているのか？　今回は“演出”にスポットを当てて、60億分の1が決定した同日に行なわれた『ZST.10』に潜入取材を敢行した。

映像

喧嘩骨法の狂気
小柳津 弘

裏方

文／佐藤譲　撮影／平工幸雄
designed by matsu（TwoThree）

必然と偶然の応酬。いつ何時、勝つか負けるかわからない瞬間の芸術。その終幕を知るは神のみという格闘技の競技性と、イベントのエンターテインメント性の両立は難しい。試合は水もので**ラウンドが重なり判定が続けば**、進行は間延びし、会場に訪れた**観客は退屈してしまう**。それゆえに『PRIDE』やK―1ではド派手な入場など、イベントを盛り上げる演出面の努力をして観客を楽しませている。

そんな中でいま、**プロ格闘技の競技性とイベントのエンターテインメント性の融合**を目指して突き進んでいるのがZSTだ。よりアグレッシブな試合運びをうながすルール。そしてZEPP TOKYOやディファ有明というライブ対応の会場の利点をうまく活用した迫力の音響。ウィットに富んだ選手紹介映像や**ZSTガールの動き**に至るまで、その演出にはじつに細やかな配慮がなされている。今回は9月10日に行なわれた『ZST・10』における演出の舞台裏に密着。**観客を満足させて帰す**、そこにはシンプルで最も大切なことに全力を尽くす**ZSTスタッフの情熱**と**ありったけのもてなし心**、そして**闘い**があった。

こうして大会は演出されていく!!

ZSTの演出すべて見せます!!

映像をじっと見ながら照明を熟考する井内氏。15分もこのままの姿勢だった。

13:00　12:00　11:00　10:00

10:00 ▶ 会場入り

統括の上原氏、井内氏率いる演出班のスタッフ、渡部氏率いる進行班のスタッフが会場のディファ有明に到着。音響機材、映像機材、照明機材を手慣れた動きで次々と持ち込み設営の準備を進めていく。この日はチケット販売担当が風邪でダウンするトラブルが発生。

10:30 ▶ 設営

PAは2階に運び、1Fでは井内氏の指示が飛ぶ中、スタッフたちがてきぱきと照明と花道の設営を開始。機材が落下しないよう安全ワイヤーをしっかりとくくりつけて指定された位置に照明を取りつける。時間と勝負しながら事故のないよう慎重さが要求される作業だ。

11:00 ▶ 映像チェック

映像を制作している関氏がディファ有明に到着。ZSTスタッフとともに控室に入り、完成した映像をチェックする。ナレーションに関してはすでにチェック済みなので、ここで行なわれるのは選手の名前の校正などの最終確認とオープニング映像の再確認。ディズニーを彷彿とさせる「IT'S A SMALL FIGHTING WORLD」の文字に一同盛り上がる。同時に各控室には進行スタッフがタイムテーブル表と対戦表を貼り、スムーズな進行が行なわれるように準備が進められる。

12:40 ▶ ZSTガール プロフィール写真撮影

新人ZSTガールの佐藤けいこが到着。ディファ内に設けられた控室で着替えを行ない、終了後に関氏がそのまま控室を使用して、ネットや映像用の素材を撮影する。わりとおしとやかな印象の子。イナバウワーはやらなかったが、ウエストが素晴らしい。

13:00 ▶ 映像&照明の絵作り

リング、照明、音響のセッティングが終わり、昼食後、渡された映像を2階の映像班がセッティング。同時に井内氏と関氏がオープニングムービーと音楽、照明を合わせる作業を開始。照明の色、動きはライブ感を活かすためにこのタイミングで決定する。

演出はこの人

井内弘巳（いうち・ひろみ）

有限会社ウェストディメンション舞台制作課課長。ソニーミュージック時代、「バーリ・トゥード・ジャパンオープン」でヒクソン・グレイシーの招聘にたずさわった。以後WWFをはじめ、多くの格闘技やプロレスのイベントの演出を手掛ける。

ZSTが目指すのは、わかりやすく言うなら総合格闘技のWWEですね。大会はショー・パッケージ。全試合が一つのエンターテインメントなんです。全体が2時間半を超えたら、それはショーじゃない。その中で選手をどう引き立たせるかを考えます。例えば入場はタイミングを合わせて秒数を計っているので花道を走るのは禁止。ジェネシスの演出はなし。ジェネシスの選手は控室にも入れないし着替えは通路です。照明は立ち技用の照明と寝技用の照明を混合し、目に入っても見えなくならないように寒色系のフィルターを入れてます。あと、客席の明かりは映像をみたときに全体が鮮やかに見えるため消しません。予算の枠の中で演出をすべて任せてくれることが他団体と大きく違うところ。ZSTは「ファミリー」の意識が強いからやってて一番おもしろいんですよ。（談）

大会開催までは一年にわたる長い道が続く

一年〜半年前

●会場確保
多団体時代には会場を予約するのも闘いである。早いときには一年以上前から予約が必要になる場合もある。年間スケジュールを決める最初の一歩。K-1や『PRIDE』など格闘技系のビッグマッチとぶつからないように注意を払う。

●大まかな出場選手の確定
ZSTはレギュラー参戦の選手が多いのが特徴。選手にスケジュールを伝えると同時に、対戦相手のブッキングも必要になってくる。出場が決まった選手にはすぐ契約書を作成して送付する。

2〜4ヵ月前

●メインカード決定
今回のメインカードは5月に決定していた。2〜3ヵ月前には会場でチケット先行販売をするためにも出場予定選手だけでなくカード発表まで目指す。

●ビザ申請
リトアニアだけでなく世界各国から選手が参戦するため、遅くとも2ヵ月以上前には申請をする。

一ヵ月前

●全試合順決定
全対戦カードが決定したら試合順を決めていく。レミーガが第一試合に出たり、相撲的な右肩上がりの試合順だけでなく柔軟性に富んだ組み方もする。

●航空券・ホテルの手配
海外選手の航空券を手配する。『ZST』出場の選手&関係者が宿泊する定番のホテルに予約を入れるのもこの時期。

1〜3週間前

●パンフレット作成
大会パンフレットは印刷とデザインは外注するが基本的には『ZST』スタッフが編集を手がけている。

●演出打ち合わせ
井内氏、関氏らと上原氏で話し合いを持つ。電話の場合もある。

●選手に吹き込む
対戦相手についての情報を選手に対して吹き込むという『ZST』独特のシステム。こうして選手のモチベーションを上げていくことが、結果的に大会の質の向上につながっていく。スタッフと選手の信頼関係があって初めて成り立つ行為だ。

●弁当手配
スタッフや選手が大会当日に食べる弁当の手配を約一週間前に行なう。通常の大会であれば100個注文する。ここで大会当日のスタッフの人数を把握。

●記者会見
あまりやる機会は多くないが、所や小谷が出場する際には記者会見や公開練習を行なう。無駄な会見をやらないのは「記者の方が記事を書けるような、しっかりしたネタがあるときだけ会見をやる」という上原氏の方針。

3〜4日前

●選手の送迎
来日する選手を成田空港まで迎えに行く。大会翌日に帰国する際にも空港まで送る。

●用紙の手配
プレス用に貼る公式記録や注意事項などの貼り紙を作成。取材等のパスの手配も行なう。『ZST』はバックステージへの出入りが厳密に制限されており、管理も徹底して行なう。パスなしでバックステージに出入りできるのは前田日明氏のみ。

大会前日

●前日計量
選手を集めて体重を測定。リミットをオーバーしていないかチェックする。初参戦の選手にはここでルールや『ZST』の方向性を確認する。

不定期

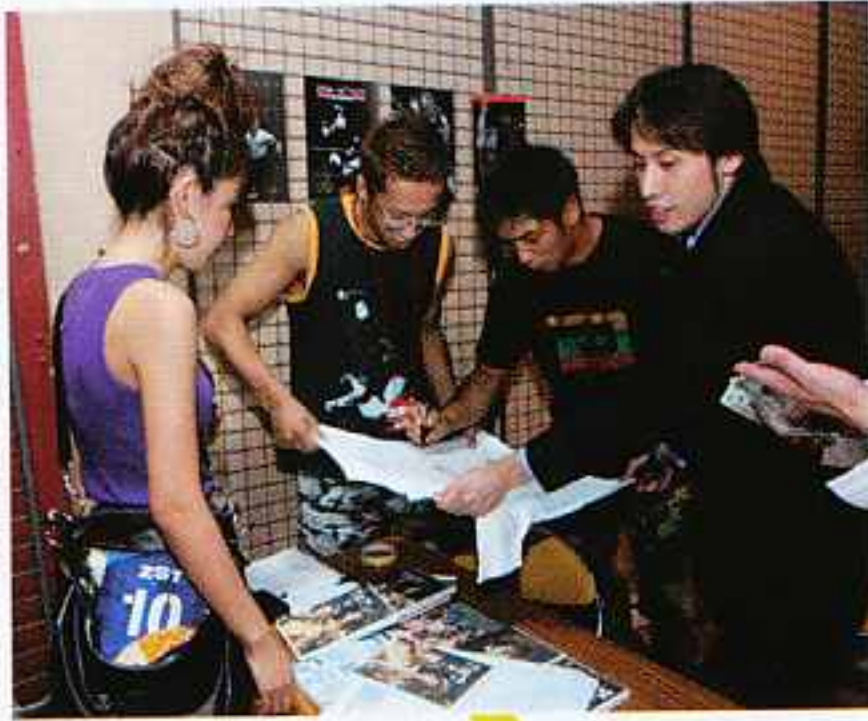
●前田日明氏からの呼び出し
前田日明氏とコンタクトを取り続けている上原氏。たまに呼び出されたり、釣りに誘われたりする。ちなみにこの大会の前日に上原氏は食事に誘われ、リトアニアのドナタス・シマネイティス氏とともに会いに行き、深夜まで話をしていたという。ちなみにこの日の大会に前田氏は姿を現わさなかった。

14:45 ▶ オープニング映像リハーサル
照明班が照明の動きをセッティング。井内氏はリング前に座し、映像を確認しながら細かい指示を照明班に与えていく。同時に音響班にスピーカーの微妙な位置を指示する。途中、映像の選手表記の誤字疑惑に一瞬動揺が走るもセーフ。安堵しながら再び照明の調整。終了した。

15:10 ▶ ZST GIRLリハーサル
ZST GIRLのリハーサルが開始。この日は佐藤けいこデビューのため、ラウンドガールの基本的な動きを指導しながら、初めてでも見栄えのするように動きに工夫を加えていく。ヒールでリングは歩きづらそう。何度も動きを合わせの確認をし終了。緊張の面持ちの佐藤けいこ。

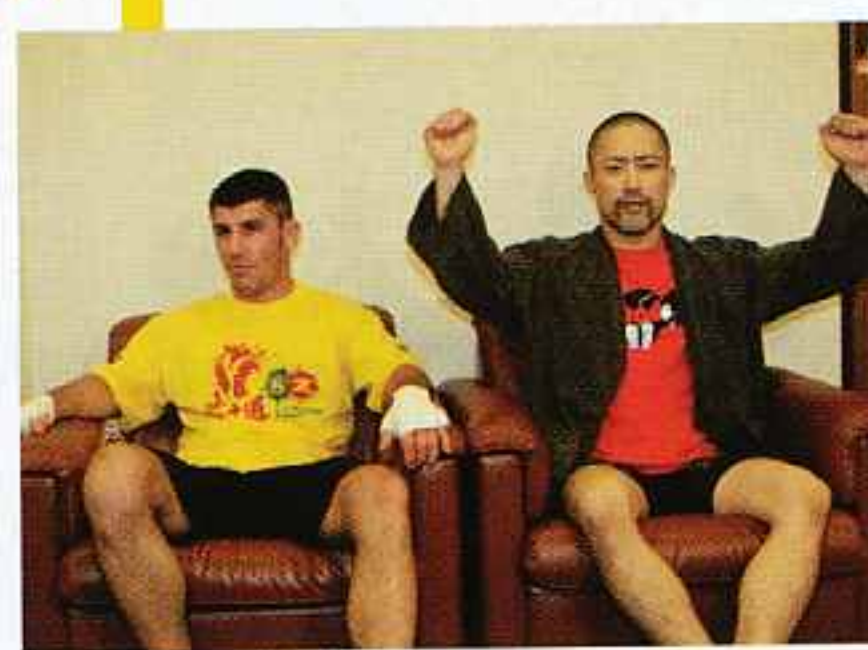
15:25 ▶ ジェネシス・ルール・ミーティング
ZST本戦の前の客入れ時に行なわれるジェネシス参加選手にロビーで和田良覚氏がルールを説明。グラウンドの打撃なしのルールに関してはとくに念入りに意識付け。「みっともない試合はやめろ。アグレッシブじゃないファイトにはすぐに反則をとる」とはZST関係者。

16:00 ▶ 進行打ち合わせ
井内氏ら演出スタッフが2階に集合し、タイムテーブルが記された進行台本を読み合わせながら進行の確認作業が行なわれる。ピンスポットのタイミングと声のキュー出しや音の間に関して厳しい注意が飛ぶ。その指示はじつに微にいり細に入った繊細なもの。

16:35 ▶ 開場
予定よりやや押し気味で開場。入り口付近のロビーでは先行発売となる「ZST.3」のDVDと次回の大会「ZST.11」のチケットが販売。フード販売のそばにはTシャツの物販ブースが用意された。観戦のために来場した所は物販を購入した観客にサインをするサービス。

16:50 ▶ ジェネシスバウトスタート
アマチュアのファイターたちによるジェネシスバウトがスタート。演出はなし。ZSTの映像のループなど本戦とは明確に差別化されている。期待の新星に目をつけるため、早くから来場した観客が声を飛ばす。レフェリー、ドクターは試合に細心の注意を払っている。

17:50 ▶ 本編スタート
いよいよZST本編がスタート。綿密な打ち合わせによって作られたオープニングが見事に決まり、場内の雰囲気を一気に塗り替えていく。試合の前にはレフェリーの紹介、そしてZST GIRLの紹介が行なわた。新人の佐藤けいこに「イナバウワー」と声援が飛び交う。

18:05 ▶ 第一試合開始
ZSTらしい。ユーモアと闘いのシリアスさを巧みに交えた軽快な映像に観客の歓声が上がり、厳粛なライティングは緊張感を増していく。井内氏はモニターを見ながら細かい指示を出す。第一試合は見事にKOで決着。まずは上々の滑りだしだ。

20:20 ▶ 選手コメント
すべての試合が終了。ディファ内のコメントスペースにスタッフが誘導し、メインイベントを締めくくった矢野卓見とエリカス・ペトライティスの記者会見がリラックスした雰囲気の中で行なわれる。会見終了後は上原氏が今大会を総括し、次回への抱負を述べる。

21:20 ▶ 撤収
観客を会場から出したら、スタッフたちは休む間もなく即座に撤収作業の開始。搬入、会場セッティングの時とは異なり、速いスピードで次々と機材をバラし片づけていく。試合終了から一時間足らずで撤収を完了。長い長い一日がようやく終了した。

22:00 20:00 18:00 16:00 14:00

進行管理はこの人
渡部真一
(わたべ・しんいち)

フリーで多くの団体を手がける。スタッフの手配に始まり、当日は試合開始前はリングや演出機材の設営、開場後は進行管理と場内整理、試合終了後は撤収と多岐にわたって動きまくる。パンクラスやU-zealも手がけている。

格闘技イベントをより見栄えのするものにしたいからこそ、スタッフが演出と選手の誘導の部分をしっかり手がけることが必要。だからスタッフも格闘技が好きで演出のわかるヤツを呼んでます。誘導は団体の選手同士は自分たちのイベントという意識なので協力的なんですけど、他団体の選手はピリピリしていますね。対戦者同士が顔合わせしないように充分ケアしています。(談)

［舞台裏実況ドキュメント］

時間ギリギリまで闘い続ける演出スタッフの努力によって大会は華やかに彩られていく

『ZST.10』の会場に潜入した取材班は、からっぽの会場からイベントが組み上げられていくまでを密着取材した。他団体ではおざなりになるようなところも『ZST』は手を抜かずに全力で仕上げていく。リング上で繰り広げられる選手たちの闘い同様、こちらも極限まで追い込んで作品を仕上げる演出スタッフにも闘いがある。状況に応じてアドリブをきかせながら大会はつくられていく。

この日行なわれた『ZST・10』には所英男が出場しない。つまり、観客にZSTという「ショー・パッケージ」（井内氏）そのもののおもしろさを伝えるには絶好の機会というわけだ。そのため、この日も演出、進行、映像のプロたちがギリギリまで理想の大会を目指し奮闘していた。

そんなスタッフのこだわりが結実した象徴的な場面がオープニングだ。映像、ライティング、音響といったZSTの演出の核を組み合わせ、**「It's A Small Fighting World」**へと観客を一気に引きずり込む最も重要な場面である。

関氏から渡された映像がセッティングされるあいだ、演出の井内氏は音響班と音量の調整、試合の邪魔をせず観客に快適な音を提供するためにスピーカーの位置の微調整を行なう。関氏との打ち合わせで映像と照明の色味を黄色ベースに決定。続けてZSTオリジナルのオープニング曲がブレイクする瞬間、動きながら一気に光を放つ「I Wash LED」というライトの色を決めていく。リハーサルの中で黄色から紫、さらに虹色のカクテルへと変更。カメラをチェックしながらストロボも加える。すると静謐な場面から壮大な場面へ転じる瞬間が一気にダイナミックになり、華やかさが一段と際立っていく。ド迫力の音圧が身を総毛立てる。

そして本番。ライトの動き、音楽のブレイク、そのすべてが一致した瞬間、会場は格闘技観戦にふさわしい、**熱狂のアドレナリン放出空間**へと変貌を遂げたのだった。

ファンの温かい歓声を受けつつ、つたない足取りながら無事デビューを果たした佐藤けいこらZSTガールのリハーサルは、この日がデビューの佐藤の動きに合わせ、井内氏が丁寧に指導。ボードの持ち方や高さ、身体の振り、難しい足運びは省略するなど、臨機応変に変更を加えていく。**「ボードを頭上に上げるポーズは人体の構造上美しくない。だからうちはやらないんです」**とはZST関係者。ZSTのこだわりを垣間見た瞬間だった。

さて、この日も関氏による映像は会場をおおいに盛り上げていた。**「ハイブリッドこんにゃくレスラー」（佐東伸哉）**や**「リトアニアの高田延彦が認めた才能」（セルゲイ・グレイチコ／リトアニア）**といった秀逸なキャッチで笑いを誘いながら、スピード感溢れるファイト映像で闘いへの期待を煽っていく。

映像終了と入場のタイミング、ピンスポットの指示や音楽を挿入する間は、演出班が細かく決めて渡部氏率いる進行&選手誘導スタッフ（リングの設営にも尽力）と連動しテンポよく進行していく。**試合後のマイクも選手のドローの言い訳や自己満足的な内容になりそうなものは井内氏がカット。マイクを渡さずレフェリーに指示を出し即座に次の試合へとつなげられる。**演出家と主催者側の客観的な視線がイベントの緊張感を保っているのだ。

この日のイベントは序盤二試合の早い時間でのKO、一本勝ちで会場の勢いに火がつくも、佐東伸哉と小柳津弘の引き分け、大石真丈のまさかの秒殺KO負け、メインのタッグも好試合ながら最後はバレット・ヨシダのスタミナ切れによるTKO負けと、観客としてはやや焦れったい場面もあった。演出サイドも緩まったテンポの修正に苦心していた。だが、ラストは矢野のマイクで大団円。大きなトラブルもなく、満員の観客が満足した表情で帰途についたが、スタッフの病欠で統括の上原氏が受付や物販などのケアに終始。リングアナのコール時にマイクのスイッチが切れていたこともあった。入場ゲート付近の席を急遽なくしたことで舞台を活用しきれないなど問題点が残った。終了後、井内氏に今回のイベントの点数を聞く。**「50点」**。そこに満足の表情はない。

一年前からの会場の予約、対戦カードの決定、来日選手のビザ取得などのケア。数ヵ月前からの仕込みをはじめ、当日も朝から開場ギリギリまでスタッフは最後まで走り続ける。光とも闇ともつかない一寸先の未来へ飛び込むため、自らを鍛え続ける選手。彼らと同様に、一人でも多くの観客に来てもらうため、満足してもらうため、ZSTに集ったプロフェッショナルたちはリングの陰で不断の努力を続けていく。**演出とは闘いである。**未だ見ぬ理想を目指して着実に歩を進めんとするその姿は、泥にまみれながら、**どこまでも強く美しい。**

映像はこの人

関 和紀
（せき・かずのり）

某大手レコード会社で映像の仕事を担当。超有名アーティストのPVなどを担当する。退職後、SAMURAI!からPRIDEの番組や修斗の中継を手掛けるようになり現在に至る。

「選手をいじる」方向性が固まったのは『ZST GP』からですね。それまでの格闘技の煽り映像ってマジメな作り方のところが多くて、もっとカッコよくなるんじゃないかって思ってました。バカにしてることは100パーセントない。基本的には選手のPVを作ってるような感覚ですね。選手紹介のVTRが話題になるけど、実際はオープニング映像のほうに時間をかけてます。毎回変えてるのはウチぐらいじゃないですか？　一ヵ月前から上原さんに対戦カードを聞いて、過去の映像から素材を集める。そして、みんなで決めたナレーションを映像に貼りつけて最終チェックですね。生のおもしろさがなくなるし、政治が入る場合があるから完成した映像は当日の本番前のリハまで見せない。井内さんとは当日の朝まで情報交換しない暗黙の了解があるんです。（談）

9.10『ZST.10』全試合結果

［東京・ディファ有明　観衆／1028人（超満員）］

［ライトヘビー級5分2R］
◯鈴木信達（武心塾）**vs 長井憲治×**（U-FILE CAMP赤羽）
（1R 1分37秒 KO）

五味隆典も通う空手道場「武心塾」で師範代を務める鈴木が、U-FILEの長井と真っ向から打撃勝負。鈴木のパンチで長井の右眉はカット、レフェリーが試合を止めた。

［ミドル級5分2R］
◯花井岳文（Twist）**vs**
ランドン・ピェルシー×（SDアンディスビューテッドジム）
（1R 1分02秒 アキレス腱固め）

花くま先生のコラムでもよく取り上げられる“真・足関十段”花井が気合いの入った坊主頭で登場。バレット・ヨシダの強い推薦で初登場のピュルシーはパンチとヒザで攻めるが花井もパンチで応戦。最後は得意の足関節で落ち着いて仕留めた。

［ウェルター級5分2R］
△佐東伸哉（P's LAB東京）**vs 小柳津弘△**（原宿道場）
（2R 時間切れドロー）

“喧嘩骨法の狂気”と呼ばれ掌打を武器に90年代に活躍、骨法離脱後にブラジリアン柔術を習得、元チームPOD勢を指導していた小柳津弘（ペケーニョ戦前に所にバックハンドブローを教えたのがこの人）が久々にリングに登場！　試合は“ハイブリッドこんにゃくレスラー”P's LAB所属の佐東と引き分けに終わった。

［フェザー級5分2R］
◯セルゲイ・グレイチコ（リトアニア）**vs**
大石真丈×（SHOOTO GYM K'z FACTORY）
（1R 0分41秒 TKO）

“リトアニアの髙田延彦（＝ケスタティス・スミルノヴァス）のお気に入り”という触れ込みの20歳の新鋭グレイチコが第2代修斗フェザー級王者・大石真丈を左ハイと右フックでぐらつかせたところに、追い打ちのパンチを叩き込んでKO。凄まじい打撃で強烈なインパクトを残した。

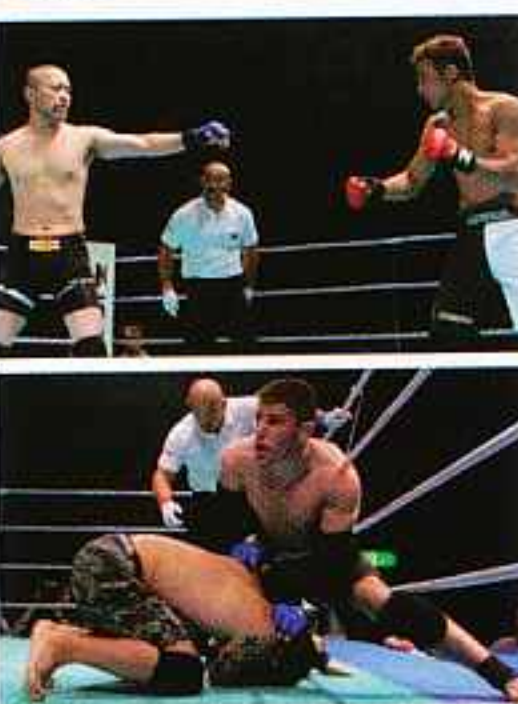
［フェザー級5分2R+3分1R］
△今泉堅太郎（SKアブソリュート）**vs 稲津航△**（U-FILE CAMP登戸）
（3R 時間切れドロー）

修斗世界フェザー級1位の実績を持つSKアブソリュート所属の今泉と、22歳のU次世代エース候補・稲津の対決。髪を赤く染め、赤パンで登場した稲津はハイキック、ヒザを放ちグラウンドでもアームロックを取りかける。今泉は組みついてテイクダウンを奪うと足関節を狙いにいく。最後は両者打撃戦となるが時間切れ。

［ライト級タッグマッチ15分3本勝負］
◯矢野卓見（骨法烏合会矢野卓見道場）**&**
エリカス・ペトライティス（リトアニア）**vs**
勝村周一朗（勝村道場）**&**
バレット・ヨシダ×（SDアンディスビューテッドジム）
（2-0）※1本目＝◯矢野［7分06秒 横三角絞め］勝村×
（2-0）※2本目＝◯エリカス［13分55秒 TKO］バレット×

一本目、開始早々にバレットがエリカスをスリーパーに捕らえるが、エリカスはバレットを引きずってタッチ。矢野は勝村とのグラウンド勝負で複雑な体勢ながらリバース式三角絞め。これで勝村の動きが止まりレフェリーは試合をストップ。残されたバレットはエリカスをグラウンドに誘うが、エリカスはスタンドで猛攻。最後はスタミナの切れたバレットのTKO負けとなった。矢野はマイクを持つと「リトアニア武士道と武骨同盟を結成します」と往年の骨舟同盟を思わせる宣言をして締めた。

元ヒーロー 所英男 ZSTの演出を語る!!

【06年9月10日／『ZST.10』の会場にて収録】

ＺＳＴの映像は凝っている感じがあって、いつも凄く期待しているんですよ。まあ、**自分もけっこういじられてますけど、大丈夫です（笑）**。リハーサルのときから映像はかなり楽しみにしていて、見るようにはしていますね。ＴＢＳの『HERO'S』でもわりと自分の私生活が映像に出されてるんですけど、**ＺＳＴのおかげで免疫ができた**のか、ＴＢＳの人が家に入ってきて映像を録っても全然かまわないようになっちゃいましたね（笑）。まあ、**部屋の●●コレクション**を民放で流されたら**さすがにアレ**ですけど（苦笑）。ただ、一つ言えるのは**演出を選手がやるとやっぱり自分本位になってしまう**んですよね。ＺＳＴでは**一流のプロの方がしっかり演出してくれる**ので、ショーに近づいていくんじゃないのかなって実感があります。例えば映像で自分ですら知らなかった**意外な自分の一面**を教えてもらうことがよくありますから。もちろん、あの映像がすべてだと思われたらちょっと嫌なんですけど（笑）。だから、演出や映像に関しては**もっとやってもらってもいいくらい**だと思ってます。僕も最初の頃はいろいろとしゃべらされて、それを映像で流されたんですけど、あんまりよくなかったのか、次第に映像を制作する関さんが**勝手にどんどん作る**ようになっていったんです。でも、それが**凄くおもしろくて驚きながら見てました**からね。人がプロデュースしたほうが、**自分でやるよりも絶対におもしろい**と思うんですよ。小谷（直之）君のフェラーリ購入ネタや、佐東さんの「ハイブリットこんにゃくレスラー」とか本当に最高じゃないですか。（入場について）ＺＳＴは照明が凄く奇麗で、入場は好きな曲を選べないんですけど、うまい具合にその人に合っているものを選んで**気持ちを上げてくれる**んです。試合中にも音楽がかかってますけど、これは自分が集中できているかのバロメータになってますね。試合中に**音楽が聞こえるときは気が散っている**んです。だから、聞こえちゃうと負ける。まあ、**聞こえなくても負けちゃうときもありますけど（苦笑）**。今回の新ＺＳＴガールはオーディションで見ました。みんな奇麗でしたね。佐藤けいこさんのブリッジはめちゃめちゃびっくりしました。**水着でブリッジじゃなかったのが残念でしたけど。ブリッジ、凄かった**ですね。今回は久々の観戦なんですけど、やっぱり試合をやりたくなりますね。上原さんに言われたら出るつもりだったけど、外から観るのも大切なのかなって思います。4周年の11月23日の『ZST・11』には出場するのでよろしくお願いします！

世界最高のリングガールはZSTが決める！ 新ZSTガールがついに決定！

『ZST.9』で惜しまれながら卒業となった小野寺愛ちゃんと入れ替わるかたちで、今大会からZSTガールに就任したのが佐藤けいこちゃん！　これから第4代ZSTガールとして吉田早希ちゃんとともに、リングに華を添えてくれる。なんでもオーディションで佐藤けいこちゃんを強力に推薦したのは、かの所英男審査委員長だったという情報もある。特技のイナバウアーがリング上で炸裂する日はくるのか!?

［名前］佐藤けいこ
［生年月日］1984年11月9日生
［出身地］東京都
［血液型］B型　［特技］イナバウアー

NEW APPAREL SERIES

PRIDE

世界最高峰の商品たちを手に入れろ!

BRAZILIAN TOP TEAM

BTT TEE
COLOR: WHITE / GREEN / BLACK ¥4,725

BRAZILIAN TOP TEAM TEE
COLOR: WHITE / GREEN / BLACK ¥4,725

BRAZILIAN TOP TEAM TANK TOP
COLOR: WHITE / GREEN / BLACK ¥3,675

BRAZILIAN TOP TEAM WORK SHIRT
COLOR: BEIGE / OLIVE ¥9,345

BRAZILIAN TOP TEAM MESH CAP
COLOR: BLACK / OLIVE ¥4,725

BRAZILIAN TOP TEAM SPORTS TOWEL
COLOR: GN/YELLOW / GN/WHITE ¥3,465

BRAZILIAN TOP TEAM WRISTBAND SET
¥2,310

EMELIANENKO FEDOR

FEDOR CROWN TEE
COLOR: RED / BLACK ¥4,725

FEDOR TEE
COLOR: RED / BLACK ¥4,725

FEDOR TANK TOP
COLOR: RED / BLACK ¥3,675

FEDOR POLO SHIRT
COLOR: RED / BLACK ¥8,400

FEDOR CAP
COLOR: RED ¥4,725

FEDOR SPORTS TOWEL
COLOR: RED / BLACK ¥3,465

FEDOR WRISTBAND SET
¥2,310

CHUTE BOXE ACADEMY

CHUTE BOXE TEE
COLOR: WHITE / BLACK ¥4,725

CB TEE
COLOR: WHITE / BLACK ¥4,725

CHUTE BOXE TANK TOP
COLOR: WHITE / BLACK ¥3,675

CB TANK TOP
COLOR: WHITE / BLACK ¥3,675

CHUTE BOXE MESH CAP
COLOR: WHITE / BLACK ¥4,725

CHUTE BOXE SPORTS TOWEL
COLOR: WHITE / BLACK ¥3,465

CHUTE BOXE WRISTBAND SET
¥2,310

WANDERLEI SILVA

WANDERLEI TEE
COLOR: IVORY / BLACK ¥4,725

WANDERLEI WORK SHIRT
COLOR: IVORY / BLACK ¥9,345

WANDERLEI TANK TOP
COLOR: IVORY / BLACK ¥3,675

WANDERLEI MESH CAP
COLOR: IVORY / BLACK ¥4,725

WANDERLEI SPORTS TOWEL
COLOR: IVORY / BLACK ¥3,465

WANDERLEI WRISTBAND SET
¥2,310

MIRKO CRO COP

MIRKO V NECK TEE
COLOR: WHITE / BLACK ¥4,725

MIRKO CHECK V NECK TEE
COLOR: WHITE / BLACK ¥4,725

MIRKO TANK TOP
COLOR: WHITE / BLACK ¥3,675

MIRKO POLO SHIRT
COLOR: WHITE / BLACK ¥8,400

MIRKO CAP
COLOR: WHITE / BLACK ¥4,725

MIRKO SPORTS TOWEL
COLOR: WHITE / BLACK ¥3,465

MIRKO WRISTBAND SET
¥2,310

MARK HUNT

HUNT HIBISCUS TEE
COLOR: BLACK ¥4,725

HUNT MESH CAP
COLOR: BLACK ¥4,725

HUNT SPORTS TOWEL
COLOR: BLACK ¥3,465

HUNT WRISTBAND SET
¥2,310

BEACH SANDAL

CHUTE BOXE BEACH SANDAL
BRAZILAN TOP TEAM BEACH SANDAL
FEDOR BEACH SANDAL
WANDERLEI BEACH SANDAL
MIRCO BEACH SANDAL
HUNT BEACH SANDAL
¥1,995

『PRIDE GOODS』通販専用NAVIダイヤル

TEL.0570-00-7100

月曜日～土曜日 AM10:00～PM6:00

PRIDE オフィシャルサイト

http://www.pridefc.com/

[商品お渡し方法] 代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料約630円(クロネコ宅急便)、代引手数料約350円(いずれも地域によって異なります)がかかります。お届けはご注文を頂いてから、一週間前後で郵送いたします。オフィシャル携帯サイトからもオーダーできます。

PRIDE BUSHIDO 武士道

PRIDE武士道シリーズも勢揃い

美濃輪 OHI! Tシャツ
¥3,990
S/M/L/XL COLOR：WHITE / RED

郷野アンタッチャブルTシャツ
¥3,990
S/M/L/XL COLOR：PINK

五味 キャラクターTシャツ
¥3,990
S/M/L/XL COLOR：WHITE / BLACK

石田smile Tシャツ
¥3,990
S/M/L/XL COLOR：BLACK / YELLOW

ハンセン 処刑人 Tシャツ
¥3,990
S/M/L/XL COLOR：BLACK

川尻T-BLOOD Tシャツ
¥3,990
S/M/L/XL COLOR：BLACK

青木真也グラップラーTシャツ
¥3,990
S/M/L/XL COLOR：BLACK / NAVY

NEW!

武士道 スカル Tシャツ
¥3,990
S/M/L/XL COLOR：WHITE

ダン・ヘンダーソンTシャツ
¥3,990
S/M/L/XL COLOR：BLACK

長南ピラニアTシャツ
¥3,990
S/M/L/XL COLOR：BLACK

OBIYA face Tシャツ
¥3,990
S/M/L/XL COLOR： WHITE / BLACK

NEW!

こちらの商品は
『kamipro』通販でご購入できます。
電話、メール注文もできます。
(株) ダブルクロス TEL.03-5368-1797
(平日13:00〜19:00まで)

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo	iMenu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲 ▶
au/TU-KA	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
vodafone	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶	スポーツ ▶	総合 ▶	
	エンターティメント ▶	TV・メディア・本 ▶	本 ▶	

kamipro Hand

"亀田劇場"という名のプロレス概念

「亀田劇場＝安っぽいドラマ」バッシングを吹き飛ばす
"四角いリングのショービジネス論"

なぜかいまごろ！　創刊100号記念編集長インタビュー

山口日昇

［本誌"非常勤"編集長］

普段は外部でハッスルしまくりの本誌"非常勤"編集長、山口日昇が久しぶりに『kamipro』でハッスル、フォ～!!「いまごろかよ!?」という矢のようなツッコミをセイセイと受け流して、創刊100号記念インタビューが実現しました。テーマは世間をなんだかんだと騒がせる亀田親子！"プロレス"が足りないプロレス界、そして格闘技界を"亀田現象"を通して語る！

聞き手／ジャン斉藤　designed by matsu（TwoThree）

―会長（山口日昇のアダ名）!! ご存じないかもしれないですけど、じつは『kamipro』が100号の大台を突破してるんですよ。

山口 は？ 本当!?……って、さすがに知ってるよ、それくらい。

―あ、さすがに知ってますか（笑）。

山口 しかし、よくまぁ、ここまで続いてるよね。某老舗プロレス週刊紙は休刊の憂き目に遭ってるっていうのに。

―会長は何号まで現場でやってた記憶がありますか？

山口 そうだねぇ……明確に現場の空気感を覚えているのはね、30号ぐらいまで！

―たったの30号！（笑）。

山口 いや、60号前後くらいかなぁ（適当に）。

―どうですか、最近の『kamipro』は。

山口 実際に読んでみるとおもしろいとは思うし、読みたくなる気にはさせてるとは思うけど、でも、な～んか、隙間を埋める作業に奔走している感じは受けるよね。以前の『kamipro』っていうのは、関節技の攻防の際にワザと腕を相手に投げ出すじゃないけど、あえて関係者や読者に突っ込ませる隙を与えていたんだよね。でも、いまはその隙を与えるんじゃなくて、自ら埋めることで余裕がなくなってる感じは受ける。

―あ、それは言いえて妙ですね。本当はアントンのバカネタだけで、一ヵ月の作業を終わらせたいところはあるんですよね。

山口 そこもいい加減、捨てるところだろ（笑）。ところで、亀田騒動！

―い、いまさら亀田騒動ですか！

山口 うん。前号では堀辺先生が分析していたけど、この問題は、もっともっとブ厚くやってもよかった。というか、斬り込むべきだったね。なぜなら、一連の亀田騒動は、「プロレス」を考えるうえで格好の材料になったと思うんだよ。あの"亀田劇場"に俺はプロレスを見た！

―プロレスを見ましたか！

山口 決してあの試合が"八百長"だったとか、そういうことを言ってるわけじゃないよ（笑）。

―はい（笑）。"概念としてのプロレス"ですね。

山口 それは試合後の集中砲火的バッシングや議論も含めてね。つまり、いわゆる"亀田劇場"というものに対して、俺はもの凄く引き込まれたわけです。最高レベルではないにしても、実際いま現実にあるプロレスより、全然スケール感もおもしろさも上だったよね。

―あの"亀田劇場"をプロレスというフ

真っ当な批判から、それこそ言いがかりに近い物言いまで、3歳の子どもから90歳のご長寿さんまで！ 世代を縦断して大バッシングの対象になってる亀田親子。文化が世代ごとに分散している当世にとっては、驚異のモンスターぶりだ。

いまごろ100号記念編集長インタビュー

プロレスとは何か？

"亀田劇場"から「プロレスのエッセンスやノウハウの凄さ」を改めて認識できた

ィルターを通して語った識者には、菊地（成孔）さんがいるんです。菊地さんは"プロレスごっこ"という表現を使って亀田親子を語ってまして。

山口 ああ、そう。菊地さんがどういう考えを持っている人なのか、俺は全面的に理解してないという前提で言うんだけども、おそらくそれは、菊地さんの"プロレスという概念"に対するハードルが高いということなんだと思うよ。

―なるほど。ちなみにターザン山本！さんという方も「あれこそプロレスですよぉぉぉぉ!!」と炎上してました。

山口 ふ～ん。ターザンってまだ生きてるの？

―生きてますよ！（笑）。『kamipro』には、しばらく出てないですけど。で、ターザンが「あれこそがプロレスですよぉぉぉぉぉ!!」と炎上しているのって、妙な違和感があったんですよね。

山口 その違和感はさ、ターザンがじつはまったく亀田親子のことやプロレスのことなんて考えてないということに対しての違和感なんじゃない？ ターザンは自らの成功体験のなかで、世論と逆の意見を言えば「自分が目立つんじゃないか？」という価値観を確実にいまでも持ってるでしょう。

―ええ、たしかに（笑）。

山口 亀田問題では、あれだけ同一方向に世論が動いているんだから、自分が反対意見を言えば目立てる。久しぶりに自分の力が発揮できる機会に恵まれたっていうことを知らせてるだけの話でしょう。

―だったら、説得力が生まれるはずがないですね。

山口 いまのあのオヤジが言いたいことは「自分を見ろ！」っていうことだけでしょ？ 読んでないけど、わかるんだよ（笑）。それはそれでいいんだけどね。でもさ、今回の亀田騒動は、裏を返せば、そんなターザンが「よ～し、一丁、逆を張ってやろう！」と思うぐらいに世論が均一化しているというか、一方向にしか向いてないという証左でもあるわけでしょ？

―たしかに亀田親子を叩いたほうが無難っちゃあ無難ですよね。

山口 でね、俺はこの"亀田劇場"の何がおもしろかったのかというと、「プロレスのエッセンスやノウハウの凄さ」を改めて認識できたところなんですよ。四角いリングを使ったショービジネスは、プロレス的ノウハウを使わないと、世間の奥まで届かないということを再認識できたところがおもしろかった。だって『PRIDE』やK－1も、格闘技にプロレスのノウハウやエッセンスを落とし込んだからこそ、世間に認知されていくきっかけを作れたでしょう。

―ただ、いまやそういうプロレス的エッセンスの詰まった見世物に対して、嫌悪感を示したりする人間が多いわけですよね。

山口 いや、そこがポイントだよ。だって、そもそも大衆というか世間というのは、実体があるかないかはべつにして、昔からプロレスのエッセンスやノウハウに嫌悪感を示してきた存在でしょ？

―ああ、そうですね。

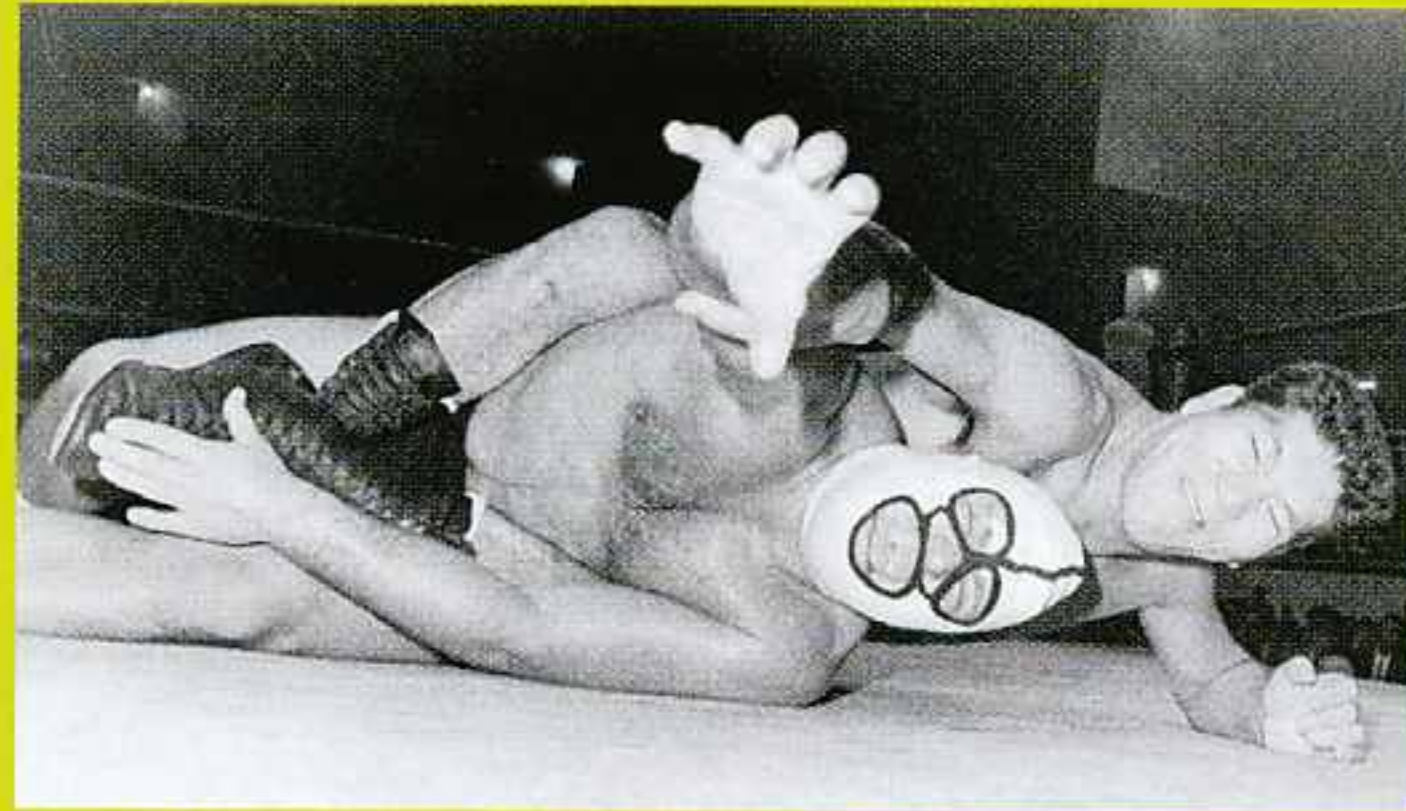
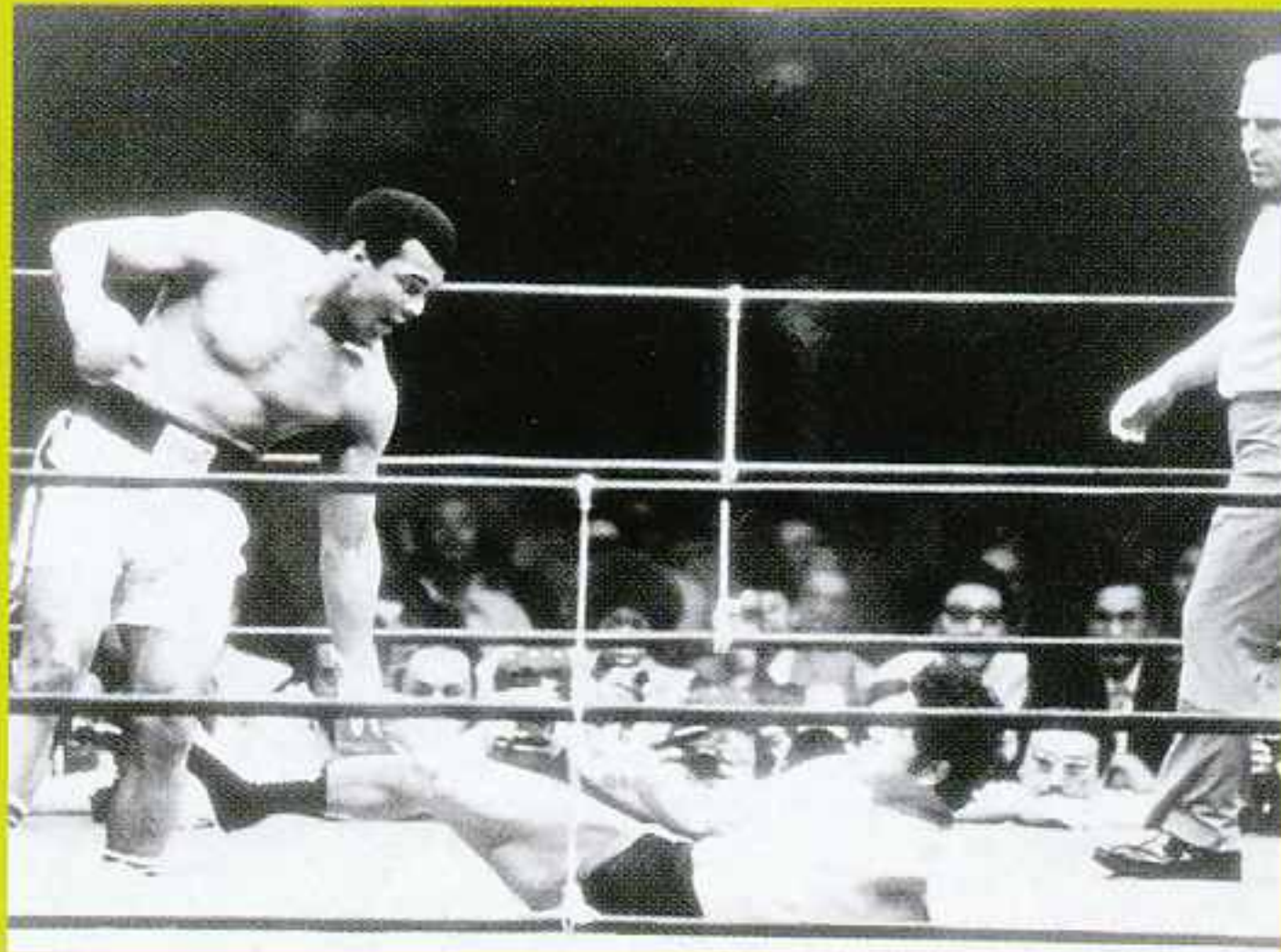
山口 それはいまに始まったことじゃないんだよ。世間から認められた価値観の中に

プロレス的なエッセンスが落とし込まれたときなんか、世間は一気に牙を剥いてくるでしょう。たとえば、モハメド・アリ戦に代表される猪木さんの一連の異種格闘技戦。もっと言えば、スポーツや真剣勝負という“見え方”を打ち出しているときの、馬場さんの16文キックなんかも標的にされたよね。「ロープに振られたらなぜ返ってくるのか?」というプロレスのフォーマットなんかも含めて、「プロレスのノウハウ」「プロレスの概念」、あるいは「プロレスのエッセンス」というのは、いわゆる世間からはずっと嫌われてきたんですよ。

――限りなくウサン臭いものとして。

山口　世間から冷たい視線を浴びる対象だったわけだよね。プロレスのノウハウやエッセンスというのは。だけどそのなかには、人々の目を釘づけにするエネルギーが含まれていることも事実なんだよ。

――たしかに視聴者は亀田親子やTBSに文句を言いながらも、テレビにかじりついてるわけですからね。

山口　ボクシングファンじゃない人たちが、ボクシングの未来を案じてるなんて現象もあるわけでさ。「こんな判定がまかり通るようだったらボクシングに未来はない」とか「素質はあるんだから、亀田は基礎からやり直すべき」とかね。ふだん、まったく関係のない人間にまで渦を巻き起こすのが、プロレスのノウハウの“肝”なんですよ。

プロレスラーは、自分の生き方を世間に問うていかないといけない存在

だから、じつは「プロレスのノウハウ」「プロレスのエッセンス」というものは、プロレスに携わる者にとって最大の“宝”なんだよね。だからこの“亀田劇場”を指してね、「試合内容のレベルが低い」っていうのはまだいいとして、「ボクシングの未来がどうだ」とか「格闘技の本質がどうだ」とか「判定では亀田の負けでしょう」なんて言ってるプロレスファンがいたら、そいつは即刻プロレスファンをやめたほうがいい! どこを見てるんだと言いたい! プロレス者として大失格ですよおっ!(ドン)。

――凄く厳しいですね、会長(笑)。

山口　だって「おもしろいからあなたたち見てたんでしょ?」っていう話だもん。

――演者としてはどうですか? 亀田親子は意識して、その「プロレスのノウハウ」を使っているのか、どうかという。

山口　協栄ジムの金平会長も含めて、亀田親子が一連の“亀田劇場”に、プロレスのエッセンスをブチ込むということを、もし計算ずくでやっていたとしたら、これは凄いことだよね。超一流のエンターテイナーですよ。

――だとしたら、手のひらの上でみんな転がせられているわけですもんね。

山口　試合後のバッシングを含めて、これだけの議論が起こることまでを想定してたとしたら、これはもう全盛期のアントニオ猪木と新間寿を超えてるよね(笑)。残念ながら、亀田親子にそんな計算は見えてこないけどね。

――ということは、生まれながらにして「プロレスのエッセンス」を身にまとった人たちということですか?

山口　そういうことだね。亀田親父なんかは、ある種、前田日明的というかさ。決して計算ずくではやってない野性味があるじゃない。これから知性が滲み出てきたりしたら、“プロレスラー”としての可能性はググンと広がるよね(笑)。一方、三兄弟のほうは「ホントはいいヤツなんでしょ」と見透かされちゃったりするところが演者としては一流までいってないんだけど、こっちも色気があることは間違いないよね。

――一流じゃないですけど、おもしろいですよね。こないだ深夜に放送された亀田大毅の試合を見終わって何気なくチャンネルを変えたら、NOAH中継をやってたんですけども、どっちが胡散臭いプロレス的空間かといったら、圧倒的に亀田大毅ですから。

山口　アンコールまで歌っちゃうからね。まぁ、三兄弟が“プロレスラー”として一流か三流かと問いたくなるのはよくわかるんだけど、大事なことは、彼らはまだ“プロレスラー”としてグリーンボーイなんですよ。まだまだ10代で、“プロレス入り”したばっかりだもん(笑)。

――亀田兄弟は“プロレスラー”としてグリーンボーイ!

山口　そう。だから一刀両断に斬り捨てるのもいいけど、貴重な素質あるグリーンボーイを潰しちゃいけないですよ(笑)。

――グリーンボーイだから隙が見えるし、ボロが出るんでしょうね。そこを破壊王のようにみんなが愛せれば、もっとおもしろい存在になると思うんですけど。

山口　破壊王の愛すべき隙は、破壊王なりの生き方と演出空間のなかで育まれてきたもんだからね。世間からツッコまれようが、矢を方々から撃たれて血ダルマになろうが、「俺は道のド真ん中を歩く!」という迫力や、バカバカしさがあったから愛せたと思うんだよ。

――ツッコまれるのも破壊王の芸になってましたね。

山口　でもいま亀田親子は、世論というものにビビッてるところが見えるよね。ホントはさ、いまこの時期にランダエタと再戦なんかやらなくていいんだよ。これまで以上に胸を張って堂々と歩いていれば一流の“プロレスラー”になれるんだから。ま、彼らが“プロレスラー”になりたいかどうかは、俺は知らないけど(笑)。

――きっと大きなお世話でしょう(笑)。

山口　でも、“プロレスラー”というのは、ジャンルを背負ったり、自分の生き方を世間に問うていかなければならない存在なわけですよ。そういう意味では亀田親子なんかは、ボクシングを通して自分の生き方を問いかけているわけだから。その照れのなさは宝だと思う。少なくとも、現役のあま

存在自体がファンタジーだったジャイアント馬場、スキャンダラスな仕掛けを駆使したアントニオ猪木。昭和マット界の両雄はそうやって世間に“土足感”を残して、プロレスのいかがわしさを落とし込んできた。プロレスというほかに比類なきジャンルを作りあげたのだ。

たのプロレスラーよりは、自分の生き方を世間に対して問いかけてるよね。

――では、いま亀田親子が世間からバッシングされているのは、〝プロレスラーの宿命〟みたいなもんですね。

山口 〝一流のプロレスラー〟になるまでに必ず通らなければならない道でしょ。だってボクシングのノウハウだけでやってたら、一連の〝亀田劇場〟はいらないもん。さっきも言ったけど、昔からプロレスのノウハウやら概念は、世論からは叩かれる運命にある。そのバッシングに対して、どう受け身を取って、どう切り返していくかっていうところが、一番おもしろいところだから。そもそもどんなにバッシングを受けようが、血ダルマになろうが、世間から白眼視されている「プロレスのノウハウ」や「プロレスの概念」を背中に背負って、世間の真ん中を堂々と歩いていくエネルギーが〝プロレスラー〟には必要なんですよ。でも、そんな人はこれまで、力道山、馬場、猪木くらいしかいないんだけどね（笑）。

――そうやってプロレスから世間へ斬り込んでいったのって、最近では和泉元彌ぐらいですかね。

山口 和泉元彌も立派な〝プロレスラー〟だよね。3才から狂言という、伝統的であり格式のある世界、しかも世間からはあまり振り向かれないという特殊なジャンルのなかで育ってきた。そのジャンルを背負ってきた凄味があるよね、和泉元彌には。ま、狂言界のド真ん中にいる人たちは「和泉元彌は狂言を背負ってない」って言ってるわけだけども。

――亀田親子もそうですよね。ボクシングとして、真っ当に評価すれば。

山口 そうそう。ボクシング界のド真ん中にいる人たちからは「亀田親子はボクシングを背負ってない」「ボクシングの異端児」って見られている。もともとプロレスも〝ジャンルの鬼っ子〟って言われてるわけであって、やっぱり世間や世論からはおもいっきり外れた存在なんだよ。だから、異端児と異端のジャンルを掛け合わせると、「マイマイがプラ」みたいな効果が出るのかもね。

そういえば、大成功を収めた昨年の『ハッスル・マニア』も、世間からは蔑まれた視線で冷笑されたものだった。プロレス復興のカギはそこにある!?

昔からプロレスの概念は世間から叩かれる運命にある

――それなのに最近のプロレスは、やけにスポーツ化しようとする流れになっていて。

山口 スポーツ化というより、世間と闘わない方向だよね。その際たるものが「グローバルレスリング連盟（GPWA）」だろうね。あの動きは世間の価値観にプロレスを近づけようとすることなのかな？ ルールを統一するとか、レスラーやレフェリーにライセンスを発行するとか。業界の活性化を目的としていることや、やっていこうとすること自体は立派だと思うけど、はたしてプロレスがそっちの方向に行って爆発するのかな？ というところはお手並み拝見ですよね。

――プロレスの一つの方向性ではありますよね。でも、プロレスそのものがグレーなジャンルだから、どうしてもイレギュラーは生じるし、醍醐味を消してしまう恐れもあるような。

山口 うん。GPWAは幸いにして「プロレス的ノウハウ」や「プロレス的エッセンス」を排除しようということじゃないみたいだけど、正直、世間に対してあえて隙を見せていくっていうようなダイナミズムは感じないよね。昔、村松友視さんが「プロレスというのは偶然の出来事を演出していくものだ」と定義していたけども、まさに、そういうダイナミズムが必要だと思うよ。最初からドラマを用意しているとしても、偶然は転がっていくからね。そこがライブのおもしろさだろうし。かつてのプロレスは各試合のテーマをきちんと設定して、あるいは試合に向けてドラマを作り出して、なおかつギリギリするようなリング上の闘いがあったからおもしろかった。まさに〝亀田劇場〟も世間を巻き込んで、偶然の出来事を演出してきたからおもしろかった。

――格闘技もそうですよね？

山口 格闘技であってもそうでしょ。たとえば『PRIDE』は、イベントにプロレスのエッセンスをブチ込んできたから、あれだけ巨大になったし、多くの人の注目を浴びるようになった。これが単なる「総合格闘技界のノウハウ」だけだったら、ここまでの成功は収めなかったでしょ。K－1も決して「キックボクシング界のノウハウ」で成功したわけじゃないでしょ。やっぱり一番大きな要素は「対世間」というところだよね。「プロレスのノウハウ」の重要な要素に、白眼視されているからこそ生じてくる「対世間」という項目があると思うんだけど、それはつまり、世間に対してジャンルの存在を問うということ。GPWAにはそれは感じられないですよね。

――いまの『PRIDE』やK－1は、そのプロレスのエッセンスをうまく利用していると思いますか？

山口 だんだん薄れてはきてるよね。K－1も全盛期は、「プロレスのエッセンス」がウマイ具合に練り込まれていたと思うよ。でも、いまのK－1は、リング上がグダグダになることが多いから。

――その現象を称して、「K－1がプロレス化してしまった」という言い方もされたりしますけど。

山口 それはプロレスのグレードを低く設定してる人たちの物言いでしょ。プロレスに対して失礼ですよ！

――つまり、〝プロレス〟という言葉が軽んじられてしまっているわけですね。菊地さんいわくの〝プロレスごっこ〟にならな

いプロレスのノウハウ、エッセンスってなんですかね？

山口　それはね、企業秘密（笑）。

——なんの〝企業〟ですか！（笑）。

山口　じゃあたとえば、なんだと思う？

——う〜ん。なんですかねえ。自分はジャンルや世間への〝土足感〟にあると思うんですけども。

山口　いいこと言うねえ、いいこと言う！〝土足感〟、じつにいい言葉ですよ。

——ホントですか？（笑）。

山口　「プロレスのエッセンス」の一つに、確実にその〝土足感〟というキーワードは存在するね。そこは力道山時代から変わらないと思う。今回の〝亀田劇場〟も、ボクシングのノウハウだけでやってればいいところに、プロレスのノウハウをブチ込んだ。それってボクシングを純粋に見たい人にとっては、つまりは〝土足感〟丸だしの行為だよね。その土足で踏み込んでくる感覚が世間は嫌いなんだけど、土足で侵入してくる者には、否が応でも注目をしてしまう。そういう構造を仕掛けとしてウマくダイナミックに利用したのが力道山であり猪木さんだろうね。馬場さんも意識しているのかいないのかわからないけど、そういう存在だった。だから、土足で踏み込む勇気と、土足で踏み込んでくるなっていうバッシングと白い眼に対して堂々と勝負していけるか、っていうところがプロレスのエッセンスが花開くかどうかのポイントだと思うよ。

——つまり、世間にとっては余計なことをやって、なおかつその余計なことによって世間を黙らせる、あるいは喝采を浴びられるかどうかってことですかね。

山口　そのとおりだね。それとテーマとプラン。そしてドラマ作りだね。「プロレスのエッセンス」というのは、実際のプロレスからはドンドン削がれているけど、いま視聴率を取っているテレビ番組にも散りばめられてるよね。ちょっと前だったら「ガチンコファイトクラブ」とかさ。

——あと「あいのり」だったり。

山口　それらの番組は、真剣勝負かどうか、ホントに恋愛しているのかどうか？　ということまで含めて「プロレスのエッセンス」なわけですよ。要はそこの最終的な決着までにどれだけのドラマがあるか。昔のプロレスはいざ対戦が決まったところからすべてが試合でしょ。で、試合が終わったあとはもう次の物語が始まっている。終着点が次の出発点になっていることを延々と繰り返していくわけですよ。今回の〝亀田劇場〟もそうだよね。今回の終着点がもう次の出発点になっている。

——つまらない正論を吐いているやくみつるも、その〝亀田劇場〟のなかの単なる演者と化してますよね。

山口　やくみつる？　あれこそド三流ですよ！

——ハッハッハッ！　ド三流ですか！（笑）。

山口　だいたいあの髪形が八百長だもん。金髪に染めてるのはいいけど、下向いたらテッペンは河童みたいじゃん（笑）。あの人が亀田親父にやったパフォーマンスも、茶番を真剣にやってないよね。茶番をやるんなら、もっと真剣にやってほしい。そういう意味では亀田親父のほうが、シリアスという意味だけではなくて、この件に関しては真剣だもん。

——「あいのり」も「ガチンコファイトクラブ」も、最近でいえば「オーラの泉」なんかも〝真剣の茶番〟ですよね。

山口　〝茶番の真剣〟でもあるよね。それはつまり、真剣と茶番、本音と建前、本物と偽者の両輪を転がしてるんですよ。〝真剣の茶番〟〝茶番の真剣〟を成立させてこそプロレスですよ。

“真剣の茶番”“茶番の真剣”を成立させてこそプロレス

——格闘技でいうと、〝真剣勝負〟という看板だけでも、かといって安易なドラマ性だけでもダメだという。

山口　大きなイベントとしてやる、つまり世間に対して勝負しようとするところはね。パンクラスや修斗のキャパや団体理念なら、プロレス的ノウハウは必要なくて、ボクシング的ノウハウが合ってるし、ボクシングのノウハウで行ったから成功したんだろうけどね。

——『HERO'S』は、よりプロレス的エッセンスを使って成功を収めてるという言い方もできると思うんですけど。

山口　おもしろさや見るべきところもたくさんあるんだけど、やっぱりプロレス的エッセンスをグレードの低いところで注入しているイメージはあるよね。もう少し高いところで注入すれば、もっとおもしろくなると思うけど。

——そうですか。会長はこないだの桜庭和志の試合はどうご覧になったんですか？

山口　しゃべりたくない！（笑）。

——いやいや（笑）。サクが『PRIDE』を離れた頃、会長と雑談したときに、「『PRIDE』で培った桜庭和志の価値観をそのまま『HERO'S』に持ち込もうとすればイレギュラーを起こすだろう」というようなことを言ってましたけど。

山口　あのときはさ、サクが『HERO'S』で変身した姿を見せられれば、『PRIDE』から離れた意味合いがくっきり浮かび上がると俺は思ったんだよね。でも、こないだの試合を見るかぎり、サクは『PRIDE』の成功体験から抜け出てない。で、周囲の人たちもその成功体験をいい意味で崩そうとしてない。じつはサクのプロレス観というのは、ギリギリの勝負のところでしか活かされないと思うんだよね。

——それは残酷な『PRIDE』のリングでしか、あの飄々とした桜庭和志というのはコントラストを描けないというか。

山口　うん。サクの格闘技者としての地力は凄いよね。あれだけ記憶をなくすくらい殴られたあとに、最後はきっちり一本取るんだから。それは競技者としての習性がきっちり細胞レベルまで染みついている証明だから。だけど、桜庭の〝プロレスラー〟としての一番の根っこは何かというと、〝どんな闘いでも楽しむ〟というところ。もちろん恐怖心やプレッシャーは当然あるなかで、それを突き抜けていこうとするエネルギーを、あのサク・スマイルのなかに閉じ込めていて、それをリング上で開放してたから、桜庭の凄味が出たわけでしょう。

——そのサクの全盛期の姿に会長は〝プロレス〟を感じてたわけですよね。

山口　うん。ビンビンに感じてたね。サクの試合が観たくて観たくて仕方なかったもんね。まさにサク欲の秋、フォー！（HGポーズで）。

——（無視して）いまざっと見渡して、会長が〝プロレス〟を感じる格闘家っていますか？

山口　だから亀田親子。

——格闘技界やプロレス界ではどうですか？

山口　髙田総統！

——ハッハッハッ！　文句はございません。

山口　だからサクにはもはや、闘いを楽しめるようなシチュエーションは巡ってこないんじゃないか、っていうことを『HERO'S』を観て感じたよね。それは『PRIDE』の最後のほうでも感じていたんだけど。もう一回誰かに作ってほしいね、サク

が楽しんで闘いに向かえるシチュエーションを。それは『HERO'S』であっても、修斗であっても、NOAHであっても、どこでもいいんだけど（笑）。単にこのまま競技者としてゴールを迎えるんじゃなくて、サクにとってプロレスとは何か、格闘技とは何か？　ということをもう一度考えてほしいと思うなあ。

プロレスは、敵を仕立てあげていかないと成り立たないし、自分も磨けない

――……それには髙田総統と闘うしかないんじゃないですかね？

山口　ガハハハハ！　そうだよねぇ。

――本当に闘わなくても、概念として対峙するというかたちでもいいんですけど。

山口　いや、ホントそうかもね。やっぱりプロレスってさ、敵を仕立てあげていかないと成り立たないものだから。そうしないと自分も磨けない。さっきから言ってた「プロレスのノウハウ」「プロレスのエッセンス」のなかには、「敵を作る」「敵を光らせる」「敵を仕立てあげていく」というのが重要な要素としてあるよね。そういう意味でいうと亀田親子は、無意識だろうけど、世間そのものを敵として仕立てあげていったから、存在が色気につながってくるんじゃないかな。敵を仕立てあげていくっていうセンスも〝プロレスラー〟の必要な条件だからね。で、最近の『kamipro』がなんかこじんまりしてるって感じるのは、『kamipro』にとっての敵はなんだ？　ということが見えないからかもね。こんなこと言うと、おまえらはむやみやたらに敵をつくりそうだから、ホントはこんなこと言いたくないんだけど、「敵を仕立てあげる」っていう意味をよく考えてほしいですね、うん。

――敵？……ここ数カ月、編集部に一切顔を出さない編集長とか（小声でボソッと）。

山口　そんな小さい敵じゃダメだろ（笑）。

――ちなみに会長にとっての敵はなんですか？

山口　そりゃもう、ず～っと世間ですよ。『kamipro』でいえば、「所詮プロレス雑誌」という白い眼で見られようと、一般の雑誌よりもおもしろい雑誌をつくってやるっていう気持ちだったから、そこの軸はブレてないよね。だから今回ホントに亀田がバッシングされてると、自分自身がバッシングされてるように思えてくるもん！

――そこまで！（笑）。ところで、いまのプロレスに世間を動かせる力はありますかね？

山口　いや、もちろんありますよ、潜在的には。ただ、そのためには、隙を埋めていく作業を放棄することだろうね。隙をあえて見せて、突っ込まれたときにやり返していくのがプロレス。隙を見せないと、世間は突っ込んでこないし、周りを巻き込めないから。

――ノーガードの打ち合いのほうがおもしろいですしね（笑）。

山口　ガードしちゃダメですよ、プロレスは（笑）。最近の『kamipro』は、格闘技のように、ダメージを最小限に抑えようとする闘い方が多いように見えちゃうよなぁ。

――大振りしなきゃダメってことですね。

山口　さっきも言ったけど、いま現実のプロレスからは、「プロレスのノウハウ」や「プロレスのエッセンス」はドンドン削げ落ちてきてるけど、あちこちに「プロレスのノウハウ」や「プロレスのエッセンス」はあるんだから、そこを見逃さないでほしいよね。『kamipro』には。プロレスそのものよりも、「プロレスのノウハウ」や「プロレスのエッセンス」を後世に伝えていってほしいものです。

――ずいぶんと他人行儀なシメですね。

山口　いやいや、長いあいだ、本当にありがとうございました。

――はあ。いやいや、こちらこそ。

山口　この場を借りて報告しますけど、ボクは正式に編集長を降ります。

――え？　何を言いだしてるんですか（笑）。

山口　『kamipro』はボクがいなくても精進していってくれるでしょうから、読者の皆さま、今後ともかわいがってやってください！

――……何を企んでいるのか見当もつかないですけど、それも真剣と茶番、本音と建前、本物と偽者の両輪を転がす仕業なんですか？

山口　俺はこれからは、『kamipro』をアメリカで広めていくことに着手します！　そういうことだよ、グッドラック！

【06年8月25日／渋谷某所にて収録】

『PRIDE』には「プロレスの概念」がなければ、実現しなかった夢のカードが山ほどある。いや、そもそもの出発点がそこにあったから、当然染みついているものなのだ。

『PRIDE』HPで絶賛販売中!!
http://www.prideofficial.com/
『紙プロHand』でも購入可能!!

ロシアの"死神"から日本の"殺し"まで網羅!
kamipro GOODS INFORMATION

ハリトーノフ"死神"Tシャツ
ホワイト ¥4,200(税込)
S·M·L·XL

ハリトーノフSTAR Tシャツ
レッド ¥3,990(税込)
S·M·L·XL

ハリトーノフ ジャージ
ホワイト&レッド¥7,350(税込)
M·L·XL

ハリトーノフ スポーツタオル
¥3,150(税込)

ハリトーノフ パラシュートTシャツ
ホワイト/レッド ¥3,990(税込)
S·M·L·XL

ハリトーノフFACE Tシャツ
カーキ/ホワイト/レッド¥3,990(税込)
S·M·L·XL

コピィロフTシャツ[★]
ホワイト ¥3,990(税込)
S·L·XL

ヴォルク・ハンTシャツ[★]
ホワイト ¥3,990(税込)
S·M·XL

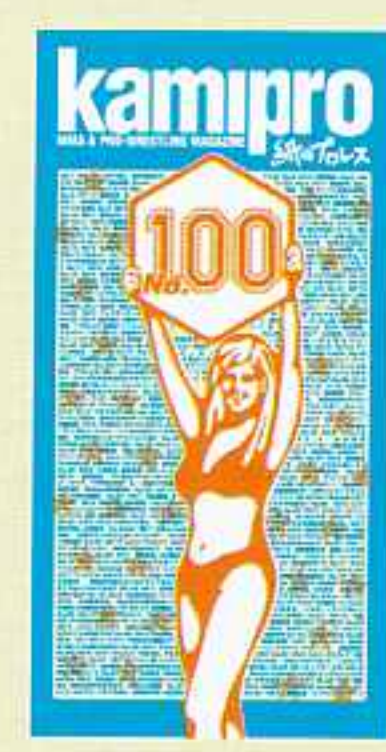
ミーシャTシャツ [★]
ホワイト ¥3,990(税込)
S·M·L

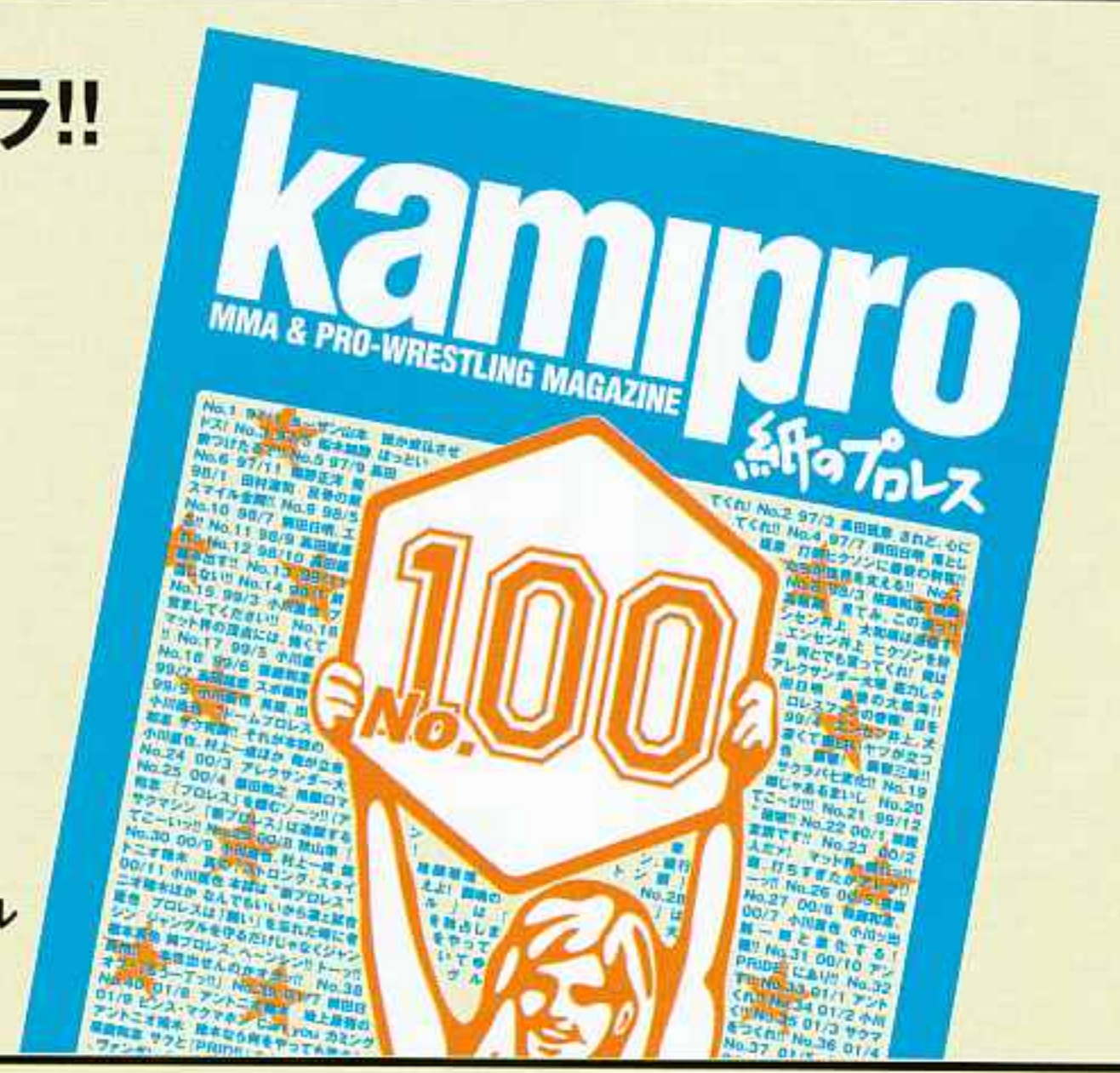
[★]の商品は在庫終了次第、販売終了となります

kamipro100号記念グッズはコチラ!!

ジョン・コロシも絶賛!!

I編集長"殺し"Tシャツ
ブルー ¥3,990(税込)
S·M·L·XL

100号記念特製Tシャツ
ブラック 特別定価 ¥2,625(税込)
S·M·L·XL

タテ 132cm
ヨコ68cm

100号記念特製巨大バスタオル
ブルー×オレンジ
特別定価 ¥3,150(税込)

コラムから飛来!!

kamiproマスクTシャツ
ホワイト×レッド
¥3,990(税込)
S·M·L·XL

"藤原イズム"を着用せよ!

藤原敏男Tシャツ
ホワイト×ブラック
¥3,990(税込)
S·M·L·XL

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]

袖丈
身丈
身巾

(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

★左ページの商品も同様のサイズです。

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
vodafone メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[通販の問い合わせ先]
株式会社ダブルクロス
TEL:03-5368-1795
(受付時間/13時~19時)
販売元:株式会社ダブルクロス

『ハッスル』と『kamipro』の最新コラボレーション!!

ニューリン様の額の石が光る!
ラインストーンつき（サイズはLady'sMのみです）

オイ! オメーら!!
アタシのTシャツを
まだ買ってねーのかよ!

Lady's

ニューリン様 "BERO" Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990
※Lady's M サイズ（身丈57cm、身巾38cm,袖丈13cm）

Men's

ニューリン様 "BERO" Tシャツ
[M・L・XL ブラック] ¥3,990

さらにニューリン様から緊急プレゼント!!

超貴重!
ニューリン様サイン入りイラスト

今回のニューリン様シャツの元絵となったイラストにニューリン様の直筆サインが入ったものを、限定一名に特別プレゼント！

なお、プレゼント応募の詳細はP158の応募要項を参照しすること。ぜって〜応募しろ！（ニューリン様調）

『ハッスル・マニア2006』決定!
さらなる "祭り" に
グッズで備えろ!

ハッスル & kamipro
Collaboration Goods

高田総統ライオンTシャツ
[S・M・L・XL ホワイト] ¥3,990

「BITAAAAN!」Tシャツ
[S・M・L・XL ホワイト] ¥3,990

「ビビったか? たじろいだか?」Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック] ¥3,990

ハッスル *Goods*

TAJIRI Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック] ¥3,990

HUSTLE ネオンTシャツ
[S・M・L・XL ブラック/レッド] ¥3,990

MONSTER ネオンTシャツ
[S・M・L・XL ブラック/パープル] ¥3,990

キャプテン リストバンド
[ホワイト/ブラック] ¥1,050
あちち リストバンド
[レッド] ¥1,050

HUSTLE カレッジTシャツ
[S・M・L・XL グレー/レッド] ¥3,990

MONSTER カレッジTシャツ
[S・M・L・XL ブラック/パープル] ¥3,990

ニューリン様Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック] ¥3,990

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。（何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい）
★代引き手数料は315円です。（代引き金額によって異なります）

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧下さい。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
(株) ダブルクロス
03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします（確認メールはいきませんのでご了承ください）。
販売元：(株) ダブルクロス

※価格はすべて税込みです

食ってばかりはダメですよ。

というわけでハガキを書こう!

この季節が一番いいね!

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は10月31日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦いまイチオシの選手or団体とその理由⑧『HERO'S』に期待すること

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「ハリウッドデビュー」係まで

※締切は2006年10月30日（金）当日消印有効

kamipro 103 応募券
やっぱりそうでしたか

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

いま応募しないで、いつ応募するんだ!!

Mr.PRO-WRESTLING

天龍源一郎サイン色紙

4名様

凄みのあるこの写真を見よ!! こんなに渋い読プレページは『kamipro』誌上初ではないだろうか。今回、8ページにも渡るインタビューを受けてくださった天龍さんから貴重なサインをいただきました! これは応募するしかないぞ!!

HASE

馳浩Tシャツ&全日本in両国大会パンフ

8月27日全日本プロレスのリングで現役生活に幕を閉じた馳浩。そのTシャツと、記念すべき大会パンフレットをセットで3名様にプレゼントします。まだまだ馳先生の姿が見たい! という人は文部科学副大臣室へ行こう～（適当）。

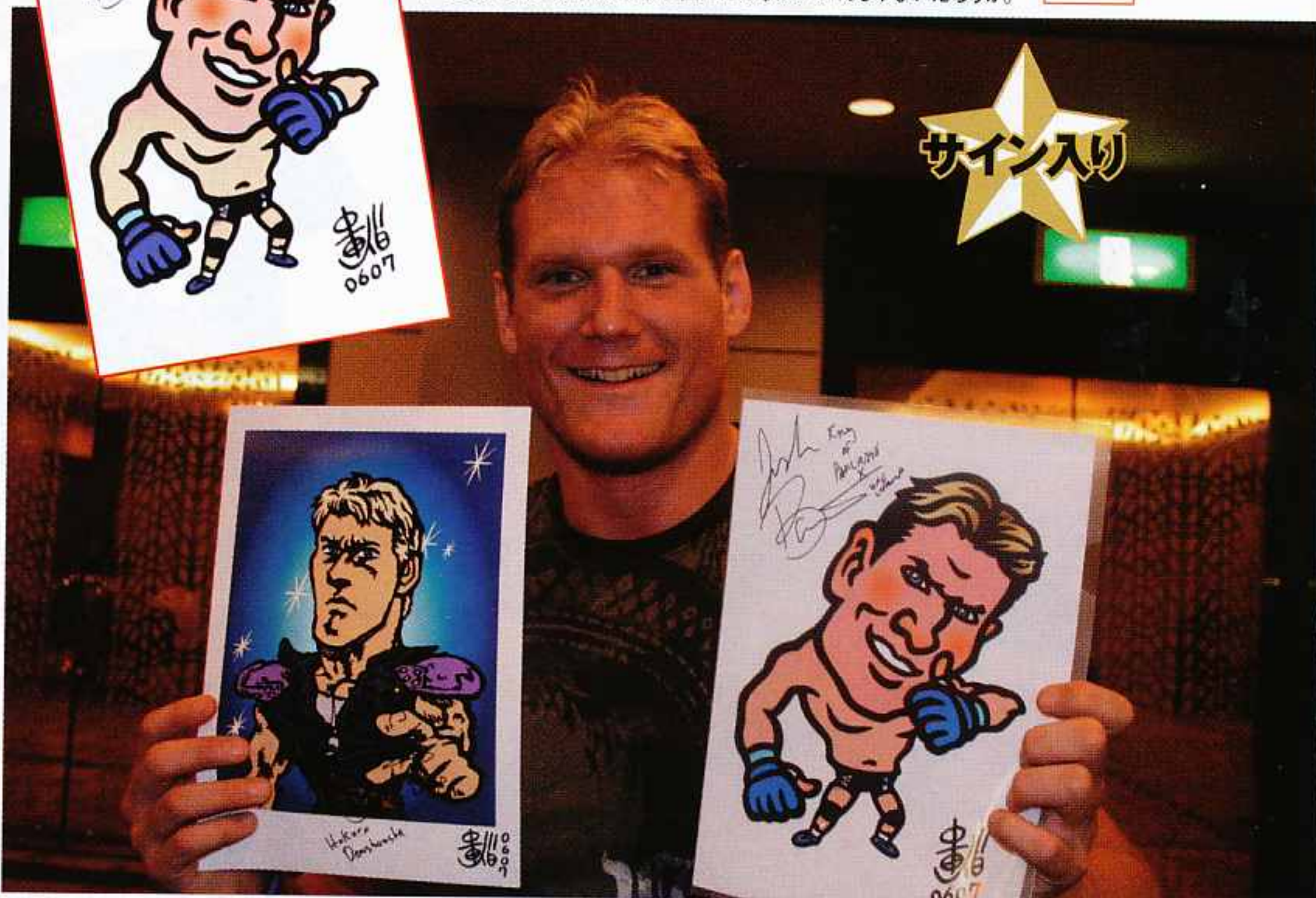
セットで3名様

PRIDE

■PRIDE***http://www.prideofficial.com/

ジョシュ・バーネットのサイン入り中川画伯イラスト

1名様

中川画伯のイラストにご満悦のジョシュ。ジョシュはGP後も5日間以上日本に滞在し、ゲーム雑誌、メタル雑誌etc.の取材を受けまくっていたそうです。もはや、日本に住んだほうがいいんじゃないだろうか。

サイン入り

『kamipro Special 2006 AUTUMN』

3名様

9月16日に発売された『PRIDE無差別級GP2006』の速報号を3名様にプレゼント。王者ミルコの独占インタビューは他誌では読めません! 当選を待ちきれない人はすぐさま書店へGO!!

『PRIDE』応援うちわ

3名様

『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』の会場でも販売されていた応援うちわを3名様にプレゼント。夏も終わり、すっかり秋めいている今日この頃、秋刀魚を焼くときにでも使ってみよう!

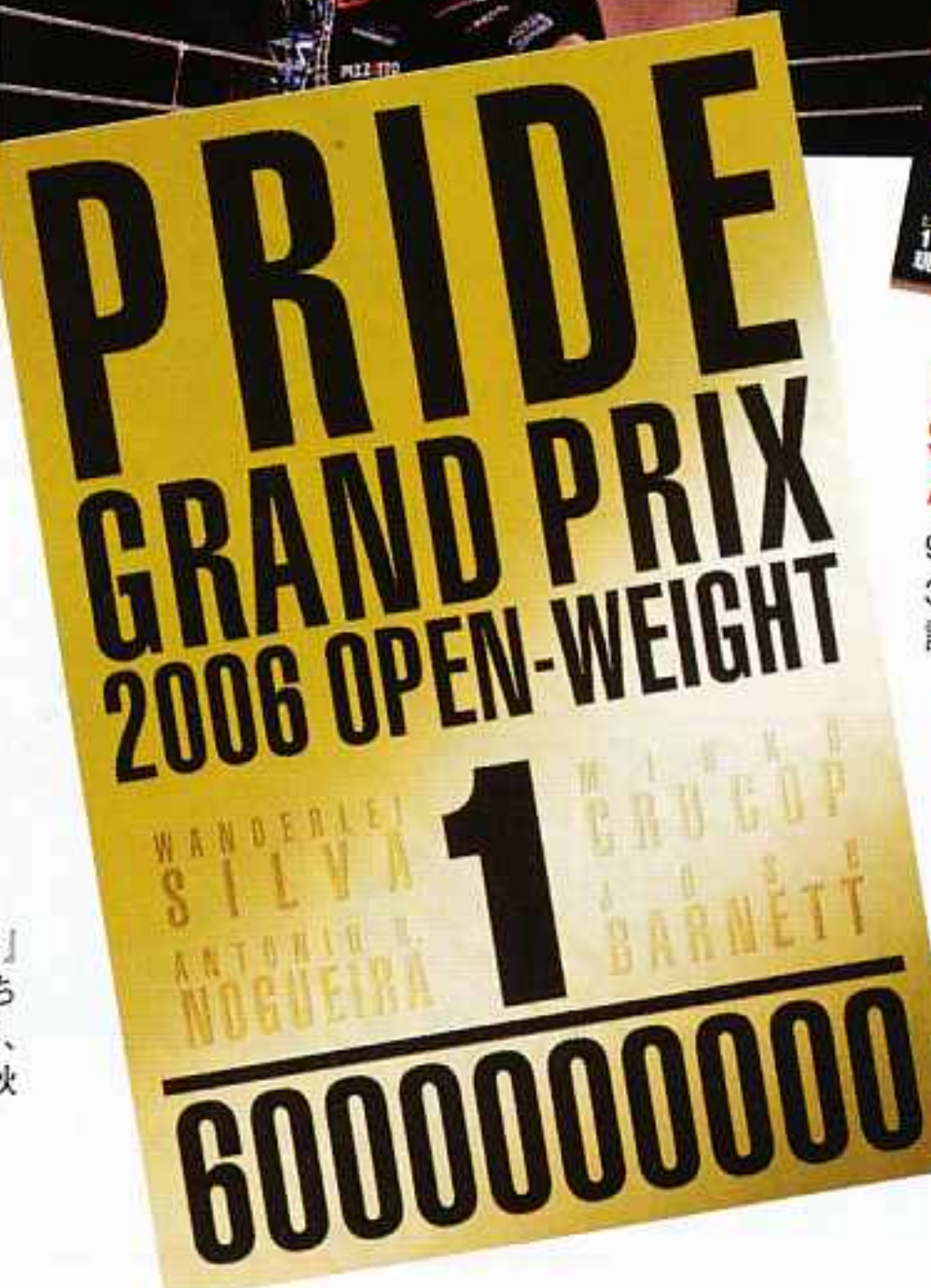
『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』大会パンフ

3名様

歴史に残る大爆発興行となった『PRIDE無差別級GP2006決勝戦』。パンフにはGPの優勝者予想が掲載されているが、なんと! 本誌"非常勤"編集長・山口日昇は優勝をミルコと予想。さすがだ!!

WEAR

■金ちゃんのブログ***http://corvette.livedoor.biz/
■ART JUNKIE***http://www.artjunkie.jp/index.html
■雪崩式***http://www.nadareshiki.com
■DEVILOOSE***http://www.deviloose.com/
■全日本キック***http://www.aj-kick.com/
■ハードコアチョコレート***http://blog.core-choco.com/

1名様 Back

金原弘光NEW Tシャツ

8月15日『心〜Kill or be Killed〜』で久々の勝利を飾った金ちゃん。おめでとうございます!! その喜びを読者の方におすそ分けすべく、新作Tシャツをプレゼントしてくれました〜。感謝!

1名様 Back

ART JUNKIE AWA一番Tシャツ

今回のART JUNKIEさんからのプレゼントは、AWA&ZERO1-MAX公認のAWA一番Tシャツです。ART JUNKIEさんは大森隆男さんとも大の仲良し。お店に行ったら会えるかも〜。

1名様

雪崩式 御堂式Tシャツ
Lサイズ ¥3990(税込)

スペル・デルフィンの技の中でも、Tシャツ作者のコマさんの一番のお気に入り「大阪御堂筋スタナー」を雪崩式でやってほしい!という非常に個人的な願いを込めて作られたTシャツ。1名様に!

各1名様

DEVILOOSE NIKEエアマックスTシャツ
XLサイズ

大きいサイズの専門店DEVILOOSEさんから、またまたTシャツのプレゼント。ビッグボディで着たい服が見つからない!! という人は、DEVILOOSEさんのHPをのぞいてみよう。

TOY

■CCRエンタテインメント株式会社 販売部***03-5457-7133

2枚セットで5名様

バキ最強伝説SPECIAL DVD-BOXの限定特典のメンコ

『週刊少年チャンピオン』で連載された人気格闘マンガ『グラップラー刃牙』が待望のDVD化! 12枚の本編と、原作者・板垣恵介さんのインタビューが収録されたDVDもプラスされ全13枚組のBOXに。今回は、その限定特典のメンコをプレゼント!
©板垣 恵介／フリーウィル

CD

3名様

レッスルヒッツ〈ザ・ゴールデンタイム〉
〜世界最強外国人レスラー列伝〜
¥2000(税込)

8月30日に「レッスル・ヒッツ」が第三弾を発売! 70〜'90年代プロレス黄金時代の日本マットに来襲した伝説の強豪レスラーの入場テーマ曲が全15曲、たっぷり収録されています!!

1名様

ロマンポルシェ『男は橋を使わない』
¥1365(税込)

「萌え萌え女々苑」でおなじみの掟ポルシェさんが初のMAXI SINGLEを発売! CX系「くるくるドカン」でプチブレイク中の「男は橋を使わない」ほか3曲を収録。ドスの聞いた掟さんの歌声に耳を傾けよう〜!!
【掟さん提供】

■ユニバーサルミュージック***http://www.universal-music.co.jp/
■ミュージックマイン***http://www.musicmine.com/

SAMEHADA BATTLARTS Tシャツ

下北沢にショップを構え、プロレス、音楽、映画、ゲームなどに関連したアイテムを販売するハードコアチョコレートさんからTシャツをプレゼント。もっと商品を見たい人はHPへ急げ!!

1名様 Back

1名様

S.W.S. Tシャツ

8月27日、全日本キック『S.W.S. 〜Super Welter Struggle〜』のために作成されたロゴをそのままTシャツに。この「S.W.S.」は「メガネスーパー・ワールド・スポーツ」ではねぇですからね。

WWE

■プレゼント事務局***03-3289-1478
■4th MEDIA***http://4media.tv/

1名様

WWE選手サイン入り「Westle Mania」ジャージ

RVDことロブ・ヴァン・ダムやカリート、マット・ストライカーなど、WWEのスーパースターたちの直筆サインが入った超プレミアジャージを1名様に!

5名様

WWE公式タンブラー

「WWE24/7」をはじめ、新日本やNOAH、全日本の映像をパックで配信しているブロードバンド映像配信サービス・4th MEDIAからWWEのタンブラー(非売品)をプレゼント。昔のプロレス秘蔵映像を見たい人は、4th MEDIAへアクセス!!

2名様

エディ・ゲレロTシャツ

昨年11月13日に38歳の若さで急逝、そして今年その功績を称えられ、WWE殿堂入りを果たしたエディ・ゲレロの追悼Tシャツを2名様に差し上げます。

セットで1名様

ブレット・ハートDVD&マガジン

引退後、いまなお高い人気を誇るブレット・ハートの活躍をまとめたDVD&マガジンが完成。どちらも英語バージョンだけど、このメモリアルセットはファンにはたまらない!
※DVDはリージョンコード1(USAおよびカナダ)でのみ再生可能

GAME

■ビベンディ・ユニバーサル・ゲームズ***052-769-4740

各1名様

『アイスエイジ2』PS2／ニンテンドウDS
各¥3990(税込)

世界中に笑いと感動を巻き起こしたCGアニメーション映画『アイスエイジ2』のDVD発売に合わせ、10月6日、アクション・アドベンチャーゲームを販売! 応募は必ずPS2、ニンテンドウDSどちらの希望かを書くべし!!

QUEST

■QUEST***http://www.queststation.com/

01★大日本プロレス BLOOD & DEATH HISTORY
437分(133分+204分)／¥10500(税込)
デスマッチプロレスを追求し血みどろ路線でコアファンからの支持を集める大日本の総集編BOXが登場! チェーン、手錠、ファイヤー、ガラス、蛍光灯、そして凶器持込自由! あらゆるデスマッチを2枚組400分に収録!!

02★アイドルコロシアム 天空のアリーナ
164分+特典映像25分／¥6090(税込)

03★ムエタイ完全教則 入門篇
113分／¥5880(税込)

04★新極真会 最強を極める空手入門 第参巻
122分／¥5880(税込)

05★久保 昭 剣道入門 110分／¥5880(税込)

各1名様

BOOKS

■宝島社***http://tkj.jp/book/book_70542201.html
■インセンス出版***http://www.insens.co.jp/smack.html

3名様

布施鋼治著『格闘技絶対王者列伝』
¥680(税込)

スポーツライター布施鋼治さんがNumber誌やSportiva誌などで書き綴った記事を濃密にまとめた一冊。表紙の4選手はもちろん、桜庭や船木まで網羅!!【宝島社】

各1名様

GCMオフィシャルマガジン『VICTORIOUS』創刊号
¥800(税込)

9月9日のDOGのパンフ兼オフィシャルマガジンとして出版された『VICTORIOUS』。内容は、宇野×岡見の対談、GCM久保社長、ブッカーKのコラムなど、GCMファンにはたまらない一冊に。

WWE MAGAZINE VOL.001 2006

WWEオフィシャルファンクラブの会報誌がリニューアル!? 「ユージーンvsヴィセラのゆでたまご早食い競争」とか「アリゲーターとレスリングしよう」とか、とにかく内容がおもしろすぎる!! これは絶対見たほうがいい!

3名様

SMACK GIRL オフィシャルブック
¥2940(税込)

この度、SMACK GIRLの2000〜2006年を振り返るオフィシャル本が上梓。しなしさとこ選手について書いた松澤チョロ氏の原稿もアリ!! 要チェック!【イノセンス出版】

kamipro 紙のプロレス
No.103
2006年10月13日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集若頭
堀江ガンツ

編集スタッフ
ジャン斉藤
真下義之
松下ミワ
八木賢太郎（取付工事手伝いのため非番）

編集見習い
辻ちゃん

電気部
ささきぃ
松澤チョロ
上杉ニュー・アメリカ君

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子RGM

編集次長（コマンダー・イン・チーフ）
松林 貴

デザインカントク
出田さん（TwoThree）

デザインキャプテン
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
丸山剛史
平工幸雄
山口比佐夫
松本 崇
黒田史夫
吉場正和
平 専英

お勘定&衣料部
ニュー林様

危機的状況!?
入江白露山（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石"一人暮らし計画中"芳司

"忘れている精算はないですか?"な編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

人生JACKPOT エド・フィッシュマンに君も会いに行こう!

NEXT ISSUE

10.21PRIDE ラスベガス大会大特集!!

よって
次号No.104は
11月1日(水)
発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

kamipro 2006 103
斬るか、斬られるか!? PRIDE存亡を賭けた全米侵攻!!
2006年10月13日
発行人／浜村弘一　編集人／山口日昇、青柳昌行　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社 ©2006 ENTERBRAIN,INC. ©2006 DOUBLECROSS
enterbrain

9784757729698
定価: 本体838円 十税
雑誌61954-41 Ⓗ2007.1
ISBN4-7577-2969-3
Printed in Japan 図書印刷
C9476 ¥838E
1929476008381